第貳版

最近朝鮮事情要覧

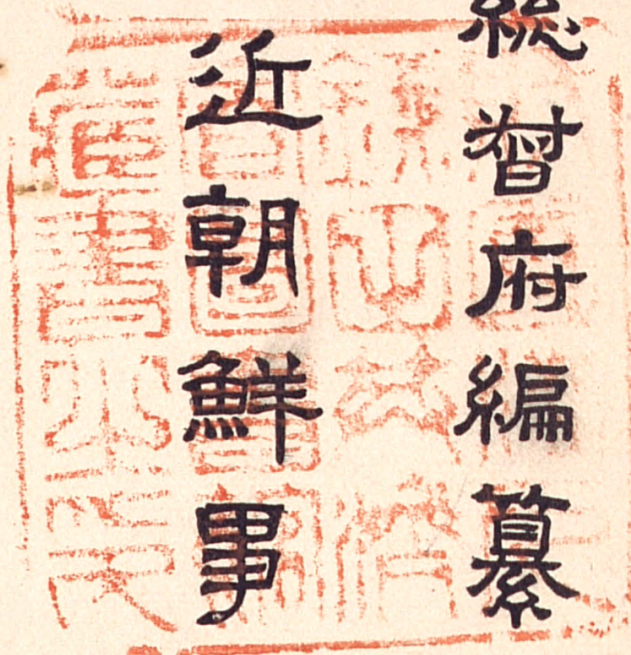
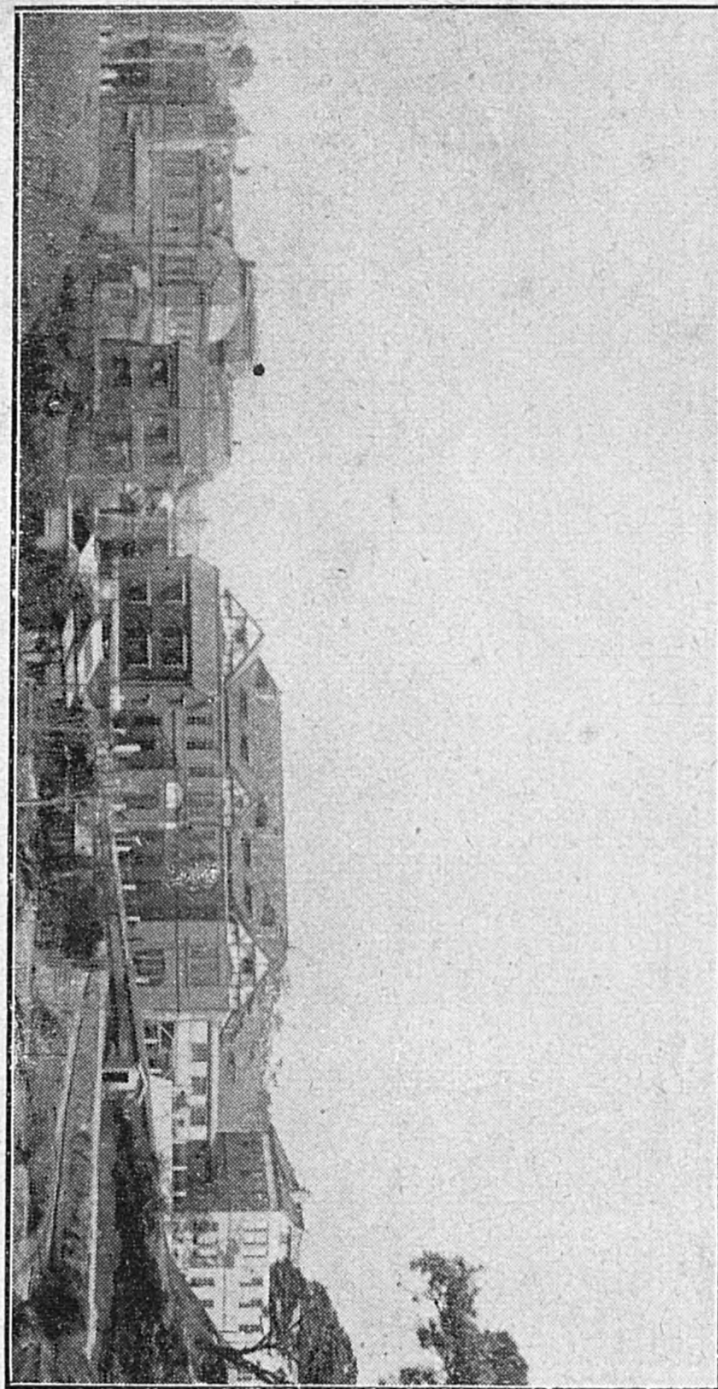
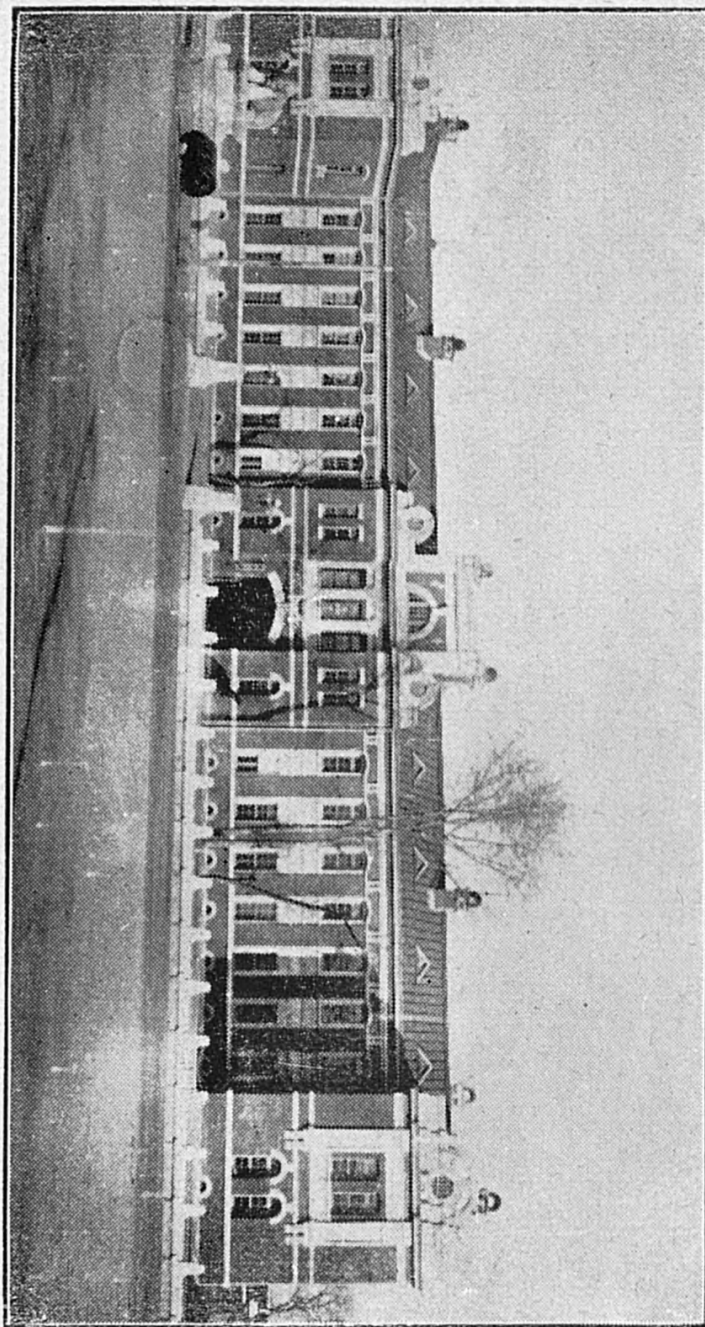
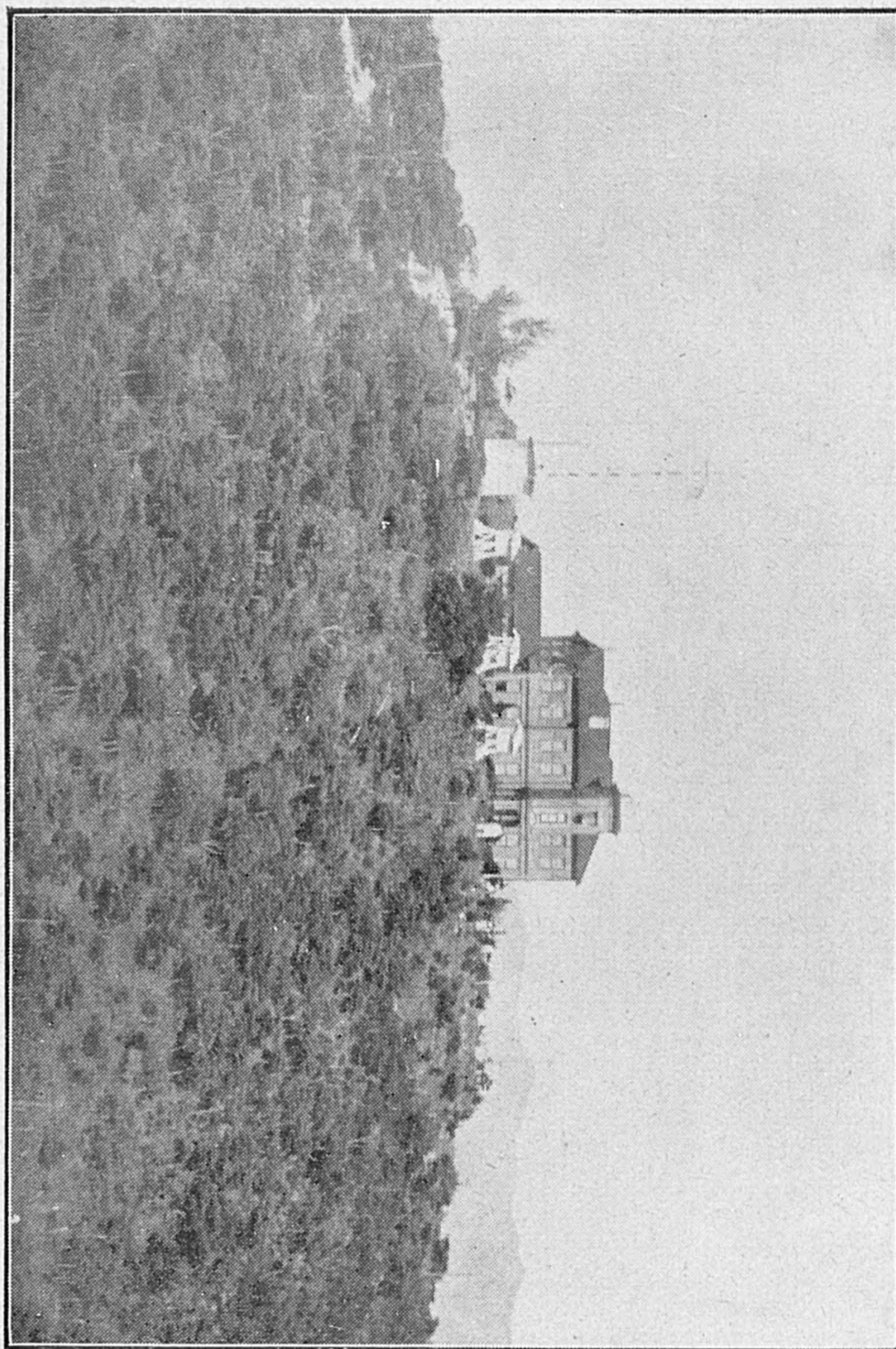
第貳版

最近朝鮮事情要覧

Chōsen sōtokufu ed.
Saikin chōsen jijō yōran

朝鮮総督府編纂

最近朝鮮事情要覧

朝　鮮　總　督　府

京畿道廳

仁川觀測所

朝　鮮　銀　行

牛馬放牧ノ光景

水田灌漑ノ状況

開城人蔘圃

蔘齡別人蔘

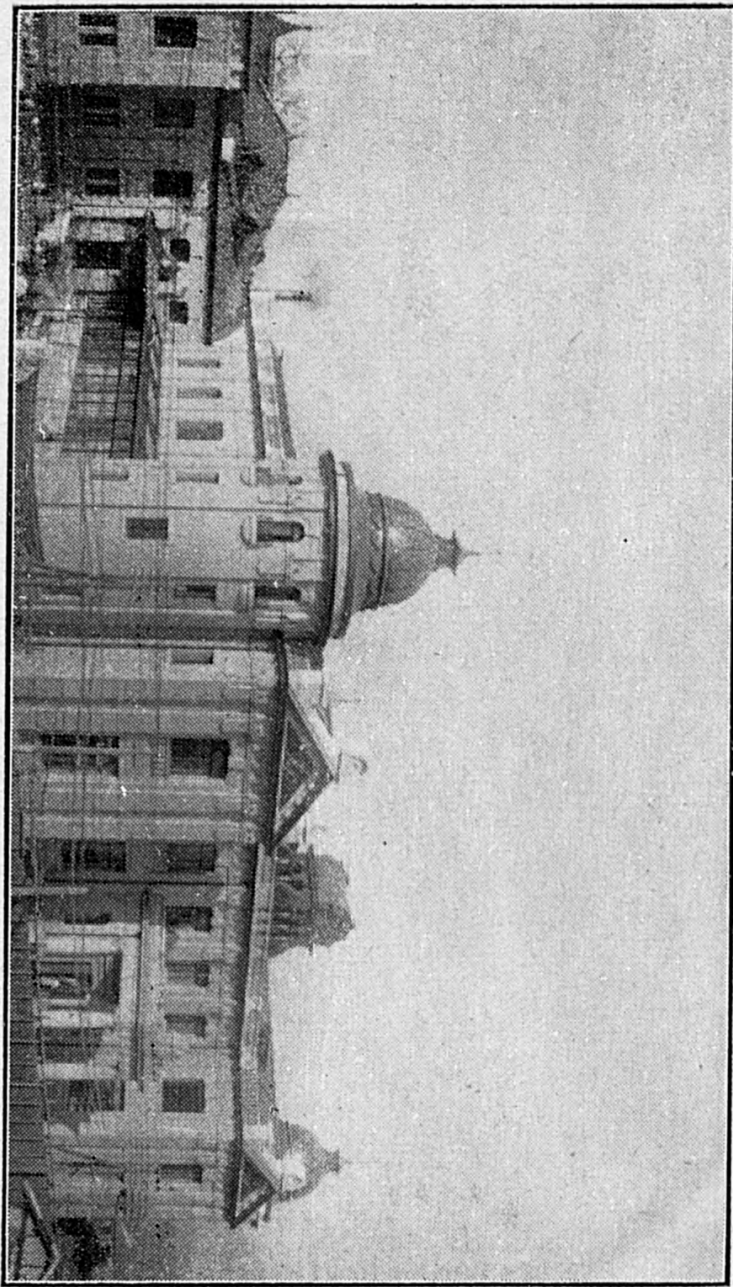
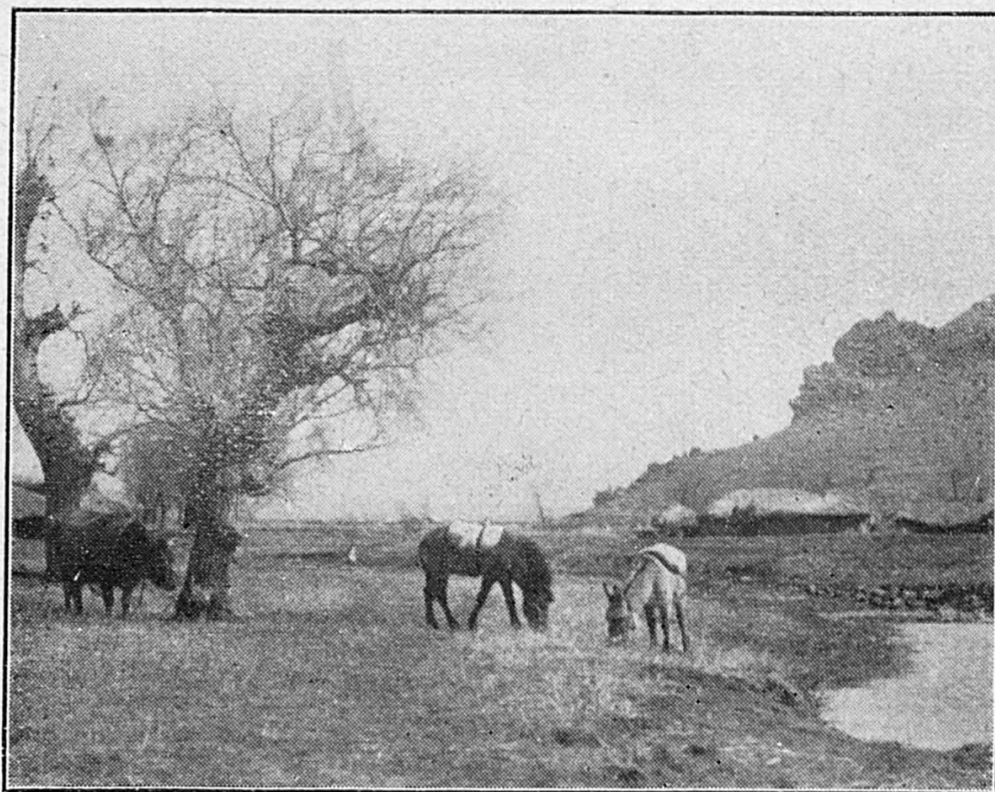
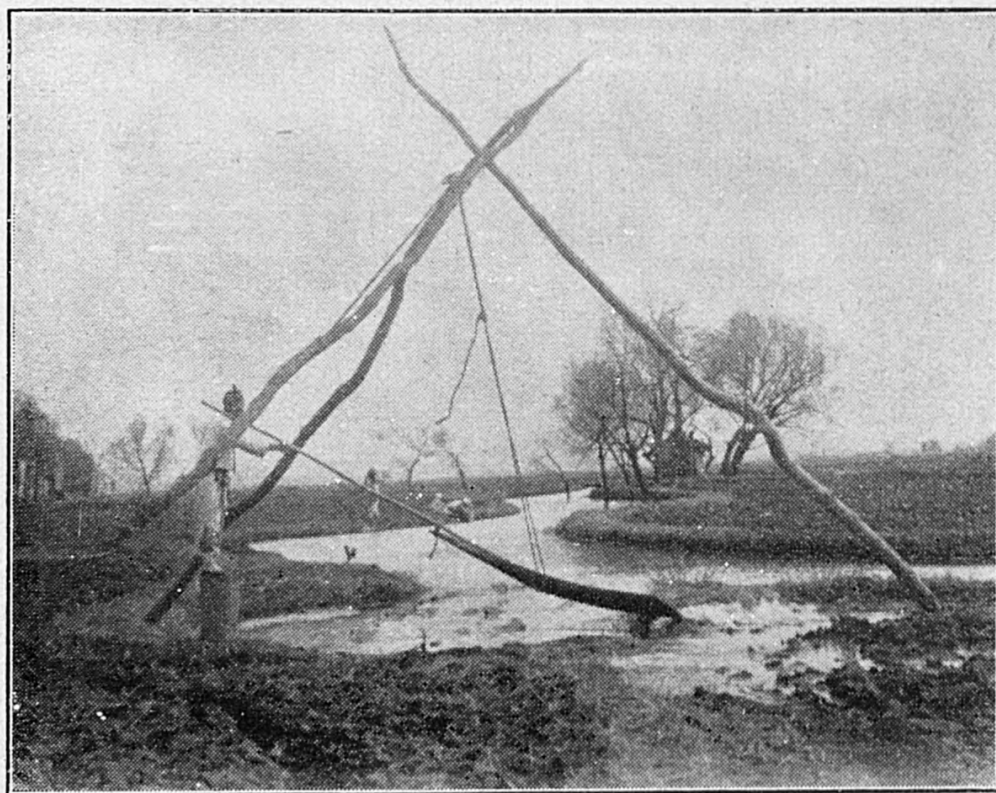
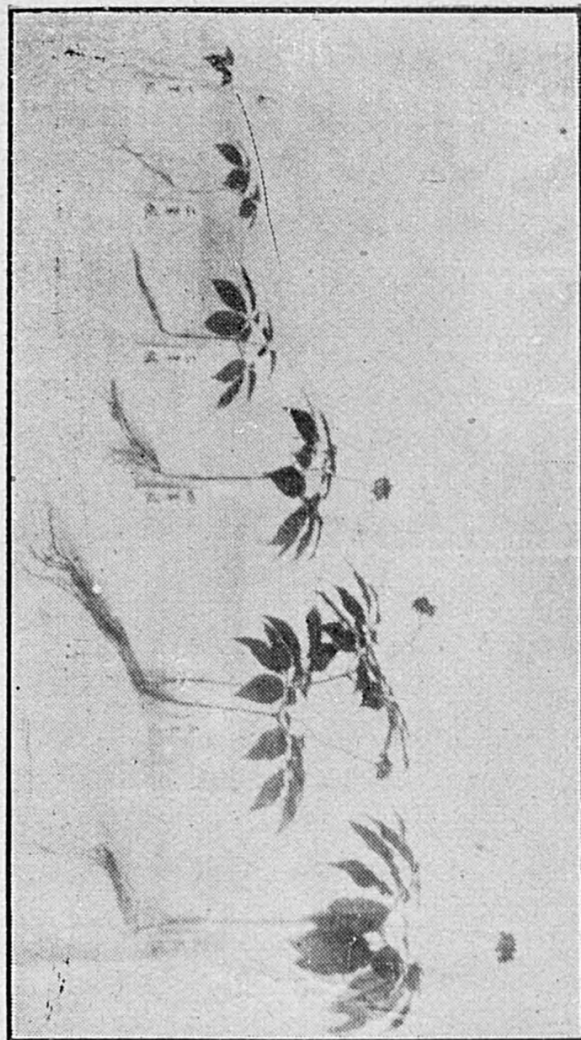
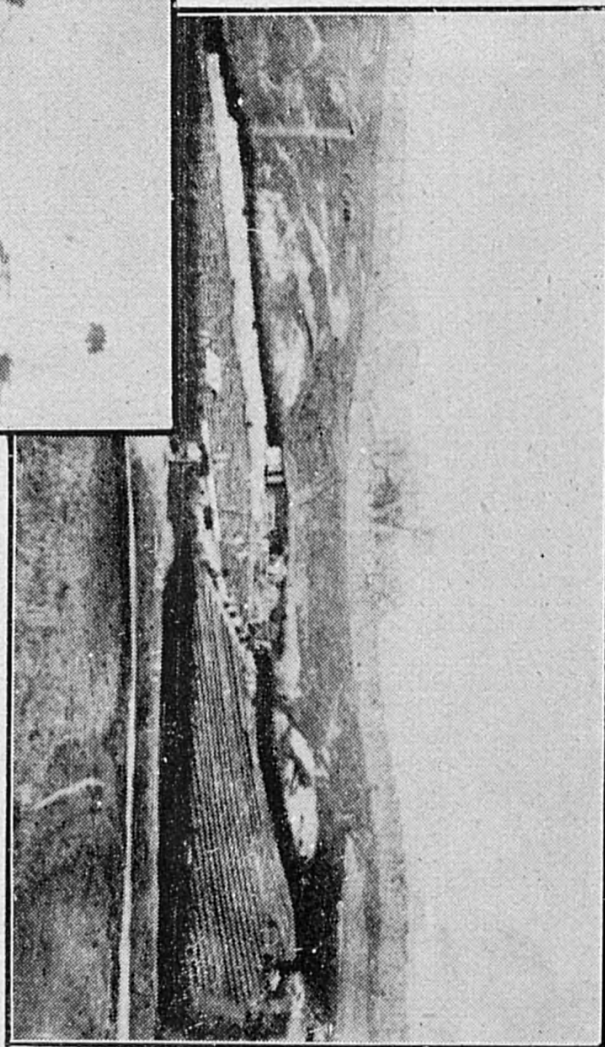
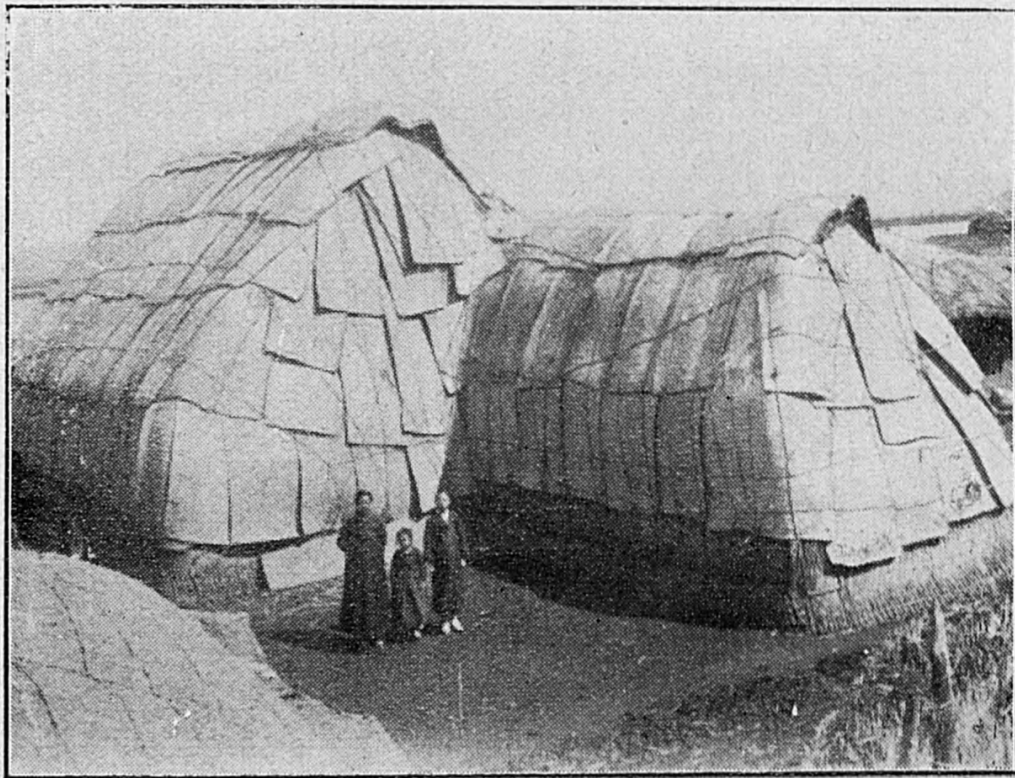
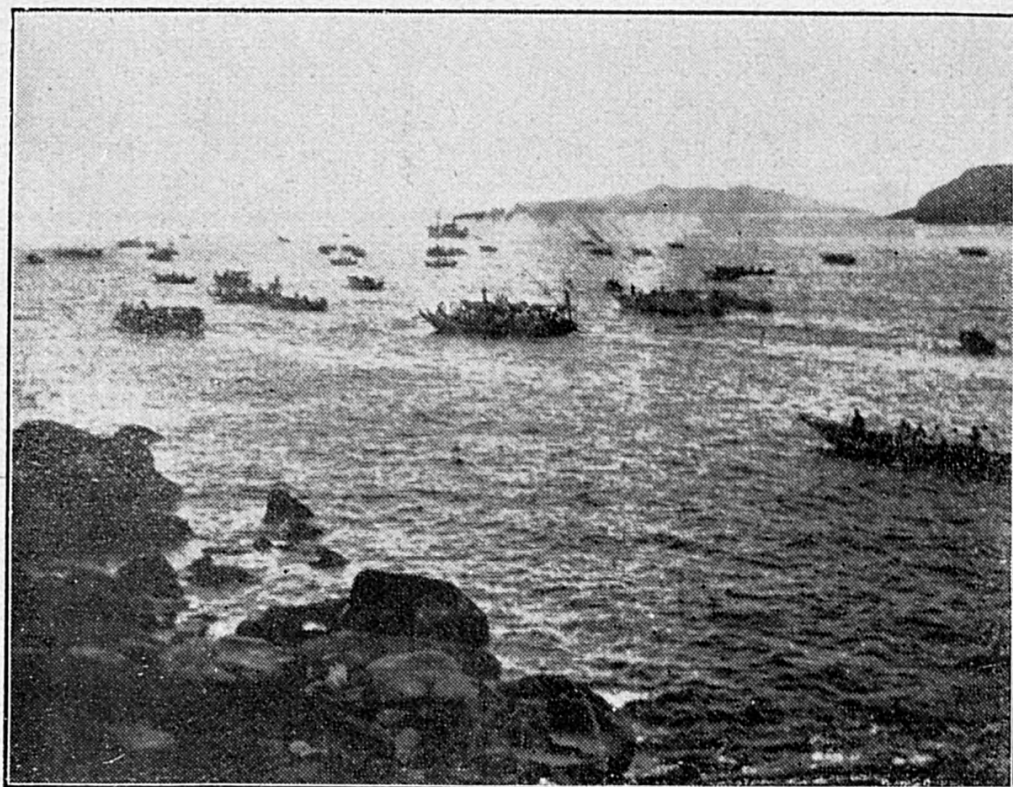
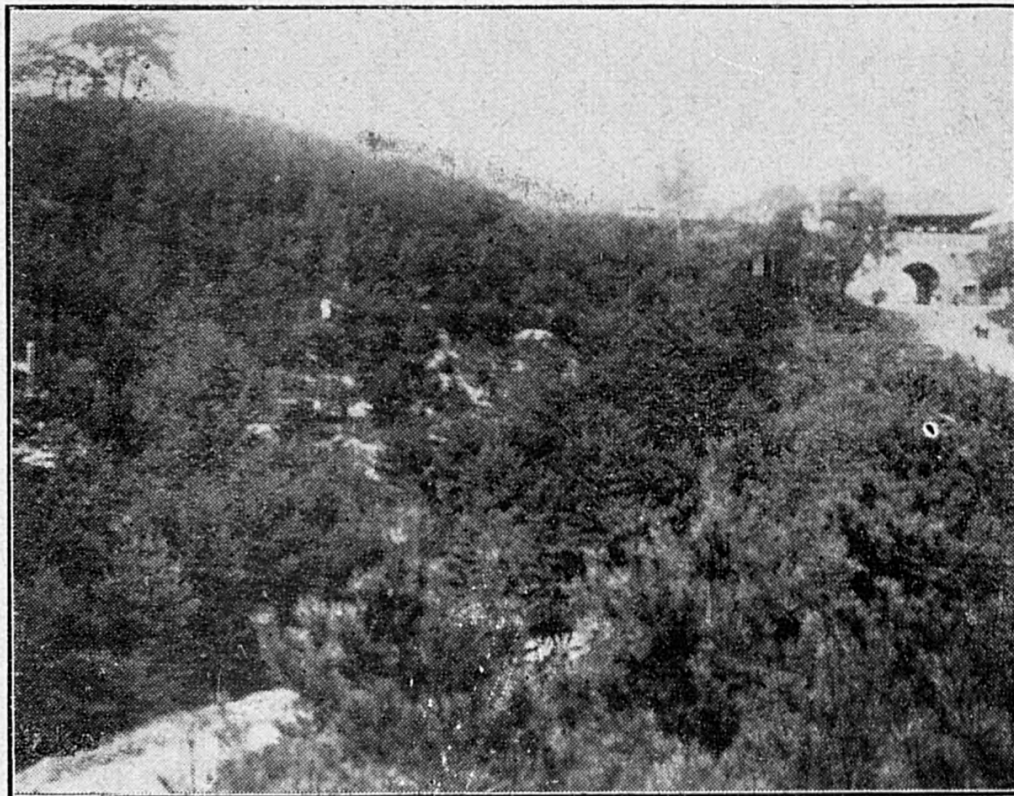
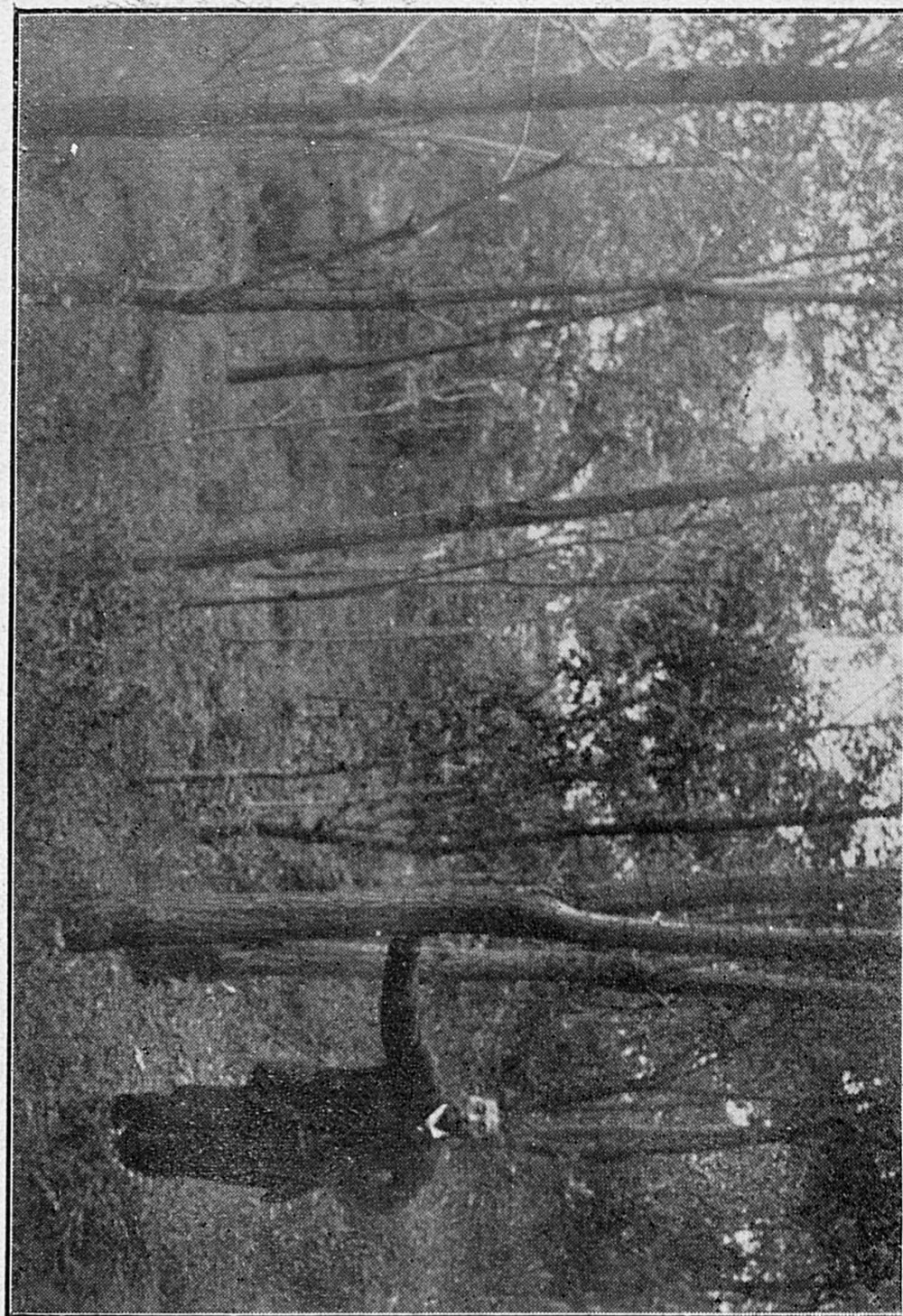
東洋拓殖株式會社

小作籾露積ノ光景

巨濟島鯖漁

廣梁灣鹽田

京城白雲洞砂防工植栽林（一年生）

同　上（五年目）

ニセアカシヤノ人造林(十三年目)

鴨綠江造材光景

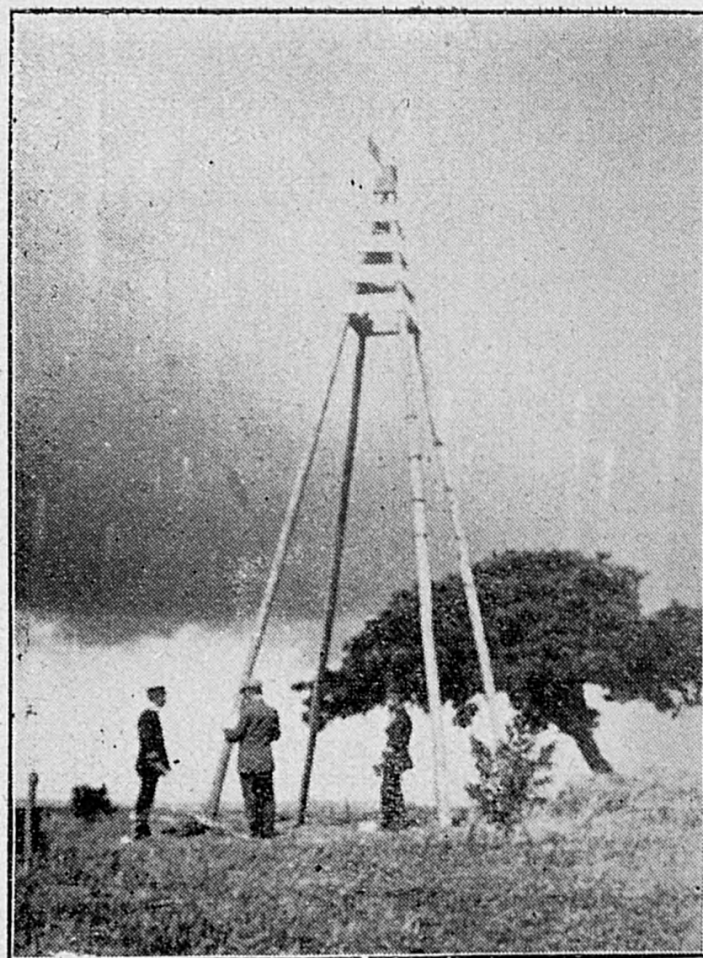
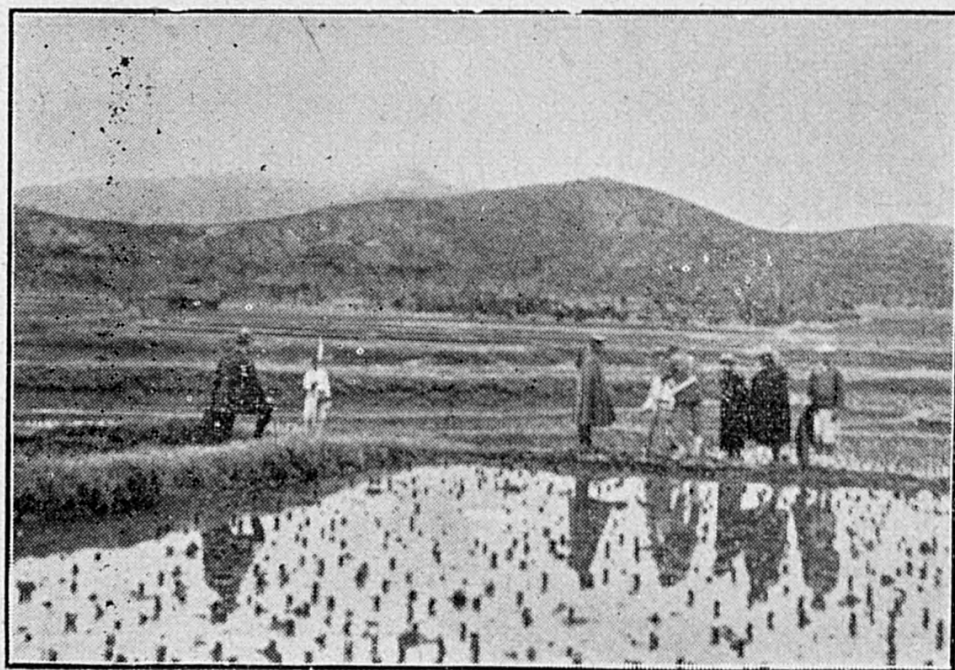
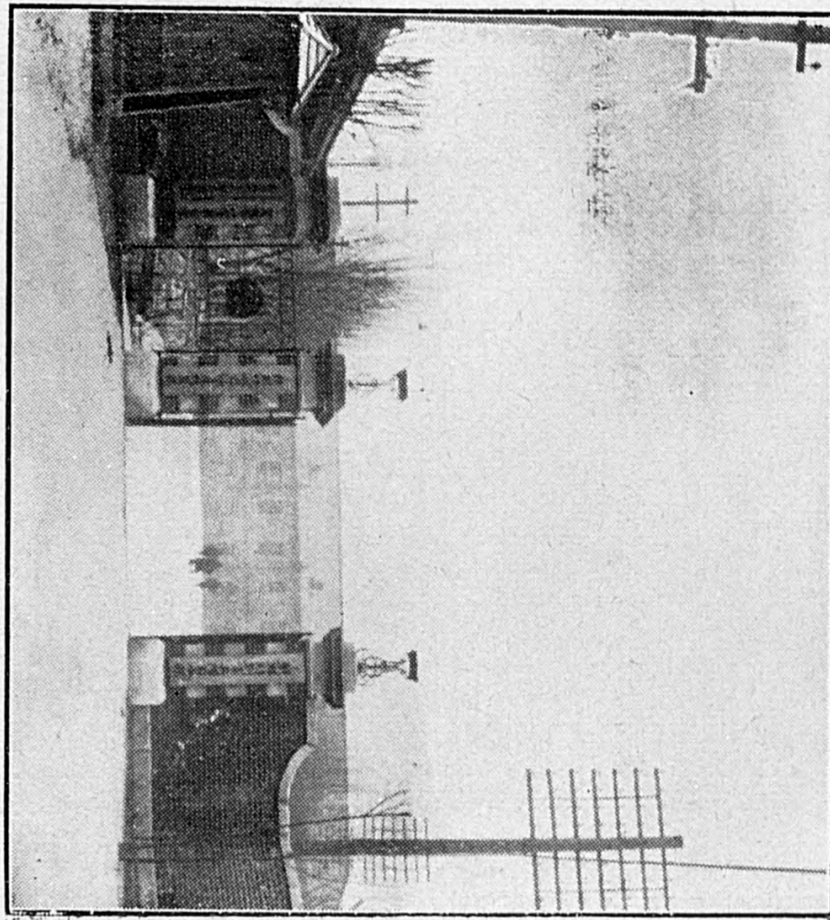
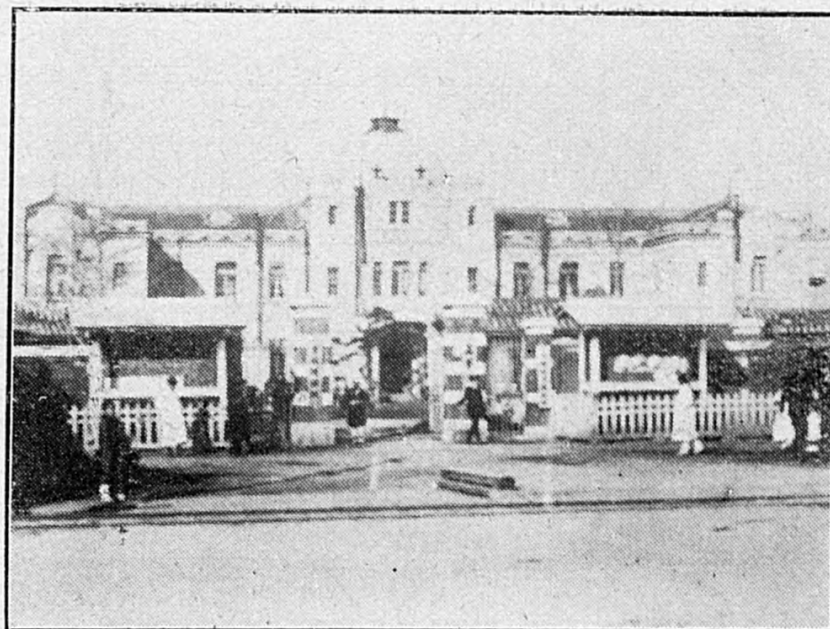
同上流筏光景

土地調査事業三角補點視察ノ光景

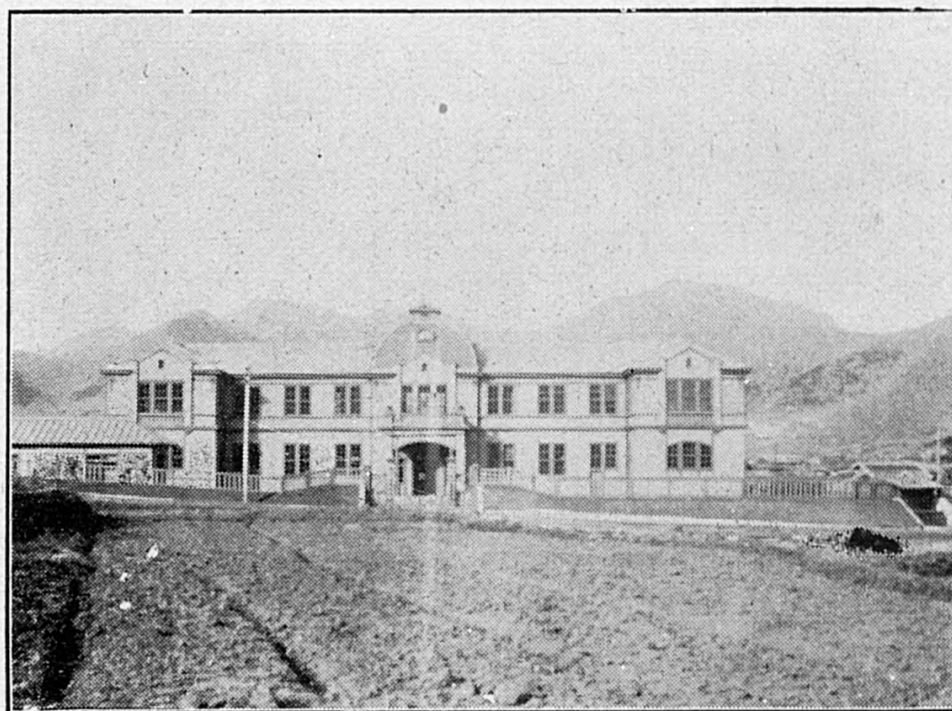
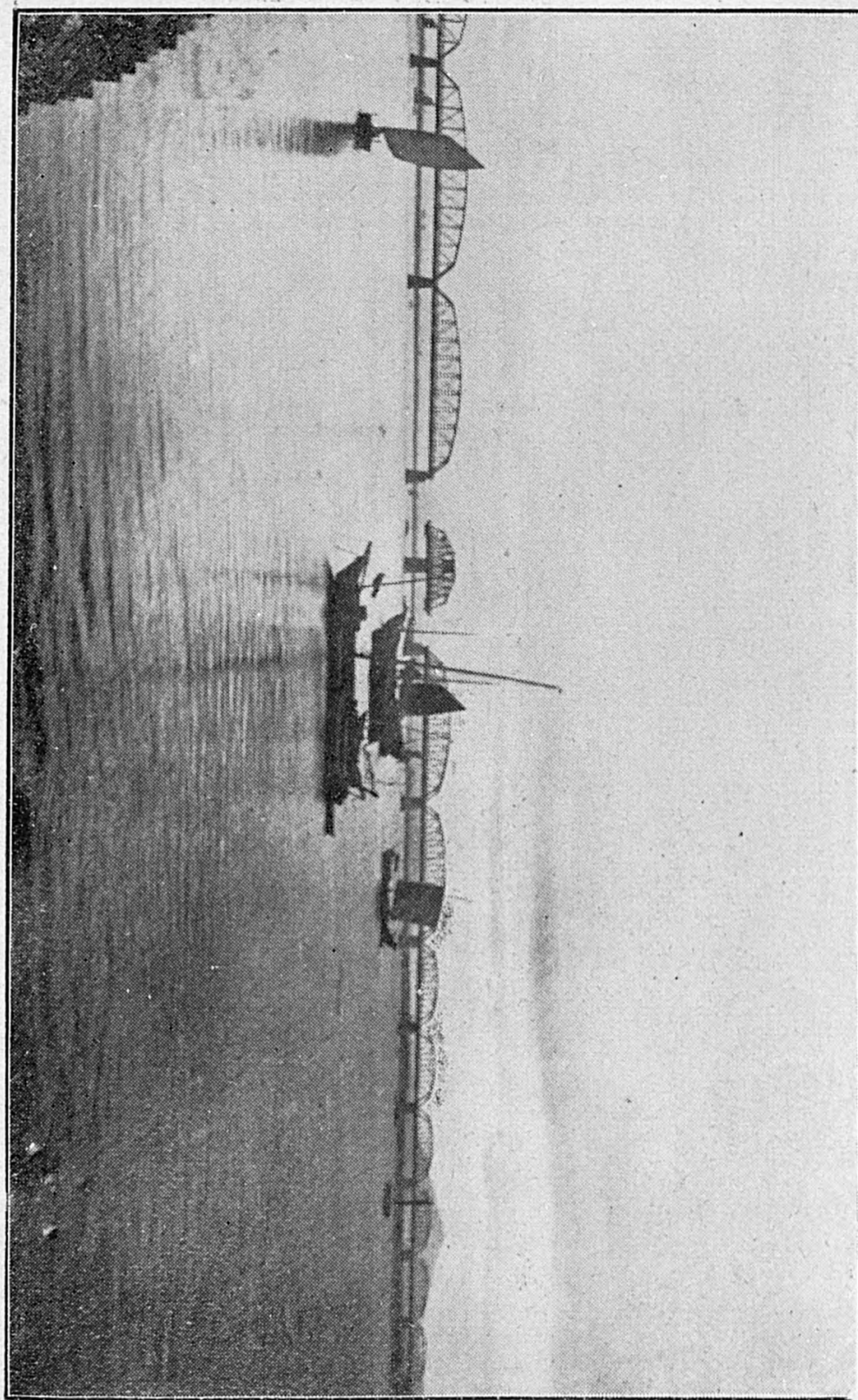
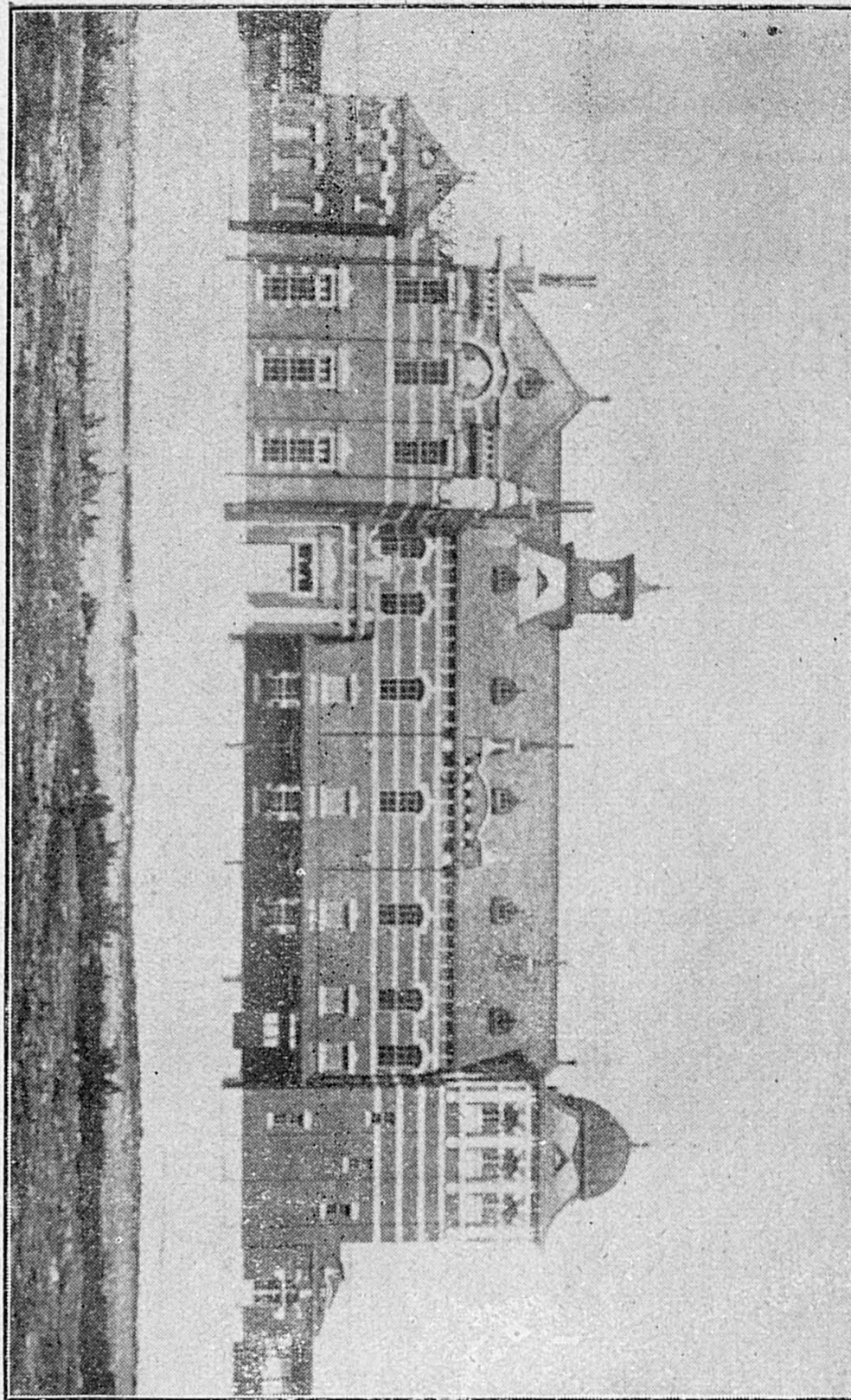
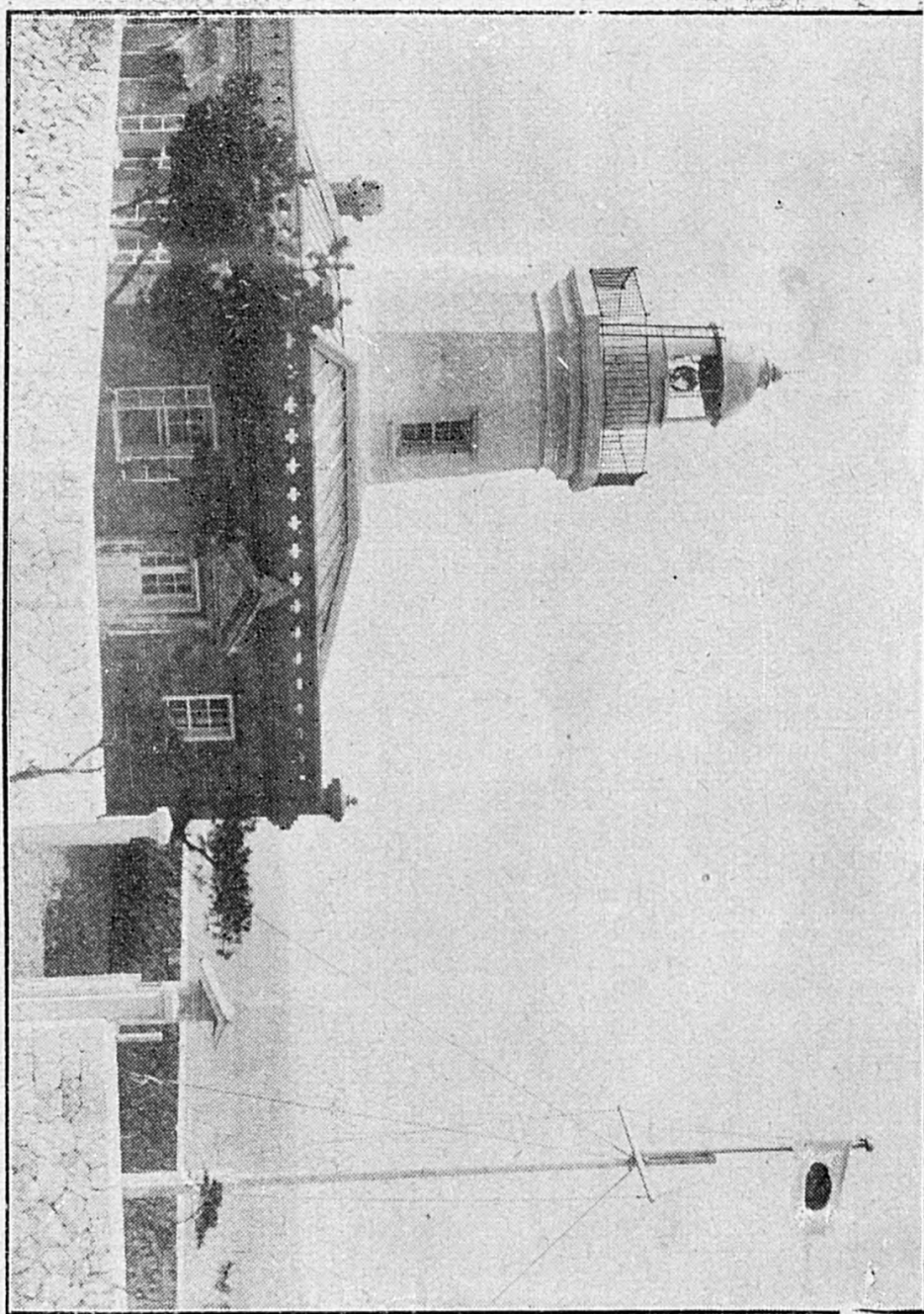
同一筆地測量作業ノ光景

恩 津 彌 勒 石 佛

憲兵隊司令部

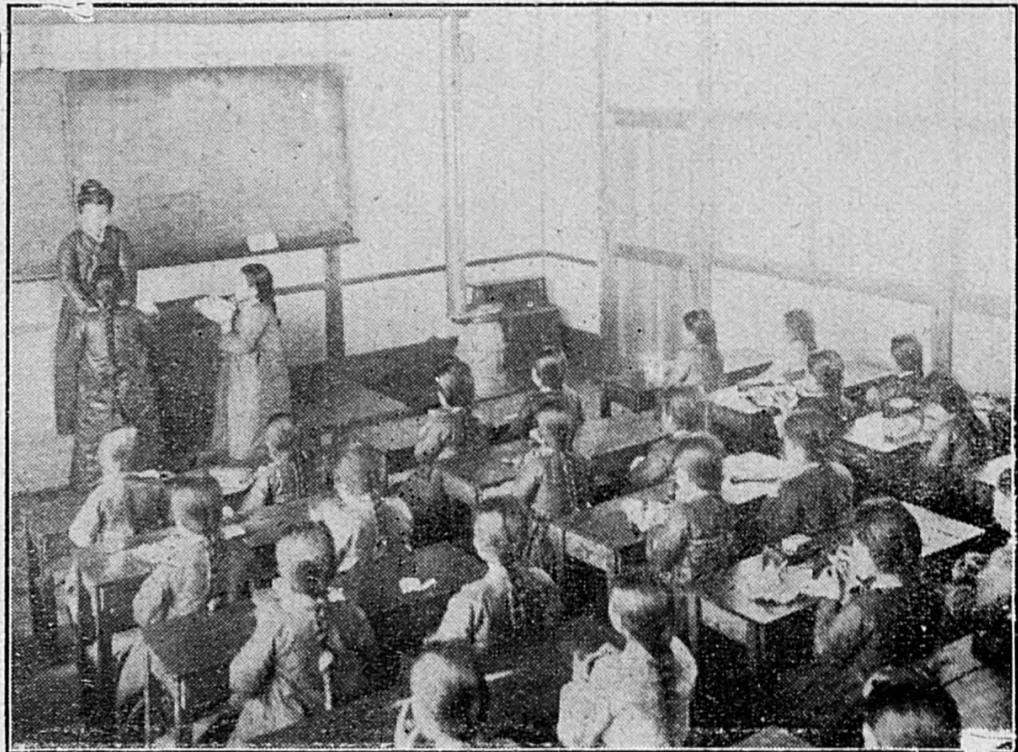
騎馬巡査

高等法院

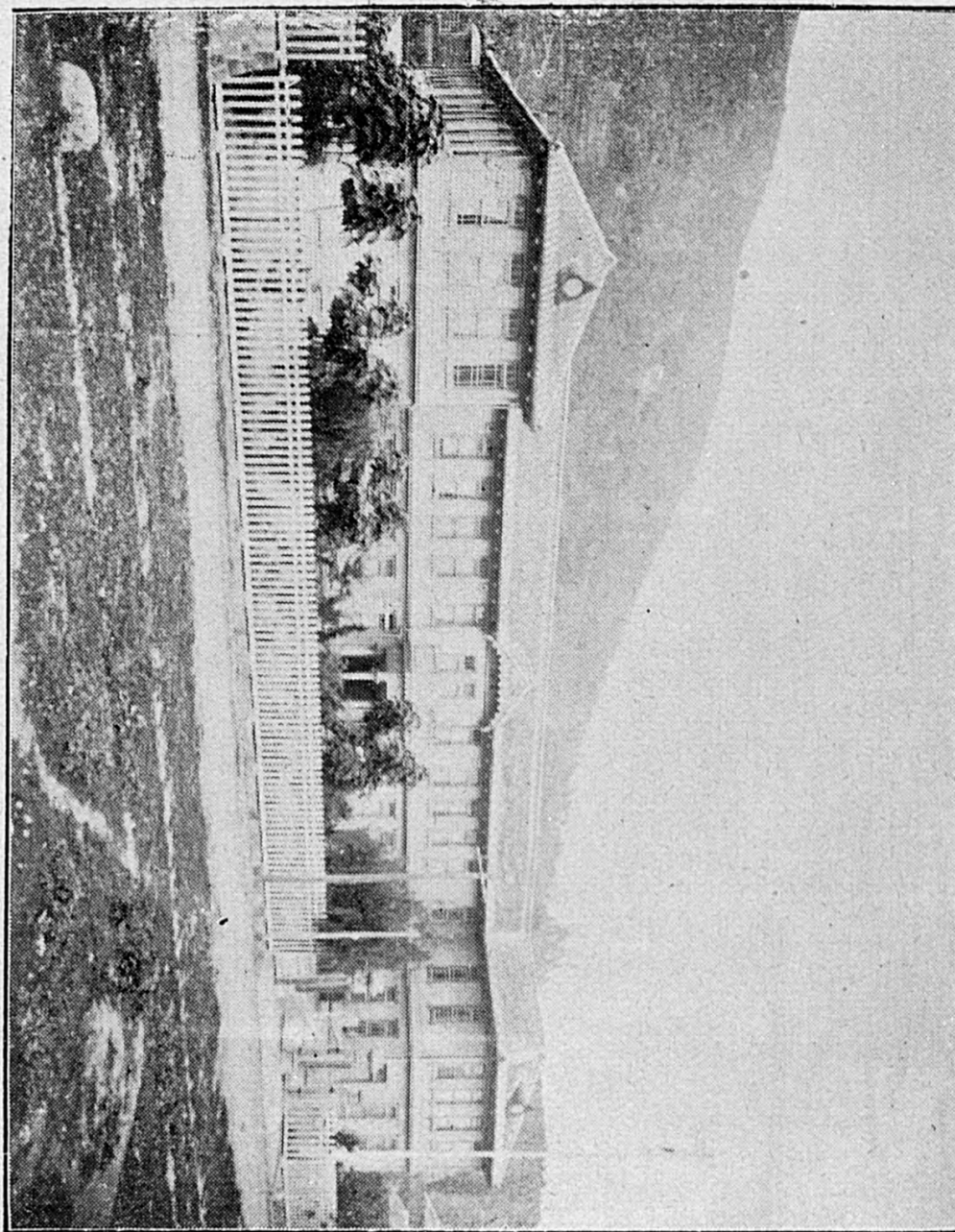
京城控訴院

京城地方裁判所

釜山區裁判所　地方裁判所

鴨綠江開閉橋

釜山停車場

木島燈臺

平壤公立普通學校

公立於義洞普通學校女子教室

釜山尋常高等小學校

第二版

最近朝鮮事情要覽

凡例

一　本書ハ昨年四月刊行ノ最近朝鮮事情要覽ヲ訂正增補シタルモノナリ

二　本書ハ最近朝鮮ニ於ケル帝國ノ施設經營ノ一斑及內地人發展ノ狀況其ノ他朝鮮ノ事情ヲ記述シ概ネ統計表ヲ附シ以テ概括的觀察ノ便ニ供セムコトヲ期セリ

三　本書ハ卷首ニ於テ我朝鮮ニ對スル保護權行使ノ發端ヨリ進ミテ統監府設置ノ沿革並帝國ノ版圖ニ歸シタル概況ヲ特ニ之ヲ韓國併合顚末ト題シ揭載シ又各種產業ノ狀況內地人ノ敎育機關等ニ就テハ意ヲ用ヰ以テ

移住者ノ便宜ヲ計レリ

四　本書ハ明治四十四年又ハ明治四十四年度ノ事項ヲ基礎トシ之ヲ記述ス其ノ調査未タ全カラサルモノハ前年若ハ最近ノ調査ニ據リタリ明治四十五年度朝鮮總督府豫算ハ未タ公布ヲ經サルモノナルモ參考ノ爲兩院議定豫算ヲ計上セリ

五　本書ハ短時日ノ調査ニ係リ努メテ速ニ最近ノ事實ヲ蒐集セシ爲書中統計ニ關スル最近ノ事項ハ他日多少ノ修補アルヘシ

明治四十五年二月

朝鮮總督府

最近朝鮮事情要覽目錄

朝鮮總督府及所屬官署分課一覽

明治四十四年十一月一日現在

- 朝鮮總督府
  - 總督官房
    - 祕書課
    - 武官室
  - 總務部
    - 文書課
    - 外事局
    - 人事局
    - 會計局
      - 經理課
      - 營繕課
  - 內務部
    - 庶務課
    - 地方局
      - 地方課
      - 土木課
        - 土木課工營所（京城）
        - 土木課出張所—土木課工營所
    - 學務局
      - 學務課
      - 編輯課
      - 京城專修學校
      - 京城高等普通學校
      - 附屬普通學校
      - 附設臨時教員養成所
      - 平壤高等普通學校
      - 京城女子高等普通學校
      - 附屬普通學校
      - 朝鮮公立實業學校
      - 農業學校
      - 商業學校
      - 工業學校
      - 簡易實業學校
      - 朝鮮公立普通學校
  - 度支部
    - 庶務課
    - 稅關工事課—稅關工事課出張所
    - 司稅局
      - 稅務課
      - 關稅課
    - 度支部釀造試驗所
    - 度支部煙草試作場
    - 司計局
      - 豫算決算課
      - 財務課
  - 農商工部
    - 庶務課
    - 殖產局
      - 農務課
      - 山林課
      - 水產課
    - 商工局
      - 鑛務課
      - 商工課
  - 司法部
    - 庶務課
    - 民事課
    - 刑事課
  - 中樞院
  - 取調局
  - 各道
    - 長官官房
    - 內務部
    - 財務部
    - 府
    - 郡
    - 面
    - 慈惠醫院
  - 裁判所
    - 高等法院
    - 高等法院檢事局
    - 控訴院
    - 控訴院檢事局
    - 地方裁判所
    - 地方裁判所檢事局
    - 地方裁判所支部
    - 地方裁判所支部檢事局
    - 區裁判所
    - 區裁判所檢事局
  - 所屬官署
    - 警務總監部
      - 庶務課
      - 高等警察課
      - 警務課
      - 保安課
      - 衞生課
      - 直轄警察署（京城）—警察分署（京城）
      - 警務部（各道）
        - 警察署
        - 警察署ノ職務ヲ行フ憲兵分隊
    - 監獄—監獄出張所—監獄分監—監獄分監出張所
    - 鐵道局
      - 庶務課
      - 監理課
      - 營業課
      - 運轉課
      - 工務課
      - 工作課
      - 計理課
      - 建設課
      - 鐵道局出張所
    - 通信局
      - 庶務課
      - 業務課
      - 計理課
      - 工務課
      - 電氣課
      - 航路標識管理所
      - 觀測所—測候所
      - 郵便爲替貯金管理所
      - 郵便局—郵便所
      - 汽船光濟丸
    - 臨時土地調査局—臨時土地調査局支局—臨時土地調査局出張所
    - 稅關
      - 庶務課
      - 稅務課
      - 監視課
      - 檢査課
      - 海務課
      - 稅關支署
      - 稅關監視署
      - 稅關出張所
      - 釜山稅關移出牛檢疫所
    - 專賣局—專賣局出張所
    - 印刷局
    - 營林廠—營林支廠
    - 醫院—附屬醫學講習所
    - 平壤鑛業所
    - 勸業模範場
      - 勸業模範場支場
      - 農林學校
    - 中學校—附屬臨時小學校教員養成所
    - 工業傳習所

第一章　韓國併合顚末

明治三十七年二月在京城ノ帝國代表者ハ韓國政府ト重要ナル協商ヲ遂ケ同二十三日兩國代表者ニ於テ議定書ノ調印ヲ了セリ時ニ帝國ト露國トノ戰端既ニ啓ケ韓國ハ滿洲ト共ニ東洋事局ノ中心タリ帝國カ政治上外交上竝軍事上ノ見地ヨリ韓國政府ト特別ノ協商ヲ爲スノ必要ハ素ヨリ言ヲ俟タサル所ニシテ本議定書ハ則チ日韓兩國ノ關係ヲ一新シ其ノ後ニ於ケル兩國關係推移ノ端ヲ爲スモノトス日韓議定書ハ前文及六箇條ヨリ成リ(一)韓國政府カ帝國政府ヲ確信シ施政ノ改善ニ關シテ其ノ忠告ヲ容ルルコト(二)韓國皇室ノ安全康寧ノ保證(三)韓國ノ獨立及領土保全ノ保證(四)第三國ノ侵害若ハ內亂ニ依リ韓國皇室ノ安寧或ハ領土ノ保全ニ危險アル場合ニ帝國政府ハ臨機ノ措置ヲ取リ韓國政府ハ之ニ對シテ十分ノ便益ヲ與フルコト竝帝國政府ハ軍事上必要ノ地點ヲ收用シ得ルコト(五)兩國政府ハ相互ノ承認ヲ經スシテ本協約ノ趣意ニ違反スヘキ協約ヲ第三國トノ間ニ訂立スルヲ得サルコト

（六）帝國代表者ト韓國外務大臣トノ間ニ未悉ノ細條ヲ臨機協定スルコトヲ定ム超エテ同年八月二十二日ニ至リ日韓兩國政府代表者ハ京城ニ於テ協定シタル協約ニ調印セリ本協約ハ三項ヨリ成リ財政外交兩顧問ノ傭聘竝韓國政府カ外國トノ條約締結其ノ他重要ナル外交案件即チ外國人ニ對スル特權讓與若ハ契約等ノ處理ニ關シテ豫メ帝國政府ト協議スヘキコトヲ規定ス蓋シ二月ノ議定書ニ依リ日韓兩國ノ關係大ニ進ミタリト雖韓國ニ於ケル施政改善ノ事タル決シテ容易ニアラス且外交ニ關スル議定書ノ取極ハ韓國政府カ同議定書ノ趣意ニ反スル協約ヲ第三國ト締結スルヲ得サルノ一項ニ限リ一般外交ノ處理ニ亘リテ詳言スル所ナシ是レ即チ本協約ヲ以テ更ニ兩國ノ關係ヲ一層明確ニ規定シタル所以ナリ

明治三十八年九月日露兩國間ニ締結セラレタル「ポーツマス」條約第二條ニ於テ露國政府ハ帝國カ韓國ニ於テ政事上軍事上及經濟上ノ卓絕ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ帝國カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻害シ又ハ之ニ干涉セサルヘキヲ約シタリ之ヨリ先キ同年八月十二日調印セラレタル日英同盟約款モ亦日本國ハ韓國ニ於テ政事上軍事上及經濟上ノ卓絕

ナル利益ヲ有スルヲ以テ大不列顛國ハ日本國カ該利益ヲ擁護增進セムカ爲ニ正當且必要ト認ムル指導監理及保護ノ措置ヲ韓國ニ於テ執ルノ權利ヲ承認スト規定シ即チ一方ニ於テハ日英同盟約欵ノ支持、他方ニ於テハ日露講和條約ノ承認ニ依リ日韓兩國ノ關係ハ日露戰爭終結ト前後シテ大進捗ヲ來タシ韓國ニ對スル帝國ノ地位益々鞏固且明確ヲ加フルニ至レリ帝國政府ハ乃チ此新關係ニ基キ韓國ニ對スル保護指導ヲ完クシテ益々兩國ヲ結合スル利益共通ノ主義ヲ鞏固ナラシメムコトヲ欲シ此目的ヲ以テ同年十一月十七日所謂日韓新協約ヲ締結シタリ同協約ハ前文及五箇條ヨリ成リ(一)外交權ノ收受(二)統監ノ駐劄(三)日韓兩國間現存條約及約束ノ效力繼續(四)韓國皇室ノ安寧及尊嚴維持ノ保證ヲ約セリ本協約ハ日露戰役中ニ於ケル議定書及協約ヲ享ケテ之ヲ大成シタルモノニシテ永ク日韓兩國關係ノ基礎タルヘキモノナリ此ニ於テ帝國政府ハ愈々在京城公使館ヲ撤廢シテ統監府ヲ置キ統監ヲ駐劄セシムルニ決シ同年十二月二十日勅令第二百六十七號ヲ以テ統監府及理事廳官制ヲ公布シ統監府及理事廳ハ翌明治三十九年二月一日各其ノ事務ヲ開始セリ統監府既ニ設置セラレ韓國ノ外交ハ擧ケテ帝國政府ノ管理ニ歸シ之ヲ內ニシテハ施政ノ改善漸ク其ノ緒ニ就クト雖一朝ニシテ數

百年ノ積弊ヲ一洗シ保護ノ實ヲ擧ケムコト固ヨリ容易ニアラス加フルニ維新更始ノ際ニ當リ上下ノ人心動モスレハ其ノ嚮フ所ヲ誤リ各般ノ妨碍百出セリ偶々明治四十年夏ニ至リ海牙密使事件ノ起ルアリ統監ハ更ニ韓國政府代表者ト一ノ協約ヲ訂立シ日韓兩國ノ關係ヲ一層密邇セシムルノ必要ヲ認メ同七月二十四日兩國代表者ノ調印ヲ了セリ同協約ハ前文及七箇條ヨリ成リ先ツ前文ニ於テ兩國政府カ韓國ノ富强ヲ圖リ韓國民ノ幸福ヲ增進セムトスルノ目的ヲ有スルコトヲ宣明シ(一)韓國政府カ施政改善ニ關シ統監ノ指導ヲ受クルコト(二)法令制定及重要ナル行政上ノ處分ニ付豫メ統監ノ承認ヲ受クヘキコト(三)司法事務ト普通行政事務トノ區別サルヘキコト(四)高等官吏ノ任免ニ統監ノ同意ヲ要スルコト(五)統監ノ推薦ニ依リ日本人ヲ韓國政府ニ任用スルコト(六)統監ノ同意ナクシテ外國人ヲ傭聘セサルコト(七)明治三十七年八月調印日韓協約第一條卽チ財政顧問傭聘ノ廢止サルヘキコトヲ約ス此協約ハ明治三十八年ノ新協約ト互ニ相補ヒ特ニ韓國ノ內政改善ニ關シテハ既往三種ノ協約ニ規定スル所ニ比シ一層我保護權行使ノ範圍ヲ擴張セリ

明治四十二年七月ニ至リ韓國ノ司法及監獄事務ヲ我政府ニ委託セシムルノ件ヲ約シ踵テ同年十月敕

令第二百三十六號ヲ以テ統監府裁判所令、同第二百四十二號ヲ以テ司法廳官制及同第二百四十三號ヲ以テ監獄官制ヲ公布シ同年十一月一日ヨリ實施シ同時ニ韓國ニ於ケル此等ノ機關ヲ廢止セシメ以テ韓國ニ在留スル帝國臣民竝韓國臣民ノ生命財産ノ保護ヲ確定スルノ基礎ヲ立テタリ次テ翌四十三年六月二十四日帝國ハ韓國ノ警察事務ヲ繼受シ統監府警察官署官制ヲ公布シ七月一日ヨリ之ヲ實施ス斯クノ如クニシテ施政ノ統一ヲ圖リ改善治安ノ途ヲ完クセムコトヲ期セリト雖現代ノ複雜ナル統治制度ニテハ未タ以テ的確ニ韓國民衆ノ康福ヲ增進シ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルニ足ラス暴徒草賊出沒シ良民ヲ蠹害スルモノ全ク其ノ跡ヲ絕ツニ至ラス又不逞ノ徒ハ民衆ノ指嗾煽動シ徵稅ニ從事スル日本人官吏ニ對シ特ニ嫌忌ノ念ヲ生シ徵稅ハ之ヲ日本ニ奪去スルモノヽ如ク誤解シ甚シキハ是等官吏ニ對シ危害ヲ加ヘントスル者アリ國內ノ形勢ハ依然トシテ平穩ヲ缺キ全然同國ヲ帝國ニ併合スルニ非サレハ全國統治ノ責任ヲ明ニシ有終ノ效果ヲ擧クル能ハサル可キヲ認メタリシカ爾來韓國ノ形勢ハ益非ナルモノアリ同年十月廿六日ニハ前統監伊藤公爵一韓人ノ爲ニ哈爾賓ニ於テ狙擊セラレ暴ニ薨去セラルヽアリ天下擧テ哀歎シ帝國ハ國葬ヲ以テ公ノ凶變ヲ弔ヘリ併合ノ議漸ク是ヨリ動キ

シト雖未タ之ヲ遂行スルノ機運ニ到達セサリキ

二

明治四十三年五月統監子爵曾禰荒助病ヲ以テ職ヲ退キ陸軍大臣子爵寺內正毅統監ニ兼任セラレ七月二十三日赴任ス當時ノ狀勢ハ併合ノ一日モ忽ニスヘカラサルモノアルヲ認メ乃チ韓國政府ノ當局者ト會見シテ帝國政府ノ所信ヲ披瀝シ且帝國一方ノ意思ニ基ク宣言的併合ヨリモ當時ノ韓國統治者トノ間ニ意思ヲ疏通シ條約ヲ締結シ韓國皇帝自ラ進ミテ統治權ヲ　天皇陛下ニ讓渡セラルヽヲ適當ト信シ之ヲ進言シタルニ韓國當局者モ亦其ノ相互永遠ノ福利ヲ增進スル所以ナルヲ確認シ爾來併合案件ニ關シ數次交涉ヲ重ネ兩國政府ノ意見茲ニ一致シ八月二十一日統監ハ併合條約案ヲ帝國政府ニ打電シ御親斷ヲ仰キタリ同月二十二日臨時樞密院會議ヲ開カレ併合條約案件ヲ裁可セラル韓國政府ニ於テモ亦直チニ皇帝ノ裁可ヲ仰キタルニ皇帝ハ能ク時勢ヲ洞觀セラレ併合ノ兩國永遠ノ幸福ヲ增進スヘキモノナルコトヲ認メラレ直ニ裁可ヲ與ヘラレタルヲ以テ同日寺內統監ハ韓國總理大臣李完用トノ間ニ併合條約ニ調印セリ而シテ韓國皇室ノ安寧ト尊嚴ヲ維持スルニ至ツテ

ハ終始渝ルコトナク今回ノ併合條約ニ於テ前韓國皇帝、太皇帝、皇太子並其ノ皇妃及後裔ヲシテ各其ノ地位ニ應シ相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持スルニ十分ナル歳費ヲ供給スルコトヲ約セラレタリ尚併合條約ノ締結ニ際シテハ一ニ和衷協同ニ由リ啻ニ圓滿ノ協議ヲ遂ケタルノミナラス形式ニ於テモ總テ遺漏ナカラムコトヲ期シ完全ニ之ヲ履行セリ而シテ帝國政府ハ列國ニ通牒スルニ韓國併合ノ事ヲ以テス同月二十九日詔書ノ煥發ト共ニ併合條約ヲ公布セラル　詔書ニ曰ハク

朕東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スルノ必要ナルヲ念ヒ又常ニ韓國カ禍亂ノ淵源タルニ顧ミ曩ニ朕ノ政府ヲシテ韓國政府ト協定セシメ韓國ヲ保護ノ下ニ置キ以テ禍源ヲ杜絶シ平和ヲ確保セムコトヲ期セリ

爾來時ヲ經ルコト四年有餘其ノ間朕ノ政府ハ鋭意韓國施政ノ改善ニ努メ其ノ成績亦見ルヘキモノアリト雖韓國ノ現制ハ尚未タ治安ノ保持ヲ完スルニ足ラス疑懼ノ念毎ニ國内ニ充溢シ民其ノ堵ニ安セス公共ノ安寧ヲ維持シ民衆ノ福利ヲ增進セムカ爲ニハ革新ヲ現制ニ加フルノ避ク可ラサルコ

ト瞭然タルニ至レリ

朕ハ韓國皇帝陛下ト與ニ此ノ事態ニ鑑ミ韓國ヲ擧テ日本帝國ニ併合シ以テ時勢ノ要求ニ應スルノ已ムヲ得サルモノアルヲ念ヒ茲ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ

韓國皇帝陛下及其ノ皇室各員ハ併合ノ後ト雖相當ノ優遇ヲ受クヘク民衆ハ直接朕カ綏撫ノ下ニ立チテ其ノ康福ヲ增進スヘク產業及貿易ハ治平ノ下ニ顯著ナル發達ヲ見ルニ至ルヘシ而シテ東洋ノ平和ハ之ニ依リテ愈々其ノ基礎ヲ鞏固ニスヘキハ朕ノ信シテ疑ハサル所ナリ

朕ハ特ニ朝鮮總督ヲ置キ之ヲシテ朕ノ命ヲ承ケテ陸海軍ヲ統率シ諸般ノ政務ヲ總轄セシム百官有司克ク朕ノ意ヲ體シテ事ニ從ヒ施設ノ緩急其ノ宜キヲ得以テ衆庶ヲシテ永ク治平ノ慶ニ賴ラシムルコトヲ期セヨ

併合條約ノ全文ハ左ノ如シ

日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ハ兩國間ノ特殊ニシテ親密ナル關係ヲ顧ヒ相互ノ幸福ヲ增進シ東洋ノ平和ヲ永久ニ確保セムコトヲ欲シ此ノ目的ヲ達セムカ爲ニハ韓國ヲ日本帝國ニ併合スルニ如カサルコトヲ確信シ茲ニ兩國間ニ併合條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲日本國皇帝陛下ハ統監子爵寺內正毅ヲ韓國皇帝陛下ハ內閣總理大臣李完用ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ右全權委員ハ會同協議ノ上左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

韓國皇帝陛下ハ韓國全部ニ關スル一切ノ統治權ヲ完全且永久ニ日本國皇帝陛下ニ讓與ス

第二條

日本國皇帝陛下ハ前條ニ掲ケタル讓與ヲ受諾シ且全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトヲ承諾ス

第三條

日本國皇帝陛下ハ韓國皇帝陛下太皇帝陛下皇太子殿下並其ノ后妃及後裔ヲシテ各其ノ地位ニ應シ相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持スルニ十分ナル歲費ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第四條

日本國皇帝陛下ハ前條以外ノ韓國皇族及其ノ後裔ニ對シ各相當ノ名譽及待遇ヲ享有セシメ且之ヲ維持スルニ必要ナル資金ヲ供與スルコトヲ約ス

第五條

日本國皇帝陛下ハ勳功アル韓人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スヲ適當ナリト認メタル者ニ對シ榮爵ヲ授ケ且恩金ヲ與フヘシ

第六條

日本國政府ハ前記併合ノ結果トシテ全然韓國ノ施設ヲ擔任シ同地ニ施行スル法規ヲ遵守スル韓人ノ身體及財産ニ對シ十分ナル保護ヲ與ヘ且其ノ福利ノ增進ヲ圖ルヘシ

第七條

日本國政府ハ誠意忠實ニ新制度ヲ尊重スル韓人ニシテ相當ノ資格アル者ヲ事情ノ許ス限リ韓國ニ於ケル帝國官吏ニ登用スヘシ

第八條

本條約ハ日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ裁可ヲ經タルモノニシテ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右證據トシテ兩全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

明治四十三年八月二十二日

統監　子爵　寺内正毅　印

隆熙四年八月二十二日

内閣總理大臣　李完用　印

同日舊韓國皇帝ハ舊韓國臣民ニ對シ左ノ勅諭ヲ發セラル曰ク

朕否德ニシテ艱大ナル業ヲ承ケ臨御以後今日ニ至ル迄維新ノ政令ニ關シ亟圖シ備試シ用力未タ嘗テ至ラスンハアラスト雖由來積弱痼ヲ爲シ疲弊極處ニ至ル時日間ニ挽回ノ施措望ナシ晝夜憂慮善後ノ策茫然タリ此ニ任シ支離益々甚シケレハ自ラ終局拾收シ得サルニ底ラン寧ロ大任ヲ人ニ託シ完全ナル方法ト革新ナル功效ヲ奏セシムルニ如カス故ニ朕於是瞿然内ニ省ミ廓然自ラ斷シ玆ニ韓

國ノ統治權ヲ從前ヨリ親信依仰シタル隣國大日本皇帝陛下ニ讓與シ外東洋ノ平和ヲ鞏固ニシ內八域ノ民生ヲ保全セントス惟フニ爾大小臣民國勢ト時宜トヲ深察シ煩擾スルコト勿ク各〻其ノ業ニ安ンシ日本帝國ノ文明新政ニ服從シ幸福ヲ共受セヨ朕ノ今日ノ此ノ擧ヤ爾有衆ヲ忘ルヽニ非ス唯爾有衆ヲ救活セントスルノ至意ニ出ツ爾臣民等ハ朕ノ此ノ意ヲ克ク體セヨ

ト以テ兩國素志ノ相融和セルヲ見ルヘク何等ノ騷擾ヲ見ルコトナクシテ併合ノ事成リ面積一萬四千百二十三方里ノ領土ハ新ニ附加セラレ韓國ヲ改メテ朝鮮ト稱シ朝鮮總督ヲ置キ天皇ニ直隷シ委任ノ內ニ於テ陸海軍ヲ統率シ諸般ノ政務ヲ統轄セシメラル茲ニ於テ寺內統監ハ朝鮮總督ニ任セラルルト同時ニ各地理事官ニ訓令ヲ發シテ經營指導宜シキヲ得、施政ノ効果ヲ擧クルニ遺漏ナカラシメンコトヲ期セリ共ノ訓令ニ曰ク

本日公布ノ併合條約ニ依リ韓國ハ帝國ニ併合セラレ自今朝鮮ト改稱シテ帝國領土ノ一部トナリ域內ノ人民ハ悉ク帝國ノ治下ニ立チ政令是ヨリ一途ニ出テ皆皇化ノ惠澤ニ浴スヘシ然レトモ朝鮮現時ノ狀態ハ未タ全ク帝國內地ト同シカラサルモノアリ故ニ帝國法令ニシテ直ニ朝鮮ニ適用セラル

ルモノノ外併合ノ結果朝鮮ニ於テ効力ヲ失フヘキ帝國法令及韓國法令ハ爾後總督ノ命令トシテ其ノ効力ヲ存續シ將來時勢ノ進運ニ從ヒ漸ヲ逐テ改修ヲ加フヘシ居留民團ハ元來外國ニ住居スル帝國臣民ノ設立スル團體ニシテ朝鮮カ帝國ノ版圖ニ歸シタル以上ハ自然地方行政機關ニ編入セラルヘキモノナリト雖今俄ニ之ヲ廢止スルニ便ナラサル事情アルニ依リ暫ク其ノ存在ヲ認メ將來之ニ代ルヘキ地方制度ノ完成ヲ待テ其ノ整理ヲ爲サシムヘシ又韓國及外國間ノ諸條約ハ消滅ニ歸シ帝國及外國間ノ諸條約ハ事情ノ許ス限リ朝鮮ニ適用セラレ該條約國ノ臣民及人民ハ帝國內地ニ於ケルト同樣ノ權利及特典ヲ享有スルト共ニ總テ帝國ノ法權ニ服從スルコトヽナリ隨テ朝鮮ニ在留スル外國人ニ係ル訴訟事件ハ之ヲ帝國裁判所ニ於テ管轄スルコト恰モ他ノ一般人民ニ關スル場合ト同一ナルヘシ關稅ニ至テハ之ト稍其ノ事情ヲ異ニシ今直ニ帝國ノ關稅法又ハ協定稅率ヲ適用スルトキハ啻ニ外國貿易ニ劇變ヲ與フルノミナラス內國ノ經濟關係ニ對シ重大ナル影響ヲ及スヘキカ故ニ帝國政府ハ當分ノ內總テ從來ノ慣例ヲ繼續スルコトニ決シ條約上ノ規定ニ拘ラス朝鮮ノ輸出入貨物ニ對シテハ從來ト同率ノ關稅ヲ課シ又帝國內地ト朝鮮トノ間ニ出入スル貨物ニ付テモ從來

ト同率ノ移出入税ヲ課スルコトト爲セリ

元來併合ノ趣旨タルヤ兩國相合シテ一體ト爲リ彼我ノ差別ヲ撤去シ相互全般ノ安寧幸福ヲ増進セムトスルニ外ナラス然ルニ之ヲ以テ强弱兩國ノ成敗ト爲シ驕慢自ラ持シ輕浮ノ言行ニ出ツルカ如キコトアラハ是レ實ニ其ノ本旨ヲ沒却スルモノト謂フヘシ從來本邦ノ居留民ハ多クハ異郷ニ僑居スルノ想ヲ爲シ動モスレハ自ラ高ウシテ他ヲ蔑視スルノ弊アリ若今日ノ改革ニ際シ一層倨傲ノ心ヲ増長シ新附ノ人民ニ凌辱ヲ加フルカ如キコトアラハ却テ彼等ノ惡感隔意ヲ招キ事每ニ扞格ヲ生シ將來永ク相融和スル機ナクシテ遂ニ不測ノ禍ヲ釀スニ至ルヘシ今幸ニ此ノ更始一新ノ時ニ會ス宜シク其舊想前態ヲ一變シ新附ノ領民ハ即我カ同胞タルコトヲ念ヒ之ニ接スルニ同情ヲ以テシ之ヲ待ツニ友誼ヲ以テシ相提携シテ處世ノ事ニ從ヒ以テ國家ノ隆昌ニ貢獻スルコトニ努ムルヲ要ス貴官ハ以上ノ趣旨ニ基キテ管下一般ノ居住民ヲ指導シ將來施政ノ効果ヲ擧クルニ於テ遺漏ナキコトヲ期セラルヘシ

明治四十三年八月二十九日

統監　子爵　寺内正毅

又總督ハ朝鮮上下ノ民衆ニ諭告シ施政ノ綱領ヲ示シテ曰ク

叡聖文武　天皇陛下ノ大命ヲ奉シ本官今ヤ朝鮮統轄ノ任ニ膺ルニ際シ玆ニ施政ノ綱領ヲ示シテ朝鮮上下ノ民衆ニ諭告ス

夫レ疆域相接シ休戚相倚リ民情亦昆弟ノ誼アルモノ相合シテ一體ヲ成スハ自然ノ理必至ノ勢ナリ是ヲ以テ大日本國　天皇陛下ハ朝鮮ノ安寧ヲ確實ニ保障シ東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持スルノ緊切ナルヲ念ヒ前韓國元首ノ希望ニ應シ其ノ統治權ノ讓與ヲ受諾シ給ヒタリ自今前韓國ノ皇帝陛下ハ昌德宮李王殿下ト稱セラレ皇太子ハ王世子トナリテ後嗣長ヘニ相繼承シ萬世無窮タルヘク太帝皇陛下ハ德壽宮李太王殿下ト稱セラレ竝ニ皇族ノ禮遇ヲ賜ハリ其ノ秩俸ノ豐厚ナル皇位ニ在スノ時ト異ル所ナカルヘシ朝鮮民衆ハ盡ク帝國ノ臣民ト爲リ　天皇陛下撫育ノ化ヲ被ムリ長ヘニ深仁厚德ノ惠澤ニ浴スヘシ殊ニ忠順ニ新政ヲ翼贊スル賢良ハ其ノ効勞ニ準シ榮爵ヲ授ケラレ恩金ヲ賜ハリ又其ノ材能ニ應シ帝國ノ官吏トシテ或ハ中樞院議官ノ班ニ列セラレ武ハ中央若ハ地方官廳ノ職員ニ登用セラルヘシ

又班族儒生ノ耆老ニシテ恭謙能ク庶民ノ師表タル者ニハ尚齒ノ恩典ヲ與ヘラレ孝子節婦郷黨ノ模範タル者ニハ褒賞ヲ賜リ以テ其ノ德行ヲ表彰セラルヘシ曩ニ地方官吏ノ職ニ在リ國稅欠逋ノ行爲アリタル者ハ其ノ責任ヲ解除シ特ニ其ノ未勘金ノ完納ヲ免セラルヘシ又從前法律ニ違反シタル者ニシテ其ノ犯罪ノ性質特ニ愍諒スヘキ者ニ對シテハ一律ニ大赦ノ特典ヲ與ヘラルヘシ

如今地方ノ民衆積弊ノ餘孽ヲ受ケ或ハ業ヲ失ヒ產ヲ傾ケ又甚シキハ流離饑餓ニ瀕スル者アリ依テ先ツ民力ノ休養ヲ圖ルノ急務ナルヲ認メ隆熙二年度以前ノ地稅ニシテ今尚未納ニ係ルモノハ之ヲ免除シ隆熙三年以前ノ貸付ニ係ル社穀ハ其ノ還納ヲ特免セシメ且本年秋季ニ徵收スヘキ地稅ハ特ニ其ノ五分ノ一ヲ輕減シ更ニ國帑約一千七百萬圓ヲ支出シ之ヲ十三道三百二十有餘ノ府郡ニ配與シ以テ士民ノ授產、教育ノ補助並凶歉ノ救濟ニ充テシムヘシ是皆斯ノ更始一新ノ時ニ方リ惠撫慈養ノ聖旨ヲ昭ニスル所以ナリ然リト雖國政ノ利澤ヲ蒙ル者其ノ分ニ應シテ國費ヲ負擔スルハ天下ノ通則ニシテ古今東西皆然ラサルハ莫シ故ニ克ク這般救恤ノ本旨ヲ體シ或ハ恩ニ狃レテ奉公ノ心ヲ失ハサランコトヲ期スヘシ

凡ソ政ノ要ハ生命財産ノ安固ヲ圖ルヨリ急ナルハ莫シ蓋シ殖産ノ方興業ノ途之ニ次テ振作スルヲ得ヘケレハナリ從來不逞ノ徒頑迷ノ輩遐邇ニ出沒シ或ハ人ヲ殺シ財ヲ掠メ或ハ非謀ヲ企テ騷擾ヲ得ス者アリ是ヲ以テ帝國ノ軍隊ハ各道ノ要所ニ駐屯シテ時變ニ備ヘ憲兵警官ハ普ク都鄙ニ亙リテ專ラ治安ノ事ニ從ヒ又各地ニ法廷ヲ開キテ公平無私ノ審判ヲ下スニ努ム是固ヨリ奸兇ヲ懲罰シ邪曲ヲ芟除セムカ爲ナリト雖畢竟國內全般ノ安寧秩序ヲ維持シ各人ヲシテ其ノ堵ニ安シテ業ヲ營ミ產ヲ治メシメムトスルニ外ナラス

今朝鮮ノ地勢ヲ通觀スルニ其ノ南土ハ肥沃ニシテ農桑ニ適シ其ノ北地ハ槪子鑛物ニ富ミ內河外海亦魚介多シ遺利餘澤ノ獲收スヘキモノ鮮少ナリトセス其ノ開發ノ方法宜シキヲ得ハ產業ノ振作期シテ待ツヘシ而シテ產業ノ發達ハ主トシテ運輸機關ノ完成ニ俟タサルヘカラス是事ヲ創メ業ヲ起スノ階梯ナレハナリ今通路ヲ十三道ノ各地ニ開キ鐵道ヲ京城元山間及三南地方ニ新設シ漸ヲ以テ全土ニ及ホサムトス斯ノ如クニシテ大成ヲ將來ニ期スルト共ニ其ノ開鑿敷設ノ工程ニ於テ衆民ニ生業ヲ與ヘ其ノ窮乏ヲ拯フノ一助タルヘキヲ疑ハス朝鮮古來ノ流弊ハ好惡乖逆唯利ヲ以テ相爭フ

ニ在リ是ヲ以テ一黨勢ヲ得レハ忽チ他派ヲ戕ハムトシ一派力ヲ占ムレハ輙チ他黨ヲ仆サムトシ頡頏排擠其ノ窮極スル所ヲ知ラス終ニ產ヲ破リ家ヲ亡ホス者尠シトセス是尺害アリテ寸益ナシ爾後黨ヲ樹テ社ヲ結ヒ徒ニ輕擧妄動ヲ事トスルカ如キコトアルヘカラス但シ政令洽ク下ニ及ハス民意動モスレハ上ニ達セスシテ上壓下怨ノ弊ヲ釀スハ古今其ノ例ニ乏シカラス依テ中樞院ノ規模ヲ擴張シ老成ノ賢良ヲ網羅シテ其ノ議官ニ列シ重要ナル政務ノ諮詢ニ應セシメ又各道及各府郡ニハ參與官又ハ參事ノ職ヲ設ケ能士俊材ヲ登用シテ之ニ充テ其ノ言議ヲ徵シ其ノ獻策ニ聽キ以テ政令ト民情ト相牴牾スル所ナカランコトヲ期ス

凡ソ人生ノ憂患ハ疾病ヨリ酷シキハ莫シ從來朝鮮ノ醫術ハ未タ幼稚ノ域ヲ脫セスシテ以テ病苦ヲ救ヒ天壽ヲ全ウセシムルニ足ラス是最モ痛嘆スヘキ所ナリ曩ニ京城ニ中央醫院ヲ開キ又全州淸州及咸興ニ慈惠醫院ヲ設ケテ以來衆庶ノ其ノ恩波ヲ蒙ル者極メテ多シト雖未タ全土ニ普及セサルヲ遺憾トシ旣ニ令ヲ發シテ更ニ各道ニ慈惠醫院ヲ增設セシメ名醫ヲ置キ良藥ヲ備ヘ汎ク起死回生ノ仁術ヲ施サシメムトス

顧フニ人文ノ發達ハ後進ノ教育ニ俟タサルヘカラス而シテ教育ノ要ハ智ヲ進メ德ヲ磨キ以テ修身齊家ニ資スルニ在リ然ルニ諸生動モスレハ勞ヲ厭ヒ逸ニ就キ徒ニ空理ヲ談シテ放漫ニ流レ終ニ無爲徒食ノ遊民タル者往々ニシテ之レ有リ自今宜シク其ノ弊ヲ矯メ華ヲ去リ實ニ就キ懶惰ノ陋習ヲ一洗シテ勤儉ノ美風ヲ涵養スルコトニ努ムヘシ

信教ノ自由ハ文明列國ノ均シク認ムル所ナリ各人其ノ崇拜スル教旨ニ倚リ以テ安心立命ノ地ヲ求メムトスルハ固ヨリ其ノ所ナリト雖宗派ノ異同ヲ以テ漫ニ紛爭ヲ試ミ又ハ名ヲ信教ニ藉リテ叨ニ政事ヲ議シ若ハ異圖ヲ企テムトスルカ如キハ即チ良俗ヲ茶毒シ安寧ヲ妨害スルモノナルヲ以テ當ニ法ヲ案シテ處斷セサルヘカラス然レトモ儒佛諸教ト基督教トヲ問ハス其ノ本旨ハ畢竟人心世態ノ改善ニ在ルカ故ニ固ヨリ施政ノ目的ト背馳セサルノミナラス抑テ之チ稗補スヘキモノタルヲ疑ハス之ヲ以テ各種ノ宗教ヲ待ツニ毫モ親疎ノ念ヲ挾マサルハ勿論其ノ布教傳道ニ對シテハ適當ナル保護便宜ヲ與フルニ吝ナラサルヘシ

本官今ヤ聖旨ヲ奉シテ此ノ地ニ莅ムヤ一ニ治下生民ノ安寧幸福ヲ增進セムト欲スルノ外他念アル

ナシ是レ玆ニ諄々トシテ其ノ適從スヘキ所ヲ諭示スル所以ナリ倘漫ニ妄想ヲ逞ウシ敢テ施設ヲ妨碍スル者アラハ斷シテ假借スル所ナカルヘシ若シ夫レ忠誠身ヲ持シ謹愼法ヲ守ルノ良士順民ニ至ツテハ必ス皇化ノ惠澤ニ霑ヒ其ノ子孫亦永ク恩波ニ浴スヘシ爾等格テ新政ノ宏謨ヲ奉體シテ苟モ違フ所アル勿レ

明治四十三年八月二十九日

統監　子爵　寺内正毅

三

斯クテ倂合ノ事成レリト雖　天皇陛下ハ深ク前後ノ事ヲ軫念シ給ヒ倂合條約第三條及第四條ニ依リ倂合ノ後ト雖前韓國皇帝及其皇室各員ハ其ノ地位ニ應シ相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有スヘク前韓國皇帝ヲ册シテ王ト爲シ昌德宮李王ト稱シ嗣後此ノ隆錫ヲ世襲シ以テ其ノ宗祀ヲ奉セシメ皇太子及將來ノ世嗣ヲ王世子トシ太皇帝ヲ太王ト爲シ德壽宮李太王ト稱シ各其儷匹ヲ王妃、太王妃又ハ王世子妃トシ竝待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ特ニ殿下ノ敬稱ヲ用ヰシメ李家ノ子孫ヲシテ福履ヲ增綏シ永ク休祉ヲ享ケシムヘキコトヲ宣シ給ヒ又李王ノ懿親李堈及李熹ヲ以テ公トシ其配匹ヲ公妃トシ竝待

ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用キシメ子孫ヲシテ其榮錫ヲ世襲シ永ク寵光ヲ享ケシメラレ且其ノ皇位ニ在リシ時ト同一ノ歲費ヲ與ヘラル

而シテ條約第五條ニ依リ勳功アル朝鮮人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スヲ適當ナリト認メタルモノニ對シ榮爵ヲ授ケ且恩賜金ヲ下賜セラルヘキヲ定メ朝鮮貴族令ヲ發布セラレ本令ニ依リ十月七日勳功者ノ貴族ニ列セラレタルモノ七十六名ニ及ヘリ而モ聖恩ノ優渥ナル啻ニ李家及勳功者ノミニ止ラス更ニ亦子ヲ體卹スルノ意ヲ昭示シ給ヒ舊刑諸般ノ罪囚中情狀ノ憫諒スヘキモノニ對シテハ特ニ大赦ヲ行ヒ且積年ノ逋租及當年ノ租稅ハ之ヲ減免シ給ヘリ囚人ニシテ此ノ恩惠ニ浴シタルモノ一千七百十七人ニ及ヘリ

又貴族及功勞者竝其ノ遺族、勅任、奏任、判任ノ官吏ニシテ恩賜金ノ下賜ニ與リタルモノ三千六百四十三人、又班族、儒生ノ耆老ニシテ恭謙能ク庶民ノ師表タル者ニハ尙齒ノ恩典ヲ與ヘラレ其ノ惠ニ浴セシモノ一萬二千三百餘人又孝子節婦鄕黨ノ模範タル者ニハ褒賞ヲ賜ハリ鰥寡孤獨情ノ愍諒スヘキ者ニ對シテハ賜金ヲ惠マセラレ其ノ恩典ニ與カリタル者孝子節婦三千二百九人鰥寡孤獨七萬九

百二人ニ達セリ而シテ更ニ一千七百萬圓ノ國帑ヲ支出シテ之ヲ道府郡ニ配與シ以テ士民ノ授産、教育ノ補助並ニ凶歉ノ救濟ニ充テシメラル

朝鮮貴族令ニ依リ朝鮮貴族ニ列セラレシモノ左ノ如シ

爵	勳等	氏名
侯爵	勳一等	李載完
同	同	李載覺
同		李海昌
同		李海昇
同		尹澤榮
同		朴泳孝
伯爵	勳一等	李址鎔
同		閔泳璘
同	勳一等	李完用
子爵		李完鎔
同		李埼鎔
同	勳一等	朴齊純
同	同	高永喜
同	同	趙重應
同	同	閔丙奭
同		李容稙
同	勳一等	金允植
同	同	權重顯
同	同	李夏榮
同	同	李根澤
同	同	宋秉畯
同	同	任善準

子爵　勳一等　李載崑
同　同　尹德榮
同　同　趙民熙
同　同　李秉武
同　李根命
同　閔泳奎
同　閔泳韶
同　閔泳徽
同　金聲根
男爵　尹用求
同　洪淳馨
同　金奭鎭
同　勳二等　韓昌洙
同　同　李根湘

男爵　趙義淵
同　朴齊斌
同　成岐運
同　金春熙
同　趙同熙
同　朴箕陽
同　金思濬
同　張錫周
同　勳二等　閔商鎬
同　勳一等　趙東潤
同　崔錫敏
同　韓圭卨
同　兪吉濬
同　南廷哲

男爵 李乾夏
同 李容泰
同 閔泳達
同 勳一等 閔泳綺
同 李鍾健
同 李鳳儀
同 尹雄烈
同 勳一等 李根澔
同 金嘉鎭
同 鄭洛鎔
同 勳一等 閔種默
同 同 李載克
同 同 李允用
同 李正魯

同 金永哲
同 李容元
同 金宗漢
同 趙鼎九
同 金鶴鎭
同 朴容大
同 趙慶鎬
同 金思轍
同 金炳翊
同 李胄榮
同 鄭漢朝
同 閔炯植

第二章　地誌

一　地形及地勢

朝鮮ハ亞細亞ノ東南ニ斗出セル一大半島ニシテ地形南北ニ長ク東西ニ短シ南北最モ長キ處ハ百九十里ニ達シ最短キ處ハ百五十里ヲ下ラズ東西最モ狹キ處ハ僅カニ四十餘里最廣キ處ニテモ七十里ヲ越エス東經百二十四度十三分ヨリ百三十度五十四分ニ至リ北緯三十三度十二分ヨリ四十三度二分ニ亘リ面積約一萬四千百二十三方里ヲ有ス東ハ日本海ニ面シ西黃海ニ臨ミ北ハ長白山脈鴨綠江及豆滿江ノ一部ヲ以テ滿州及露領沿海州ニ連リ南ハ朝鮮海ニ瀕ス日本海ト朝鮮海トノ間ニ對馬島アリ以テ對馬及朝鮮ノ二海峽ヲナス對馬海峽ハ一ニ東水道ト稱シ朝鮮海峽ハ一ニ西水道ト稱セラル

朝鮮ノ海岸ハ東方ト南方及西方トヲ比較スルニ著シキ差違アリ東海岸ハ出入極メテ少ナク岬灣島嶼甚ダ稀ニシテ從テ良港ニ乏シク僅ニ元山城津淸津等アルニ過ギズ然ルニ南及西ノ海岸ハ長汀曲浦相連リ恰モ鋸ノ齒ノ如ク大小ノ島嶼星羅碁布シテ幾多ノ内海浦灣ヲ形成スルヲ以テ釜山木浦群山仁川

鎭南浦等ノ港灣ヲ始メトシ錨地頗ル多シ

繼テ朝鮮ノ地勢ヲ見ルニ北境ニハ長白山脈蜿蜒トシテ東北ヨリ西南ニ延ビ平安咸鏡兩道ノ境ヲ劃シテ江原道ニ入リ東海岸線ニ平行シテ南方ニ駛走シ以テ半島ノ脊梁骨ヲナス此ノ如ク大山脈東方ニ偏在スルヲ以テ山脈以東ノ地ハ斜面急峻ニシテ殆ンド平野ト稱スベキモノナク從ツテ江河ノ大ナルモノナシ之ニ反シ山脈以西ハ比較的緩ナル斜面ヲナシ平野處々ニ少ナカラズ鴨綠江大同江漢江錦江洛東江等其ノ間ニ縈流シテ舟楫ノ便灌漑ノ利アリ地味概シテ豐饒ナリ

二　氣候

氣溫　氣溫ハ年平均釜山地方ハ攝氏十三度餘ニシテ漸次北方ニ遞減シ京仁地方及元山地方ハ十度餘又龍岩浦地方及城津附近ハ八度內外ニシテ北韓內陸ハ五度乃至四度トナル之ヲ本土ニ比較スレバ南岸ハ福井地方ニ中部ハ信濃地方ニ比スベク北韓ノ沿海地方ハ函館地方ニ其ノ內陸高原ハ恰モ北海道內陸ト相似タリ而シテ年中最暖ナルハ八月最寒ナルハ二月ニシテ其ノ差南部ハ二十三四度中部ハ二十七八度北部ハ三十二度內外ナリ本州ニ在リテハ中部ノ沿岸地方ハ其ノ差概ネ二十一二度內陸ハ二

十四五度北海ハ左ノ如シ（(一)ヲ附セルハ氷點下ノ溫度ヲ示ス）

	高極	低極		高極	低極
木浦	三四、一度	(一)一二、五度	釜山	三三、六度	(一)一一、九度
大邱	三七、八	(一)一四、五	仁川	三四、六	(一)一八、七
京城	三五、六	(一)一九、九	平壤	三五、五	(一)二五、五
元山	三八、二	(一)一九、二	龍岩浦	三三、六	(一)二六、三
城津	三五、五	(一)二二、〇			

即チ暖極ハ西岸及南岸ハ三十四度內外其他ニ在リテハ三十五度乃至三十八度ニ達ス斯ノ如キ暑氣ハ本土ニ在リテハ到所ニ遭遇スル所ナルモ寒氣ニ於テハ零下十五度ニ達スル事アルハ美濃地方乃至福島山形地方同二十度以下ニ下ルハ北海ノ各地ニシテ更ニ零下三十度下ニ降ルハ北海內陸ノ十勝上川地方ニ間々起ルノミ故ニ寒氣ニ於テハ本土ノ各地ニ比シ稍ヤ甚シキヲ見ル氣溫晝夜ノ差モ亦稍著シク中部以內ノ沿岸ハ八度內外ニシテ中部ノ內陸ハ十三度餘北部ノ內陸高原ニ於テハ十七度ニ達スル

地方アリ

風　全半島ヲ通シテ季節風ノ勢力卓越スルヲ以テ主風ノ方向ハ季節ニ由リ略ホ一定セリ即チ十月ヨリ四月迄ハ北乃至北西風ニシテ六月ヨリ八月マテハ一般ニ南東風ナリ雨季節風ノ交代期ナル五月及九月前後ハ風向區々ニシテ一定セズ又西岸及南岸ハ冬季ノ北西風ヲ受クルガ故ニ此ノ季節ニ於テ風力殊ニ強ク之ニ反シ東岸ハ朝鮮山脈ニ遮キラルヽニヨリ概シテ弱シ而シテ冬季大陸方面ニ高氣壓ノ發達セル時ニ際シ適々日本海方面ニ低氣壓ノ通過スルモノアルトキハ强烈ナル北乃至北西風ヲ起スト共ニ氣温頓ニ下リ甚シキ時ハ前日トノ差十度以上ニ達スル事アリ然レトモ氣壓ノ配布舊ニ復シ高壓部ノ衰退スルト共ニ風力減シ寒氣亦退クヲ以テ冬季ニ於テハ寒暖ノ日交錯スルヲ常トス俚俗ニ三寒四温ノ語アルハ蓋シ之ヲ謂フナリ

雨雪　雨雪ノ年量ハ半島ノ大部分ハ八百乃至千粍ニシテ南岸ハ之ヨリモ多ク釜山地方ハ千四百粍ニ達ス又東岸ニ於テ元山附近ニモ亦多ク千五百粍ニ達ス蓋シ此ノ地方ハ半島ニ於テ最多雨地方タリ而シテ北部内陸高原地方ニ在リテハ六百粍内外ニ過ギズ之ヲ本土ニ比スレバ南岸地方ハ略ホ瀬戸内地

方ニ比スベク元山地方ヲ除ク中部以南ハ信濃及兩毛地方ト相似タリ既ニ氣溫ニ於テ酷似シ氣候モ亦能ク相似タルニ見ルモ近年蠶桑ノ半島ニ適スルヲ稱道セラルル所以ノモノ決シテ偶然ニアラザルヲ知ルベル而シテ北部寡雨ノ地方ハ本土ニ於テハ之ニ比スベキ地方ナシ然レトモ半島ニ於テハ季節ニ由ル降雨ノ差異著シク十月ヨリ三月ニ至ル乾燥期ニ際シテハ其ノ量極メテ少ク此ノ六個月間ノ合計ハ降雨期一箇月ノ量ニモ充タス之ニ反シ六月ヨリ八月ニ至ル間ニ年量ノ大部分ヲ降下スルヲ常トス故ニ北部地方ト雖モ降雨期ノ量ヲ以テ比較スルトキハ北海道地方ト敢テ讓ラサルヲ見ル斯ク冬季ノ量寡少ナルヲ以テ北部ニ於テモ積雪ハ甚タ少ク雨天日數ハ槪シテ百日內外ニシテ南岸及元山地方ハ百三十日內外ニ達ス降雨期ニ於テハ月ノ三分ノ一以上ヲ算スル事アルモ槪シテ降雨ノ時間短ク本土ニ於ケルカ如ク霖雨數日ニ涉ルカ如キハ殆ント見サル所ナリ

蒸發　斯ノ如ク雨量尠ク空氣乾燥シテ且日照多キヲ以テ蒸發量ハ甚タ多シ年量ハ北部八千粍餘西岸ハ千四百粍餘南岸ノ釜山地方ハ千五百粍餘ナリ本土ニ於テ蒸發量ノ多キ瀨戶內地方ト雖半島ノ蒸發寡少ナル地方ト相匹敵スルノミ西岸地方ニ於テ天日製鹽業ノ著々效ヲ奏シツツアル洵ニ所以アリト

云フヘシ而シテ東岸ノ西岸ニ比シテ蒸發ノ少キハ前述ノ如ク同地方ノ風力弱キモノ其一源因ナラン

霧　朝鮮近海ノ濃霧ハ日露戰役以來世人ノ注意スル所トナリシカ濃霧ハ半島ノ東西沿岸ヲ流ルル所ノ暖流方面ニ於テ三月ヨリ八月ニ至ル間ニ屢起リ殊ニ七八月ニ最頻繁ナリ濃霧ノ一度襲來スルトキハ冥濛トシテ所謂咫尺ヲ辨セサル程ニシテ其ノ甚タシキモノハ三晝夜ニ渉リテ衰退セサル事アリ之カ爲メニ船舶ノ航行ヲ妨ケラルル事尠ナカラス

從來半島ノ事情ニシテ内地人ニ誤傳セラレタルモノ尠ナカラス氣候ノ如キモ其ノ一ニシテ朝鮮全土ヲ以テ寒暑共ニ酷烈ナリトナシ又ハ雨量寡小ニシテ農耕ニ適セストナスカ如キ說ヲナスモノ間々アリ然レトモ從來ノ實測ハ全ク然ラサルヲ示スノミナラス却テ本土ノ或地方ニ比スレハ居住ニ適順ニシテ且農桑ニモ佳良ナルハ近來ノ實績ニ徵シ明白ナリ况ンヤ暴風ノ如キ本土ニ比シ極メテ尠ナク稍强烈ナルモノハ年ニ一二回ニ過キス又本土ノ如ク震災ノ怖ルヘキモノナク實ニ天然ノ樂土ト稱スヘキナリ

三　人　口

明治四十四年六月末日ノ調査ニ據レハ現在內地人戸數ハ各道ヲ通シテ五萬七千五百四十五戸、人口十九萬三千六百七十五人朝鮮人戸數二百七十九萬二千百五戸人口一千三百五十三萬九千二百十八人外國人戸數三千五百三戸人口一萬四千六百五十五人ナリ左ニ各道別表ヲ揭ク

(甲) 內地人

(イ) 現住內地人

道名	戸數	人口 男	人口 女	計
京畿道	一七、一六三	三一、九四三	二七、九〇〇	五九、八四三
忠清北道	一、一〇四	一、八一六	一、三三九	三、一五五
忠清南道	二、七一八	四、七三四	三、九四九	八、六八三
全羅北道	二、五六六	四、七七〇	三、九二二	八、六九二
全羅南道	三、二〇二	六、〇二三	四、六七〇	一〇、六九三
慶尚北道	三、七〇三	六、五〇六	五、三二三	一一、八二九
慶尚南道	一二、九八七	二四、九九五	二一、八四四	四六、八三九
江原道	九一〇	一、七〇六	一、〇三四	二、七四〇

平安南道	三、九二八	七、一一八	五、九七九	一三、〇九七
平安北道	二、三九八	四、〇一〇	二、八四三	六、八五三
黄海道	一、九一九	二、九三五	二、二八〇	五、二一五
咸鏡南道	二、四四〇	四、六八七	四、〇三四	八、七二一
咸鏡北道	二、五〇八	四、一二八	三、一八七	七、三一五
計	五七、五四五	一〇五、三七一	八八、三〇四	一九三、六七五

現住内地人戸口累年比較

年次	戸数	人口 男	人口 女	人口 計	平均一戸ニ付人口	女百ニ付男
明治四十四年六月末日	五七、五四五	一〇五、三七一	八八、三〇四	一九三、六七五	三・三七	一一九・三三
同四十三年十二月末日	五〇、九九二	九二、七五一	七八、七九二	一七一、五四三	三・三六	一一七・七二
同四十二年十二月末日	四三、四〇五	七九、九四七	六六、二〇〇	一四六、一四七	三・三七	一二〇・七六
同四十一年十二月末日	三七、一二一	七〇、一四五	五六、〇二三	一二六、一六八	三・四〇	一二五・二一
同四十年十二月末日	二八、三七二	五五、六六九	四二、三三二	九八、〇〇一	三・四七	一三一・五一
同三十九年十二月末日	二二、一三九	四八、〇二八	三五、二八七	八三、三一五	三・七六	一三六・一一

廣島縣 男	廣島縣 女	山口縣 男	山口縣 女	和歌山縣 男	和歌山縣 女	徳島縣 男	徳島縣 女	香川縣 男	香川縣 女	愛媛縣 男	愛媛縣 女	高知縣 男	高知縣 女	福岡縣 男	福岡縣 女	大分縣 男	大分縣 女	佐賀縣 男	佐賀縣 女	熊本縣 男	熊本縣 女	宮崎縣 男	宮崎縣 女
一、六四九	一、四四六	三、三四一	三、〇八三	三〇四	二七五	四七一	四一五	五四三	三七七	五九三	五二八	三三六	二一四	三、一四四	三、〇〇六	一、七二七	一、五三三	一、三七〇	一、二八一	一、六八一	一、四七八	一五四	一三三
一〇三	七八	一五〇	一四六	八	九	二九	三〇	三〇	二八	五六	四一	一一	一二	一〇八	八〇	七五	四四	七七	四二	七九	六〇	一三	六
二〇三	一六七	五〇九	四七六	六八	五八	七七	六七	六〇	五九	一〇六	九七	六三	四五	四二五	四六四	三三三	一八四	二四七	二一三	一九二	二〇四	四〇	一九
二五六	二五三	五六一	五一四	五一	三三	八六	六四	八四	五四	二〇四	一六三	五〇	三〇	三六七	三三〇	三六三	三七二	一四二	九六	四九九	四二四	二五	二〇
二九八	二七五	七四九	六二八	六三	五〇	五七	四二	一四六	一二六	一三九	一三九	一一八	八一	五四三	四一六	二八八	一九六	一四三	一一五	三〇〇	二三七	二六	一九
三七〇	三一八	三六七	三〇八	四二	三九	一七二	一三五	一四一	一二六	二一八	二〇五	八八	七一	六四二	五四五	三〇五	三三八	二一三	一七八	三六〇	二八三	三九	三四
二、一〇二	一、九四二	三、四九〇	三、三三三	二八三	二四五	四五六	三七四	六五六	六三八	一、一六六	九四二	三三三	二七七	三、三七九	一、九八五	一、一四一	一、〇四四	一、〇一一	八五八	八九四	七九二	九八	六五
一五三	一四五	二三九	二一七	六四	五〇	六八	四四	四〇	二一	九八	七二	五三	四一	一六三	一四七	一一三	一〇一	九三	六〇	一〇九	九一	三六	二六
四四一	三四五	九二六	八五三	八六	五二	一七一	一三三	九七	八一	一五九	一五二	五六	五二	五〇六	五二七	四三四	三六〇	三三八	一六四	二六八	二三七	二九	一五
一八五	一四五	二〇五	一三四	七〇	三六	一一五	五七	七三	四八	九二	七九	五〇	二五	二六五	二一五	一九二	一四九	一一三	一〇七	二〇四	一六二	二四	一七
六八	四九	七五	六六	二五	二二	二一	一五	三五	二八	四六	三八	一四	一七	八八	六四	五〇	四一	五〇	二〇	八三	六九	一七	八
二七八	二六五	五三四	五〇二	一五三	八四	四〇	五二	一一〇	一三六	一一九	一一五	四四	三九	三三一	三一六	二五六	二〇五	二〇七	一五八	三〇五	二五六	二〇	一九
三九〇	三六六	二七九	二三八	一〇四	八九	六六	四九	九二	九六	一五六	一一九	六三	三三	三六〇	二三三	二〇三	一六一	一一九	一〇一	二三〇	一六一	二九	二一
六、四九三	五、七九四	一一、三三五	一〇、四七八	一、三三一	一、〇四一	一、八二九	一、四七七	二、一〇七	一、七九八	三、一五三	二、六九〇	一、一六八	九二七	八、二三一	七、三一八	五、三七〇	四、六〇九	三、九一一	三、二九三	五、一九四	四、四四四	五五〇	三九一

鹿兒島縣 男	鹿兒島縣 女	沖繩縣 男	沖繩縣 女	總計 男	總計 女	總計 計
一、〇六八	八四四	一〇	九	三一、九四三	二七、九〇〇	五九、八四三
七七	四三	―	―	一、八一六	一、三三九	三、一五五
二一四	一三九	三	二	四、七三四	三、九四九	八、六八三
一二八	八七	一	一	四、七七〇	三、九二三	八、六九三
一六五	一一九	二	―	六、〇三三	四、六一〇	一〇、六四三
二七四	二〇五	四	二	六、五〇六	五、三三三	一一、八三九
三九四	三五六	二	―	二四、九九五	二一、八四四	四六、八三九
五七	四〇	一	―	二、九六五	二、二六〇	五、二二五
二〇七	二〇九	―	―	七、一一八	五、九七九	一三、〇九七
一四一	八七	三	二	四、〇一〇	二、八四三	六、八五三
六九	三四	―	―	一、七〇六	一、〇三四	二、七四〇
一三	九六	―	―	四、六〇七	四、一〇五	八、七一二
一五六	八四	一	一	四、一一六	三、一〇七	七、二二三
三、〇七二	二、三三三	二七	一七	一〇五、七三一	八〇、三四四	[illegible]

（乙）朝鮮人

道名	戸數	人口 男	人口 女	人口 計
京畿道	二九六、五四〇	七三七、四九五	六七八、六一一	一四一六、一〇六
忠清北道	一二三、六七三	三一〇、八八九	二六九、九〇〇	五八〇、七八九
忠清南道	一九五、七六五	四七三、九〇二	四二一、六四四	八九五、五四六
全羅北道	二〇五、七九九	五一一、六一五	四五〇、九六六	九六二、五八一
全羅南道	三二九、七五四	八二七、四六九	七五三、四二二	一五八〇、八九一
慶尚北道	三三三、八六三	八五九、〇五三	七六五、五一六	一六二四、五六九
慶尚南道	二九七、一〇三	七五二、五四七	六八九、一〇四	一四四一、六五一
黄海道	一六六、七二二	四四五、九七三	三八七、一〇一	八三三、〇七四

平安南道	一八七、三九一	四六一、五〇四	四三〇、八六四	八九二、三六八
平安北道	一八二、一四〇	五一九、七四八	四五九、八五四	九七九、六〇二
江原道	二二二、一〇二	五二一、〇九二	四六九、七九六	九九〇、八八八
咸鏡南道	一七六、四七一	四八四、九六〇	四二八、五五一	九一三、五一一
咸鏡北道	七四、七八一	二二六、三二五	二〇一、三一七	四二七、六四二
總計	二、七九二、一〇五	七、一三二、五七二	六、四〇六、六四六	一三、五三九、二一八

(丙) 在留外國人

(イ) 在留外國人數

道別	京畿 戸數	京畿 人口數	忠北 戸數	忠北 人口數	忠南 戸數	忠南 人口數
清	一、〇九八	五、一〇一	四七	一五二	二四九	八〇五
米	四〇	八八	四	一三	一〇	二三
英	三八	九二	二	四	二	二
佛	二〇	六一	一	一	五	五
獨	一一	四一	—	—	—	—
露	五	一四	—	—	—	—
希	一	三	—	—	—	—
伊	—	—	—	—	—	—
諾	一	一	—	—	—	—
白	一	三	—	—	—	—
葡	—	一	—	—	—	—
濠	—	—	—	—	—	—
加	—	—	—	—	—	—
土	五	八	—	—	—	—
瑞	一	一	—	—	—	—
丁	一	一	—	—	—	—
西	—	二	—	—	—	—
合計	一、三三三	五、四一七	五四	一七〇	二六六	八三五

總計 人口	總計 戸數	咸北 人口	咸北 戸數	咸南 人口	咸南 戸數	江原 人口	江原 戸數	平北 人口	平北 戸數	平南 人口	平南 戸數	黃海 人口	黃海 戸數	慶南 人口	慶南 戸數	慶北 人口	慶北 戸數	全南 人口	全南 戸數	全北 人口	全北 戸數
一三、八〇三	三、一三三	四一〇	一一七	七四〇	一八九	二六	一一	三、七一九	七九〇	一、五一五	二九一	四三二	七六	三四八	八五	一三〇	三一	一四三	五〇	三〇一	九八
四八二	二一一	二	一	二三	三	四	三	一二四	六四	七四	二五	四五	一四	五	二	三四	一	二六	一	三二	一四
一三七	五九	—	—	一七	六	—	—	四	四	六	二	—	—	一〇	四	二	一	—	—	—	—
九五	五三	—	—	二	二	四	四	一	一	三	三	四	四	二	二	三	二	四	四	五	五
四二	一二	—	—	—	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一七	八	—	—	一	一	—	—	一	一	—	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—	—
五	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	一	—	—	—	—	—	—
二	一	—	—	一	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八	七	—	—	—	—	—	—	四	四	—	—	一	一	二	一	—	—	—	—	—	—
三	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二	一	—	—	—	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七	二	—	—	—	—	—	—
二一	七	九	四	一三	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八	五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一四、六六五	三、五〇三	四二一	一三三	七九六	二一三	三四	一八	三、八四六	八六七	一、五九八	三三一	四八二	九五	三七七	九八	一六九	四五	一七三	六五	三三七	一一七

（ロ）在留外國人職業別

國別	種別	官公吏	布教	商業	工業	農業	醫師	其ノ他	計
清	本業	二三	―	三、四一二	三八六	一、三四二	二	四、六八五	九、八五〇
	家族	二六	―	二、〇七七	四一〇	六二九	一	八二九	三、九七二
	計	四九	―	五、四八九	七九六	一、九七一	三	五、五一四	一三、八二二
米	本業	三	一二四	一一	九	一	二六	八六	二六〇
	家族	二	一三二	四	四	三	三七	四〇	二二二
	計	五	二五六	一五	一三	四	六三	一二六	四八二
英	本業	六	五二	一二	七	―	七	八	九二
	家族	五	二〇	六	一	―	九	四	四五
	計	一一	七二	一八	八	―	一六	一二	一三七
佛	本業	六	四八	八	―	―	―	九	七一
	家族	八	―	一四	―	―	―	二	二四
	計	一四	四八	二二	―	―	―	一一	九五

獨 本業	獨 家族	獨 計	露 本業	露 家族	露 計	希 本業	希 家族	希 計	伊 本業	伊 家族	伊 計	諾 本業	諾 家族	諾 計
二	四	六	五	三	八	|	|	|	|	|	|	|	|	|
六	|	六	四	|	四	|	|	|	|	|	|	|	|	|
六	八	一四	二	二	四	三	二	五	|	|	|	一	|	一
|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	一	|	|	|
|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
一三	三	一六	一	|	一	|	|	|	一	|	一	七	|	七
二七	一五	四二	一二	五	一七	三	二	五	二	|	二	八	|	八

	白			葡			濠			加			土		
	本業	家族	計	本業	家族	計	本業	家族	計	本業	家族	計	本業	家族	計
	二	一	三	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜
	｜	｜	｜	｜	｜	｜	二	五	七	九	一二	二一	｜	｜	｜
	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	四	四	八
	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜
	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜
	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜
	｜	｜	｜	二	｜	二	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜	｜
	二	一	三	二	｜	二	二	五	七	九	一二	二一	四	四	八

瑞 本業	瑞 家族	瑞 計	丁 本業	丁 家族	丁 計	西 本業	西 家族	西 計	總計 本業	總計 家族	總計 計
—	—	—	—	—	—	—	—	—	四七	四九	九六
—	—	—	—	—	—	—	—	—	二四五	一六九	四一四
一	—	一	—	—	—	—	—	—	三、四六〇	二、一一七	五、五七七
—	—	—	—	—	—	—	—	—	四〇三	四一五	八一八
—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、三四三	六三二	一、九七五
—	—	—	—	—	—	—	—	—	三五	四七	八二
—	—	—	一	—	一	二	—	二	四、八一五	八七八	五、六九三
一	—	一	一	—	一	二	—	二	一〇、三四八	四、三〇七	一四、六五五

四 重要ナル市街地

朝鮮ハ曾テ建國以來二千年ノ歷史ヲ有スル舊邦ナリシモ所謂都府ト稱スヘキモノハ京城、平壤、開

城、水原等ニシテ就中京城、平壤ヲ除キ他ハ殆ト敗頽ニ歸シタリ然ルニ日清日露兩戰役ヲ經テ日本人ノ移住頓ニ增加シ仁川釜山ヲ始メ其ノ他ノ開港場ハ整然タル市街地トナリ京釜京仁兩鐵道ノ開通以來沿線各地ニ漸次發展ノ步武ヲ進ムルニ至レリ明治卅九年統監府開設セラレ居留民團法實施セラルルニ及ヒ京城、仁川、釜山、平壤、鎭南浦、群山、木浦、馬山、元山、大邱、新義州ノ各地ニ居留民團ノ設置ヲ見ルニ至レリ京城仁川平壤釜山木浦等ニハ水道ノ設置アリ鎭南浦ハ客年ヨリ四箇年計畫ニテ目下經營中ナリ

重ナル集團地ヲ擧クレハ京釜鐵道沿線ニ於テハ京城、龍山、永登浦、仁川、水原、平澤、成歡、烏致院、江景、大田、永同、金泉、大邱、密陽、三浪津、馬山、釜山ニシテ京義鐵道沿線ニ於テハ汶山、開城、新幕、沙里院、黃州、兼二浦、中和、平壤、鎭南浦、定州、宣川、新義州、龍岩浦トナシ沿岸ニ於テハ群山、木浦、元山、城津、淸津等トス

今主ナル集團地ニ於ケル內地人ノ戶口ヲ朝鮮人等ト對照シテ揭クレハ左ノ如シ

（イ） 三千人以上ノ居住地又ハ著名市街地現住戶口表 明治四十三年十二月末日

道	地名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
道	雲山郡北鎭	七三	一〇〇	九〇	一、〇九九	二、三三〇	一、九九二	六六	三九八	三	五四	五四	一七	一、一七三	二、八七三	二、二一〇
道	定州郡定州	三九	一九六	一七一	五三二	一、三三一	一、一〇八	｜	｜	｜	｜	｜	｜	六〇〇	一、四〇七	一、二七九
道	江界郡江界	五四	四四	三一	九四	二、七七七	二、五〇二	四	八	｜	三	三	三	九九三	二、八八三	二、五五五
江原道	春川郡春川	一三	一七三	一三六	三五三	一、五九二	七〇七	二	三三	｜	一	三	一	四七六	一、七九一	八四四
咸鏡南道	元山府	一、一九	二、四一〇	二、三二九	二、七三二	六、〇五六	五、九七七	八〇	三三五	三	三三	一六	二	三、九九三	八、八〇七	八、二〇〇
咸鏡南道	咸興郡咸興	三九	六三三	五九二	三、六八四	八、八九六	八、七八四	六	三二	｜	三	三	六	四、〇八二	九、五三二	九、三九三
咸鏡南道	永興郡永興	四三	一〇三	七〇	七一九	一、八二三	一、七六一	七	一九	｜	｜	｜	｜	一六六	一、九四五	一、八二六
咸鏡南道	北青郡新昌	三三	七〇	一九	五九八	一、六五六	一、四〇三	二	六	｜	｜	｜	｜	六三三	一、六六九	一、四四三
咸鏡南道	同郡北青	六四	一三三	一〇四	一、六六一	四、三五〇	三、六〇〇	一	三	｜	｜	｜	｜	一、七三六	四、四六五	三、七〇四
咸鏡南道	洪原郡洪原	五四	七〇	五四	六三一	一、四五五	一、五〇〇	三	三三	｜	｜	｜	｜	六九八	一、五〇五	一、五七四
咸鏡南道	端川郡端川	二〇	三五	三三	八八四	一、八四五	二、二〇三	一	五	｜	｜	｜	｜	九一五	一、八八五	二、二一六
咸鏡	清津府	四五	九七一	七三九	七〇	六六	二二	一〇	一四三	｜	｜	｜	｜	五一二	一、一八〇	七五〇
咸鏡	鏡城郡鏡城	一〇〇	三〇七	二〇三	八二一	二、三三五	二、三三四	一	三	｜	｜	｜	｜	一、〇一三	二、六〇三	二、五六六
咸鏡	同郡羅南	八二	一、三六〇	一、一四四	三六四	七九九	七二三	六三	一三九	二	｜	｜	｜	一、一六八	二、三〇八	一、八五八
咸鏡	慶興郡雄基	五三	八〇	六四	三六五	一、三三七	一、一四五	二	三二	二	｜	｜	｜	四四九	一、四四五	一、二三一

北道																
津城郡	城津	一五五	一六五	二四一	四九〇	一、二六八	一、〇四四	九	三七	—	二	四	六	六六六	一、五九四	一、三三二
吉州郡	吉州	六	三	二〇	九四四	二、三九三	二、三〇二	一	一	—	—	—	—	九五三	二、四五〇	二、三二一
會寧郡	會寧	六二	四七	一三八	八〇四	三、〇四四	二、四四八	三	六六	—	—	—	—	一、一七七	三、五九七	二、七〇四
總計		四一、三九七	七六、八五三	二七、五五六	一六、九六七	四六、九五三	三六、三六四	二、一二六	八、三六六	九三	一九五	四三	二四一	二三〇、四九九	五〇三、九七	四五一、一〇六

以上ノ表ニ示セルカ如ク邦人ノ移住ハ年ヲ逐ヒテ增加シツヽアリ左ニ著名ナル都府ノ梗概ヲ擧クレハ

一京城　李朝五百年ノ帝都ナリ漢城又ハ漢陽ト稱ス人口約卄五萬ヲ有スル朝鮮第一ノ大都會ナリ地形ノ上ヨリ之ヲ觀レハ宛然京都ニ似タリ四圍山岳ヲ以テ廻ラシ、東方ニハ寶藏天鮮ノ諸山峙チ西方ニハ白蓮、仁王山並ヒ聳ヘ北方ニハ三角山重疊シ東南方ニハ南山起立シテ自然ノ城門ヲ爲シ西南ノ一隅僅ニ空濶セリ、漢江其ノ東南ヲ流レ山河景勝ノ地ナリ

京城ニハ朝鮮總督府及多數ノ所屬官署アリ、總督府ハ南山ノ中腹ニ在リテ市ヲ俯瞰ス京城ニ於ケル日鮮人ハ殆ト相雜居セルノ觀アルモ內地人ノ多クハ南山々麓一帶ノ市街及東大門、西大門、南大門

ノ附近ニ密集シ商業ヲ營ムモノ多シ

內地人ノ宗敎ニ付テハ東西本願寺別院、日蓮宗、淨土宗、曹洞宗、眞言宗等各派ノ寺院アリ布敎ニ從事ス基督敎モ明治三十七年五月日本美以敎會ノ設立セラレシヲ始メトシ日本基督敎會、組合敎會、聖公會等敎會ヲ設ケ內地人ノ傳道ニ從事セリ尙ホ朝鮮人ノ宗敎ニ關シテハ第十三章宗敎ノ部ニ讓ル

南大門市場ハ日鮮人間ノ日用品商賣ヲ以テ有名ナリ內地人ノ商業繁榮セル地ヲ本町通（俗ニ泥峴街ト稱ス）ト爲ス

電車ハ東大門外淸凉里ヨリ西大門ヲ經麻浦ニ達シ鐵路ヨリ南大門ニ延ヒ龍山新舊兩市街ニ達シ交通ノ便ヲ助クルコト大ナルモ街衢ハ一般ニ狹隘ニシテ本町通ノ如キハ肩摩轂擊ノ狀態ヲ呈スルヲ以テ道路改築、市區改正ノ要アリ電信、電話、電燈、瓦斯ノ設備ハ旣ニ完成セリ

京城ニハ南山公園、德壽宮、昌德宮、景福宮、關帝廟、パコダ公園、博物館、動物園等ノ名勝地アリ

京城ヨリ各道廳所在地ニ到ル距離ヲ示セハ左ノ如シ

京城各道廳所在地間里程

地名	距離 鐵道	距離 陸路（里 町）	距離 水路（浬）	合計（里）
公州（忠清南道）	八〇、八	六、二八	—	三九、〇三
清州（忠清北道）	八〇、八	四、三〇	—	三七、〇五
光州（全羅南道）	一〇三、九	五五、〇五	—	九七、二一
全州（全羅北道）	一〇三、九	二三、二五	—	六六、〇五
晉州（慶尚南道）	二六八、八	八、二一	五三、〇	一四三、二三
大邱（慶尚北道）	一九六、七	—	—	八〇、〇八
海州（黃海道）	五四、一	二一、一三	—	四三、一四
春川（江原道）	—	二二、〇〇	—	二二、〇〇
平壤（平安南道）	一六四、〇	—	—	六七、〇一
義州（平安北道）	三一一、七	四、三〇	—	一三二、一六
咸興（咸鏡南道）	—	六四、二四	四三、〇	八四、三五
鏡城（咸鏡北道）	—	六〇、一九	二四〇、七	一七四、〇二

一龍山ハ京城ヲ距ル里余、漢江ニ臨ム形勝ノ地ニシテ京龍ノ間ハ電車汽車ノ往來頻繁ナリ、從來龍

山浦ト稱シ漢江ノ舟楫ノ便アリ物貨輻輳ス明治四十三年七月龍山居留民團ハ京城居留民團ト合併セラル近ク駐箚軍司令部、鐵道局ノ移轉ニ因リ頓ニ繁榮ヲ來セリ、京釜、京義兩鐵道線ノ分岐點ニシテ又京元線ノ基點タリ

近時內地人續々移住シ殷賑ニ向フ目下內地人約一萬小學校アリ一千餘ノ兒童ヲ收容ス、金融機關トシテハ百三十及十八銀行ノ出張所アリ

三永登浦　漢江ノ對岸ニ在ル一小驛ニ過キスト雖京釜、京仁線ノ分岐點タルヲ以テ漸次發展ノ途ニ在リ郵便局、監獄署、尋常小學校等ノ設備アリ、附近ヨリ農產物、煉瓦等ヲ產出ス

四仁川　京畿道西端ニ突出セル小半島ニ在リ月尾島、小月尾島、沙島等面前ニ横ハリテ內港ヲ圍ミ八尾島遙ニ外廓ヲ畫キテ外港ヲ爲ス港內水淺クシテ巨船ヲ入ルヽヲ得ス殊ニ潮水ノ干滿甚シクシテ大潮時ニハ其差三十二尺ニ及フ平安、黃海、京畿、忠淸各道ノ貨物ヲ呑吐シ內地各港及滿州要港トノ定期航海アルヲ以テ貿易ハ朝鮮ニ於ケル第一位ヲ占ム

內地人ノ居住スル者一萬千九百〇七人ニ達シ府廳、區裁判所（地方裁判所支部）居留民團、小學校、

女學校、病院等ノ設備アリ電燈、電話、水道等ノ施設亦完備セリ

仁川ヨリ諸要港ニ至ル航程ヲ擧クレハ

港	浬	港	浬	港	浬
至群山	一二二	至神戸	二六一	至大沽	五三五
同木浦	二七〇	同大坂	三八一	同牛莊	四三八
同釜山	四三二	同横濱	一、〇八九	同上海	四九三
同下關	五〇〇	同大連	二八七	同浦汐	一、〇五〇
同長崎	四五九	同芝罘	二七二		

五水原　京城ヲ距ル南卄五哩ニ在リ京釜線ニ沿フ一都府ナリ、水原城ハ往時正祖大王ノ築ク所ニシテ三方繞スニ山ヲ以テシ壘壁ヲ以テ之ヲ抱ク今ヤ殆ト敗頽ニ歸セリト雖蒼龍、八達、華西等ノ遺跡アリ西方一帶ノ地ハ空漠タル平野ニシテ欝蒼タル八達山ノ西潺湲タル西湖ノ汀ヘルアリテ風光雅ナリ此ノ地ニ朝鮮總督府勸業模範場アリ農産物ノ標本ヲ陳列シ種苗家畜ヲ培養シ一般希望者ノ觀覽ヲ許ス其ノ他區裁判所、警察署、農林學校種苗園等アリ目下居住セル內地人一千百五人アリ

六平澤、成歡、鳥致院　共ニ京釜線ニ沿ヒタル一小驛ニ過キサルモ將來農業發展ノ地トシテ囑目セ

ラル平澤附近ハ平野ニシテ米、大豆ノ產出多シ雁、鴨、七面鳥、鶴、雉子等鳥類ニ富ミ狩客ノ遊フモノ多シ成歡ハ日淸戰爭ノ古戰場ニシテ平澤ト共ニ農產地トシテ將來有望ノ地ナリ同地ニハ小學校憲兵分遣所アリ

烏致院ハ忠淸兩道及全羅南道ニ通スル要地ニ在リ附近ノ農產物ノ輻輳スル所ニシテ近時漸次發展ノ途ニ在リ內地人ノ居住セルモノ約七百人ニ上ル烏致院ニハ古來有名ノ市場アリ小學校、憲兵分遣所アリ

七大田　京釜線ニ於ケル大都ノ一ニシテ湖南線ノ分岐點ナリ物貨ノ集散スルコト大邱ニ次ク守備隊區裁判所、警察署、郵便局、小學校、興業會社等ノ設アリ

八淸州、公州、江景　淸州ハ忠淸北道廳ノ所在地ナリ區裁判所(地方裁判所支部)警察署、守備隊アリ近時內地人ノ移住スルモノ多シ

公州ハ忠淸南道廳所在地ニシテ三方山ヲ以テ廠ハレ錦江其ノ北ヲ流ル京釜線ノ芙江驛ニ下車シ輕舟ニ棹シ河ヲ下レハ僅ニ四時間ニシテ達スルヲ得ヘシ地味豐饒ニシテ農產ニ適シ內地人ノ居留者約九

百人ニ及ブ地方裁判所、區裁判所、警察署、小學校等アリ

江景モ亦忠清南道ニ在ル小都府ニシテ錦江ニ臨ミ舟楫ノ便アリ群山トノ交通アルヲ以テ貨物集散シ朝鮮三大市場ノ一トシテ數ヘラル內地人ノ居住スル者約六百人ナリ

九大邱　慶尚北道ノ大都ニシテ京釜線中最大ノ驛ナリ嘗テ府城ノアリシ所ナルカ敗頽シテ今ヤ其ノ跡ヲ留メズ市街ヲ距ル十餘町ニシテ達城公園アリ山頂平坦眺望ニ富ム洛東江近ク流レテ舟楫ノ便アリ以テ釜山ニ達スルヲ得ヘシ

大邱一帶ノ地ハ空漠タル平野ニシテ土壤肥沃農業ニ適ス米、大豆、果樹、棉花、煙草等ヲ其ノ主要ナルモノトス而シテ大邱ハ釜山、京城ノ要路ニ當リ慶尚、全羅、忠清、江原諸道ヲ控ヘ且洛東江水運ノ便アルヲ以テ商業殷昌ナリ大邱ニハ古來有名ノ市二アリ一ハ西門ノ市ト云ヒ他ハ東門ノ市ト云フ前者ハ陰暦二、七ノ兩日ニ開カレ後者ハ四、九ノ兩日ニ開カル市日ニハ附近ヨリ數千ノ鮮人相集合シ雜沓ヲ極ム尚二市ノ外ニ令市アリ舊韓國政府時代ニハ毎年命令ヲ以テ春秋二季ニ五十日間ヲ限リテ開設セシム故ニ此ノ名アリ各道各郡ノ商賈引キモ切レス看者列ヲナス異觀ナリ

內地人ノ數約八千五百ヲ算シ道廳、府廳、控訴院、地方裁判所、區裁判所、守備隊、警察署、居留民團、學校、郵便局、教會等アリ

十密陽、三浪津　密陽ハ慶尙南道ニ在ル一小都ニシテ三方ニ山ヲ負ヒ南方ノ一面遠ク平野ニ連リ凝川溶々トシテ其ノ間ヲ縫ヒテ流ル楡川ヨリ密陽ニ至ル沿岸ノ地風光明媚ノ所少カラス凝川ノ淸流能ク鮎ヲ產ス近時農產地トシテ漸次開發セラレ內地人ノ移住スルモノ多シ三浪津ハ密陽ノ南洛東江ノ東北ニ在リ馬山鐵道線ノ岐ルヽ處ニシテ穀物、果實野菜ノ產地トシテ知ラル

十一馬山　三浪津ヨリ馬山線ニ乘スレハ一時間ナラスシテ馬山ニ達スヘシ馬山ハ慶尙南道ノ南端ニ位シ東ニ丘陵ヲ負ヒ巨濟島ヲ外廓トシテ鎭海灣其ノ前方ニ橫ハリ、水深クシテ天然ノ良港ナリ殊ニ其ノ山水ノ明媚ナル觀者ヲシテ瀨戶內海ニ接セルノ感アラシム海路僅ニ四十浬ニシテ釜山港アルヲ以テ商港トシテ振ハサレトモ軍事上要害ノ地トシテ朝鮮唯一ノ軍港ナリ開港トシテハ明治四十三年ヲ限リ閉鎖セラレタルモ釜山稅關長ノ特許ヲ受ケ又ハ朝鮮開港ニ於テ稅關ノ手續ヲ了シタル帝國船舶ハ特ニ出入スルコトヲ許サレ內地人ノ居住スル者四千六百五十五人ニ及フ府廳、區裁判所（地方

船判所支部）居留民團、小學校、病院、警察署、銀行等アリ

十二釜山　朝鮮ノ南端ニ在ル良港ニシテ一葦帶水ヲ隔テ、對馬ヲ迎ヘ本土ト相對ス東南ハ海水深ク灣入シテ一大港灣ヲ形リ絶影島、冬柏島港口ニ横ハリ天然ノ防壁ヲナシ港內水深クシテ大船巨舶ヲ泊スヘシ、市街ハ龍頭山ヲ中心トシテ東西ニ廣カリ北草梁、釜山鎭ニ到ル釜山ハ早クヨリ內地ト交通アリタル所ナルヲ以テ內地人ノ移住セルモノ多ク殆ト內地市街ヲ見ル感アリ今ハ關釜ノ間ニハ每日一回乃至二回ノ定期航海アリテ鐵道院其ノ任ニ當リ內地朝鮮間ノ聯絡ヲ保チ僅ニ十時間ナラスシテ渡航シ得ヘシ、又釜山ヨリ內地要港朝鮮滿洲諸港及露領浦鹽ニ至ルノ航路アリ

釜山ノ貿易ハ朝鮮內地ノ發展及各港トノ航行頻繁トナルニ從ヒ年々增加シ其貿易高ハ朝鮮諸港中第二位ヲ占ム其ノ輸出品ノ重ナルモノハ米、大豆、鰹節、海苔、魚類、生牛、牛皮、牛骨、砂金等ニシテ輸入品ノ重ナルモノハ木綿、金巾、石油、食鹽、酒、煙草、醬油、燐寸、紡績糸、砂糖其ノ他雜貨類ニシテ其ノ輸出先ハ內地、清國、浦鹽斯德、新嘉坡等ニシテ其ノ輸入地ハ日、清、米、英、露、獨、佛等ヲ主ナルモノトス

宏壯ナル釜山停車場新ニ成リ築港ノ設備着々進行シ關釜聯絡ノ施設益完成ノ域ニ向ヒ内地人ノ移住スル者逐年增加シ人口二萬二千有餘ニ上レリ

釜山ヨリ諸要港ニ至ル航程ヲ擧グレハ

港	浬
至下關	一二二
同横濱	七一三
同長崎	一六二
同木浦	二一〇
同馬山	三九
同群山	三五七
至神戸	三六六
同仁川	四三二
同鎭南浦	五〇〇
同安東縣	五八〇
各港經由	六二七
同大連	六四〇
同城津	四四二
至大坂	三八六
同浦鹽	六四八
同太沽	七五〇
同芝罘	五四〇
同上海	五〇五
同元山	三一八

十三 木浦　全羅南道ノ西南端ニ在ル良港ニシテ附近奇崖島嶼ニ富ミ、風光佳ナリ港内水深ク大船巨船ヲ碇繋スルニ足ル市街ハ諭達山ノ麓ニ在リテ小都ヲ爲シ商業繁榮ナリ榮山江灣ニ往ク沿岸一帶ノ地ハ沃野ニシテ農産物ヲ出ス木浦ト釜山、群山トノ間ニハ定期航路アリ、内地人ノ居住スル者三千四百五十人ニ及ヘリ府廳、區裁判所（地方裁判所支部）、居留民團、學校、警察署、郵便局等アリ

十四群山　木浦ト共ニ南鮮ニ於ケル貿易港ナリ、全羅北道ニ在ル小都ニシテ錦江ノ江口ニ在リ、錦江ハ舟楫ノ便アリテ上流公州、江景ヨリ達スルコトヲ得ヘク全州道路ノ開通アリテ交通ノ便多キヲ以テ附近一帶ノ沃野ヨリ巨額ノ農產物此ノ地ニ輻輳ス釜山經由内地トノ定期航路アリテ著シク發展ノ途ニ在リ目下内地人ノ居住スル者三千六百二十二人ニ及ヒ府廳、區裁判所(地方裁判所支部)、警察署、居留民團、學校等アリ

十五開城　高麗朝四百七十年間ノ帝都ニシテ一ニ松都ト稱ス、京城ノ北十六里ノ處ニ位セル京義線ニ於ケル著名驛ノ一ナリ今ヤ著名ノ古城敗頽ニ歸シ見ルヘキモノナシト雖高麗歷代ノ陵廟城外ノ屏壁古城ヲ覆フ欝蒼タル老樹等ハ徐ニ往時ヲ偲ハシムルモノアリ朝鮮名勝ノ地ナリ

開城ハ高麗燒ノ名產地トシテ知ラルヽモ既ニ其ノ製法ノ傳ハラサルヤ久シ往時高麗朝時代ノ遺器殘陶ヲ見ルニ過キス近時傳ハルモノヽ多クハ壙墓ヲ發掘シテ得タルモノニシテ頗ル高價ナリ又開城ハ人蔘ノ產地トシテ知ラル其ノ產出高ハ每年二萬斤内外、價格約百萬圓ニ達ス其ノ他米穀、野菜、果物、大豆等ヲ產ス内地人ノ居住スル者一千四百十五人アリ區裁判所、警察署、學校、銀行、郵便局

等アリ

十六新幕、沙里院　新幕沙里院共ニ黄海道ニ在リ京義線ノ完成ニ伴ヒ發展シタル新開地ニシテ、新幕ハ薪炭、米穀、大豆等ヲ産出シ新溪地方ノ産出茲ニ集マリ内地商人ノ入リ込ム者少ナカラス學校、警察署、郵便局等アリ内地人六百三十有餘人アリ、沙里院附近一帶ノ地ハ空漠タル沃野ニシテ米穀大豆等ノ農産頗ル多ク興業會社、銀行、學校、郵便局等アリ

十七黄州、兼二浦　黄州ハ京義線ニ沿フ一驛ニ過キスト雖内ハ多數ノ朝鮮人簷軒ヲ列ヘ市場頗ル盛ナリ穀物ノ産アリテ近時邦人ノ移住スル者多シ黄州ハ兼二浦線ノ分岐點ニシテ、兼二浦線ニ投スレハ半時ニシテ兼二浦ニ達スルヲ得、兼二浦ハ鎭南浦ノ南十哩ノ所ニ在ル一港ニシテ航行ノ利アルヲ以テ物貨輻輳ス兼二浦、鎭南浦間ニハ一日數回ノ航行アリ近海ニ於ケル捕魚ハ多ク兼二浦ニ集マリシカ客年中平南線ノ開通ニ因リ平壤鎭南浦間ノ交通便トナリシヲ以テ兼二浦ハ曩日ノ便益ヲ有セサルニ至レリ目下内地人六百二十人アリ學校、警察署、郵便局、鐵道工場等アリ

十八平壤　平壤ハ朝鮮ノ舊都ニシテ箕子及高句麗氏ノ據リシ處ニシテ東南大同江ニ臨ミ北方大城山

ヲ負ヘル頗ル要害ノ地ナリ此地ハ南京城ヘ五十里、北義州ヘ五十三里、東元山ヘ五十二里、西鎭南浦ヘ十六里ノ地ニアリテ京城以北樞要ノ地ニ在リ京義鐵道完成シ大同江舟楫ノ便アルニ加フルニ客年中平南線ノ開通ニ因リ鎭南浦港トノ交通開ケタルヲ以テ平壤ハ北鮮ニ於ケル物貨輻輳ノ中心トナレリ殊ニ平壤附近一帶ハ遠ク茫漠タル平野ニ連ナリ、加フルニ土壤豐沃ニシテ穀物ヲ產出シ平壤米ハ其ノ品質ノ良ヲ以テ名アリ然レトモ此ノ地ハ比較的寒暑ノ差甚シキヲ以テ從來內地人ノ移住スル者少ナカリシカ日露戰爭以來頓ニ其ノ移住ヲ增加セリ

平壤在留內地人戶口表

年次	戶數	人口
明治三十七年末	九〇	三〇三
同三十八年末	五九二	二、〇六四
同三十九年末	一、四四三	四、五三〇
同四十年末	一、七八三	六、一七四

同四十一年末	一、八二三	六、八四九
同四十二年末	二、〇八九	七、四三三
同四十三年末	一、九七七	六、四四三

斯ノ如ク平壌ニ於ケル內地人ハ年年增加シ急遽ノ膨脹ニ由リ西方一帶ノ空地ハ數年ニシテ街衢ヲ爲スニ至レリ主要ナル產物ハ米、大豆、小豆、牛皮等ニシテ近時平壌無烟炭ノ聲價亦漸ク世人ニ認メラル道廳、旅團司令部、府廳、控訴院、地方裁判所、區裁判所、平壌鑛業所、居留民團、學校、病院、警察署、郵便局、銀行、旅館其ノ他電燈、電話、水道等ノ公共的施設完備セリ牡丹臺ハ形勝ノ地トシテ有名ナリ

十九鎭南浦　平壌ヲ距ル四十六里、大同江ノ江口ニ在ル貿易港ナリ、黃海、平安兩道ノ山岳相擁シテ天然ノ防波堤ヲ作リ港內水深ク十五乃至二十尋ヲ有シ幅員一里ニ亘リ波靜ニシテ恰モ湖水ノ如シ大同江舟楫ノ利アルニ加フルニ客年中平南間ノ鐵道開通シタルヲ以テ貨物澁滯ノ虞ナキニ至レリ周圍遶ラスニ山ヲ以テシ飛潑島ハ港ノ東方ニ在ル形勝ノ地ナリ鎭南浦ヨリ仁川、下關ヲ經由シテ坂神

ニ至ルモノト仁川、群山、木浦、釜山ヲ經由シテ達スルモノトノ二航路アリ又清國大連ニ達スル航路アリ安東縣ニ達スル航路アリ其ノ他諸要港間ノ航路アリ此ノ地ヨリ各港ニ至ル距離ヲ擧グレハ左ノ如シ

港	距離
至仁川	二二七浬
同群山	三二四
同木浦	四二七
同釜山	五〇〇
各港經由	五八〇
同營口	四〇〇
同天津	六五〇
至下關	五五六浬
同神戶	七九五
同大阪	八一五
同橫濱	一、一四五
同芝罘	二〇二
同上海	六九〇
至長崎	五一六浬
同安東縣	一二七
同大連	一八〇
同旅順	二二〇
同元山	八〇一
同浦鹽	一、一〇六

鎭南浦ハ日清戰爭前ニ在リテハ戶數二三十ヲ有スル一漁村ニ過キサリシカ日清及日露ノ兩戰役ニ因リ內地人ノ移住スル者著シク增加シ忽チニシテ一要港ト爲ルニ至レリ加フルニ鎭南浦ハ平壤ノ咽喉ニ當リ黃海平安兩道ノ貨物ヲ呑吐スル要路ニ當ルヲ以テ他日築港ノ完成等ニ因リ一層ノ盛況ヲ見ルヘシ

鎭南浦在留內地人累年戶口表

年次	戶數	人口
明治三十七年末	四〇七	一、七八六
同三十八年末	七八九	三、〇〇三
同三十九年末	七六四	二、八八七
同四十年末	七九〇	二、七二九
同四十一年末	七八〇	二、八一六
同四十二年末	八八八	三、一九七
同四十三年末	九九七	三、六九八

府廳、區裁判所（地方裁判所支部）、居留民團、警察署、郵便局、學校等アリ

二十新義州　鴨綠江ノ南沿岸ニ在ル一都府ニシテ東方ハ丘陵ヲ以テ遶ラシ西方ハ一帶ノ平野ニ連リ遙ニ鴨綠江ヲ隔テヽ淸國安東縣ニ相對ス鴨綠江ハ幅員十餘町潮水ノ干滿甚シク其ノ差十七八尺ニ及フト雖能ク巨船大船ヲ容ルヘク舟楫ノ便江上數十里ニ及フヲ以テ貨物ノ集散頻繁ナリ殊ニ京義線ノ

完成セルチ以テ朝鮮内陸トノ交通便利トナリ京城ヨリ三百十一哩、十三時間ニシテ達スヘク釜山ヨリ五百八十五哩、一晝夜ニシテ達スヘシ今ヤ鴨綠江架橋工事落成シ滿鮮チ連結シ安奉線ニ由リテ直ニ哈爾賓ニ達シ更ニ西比利亞線ニ由リテ歐洲ニ到ルヘシ實ニ東亞ヨリ西歐ニ至ルノ旅程ハ最安全ニシテ最短縮セラルヽニ至レリ

新義州ハ北鮮ノ極端ニ在ルヲ以テ寒氣甚シク酷寒ノ際ハ零下二十六度ニ及フコトアリ鴨綠江結氷ノ期ハ毎年十一月ヨリ翌年三月ニ及フ江畔一帶ノ平野ハ沃饒ニシテ耕作ニ適ス近時內地人ノ移住スル者多ク農作、柞蠶ノ業ニ從事スル者少ナカラス

新義州在留內地人累年戶口表

年次	戶數	人口
明治四十年末	五六三	一、四七一
同 四十一年末	五一五	一、五三五
同 四十二年末	六二五	一、七九六

道廳、府廳、警察署、郵便局、居留民團、學校等アリ

二十一元山　元山ハ日本海ニ面セル北鮮唯一ノ貿易港ニシテ葛麻半島ハ虎尾半島ト相擁シテ永興灣ヲ成シ灣内ニハ十數餘ノ島嶼散在シ潮流緩漫ニシテ日本海北部ノ寒流ヲ受クルコト少ナク港内氷結ヲ見ルコト稀ナリ灣内水深クシテ大船巨舶ヲ容ルヘク市街ハ眺德山ノ麓ニ在リ朝鮮東沿岸ハ良港灣ニ乏シキカ故ニ地形上日本海沿岸ニ於ケル貨物並露領ヨリスル貨物ハ此ノ地ニ輻輳ス數年ノ後京元線開通セハ日本海沿岸ニ於ケル貨物及露領ヨリスル貨物ハ釜山、仁川ヲ經由セスシテ直ニ京城及朝鮮内地ニ輸入セラルヘク又内陸ノ貨物ハ直ニ元山ニ出テ各所ニ集散セラルヽニ至ルヘシ元山ヨリ要所ニ至ル距離ヲ示セハ左ノ如シ

至京城（京元線ニヨル）	二七四浬	至清津	二〇五浬	至浦鹽	三二〇浬
同釜山	三一八浬	同下關	三八八		
同城津	一二四	同長崎	四〇六		

元山ヨリ各處ニ通スル道路ハ頗ル不完全ナルヲ以テ貨物ノ集散甚タ緩漫ナリ從テ物價ノ昇騰ヲ免レス又元山近海ハ魚類ニ富ムト雖販路ノ頗ル不利ナルヲ以テ漁業ニ從事スル者少ナシ京元鐵道ノ完成ハ目下ノ急務ナリトス

元山在留內地人累年戶口表

年次	戶數	人口
明治四十年末	九五八	三、六三三
同四十一年末	一、〇二五	三、七八〇
同四十二年末	一、一四三	四、四二八
同四十三年末	一、一七九	四、六二九

府廳、區裁判所(地方裁判所支部)、警察署、郵便局、居留民團、學校、病院、銀行等アリ

二十二城津　元山ノ北方百二十四浬ノ所ニ在ル咸鏡道沿岸ノ小港ニシテ浦鹽斯德ハ近ク百九十六浬ノ所ニ在リ咸鏡道一帶ノ貨物玆ニ輻輳ス輸出品ハ農產物、鑛產物ニシテ其ノ重ナルモノハ大豆、生

牛、銅等ニシテ輸入品ノ重ナルモノハ金巾、木綿、紡績、シーチング等ナリ目下内地人ノ在住スル者約五百六十人アリ

二十三清津　北鮮ニ於ケル要港ノ一ニシテ浦鹽斯德ニ近ク咸鏡北道北方ニ於ケル都府ニシテ北鮮一帶ノ貨物農產物ノ集散地ナルカ故ニ近來急ニ繁榮ヲ加ヘ城津ヲ凌クニ至リ內地人ノ移住スル者二千人ニ垂ントス

清津在留內地人累年戶口表

年次	戶數	人口
明治四十年末	一七八	六二四
同四十一年末	三八九	一、二四六
同四十二年末	四八三	一、七二二
同四十三年末	四七五	一、七〇〇

第三章　地方行政

第一節　道、府郡

朝鮮ハ之ヲ分テ京畿道、忠淸北道、忠淸南道、全羅北道、全羅南道、慶尙北道、慶尙南道、黃海道江原道、平安南道、平安北道、咸鏡南道、咸鏡北道ノ十三道、京城、釜山、馬山、群山、木浦、大邱、仁川、平壤、鎭南浦、義州、元山、淸津ノ十二府及三百十七郡ト爲ス、道ニ道長官、府ニ府尹郡ニ郡守ヲ置キ各區劃內ニ於ケル行政事務ヲ掌ラシム

道、府郡ハ行政區劃トシテハ內地ノ府縣、郡ニ該當シ其ノ機關ノ組織及職務權限等亦大ニ相似タル所アレトモ其ノ著シク相異レル點ヲ擧グレバ警察事務ハ道長官ノ所管外ニシテ此事務ノ爲各道ニ警務部長ヲ置ケルコト國稅ニ關スル事務ハ道長官ノ所管ニシテ之カ爲道ニ財務部長ヲ置ケルコト又府郡ニテハ土地家屋證明事務（內地ノ不動産登記事務）及民事裁判ノ結果ニ依ル强制執行事務（內地ノ執達吏ノ事務）ノ一部ヲ取扱ヘルコト是ナリ

第二節　面

各府縣ノ下ニ面ヲ置ク其ノ數四千三百五十二トス

面ハ朝鮮ニ於ケル最下級ノ行政區劃タルノ點ニ於テハ內地ノ市町村ニ匹敵スレトモ市町村ノ如キ自治團體ニハ非ス

面ニハ面長公錢領收員、面書記、洞里長等ヲ置ケリ面長ハ道長官之ヲ任命シ公錢領收員ハ面長ノ推薦ニ依リ府尹又ハ郡守之ヲ認許シ面書記ハ面長之ヲ任命シ洞里長ハ府尹又ハ郡守ノ認可ヲ得テ面長之ヲ任命ス

面長ハ面事務ヲ統轄シ公錢領收員ハ國稅地方費ノ徵收及面經費ノ出納ヲ掌リ面書記ハ面長ノ事務ヲ補助シ洞里長ハ洞里（內地ノ市町村ノ區ニ類ス）ニ關スル事務ニ付面長ヲ補助ス

面吏員手當及事務執行ニ要スル費用ハ面ノ負擔ニシテ其ノ支出竝負擔ノ方法ハ道長官ノ認可ヲ得テ府尹又ハ郡守之ヲ定ムルモノトス各地方ノ實況ニ依レハ面經費ノ財源ハ財產收入、國稅地方費徵收ニ關スル交付金其ノ他ノ雜收入ニ依リ仍不足アルトキハ面費ヲ賦課スルノ方法ナルモ實際諸收入ノ

ミヲ以テ支辨シ得ルモノナク概ネ若干ノ賦課ヲ爲シツヽアリ其ノ賦課目ハ戸數割、家屋割及結數割（地税附加税）等ナリ

第三節　公共團體

一　居留民團

始メテ居留民團ヲ設立シタルハ明治三十九年八月ニシテ京城、仁川、釜山、鎭南浦、平壤、群山、木浦ニ於ケルモノ即チ是ナリ同年馬山、大邱亦相次テ之ヲ設置ス其ノ後明治四十一年二月新義州ニ於テ之カ設置ヲ見タリ

民團ノ重ナル事業ハ教育、衞生ニシテ土木之レニ亞キ警備、基地、火葬場ノ如キモ其ノ經營ニ係レリ左ニ本年度ニ於ケル各民團ノ歳入出豫算ヲ掲記スヘシ

	歳入ノ部			歳出ノ部		
	經常部	臨時部	合計	經常部	臨時部	合計
京城	三一二、八二六	一〇、一五〇	三二二、九七六	二九五、五三六	三一、四四〇	三二六、九七六

仁川	一〇一、二二四	一、四〇三	一〇二、六二七	七九、七〇三	二二、九二四	一〇二、六二七
釜山	二四五、三三三	八八三、四一八	一、一二八、七五一	一八八、七一〇	六八三、七四〇	八七一、四五〇
馬山	三九、五二七	四、五二〇	四四、〇四七	三一、八五二	一二、一九五	四四、〇四七
鎭南浦	二二、四八二	四、六八四	二七、一六六	二四、〇五四	三、一一二	二七、一六六
平壤	六七、八二九	一五、七七二	八三、六一一	四六、八二七	三六、七三八	八三、五六五
群山	三三、一八八	八、一六〇	四一、三四八	二九、九六九	一一、三七九	四一、三四八
木浦	三六、八六一	三七、三七二	七四、二三三	三一、七二四	四二、五〇九	七四、二三三
元山	六〇、四七三	三、六二八	六四、一〇一	五四、七二九	九、三七二	六四、一〇一
大邱	三三、八九一	一、五〇〇	三五、三九一	三四、九一六	四七五	三五、三九一
新義州	一二、四一三	四、八四一	一七、二五四	一二、〇〇四	五、二五〇	一七、二五四
合計	九七[illegible]、〇五七	九七五、四四八	一、九四五、五〇五	八三〇、〇二四	八五八、一三四	一、六八八、一五八

二　學校組合及日本人會

學校組合及日本人會ハ居留民團區域以外ノ地ニ集團セル内地人ニ於テ組織シ教育、衛生、土木其ノ他公共事務ヲ處理スルヲ以テ目的トス就中日本人會ハ漸次其組織ヲ學校組合ニ變更シ現存スルモノ僅ニ十八ニ過ギス左ニ其ノ概況ヲ擧クヘシ

（イ）學校組合

學校組合道別調　四十四年九月現在

道名	組合數	戶數	人口
京畿道	七	一、〇一二	三、六八七
忠清北道	八	五六一	一、七一四
忠清南道	一五	六五四	二、〇五九
全羅北道	八	二七七	七三二
全羅南道	一一	九五三	二、八三四
慶尚北道	一五	九五八	二、九三六
慶尚南道	三一	二、八九四	九、九七五
黃海道	七	一、〇八二	三、一〇〇
平安南道	四	三四一	一、〇六三
平安北道	一〇	八二八	二、三四三
江原道	六	四〇三	九五六
咸鏡南道	六	四六六	一、三〇一

學校組合歲入出豫算　四十四年度

道名	歲入	歲出
京畿道	円 七、七五九	円 七、七五九
忠清北道	九、九六一	九、九五一
忠清南道	四、二五八	四、二五八
全羅北道	四、七一七	四、七一七
全羅南道	一六、八〇〇	一六、八〇〇
慶尚北道	一七、八四五	一七、八四五
慶尚南道	四四、七九六	四四、七九六
黃海道	一三、三四四	一三、三四四
平安南道	四、七六九	四、七六六
平安北道	一六、〇〇五	一六、〇〇五
江原道	五、一七〇	五、一七〇
咸鏡南道	五、四一四	五、四一四

道名	會數	戶數	人口
咸鏡北道	三	一、四二七	四、七七一
合計	一三一	一一、八五六	三、七四七

備考　戶數、人口ハ本年三月末調

（ロ）日本人會

日本人會道別調　四十四年九月現在

道名	會數	戶數	人口
京畿道	三	一〇八	三五五
忠清南道	五	一、四四〇	五、〇一四
忠清北道	一	五四	一六九
全羅南道	二	四七七	一、五〇〇
全羅北道	一	五〇二	一、六四二
黃海道	二	二三七	六一〇
咸鏡南道	一	二九一	一、二七九
咸鏡北道	三	六七七	二、〇二二
合計	一八	三、七八六	一二、五九一

道名	歲入	歲出
咸鏡北道	二四、三〇一	二四、三〇一
合計	一七五、一三九	五七五、一二六

日本人會歲入出豫算　四十四年度

道名	歲入	歲出
	円	円
京畿道	二、四一七	二、四一七
忠清南道	二九、三六〇	二九、三六〇
忠清北道	一、〇五五	一、〇五五
全羅南道	一三、三三四	一三、三三四
全羅北道	六、六五九	六、六五九
黃海道	三、四九〇	三、四九〇
咸鏡南道	七、四一七	七、四一七
咸鏡北道	一四、四三二	一四、四三二
合計	七八、一六四	七八、一六四

三　水利組合

朝鮮ニ於ケル水利組合ハ明治三十九年三月度支部令第三號水利組合條例ニ依リ設立セルモノニシテ其ノ目的土地ノ灌漑疏鑿開拓保護ニ在リ組合ノ最モ早ク設立セラレタルハ全州ノ平野ニシテ實ニ朝鮮全土ヲ通シ組合總數ノ七分ノ五ヲ占メリ組合ノ現狀ハ尙未タ微々トシテ振ハサルモ將來地方ノ發達ニ伴ヒ漸次勃興ノ兆アリ左ニ其ノ槪況ヲ擧クヘシ

水利組合一覽　　　　明治四十四年十月十日調

組合名	事務所々在地	設立年月日 規約認可年月日	起債金額	組合區域	目的
沃溝西部	全羅北道群山府	明治四十一年十二月八日 明治四十三年二月八日	—	全羅北道群山府米面定面及西面内ニテオ堤又ハ船堤ノ灌漑ヲ受クル地域	一、貯水池及灌漑水路ノ改善浚渫修補 二、防潮堤及樋管ノ築造補修 三、其他水利ニ必要ナル施設
臨	全羅北道群山府	明治四十三年二月一日 明治四十二年十一	二〇〇、〇〇〇円	全羅北道益山郡西一面十一里、北一面五里、臨陂郡南一面八	一、貯水池及水路ノ築造

益		月二十二日		里、東二面四里、東二面三里	二、其他水利ニ必要ナル施設
密陽	慶尚南道密陽郡府内面駕谷洞	明治四十三年二月五日 明治四十三年四月六日	一〇〇、〇〇〇	慶尚南道密陽郡府内面駕谷洞及南面禮林洞ヨリ金洞ニ至ル一帯ノ土地	一、水利ヲ圖ル爲疏鑿開拓植林ヲ爲スコト 二、水害ヲ豫防スル爲沙防築堤ヲ爲スコト
連山	忠淸南道連山郡夫人處面馬九坪	明治四十三年三月一日 明治四十三年四月十五日	四五、五〇〇	忠淸南道連山郡夫人處面十一里、赤寺谷面三里	一、水利ヲ圖ル爲疏鑿開拓植林ヲ爲スコト 二、水害ヲ豫防スル爲沙防築堤ヲ爲スコト 三、其他水利ニ必要ナル施設
全益	全羅北道益山郡大場村	明治四十三年一月二十四日 明治四十三年三月十三日	一五、〇〇〇	全羅北道全州郡紆西面五里、益山郡春浦面八里、東面六里	一、紆西面犢走項ノ水路ヲ改修シ其區域内ノ灌漑水路ヲ完成スルコト 二、前項ノ外之ニ隨伴セル必要ナル施設ヲ爲スコト

臨益南部	全羅北道 群山府	明治四十二年十二月十四日 明治四十三年二月二十一日	—	全羅北道臨陂郡、南二面十里、南四面四里、益山郡南一面十四里、南二面十八里、西一面三里	一、萬頃江上流分水設備及灌漑水路ノ新設 二、防潮堤及樋管ノ築造修補 三、其他水利ニ必要ナル施設
臨沃	全羅北道 群山府	明治四十四年四月二十日 明治四十四年八月二十一日	—	全羅北道臨陂郡南四面十一里、南三面四里、西三面十二里、西四面八里、群山府東一面六里、朴面十八里、長面十里、風面九里、北面九里、定面一里、西面三里	一、水路ノ堀鑿及濬水 二、閘門新設及防潮堤ノ修築 三、其他水利ニ必要ナル施設

第四節　地方費

朝鮮ノ國情民度ハ固ヨリ未タ完全ナル自治制度ヲ施行スルニ適セスト雖地方的公共事業ノ發展ヲ促進スルノ急ナルモノアリ之ヲ擧テ國家ノ施設ニ俟ツハ國家財政ノ許ササル所ナリ仍テ隆熙三年（明治四十二年）四月舊韓國法律第十二號地方費法ヲ發布シ地方費ヲ設定シ各道ヲシテ其ノ經濟ニ依リ

地方適切ノ公共事業ヲ經營セシムルコトトセリ

一管理

地方費ハ韓國時代ニ於テハ内部度支部兩大臣監督ノ下ニ觀察使之ヲ管理シタリシカ併合後ハ總督監督ノ下ニ道長官之ヲ管理スルコト、ナレリ

二財源

地方費ノ財源ハ地方費、所屬財產收入、地方費事業收入、地方費賦課金、國庫補助金等ニシテ地方費財產收入ハ地方財產ノ整理轉屬ヲ了セサルカ爲、地方費事業收入ハ事業ノ收益ヲ見ルニ至ラサルカ故ニ未タ言フニ足ルモノナシ賦課金ノ課目課率納期其ノ他賦課ニ關シ必要ナル規定ハ總督ノ認可ヲ得テ道長官之ヲ定ム賦課金ノ種目ハ從來地方ニ於テ徵收シタル諸稅中ヨリ之ヲ選定シ人民ヲシテ新負擔ノ痛苦ヲ加ヘサラシメムコトヲ期セリ

現今地方費賦課金ノ種類ハ地稅附加稅、屠場稅(屠畜稅)市場稅、土地家屋所有權取得稅抵當權取得稅ニシテ道ニ依リ其ニ三ヲ缺クモノアリ

（イ）地税附加税ハ國税タル地税ニ附加シ平安南北、咸鏡南北ノ四道ハ本税百分ノ十其ノ他ハ各本税百分ノ五ヲ本税ト同時ニ年二期ニ徴收ス

（ロ）屠場税（屠畜税）ハ屠場營業者ニ對シ屠畜數ニ應シテ毎月之ヲ賦課徴收ス一般ニ屠牛ニ對シテノミ之ヲ賦課スルモ道ニ由リテハ屠豚、屠羊ニ對シテモ之ヲ賦課セルモノアリ其税率ハ屠牛一頭ニ付一圓乃至一圓九十錢屠豚一頭ニ付拾錢乃至二拾錢屠羊一頭ニ付貳拾錢ニシテ京畿道中京城府ハ屠場官營ニシテ民設ノモノ存セサリシカ爲屠畜税トシテ屠殺依頼者ヨリ之ヲ徴收ス課率ハ牛一頭ニ付一圓豚一頭ニ付二十錢ナリ

（ハ）市場税ハ京畿道京城府區域ハ市場ノ等級ヲ定メ月税トシテ市場管理者ニ之ヲ賦課シ其ノ他ハ放賣價格百分ノ一ヲ税率トシ其ノ放賣者ニ賦課シ常設市場ハ月税常設タラサルモノハ開市毎ニ隨時之ヲ賦課ス但シ咸鏡北道ニテハ市場税ヲ賦課セス

（ニ）土地家屋所有權取得税

（ホ）抵當權取得税

ノ二ハ京畿道京城府內ニ於テノミ賦課スルモノニシテ土地家屋ノ所有權所得稅ハ土地價格ノ千分ノ四抵當權取得稅ハ債權金額千分ノ二ノ課率トシ所有權抵當權ノ取得者ニ賦課ス

三事　業

地方費ヲ以テ支辨スヘキ事業ハ左ノ如シ

一、廳舍ノ建築及修繕ニ關スル經費

二、土木ニ關スル經費

三、衞生病院救恤及慈善ニ關スル經費

四、勸業ニ關スル經費

五、教育及學藝ニ關スル經費

各號ノ外ニ法令ニ依リテ地方費ノ支辨ニ屬スル經費及公共上必要ナル事業ニ關スル補助

(イ)土　木

三等道路ノ維持修繕ニ付テハ國費ノ補助ヲ得テ之ヲ施行シ關係部落ノ負擔ヲ以テスル等外道路

ノ維持修繕ニ付テハ地方費ハ之ニ對シテ補助ヲ爲スコトヲ得

（ロ）衛　生

衛生ニ關スル事業ハ種痘、種痘認可員ノ講習、淸潔法ノ施行、共同井戸、共同便所ノ設置及屠獸檢査等ナリ

（ハ）救　恤

救恤ノ事業ハ災民救助、窮民救助、棄兒ノ收容、行旅病人ノ救護取扱等ニシテ其ノ重ナルモノハ災民救助トス

地方費ノ財源ハ未タ豐富ナラサルヲ以テ救恤事業ノ爲ニ多クノ經費ヲ支出シ能ハスト雖少クトモ歲入賦課金總額ノ百分ノ一ハ之ヲ豫算ニ計上ス

罹災民ニ對スル救恤ハ普通ノ場合ニ於テハ前記地方費ノ支辨ニ依ルト雖被害ノ程度大ナルカ又ハ其ノ範圍廣キニ亘レル災害ニ就テハ國費ヨリ之ヲ支辨ス

（ニ）勸　業

勸業ハ模範農場(農事試驗場、苗圃、試作田、採種田、模範田)産業講習所(蠶業傳習所、蠶業講習所)農事巡回敎師ノ設置、農蠶業講話、養蠶機業傳習、米麥種畜牛、漁業ノ改良、貝類養殖場、水産製造、物産陳列場ノ設置竝品評會ノ開催及諸調査等ニシテ國費及臨時恩賜金ノ施設ト相俟テ之ヲ經營ス

(ホ)敎　育

敎育事業ハ實業學校ノ設置、敎育講習會開催等ニシテ實業學校ハ一二ノ道ヲ除ケハ悉ク之レカ設ケアリ普通學校ハ未タ地方費ノ經營ニ係ルモノナシ

(ヘ)補助奬勵

以上直營事業ノ外補助事業トシテハ土木、勸業、敎育、衞生、警備、奬勵事業ハ勸業、敎育ニシテ即チ府郡面負擔道路ノ改築修理、公私立學校補助等ヲ包含ス

地方費賦課金課目及課率（四十四年十二月十日調）

道名＼課目	地税附加税	市場税	屠場（畜）税	土地家屋所有權所得税	抵當權取得税
京畿道	本税百分ノ五（但京城府ヲ除ク）	放賣價格百分ノ一（但京城府ハ左ノ課率ニヨル　一等地月税 金百七十五円　二等地同 金百二十五円　三等地同 金七十五円　四等地同 金四十円　五等地同 金三十円）	京城府ハ屠（牛一頭一円　豚同二十錢）済税トシ其ノ他（牛同一円　豚同二十錢　羊同二十錢）	土地家屋ノ價格千分ノ四（但京城府ニ限ル）	債權金額千分ノ二（但京城府ニ限ル）
忠清北道	本税百分ノ五	放賣價格百分ノ一	牛　一圓五十錢		
忠清南道	本税百分ノ五	放賣價格百分ノ一	牛　一圓　豚　十錢		
全羅北道	本税百分ノ五	放賣價格百分ノ一	牛　一圓		
全羅南道	本税百分ノ五	放賣價格百分ノ一	牛　一圓		
慶尚北道	本税百分ノ五	放賣價格百分ノ一	牛　一圓		
慶尚南道	本税百分ノ五	放賣價格百分ノ一	牛　一圓廿五錢		
黄海道	本税百分ノ五	放賣價格百分ノ一	牛　一圓五十錢　豚　二十錢		
江原道	本税百分ノ五	放賣價格百分ノ一	牛　一圓　豚　十錢		

道名	税率
平安南道	本税百分ノ十
平安北道	本税百分ノ十
咸鏡南道	本税百分ノ十
咸鏡北道	本税百分ノ十

種別	金額
牛	一圓二十錢
豚	二十錢
牛	一圓五十錢
豚	二十錢
牛	一圓五十錢
豚	二十錢
牛	一圓五十錢
豚	十錢

明治四十四年度地方費賦課金負擔表　四十四年十二月十日現在

道名	賦課金	戸數	人口	負擔額 平均一戸ニ付	負擔額 平均一人ニ付
	円	戸	人	円	円
京畿道	八八、六六六	二九六、五四〇	一、四一六、一〇六	〇・二九六	〇・〇〇六
忠清北道	三二、三一一	一二三、六七三	五八〇、七八九	〇・三八〇	〇・〇五六
忠清南道	六一、九二九	一九五、七六五	八九五、五四六	〇・三一六	〇・〇六九
全羅北道	四九、八〇三	二〇五、七九九	九六二、五八一	〇・二四〇	〇・〇五一
全羅南道	六七、六六四	三二九、七五四	一、五八〇、八九一	〇・二〇六	〇・〇四二
慶尚北道	八五、四七二	三三三、八六三	一、六二四、五六九	〇・二五六	〇・〇四五
慶尚南道	六五、三五〇	二九七、一〇三	一、四四一、六五一	〇・二一七	〇・〇四五

黃海道	五二、九二四	二二二、一〇二	九九〇、八八八	〇・二三八	〇・〇五三
平安南道	四四、八九二	一八七、三九一	八九二、三六八	〇・二三九	〇・〇五〇
平安北道	二六、一一一	一八二、一四〇	九七九、六〇二	〇・一四三	〇・〇二六
江原道	一四、四五五	一六六、七二二	八三三、〇七四	〇・八六七	〇・〇一七
咸鏡南道	二一、〇〇〇	一七六、四七一	九一三、五一一	〇・一一八	〇・〇二三
咸鏡北道	一〇、七〇〇	七四、七八一	四二七、六四二	〇・一三九	〇・〇二五
合計	六二一、二七七	二、七九二、一〇五	一三、五三九、二一八	〇・二二三	〇・〇四五

第五節　臨時恩賜金

日韓併合ノ成ルヤ民力ノ休養ト共ニ惠恤撫育ノ聖旨ヲ照ニスル爲國帑一千七百三十九萬八千圓ヲ支出シ之ヲ十三道三百二十有餘ノ府郡ニ配付シ以テ士民ノ授產敎育及凶歉ノ救濟ニ充テシム而シテ其ノ配付額ハ京城府百萬圓其ノ他ノ府郡ハ平均五萬圓內二萬五千圓ハ平均割殘額二萬五千圓ハ人口割ヲ以テ之ヲ定ムルコトヽシ明治四十三年十月八日告示ヲ以テ公表シ且道府郡ニ對シ臨時恩賜金事業經理ノ方針ヲ訓令シ更ニ府令ヲ以テ之レカ管理規則ヲ發表セリ

臨時恩賜金ハ五分利公債ヲ以テ下賜セラレタルカ故ニ年々五分ノ利子ヲ生シ一年ノ利子總額八十六萬九千九百圓ニ上リ朝鮮全道ノ地方費賦課金總額（四十四年六月一日現在）ヲ超過スルコト二十五萬五千三百餘圓其ノ地方費賦課金總額一、〇〇〇ニ對スル比例ハ一、四一五餘ニ當レリ而シテ内授産費ニ充ツヘキモノ五十二萬一千九百四十圓教育費ニ充ツヘキモノ二十六萬九千七百圓凶歉救濟費ニ充ツヘキモノ八萬六千九百九十圓ニシテ之ヲ各道別ニ觀レハ授産費一萬六千六百餘圓乃至七萬九千百餘圓教育費八千三百餘圓乃至三萬九千五百餘圓凶歉救濟費二千七百八十圓乃至一萬三千百餘圓ナリ左ニ其ノ事業ノ梗概ヲ記スベシ

一 授産事業

授産事業ハ先ツ兩班儒生ノ如キ恒産ナキ者ニ對シ産業ヲ授ケ之ヲ惠恤スルヲ第一ノ目的トシ而シテ其ノ經營又ハ補助スヘキ事業ハ地方ニ於テ既ニ素地アルモノ即チ漉紙及養蠶等ノ如キ經營最モ容易ニシテ奏功確實縱令輕微ナルモノト雖據テ以テ糊口ノ資ト爲スニ足ルヘキモノヲ撰擇セシムルノ方針ヲ執レリ玆ニ於テ各道ハ管內各府郡ノ意見ヲ徵シ更ニ之ヲ審査シ且朝鮮總督ノ認可ヲ受クルコト

トセリ今各道ヲ通シ其ノ主要ナルモノニ就キ概括シテ之ヲ擧クレハ養蠶ニ關スル講、傳習所其ノ他百十六箇所、機業傳習所五十六箇所乃至七十四箇所（何箇所乃至何箇所トアルハ認可當時ノ事業經理方法ニ依リ茲ニ揭記セルニ依ルモノニシテ道長官ハ實質上此ノ範圍內ニ於テ適宜按排スヘキモノトス以下何箇所乃至何箇所何人乃至何人トアルモノ亦同シ）蠶莚繩叺、紙、麻等ノ製造傳習所十四箇所計百八十六箇所乃至二百四箇所、講、傳習ヲ公私ノ施設ニ委託スルモノ蠶業十六箇所、機業六箇所農業一箇所、繩叺製造二箇所、製紙二箇所、漁業四箇所、海苔製造一箇所計三十二箇所、別ニ傳習所ヲ設ケサルモノ稻扱傳習百箇所、莚織繩叺傳習十九箇所乃至五十七箇所、海苔製造傳習一箇所、乾鰮製造法傳習二箇所、造船傳習四箇所計百二十六箇所、種牝牡牛種豚ノ配付又ハ預託千三十八頭、種苗場、桑園二百二十五箇所、模範田監督田ノ指定四十府郡、漁業奬勵四十五府郡等ニシテ其ノ他蠶絲機業、製紙、綠肥、水利事業ノ補助、車輛、種鷄、蠶種、蠶具、製紙、機織、桑、果樹、楮、桐苗等ノ配付ヲ爲ス以上諸種ノ事業ニ要スル職員（委託傳習所ヲ除ク）及巡回敎師ノ員數合計二百四十四人、講、傳習生及委託講、傳習生ノ數合計五千八百六十九人乃至七千九人（但シ稚蠶共同飼育者等ヲ含マス）ノ多キニ達ス而シテ之ニ要スル設備及器具、機械ノ費用、職員ノ俸給、旅費及講、傳習生ニ對スル食費補給、

蠶種、桑苗其ノ他修業生ニ給與スル諸器具、原料等ノ費用ヲ積算スルトキハ到底現時ニ於ケル朝鮮人民ノ資力ノミヲ以テシテハ能ク之ヲ支辨シ得ヘキ所ニアラサルナリ

二　教育事業

教育事業ニ在リテハ力メテ資金ヲ基礎トシ鄕校財產其ノ他ノ收入ヲ加ヘ先ツ普通學校ヲ設立セシメ基礎確實ニシテ永續ノ見込アルモノヲ撰ヒ若シ俄カニ此ノ如キ學校ヲ設立シ難キ場合若ハ既設ノ學校アリテ新ニ設立ヲ必要トセサル場合ニ在リテハ他ニ存スル私立學校ヲ補助シ漸次ニ普通學校ト同一ノ程度ニ進マシムルコト、セリ臨時恩賜金ノ補助ヲ與フル學校ハ各道ヲ通シテ總數三百四十四校ニシテ內公立普通學校二百二十校私立普通學校八十九校私立學校二十八校ニシテ公立普通學校中實業補習學校ヲ附設スルモノ七校アリ而シテ道ニ依リ補助費ノ一部ヲ割キ公立普通學校職員ヲ增置シ內若干名ヲ指定シテ巡回敎師ト爲シ絕ヘス其ノ府郡內ニ於ケル學校及書房ヲ巡回指導シ以テ之カ改善ノ實ヲ擧ケシムルノ計畫ヲ爲セルモノアリ

三　凶歉救濟事業

凶歉ノ救濟ハ總テ萬已ムヲ得サル場合ニ之ヲ行ヒ救濟方法ハ力メテ生業ヲ扶助シ成ルヘク其ノ效果ヲ確實ニスルノ方針ヲ擇ヘリ

道ニ依リテハ救濟金支出ノ都度其ノ方法ヲ定メ認可ヲ經テ施行スヘシト定メタルモノアリト雖多クハ豫メ種穀、農具、食糧給與ノ方法ヲ立テ中ニハ醫藥、家屋料ノ給與及被服貸與ノ方途ヲモ定メタルモノアリ

惟フニ朝鮮開發ノ手段トシテ生業ノ扶助及敎育ノ普及ヲ圖ルハ其ノ最先ノ急務ニ屬スルヤ勿論ニシテ國費ヲ以テ是等ノ事業ニ投セラルル所ノ經費ハ固ヨリ尠少ニアラスト雖國費事業ハ必シモ細民救濟ニノミ專ナル能ハス臨時恩賜金ノ下付ニ依リ朝鮮ニ於ケル下層人民ハ實ニ枯草雨ニ遇ヒタル感アルヘキハ言ヲ須非サル所トス而シテ以上ノ事業ハ將來永久ニ繼續サルル所ナルヲ以テ臨時恩賜金ノ效果ハ朝鮮ノ將來ニ對シ實ニ測リ知ルヘカラサルモノアリ積年政弊ノ餘孼ヲ受ケテ困頓業ヲ失ヒ流離產ヲ傾ケタル各道地方民衆ハ今ヤ　聖德ノ洽キニ感泣シ往年ニ對比シテ當ニ隔世ノ想ヲ爲シツツアリ

臨時恩賜金及利子各道別調

道名	配與臨時恩賜金	一年度分利子	授産費	教育費	凶歉救濟費
	円	円	円	円	円
京畿道	二、六三七、〇〇〇	一三一、八五〇	七九、一一〇	三九、五五五	一三、一八五
忠清北道	七九四、〇〇〇	三九、七〇〇	二三、八二〇	一一、九一〇	三、九七〇
忠清南道	一、四八九、〇〇〇	七四、四五〇	四四、六七〇	二二、三三五	七、四四五
全羅北道	一、三一二、〇〇〇	六五、六〇〇	三九、三六〇	一九、六八〇	六、五六〇
全羅南道	一、六九四、〇〇〇	八四、七〇〇	五〇、八二〇	二五、四一〇	八、四七〇
慶尚北道	二、〇一三、〇〇〇	一〇〇、六五〇	六〇、三九〇	三〇、一九五	一〇、〇六五
慶尚南道	一、六〇六、〇〇〇	八〇、三〇〇	四八、一八〇	二四、〇九〇	八、〇三〇
黄海道	一、〇九四、〇〇〇	五四、七〇〇	三二、八二〇	一六、四一〇	五、四七〇
平安南道	一、〇四六、〇〇〇	五二、三〇〇	三一、三八〇	一五、六九〇	五、二三〇
平安北道	一、一四九、〇〇〇	五七、四五〇	三四、四七〇	一七、二三五	五、七四五
江原道	一、一二五、〇〇〇	五六、二五〇	三三、七五〇	一六、八七五	五、六二五
咸鏡南道	八八三、〇〇〇	四四、一五〇	二六、四九〇	一三、二四五	四、四一五
咸鏡北道	五五六、〇〇〇	二七、八〇〇	一六、六八〇	八、三四〇	二、七八〇
合計	一七、三九八、〇〇〇	八六九、九〇〇	五二一、九四〇	二六〇、九七〇	八六、九九〇

第六節　濟生院

濟生院ハ明治四十四年六月始メテ之ヲ設立シ孤兒ノ養育、盲啞者ノ教育及瘋癲者其ノ他病者ノ救療ヲ爲スヲ以テ目的トス基本財産ハ臨時恩賜金五十萬圓及寄附金ニシテ經常費ハ基本財産ヨリ生スル收入及國庫補助金竝李王家其他ノ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ本院ニ養育部、盲啞部及瘋癲部ヲ置ク養育部ハ京城西大門外元崇義廟ニ在リ元京城孤兒院ヲ引繼キ明治四十四年九月一日ヨリ其ノ事務ヲ開始セリ同年十一月末現在孤兒總數ハ八十六名ナリ盲啞部及瘋癲部ハ目下準備中ニシテ未タ開設ノ機運ニ至ラス左ニ四十四年度(自八月至三月)ノ歳入出豫算ヲ掲ク

歳入（円）			
基本財産繰入	利子收入	寄附金	計
三九、〇〇〇	二五、八三三	五、〇〇〇	六九、八三三

歳出（円）								
俸給	廳費	旅費	雜給雜費	修繕費	教養及救療費	新營及設備費	豫備費	計
八、七四〇	二、三九〇	二、三九〇	三、九一五	三四六	一〇、九五二	三五、六八六	六、四一八	六九、八三三

第七節　土地家屋證明

舊韓國ニ於テハ不動産上ノ權利ノ移轉又ハ設定ヲ爲シタル場合ニ於テハ古昔ノ慣習上文記又ハ文券ト稱スル私署證書ノ引渡ニ依リテ以テ之ヲ證明スルノ外他ニ何等ノ方法ナカリシカ光武十年(明治三十九年)十二月ニ至リ勅令第六十五號ヲ以テ土地家屋證明規則ノ發布ヲ見ルニ至ル之レ蓋シ韓國ニ於ケル不動産上ノ權利ノ移轉、設定、保存行爲ヲ確保スルニ至リタル規定ノ嚆矢ナリ此規定ハ契約當事者ノ申請ニ因リ其双方又一方カ韓國人ナル場合ニ於テ其ノ契約ノ目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル府尹、郡守ヲシテ其ノ契約事項ヲ確保スルノ方法トシテ其ノ契約書ノ末尾ニ證明ヲ爲サシムルコトトシ其ノ效力トシテハ其ノ證明ヲ受ケタル契約書ハ完全ナル證據トナルモノニシテ例ヘハ典當證明ノ如キハ其ノ債務者カ期限內ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ典當執行規則ニ依リ其ノ擔保物件ノ上ニ權利ノ執行ヲ爲スノ特權ヲ有セシメタリ而シテ韓國內ニ於ケル不動産上ノ權利ノ得喪等ニ關シテハ本令ニ依ルモノノ外統監府令ヲ以テ土地建物證明規則、土地建物所有權證明規則、土地建物ノ典當執行ニ關スル規定ヲ發布シ其契約當事者ノ双方カ韓國人ニアラサル場合及其ノ一方カ韓國人ニシテ韓國勅令ニ依リ府尹郡守ノ證明ヲ受ケタルモノノ査證ニ關シ事項ヲ規定シ其ノ證明

手續及典當執行ニ關シテハ韓國勅令ニ依ル證明令規ヲ準用スルコトトナセリト雖其ノ職務ハ理事官ノ權限ニ屬セシメタルカ故ニ契約當事者ノ如何ニ依リ其ノ證明機關ヲ異ニセシカ統監府ノ設置ニ依リ理事官廢止ノ結果自然其ノ職務ニ屬セシ證明事務ハ韓國勅令ニ依ル證明事務ト共ニ其ノ目的物件ノ所在地タル府郡ニ新ニ配置セラレタル府尹郡守ノ權限ニ屬シ玆ニ證明機關ノ統一ヲ計ルヲ得タリ證明令規實施後ノ傾向ヲ見ルニ漸次之カ法令ノ周知ト共ニ年月ヲ逐ヒ申請件數ノ增加ヲ來タセシカ爾來新思想ノ普及ニ伴ヒ權利觀念ノ向上ヲ來タシ各般ノ權利關係亦漸次複雜トナリ加フルニ併合後着々新政ノ實施ニ依リ內地人トノ關係亦一段ノ密接ヲ加ヘ殊ニ併合後國內一般ニ平靜ニシテ內地人投資者ノ增加ニ連レテ經濟上大ニ活氣ヲ呈スルニ至リタルカ爲本年ニ於ケル證明件數ハ前年ニ比シ頗ル激增シタルヲ見ル今本年上半期ニ於ケル取扱件數ヲ前年同期間中ノ取扱數ニ比較スルニ件數ニ於テ四割六分價格又ハ債權額ニ於テ八割手數料ニ於テ四割七分ノ增加ヲ來タシタルモノニシテ其ノ詳細左表ノ如シ

	明治四十三年上半期	明治四十四年上半期	増減	増減比率
證明取扱件數	四四、六八五件	六五、二九九件	増 二〇、六一四件	増 四・六割
價格又ハ債權額	九、五五五、八五九、四四〇円	一七、二〇六、〇五四、九八一円	増 七、六五〇、一九五、五四一円	増 八・〇
手數料	三八、八三三、九二〇	五七、四三四、四九三	増 一八、六〇一、五七三	増 四・七

第四章　財政及經濟

第一節　財　政

一　財務機關

明治三十七年八月日韓協約成立ノ結果トシテ舊韓國政府ハ日本政府ノ推薦ニ係ル財務顧問ヲ聘シテ財政ノ整理ニ著手シタリシカ是ヨリ前合法的豫算ナルモノヽ編成セラレタルコトナク財務機關ノ設備ハ不完全ニシテ宮中ハ國家以外別ニ徵稅官ヲ派シテ各種ノ租稅ヲ徵シ徵稅機關ハ郡守主トシテ徵稅ノ局ニ當ルノ外宮內府及中央官廳ノ派遣ニ係ル收稅官アリテ各種ノ徵稅ヲ爲シ其ノ間一定ノ規律ナク誅求苛歛ノ弊風大ニ行ハレタリ

從來舊韓國政府ニハ度支部ナルモノアリテ財務機關ノ任ニ當レルカ財政顧問ハ先ツ之ヲ廓淸シ徵稅機關ノ特設ヲ提議シ明治三十九年管稅官官制ヲ制定シ度支部大臣直轄ノ下ニ各道ニ稅務監ヲ置キ觀察使ヲシテ兼務セシメ以テ稅務監督ノ任ニ充テ更ニ樞要ノ地ニ稅務官ヲ配置シ稅務執行機關トシ稅

務主事ヲ各郡ニ派駐シ税務ノ執行ヲ分掌セシメ又漸次各地ニ財政顧問支部及分廳ヲ設置シ獨リ税務ノミナラス地方財務ヲ監督シ以テ不正ノ徵求不當ノ支出ヲ防遏シ且地方經濟狀態ノ進捗ニ努メタリ

明治三十九年統監府設置セラレ宮中ノ廓清、制度ノ革新、財政ノ整理孰モ一段ノ進捗ヲ告ケ就中財政整理ニ關スル施設ノ要項ヲ擧クレハ

一　舊貨ノ回收ヲ實行シ株式會社第一銀行ヲシテ中央銀行ノ事務ヲ執ラシメ兌換券ノ發行ヲ公認シ

二　諸銀行ヲ保護助長シ農工銀行、手形組合及金融組合ヲ設立セシメ無利子ヲ以テ之ニ資金ヲ貸與シ

三　豫算ノ編成及實行ヲ計リ、第一銀行ヲシテ國庫金ノ出納ヲ掌ラシメ

四　徵税機關ヲ改良シ之カ統一ヲ謀リ徵税ノ方法ヲ公示シ

五　從來英國人ブラオン氏專掌ノ下ニ獨立經營セル關税事務ヲ統一シ國庫ノ收入トシ更ニ税關ヲ增設シ保税倉庫ヲ設置シ

六　皇室有及國有財產ヲ整理シ驛屯土及雜稅ノ處理、紅蔘專賣ノ經營ヲ爲シ
七　財源調査ヲ實行シ
八　港灣ノ修築、燈臺ノ增設及水道ノ施設ヲ企圖シ
九　諸官衙ノ改築ヲ行ハシメ其ノ材料ノ潤澤、低廉ヲ圖ル爲ニ麻浦ニ煉瓦製造所ヲ起シ
十　模範事業トシテ印刷局ヲ創設シタリ

又地方財務機關ノ組織ヲ制定シ度支部ノ管轄ノ下ニ財務監督局ヲ京城、平壤、大邱、全州、元山、公州及光州ノ七ヶ所ニ設置シ其ノ管下ニ財務署ヲ設ケ全國二百三十四ヶ所ニ配置セリ

次テ日韓併合及新官制實施ト共ニ舊韓國政府度支部ヲ移シテ朝鮮總督府ノ管下ニ置キ度支部ヲシテ朝鮮ニ於ケル豫算決算、租稅並國庫金融ニ關スル事務ヲ掌リ總務部會計局ヲシテ豫算執行ノ任ニ當ラシメ相倚リ以テ朝鮮ニ於ケル財政ヲ掌理スルコトヽ爲レリ

二　歲　計

從來韓國政府ニ於テハ豫算ノ編成ナカリシカ明治三十八年初メテ之ヲ編成シ爾來累年豫算ノ制定ヲ

見タリシカ明治四十三年八月韓國併合ノ結果帝國政府ハ同年勅令第三百二十六號ニ依リ八月二十九日ヨリ舊韓國政府八月廿八日ニ於ケル豫算殘額ヲ襲用施行シ更ニ同年勅令第四百六號ヲ以テ朝鮮總督府特別會計ニ關スル件發布同十一月一日ヨリ之カ施行ヲ見タリ

今明治四十年以降舊韓國政府歳入歳出及明治四十三年度以降朝鮮總督府特別會計歳入歳出ヲ表示スレハ左ノ如シ

舊韓國政府歳入歳出累年比較　（圓）

年度	歳入			歳出		
	經常	臨時	合計	經常	臨時	合計
明治四十年	九、九一六、三二二	六、五四二、四三八	一六、四五八、七六〇	一〇、一九三、二七六	七、一八二、六七五	一七、三七五、九五一
同四十一年	一三、四一〇、三四七	九、八六二、八八九	二三、二七三、二三六	一四、七一四、九二四	八、六三七、九三三	二三、三五二、八五七
同四十二年	一五、一七八、九〇三	一四、〇四九、一〇八	二九、二二八、〇一一	一八、二六二、八五二	一〇、九六四、六九七	二九、二二七、五四九
同四十三年	九、〇六五、一二九	四、五三二、一四九	一三、五九七、二七八	八、五九三、二八〇	四、八七五、三五二	一三、四六八、六三二

備考　四十二年前ハ豫算額四十三年ハ現計（八月二十八日迄）ヲ示ス

朝鮮總督府特別會計歲入歲出　（圓）

年度	歲入			歲出		
	經常	臨時	合計	經常	臨時	合計
襲用豫算會計（自八月廿九日至九月卅日）	七七八、四二四	二、一三三、一九五	二、九〇一、六一九	一、五四三、五四一	一、三二〇、一一三	二、八六三、六五四
明治四十三年度（十月一日以降）	一一、六一〇、三二六	一〇、三六七、〇〇〇	二一、九七七、三二六	九、四七一、九三六	八、三四三、七一九	一七、八一五、六五四
同　四十四年度	二四、〇六七、五八三	二四、六七四、一九九	四八、七四一、七八二	二七、八九一、四三七	二〇、八五〇、三四五	四八、七四一、七八二
同　四十五年度	二六、七三三、三三三	二五、七〇九、八七七	五二、四四三、二〇九	二九、七八二、四九〇	二二、六五九、七一九	五二、四四三、二〇九

備考　四十三年度前ハ現計四十四、五年度ハ豫算額ヲ示ス

舊韓國政府四十三年度及朝鮮總督府襲用豫算會計歲入歲出科目別　（圓）

歲入

科目	襲用豫算會計	隆熙四年度（四十三年）
地税	五五、一〇三	五、七〇二、九三六
戸税	九一、六二四	二六九、一四五

經常			
租稅	家屋稅	五、九八二	三、三三五
	酒稅	一三、六二一	五八、六八二
	煙草稅	三、七八一	二一、〇七二
	關稅	三三〇、六四〇	一、七八九、二五五
	噸稅	七、四三三	四八、〇七一
	鹽稅	二、一八七	一〇、四七八
	鑛稅	二、四九七	二四、七四〇
	雜稅	三、一八六	一七、六五四
	既往年度未納地稅收入	二、一五二	七七、八九六
	計	五一八、二〇四	八、〇五三、二六五
印紙	紙收入	二三、八四三	二〇二、八七六
驛屯賭	屯賭收入	六、二三九	四三、七六七
官業及	醫院收入	一〇、四五〇	五九、六一七
	水道事業收入	一〇、三三五	一一、一一九
	蔘業收入	―	一六九、三七五
	鹽業收入	一、五八三	四、五八一

部	項目			
部	官有財産收入	度量衡事業收入	八、九〇八	一七、八四七
		林野收入	二、二九四	二八、九七四
		平壤鑛業所益金	—	—
		其他	五、五九八	八四、七五五
		計	三七、一六九	三七六、二六九
	雜收入		一九二、九六九	三八八、九五一
	合計		七七八、四二四	九、〇六五、一二九
臨時部	公債金繰入		一、一二三、一九五	一、五〇〇、〇〇〇
	借入金		一、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
	公債金繰替		—	一、〇〇〇、〇〇〇
	前年度剩餘金繰入		—	三一五、三二四
	導掌賜金公債金		—	一一六、八二五
	合計		二、一二三、一九五	四、五三二、一四九
總計			二、九〇一、六一九	一三、五九七、二七八

歳出

朝鮮總督府特別會計歳入歳出科目別（圓）

歳入

經常部	皇室費	一二五、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
	內部	三四四、二四七	二、二八一、九五四
	度支部	八六〇、八九六	四、四七六、二九三
	學部	八六、七六四	二三三、五七六
	農商工部	一二六、六三四	四〇一、四五六
	合計	一、五四三、五四一	八、五九三、二八〇
臨時部	內部	二六六、八六七	一、〇一四、七六三
	度支部	八七四、三七一	三、一六五、六一九
	學部	四〇、七五五	一八〇、五七〇
	農商工部	一三八、一一九	五一四、四〇一
	合計	一、三二〇、一一三	四、八七五、三五二
總計		二、八六三、六五四	一三、四六八、六三二

科目		明治四十五年度	明治四十四年度	明治四十三年(十月一日以降)
經常部	朝鮮歲入			
	租稅	一一、三四七、五三六	一〇、八七一、五一七	九、〇六一、七六六
	印紙收入	七四四、五九五	六五九、二五九	三四四、二七四
	驛屯賭收入	一、二七一、五八二	一、二六一、八二一	一、〇六三、九六一
	官業及官有財產收入	一三、〇四七、四六八	一〇、九六二、〇二二	四二四、〇一六
	雜收入	三一一、一五一	三一二、九六四	七一六、二一一
	合計	二六、七三二、三三二	二四、〇六七、五八三	一一、六一〇、二二六
臨時部	公債募集金受入	一二、五九六、五四〇	一二、三二四、一九九	四、八九五、七五三
	補充金	一二、三五〇、〇〇〇	一二、三五〇、〇〇〇	二、八八五、〇〇〇
	前年度繰越金	七六三、三三七	—	—
	一時借入金	—	—	二、〇九四、六七七
	公債金特別會計資金殘餘繰入	—	—	三一一、四四三
	襲用會計剩餘金繰入	—	—	一八〇、一二七
	合計	二五、七〇九、八七七	二四、六七四、一九九	一〇、三六七、〇〇〇
總計		五二、四四二、二〇九	四八、七四一、七八二	二一、九七七、二二六

歲出

經常			
李王家歲費	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇
總督府費	三、〇九二、八六二	二、八〇四、六五四	一、三七〇、三七四
裁判所及監獄費	二、六一〇、二四四	二、五一二、八三一	一、〇七四、七九五
警務費	三、〇四〇、五五六	二、八五九、二五五	一、九四三、七二七
地方廳	四、二一九、二八八	四、二三三、四四三	一、九六四、九七九
諸學校	二七九、一六三	二七二、六七二	一〇七、四〇二
稅關	五六九、一七九	六〇三、八〇八	四二三、四八五
勸業模範場	二〇四、八九九	二〇六、四一六	九二、〇九一
平壤鑛業所	八四八、四二七	七四五、八八四	—
中央試驗所	一一四、五〇一	—	—
遞信費	三、一四五、五六三	二、八四四、九五三	一四七、一三六
鐵道作業費	六、二一七、三三八	五、二七七、八六七	—
修繕費	三二八、四七六	三一六、八三六	五七、五一五
諸支出金	二三〇、六三〇	四五、九一六	—
一般會計繰入金	二、三八七、三六四	一、七三三、四九七	九五七、四五四
豫備金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	△二五二、九一八
總督府醫院	—	二五〇、五六九	一三二、九八一
慈惠醫院	—	三五二、三八一	一四九、三〇六
專賣局	—	二六六、八二五	九七、三〇五

科目			
部			
工業傳習所費	—	六三、六三〇	二九、二〇三
水道事業費	—	—	四九、一八一
國庫金取扱費	—	—	一二五、〇〇〇
計	二九、七八二、四九〇	二七、八九一、四三七	九、四七一、九三六
臨			
學事諸費	二三、五八二	二七、七八七	—
勸業費	三九六、九〇七	三一五、六一八	—
憲兵補助員費	一、〇三三、六七五	一、〇五一、二五六	五七五、五二八
朝鮮部隊費	二四八、四七九	二四八、四七九	—
臨時警備費	一四一、一一一	一五六、五五〇	—
臨時土地調查費	二、三八〇、三一九	一、七五七、二四六	四〇七、九五〇
補助費	二、五二九、八一二	一、四三六、八九六	—
臨時出資金	七九〇、〇〇〇	七九〇、〇〇〇	—
營繕費	一、四一三、一六三	一、二五一、一七〇	九三六、二五一
治道費	一、六〇〇、〇〇〇	二、三七二、六四四	五七〇、五七〇
海關工事費	二、一六八、九一五	二、〇二六、〇六二	六一八、八四四
電信電話營繕費	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	—
航路標識營繕費	六〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	—
鐵道建設及改良費	九、〇〇〇、〇〇〇	八、五〇〇、〇〇〇	—

臨時部

科目			
鎮南浦水道工事費	一〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	—
赤田川改修費	二五、〇〇〇	八二、五〇〇	—
京城水道改良及擴張工事費	一七七、八三八	—	—
鎮海市街經營費	五三、〇〇〇	—	—
地圖及結數連名簿費	五〇、〇〇〇	—	—
平壌鑛業所探鑛費	四〇、〇〇〇	—	—
林野地積整理費	一七、七一四	—	—
調査費	八〇、二〇四	—	—
臨時外國行諸費	三〇、〇〇〇	—	—
鹽田築造及廳舍新營設備費	—	二二五、三六六	二九八、六一九
平壌鑛業所第二次擴張費	—	七八、七七一	四三九、三〇七
發電水力調査費	—	三〇、〇〇〇	—
產業諸費	—	—	一三九、〇七五
印刷局新營及設備費	—	—	一四、三二五
水道工事費	—	—	一二四、七七一
地方土木費補助	—	—	九六、二〇〇
醫院設備費	—	—	五一、六九九
諸支出金	—	—	九一四、三三〇
元親衛府費	—	—	一八二、〇九四

水道買收費	—	—	二、九二六、三四五
其他	—	—	四七、八一二
計	二三、六五九、七一九	二〇、八五〇、三四五	△ 八、三四三、七一九 二〇、八四七
總計	五二、四四二、二〇九	四八、七四一、七八二	△ 一七、八一五、六五四 二七三、七六五

備考　明治四十三年度一般會計所屬韓國通信事業ニ要スル經費並韓國鐵道及韓國森林ノ各特別會計ハ明治四十三年ニ限リ從前ノ豫算ヲ繼承使用セルモノナリ

△印ハ豫備金豫算中ヨリ他費目ヘ補充支辨セシ金額ニシテ內書ナリ

總督府醫院及慈惠醫院ハ別ニ特別會計ヲ立ツルコトヽ爲レリ

三　特別會計

明治四十三年度朝鮮總督府平壤鑛業所特別會計ハ舊韓國政府平壤鑛業所特別會計ノ計算ヲ繼承シタルモ同四十四年度ニ於テ朝鮮總督府特別會計ニ編入セラレ朝鮮鐵道用品資金及朝鮮森林ノ兩特別會計ハ明治四十四年度ヨリ施行セラレタリト雖概子各從前ノ韓國鐵道用品資金及韓國森林特別會計ヲ

繼承シタルモノナリ左ニ明治四十三年度以降各特別會計歳入歳出ヲ掲ク

各特別會計歳入歳出 （圓）

區別	明治四十三年舊韓國政府特別會計 歳入	明治四十三年舊韓國政府特別會計 歳出	同年度襲用豫算會計 歳入	同年度襲用豫算會計 歳出	同年度十月ヨリ翌年三月迄 歳入	同年度十月ヨリ翌年三月迄 歳出	同四十四年度 歳入	同四十四年度 歳出	同四十五年度 歳入	同四十五年度 歳出
慈惠醫院	八六、六〇七	一四、三三一	一〇〇、一六五	三三、九六四	—	—	—	—	金額未定	同
印刷局	一三〇、九九八	一四三、八八〇	四三、六〇三	三九、四四七	—	—	—	—	—	—
煉瓦製造所	三二、〇三九	六四、五五七	一六、三六三	七、一〇三	—	—	—	—	—	—
公債金	四五〇、四〇四	二、五〇〇、〇〇〇	一三〇、九五三	一、一三三、一九五	四、八九五、六五三	四、八九五、六五三	—	—	—	—
平壤鑛業所	三四三、五五三	二六八、三五六	三一、〇九九	九二、四四五	四一、七三〇	四一、七三〇	—	—	—	—
朝鮮鐵道用品資金	—	—	—	—	—	—	五、〇五〇、七三三	五、〇五〇、七三三	五、五九八、三五二	五、五八三、三五二
朝鮮森林資本勘定	—	—	—	—	—	—	六四一、五九九	二一、四四〇	九三九、四四八	三〇、八〇〇
朝鮮森林收益勘定	—	—	—	—	—	—	一、六六七、五五七	一、三九三、八八三	一、二六八、五一〇	一、一三一、九六二
朝鮮事業公債金	—	—	—	—	—	—	—	—	二四、九七〇、七九九	二四、九七〇、七九九

備考　四十三年度ハ現計四十四五年度ハ豫算額ヲ示ス

四　繼續費

繼續費ニ屬スル費目ノ總額及其年割額左ノ如シ

費目	總額	四十三年度迄支出額	四十四年度	四十五年度	四十六年度	四十七年度	四十八年度	四十九年度
治道費	円 一〇、〇〇〇、〇〇〇	円 —	円 二、〇〇〇、〇〇〇	円 一、五〇〇、〇〇〇	円 二、五〇〇、〇〇〇	円 二、〇〇〇、〇〇〇	円 二、〇〇〇、〇〇〇	円 —
海關工事費	八、二七一、八二九	—	一、八二四、一九九	二、〇九六、五四〇	一、六二七、三三〇	一、六二三、八七〇	六五〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇
鐵道建設及改良費	六五、六〇三、三九二	二六、二三六、二一八	八、五〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	八、五〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	五、三六七、一七四	—
鎭南海水道工事費	四二〇、〇〇〇	—	八〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	—	—
赤田川改修費	一〇七、五〇〇	—	八二、五〇〇	二五、〇〇〇	—	—	—	—
計	八四、四〇二、七二一	二六、二三六、二一八	一二、四八六、六九九	一二、七二一、五四〇	一二、七二七、三三〇	一一、七六三、八七〇	八、〇一七、一七四	四五〇、〇〇〇

五　國債

明治四十四年九月ニ於ケル國債ハ二千三百六十六萬五千四百二十二圓ニシテ其詳細左表ノ如シ

國債現在高　（圓）

種別	發行及借入年月	發行及借入額	利子歩合	据置年限	償還年限	摘要
第一起業資金債	三十九年三月	一五、〇〇〇、〇〇〇	六分五厘	五箇年	十箇年	
第二起業資金債	四十一年十二月	三、九六三、九二〇	同	十箇年	廿五箇年	外ニ將來受取ルベキ分五百万円アリ

種別	借入年月	金額	利率	据置期間	償還
起業公債	同年十二月	一、〇〇〇、〇〇〇	六分	五箇年	十五箇年
導掌賜金公債	四十三年六月	一二六、八二五	五分		借入ノ年ヨリ二十ケ年以內ニ隨時償還
特別會計一時借入金	四十四年三月	二、〇九四、六七七	五分		借入ノ日ヨリ三年以內ニ隨時償還
事業費借入金	四十四年九月	二、五〇〇、〇〇〇	五分五厘		同
總計		三三、六七五、四三三			

前表所揭以前ニ於ケル各年末現在高ヲ示セハ左ノ如シ

年	現在高
明治四十三年	二九、二五五、三三五
同 四十二年	四四、一二六、四五三
同 四十一年	三六、七四一、四四一
同 四十年	一五、四九八、〇三二
同 三十九年	一五、五〇九、二五四
同 三十八年	九、四五四、〇六四

六　租稅

國稅ハ地稅、戶稅、家屋稅、酒稅、煙草稅、關稅、噸稅、鹽稅、鑛稅、水產稅及雜稅ノ十一種トス

其ノ主要ナルモノ、稅率ヲ擧クレハ左ノ如シ

一地稅　稅率ヲ十三等ニ分チ一結ニ付二十錢以上八圓以下ノ稅ヲ課ス（一結ハ一町步乃至四町步餘ニ至ル）

二戶稅　一戶每ニ三十錢ヲ課ス

三家屋稅　家屋ヲ分チテ甲乙ノ二種ト爲シ甲種トハ石造、煉瓦造又ハ瓦葺ノ家屋ヲ總稱シ乙種トハ甲種以下ノモノヲ包含ス更ニ之ヲ家屋ノ間數ニ依リ四等ニ分チ左ノ稅ヲ課ス

等級	稅率標準及稅率		
一等	三十間以上	甲種	金八圓
		乙種	金五圓
二等	十間以上	甲種	金二圓
		乙種	金一圓五十錢
三等	四間以上	甲種	金八十錢
		乙種	金五十錢

四等　四間未滿　甲種　金四十錢
　　　　　　　　乙種　金三十錢

四　酒税　酒類ヲ三種ニ分チ左ノ區別ニ從ヒ課税ス

第一類　釀成酒

五石迄	金一圓
十石迄	金二圓
二十石迄	金四圓
五十石迄	金二十圓

百石ヲ超過スルモノハ五十石迄ヲ増ス毎ニ金十圓ヲ増ス

第二類　蒸餾酒

一石迄	金一圓
二石迄	金二圓
五石迄	金五圓

十石迄	金十圓
二十石迄	金二十圓
五十石迄	金五十圓

五十石ヲ超過スルモノハ三十石迄ヲ増ス毎ニ金三十圓ヲ加フ

第三類　混成酒

二石迄	金六圓
五石迄	金十五圓
十石迄	金三十圓
二十石迄	金六十圓
五十石迄	金百五十圓

五十石ヲ超過スルモノハ三十石迄ヲ増ス毎ニ金九十圓ヲ加フ

五　煙草税

煙草税ヲ分チテ耕作税及販賣税ノ二種ト爲シ煙草耕作税ハ左ノ種別ニ從ヒ耕作者ヨリ徵

收ス

第一種耕作(植付根數九百以下ノモノ) 一箇年 金五十錢

第二種耕作(同上九百ヲ超過スルモノ) 一箇年 金二圓

煙草販賣稅ハ左ノ種別ニ從ヒ販賣業者ヨリ徵收ス

第一種販賣(卸賣者) 一箇年 金十圓

第二種販賣(小賣者) 一箇年 金二圓

六關稅 第九章商業中貿易ノ部ニ說明セリ

七噸稅 一噸ニ付五錢ヲ課ス

八鹽稅 製造者ニ對シ百斤ニ付キ六錢ノ率ヲ以テ賦課ス、百斤ニ滿タサル端數ハ之ヲ百斤トシテ計算ス

九鑛稅 左ノ種別ニヨリ徵收ス

鑛產稅 鑛產物價格ノ百分ノ一

鑛區税　鑛區一千坪一箇年金五十錢（許可後一箇年ハ半額トス）

砂金採取税　鑛區一千坪或ハ河床延長一町毎ニ一箇年金一圓

十　水産税

第一種第三種第四種及第五種ノ免許漁業	採捕物價格一百圓迄	一圓
第二種免許漁業	區劃水面一千坪迄	一圓
第一種許可漁業	曳網類各一漁具	十圓
	小地曳網類同	三圓
第二種許可漁業		
汽力ニ依ル底曳網類	噸數百噸以上一艘ニ付	百五十圓
	同　百噸未滿	七十五圓
風力又ハ潮流ニ依ル底曳網類	各一漁具	六圓
小打瀨網類	同	三圓
第三種漁業	捲網類　各一漁具	十二圓
	一繰網類　同	四圓
	一小手繰網類　同	二圓
第四種許可漁業	潜水器一臺ニ付	十五圓

第四章　財政及經濟

第五種許可漁業

飼付漁業　一漁業ニ付　十圓

漬場、築磯漁業　同　五圓

第一種屆出漁業　一漁船ニ付　四圓

第二種屆出漁業　同　三圓

第三種屆出漁業　漁船ヲ使用スルモノ一漁船ニ付一圓

漁船ヲ使用セサルモノ同　五十錢

其ノ他ノ收入ハ印紙收入、驛屯土收入（國有地小作料）官業及官有財產收入ノ公債等ノ臨時收入竝雜收入ヲ其ノ主ナルモノトス

第二節　朝鮮經營費

明治三十九年統監府設置以來最近數年間ニ帝國政府カ朝鮮經營ノ爲ニ支出シタル經費ハ左ノ如シ

所管		豫算額 明治四十五年度	豫算額 明治四十四年度	豫算額 明治四十三年度	決算額 明治四十二年度	決算額 明治四十一年度	決算額 明治四十年度
		円	円	円	円	円	円
經常	陸軍	五、一三三、八八七	三、八八〇、七〇四	四、一三八、三六三	三、九九四、六三三	四、一六四、五一〇	一、一四八、〇九七
	海軍	一五八、〇八五	一七〇、三九一	一六九、七三六	七五、一八四	八八、八九一	七〇、九九五
	統監府	―	―	九六六、一二四	一、一〇四、一〇九	一、一六五、九一六	一、三七七、八七三

部	統監府司法及監獄費	—	—	三、三〇一、七四四	九五九、八九六	—	—
	通信官署	—	—	—	一一九、五四六	三〇三、八七五	三四一、一三六
	合計	五、二八〇、九七二	一四、〇五〇、九九五	八、五七五、七六六	六、二七三、三五七	五、七二三、一九二	二、九二八、一〇一
臨時部	一般會計補充金	一二、三五〇、〇〇〇	一二、三五〇、〇〇〇	—	—	—	—
	陸軍	五、六五七、九三六	五、六一九、九〇八	四、六六〇、五八〇	六、〇三七、六二七	一〇、九五一、二七二	八、八二六、九三二
	海軍	八六三、五四四	八三八、四〇七	八三三、〇五〇	三〇、五一〇	一二四、四四三	五八〇、八六一
	統監府	—	—	×二、六〇〇、〇〇〇 四、九八八、三〇二	×四、六五三、五四〇 五、三四四、〇三四	×五、二五九、五八〇 五、九六〇、八九九	×一、七六九、五〇三 二、二四六、九四三
	統監府司法及監獄費	—	—	一五二、四四〇	—	—	—
	通信官署	—	—	五三、〇二三	三〇三、五五八	二八七、八三七	三四七、五二九
	合計	一八、八七一、四八〇	一八、八〇八、三一五	一〇、六八七、三九五	一一、七一五、七二九	一七、三二四、三一一	一二、〇〇二、二六五
特別會計	朝鮮森林	—	—	—	—	三〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
	鐵道　一般會計受入	—	—	六、一四四、九〇四	三、〇一七、七〇三	七、〇四五、八八九	一〇、二三八、四三五
	鐵道　其ノ他	—	—	—	—	六一五、六四四	一、八五九、六一一
	鐵道　計	—	—	六、一四四、九〇四	三、〇一七、七〇三	七、六六一、五三三	一二、〇九八、〇四五
	合計	—	—	六、一四四、九〇四	三、〇一七、七〇三	七、六九一、五三三	一二、三九八、〇四五
總計		二四、一五二、四五二	三二、八五九、三一〇	二五、四〇八、二六五	二一、〇〇六、七八九	三〇、九〇九、〇三六	二七、三三八、四三二

内譯						
軍事費	一二、八〇二、四五三	一〇、五〇九、三一〇	九、八〇一、七二八	一〇、一五七、九四三	一五、二三九、一一六	一〇、六三六、八八五
行政費其ノ他	一三、三五〇、〇〇〇	一三、三五〇、〇〇〇	一五、六〇六、五三七	一〇、八四八、八四六	一五、六七九、九二〇	一六、七〇一、五三六

本表中通信官署及鐵道ニ關スル明治四十三年度經費ハ現計額ニ依ル尙通信官署經費ハ歳出ニ對シ歳入不足額ヲ計上シ四十三年度ハ歳入超過額ヲ便宜上臨時部經費ヨリ控除シタリ但印紙收入ハ之ヲ調査セス又×印ヲ附シタルハ舊韓國政府立替金ヲ示シ内書トス

第三節　貨幣

朝鮮ノ幣制ハ從來幾多ノ變遷ヲ重ネ明治二十七年ニ至リ漸ク銀本位制ヲ採用シ次テ三十四年金本位制ニ改メシモ尙全ク空文ニ屬シ葉錢舊白銅ハ各地ヲ異ニシテ專ラ流通シ幣制紊亂ヲ極メタリ依テ明治三十八年貨幣整理ニ着手シ先ツ幣制ヲ改正シ其ノ品位量目ヲ帝國貨幣ト同一トナシ新貨幣ヲ發行シテ其ノ流通普及ニ努メ且第一銀行券ノ流通ヲ公認シ舊白銅貨及葉錢ノ回收ニ努メタリシカ舊白銅貨ハ四十二年十二月限リ全ク其通用ヲ禁止シ葉錢ハ漸次引上ノ結果其ノ流通額大ニ減少シ新貨幣モ亦到ル處圓滿ニ流通スルニ到レリ而シテ四十三年八月日韓併合ノ結果朝鮮ノ通貨ハ帝國貨幣ヲ以テ

統一スルノ方針ヲ採リ爾後舊韓國貨幣ハ一切鑄造ヲ停止シ從來發行シタル分ハ漸次帝國貨幣ト交換シテ引上クルコト丶セリ今明治三十八年以降每年末貨幣流通額ヲ掲クレハ左表ノ如シ

明治三十八年以降貨幣流通額（圓）各年十二月末日

年次	新硬貨	兌換券	舊白銅貨	葉錢	本邦各通貨	合計	指數
明治卅八年	三六七、六八〇	八、一二五、二六七	五、二四一、一二〇	六、三五〇、二六六	一、三〇〇、〇〇〇	二一、三八〇、三三三	一〇〇
同　卅九年	二、一三七、五四二	九、三二四、四〇〇	三、六九〇、七〇〇	五、七七九、八〇二	九二四、〇〇〇	二一、七五六、四四四	一〇二
同　四十年	三、九五四、三八〇	一一、六一五、八三五	二、九九八、七二九	四、六四三、九三四	六三七、七四七	二三、八五〇、六二五	一一二
同　四十一年	三、一二一、四二三	九、三二一、〇六〇	一、五〇一、六六四	四、三四一、六九九	三九四、二七〇	一八、五八〇、一一五	八七
同　四十二年	四、五七四、三四四	一三、三三八、八八七	七七三、九〇一	二、二四五、五六〇	三三〇、三〇四	二〇、〇五二、九九六	九四
同　四十三年	六、一五三、五九五	一六、六三二、九六四	—	一、四三六、六七六	二六九、〇二四	二四、四九〇、二五九	一一五
同四十四年九月末	五、一九七、五〇三	二三、〇〇〇、八二一	—	七三五、九四三	一、六二四、一二四	三〇、五五八、三九一	一四三

新硬貨發行高（圓）各年十二月末日

年次	金貨	銀貨	白銅貨	青銅貨	合計	指數
明治三十八年	—	二四九、四二〇	一一八、二六〇	—	三六七、六八〇	一〇〇

年次						
同三十九年	九五、五〇〇	一、〇七二、三六八	九五二、六〇一	一八、〇七五	二、一三七、五四三	五八一
同四十年	九五、五〇〇	二、二九〇、〇〇〇	一、五一〇、五〇〇	二〇四、一七五	四、一〇〇、一七五	一、一一五
同四十一年	九五〇、〇〇〇	二、〇三一、五〇〇	九八一、二五〇	一九五、七七五	四、一五八、五二五	一、一三一
同四十二年	一、四五〇、〇〇〇	三、五九五、〇〇〇	七三六、九〇〇	三四二、五四五	六、一二四、四四五	一、六六六
同四十三年	一、九五〇、〇〇〇	五、二五八、五〇〇	五七四、七五〇	四三二、五四五	八、二一五、七九五	二、二三四
同四十四年九月末	五五、〇〇〇	四、二八三、五八九	四八四、四九二	四三三、九二一	五、一九七、五〇二	一、四一四

兌換券發行高（圓）各年十二月末日

年次	十圓券	五圓券	一圓券	五十錢券	二十錢券	十錢券	計	指數
明治三十五年	一七三、九〇〇	三五一、九一五	九九、七三五	—	—	—	六二五、五五〇	一〇〇
同三十六年	三三四、二〇八	四一八、六六五	一一七、一九一	—	—	—	八七〇、一二六	一三九
同三十七年	一、五五五、〇五〇	一、三八三、五七〇	二八五、六一四	七〇、六八九	四一、一八三	三六、七一三	三、三七一、八一八	五三九
同三十八年	四、三三六、六八〇	三、一一九、八三〇	八一〇、八〇一	四六三、〇〇四	一八四、五六三	三一〇、四〇〇	八、二二五、二六七	一、三一九
同三十九年	四、七九五、〇〇〇	三、一四三、五〇〇	一、八二九、五〇〇	一七九、二五〇	一二四、九〇〇	一六三、二五〇	九、二三四、四〇〇	一、四七五
同四十年	五、五二五、〇〇〇	三、八五七、五〇〇	三、三六八、五〇〇	一七、九五〇	一四、八〇〇	二一、五五〇	一二、八〇五、三〇〇	二、〇四七
同四十一年	四、三三八、九〇〇	二、六四六、八〇〇	三、三八三、八〇〇	四、三〇〇	四、六〇〇	七、五〇〇	一〇、三八五、九〇〇	一、六六〇

同四十二年	五、五九二、〇〇〇	三、〇一五、五〇〇	四、八一九、六〇〇	三、〇七〇	三、四九〇	六、〇四〇	一三、四三九、七〇〇	二、一四八
同四十三年	八、四六一、〇〇〇	三、九八六、五〇〇	七、七〇四、五〇〇	二、九〇〇	三、三〇〇	五、七〇〇	二〇、一六三、九〇〇	三、一三三
同四十四年九月末	一〇、六八六、〇〇〇	四、八三九、〇〇〇	一〇、一五六、三〇〇	二、八〇〇	三、一〇〇	五、六〇〇	二五、六九二、九〇〇	四、一〇七

第四節　金融

一　金融機關

從來朝鮮ニハ金融機關ノ設備見ルヘキモノナカリシカ明治卅六年二月第一銀行ノ支店ヲ京城ニ開設スルヤ舊韓國政府ハ之ニ委託スルニ中央金庫事務取扱ヲ以テシ銀行券ノ發行ヲ公認シ日本政府モ亦特ニ勅令ヲ以テ同行ニ於テ銀行券ノ發行ヲ認メ以テ同行ヲシテ中央銀行ノ任務ヲ遂行セシメシカハ明治四十年中ニ至リ同行ハ元山、大邱ヲ初メトシ地方十三箇所ニ支店及出張所ヲ有スルニ至レリ是ヨリ先キ半島内陸ノ發展ニ伴ヒ十八銀行及第五十八銀行等支店ヲ開設セリ明治三十九年三月舊韓國政府ハ銀行條例ヲ發布シ又漢城、天一ノ兩銀行ニ資金ヲ貸與シ其ノ業務ヲ革新セシメ次テ韓一銀行ヲ亦設立セラレ財界漸ク順潮ニ向ヒ金融年ヲ遂フテ好況ヲ呈セリ

明治三十九年三月農工銀行條例發布セラレ農工業ノ開發及一般金融調和ノ目的ヲ以テ政府ハ各地ニ農工銀行ノ設立ヲ奬勵シ政府借入ノ起業資金中其ノ一部ヲ擧ケテ之ニ補助ヲ與フルコト、セリ、漢湖農工銀行ハ此ノ主旨ニ基キテ設立セラレタルモノ、嚆矢トス次テ大邱、平壤、全州、晋州、光州海州、鏡城及咸興等ニ農工銀行本支店ノ設立ヲ見ルニ至レリ

明治四十二年十月、韓國銀行ハ中央銀行トシテ設立セラレ從來第一銀行京城支店ニ於テ取扱ハレタル金庫事務、銀行券發行等ハ韓國銀行ニ引繼カレタリ尙併合後同行ハ朝鮮銀行ト改稱セリ

在朝鮮銀行一班　　四十四年九月末日現在

名稱	支店及出張所數	資本金及支店元金	設立者	開業年月
朝鮮銀行	一四	一〇、〇〇〇、〇〇〇円		四十二年十一月
第一銀行	二	一、八〇〇、〇〇〇	內地人	十一年五月四日
十八銀行	八	一、一五〇、〇〇〇	同	二十三年一月一日
百三十銀行	五	七〇〇、〇〇〇	同	二十五年七月二十日
周防銀行	一	―	同	四十一年七月十八日

密陽銀行	—	五〇、〇〇〇	內地人	四十年三月一日
漢湖農工銀行	七	四〇〇、〇〇〇	朝鮮人	三十九年六月二日
慶尙農工銀行	六	二〇〇、〇〇〇	同	同 六月十六日
平安農工銀行	七	二〇〇、〇〇〇	同	同 六月廿五日
全州農工銀行	二	一〇〇、〇〇〇	同	同 七月七日
光州農工銀行	三	一〇〇、〇〇〇	同	同 八月六日
咸鏡農工銀行	四	二〇〇、〇〇〇	同	同 九月廿日
漢城銀行	三	三、〇〇〇、〇〇〇	同	三十六年二月七日
朝鮮商業銀行	二	五〇〇、〇〇〇	同	三十二年三月七日
韓一銀行	一	五〇〇、〇〇〇	同	三十九年八月八日
漢城共同倉庫株式會社	三	一五〇、〇〇〇	同	三十八年十二月十一日
合計	六四	一九、〇五〇、〇〇〇	內地人 朝鮮人 普 特 六四五	

二 朝鮮銀行

朝鮮ニ於ケル國庫金ノ出納、銀行券ノ發行、其ノ他中央銀行ノ業務ハ從來株式會社第一銀行京城總支店ヲシテ之ヲ取扱ハシメタルカ財政ノ膨脹、經濟ノ發展ニ伴ヒ金融ノ中樞タル中央銀行設置ノ必

要ヲ認メ明治四十二年韓國銀行ヲ設立シ第一銀行ヨリ中央銀行トシテ業務ヲ繼承シ同年十一月ヨリ業務ヲ開始セリ而シテ併合後朝鮮銀行法ノ發布ト共ニ同行ハ朝鮮銀行ト改稱セリ

朝鮮銀行ハ資本金ヲ一千萬圓トシ中央銀行トシテ國庫金ノ出納、銀行券ノ發行ヲ爲スノ外

一 爲替手形其ノ他商業手形ノ割引

二 平常取引スル諸會社銀行又ハ商人ノ爲手形代金ノ取立

三 爲替及荷爲替

四 確實ナル擔保附貸付

五 諸預リ金及當座貸越勘定

六 金銀貨貴金屬及諸證券ノ保護預リ

七 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換

八 尙政府ノ認可ヲ受クル𪜈ハ公共團體ニ對シ無擔保貸付ヲ爲スコトヲ得、營業ノ都合ニヨリテハ國債證券、地方債券其ノ他確實ナル有價證券ヲ買入ルヽコトヲ得ルモノトス

朝鮮銀行ハ京城ニ本店ヲ有シ支店ヲ大阪、仁川、平壤、大邱及元山ノ五ヶ所ニ設ケ出張所ヲ鎭南浦群山、木浦、馬山、咸興、城津、新義州及安東縣ノ八箇所ニ有セリ

朝鮮銀行一覽　明治四十四年九月末現在

（イ）總況

公稱資本金	拂込資本金	積立金	政府貸下金	預金	貸付金	銀行券發行高	支店出張所數
一〇、〇〇〇、〇〇〇円	五、〇〇〇、〇〇〇円	一六、一五〇円	一、三三〇、〇〇〇円	六、六三三、一三八円	八、二〇六、三三九円	二五、六九二、九〇〇円	一四

（ロ）預金（圓）

公金預金	定期預金	當座預金	特別當座預金	預金手形	別段預金	通知預金	計
八〇三、三六一	一、〇三九、〇八八	二、二二六、三二一	一、四五一、六一五	一八、五一〇	五九四、六七一	五一九、五八二	六、六三三、一三八

（ハ）貸借（圓）

貸借別	政府貸下金	創立費貸下金	日本銀行ヨリ借	定期貸	當座貸越	割引手形	約束手形	荷爲替手形	計
借入金	一、二〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	一、二二〇、〇〇〇
貸出金	四、五九四、六七七	—	—	三、二一七、二八三	四九五、〇五六	二、二〇〇、七〇五	三、二四九、七五八	四三、四三七	一三、八〇〇、九一六

(二) 利率

預金利率		
當座預金	日歩	七厘
特別當座預金	日歩	一錢
定期預金	年利	四分五厘ヨリ五分
諸預金	日歩	一錢

貸出金利率		
割引手形	日歩	二錢一厘ヨリ二錢六厘
定期貸	同	二錢三厘ヨリ三錢八厘
當座貸越	同	二錢四厘ヨリ三錢三厘

三 內地人設立銀行

朝鮮ニ於ケル內地人ノ設立ニ係ル銀行ハ第一銀行、十八銀行、百三十銀行、周防銀行及密陽銀行ニ

シテ獨リ密陽銀行ハ貯蓄ヲ專業トスルモ其ノ他ハ皆普通銀行ニシテ日本ニ本店ヲ有シ朝鮮ニ於ケルモノハ孰モ其ノ支店若ハ出張所ナリ元來是等ノ銀行ハ在留內地人ノ金融ヲ計ル爲ニ設置セラレタルモノナレトモ今ヤ朝鮮人、淸國人中ニモ取引ヲナセルモノ尠カラス

內地人設立銀行一覽（圓）（△ハ借）明治四十四年九月末現在

銀行名	朝鮮ニ於ケル支店、出張所數	公稱資本金	拂込資本金又ハ朝鮮支店元金	預金	貸出金	所有物	借入金及爲替貸借尻	遊金
第一銀行	二	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	四、三七七、〇〇九	二、二六二、七三三	一一八、五〇九	三、五六九、八九九	二七九、四二七
十八銀行	八	三、〇〇〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇	三、四三六、一六三	三、二〇七、二七四	三五一、七二五	△一二八、三六六	二六五、二九九
百三十銀行	五	五、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、五〇一、五九九	二、五二九、三三四	七九一、七二四	△一、二七五、四九五	一三四、七五八
周防銀行	一	一、二五〇、〇〇〇	—	一四〇、一五五	二五九、二八五	三〇、八三四	△一九七、九〇四	五一、八八一
密陽銀行	—	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五、四〇八	五七、四四八	一七、六八六	△一六、六〇〇	一、四四〇
東洋拓殖株式會社金融部	—	—	三、二五〇、〇〇〇	—	五九〇、五七三	—	三、三〇八、三六六	一、六二六、二八一
計	一六	一九、三〇〇、〇〇〇	六、九五〇、〇〇〇	八、四六〇、三三四	八、九〇六、六三七	一、三一〇、四七八	四、一五九、八〇〇	二、三五九、〇八六

四　朝鮮人設立普通銀行

朝鮮ニ於ケル普通銀行ハ天一、漢城及韓一、ノ三銀行ニシテ孰モ京城ニ本店ヲ有セリ而シテ天一銀行ハ併合後朝鮮商業銀行ト改稱セリ

朝鮮人設立普通銀行一覽（圓）　明治四十四年九月末現在

銀行名	公稱資本金	拂込資本金	政府貸下金	積立金及前期繰越金	預金	貸出金
朝鮮商業銀行	五〇〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇	一八〇、〇九六	八七、八〇四	六八六、〇八七	八九九、六四一
漢城銀行	三、〇〇〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一一、〇七七	一、一七〇、八五五	一、〇三〇、五九一
韓一銀行	五〇〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇	—	八一、八四七	八五九、四四二	九六〇、三九三
計	四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二八〇、〇九六	一八〇、七二八	二、七一六、三八四	二、八八〇、六二五

五　農工銀行

舊韓國政府ハ明治三十九年三月農工銀行條例ヲ發布シ翌月ヨリ之カ設立ニ著手シ或ハ政府ニ於テ株式ヲ引受ケ或ハ無利子貸下金ヲ爲シ全國各道所在地ニ一箇所宛ノ本店ヲ設置セシカ後日經濟交通上ニ鑑ミル所アリ更ニ之カ併合ヲ行ヒ現今全國ヲ通シ本店六ケ所（京城、平壤、大邱、全州、光州及

元山）ヲ有シ支店、出張所二十九箇所ヲ樞要ノ地ニ設置セリ

各農工銀行ノ業務ノ要項ハ

一　年賦又ハ定期償還ノ方法ニ依リ不動產擔保貸付ヲ爲スコト

二　法令ヲ以テ組織セラレタル公共團體ニ對シ無擔保ニテ前項ノ貸付ヲ爲スコト

三　二十人以上ノ農業者又ハ工業者連帶責任ニテ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用確實ナルモノニ限リ五箇年以內ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無擔保貸付ヲ爲スコト

ニシテ前三項ノ貸付ハ開墾、排水、灌漑及土地、土質ノ改良、殖林事業等ノ農工業ノ爲ニ使用スルモノナルコトヲ目的トス尙商業手形割引並爲替預金等普通銀行業務ヲ兼營スルモノアリ

農工銀行一覽（圓）　明治四十四年九月末現在

銀行名	所在地	公稱資本金	拂込資本金	積立金前期繰越金	預金	貸出金	農工債券發行高	政府貸下金	支店出張所數
漢湖農工銀行	京畿道京城府	四〇〇,〇〇〇	二四三,九〇〇	五三,七二九	一,六〇二,三三六	二,三二四,二一三	二〇五,〇〇〇	三四九,二〇〇	七

銀行	所在地							
平安農工銀行	平安南道平壤府	二〇〇、〇〇〇	一三〇、八八五	五五、〇一八	六八三、七八七	一、七六三、五三二	一七〇、〇〇〇	三二四、五〇〇	七
慶尚農工銀行	慶尚北道大邱府	二〇〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	四八、〇九二	九九五、〇〇九	一、二七八、四三二	一七〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	六
全州農工銀行	全羅北道全州	一〇〇、〇〇〇	九二、三三〇	二九、〇四〇	三三七、五三一	五一四、〇一三	八五、〇〇〇	三〇、七六〇	二
光州農工銀行	全羅南道光州	一〇〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	三三、四二一	三九七、九〇五	五三三、八〇七	一三五、〇〇〇	七〇、〇〇〇	三
咸鏡農工銀行	咸鏡南道元山府	二〇〇、〇〇〇	七九、八三五	九、〇五六	五一二、〇六八	四七〇、五二一	一五〇、〇〇〇	一六〇、三三〇	四
合計		一、二〇〇、〇〇〇	七二五、八四〇	二三六、三五六	四、四七七、〇六九	六、九二四、〇五三	九一五、〇〇〇	一、一三四、六八〇	二九

六　漢城共同倉庫株式會社

明治三十八年九月共同倉庫章程發布セラレ同年十二月、舊韓國政府ハ拾五萬圓ノ資金ヲ貸下ケ政府ノ特別監督ノ下ニ漢城共同倉庫株式會社ヲ設立セリ而シテ其ノ業務ハ貨物ノ寄託ヲ引受ケ預證券ヲ發行シ商品擔保貸付ヲ爲スニアリ

同社ハ仁川、江景、平澤ニ出張所ヲ設置シ今ヤ本店及出張所ヲ合シテ倉庫十八棟、建坪千二百坪餘

ヲ有セリ

漢城共同倉庫株式會社一覽（圓）

年次	支店出張所	資本金	拂込資本金	舊韓國政府補助		諸積立金	諸貸出金	純益金
				引受株	貸下金			
明治四十四年九月末	三	一五〇、〇〇〇	五九、五五〇	二九、四〇〇	二八六、六〇〇	六五、四四九	一二二、七七九	四、九三三
同　四十三年	三	一五〇、〇〇〇	五九、五五〇	二九、四〇〇	二八六、六〇〇	五六、〇〇〇	二三一、七〇三	一二、一八八
同　四十二年	三	一五〇、〇〇〇	五九、五五〇	二九、四〇〇	三四六、六〇〇	四九、五〇〇	二一九、二二一	一四、四六三
同　四十一年	三	一五〇、〇〇〇	五九、五五〇	二九、四〇〇	二五〇、六〇〇	二七、二一三	二一九、六四五	八、六七〇
同　四十年	三	一五〇、〇〇〇	五九、五五〇	二九、四〇〇	二五〇、六〇〇	二〇、〇〇〇	三二八、七九九	一二、七四七

七　手形組合

明治三十八年九月手形組合條例及約束手形條例發布セラレ同年十二月在京城有力ナル商民ヲシテ手形組合ヲ組織セシメ組合員ノ發行スル手形ハ組合自ラ之カ支拂保證ヲ爲スコトヽシ以テ手形ノ流通ヲ確實ナラシメ又政府ハ之ニ補助金ヲ交附シ以テ之カ流通ヲ奬勵セリ爾後平壤、大邱、晋州、全州

光州、鎭南浦竝水原ニ本支所ヲ設立シ手形ノ効力ハ漸ク商人間ニ周知セラルヽニ至レリ

手形組合一覽　各年末現在

年次	組合數	組合員	基本金	積立金	保證及支拂額			
					前年繰越	本年保證高	本年支拂高	年末現在高
明治四十四年六月末	六	—	三一三、三〇〇円	七三、一一一円	九四三、六九七円	二、一四四、八九五円	二、三三三、五四五円	七五五、〇四七円
同　四十三年	六	六二九	三一三、三〇〇	六〇、八五〇	八〇四、三六五	三、七六二、四八四	三、六二三、一五二	九四三、六九七
同　四十二年	六	五八〇	三一三、三〇〇	五一、六八三	八九三、九四〇	三、四八三、四三九	三、五七三、〇一四	八〇四、三六五
同　四十一年	六	五三六	三三〇、〇〇〇	四一、四二〇	一、〇二七、八一〇	三、八五七、四三〇	三、九九一、三〇〇	八九三、九四〇
同　四十年	六	四三三	三四〇、〇〇〇	一八、九二〇	五三九、五九〇	三、七三三、二八九	三、二四五、〇六九	一、〇二七、八一〇
同　三十九年	六	二〇一	二五〇、〇〇〇	五、五〇〇	—	一、三六三、三一九	八二三、七二九	五三九、五九〇

八　地方金融組合

地方金融組合ハ、地方小農民間ノ金融ヲ緩和シ農業發達ヲ企圖スルノ趣旨ヨリ出テシモノニシテ朝鮮ノ如キ積年ノ秕政ノ下ニ困憊セル細民ヲシテ生計ノ餘裕ヲ得セシメ地方産力ノ増進ヲ圖ルハ經濟

發展上、最急ノ事業ナルヲ以テ舊韓國政府ハ明治四十年五月地方金融組合規則ヲ制定シ次テ各地ニ金融組合ヲ設置セシメ各組合ニ對シテ基本金一萬圓ヲ下付シ理事ヲ推薦シ二三組合兼務ノ農業技手ヲ置キ模範農事ヲ奬勵セリ各組合ハ一郡又ハ二三郡ヲ以テ其ノ區域ト爲シ其ノ區域内ノ農民ヲ以テ組合員トシ、組合員ニハ一人金五十圓ヲ限度トシテ(一)農工業資金ヲ貸與シ(二)生産物ノ委託販賣及必需品ノ共同購入ヲ取扱ヒ(三)貨物集散ノ地ニ在ル組合ハ倉庫ヲ建造シ米穀ヲ擔保トシテ貸付ヲ行ヘリ現今組合總數既ニ百三十箇所ニ達セリ

地方金融組合營業總況　明治四十四年九月調

地方	基本金	組合數	組合區域(郡數)	組合員	貸付金
京畿道	円 一二〇、〇〇〇	一二	三二	三、四七六	円 一〇一、二五四
忠清南道	一三〇、〇〇〇	一三	三八	四、八八六	一一〇、九三三
忠清北道	七〇、〇〇〇	七	一六	二、二七七	五九、三八二
全羅南道	一五〇、〇〇〇	一五	二六	六、〇一七	一四三、四六五
全羅、北道	一三〇、〇〇〇	一三	二七	四、九五四	一一〇、七〇六

慶尙南道	一二〇、〇〇〇	一二	二六	四、二七六	七八、一一八
慶尙北道	一二〇、〇〇〇	一二	三五	五、〇一七	八六、〇三八
黃海道	八〇、〇〇〇	八	一九	三、二〇九	七七、〇一三
江原道	九〇、〇〇〇	九	一五	二、八九八	七九、二八七
平安南道	七〇、〇〇〇	七	一九	二、二八七	五八、四六八
平安北道	七〇、〇〇〇	七	一六	二、三〇四	四五、六九九
咸鏡南道	一一〇、〇〇〇	一一	一一	三、八一七	七七、一四八
咸鏡北道	四〇、〇〇〇	四	五	一、一三三	二八、〇三三
總計	一、三〇〇、〇〇〇	一三〇	二八五	四六、五五一	一、〇五五、五四四
明治四十三年	一、三〇〇、〇〇〇	一三〇	三〇九	四〇、七一六	七七四、三二九
同四十二年	一、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇	二六六	二六、一三八	四七〇、一八一
同四十一年	四八〇、〇〇〇	四八	一六〇	一六、九九三	二一〇、八七八
同四十年	九〇、〇〇〇	九	五四	三、六一〇	二二、六〇七

第五章　農業

一　土地

朝鮮半島ノ地ハ一見禿山隆々タルモ沃野饒田到ル處農業ニ適セサルハナシ殊ニ南部地方ハ氣候溫暖ニシテ農産物ノ發育最モ佳良ニ中部ニ於テハ冬季ハ稍寒氣强シト雖麥類ノ如キ冬作物ノ腐敗スル恐ナク且四月以降ハ氣溫上ルカ故ニ生育ニ宜シク空氣ハ乾燥セルヲ以テ收穫物ノ品質良好ナリ夏作物ノ水稻ノ如キハ氣候ノ關係ヨリセバ其生育良好ナルヘキモ用水ノ完備セサルヲ以テ揷秧意ノ如クナラズ或ハ旱害ヲ被ルコトアルモ灌漑耕作ニ留意スルアラハ好果ヲ擧クルコト必セリ今ヤ耕地ノ調査ニ著手セリト雖完了ヲ見サルカ故ニ正確ナル耕地面積ヲ擧クルニ由ナキモ推算スレハ大要左ノ如シ

地方	田	畑	計
京畿道	一一五、五七六・〇町	一一〇、四四五・九町 △一、五二七・九	二二七、五四九・八町
忠淸北道	三〇、二五〇・六	三〇、一八五・八 △一、九五九・二	六二、三九五・六

道		△		
忠清南道	八〇、〇〇六・一	△	二九、九〇四・三　一四四・〇	一一〇、〇五四・四
全羅北道	七六、一五九・三	△	二〇、四九二・八　二〇一・五	九六、八五三・六
全羅南道	一二二、四二五・九	△	一一二、六五八・九　八、二五八・九	二四三、三四三・七
慶尚北道	一一三、七四七・〇	△	七六、五四三・五　三九〇・五	一九〇、六八一・〇
慶尚南道	八二、九〇三・二	△	四八、三四〇・八　一七七・八	一三一、四二一・八
黄海道	七一、七三一・四	△	一六〇、五九〇・五　一二、六四七・八	二四四、九六九・七
平安南道	三五、四七四・四	△	二〇〇、六七四・九　一五、六ト八・五	二五一、八一七・八
平安北道	四七、三八四・六	△	二〇六、〇〇四・〇　七二、九九七・四	三二六、三八六・〇
江原道	三三、〇三四・三	△	一二二、五七九・一　二二、八三九・四	一七八、四五二・八
咸鏡南道	二四、二七五・三	△	一〇一、六七一・七　六九、八三四・七	一九五、七八一・七
咸鏡北道	八、〇二〇・二	△	一〇一、二七六・八　三〇、八三七・一	一四〇、一三四・一
合計	八四〇、九八八・三	△	一、三二一、三六九・〇　二三七、四八四・七	二、三九九、八四二・〇

備考　京城府ハ調査未了ニ付本表中ニ含マス

△印ヲ附シタルハ休閑地及焼畑ナリ

然リ而シテ朝鮮ニ於ケル未墾地ハ近年多數内國人ノ移住スルニ隨ヒ漸次開拓セラルルニ至レリト雖尙到ル處ニ散在セリ從前調査シタル各道別反別左ノ如シ

未墾地分布表

地方	河邊未墾地	山林原野	干潟	合計
	町	町	町	町
京畿道	五五、一九六	四〇、〇四〇	三七、一四二	一三二、三七八
忠清北道	四、九二七	一〇、三九五	—	一五、三二二
忠清南道	三一、七二四	一九、八五七	一二、〇五四	六三、六三五
全羅北道	一六、四〇〇	五一、六二七	五、八四九	七三、八七六
全羅南道	八、九四八	九七、二五一	四〇、二五一	一四六、四五〇
慶尚北道	三七、三八七	四六、三一〇	—	八三、六九七
慶尚南道	三三、八四一	七七、五八五	五、〇四五	一一六、四七一
黄海道	二七、九二〇	三九、八五二	五〇、五七九	一一八、三五一
平安南道	四二、八一八	四五、二一四	四三、八六八	一三一、九〇〇
平安北道	一五、九五二	一二、四七七	一二、六八一	四一、一一〇
江原道	一〇、七四九	四一、四七〇	—	五二、四八九
咸鏡南道	二七、〇六三	五八、七三九	—	八五、八〇二
咸鏡北道	一七、八七四	一〇五、七六六	—	一二三、六四〇
合計	三三〇、七九九	六四六、八五三	二〇七、四六九	一、一八五、一二一

一　前記ノ未墾地カ從來開拓セラレサリシ所以ノモノハ主トシテ旱水害アリシニ依ルモ一ハ朝鮮ノ人口稀薄ナルト農民ノ資力及智識ノ程度之ニ伴ハサルト開拓者ニ對スル所有權保護ノ途備ハラサリシニ基因ス依テ明治四十年國有未墾地利用法ヲ發布シ左記ノ趣旨ヲ以テ之カ利用ヲ奬勵セリ

イ　貸付期間ヲ十箇年トシ開墾牧畜植樹ニ付テハ特別ノ事由アルモノノ外事業成功後付與スルコトトシ其ノ他ノ利用ニ付テハ拂下ク

ロ　貸付料ハ一町歩年額五十錢トシ特別ノ事由アルモノニ對シテハ之ヲ減免ス

ハ　事業成功後付與又ハ拂下タル土地ノ稅率ハ其ノ土地所在ノ道ニ於ケル最下級ニ屬スル土地ノ負擔ノ三分ノ一トス

一　未墾地中ニハ一地區ニシテ百町歩以上ノ大面積アルモノ少カラス此等ノ設計調査ハ相當ノ費用ト技術ヲ要シ一般出願人ニ對シ精確ナル調査ヲ望ムヘカラサルノミナラス豫メ官廳ニ於テ之ヲ調査シ確實ナル利用方法ヲ示スハ奬勵上將タ處理上其ノ効果少カラサルヲ以テ明治四十四年度ヨリ之カ調査ヲ開始セリ

一　明治四十四年六月末日ニ於ケル國有未墾地ノ貸付ノ狀況ヲ示セハ左表ノ如シ

國有未墾地貸付表

明治四十四年六月末日現在

地方	日鮮人區別	原野 反別	原野 件數	荒蕪地 反別	荒蕪地 件數	草生地 反別	草生地 件數	沼澤地 反別	沼澤地 件數	干潟 反別	干潟 件數	計 反別	計 件數
京畿道	日人	三四町	三	一八町	一	三九五町	五	町		二五七町	四	七〇四町	一三
	鮮人	—	—	—	—	四八二	一八	七	一	六二六	一一	一、一一五	三〇
忠清北道	日人	—	—	—	—	二五五	二	—	—	—	—	二五五	二
	鮮人	—	—	—	—	一二	二	—	—	—	—	一二	二
忠清南道	日人	一五〇	三	—	—	一四四	一〇	三	一	七九九	二	一、〇九六	一六
	鮮人	—	—	一五〇	二	一〇	二	—	—	八五七	七	一、〇一七	一一
全羅北道	日人	—	—	二	一	—	—	—	—	—	—	二	一
	鮮人	—	—	—	—	一八四	二	—	—	七八	二	二六二	四
全羅南道	日人	—	—	—	—	四一二	九	—	—	八四五	四	一、二五七	一三
	鮮人	—	—	—	—	七	二	—	—	一、〇一二	一〇	一、〇一九	一二
慶尙北道	日人	五〇	一	一〇四	三	一七〇	六	—	—	—	—	三二四	一〇
	鮮人	—	—	—	—	二一	三	—	—	—	—	二一	三
慶尙南道	日人	七二	五	一七四	八	一三九	一三	四七	一	九八	四	五三〇	三一
	鮮人	—	—	二六六	二	四四三	七	一三九	一	五七六	七	一、四二四	一七

黄海道 日人	黄海道 鮮人	平安南道 日人	平安南道 鮮人	平安北道 日人	平安北道 鮮人	江原道 日人	江原道 鮮人	咸鏡南道 日人	咸鏡南道 鮮人	咸鏡北道 日人	咸鏡北道 鮮人	合計 日人	合計 鮮人	合計 計
—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二九六	二	二九八
—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	一	四
八	六	—	—	—	二四	—	—	—	—	—	—	三二六	四五八	七八四
一	二	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	一四	七	二一
一三	八九	—	二九	五	三	—	—	六四	一七三	九三	—	二、五一八	一、四六二	三、九八〇
二	五	—	四	一	二	—	—	一	三	二	—	五一	五〇	一〇一
—	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五〇	一六七	二一七
—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	三	五
六六	一、二〇六	一六二	七九五	—	二五四	—	—	—	—	—	—	二、二三七	五、四〇四	七、六四一
二	一五	二	七	—	五	—	—	—	—	—	—	一八	六四	八二
九六	一、三三六	一六二	八二四	五	二九〇	—	—	六四	一七三	九三	—	五、四一七	七、四九三	一二、九一〇
五	二四	二	一	一	八	—	—	一	三	二	—	九七	一二五	二二二

便宜ノ爲耕地ノ價格ニ付キテ一言セムニ地價ノ高低ハ地方ニ依リ一樣ナラスト雖地味ノ善悪交通ノ便否都市トノ距離等ニ因リテ定マルハ勿論ニシテ近時朝鮮農事ノ有利ナルヲ見テ内地人ノ爭ヒテ土地ヲ買フモノヲ生シタルノ結果價格頓ニ暴騰シタリ左ニ各地ノ地價及收益ノ一般ヲ例示セム

田、畑一反歩平均價格（明治四十三年）

地方	田 上	田 中	田 下	畑 上	畑 中	畑 下
	円	円	円	円	円	円
京畿道	四五・〇〇	三二・五〇	一七・五〇	三〇・〇〇	一七・五〇	七・〇〇
忠清北道	三二・〇〇	二八・〇〇	二〇・〇〇	一八・〇〇	一二・〇〇	七・〇〇
忠清南道	四四・五〇	三一・〇〇	一七・二〇	一九・五〇	一一・〇〇	六・九〇
全羅北道	四九・〇〇	三二・五〇	二〇・〇〇	一七・一〇	一一・二〇	六・九〇
全羅南道	四三・二〇	三二・七〇	二二・九〇	一七・九〇	一三・六〇	六・〇〇
慶尚北道	五八・九〇	三七・七〇	二四・四〇	二〇・五〇	一四・〇〇	八・八〇
慶尚南道	八〇・〇〇	五五・〇〇	三二・五〇	四五・〇〇	三七・五〇	二〇・〇〇
黄海道	三五・〇〇	二五・〇〇	一五・〇〇	二五・〇〇	二〇・〇〇	七・〇〇
平安南道	三八・五〇	二八・三〇	二〇・三〇	二二・九〇	一五・五〇	八・九〇
平安北道	四七・二〇	三六・二〇	二二・九〇	二六・七〇	一九・八〇	一一・七〇
江原道	三六・五〇	二七・五〇	一六・六〇	一四・〇〇	一一・六〇	五・三〇
咸鏡南道	七〇・〇〇	五五・〇〇	四五・〇〇	五五・〇〇	四五・〇〇	三五・〇〇
咸鏡北道	二九・三〇	二〇・二〇	一三・八〇	三六・九〇	二〇・〇〇	一〇・九〇

內地人經營農作物ノ一段歩ニ對スル收入

水稻（圓）

		種別	水原附近	木浦附近	光州附近	平壤附近	大邱附近
收入		籾	一二・〇〇〇	八・〇〇〇	七・〇〇〇	九・六〇〇	九・九〇〇
		藁	二・〇〇〇	一・三六〇	一・二〇〇	四・五〇〇	一・五〇〇
		合計	一四・〇〇〇	九・三六〇	八・二〇〇	一四・一〇〇	一一・四〇〇
支出	苗代	種子	〇・三〇〇	〇・三二〇	〇・二八〇	〇・二〇〇	〇・四二〇
		肥料	〇・五七五	〇・三九〇	〇・三九〇	〇・一〇〇	〇・七五〇
		整地	〇・四四〇	〇・四五〇	〇・三七五	〇・一七五	〇・四五〇
		播種	〇・〇四八	〇・一五〇	〇・一二五	〇・一七五	
		除草其他ノ管理	〇・二〇〇	〇・三〇〇	〇・二五〇	〇・七〇〇	〇・二五〇
	本田	整地	一・八〇〇	一・一〇〇	〇・八五〇	一・八五〇	〇・八七五
		肥料	一・二〇〇	一・二五〇	一・二五〇	一・五〇〇	〇・七五〇
		挿秧	〇・八〇〇	〇・六〇〇	〇・五〇〇	一・〇五〇	〇・三七五
		施肥、中耕除草其他ノ管理	一・六〇〇	一・五〇〇	一・二五〇	二・六二五	一・五〇〇

大豆（圓）

種別	收入 大豆	收入 莢稈	收入 合計	支出 種子	支出 肥料	支出 整地	支出 播種	支出 刈取及運搬	支出 調製	支出 地租	支出 合計	差引益金
水原附近	六・〇〇〇	〇・六〇〇	六・六〇〇	〇・二四〇	―	〇・三〇〇	〇・二五〇	〇・七二〇	一・一〇〇	〇・四〇〇	九・一八三	四・八一七
木浦附近	二・九四〇	〇・九〇〇	三・八四〇	〇・一六八	―	〇・八〇〇	〇・三〇〇	〇・六〇〇	〇・七五〇	〇・六〇〇	八・〇一〇	一・三五〇
光州附近	二・八〇〇	〇・九〇〇	三・七〇〇	〇・一四四	―	〇・六〇〇	〇・二五〇	〇・五〇〇	〇・六二五	〇・九〇〇	七・二九五	〇・九〇五
平壤附近	六・〇〇〇	〇・八〇〇	六・八〇〇	〇・三六〇	〇・五〇〇	〇・五〇〇	〇・五二五	一・五五〇	一・〇五〇	〇・二四五	一一・二二〇	二・八八〇
大邱附近	四・〇〇〇	〇・四〇〇	四・四〇〇	〇・三〇〇	―	〇・六〇〇		〇・八七五		〇・六八五	六・九三〇	四・四七〇

大麥（圓）

種別	收入 麥	收入 麥稈	收入 合計	支出 種子	支出 肥料	支出 整地	支出 肥料、中耕、其ノ他ノ管理	支出 刈取及運搬	支出 調製	支出 地租	支出 合計	差引益金
水原附近	五・一〇〇	〇・七七〇	五・八二〇	〇・三六〇	一・六五〇	〇・三〇〇	〇・六二五	〇・三〇〇	〇・三〇〇	〇・一〇〇	二・一一五	四・四八五
木浦附近	六・〇〇〇	〇・六七五	六・六七五	〇・三〇〇	二・二〇〇	〇・八〇〇	一・二〇〇	〇・四五〇	〇・四五〇	〇・二〇〇	三・五六八	〇・二七二
光州附近	五・〇〇〇	〇・五四〇	五・五四〇	〇・二五〇	二・二〇〇	〇・六〇〇	〇・七二〇	〇・三七五	〇・三七五	〇・二二五	二・六八九	一・〇一一
平壤附近	—	—	—	—	—	—	〇・六六〇	一・二〇〇	〇・七〇〇	〇・二〇八	四・六五三	二・一四七
大邱附近	四・五〇〇	〇・二四〇	四・七四〇	〇・二四〇	〇・七五〇	一・八〇〇	二・七五〇			〇・二二五	三・八七五	〇・五二五

小麥（圓）

種別	木原附近	木浦附近	光州附近	平壌附近	大邱附近
收入　小麥	七・八〇〇	—	—	四・四〇〇	六・〇〇〇
收入　麥稈	〇・九六〇	—	—	一・〇〇〇	〇・二四〇
收入　合計	八・七六〇	—	—	五・四〇〇	六・二四〇
支出　種子	〇・五二〇	—	—	〇・三三〇	〇・四八〇
支出　肥料	一・六五〇	—	—	一・五〇〇	〇・七五〇
支出　播種	〇・五二五	〇・四五〇	〇・三七五	—	二・二五〇（播種・施肥管理・刈取及搬運・調製）
支出　施肥管理	〇・六七五	〇・六〇〇	〇・五〇〇	—	
支出　刈取及搬運	〇・四〇〇	〇・四五〇	〇・三七五	—	
支出　調製	〇・六五〇	〇・六〇〇	〇・五〇〇	—	
支出　地租	〇・一〇〇	〇・二〇〇	〇・二二五	—	〇・二二五
支出　合計	四・六六〇	五・六〇〇	五・〇二五	—	五・二六五
差引益金	一・一六〇	一・〇七五	〇・五一五	—	（損）〇・五二五

粟（圓）

種別	水原附近	木浦附近	光州附近	平壌附近	大邱附近
出 整地	〇・三〇〇	—	—	〇・五〇〇	一・八〇〇
出 播種	〇・五二五	—	—	〇・七〇〇	二・二五〇（播種、施肥、中耕、除草其他管理、刈取及運搬、調製）
出 施肥、中耕、除草其他管理	〇・七七五	—	—	〇・八八〇	
出 刈取及運搬	〇・六〇〇	—	—	一・二〇〇	
出 調製	〇・六五〇	—	—	〇・五二五	
出 地租	〇・一〇〇	—	—	〇・二〇八	〇・二二五
出 合計	五・一二〇	—	—	五・八四三	五・五〇五
差引益金	三・六四〇	—	—	（損）〇・四四三	〇・七三五
收入 粟	四・五〇〇	二・三一〇	二・一〇〇	四・二〇〇	—
收入 粟稈	一・五〇〇	〇・七五〇	〇・六五〇	一・四〇〇	—
收入 合計	六・〇〇〇	三・〇六〇	二・七五〇	五・六〇〇	—
種子	〇・〇一〇	〇・〇九九	〇・〇九〇	〇・七〇〇	—

陸地棉（圓）

種別		水原附近	木浦附近	光州附近	平壌附近	大邱附近
支出	肥料	〇・三〇〇	―	―	一・五〇〇	―
	整地	〇・五〇〇	〇・八〇〇	〇・六〇〇	〇・五〇〇	―
	播種	〇・七二五	〇・三〇〇	〇・二五〇	〇・〇七〇	―
	施肥、中耕、除草其ノ他ノ管理	一・二五〇	一・五〇〇	〇・九〇〇	〇・八八〇	―
	刈取及運搬	一・〇〇〇	〇・四五〇	〇・三七五	一・二〇〇	―
	調製	〇・三七五	〇・三〇〇	〇・二五〇	〇・七〇〇	―
	地租	〇・一〇〇	〇・二〇〇	〇・二二五	〇・二〇八	―
	合計	四・二六〇	三・六四九	二・六九〇	五・七五八	―
差引益金		一・七四〇	（損）〇・五八九	〇・〇六〇	（損）〇・一五八	―
收入	陸地棉	九・〇〇〇	八・六〇〇	一二・九〇〇	―	一一・〇〇〇
	莖	〇・八〇〇	〇・七五〇	〇・八二五	―	一・三〇〇
	合計	九・八〇〇	九・三五〇	一三・七二五	―	一二・三〇〇

在來棉（圓）

	水原附近	木浦附近	光州附近	平壤附近	大邱附近
支出 種子	〇・四〇〇	〇・二二五	〇・二二五	—	〇・二二五
肥料	一・八五〇	〇・八四〇	一・二〇〇	—	二・二五〇
整地	一・〇〇〇	〇・八〇〇	〇・六〇〇	—	〇・六一三（整地・播種）
播種	一・〇〇〇	〇・四五〇	〇・三七五	—	
間引及除草管理	〇・七五〇	二・二五〇	一・八〇〇	—	一・七〇〇
中耕	〇・四〇〇	—	—	—	一・二五〇
摘心及除贅芽	一・二五〇	〇・七五〇	〇・四四〇	—	〇・四五〇
收穫及乾燥	一・二五〇	一・五〇〇	一・〇八〇	—	二・三五〇（收穫及乾燥・莖拔）
莖拔	〇・三〇〇	〇・六〇〇	〇・五〇〇	—	
地租	〇・二五〇	〇・二〇〇	〇・二二五	—	〇・五六〇
合計	八・四五〇	七・六一五	六・四五五	—	九・三九八
差引益金	一・三五〇	一・七三五	七・二七〇	—	二・九〇二

種別	水原附近	木浦附近	光州附近	平壤附近	大邱附近
在來棉	七・六四〇	五・二〇〇	六・五〇〇	八・三七〇	七・二〇〇

二　農業者

收入	莖	〇・六〇〇	〇・四五〇	〇・四九五	〇・三五〇	一・〇八〇
	荏	—	—	—	〇・三五〇	—
	胡麻	—	—	—	〇・三〇〇	—
	合計	八・二四〇	五・六五〇	六・九九五	九・三七〇	八・二八〇
支出	種子	〇・二五〇	〇・四五〇	〇・四五〇	〇・一〇〇	〇・四五〇
	肥料	一・八五〇	〇・八四〇	一・二〇〇	一・二五〇	二・二五〇
	整地	一・〇〇〇	〇・八〇〇	〇・六〇〇	〇・八一七	〇・六一三（整地・播種）
	播種	一・〇〇〇	〇・三〇〇	〇・二五〇	〇・七〇〇	
	間引、中耕、及除草	一・一五〇	二・二五〇	一・八〇〇	二・五〇〇	二・九五〇
	收穫及乾燥	一・二五〇	一・五〇〇	一・〇八〇	一・五〇〇	一・九〇〇（收穫及乾燥・整拔）
	整拔	〇・一二〇	〇・四五〇	〇・三七五	〇・七〇〇	
	地租	〇・二五〇	〇・二〇〇	〇・二二五	〇・二〇八	〇・五六〇
	合計	六・八七〇	六・七九〇	五・九八〇	七・七七五	八・七二三
差引益金		一・三七〇	（損）一・一四〇	一・〇一五	一・五九五	（損）〇・四四三

朝鮮ニ於ケル耕地ノ大部分ハ大地主（王族、閥族、兩班）ノ所有ニ係レリ而シテ鮮人ノ多クハ農事ヲ業トシ他人ノ田畑ヲ耕作シ一生小作ニテ甘ンスルモノ比々トシテ皆然リ而シテ大地主ノ多クハ都會ニ住居シ悠々自適山邑ニハ代理人ヲ置テ小作地ヲ整理シ小作人ヲ監督セシム小作ニハ三種ノ法アリ（一）地主土地ヲ貸與シ小作人ハ自ラ地租及種子ヲ出シテ耕作シ收穫ノ三分ノ一ヲ地主ニ納ムルモノト（二）地主地租及種子ヲ負擔シ其ノ收穫ヲ折半スルモノト（三）毎年豐凶ニ拘ラス小作料ノ一定セルモノトアリ、而シテ一般ニ行ハルヽハ（一）ノ三分ノ一法及（二）ノ折半法ニシテ（三）ノ定額法ハ至テ稀ナリ、而シテ小作ヲ約スルニハ成文ノ契約アルニハ非ス年限ノ定アルニモアラス唯口約ヲ以テ之ヲ定ムルノミ又小作人ハ地主ニ對シテ怠納ヲ爲スコト稀ナリ啻ニ朝鮮人地主ニ對シテノミナラス内地人地主ニ對シテモ從來嘗テ約ニ違キシ事ナク寧ロ安ンシテ長ク小作人タランコトヲ希フモノヽ如シ故ニ內地人ノ農業經營者ハ意外ニ便利ヲ感シツヽアリト云フ

農業者數一覽　　四十三年六月末日調

地方	内地人		朝鮮人		清國人		其ノ他ノ外國人	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
京畿道	三八五	一、二六四	二一二、六〇〇	九一七、六六五	二〇六	八七四	—	—
忠清北道	五二	一九三	一一〇、六二一	四八五、六四三	四	九	—	—
忠清南道	一六五	五〇三	一七四、二三二	七七八、四六四	二〇	六七	—	—
全羅北道	二七三	八九九	一七二、〇五九	七六五、七八八	一九	五七	一	三
全羅南道	二九三	九一〇	二七七、一六〇	一、二八八、二四七	八	二一	—	—
慶尙北道	二八〇	九〇五	二九〇、九四五	一、三一三、三五九	二	六	—	—
慶尙南道	四九八	一、六七六	二五四、七八一	一、〇九九、三〇〇	三	七	—	—
黃海道	四八	一一四	一八六、一四八	七三三、三四一	九	一五	—	—
平安南道	四四	一四五	一六四、〇三五	六六一、〇五九	四三	一二六	—	—
平安北道	一七	六四	一五五、七八二	七八八、六四二	三九	一九五	三	五
江原道	二五	七二	一四四、〇二八	五九四、七四〇	二	四	三	六
咸鏡南道	一九	五六	一二七、三七五	六五六、九一二	九	二四	三	八
咸鏡北道	三三	九二	六四、〇四八	三三五、七二〇	—	—	—	—
合計	二、一三二	六、八九二	二、三三三、八一四	一〇、四一八、八八〇	三六四	一、四〇五	一〇	二二

本表中京畿道京城府ハ調査未了ニ付掲上セス

前述セルカ如ク朝鮮農業ノ有望ナルニ鑑ミ內地人ノ經營者頗ル增加シ各道之ヲ見サルナキニ至レリ今四十三年末ニ於ケル狀況ヲ調査スルニ經營者二千二百五十四人、投資額一千三百七十三萬六千五百六十七圓、所有地面積田四萬二千五百八十五町四反步、畑二萬六千七百二十七町步山林原野一萬三千八百六十七町其他三千七百七十二町七反步合計八萬六千九百五十二町三反步ニシテ內投資額一萬圓以上ノ經營者ハ百七十二人、其ノ投資額九百五十六萬四千七百八十七圓、所有地合計五萬八千九百四十三町六反步ナリ次ニ投資額一萬圓以下ノ經營者ハ二千八十二人、其ノ投資額四百十七萬一千七百八十圓、所有地合計二萬八千八町七反步ナリ而シテ之等農業經營者ノ營農種別竝其ノ經營方法ヲ見ルニ營業種別ハ普通農事果樹蔬菜ノ栽培、桑園、造林等ニシテ經營方法ハ投資額一萬圓以上ノ經營者ハ大部分小作經營ニシテ其ノ自作地ハ小作地ノ僅ニ一分八厘ニ過キス左ニ各道別內地人農事經營表竝所有田、畑合計百町步以上ノ經營者七十人ノ各經營狀況ヲ揭ク

内地人農事經營表

（明治四十三年十二月末日現在）

(慶北)大邱、玄風(慶南)馬山、泗川(黃海)黃州、載寧、鳳山、各府郡內									
(全南)木浦、咸平、海南、羅州(慶北)慶山、永川、慈仁、河陽、清道、大邱、新寧(慶南)密陽、釜山、金海、梁山(黃海)黃州、鳳山、各府郡內	六六九、三	六、一五三、六	四八、八	七、九	六、八七八、五	普通農事果樹蔬菜	自作小作	同三十七年九月	東京韓國興業株式會社
(京畿)仁川、水原、南陽、果川、安山(全北)靈岩、光州、南平、羅州、各府郡內	二、七三九、三	六五一、〇	六六二、六	三、七	四、〇五六、六	普通農事果樹造林	自作小作	同四十年一月	京畿水原東山農場
(慶南)馬山、咸安、金海、梁山、各府郡內	四〇七、八	九四一、三	一、一三八、一	二、三〇五、〇	四、六九二、一	普通農事果樹蔬菜桑園	自作小作	同三十八年三月	慶南金海村井農場
(全北)群山、臨陂、益山、萬頃、金堤、各府郡內	二、七九八、三	一一、六	三〇、〇	四、三	三、八四四、〇	普通農事	自作小作	同三十七年八月	全北益山大倉農場
(全北)群山、臨陂、泰仁、金堤、古阜、金溝、各府郡內	三、三八六、〇	一八四、〇	一三、〇	—	三、四八三、〇	普通農事	自作小作	同三十六年十月	全北泰仁熊本農場
(全北)金堤、金溝、泰仁、扶安、古阜、各郡	一、二四〇、七	三〇、七	四四一、〇	一、七	一、六四、一	普通農事	自作小作	同四十一年	全北金堤石川縣農業株式

內								七月	會社
(京畿)水原、安山(忠南)恩津、連山、扶餘、魯城、鴻山、龍安、林川、石城(全北)礪山(全南)木浦各府郡內	八二五、一	三〇一、三	一三九、〇	三三、三	一、三八八、七	普通農事	小作	同三十九年十月	京畿水原 國武合名會社
(全北)益山、臨陂、群山、礪山、萬頃(忠南)恩津、石城、林川、魯城、各府郡內	一、一七三、九	六八、八	二〇、六	—	一、二六三、三	普通農事	小作	同三十七年五月	全北益山 藤本農場
(黃海)黃州(平南)龍岡各府郡內	一七九、〇	九二九、六	一五〇、〇	一五、〇	一、二七三、六	普通農事 果樹 牧畜 造林	自作 小作	同四十年二月	黃海黃州 森農場
(全南)木浦、咸平、羅州、海南、康津、靈岩、各府郡內	六九三、一	三九三、六	六、〇	一、三	一、〇九三、九	普通農事	小作	同三十九年三月	香川縣綾歌郡 朝鮮實業株式會社
(全北)益山、金堤、萬頃(忠南)德山、禮山各郡內	七八〇、六	八〇、六	二九、二	、三	八九〇、七	普通農事	小作	同四十年九月	全北益山 大橋農場
(黃海)黃州郡內	一〇、〇	八二五、六	二〇、七	—	八四六、三	普通農事 造林	自作 小作	同三十七年十二月	黃海黃州 明治農會
(全北)群山、益山、臨陂、咸悅、各府郡內	三六六、〇	六五、〇	一〇〇、〇	四、九	五三五、九	普通農事 造林	自作 小作	同三十八年四月	全北臨陂 川崎農場

(全南)光州、南平、羅州各郡內	一六八、六	四四四、七	二八、三	九	六四二、四	普通農事	自作小作	同三十九年六月	全南南平 峰農場
(全北)古阜、臨陂、萬頃扶安、群山、各府郡內	四一八、〇	一七、〇	一五、〇	—	四五〇、〇	普通農事	自作小作	同三十七年十月	全北古阜 大森農場
(全北)群山、臨陂、咸悅萬頃、各府郡內	三〇二、〇	七〇、〇	四五、一	—	四一七、一	普通農事果樹蔬菜桑園	自作小作	同三十六年十二月	全北臨陂 島谷農場
(全南)木浦、光州、康津羅州、各府郡內	二七八、四	八七、五	四二、〇	—	四〇七、九	普通農事造林	自作小作	同三十九年三月	全南光州 旭農場
(全北)金堤、全州、萬頃(忠南)恩津、各郡內	三三七、〇	二九、五	—	—	三六六、五	普通農事	小作	同三十七年九月	全北益山 細川農場
(全南)珍島郡內	一〇〇、〇	三〇〇、〇	一〇〇、〇	—	四〇〇、〇	普通農事果樹造林桑園	自作小作	同四十年三月	全南珍島 朝日興業株式會社
(全北)益山、臨陂、萬頃群山、各府郡內	三五〇、〇	一一、〇	—	—	三六一、〇	普通農事	自作小作	同三十六年	全北群山 宮崎農場
(慶南)釜山、金海、巨濟昌原、密陽(慶北)大邱、釜山、仁同(全北)益山、金堤、群山(忠南)舒川、各府郡內	二五六、一	九九、七	二、三	—	三五八、〇	普通農事造林	小作	同三十五年五月	慶南釜山 大池農場

(全南)木浦、康津、南平羅州、咸平、各府郡內	二六三、一	八八、九	—	—	三五二、〇	普通農事	小作	同三十九年十月	香川縣綾歌郡鎌田農場
(全北)萬頃郡內	二五四、〇	七三、七	一五、八	一、三	三四四、八	普通農事	自作小作	同三十九年八月	全北群山中柴農場
(全北)臨陂、益山、各府郡內	三一一、〇	、四	—	—	三一一、四	普通農事	自作小作	同三十七年三月	全北臨陂楠田農場
(全北)金堤、金溝、泰仁各郡內	二五六、一	六〇、九	二一、〇	—	三三八、〇	普通農事	自作小作	同四十一年八月	全北金堤桝富農場
(全北)金堤、全州、萬頃各郡內	二一七、五	三二、五	一〇〇、〇	—	三五〇、〇	普通農事果樹桑園造林	自作小作	同三十年七七月	全北金堤木庭農場
(忠南)恩津、石城、林川(全北)礪山、各郡內	二三五、〇	一四、六	—	二七、〇	二七六、六	普通農事	小作	同三十七年十月	忠南江景光卷農場
(全南)南平、羅州、綾州咸平各郡內	七〇、一	一八八、三	九〇、三	五、六	三五四、三	普通農事	小作	同三十八年六月	全南榮山浦黑住農場
(黃海)黃州郡內	五〇、〇	一八〇、〇	一二〇、〇	—	三五〇、〇	果樹蔬菜桑園收畜造林	自作小作	同三十年八三月	黃海黃州大田農場
(慶南)蔚山郡內	七四、三	八二、五	二五八、〇	八八、五	五〇三、三	普通農事	自作小作	同三十九年十月	慶南蔚山開城社
(忠南)燕岐、全義(忠北)淸州、各郡內	一八五、三	七九、四	—	—	二六四、六	普通農事	小作	同四十年一月	忠南燕岐小倉農場

(慶南)馬山、固城、各府郡內	一〇八、三	一八、六	一三八、六	—	二六五、五	普通農事果樹造林	自作小作	同三十九年四月	慶南馬山　田中農場
(慶南)金海郡內	二五〇、〇	—	—	—	二五〇、〇	普通農事	小作	同四十二年三月	慶南金海　楠田農場（郁太郎）
(平南)平壤府內	二、一	二五三、九	—	—	二五六、〇	普通農事果樹桑園	自作小作	同三十九年二月	平南平壤　大橋農場（寅次郎）
(全北)益山、臨陂、咸悅各郡內	一九七、〇	三〇、五	二一、〇	—	二四八、五	普通農事	自作小作	同三十九年六月	全北益山　森谷農場
(忠南)恩津、扶餘、林川、石城、龍安(全北)礪山、各郡內	一七二、八	四三、五	二六、八	一、〇	二四四、一	普通農事	小作	同四十年一月	忠南江景　宮原農場
(全南)木浦府內	一一八、二	八六、一	三三、五	—	二三七、八	普通農事造林	小作	同三十九年七月	全南木浦　高力農場
(黃海)黃州郡內	一〇〇、〇	五〇、〇	三〇、〇	五〇、〇	二三〇、〇	普通農事	小作	同三十九年八月	黃海黃州　片倉組農場
(慶南)晋州、泗川、各郡內	一〇三、五	一三〇・四	四、〇	—	二三七、九	普通農事	小作	同四十年七月	慶南晋州　韓國勸業株式會社

(慶南)金海郡內	一八〇、〇	四三、〇	—	—	二二三、〇	普通農事 果樹 桑園	自作 小作	同三十八年六月	慶南金海 村山農場
(慶南)馬山、密陽、釜山 蔚山(慶北)慶州、大邱、 (忠北)淸州各府郡內	一五三、〇	六五、一	二、〇	—	二二〇、一	普通農事 果樹造林	小作	同二十七年五月	慶南釜山 迫間農場
(全北)益山、全州、各郡內	一四〇、〇	六六、〇	—	四、〇	二一〇、〇	普通農事	自作 小作	同三十九年六月	全北益山 兒島農場
(全北)萬頃郡內	一九九、四	五、三	—	一、五	二〇六、二	普通農事	小作	同四十三年四月	全北益山 藤井農場
(全北)益山、金堤、全州 各郡內	一〇九、四	四九、四	四五、一	—	二〇三、九	普通農事	自作 小作	同三十九年三月	全北益山 今村農場
(慶南)金海郡內	一五〇、〇	二八、〇	—	二二、〇	二〇〇、〇	普通農事	小作	同三十九年三月	慶南金海 韓國企業株式會社
(慶南)金海郡內	二〇〇、〇	—	—	—	二〇〇、〇	普通農事	小作	同三十九年三月	慶南金海 士佐農場
(忠南)公州、懷德、恩津 各郡內	八、〇	一〇〇、〇	八七、〇	—	一九五、〇	普通農事 果樹桑園 蔬菜造林	自作 小作	同三十八年十一月	忠南公州 久保田農場
(黃海)延安郡內	一七九、三	九、〇	—	—	一八八、三	普通農事	小作	同四十一年十月	京畿仁川 堀農場

所在地						事業	經營	創立	名稱
(慶北)延日、興海、各郡內	二五、〇	一五八、〇	四、〇	—	一八七、〇	普通農事 果樹蔬菜	自作 小作	同三十八年三月	慶北延日 大塚農場
(全南)光州郡內	八〇、〇	三〇、〇	五〇、〇	—	一六〇、〇	普通農事 果樹桑園 造林	自作 小作	同三十八年五月	全南光州 佐久間農場
(全北)益山、臨陂、咸悅各郡內	七五、五	四九、三	三三、五	—	一五七、三	普通農事	自作 小作	同四十年四月	全北益山 片桐農場
(黃海)鳳山郡內	一五一、〇	—	—	—	一五一、〇	普通農事	小作	同四十三年十二月	黃海沙里院 大垣堅百會
(慶南)梁山郡內	一一七、六	三〇、八	—	—	一四八、四	普通農事 果樹苗木 落花生	自作 小作	同三十九年十二月	和歌山市 韓國興農株式會社
(慶南)釜山、金海、咸安各府郡內	二〇、七	一〇九、八	一五、九	—	一四六、四	普通農事	小作	同三十九年五月	慶南釜山 平田農場
(全北)臨陂、万頃、咸悅各郡內	一一七、〇	二五、〇	—	—	一四二、〇	普通農事	小作	同四十三年一月	全北臨陂 島谷農場(德三郎)
(全南)南平郡內	一三七、五	—	—	—	一三七、五	普通農事	小作	同三十九年	全南榮山浦 山上農場
(全北)金堤、万頃、各郡內	一三三、九	一、四	一、一	一、〇	一三七、四	普通農事 造林	自作 小作	同四十年十一月	全北金堤 木村農場

(慶南)密陽、靈山、各郡內	六九、五	五七、四	一〇、〇	—	一三六、九	普通農事	小作	同三十六年	慶南密陽 村下農場
(慶北)金山、黃澗、開寧各郡內	一〇五、五	三〇、八	—	—	一三六、三	普通農事 果樹蔬菜	小作	同四十年四月	慶北金山 山陰道產業株式會社
(全南)靈岩郡內	五六、一	五〇、七	二五、二	、八	一三二、八	普通農事	小作	同四十一年二月	全南靈岩 靈岩農園
(慶南)釜山、密陽、各府郡內	五、六	一〇六、〇	一九、〇	—	一三〇、六	普通農事 果樹蔬菜 造林	自作 小作	同二十七年四月	慶南釜山 竹下農場
(平南)平壤府內	七〇、〇	六〇、〇	—	—	一三〇、〇	普通農事	小作	同四十三年十月	平南平壤 高田農場
(全南)羅州郡內	一三九、八	—	—	—	一三九、八	普通農事	小作	同三十九年七月	全南木浦 青木農場
(忠南)公州郡內	一三、〇	一二五、六	—	—	一三八、六	普通農事	自作 小作	同四十二年四月	忠南公州 飯田農場
(全北)金堤郡內	五〇、三	六七、九	、三	—	一一八、五	普通農事 果樹	自作 小作	同四十年二月	全北金堤 佐伯農場
(忠南)扶餘、林川、鴻山韓山各郡內	一九、三	八一、九	一四、四	—	一一五、六	普通農事 果樹蔬菜 桑園造林	自作 小作	同三十八年七月	京畿仁川 株式會社韓國勸農會

(全南)南平、羅州、各郡内	八一、五	二三、三	五、八	—	一一〇、五	普通農事	小作	同三十九年七月	全南羅州杉本農場
(全北)金堤、益山、各郡内	七七、五	二三、七	二、五	—	一〇三、七	普通農事 果樹蔬菜 桑園	自作 小作	同三十九年	全北金堤井上農場
(慶南)金海郡内	一〇〇、〇	—	—	—	一〇〇、〇	普通農事	小作	同三十八年二月	慶南金海栗竹農場

朝鮮人農作夫年雇方法ハ雇主ニ於テ衣食其他ヲ負擔シ一定ノ給料ヲ與フルモノアリ又給料ヲ定メス衣食ヲ給シ時時金錢ヲ與ヘ數年ノ後勤勞ニ應シ金錢又ハ土地ヲ與フルモノアリ

日雇ハ雇主ニ於テ食料ヲ負擔シ一定ノ賃錢ヲ給ス而シテ賃錢ハ農作物ノ播種期收穫期等ニ於テ多少ノ不同アリト雖左ニ各道ニ於テ標準トナルヘキ年雇及日雇農作夫賃錢ヲ揭ク（年雇ハ衣食其他給與品ヲ加算ス、日雇ハ食料ヲ加算ス）

農作夫賃錢表　明治四十三年

地方	年雇		日雇	
	男	女	男	女
京畿道	六〇、〇〇円	四〇、〇〇円	、三五円	、二五円

忠淸北道	五〇、〇〇〇	三二、〇〇〇	、三二	、一八
忠淸南道	四七、五〇〇	三〇、〇〇〇	、三四	、二二
全羅北道	六二、〇〇〇	三九、六〇〇	、三一	、二〇
全羅南道	四七、五〇〇	三五、五〇〇	、三二	、一八
慶尙北道	六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	、二四	、一九
慶尙南道	六〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	、三五	、一七
黃海道	四〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	、四〇	、二五
平安南道	三七、八三三	二六、七七四	、三七	、二九
平安北道	四三、五〇〇	二九、七〇〇	、三七	、三一
江原道	六一、一五	五一、八〇〇	、三〇	、二六
咸鏡南道	六一、〇〇〇	三七、五〇〇	、三一	、二三
咸鏡北道	四四、四三	一	、六〇	、二五

朝鮮人ハ耕地面積ノ廣狹ヲ表章スルニ單ニ作物收穫高或ハ耕鋤ノ功程又ハ播種量等ニヨリ結、耕、落ノ名稱ヲ用フ一結ト云フハ收稅上ノ便宜ニ依ル名稱ニシテ普通民間ニ於テハ一斗落、一日耕等ヲ以テ面積ヲ表ハス單位トス即チ一斗落トハ籾一斗ヲ播下スヘキ地積ヲ云ヒ一日耕トハ一頭ノ牛ト一

人ノ壯丁トニ依リテ一日ニ耕耘シ得ラルヘキ地積ヲ云フ從ヒテ一日耕ト云ヒ一斗落ト云フモ場所ニ於テ異ナリ人ニ依リテ差アルカ故ニ一樣ナラス朝鮮人カ犂耕ヲ爲スニ特ニ耕、落ヲ限リテ之レヲ請合ハシムルコトアリ人ト牛トヲ借リテ之ヲ耕サシムルコトアリ、單ニ牛ヲ與ヘテ人ニ耕サシムル等種々アリト雖モ耕牛ノ賃錢ハ大要左ノ如シ

一、飼料ヲ與フレハ牛一頭　日給　金貳拾錢
一、飼料ヲ與ヘサレハ牛一頭　同　金四拾錢
一、耕夫付牛一頭　同
一、耕牛一頭ハ耕夫二日ニテ代償ス

三　農產物

一米　朝鮮農產物中第一ニ位スル重要品ニシテ朝鮮人カ日常ノ糧食トシテ消費スル高ハ莫大ナリト雖而カモ尙輸移出スル高モ亦第一位ニ在リ慶尙、全羅ノ南鮮ノ地產出最多ク黃海、忠淸、京畿ノ中部ノ地之ニ亞キ北鮮ハ頗ル少シ明治四十三年度ニ於ケル輸移出高ハ七十七萬六千四百二十二石

ニシテ其價額六百二十七萬七千七百五十二圓ニ及ヘリ

二　大豆　其輸移出額ニ於テ米ニ亞ク各道到ル所其ノ栽培ヲ見サルナク明治四十三年度ニ於ケル輸移出高八十萬七千五百十三石其價格五百二十一萬七千二百四十六圓ナリ

三　麥　大麥、小麥ヲ主トシ燕麥之ニ次キ稞麥ハ甚タ少シ大麥ニハ、春蒔、秋蒔アリテ京城以北ハ春蒔多ク以南ハ秋蒔多シ、小麥ハ秋蒔トス燕麥ハ春蒔多ク山間狹隘ノ地ニ栽培スルモノ多シ

米、麥、大豆産額表　明治四十三年

地方	作付反別(町)			收穫高(石)			一段歩平均收穫高(石)		
	米	麥	大豆	米	麥	大豆	米	麥	大豆
京畿道	一〇三、五八一、七	三七、六六〇、〇	二八、四三五、八	一、一三四、三五五	一八〇、九二五	一七〇、三一三	一・二〇三	〇・四八〇	〇・五九六
忠清北道	三〇、〇〇三、四	二〇、三一四、六	八、一一三、七	三三九、一二六	二一七、三六八	六〇、三五八	〇・七九七	一・一一七	〇・七四四
忠清南道	七九、六五〇、七	二一、三六三、九	一四、三八八、八	七八六、〇二八	二一九、〇一八	九四、〇八九	〇・九九九	一・〇三五	〇・六五四
全羅北道	七三、二四三、三	一六、〇五四、六	一〇、六〇〇、五	七八一、四二一	一五九、八〇六	六三、一三〇	一・〇六七	〇・九九五	〇・五九六
全羅南道	一一七、二〇八、五	九〇、六七六、三	二一、〇七〇、九	一、一〇三、一六七	七九七、七一三	八九、九四二	〇・九五〇	〇・八八〇	〇・四二七
慶尚北道	一一一、三八八、〇	六六、九九〇、六	三三、七七三、二	一、四三三、一三四	九〇一、三〇三	三三七、八六二	一・二七八	一・三四五	〇・七二六

慶尙南道	八三、五一四、一	五〇、〇一七、八	二三、二九六、六	一、〇四五、〇九八	四九〇、三九〇	一三七、五一一	一・二五一	〇・九八〇	〇・五九〇
黃海道	六八、四九九、一	四七、〇七九、八	三一、一七四、七	六〇五、七五四	一四二、五二六	二四〇、九四八	八・六九七	〇・三〇三	〇・五九〇
平安南道	二四、六一一、四	二五、二四二、〇	二七、六三一、三	二三九、四二四	一三三、八五六	一七五、五二一	〇・九三二	〇・四八七	〇・六三九
平安北道	四八、三七二、〇	六、六三六、七	三六、〇六八、六	三五三、〇二一	三四、〇〇七	一七六、六〇七	〇・七三〇	〇・五一二	〇・四九〇
江原道	三二、四〇四、〇	三一、〇四七、三	一九、五四八、四	一三四、九〇二	一三三、八九三	一〇三、〇四四	〇・四一〇	〇・四三一	〇・五二七
咸鏡南道	二三、三四三、八	二五、九二〇、六	一八、九七七、〇	一七〇、一一三	一六〇、六六一	一一五、九五八	〇・七二九	〇・六二〇	〇・六一一
咸鏡北道	七、〇五五、六	二七、八三三、九	三三、一三〇、四	三七、三〇〇	一四一、〇〇四	一五一、二八九	〇・五二九	〇・五〇七	〇・四五七
合計	八〇一、八七五、六	四六六、八三七、一	三〇五、一九八、四	八、一四二、八五二	三、七〇一、三六八	一、八一六、五八二	一・〇一六	〇・七九三	〇・五九五

本表中京畿道京城府ノ米、麥、大豆及咸鏡北道慶源郡ノ麥ハ共ニ調査未了ニ付揭上セス

四　棉花　棉ハ江原道ノ東沿岸及咸鏡兩道ヲ除クノ外各地殆ト之ヲ栽培セサルナキモ全羅慶尙ノ兩道ハ其ノ主産地ニシテ忠淸南北兩道之ニ亞ク棉質纖維長クシテ彈力ニ富ミ各種ノ川途ニ適セリ從來朝鮮人ハ衣料ニ供スヘキ木綿ヲ製スルニ自ラ棉種ヲ蒔キ自ラ紡出シ自ラ製織シテ需用ニ供スル慣習ナリシモ近來日本ヨリ精練ナル紡績糸ノ移入セラルヽヤ棉花ノ紡出漸ク減セラレシト同時ニ明治三十五年朝鮮産棉花ハ内地ニ移出スルノ途開ケ販路擴張セラレテ漸次好況ヲ示スニ至レリ然レ

トモ其品質優良ナラサルヲ以テ明治三十九年政府保護ノ下ニ收量繰綿歩合共ニ多ク纖維ノ細長ニシテ紡績原料ニ好適セル米國種陸地棉ノ栽培ヲ奬勵セシニ成績良好ナルヲ以テ年々栽培反別ヲ増加シ明治三十九年ニ於ケル陸地棉作付反別四十五町歩其栽培者僅ニ三百餘名ヲ出テサリシニ明治四十四年ニ至リ約二千八百町歩其栽培者實ニ四萬餘人ノ多キニ達セリ勸業模範場木浦支場ニ於ケル陸地棉及在來棉ノ比較試驗成績ニ依ルトキハ朝鮮在來棉一反歩收穫高ハ百六十六斤ニシテ陸地棉ハ二百六十六斤ナリ之レ陸地棉在來棉ノ共ニ優良ナルモノヽ比較ナルヲ以テ兩棉優劣ノ如何ヲ窺フニ足ルヘシ而シテ明治三十九年ノ棉花移出額ハ僅ニ九萬圓餘ニ過キサリシモノ昨四十三年ニ於テハ三十萬四千餘圓ニ達セリ之レ等移出額ノ內其ノ在來棉ト陸地棉トノ數量ハ明白ニ區別スルコト能ハサルモ年々移出增加額中ニ於ケル陸地棉增加歩合ノ極メテ多大ナルコトハ疑フヘカラサルノ事實ナリ

五 煙草　朝鮮ニ於ケル特殊農產物ノ最モ重要ナルモノニシテ全道到ル所其ノ栽培ヲ見サルハナク京畿道龍仁、廣州、陽智、長湍、平安南道成川、陽德、江原道寧越、旌善、平昌、忠淸北道淸州、

忠州、清安、槐山、報恩、懷仁、全羅北道高山、珍山、錦山、金州、任實、鎭安、茂朱、慶尚南道河東、居昌黄海道谷山、新溪ノ各郡ハ何レモ主産地ニ屬シ殊ニ龍仁、廣州、成川、寧越ノ煙草ハ古來銘葉ヲ以テ稱セラル煙草ニ關スル調査ハ明治三十九年以來之ヲ繼續シ四十四年ニ至リテ大體ノ調査ヲ完結セリ又客年來前記ノ主産地ニ專門ノ技術官吏ヲ派遣シ耕作ノ改良、産地ノ發展ヲ奬勵シ其成績見ルヘキモノアリ其他慶尚北道大邱及忠清南道大田ニ設置セル煙草試作場ニ於テハ各種煙草ノ試作並ニ調理上ノ試驗ヲ經營シ其成績ハ毎年刊行シテ當業者ニ頒布セリ近來内地人ノ煙草ヲ栽培スルモノ漸ク多キヲ加ヘ慶尚北道大邱、東村、慶尚南道密陽、三浪津、鑛山、馬山等ノ各地ニ渉リ三百餘丁歩ノ耕地ヲ見ルニ至レリ左ニ朝鮮全道ニ於ケル煙草ノ産額ヲ表示ス

煙草栽培（朝鮮種）

道名	耕作戸數	耕作反別	收穫量目	同上價格	一戸當耕作反別	一反歩當收穫量目	一貫匁當價格
		反	貫	円	反 歩	貫	厘
京畿道	二一、八〇〇	一、三二二、四	二七七、七〇四	一三八、八五二	六〇二	二二	五〇〇
忠清北道	一五、七五五	二、二六七、三	四七六、一三三	二三八、〇六六	一、四一二	二一	五〇〇

忠清南道	一〇、六八二	四五〇五	九〇、一〇〇	五四、〇六〇	四〇七	二〇	六〇〇
全羅北道	一〇、五四七	七一九、八	一四三、九六〇	八六、三七六	六二五	二〇	六〇〇
全羅南道	三六、二八四	一、八一四、二	三二六、五五六	一六三、二七八	五〇〇	一八	五〇〇
慶尚北道	四一、五二〇	九五五、九	一九一、一八〇	九五、五九〇	二〇九	二〇	五〇〇
慶尚南道	四五、〇二〇	七二二、五	一四四、五〇〇	一〇一、一五〇	一一八	二〇	七〇〇
黄海道	三六、二八九	二、〇五五、八	四一一、一六〇	二〇五、五八〇	五二〇	二〇	五〇〇
平安南道	二四、七一〇	三、六二七、二	六五二、八九六	二六一、一五八	一、四二〇	一八	四〇〇
平安北道	五七、三四〇	一、六五二、〇	三三〇、四〇〇	一六五、二〇〇	二二七	二〇	五〇〇
江原道	二一、七七九	三、二二一、六	五七九、八八八	二三一、九五五	一、四二四	一八	四〇〇
咸鏡南道	二九、〇九一	二、六六四、四	六三九、四五六	三一九、七二八	九〇五	二四	五〇〇
咸鏡北道	一四、五五九	一、〇五四、五	二一〇、九〇〇	一〇五、四五〇	七〇六	二〇	五〇〇
計	三六五、三七六	二二、五二八、一	四、四七四、八三三	二、一六六、四四四	六〇四	一九	四八四

右ノ外朝鮮ニ於ケル内地人煙草栽培ノ概況ヲ表示スレハ左ノ如シ

内地人煙草栽培

地方	耕作戸数	耕作反別	収穫量目	同上價額	一戸當耕作反別	一反歩當収穫量目	一貫匁當價格
		反	貫	円	歩	貫	円
慶尚北道大邱府	七四	八一、〇	二四、三〇〇	四八、六〇〇	一、〇九一四	三〇	二、〇〇〇
同　東村	三五	三五、〇	一一、五五〇	二三、一〇〇	一、〇〇〇〇	三三	二、〇〇〇
慶尚南道密陽郡府北面	三	四、〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、三三一〇	二五	一、八〇〇
同　府内面	一三	三三、〇	一〇、二三〇	二〇、四六〇	二、五三三五	三一	二、〇〇〇
同　上面	一三	一〇八、〇	三〇、二四〇	六〇、四八〇	八、三〇二三	二八	二、〇〇〇
同　三浪津	四	三〇、〇	七、五〇〇	一三、五〇〇	七、五〇〇〇	二五	一、八〇〇
同　靈山郡邑内面	四	三、〇	七五〇	一、三五〇	七五〇〇	二五	一、八〇〇
同　道沙面	九	一三、〇	三、九〇〇	七、八〇〇	一、四四一三	三〇	二、〇〇〇
同　馬山府府内、昌原	一	一、五	四二〇	七一四	一、五〇〇〇	二八	一、七〇〇
同　外西面	一七	五、二	一、三〇〇	二、四七〇	三〇一八	二五	一、九〇〇

同大山面	二二	二二、〇	五、二八〇	九、五〇四	一、〇〇〇〇	二四	一、八〇〇
計	一九五	三三五、七	九六、四七〇	一八九、七七八	一、七二〇五	二八、七〇〇	一、九六七

六人蔘 人蔘ハ朝鮮到ル所多少產セサルナシト雖モ古來高麗蔘ト稱シ世ニ尊ハルヽハ京畿道開城附近ニ產スルモノニ限レリ故ニ此ノ地方ハ古クヨリ人蔘栽培盛ニ行ハレ從テ耕作法モ亦大ニ進步セリ其ノ栽培ノ最モ盛ナリシハ明治三十五年ノ頃ニシテ拾萬斤以上ノ收穫ヲ得シコトアリ然ルニ十數年前ヨリ人蔘ニ赤病ト稱スル病毒蔓延シ蔘業衰廢ノ徵漸ク顯ハレ來リシモ官民共ニ之ヲ放任シ敢テ救濟ノ道ヲ講セサリシヲ以テ病害益勢ヲ逞フシ左表ノ如ク年ヲ逐フテ人蔘產額減少シ斯業ハ遂ニ荒廢ニ歸セムトスルニ至レリ

年度	收穫間數	收納水蔘	紅蔘製造高
明治三十五年	二三〇、二二七間	三八、一三九斤	四七、一九五斤
同三十六年	一五三、四八一	一〇、六〇四	二六、七四六

同　三十七年	三一八、四九八	一九六、六〇〇	六七、〇〇〇
同　三十八年	一二〇、七四三	四六、八二二	一五、九〇五
同　三十九年	五五、二七二	四三、一一九	一四、六五〇
同　四十年	七五、二三四	三五、六八六	一一、八六三
同　四十一年	四〇、三二二	一三、二四二	四、一七三
同　四十二年	二二、五一四	七、九〇三	二、三九四
同　四十三年	七、三五六	二、七七一	八九四

是ニ於テ明治四十一年蔘政事務ノ度支部所管ニ移リ續テ紅蔘專賣ヲ法ヲ施行シテ以來當局者ハ蔘政ノ改善ヲ圖ルト共ニ極力蔘病ノ撲滅ニ努メ一面諸種ノ奬勵法、資金融通ノ道ヲ講スル等萎靡セル蔘業ノ興復ヲ圖リシ結果遂ニ其功ヲ奏シ近年俄ニ斯業ノ勃興ヲ見ルニ至レリ然レトモ人蔘ハ一般作物ト異リ播種ヨリ六七年ノ星霜ヲ經ルニアラサレハ收穫スルヲ得サルカ故ニ當年奬勵ノ結果ハ漸ク數年以後ニ於テ收メ得ヘキモノナリトス今明治四十五年以降ニ於ケル人蔘ノ生産額及收入ヲ豫量スレハ實ニ左表ノ如クニシテ再ヒ往時ノ盛況ヲ見ルニ至ルヘキヤ必セリ

年度	收穫間數	收納斤數	紅蔘製造高	
			斤數	價格
明治四十五年	四三、五〇〇間	一七、〇〇〇斤	五、七〇〇斤	四六一、〇〇〇円
同　四十六年	九一、〇〇〇	三六、〇〇〇	一二、〇〇〇	九六七、〇〇〇
同　四十七年	二一〇、〇〇〇	八四、〇〇〇	二八、〇〇〇	二、二五七、九二〇
同　四十八年	三二〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	三九、六〇〇	三、一一三、二八〇

備考　間トハ蔘圃地積ノ單位ニシテ約壹坪トス

人蔘ハ其製法ニ依リ紅蔘、白蔘ノ二種ニ區別ス紅蔘ハ水蔘（生蔘）ヲ蒸シテ日光及火熱ニ依リ乾燥セシメテ製シ白蔘ハ單ニ日光ニ乾カシテ製ス前者ハ價貴ク後者ハ廉ニシテ兩者共ニ形體ノ大ナルヲ尙フ而シテ紅蔘ハ專ラ淸國ニ輸出スルモノニシテ同國ニ在テハ古來上下共ニ人蔘ヲ愛用シ萬能ノ靈藥トシテ用フルノ外贈答用トシテ富豪大官ノ間ニ尊重セリ日本、米國等又人蔘ヲ產ストモ朝鮮蔘ハ品質形體共ニ類ナシト賞セラル最近ノ調査ニヨレハ昨年香港、上海、營口ヲ經テ彼ノ地ヘ輸入及移入シタル各國人蔘ノ數量約左ノ如シ

産地	通稱	數量	平均一斤ノ小賣價格
米國	花旗蔘	八〇、〇〇〇斤	二〇圓內外
日本	東洋蔘	一四〇、〇〇〇	五同
朝鮮	高麗蔘	二、〇〇〇	一五〇同
滿洲	關東蔘	一六〇、〇〇〇	八同

七　家畜

(イ)牛　農耕ニ使用セラレ運搬用ヲ兼ネ肉用トシテ需用極メテ大ニ稀ニ乳牛ニ用ウ到ル所使用セラレサルナシ體格偉大體質強健ニシテ而カモ性質溫順ナルヲ以テ十歳ノ兒童モ能ク之ヲ牧御シ得ヘク其ノ價廉ニシテ且使役及肉用ニ適スルヲ以テ內地ニ移出シ露領浦鹽斯德及清國ニ輸出セラルルモノ多シ四十三年ニ於ケル生牛及牛皮ノ輸移出額ハ百六十三萬圓ニ上レリ、一頭ノ價約三十五圓內外ナリ先年咸鏡北道ノ北邊ニハ牛疫發生セシモ近來絕テナシ

(ロ)馬　對州馬ノ如ク體軀矮小ナレトモ比較的力強ク能ク險路峻阪ノ跋涉ニ耐ヘ主トシテ運搬ニ

使用セラレ又乘用ニ供セラルルモ耕耘ニ用ヒラルルコトナシ性質順良ニシテ御シ易シ道路小童ノ二三ノ駄馬ヲ連率シテ行クヲ見ル一頭ノ價約三四十圓ナリ

(ハ)驢　乘駄兩用ニ供セラルルモ其ノ數少ナク一頭ノ價二十圓內外ナリ

(ニ)豚　普ク飼養セラレ牛ト同シク到ル處見サルハナシ其ノ生產牛ニ次ク體軀矮小晩熟ニシテ品種優良ナラス多クハ冬時ノ食用ニ供ス鮮人ハ剝皮スルコトナク熱湯ヲ注キ毛ヲ去リテ食ス一頭ノ價二圓九十錢內外ナリ

(ホ)山羊　黑色小軀ニシテ其ノ生產少ナシ皮ハ防寒ニ用ヰ肉ハ食用ニ供スレトモ乳ヲ取ルモノナシ朝鮮人ハ羊肉ヲ以テ最上ノ美食ト爲ス一頭ノ價二圓乃至五圓ナリ

(ヘ)家禽　鷄多數ヲ占メ鶩及鵞ハ其ノ數甚タ少ナシ、鷄ハ農家ニシテ之ヲ飼養セサルナク內地ノ地鷄ニ酷似スト雖稍小形ニシテ一層野生的ナリ卵小ニシテ豐產ナラス一羽二十五錢乃至三十五錢ニシテ卵十個十錢ヨリ十七八錢ナリ近年在留內地人ノ間ニ改良鷄ノ飼育漸次盛トナレリ

(ト)犬　數ノ多キコト遙ニ內地ニ超エ其ノ體軀日本在來種ニ酷似スレトモ氣勢ナシ主トシテ夏期

ニ於テ膳ニ上ス爲飼養セラル一頭ノ價一圓乃至二圓ナリ

家畜數

明治四十三年十二月末日現在

道名＼種別	牛	馬	驢	騾	豚	山羊	鷄
京畿道	五一、〇二三	九三一	三四一	一三	三七、〇一〇	一一九	一九八、八五四
忠清北道	一九、六〇四	三六四	九二	四	一六、二七六	一、〇九九	一七一、三七七
忠清南道	二三、九六八	四一四	一三七	三二	二二、三四二	九五〇	一四〇、四四六
全羅北道	一九、三七五	三八五	一三七	一四	三四、七〇〇	八〇四	一二四、六四八
全羅南道	四八、七五五	一一、二七九	八二	五	六二、二八五	四九六	二四一、五三二
慶尚北道	一〇三、二五〇	三、二一七	一七七	二九	二八、六六五	一、七九八	二八三、八八五
慶尚南道	七五、〇三一	二、一八八	一四五	一〇七	二八、九五二	一、六三〇	一七〇、六一一
黃海道	五三、四九八	一、九五八	七三一	二三〇	七八、九九〇	九四	三一一、〇三三
平安南道	四二、七七〇	二、〇六九	一、七五四	一九五	五〇、八七九	二二八	二八九、九五八
平安北道	七〇、三二七	三、一九八	二、二五二	二六四	六二、七五〇	一一	四一六、五七八
江原道	六三、四一三	三七〇	三四〇	七	三八、五一八	八九	一五九、六二六
咸鏡南道	八〇、九一七	六、七〇三	二四一	八	五三、三三〇	—	一九一、三五五

咸鏡北道	五一、九一三	六、七八四	一、八三五	一一	五一、〇六〇	四	九六、三五六
計	七〇三、八四四	三九、八六〇	八、二六四	九一九	五六五、七五七	七、三二二	二、七九六、二五九

八 養蜂　内地ノ如ク宅地ニ於テ蜜蜂ヲ養フモノ殆トナク皆山腹岩陰ニ於テス此ノ如キ狀態ナルヲ以テ其ノ數量少ナシト雖朝鮮人ハ古來食用及藥用トシテ蜂蜜ヲ使用セシヲ以テ蜜蜂ヲ飼養スルモノ尠カラス江原道咸鏡道平安道全羅道最盛ナリ養蜂ハ農家ノ副業トシテ最適ノモノナルカ故ニ發展ノ望アリ

九 野生鳥獸　野生獸ニハ虎、豹、野猫、熊、羆(ヒグマ)、狼、豺(ヤマイヌ)、猪、鹿、獐(ノロ)、羚羊(カモシカ)、狐、狸、狢、貒(アナグマ)、水獺、鼠、貂、鼬、兎、栗鼠、蝟(ハリネズミ)等アリ鮮人ハ罠、陷穽等ヲ以テ獸類ヲ捕獲ス毛皮ノ産額少ナカラス、野生鳥ハ未タ精確ナル調査ヲ缺クヲ以テ其ノ種類ノ數明カナラサルモ内地ト多ク異ナラス黃鳥(ワウテウ)、戴勝(ヤツカシラ)其ノ他内地ニ見サル種類アリ、鸐雉(ヤマドリ)ハ棲息セス、鶴、鴇(ノガン)、鵠(ハクテウ)、朱鷺(トキ)等ハ現今尙多數ニ來去棲息セリ總督府ニ於テハ明治四十四年狩獵規則ヲ公布シ同則ニテハ雁、鳧、雉、鶉、鷸(シギ)、鶫(ツグミ)外十八種ノ獵鳥ヲ指定シ其ノ他ノ野産鳥ハ銃器又ハ張網ヲ用ヰテ捕獲スルコトヲ禁セリ、同年

十月末調査ニ據レハ狩獵免狀ノ下付ヲ受ケタルモノ内地人四千四百七十九人鮮人四人、外國人八十七人計四千五百七十人ナリ

十果實　朝鮮ノ風土ハ極メテ果樹生育ニ適スルヲ以テ近時京城仁川釜山大邱大田平壤三浪津等ヲ初メ其他新ニ果樹栽培ニ從事スルモノ年ニ增加セリ今其ノ在來種ノ各種別狀況ヲ左ニ記ス

(イ)栗　各道產セサルハナク產出多ク形大小アリ就中小ナルモノハ味佳良甘味ニ富ムコト内地產ニ優ル諸所栗林ヲ成セル所尠カラス朝鮮人ハ其落果ヲ集メテ都會ニ販出ス一斗一圓內外ナリ

(ロ)棗　京畿道、忠淸北道ニ多ク產出シ味佳ナリ之ヲ支那產ニ比スレハ形小ナルモ日本產ヨリ遙ニ大ナリ生食又ハ乾果トシテ糖料ニ用ウ朝鮮ハ砂糖少キカ故ニ棗ヲ用フルコト少ナカラス

(ハ)柿　概子澁柿ニシテ鹽湯ニテ澁ヲ拔キ或ハ叺ニ投シテ熟柿トシ或ハ剝皮シテ乾果トス各地ヨリ京城仁川ニ移出スルモノ少ナカラス京畿道忠淸南道等產出多シ

(ニ)桃　毛桃ハ水蜜桃ニ類シ味稍佳ナレ𪜈毛無桃ハ從來ノ日本桃ニ類シ品質劣レリ京城南大門外芝坊、西大門外弘濟院等ハ桃林相連リ春時滿開ノ期ニ際シテ松柏ト相競ヒ春色都門ヲ賑ハスモ

ノアリ近來京城開城三浪津等ヨリ改良セラレタル良果ヲ產出ス

（ホ）苹果　在來林檎ハ產額少ク小形ニシテ品質劣等ナリ洋種苹果ハ結果極メテ良好ニシテ漸次產出增加シツヽアリ

（ヘ）梨　在來梨ノ產出少カラサルモ味佳良ト云フヘカラス內地種ハ能ク良果ヲ結ヒ栽培日ニ增加セリ又洋種ノ結果ハ內地ニ比シ著シク優レリ

（ト）葡萄　風土能ク洋種葡萄ニ適シ內地ニ於テ栽培困難ナル良種モ容易ニ結果ス

十一、蠶業　家蠶業ハ從來各地ニ普及セラレタリト雖各戶飼育ノ蟻量極メテ少ク蠶種ハ黃白綠混淆品質不同繭層薄キ三眠蠶ニシテ桑樹ハ湖畔宅地又ハ堤塘ニ散在シ毫モ培養セスシテ自然ノ生育ニ放任セルカ故ニ野生桑ニ等シク蠶室ハ矮小ナル溫突ヲ用ヒ蠶具ハ家具ヲ代用シ繰糸ニハ器械ヲ使用スルコト稀ニシテ多クハ赤手ヲ以テ紬出シ紬トシテ自家用ヲ滿スニ過キサルカ如キ狀態ニ在リシカ明治三十九年以來桑樹及蠶種ヲ始メトシテ其他各般ノ改良ニ務メタル結果近時漸ク其效現ハレ栽桑發蠶製糸ノ如キ技術ハ著シク改良セラレ生產品ノ品質亦向上シ今ヤ朝鮮ノ蠶業ハ在來ノ面目

ヲ一新スルニ至レリ明治四十三年ニ於ケル桑園反別ハ三千九百五十四町九反歩ニシテ養蠶戸數七萬七千八百十三戸ニ過キスト雖風土能ク蠶業ニ適シ社會ノ各種階級ヲ通シテ簡易適切ナル副業ナルヲ以テ將來格段ノ發達ヲ爲スヲ疑ハス

柞蠶業ハ從來殆ント經營スル者ナカリシカ明治三十九年以來之カ奬勵ニ努メタル結果今ヤ中部以北ノ地ニハ多數ノ飼育者ヲ見ルニ至レリ明治四十三年ノ繭産額ハ三千五百七十五萬九千餘個ニ過キサリシカ明治四十四年ニハ一億萬個以上ノ產繭ヲ見ルヘキ豫想ニシテ將來ハ更ニ著シキ發達ヲ爲スニ至ラン

左ニ明治四十三年ノ蠶業ニ關スル統計ヲ掲ク

地方	家蠶									柞蠶		
	桑畑段別(町)			收繭高(石)				飼養	製糸	飼養林	收繭顆數	飼養
	桑畑	見積段別	計	春蠶	夏蠶	秋蠶	計	戸數	戸數	段別		戸數
京畿道	四一・六	一八六・〇	二二七・六	一、〇一〇・〇	一四八・〇	一一・〇	一、一六九・〇	八、三九二	四、七一九	四一一・三町	四、七四七、八五五顆	二四六
忠清北道	四九・七	八二・三	一三二・〇	四九四・七	一九・五	五・〇	五一九・二	三、四二九	一、九六八	二六五・〇	二、九〇七、一二三	一六四
忠清南道	三六・八	一四六・八	一八三・六	七三七・一	三〇・四	五・〇	七七二・五	四、六二一	三、八九二	一四・〇	一六九、二〇〇	三八

全羅北道	四六・一	六四・九	一一一・〇	五六五・七	六・五	六・三	五七八・五	三、五三八	二、八一三	—	—	—
全羅南道	一七五・三	二三三・七	三九九・〇	一、一四五・五	二一・〇	二七・七	一、一九四・三	七、八八〇	四、八九七	—	—	—
慶尙北道	一六八・五	三三三・六	五〇二・一	二、一四一・三	二一・九	四六・〇	二、二〇九・二	一六、二〇九	九、五八七	六・四	一八三、九五〇	五一
慶尙南道	一四一・八	四五・三	一八七・一	二九八・〇	一八・〇	二一・〇	三三七・〇	二、二七二	一、〇二三	—	—	—
黄海道	六〇・七	九三・三	一五四・〇	六五六・一	六六・九	四・六	七二七・六	二、八四二	二、一八五	一四二・〇	二二五、八〇七	四七
平安南道	七二・二	三三五・九	三九八・一	一、四三三・四	二二九・〇	一三・二	一、六七四・六	七、〇〇五	四、二〇〇	一三・〇	四〇五、五五〇	二一
平安北道	四八五・八	五〇二・五	九八八・三	一、七四六・三	一五八・三	二七・四	一、九三二・〇	九、〇二七	六、六三四	六四八・〇	二四、五九六、九八〇	一八三
江原道	三三・一	四八八・四	五一一・五	二、〇六〇・六	一四六・八	二四・一	二、二三一・五	七、五七五	四、九九四	六九・八	四三三、一四九	二三三
咸鏡南道	三三・七	一一六・一	一三八・八	八四〇・九	三五・五	四・六	八八一・〇	四、五九〇	三、〇五一	一〇七・八	六七、一七〇	三九
咸鏡北道	一三・二	九・六	二一・八	一〇三・五	一三・五	—	一二七・〇	四五三	四四六	—	—	—
總計	一、二三六・五	二、六一八・四	三、九五四・九	一三、三三三・一	九二五・三	二九四・九	一四、三五三・三	七七、八一三	五〇、三九八	一、六七七・三	三五、七五九、〇四七	一、〇三〇
明治四十二年	六二七・三	一、八〇四・四	二、四三一・七	一一、〇四八・四	九〇三・三	三二・八	一一、九八四・五	六九、三四二	三五、九六九	—	—	三九

本表中桑畑見積段別ハ混植又ハ墻邊畦畔等ニ散在スル桑樹ニ對スル見積面積ヲ示ス

明治四十三年及四十二年京畿道中京城府ハ調査未了ニ付揭上セス尙四十二年ニ調査未詳ノモノ咸鏡北道中一郡アリ

四　勸農機關

農業ハ朝鮮ノ產業中最重要ノ位置ヲ占メ國民ノ經濟ハ一ニ係リテ農業ニ在ルカ故ニ改良指導ノ途ヲ講スルカ爲勸農機關ヲ設クルコト左ノ如シ

一勸業摸範場　明治三十九年日本政府之ヲ京畿道水原ニ設置シ產業ノ改良發達上ニ資スル調査、試驗、講習、講話、種苗、蠶種、種禽、種豚ノ配付及農事ノ摸範實地指導ヲ主要ノ目的トシ其ノ出張所ヲ平壤大邱ニ設ケタリシカ明治四十年三月之ヲ舊韓國政府ニ讓リ爾來年一年ニ摸範ノ實ヲ擧クルニ至リシカ日韓併合ノ結果總督府ノ管轄ニ歸シ水原ヲ本場トシ大邱、平壤、龍山、木浦及纛島ニ支場ヲ設ケタリ

二勸業摸範場大邱支場　慶尙北道大邱ニ在リ明治四十一年四月勸業摸範場大邱出張所トシテ設置シタリシカ明治四十三年十月現今ノ名稱ニ更メタリ勸業模範場ノ業務中主トシテ南朝鮮地方ニ關スル事項ヲ分掌セリ

三勸業模範場平壤支場　平安南道平壤ニ在リ明治四十一年一月勸業模範場平壤出張所トシテ設置シ

タリシカ明治四十三年十月現今ノ名稱ニ更メタリ勸業模範場ノ業務中主トシテ西朝鮮地方ニ關スル事項ヲ分掌セリ

四 勸業模範場龍山支場　京城府龍山ニ在リ從來女子蠶業講習所ト稱セシカ明治四十三年十月以來勸業模範場龍山支場ト改稱セリ明治三十八年七月大韓婦人會ノ設立セラルヽヤ其事業トシテ養蠶所ヲ茲ニ設ケタルニ始マリ明治四十三年官立トナリシカ朝鮮婦女子ノ一定ノ職業ナク徒食ニ流ルヽ弊ニ鑑ミ之ニ授産ノ途ヲ講セントスルノ目的ニ出ツ同年四月一日二十名ノ生徒ヲ募集セシニ志願者九十三名ノ多キニ及ヒ試驗ノ上定員ヲ採用シ同十一月第一回卒業生ヲ出セリ

五 勸業模範場木浦支場　全羅南道木浦ニアリ明治三十八年朝鮮ノ有志相謀リテ棉花ノ栽培協會ヲ設立シ紡績原料ニ適セル陸地棉ヲ朝鮮南部一帶ニ普及セシメムコヲ企劃シ之レカ經營ノ實行ニ就キ當時ノ日韓兩國政府ニ請願スル所アリ當局ハ其請ヲ容レ當時ノ勸業模範場木浦出張所ヲシテ陸地棉ノ試驗ヲ行ヒ傍其ノ普及ニ努力セシムルト同時ニ繰綿工場ヲ建設シテ種子ノ蒐集ニ勉メシムル等幾多施設ノ結果ハ期待セル成績ヲ得タルニヨリ明治四十一年之レカ栽培ノ奬勵機關トシテ臨時

棉花栽培所ヲ置キ爾陸地棉ノ普及ヲ圖リ來リシカ明治四十三年十月勸業模範場ノ所轄ニ移セリ現在附屬棉採種圃二十ケ所アリ明治四十四年ニ於ケル陸地棉栽培面積ハ約二千八百町歩ニシテ其ノ産額ハ二百萬斤以上ノ見込ナリ

六勸業模範場纛島支場　京城府纛島ニ在リ園藝模範場ト稱シ明治三十九年八月ノ創立ニ係リシカ明治四十三年十月移シテ勸業模範場支場ト爲セリ園藝ニ關スル試驗及模範的栽培ヲ爲シ廣ク公衆ノ觀覽ニ供セリ

附

農林學校　京畿道水原ニ在リ勸業模範場ニ附屬ス明治三十九年八月ノ創立ニ係リ農林業ニ必要ナル智能藝術ノ普及ヲ謀リ兼テ德性涵養ノ目的ニ出テタルモノニシテ本科ヲ三箇年、速成科ヲ一箇年トス但シ速成科ノ生徒ハ當分募集セス

朝鮮農會　明治三十九年ノ創立ニ係リ朝鮮ニ於ケル農林業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ本會ヲ京城ニ置キ水原開城淸州公州全州群山光州大邱三浪津晉州黃州平壤鎭南浦鏡川義州ノ十五箇所ニ

支會ヲ設ク其ノ事業トシテ毎月一回會報ヲ發刊シ其ノ他圖書ノ編輯出版質問應答農事ノ講習、講話傳習會品評會ノ開催畜牛鷄種ノ改良模範果園蠶業傳習所ノ設置種苗ノ育成配付又ハ其ノ供給ノ仲介ヲナス等官民ノ間ニ介立シテ直接間接ニ指導勸奬ニ努メツヽアリ

第六章　拓殖事業

曩ニ日韓兩國政府ハ明治四十一年八月東洋拓殖株式會社法ヲ發布シ東洋拓殖株式會社ヲ興シ共同指導ノ下ニ拓殖事業ニ從事セシムルコトトセリ朝鮮ニ於ケル拓殖ハ獨リ同會社ノミナラス他ニ幾多ノ經營者アリト雖本章ハ特ニ該會社カ拓殖事業ニ於ケル最近ノ概況ヲ擧ケテ一班ヲ示サント欲ス

同會社ノ經營スル事業ノ種類ハ

一　農業
二　拓殖ニ必要ナル土地ノ賣買及貸借
三　同土地ノ經營及管理
四　同建築物ノ築造賣買及貸借
五　同移民ノ募集及分配
六　同資金ノ供給

七 移民及朝鮮農業者ニ物品ノ供給幷其生産又ハ獲得シタル物品ノ分配

八 水産業(附帶事業)

ニシテ本社ヲ京城ニ置ク別ニ出張所及派出所ヲ主産地ニ置キ以テ其事業ヲ管轄セシメタリ

會社ノ資本金ハ壹千萬圓ニシテ總株數貳拾萬株一株額面五拾圓拂込高ヲ拾貳圓五拾錢トス株式ハ總テ記名式ニシテ日鮮人ニ限リ之ヲ所有スルコトトセリ左ニ土地ノ管轄區域及會社ノ概況ヲ擧クヘシ

土地管轄區域

名稱	所在	管轄區域	創業年月日
本社	朝鮮京城府		四一、一二、二八
纛島出張所	京畿道京城府纛島	京城府、楊州、高陽、廣州、交河郡	四三、八、七
水原出張所	京畿道水原郡水原	京畿道 水原、龍仁、始興、安山、南陽、利川、驪州、陰竹、竹山、安城、陽城、振威郡 忠清南道 平澤、稷山、天安、木川、全義、溫陽、牙山、新昌、禮山、德山、沔川、唐津、瑞山、泰安、海美郡	四五、五、一四

會社ノ概況

大邱出張所	慶尚北道大邱府	慶尚北道	一圓	四三、七、一四
馬山出張所（泗川派出所）	慶尚南道馬山府 同道泗川郡泗川	慶尚南道（內同道）泗川、河東、晉州、昆陽郡	一圓	四三、一一、一〇 四四、三、一五
榮山浦出張所	全羅南道羅州郡榮山浦	全羅南道	一圓	四三、三、一五
江景出張所（金堤派出所）	忠淸南道恩津郡江景 全羅北道金堤郡金堤	忠淸北道　一圓（陰城、忠州郡ヲ除ク） 忠淸南道　一圓（平澤、稷山、天安、木川、全義、沔川、唐津、瑞山、泰安、温陽、牙山、新昌、禮山、德山、海美郡ヲ除ク） 全羅北道　一圓（礪山、龍安、咸悅ヲ除ク）		四三、七、一三 四三、七、一四
沙里院出張所	黃海道鳳山郡沙里院	平安南道　一圓 黃海道　一圓（金川、白川、延安、海州郡ヲ除ク）		四三、一一、一〇
開城派出所	京畿道開城郡開城	黃海道　金川、白川、延安、海州 京畿道　開城、豐德、長湍、江華、喬桐		四四、三、一

年度	資本金	拂込資本金	舊韓國政府出資金	準備金	損益勘定 總益	損益勘定 總損	損益勘定 利益	配當金	金銀有高	會社職員數
四十三年度	一〇、〇〇〇、〇〇〇円	二、五〇〇、〇〇〇円	七五〇、〇〇〇円	三六、〇〇〇円	一、二六八、五六九円	五六四、七一四円	七〇三、八五四円	一五〇、〇〇〇円（年六分）	三、七六一円	一四六
四十二年度（第二期末）	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇	五五、五〇〇	六六一、四〇七	二六〇、七〇〇	四〇〇、七〇七	一五〇、〇〇〇（年六分）	三、一二九	九一
四十一年度（第一期末）	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇	一五、三〇〇	三一一、九七五	一五九、七四四	一五二、二三一	一二六、六〇〇（年六分）	七一	七九

一土地ノ經營　會社ノ經營セル土地ハ三種類ヨリ成レリ即チ出資地、貸借地、買收地ノ三是ナリ出資地ハ舊韓國政府ノ引受株式六萬株ニ對シ拂込ニ代ヘ提供スル土地ヲ謂フ前表ニ掲記セル七十五萬圓ハ舊韓國政府カ既ニ引受ヲ了シタル第一回ノ拂込ニシテ引受株式ノ四分ノ一ニ相當スル土地ヲ供給シタルモノナリ貸借地ハ將來政府カ引受株式ノ四分ノ三拂込ニ充當スヘキ土地ニシテ會社カ自己ノ利益上政府ト協議シ之ヲ豫定シ貸借經營セルモノヲ謂フ買收地ハ前二者ノ土地ニ接近シテ管理上便宜ナルト將來發展ノ見込アル都府ノ附近及農民ノ移住ニ適當ナル土地ヲ選定シ會社自ラ之ヲ買收スルモノヲ謂フ會社ハ之等ノ土地ニ對シ改良施設ヲ加ヘ灌漑水路ノ開鑿耕地ノ整理堤防ノ改築ヲ爲シ又直營農場ヲ設ケテ農事ノ模範ヲ示スト同時ニ種苗ノ改良果樹蔬菜ノ普及ヲ謀レリ蘇島ニ於ケル

直營農場ノ如キハ其ノ一ニシテ現今三十五町歩ヲ割シ主トシテ果樹ノ栽培ヲ爲シ傍ラ間作トシテ蔬菜ノ栽培ヲ營メリ尚ホ砧木ハ良種ノ接木ヲ行ヒ廣ク一般公衆ニ配布シテ改良種ノ普及ヲ圖ラントスルノ計畫ヲ爲セリ間作蔬菜モ良種子ヲ撰定シ各種ノ方法ニ依リテ栽培シ地方作物ノ改善ニ資セムトシツツアリ

東洋拓殖株式會社出資地及貸借地面積　明治四十四年三月末日現在

道	府郡	出資地（町）			貸借地（町）		
		田	畑	計	田	畑	計
京畿道	京城府	—	四八五、四四	四八五、四四	四一四、一八	三二六、六三	七四〇、八一
	陽州郡	—	—	—	一七一、六一	二四一、三八	四一二、九九
	水原郡	—	—	—	四八四、一〇	一八三、七三	六六七、八三
	廣州郡	—	—	—	二一一、五一	二一一、六八	四二三、一九
	開城郡	—	—	—	八二、二三	五八、七二	一四〇、九五
	龍仁郡	—	—	—	一〇二、〇八	五九、七九	一六一、八七
	高陽郡	—	—	—	二五六、五三	一一八、七一	三七五、二四
	計	—	四八五、四四	四八五、四四	一、七二二、二四	一、二〇〇、六四	二、九二二、八八

忠淸南道	恩津郡	—	—	—	九、五〇	—	九、五〇
	連山郡	—	—	—	六一、八二	六、一八	六八、〇〇
	扶餘郡	—	—	—	五七、三七	一五、二九	七二、六六
	魯城郡	—	—	—	五〇、〇七	〇、八二	五〇、八九
	計	—	—	—	一七八、七六	二二、二九	二〇一、〇五
全羅北道	全州郡	—	—	—	六八、八八	〇、二八	六九、一六
	古阜郡	—	—	—	一六五、〇一	一五、一〇	一八〇、一一
	金堤郡	—	—	—	四八、八八	八、二〇	五七、〇八
	泰仁郡	—	—	—	二一、四九	一〇、六〇	三二、〇九
	礪山郡	—	—	—	五〇、九五	二、九四	五三、八九
	金溝郡	—	—	—	一〇、三七	一、八四	一二、二一
	萬頃郡	—	—	—	二八、五九	二、三六	三〇、九五
	井邑郡	—	—	—	四五、六四	一〇、七二	五六、三六
	計	—	—	—	四三九、八一	五二、〇四	四九一、八五
	羅州郡	—	—	—	四九、四二	七、七一	五七、一三

道	府郡						
全羅南道	南平郡	―	―	―	三二、四八	一、八六	三四、三四
	計	―	―	―	八一、九〇	九、五七	九一、四七
慶尚北道	大邱府	―	―	―	一六二、八五	二七、九七	一九〇、八二
	慶州郡	―	―	―	一六四、三九	一〇四、七九	二六九、一八
	清道郡	―	―	―	八三、八〇	六二、三一	一四六、一一
	永川郡	―	―	―	三九、二八	二、七三	四二、〇一
	漆谷郡	―	―	―	一五、九一	三、二九	一九、二〇
	慶山郡	―	―	―	九〇、三八	二八、一〇	一一八、四八
	慈仁郡	―	―	―	一九、七二	六、三三	二六、〇五
	河陽郡	―	―	―	一一、七九	四、五四	一六、三三
	計	―	―	―	五八八、一二	二四〇、〇六	八二八、一八
	釜山府	一一、二五	五、〇八	一六、三三	一〇三、一六	一九、二九	一二二、四五
	馬山府	二三四、三二	八三、五九	三一七、九二	一一二、八八	三六、六七	一四九、五五
	晋州郡	―	―	―	三七、八三	一八、一四	五五、九七
	金海郡	―	―	―	二二二、〇五	五六、九三	二七八、九八

道	郡						
慶尙南道	密陽郡	ー	ー	ー	一〇五、六三	一〇七、三七	二一三、〇〇
	河東郡	ー	ー	ー	二二九、四七	一三、〇二	二四二、四九
	固城郡	二一〇、六五	二一、七九	二三二、四四	五二、五三	一〇、一九	六二、七二
	龍南郡	三一、七六	三、三一	三五、〇七	二二、一八	ー	二二、一八
	昆陽郡	ー	ー	ー	一二三、二二	一九、九三	一四三、一五
	泗川郡	一〇七、五六	六、一五	一一三、七一	六、五五	〇、二七	六、八二
	計	五九五、五三	一一九、九三	七一五、四六	一、〇一五、五〇	二八一、八一	一、二八七、三一
黃海道	鳳山郡	ー	ー	ー	六九八、八六	ー	六九八、八六
	載寧郡	一、二三五、〇〇	ー	一、二三五、〇〇	三七一、七七	一〇、二二	三八一、九九
	黃州郡	ー	ー	ー	一三七、〇九	一七四、四五	三一一、五四
	計	一、二三五、〇〇	ー	一、二三五、〇〇	一、二〇七、七二	一八四、六七	一、三九二、三九
平安南道	平壤府	ー	ー	ー	二、七六	一七六、四二	一七九、一八
總	計	一、八三〇、五三	六〇五、三七	二、四三五、九〇	五、二三六、八一	二、一六七、五〇	七、四〇四、三一

東洋拓殖株式會社買收地面積（町）　明治四十四年三月末日

道	府郡	田	畑	雜種地	計
京畿道	京城府	—	〇、一一	—	〇、一一
	水原郡	二六、三四	四、三七	—	三〇、七一
	開城郡	〇、四七	二、二八	—	二、七五
	驪州郡	二四、三四	一三、二〇	—	三七、五四
	長湍郡	一〇、七二	四、九一	—	一五、六三
	龍仁郡	〇、四四	—	—	〇、四四
	豐德郡	四二、七六	五、〇三	—	四七、七九
	安城郡	三八、五九	六、六〇	—	四五、二〇
	交河郡	七六、二二	一、九二	—	七八、一三
	振威郡	一〇、三〇	九、五七	—	一九、八七
	陽城郡	一二、五五	三、六〇	—	一六、一五
	計	二四二、七三	五一、五九	—	二九四、三二
	公州郡	三〇、二八	—	—	三〇、二八

忠淸南

郡	1	2	3	4
韓山郡	五一、二八	—	—	五一、二八
舒川郡	五、一四	—	—	五、一四
林川郡	五、三三	—	—	五、三三
鴻山郡	六九、四五	一、九三	—	七一、三八
恩津郡	一〇二、四八	〇、九九	—	一〇三、四六
連山郡	七一、六二	〇、四〇	—	七二、〇二
扶餘郡	四四、一七	二二、五一	—	六六、六八
温陽郡	四〇、八九	一一、九七	—	五二、八六
鎭岑郡	九、一四	—	—	九、一四
魯城郡	一六二、四二	五、二八	—	一六七、七〇
石城郡	九四、二六	九、一〇	—	一〇三、三六
庇仁郡	一六、五五	—	—	一六、五五
稷山郡	一三、七〇	一、六五	—	一五、三五
天安郡	四、六四	一、五八	—	六、二二
平澤郡	—	二、七七	蘆田 一一、四〇 原野 一〇、八九	二五、〇七
計	七二一、三三	五八、一八	蘆田 一一、四〇 原野 一〇、八九	八〇一、八一
全州郡	—	四六、九三	—	四六、九三

道	郡				
全羅北道	扶安郡	一九四、六五	三、五六	—	一九八、二一
	古阜郡	四九九、四七	五、六八	—	五〇五、一五
	金堤郡	四六〇、六三	四、一二	—	四六四、七五
	泰仁郡	二八一、三〇	七、三〇	—	二八八、六〇
	益山郡	—	四〇、五五	—	四〇、五五
	礪山郡	八三、八一	〇、九三	—	八四、七四
	金溝郡	三八七、四六	七、七七	—	三九五、二三
	興德郡	八三、八〇	—	—	八三、八〇
	咸悦郡	一四、六六	三六、二五	—	五〇、九一
	非邑郡	七七、八一	五、一二	—	八二、九三
	龍安郡	六七、七七	〇、八三	—	六八、六〇
	計	二、一五一、三五	一五九、〇三	—	二、三〇一、三八
	順天郡	五六、六五	—	—	五六、六五
	光州郡	二八七、〇一	〇、一六	—	二八七、一七
	海南郡	一三、九一	九、〇三	—	二二、九四
	羅州郡	七六三、〇七	二八三、五七	山林 五八、四〇	一、一〇五、〇四

道	郡				
全羅南道	靈巖郡	四六、四二	一九、三四	—	六五、七六
	靈光郡	一五三、八一	九、六五	—	一六三、四六
	寶城郡	五二、三六	五、一一	—	五七、四六
	長興郡	一九六、二二	—	—	一九六、二二
	咸平郡	一〇三、四一	二、八八	—	一〇六、三〇
	綾州郡	七、四三	—	—	七、四三
	康津郡	一七二、四二	二九、五七	—	二〇一、九九
	長城郡	四九、〇六	—	—	四九、〇六
	昌平郡	一六四、六一	二、八八	—	一六七、四九
	潭陽郡	二六三、六八	六、〇三	—	二六九、七一
	計	二、三三〇、〇六	三六八、二一	山林 五八、四〇	二、七五六、六六
慶尙北道	慶州郡	二、八九	—	—	二、八九
	永川郡	七二、七四	七、〇六	—	七九、八〇
	仁同郡	七六、二九	二三、〇七	—	九九、三六
	漆谷郡	二、七七	—	—	二、七七
	玄風郡	一一、三八	一一、一八	—	二二、五六
	河陽郡	五、二九	—	—	五、二九

	計	一七一、三五	四一、三一	—	二一二、六六
慶尚南道	釜山府	—	二、二一	—	二、二一
	馬山府	九、三九	—	—	九、三九
	晉州郡	〇、八五	—	—	〇、八五
	金海郡	五二、二八	三、三四	—	五五、六二
	密陽郡	二、五九	—	—	二、五九
	固城郡	八、八七	—	—	八、八七
	昌寧郡	三、三五	〇、五〇	—	三、八五
	昆陽郡	一七、〇四	〇、一四	山林 五、〇一	二二、一九
	泗川郡	一五、六六	三、九四	山林 五、三六	二四、九六
	計	一一〇、〇三	一〇、一一	山林 一〇、三七	一三〇、五二
	鳳山郡	一一七、七七	六三、三四	—	一八一、一〇
	載寧郡	二一二、八六	九二、二九	—	三〇五、一五
	信川郡	三九二、七七	四八三、二六	—	八七六、〇四
	黃州郡	七三、五七	一五六、六八	—	二三〇、二五

道	郡府				
黄海道	延安郡	五三、二二	—	—	五三、二二
	松禾郡	一三、三二	三九、二四	—	五二、五六
	安岳郡	六八、九九	一五五、一二	—	二二四、一一
	白川郡	一〇四、四一	二、二五	—	一〇六、六七
	計	一、〇三六、九一	九九二、一八	—	二、〇二九、〇九
平安北道	義州府	九、三五	—	—	九、三五
	宜川郡	一〇、一六	三、六三	—	一三、七九
	鐵山郡	二九、九八	一一、〇一	—	四〇、九九
	計	四九、五〇	一四、六三	—	六四、一三
總計		六、八一三、二六	一、六九五、二五	九一、〇〇	八、五九九、五八

二 殖林經營

(イ)苗圃　殖林經營上最要ナル苗木ノ養成ニ着手シ明治四十二年以來苗圃ヲ龍山水原蠶島ノ三箇所ニ設定シ面積六千五百餘坪ニ植ウルニ苗木百萬本ヲ以テセリ本年度ニ於テハ杏堂里ニ約十五

町歩ヲトシ之ニ移植スルニ苗木ヲ以テシ漸次苗圃ノ擴張ヲ計レリ

（ロ）殖林　柞樹養成及其ノ他ノ用途ニ充ツル爲夙ニ殖林地ヲ選定シ黄州、鳳山、平山、金川、延安ノ五箇所ニ於テ國有林約一萬町歩ヲ借リ入レ以テ造林ニ着手セリ之ニ移植スルニ前述ノ苗木ヲ以テシ又現存稚樹ハ努メテ撫育ヲ計レリ

三　移民事業　本會社ハ移民ニ關シ明治四十三年九月政府ノ認可ヲ得テ移住規則ヲ定メ同年十一月末日迄ヲ第一回移住申込期限ト爲シ該期間ニ於テ其申込ヲ爲シタル者千二百三十五戸ニシテ承認シタルモノ百五十戸ナリ之ヲ地方ニ分布シタル狀況左表ノ如シ表中甲種移民トハ會社ヨリ借受ケタル土地ノ代價ニ年六分ノ利子ヲ附シ二十五年以內ノ年賦ニ貸付ケ其代價ヲ支拂ヒタル後ハ該地ノ地主タルヘキモノヲ云ヒ乙種移民トハ會社ヨリ借受ケタル土地ノ小作料ヲ納メテ小作スルモノヲ謂フ

甲種移住民　　明治四十四年一月一日現在

移住地	團體 慶尚南道馬山府	團體 同固城郡	團體 同泗川郡	團體 全羅北道泰仁郡	團體 同金溝郡	團體 同金堤郡	團體 計	單 慶尚南道馬山府	單 全羅南道羅州郡
戸數（本籍別） 徳島	一〇	—	—	—	—	—	一〇	—	—
福岡	—	二五	—	—	—	—	二五	三	四
大分	—	七	—	—	—	—	七	—	—
山口	—	—	二	—	—	—	二	—	二
岡山	—	—	—	一〇	—	—	一〇	—	—
宮城	—	—	—	七	四	五	一六	—	—
長野	—	—	—	—	—	—	—	二	一
大阪	—	—	—	—	—	—	—	二	—
高知	—	—	—	—	—	—	—	一	二
靜岡	—	—	—	—	—	—	—	二	一
奈良	—	—	—	—	—	—	—	一	—
長崎	—	—	—	—	—	—	—	一	—
愛知	—	—	—	—	—	—	—	一	一
熊本	—	—	—	—	—	—	—	一	—
佐賀	—	—	—	—	—	—	—	一	—
神奈川	—	—	—	—	—	—	—	—	一
香川	—	—	—	—	—	—	—	—	一
岐阜	—	—	—	—	—	—	—	—	一
福島	—	—	—	—	—	—	—	—	一
鹿児島	—	—	—	—	—	—	—	—	一
京都	—	—	—	—	—	—	—	—	一
兵庫	—	—	—	—	—	—	—	—	一
山梨	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一〇	三二	二	一七	四	五	七九	一五	一八
人口	四九	一二四	四四	七三	一五	一八	三三三	六〇	八三

獨（續）

行	全羅北道井邑郡	忠清南道石城郡	同連山郡	計	合計
1	|	|	|	|	一〇
2	|	|	|	七	一三
3	|	|	|	|	七
4	|	|	|	二	一三
5	|	一	|	一	二
6	|	|	|	|	一六
7	|	一	|	四	四
8	|	|	|	二	二
9	一		|	五	五
10	|	|	|	三	三
11	一	|	|	二	二
12	|	|	|	一	一
13	|	|	|	二	二
14	|	|	五	六	六
15	|	|	|	一	一
16	|	|	|	一	一
17	|	|	|	一	一
18	|	|	|	一	一
19	一	|	|	二	二
20	|	|	|	一	一
21	|	|	|	一	一
22	|	|	|	一	一
23	二	|	|	二	二
計	五	三	五	四六	一二五
人口	二七	一一	一七	一九七	五三〇

乙種移住民

明治四十四年一月一日現在

戸數（本籍別）

移住地		北海道	東京	岡山	島根	愛媛	岐阜	富山	新潟	福井	兵庫	長野	三重	靜岡	石川	廣島	福岡	熊本	佐賀	計	人口
團體	京畿道京城府蠶島	三	一	一	一	一	一	一	二	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一三	四三
單獨	同水原郡	|	|	|	一	|	|	|	一	|	三	三	一	|	|	|	一	|	|	一〇	四六
	同京城府蠶島	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一	一	一	二	一	二	八	二四

計	—	—	—	一	—	—	—	一	—	三	三	一	一	一	一	三	一	二	一八	一〇
合計	三	一	一	二	一	一	一	三	一	三	三	一	一	一	一	三	一	二	三〇	一三

移住民ニ對シテハ移住規則ニ基キ一戸ニ付二町歩以内ノ田畑ヲ貸付シ尙移住後成績良好ナル者ニ對シテハ其ノ移住者ノ選定シタル地ヲ購入シテ之カ貸付ヲ許可スルコトアルヲ以テ移住者ハ五町歩迄ノ土地ノ擴張ヲ爲スコトヲ得ヘク尙團體ヲ組織シ移住地ヲ選定シテ其ノ買入及貸付ヲ請求スルトキハ會社ハ可成其ノ土地ヲ購入シ甲種移民トシテ之ニ貸付スルノ便法ヲ設ケタリ

又移住者ニ對シテハ特ニ乘車、乘船賃ヲ割引シ渡鮮ノ後ハ會社ハ團體移住者ニ對シテハ住家納屋ノ建築及耕牛、農具、種苗、肥料ノ購入費トシテ二百圓ヲ限リ貸付スヘシ尙詳細ハ移民規則ヲ見ルヘシト雖便宜ノ爲該會社ノ移住民募集期日及順序ヲ示セハ左ノ如シ

一移住民募集公告期日　每年二月中

二移住民申込期日　六月末日迄

三移住承認期日　八月末日迄

四移住民移住地ニ到着期日　翌年二月十五日迄

四資本貸付　該會社ハ拓殖上必要ナル資金ヲ移住民ニ貸付ス其ノ方法左ノ如シ

（一）二十五年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依リ移住費ノ貸付ヲ爲スヘク

（二）十五年以内ノ年賦償還ノ方法ニ依リ在鮮ノ不動産ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スヘク

（三）五年以内ノ定期償還ノ方法ニ依リ在鮮ノ不動産ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スヘク

（四）移住民ノ生産又ハ獲得シタル物品ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スヘク

（五）在鮮ノ不動産ヲ擔保トシテ三年以内ノ定期償還ノ方法ニ依リ貸付ヲ爲スヘク

（六）二十人以上連帶シテ辨濟ノ義務ヲ負フ者ニハ五年以内ノ定期償還ノ方法ニテ無擔保ニテ貸付ヲ爲スヘク

（七）朝鮮ニ於テ拓殖事業ヲ爲ス會社又ハ個人ニシテ事業經營上必要ナル移住民ヲ募集セムトスル場合ニハ一定ノ條件ノ下ニ其ノ移住民ニ對シ移住費ヲ貸與スルコトアルヘシ

貸付金一覽表

種類		四十三年度末 口數	四十三年度末 金額	四十二年度末 口數	四十二年度末 金額	四十一年度末 口數	四十一年度末 金額
定期償還	內地人	三八	円 二五四、二五〇	一〇	円 一六三、〇〇〇	—	円 —
	朝鮮人	八八	一七五、四八〇	七	五八、九〇〇	—	—
年賦償還	內地人	五八	一六五、六〇〇	—	—	—	—
	朝鮮人	—	—	—	—	—	—
計	內地人	九六	四一九、八五〇	一〇	一六三、〇〇〇	—	—
	朝鮮人	八八	一七五、四八〇	七	五八、九〇〇	—	—
合計		一八四	五九五、三三〇	一七	二二一、九〇〇	—	—

五　漁業經營　該會社ハ附帶事業トシテ漁業ヲ經營シ清國安東縣ニ事務所ヲ設置シ龍岩浦、圓島、大和島、艾島、雲霧島、何日里浦等重要地點ニ派出所ヲ設ケ漁業上ノ事務並作業ニ從事セシメ安東縣、龍岩浦ノ舊魚市場ヲ會社關係ノ買收者ニ經營セシメ尙圓島、大和島等ニモ取引所ヲ設ケ從前ノ如ク單ニ港取引ニ止マラス更ニ漁場取引ヲモ開始シ且經營者ニ對シテ一手買受ノ義務ヲ負ハシ

メ以テ漁業者ノ利便ヲ謀リ更ニ十五噸積運送船十隻ヲ新造シ曳船用汽船二隻ヲ用ヒ絶エス、漁獲物ノ集聚運搬ニ當ラシメ尙漁况ニ應シテ臨時多數ノ雇船ヲ爲シ不時ニ備ヘリ而シテ漁獲物ノ處理保存ヲ爲スハ販賣上最必要ナルヲ以テ五噸入鹽藏槽百區ヲ新造シ尙運搬船ヲモ漁場處理ヲ爲スニ適當ナル構造ト爲シ之ヲ當業者ニ貸付ケ使用セシメタリ

更ニ保護的ノ設備ヲ爲シ耳湖浦龍岩浦ニ漁業用電話ヲ特設シ其ノ他飮料水ノ供給醫藥施療、衛生ノ取締、通信貯金爲替ノ代辨等總テ漁業者ノ利便ヲ計レリ

平安北道ノ漁場ハ之ヲ大和島附近トナシ漁期ハ晩春ヨリ早秋ニ至リ盛漁期ハ春夏ノ交ニ當ル明治四十三年度ノ如キ內地漁業者ノ出漁スル者頗ル多ク熊本、佐賀、長崎、福岡ノ四縣ヲ主トシ其ノ他十縣ニ渉リ漁船總數三百五十餘隻ニ達シ第一期間五月一日ヨリ七月十五日ニ至ル二箇月半ニ於ケル漁獲高ハ約十三萬圓ニシテ而カモ例年ニ比セハ六分漁ニ過キス該會社ハ上述ノ施設ニ依リテ之ニ援助ヲ與ヘ漁獲物ノ委托販賣ヲ爲シ漁業者ニ需要品ヲ供給シ鹽藏品ノ保管預ヲ爲シ委托漁獲物ノ輸送及給水等ノ便ヲ資助セリ

第七章　鑛業

朝鮮從來ノ採鑛ノ方法ハ姑息幼稚ナル舊慣ニ放任セラレ且之レカ行政ニ就テハ何等方針ノ一定セルモノナク頗ル紛雑ヲ極メタリシヲ以テ舊韓國政府ハ明治三十九年鑛業法及砂鑛採取法ヲ公布シ鑛業ヲ奬勵シ在來ノ弊ヲ一洗セムコトヲ期セリ爾來内外資本家ノ朝鮮鑛業ニ注目スルモノ頓ニ増加シ採掘ノ出願者年ヲ追フテ加ハレリ明治三十九年鑛業法施行以來ノ採鑛出願者數ハ左ノ如シ

種別	國籍別	三十九年九月以降同年末日迄	四十年	四十一年	四十二年	四十三年
鑛業	朝鮮人	一五	二五	三七	一五九	三九一
	内地人	一五六	一九〇	一四一	二一九	三三五
	外國人	一五	—	二	二〇	三一
	合計	一八六	二一五	一八〇	三九八	七五七
砂	朝鮮人	一七	四二	一四	五八	一七九

種別	國籍別	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年
鑛業	内地人	五七	六二	四四	四二	九六
	外國人	—	—	—	—	六
	合計	七四	六四	五八	一〇〇	二八一
總計		二六〇	二七九	二三八	四九八	一、〇三八

備考　表中鑛業トアルハ金、銀、銅、鉛、錫、安質母尼、水銀、亞鉛、鐵、滿俺、黑鉛、石炭、石油、硫黄ノ採掘業ヲ謂ヒ砂鑛業トアルハ砂金砂鐵砂錫ノ採取業ヲ謂フ

以上ノ出願者ニ對シ政府ノ許可ヲ與ヘタルモノハ左ノ如シ

種別	國籍別	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年
鑛業	朝鮮人	一	一一	一六	八九	一〇八
	内地人	一五	七八	一一六	一四〇	一〇二
	外國人	—	一九	—	一三	八
	合計	六一	一〇八	一三二	二四二	二一八
砂	朝鮮人	三	一九	五	二二	五三

鑛業					
內地人	一一	五五	二八	四一	一七
外國人	ー	ー	ー	ー	一
合計	一四	七四	三三	六三	七一
總計	三〇	一八二	一六五	三〇五	二八九

（イ）金　金ハ朝鮮ニ於ケル主要ナル鑛產物ニシテ其ノ產額約一千萬圓ニ達ス之ニ次クモノハ鐵、石炭、黑鉛、銅、雲母ナリ金ノ產地トシテ最モ顯著ナルハ雲山金坑ナリ該坑ハ米國人ノ設立セルオリエンタル、コンソリデーテツト、マイニングコンパニー(Oriental Consolidaded Mining Company.)ノ經營ニ係リ其ノ鑛區ノ廣キ平安南道雲山郡全部ヲ包括シ七掘坑ヲ有ス最近一箇年間ニ於ケル產額ハ三百餘萬圓ニ及ヘリ其ノ他遂安、稷山、朔州、昌城、宣川、遂安モ近時探鑛セラレ相應ノ產額ヲ擧クルニ至レリ砂金ノ分布ハ汎ク半島全部ニ亘リ特ニ順安ハ砂金ノ產地トシテ知ラレ全義、木川、文義ノ各郡モ亦砂金ノ產出地トシテ名アリ

（ロ）鐵鑛　朝鮮ハ鐵鑛ニ富ミ各道到ル處發見セラレツヽアリ別チテ磁鐵鑛、赤鐵鑛、褐鐵鑛、砂鐵

等アレトモ就中褐鐵鑛ノ産出最多シ黃州及黑橋驛附近ヨリ西兼二浦ニ到ル間ニ見出サルヽモノハ褐鐵鑛ニシテ載寧、殷栗ノ鐵山モ亦此ノ類ナリ而シテ褐鐵鑛ニ亞キ産出ノ多キハ赤鐵鑛ニシテ安岳鐵山ハ即チ是レナリ磁鐵鑛モ各所ニ見出サレザルニ非スト雖採掘未タ盛ナラス砂鐵モ漂積鐵床ヲ爲シ河海ノ沿岸ニ産出スレ𪜈産量少ナシ鐵鑛ノ多クハ採掘ノ儘直チニ内地ニ輸送シ内地ノ製鐵所ニ於テ精製ス尙現場ニ於テ小規模ノ設計ニ基キ農具、鍋、釜ノ鑄造ヲ爲シ移出スルモノアレトモ極メテ少量ナリ鐵鑛中最モ産出ノ多キモノヲ載寧、殷栗ノ二鐵鑛トナス共ニ黃海道ニ在リ從來舊韓國政府ノ經營ニ係リ明治四十一年ヨリ採掘ヲ開始シタリシカ四十三年一月農商務省ノ所管ニ移レリ而シテ明治四十一年中ノ産額ハ兩鑛合シテ五萬二千噸十五萬六千圓ニ達シ翌四十二年中ニハ五萬五千噸十六萬五千圓、四十三年中ニハ七萬二千噸二十一萬六千圓ニ上レリ其ノ他安岳鐵山ハ近時五萬噸ノ産額アリ其ノ品質前二鑛ニ劣ルト雖一噸約五圓ヲ價セリ其ノ他兼二浦、黑橋附近ノ鐵山ハ近時採掘ヲ開始シタルモノナレトモ鑛量豐富ニシテ有望ナリ

（ハ）石炭　平壤無煙炭ノ名ハ漸ク世人ノ知ル所トナレリ明治四十年以降官營トナリ政府ハ此處ニ平

壤鑛業所ヲ設置シ平壤、江東ノ二郡ヲ鑛區トナシテ採掘セリ目下四坑アリ鑛量頗ル豐饒ニシテ品質優良ナリ其ノ百分中ニ於ケル主成分ハ揮發分七乃至二〇、骸炭七〇乃至九〇、灰分四乃至一五ニシテ硫黃ヲ含ムコト甚タ少ナシ開掘以來ノ產額左ノ如シ

年度	採掘量	販賣量	販賣高
明治四十年	二、五〇〇噸	七〇〇噸	五、七〇〇円
同四十一年	四六、〇〇〇	一二、〇〇〇	五〇、七〇〇
同四十二年	五三、四九三	五一、二六四	二八四、九八七
同四十三年	七八、八三五	八九、七〇九	六六六、三五八

採鑛ハ從來軌道ニ依リテ採鑛場ヨリ平壤驛ニ出テ兼二浦ニ送リテ積出セラレタリシカ今ヤ平南線ノ開通ヲ見積込場ノ設備成リタルヲ以テ全部鎭南浦ヨリ積出スコトトナレリ

長髻炭坑ハ慶尙北道ノ東岸迎日灣ノ南方ニアリ褐炭ヲ產ス品質中位ニ在リ主成分百分中揮發分二九骸炭四〇、灰分二四、硫黃二ナリ採掘後直ニ釜山ニ輸送ス釜山ニ於ケル相場ハ一萬斤三十五六圓ナリ採掘ハ未タ初期ニ屬スルヲ以テ明治四十二年中ノ產額ハ僅ニ三十三萬斤ニ過キス其ノ他慶尙北道

及咸鏡北道ニ褐炭坑アリ

(ニ)黒鉛　鱗狀、纎維狀、葉理狀、土狀等ノ種類アリ鱗狀、纎維狀ノ良質ノモノハ主成分百分中九〇以上ノ炭素ヲ含有シ多ク咸鏡南道平安北道ニ産シ葉理狀及土狀ノ品位ノ稍々劣レルモノハ南朝鮮ニ産出ス平安北道龜城、昌城竝朔州附近ヨリ産出スルモノハ鱗狀ヲナシテ品質優良ナリ現今朝鮮黒鉛商會ノ採掘セル坑場ハ忠淸北道靑山郡ヨリ慶尙北道尙州郡地方ニ亘ル一帶ノ地ニアリ鑛床連續シ鑛量多シト雖鑛質稍々前者ニ劣ル

(ホ)銅　銅鑛ノ既知ノモノヲ擧グレハ咸鏡北道ノ甲山及慶尙北道ノ昌原ニ指ヲ屈スヘシ近時又平安北道ノ厚昌モ採鑛セラレツヽアリ甲山ハ米國人ノ經營ニ係リ尙産額多カラス

(ヘ)雲母　雲母ハ所々ニ之ヲ産出ス近時電氣工業ノ發展ニ伴ヒ需要頓ニ增加シタリシカハ之カ採掘ヲ試ムルモノ多シ日韓雲母株式會社(資本金三十萬圓)ノ雲母坑山ハ咸鏡南道端川郡附近ニ在リ城津港ヲ去ル北西十二里ニシテ明治四十二年中ニ着手セリ鑛質佳良ニシテ鑛量亦多シ

左ニ最近數年間ニ於ケル重要輸出産物ノ價額ヲ揭ク

品目	明治四十三年	同四十二年	同四十一年	同四十年
	円	円	円	円
金貨及金地金	八、八三三、六二九	六、一一二、六七六	四、七七一、二二六	四、六一七、〇五〇
銅及荒銅	…	三〇、二五九	六四、九九七	九二、六七一
鐵鑛及銅鑛	三三九、八六一	二八二、九八六	一六二、八八三	五一、七五六
金鑛	五一七、四三一	七三、一二三	四四、六七四	二一、〇〇六
石炭	三六二、四一九	二二三、三五七	四五、三二六	一五、九六八
黒鉛	一一四、二〇六	一五〇、五七五	九六、九三五	一九、三八九
計	一〇、一六七、五四六	六、八七二、九七六	五、一八六、〇四一	四、八一七、八四〇

朝鮮鑛産地一覽表

地方		鑛種
京畿	積城郡	銅、
	開城郡	金、銅、
	始興郡	金、銀、鉛、
	江華郡	鐵、
	加平郡	金、銀、銅、黒鉛、
	果川郡	金、銀、
	永平郡	銅、砂金、
	抱川郡	同、
	漣川郡	砂金、
	陽智郡	同、

道	郡	鑛産
道	陽城郡	砂金、
	利川郡	同、
	驪州郡	同、
忠清南道	天安郡	砂金、
	木川郡	金、銀、砂金、
	懷德郡	黑鉛、
	公州郡	金、黑鉛、砂金、
	稷山郡	金、銅、砂金、
	海美郡	銀、
	定山郡	銀、鉛、
	靑陽郡	鉛、銀、砂金、
	全義郡	金、銀、砂金、
	新昌郡	黑鉛、
	韓山郡	石炭、
忠	青山郡	黑鉛、砂金、
	忠州郡	砂金、
	清州郡	金、砂金、
	鎭川郡	砂金、

道	郡	鑛産
清北道	清風郡	同、
	陰城郡	金、銀、砂金、
	文義郡	金、砂金、
	報恩郡	黑鉛、
	永同郡	黑鉛、砂金、
	沃川郡	金、黑鉛、砂金、
	懷仁郡	同、
	丹陽郡	黑鉛、
全羅南道	和順郡	黑鉛、
	莞島郡	同、
	海南郡	同、
全羅北道	金溝郡	金、砂金、
	任實郡	砂金、
	南原郡	同、
慶	龍南郡	銀、銅、鉛、
	巨濟郡	同、
	密陽郡	金、銀、銅、鐵、砂金、

道	郡	鑛産
尙南道	金海郡	亞鉛、鐵、
	陜川郡	金、
	咸安郡	金、銀、銅、鐵、
	梁山郡	銅、鐵、
	居昌郡	金、
	固城郡	金、銀、銅、鉛、
	南海郡	銅、
	蔚山郡	鐵、石炭、
	靈山郡	金、銀、銅、
	機張郡	鐵、
	山淸郡	金、銀、
	昆陽郡	同、
	丹城郡	同、
	東萊郡	鐵、滿俺、金、銀、銅、亞鉛、
	昌原郡	金、銀、銅、鉛、鐵、亞鉛、
	彥陽郡	砂金、
慶	延日郡	石炭、
尙北道	尙州郡	金、銀、黑鉛、砂金、
	長鬐郡	石炭、
	星州郡	金、銀、銅、砂金、
	咸昌郡	黑鉛、
	聞慶郡	同、
	義城郡	金、砂金、
	高靈郡	金、銀、
	仁同郡	金、銀、銅、
	寧海郡	石炭、
	奉化郡	金、砂金、
	順興郡	同、
	善山郡	石炭、
	永川郡	金、銅、
	禮安郡	砂金、
黃	新溪郡	銀、銅、鉛、亞鉛、
	長淵郡	金、銀、銅、鉛、
	鳳山郡	石炭、

道	郡	鑛產
海道	信川郡	鐵、黑鉛、
	殷栗郡	金、鐵、
	遂安郡	金、水銀、砂金、
	安岳郡	鐵、
	海州郡	金、鐵、砂金、
	載寧郡	銀、鉛、鐵、
	金川郡	石炭、
	黃州郡	鐵、石炭、
	松禾郡	砂金、
	白川郡	同、
江原道	江陵郡	黑鉛、
	揚口郡	金、銀、
	洪川郡	金、銀、鐵、砂鐵、
	通川郡	金、石炭、
	三陟郡	鐵、石炭、
	春川郡	金、銀、鉛、砂金、
	鐵原郡	砂金、

道	郡	鑛產
平安南道	平壤郡	金、銀、鐵、砂金、
	順川郡	砂金、
	祥原郡	水銀、
	甑山郡	金、銀、銅、
	三和郡	金、銀、黑鉛、
	順安郡	金、銀、砂金、
	江西郡	鐵、石炭、
	成川郡	銀、砂金、
	龍岡郡	金、銀、銅、
	中和郡	鐵、
	价川郡	鐵、黑鉛、砂金、
	肅川郡	金、
	安州郡	金、砂金、
	德川郡	同、
	永柔郡	同、
平	宣川郡	金、銀、黑鉛、
	定州郡	黑鉛、

道	郡	鑛產
安北道	雲山郡	金、砂金、
	龜城郡	金、黑鉛、砂金、
	江界郡	金、銀、銅、鉛、錫、黑鉛、
	龍川郡	黑鉛、
	厚昌郡	銅、
	碧潼郡	金、銀、銅、鐵、砂金、
	寧邊郡	砂金、
	義州郡	同、
	郭山郡	金、黑鉛、
	朔州郡	砂金、
	昌城郡	金、黑鉛、
	楚山郡	金、銀、鐵、黑鉛、
	慈城郡	金、銅、砂金、
咸鏡南道	甲山郡	銅、
	定平郡	金、黑鉛、
	永興郡	金、銀、鉛、黑鉛、砂金、
	咸興郡	金、銀、銅、石炭、
	德源郡	金、銀、
	安邊郡	金、銅、
	文川郡	鐵、
	端川郡	銀、
	長津郡	銅、
	洪原郡	砂金、
咸鏡北道	富寧郡	金、銅、砂金、
	慶興郡	石炭、
	慶源郡	同、
	城津郡	金、
	會寧郡	石炭、

第八章　水產業

一　漁　場

一、日本海方面　豆滿江口ヨリ釜山港ニ至ル日本海方面沿岸ハ東朝鮮海灣ヲ中心トシテ〻字形ニ突入シ沙滘險崖相連リテ好個ノ沿岸漁場ヲ形成セリ潮汐ノ干滿ハ微少ナレドモ水深ク各種水族ノ滯溜ニ適シ而モ「リマン」海流ハ北ヨリシテ寒帶性水族ヲ輸送シ對馬海流ハ南ヨリシテ暖海性魚族ヲ齎ラシテ共ニ水產ノ分布ヲ濃厚ナラシメ捕魚ノ利無盡藏ト稱セラル唯タ此ノ北部ニ於ケル沿海一帶ノ地方ハ大關嶺ノ背部ニ當リ地勢急峻ニシテ交通ノ便宜ヲ欽キ地方漁業ノ發達ニ緊要ナル需給ノ便ニ乏シク日韓人ノ漁業未タ充分ナラスト雖尙ホ朝鮮人ノ經營ニ係ル咸鏡道ノ明太魚、鮭、江原道ノ鰮、慶尙道ノ鰊（ニシン）漁業等ノ如キ又內地人ノ經營ニ係ル捕鯨業及鰤、鰮、鯖、鰈、等ノ漁業ハ此地方屈指ノ大漁業トシテ推奬スルニ足ル

二、多島海方面　釜山港ヨリ木浦附近ニ至ル沿海ハ大小ノ島嶼棋布散點シ多島海ノ稱アリ此ノ沿岸

ハ犬牙屈曲シテ半島岬灣相交リ廣漠タル海域ヲ占メ水深概子八十尋內外ニシテ漁具ノ使用ニ便ナルノミナラス寒暖兩海流ノ影響ヲ受ケ水產ノ分布豐カニシテ而モ深大ナル平野ニ接シ市場、大河、港灣ニ富ミ九州中國方面ノ連絡容易ナルカ故ニ漁獲物ノ集散便ニシテ日鮮人ノ漁業共ニ進步シ釜山馬山近海ニ於ケル鱈、鯖漁業ノ如キ鎭海灣附近ノ鰮漁業ノ如キ欲知、青山、巨文ノ各島及安島近海ノ鯛鰆漁業ノ如キ濟州島沖ニ於ケル鱶漁業汝自灣ニ於ケル鰕漁業等ノ如キ稍々著明ナルモノナリ

三、黃海方面　木浦附近ヨリ鴨綠江口ニ至ル黃海方面ノ沿岸ハ西朝鮮海灣及仁川近海群山近海等ニ由リテろ字狀ニ屈曲シ河口、港灣、瀉洲、礁脈、淺灘及孤島群嶼相食ミテ海岸線ノ錯綜名狀スヘカラス海底ハ遠淺ヲナシテ黃海ノ中心ニ至ルモ水深五十尋ヲ超ヘサルヲ以テ寒冷ノ候暖海性水族ノ滯溜ニ適セスト雖モ暖潮ノ影響ヲ受ケ朝汐ノ進退强度ナルヲ以テ春季八十八夜前後約五十日間ニ至レハ石首魚（グチ）、鯛、鰆、鮸鰣其他產卵ノ爲ニ群集スルモノ二十尋以內ノ淺所ニ剎到シテ日鮮漁船ノ輻輳實ニ壯觀ヲ極ム就中全羅道ノ七山灘、忠淸道ノ煙島近海、黃海道ノ延平灘及平安道ノ魚泳島近海ニ於ケル石首魚、漁業ノ如キハ咸南ノ明太魚慶南ノ鱈漁業ト共ニ朝鮮海ノ三大漁業ト稱セラル尙此ノ

方面ニ於テハ介藻類ノ養殖ニ適當ノ場所多キニ拘ラス從來日鮮漁民ノ未タ普ク之ヲ利用スルニ至ラサルノ狀アリ

上述ノ如ク朝鮮沿岸ハ其ノ海勢ヲ異ニシ其ノ漁業モ亦各地良否ノ別アリト雖槪シテ將來有望ノ漁場トシテ進步發展ノ餘地アルヲ見ル試ニ最近明治四十二年及四十三年ニ於ケル就業船數人員漁獲高等ヲ比較スレハ左ノ如クニシテ年々增進ノ光景ヲ示セリ

年次	內地人			朝鮮人			合計				
	船數	人員	漁獲高	船數	人員	漁獲高	船數	人員	漁獲高	一船平均漁獲高	一人平均漁獲高
四十二年	三、七五三	一五、七四九	三、〇七六、八〇〇円	一二、三六七	七五、〇五三	三、六九〇、三〇〇円	一六、一六四	八四、三六九	六、三二一、五九〇〇円	三八四円	七三円
四十三年	三、九六〇	一六、五〇〇	三、九四三、六五〇	一二、七四九	七六、九〇〇	三、九二九、二六〇	一六、七〇九	九三、四六五	七、八七一、九一〇	四七一	八四

備考　前表中內地人ノ部ニハ捕鯨ニ關スル船數人員漁獲高ヲ計上セス

二　朝鮮人ノ漁業

從來沿海ノ漁業ニ對シテ舊韓國政府ハ何等ノ施設ヲ與ヘタルコトナク保護、獎勵、監督等ノ道殆ト

備ハラス加フルニ半島民ノ漁獵ノ技具頗ル拙劣ニシテ多クハ舊慣ヲ墨守スルニ過キサリシカハ魚族ノ豐饒ナルニ比シ漁獲頗ル擧ラサリキ、蓋シ一ハ國民ノ牛鶏ニ飽キテ嗜好ノ魚肉ニ傾カサリシト一ハ魚族ニ饒多ニシテ拙劣ナル漁法ヲ以テモ尚ホ能ク需要ヲ充タシ得タリシトニ由ラスンハアラス

漁具トシテ見ルニ足ルヘキモノハ江原道ノ地曳網（揮羅網《フイリンムル》）、慶尚道ノ臺網（魚張《オジャン》）、忠清、京畿、黃海三道ヲ中心トシテ使用セラル弓船《ヘルベイ》、中船《チュンソン》（又手網）等ニシテ漁舟ハ造ルニ鉋ヲ施サス鉄釘ヲ用ヒス悉ク木釘ヲ以テス從ヒテ脆弱ヲ免レス、構造粗笨操縦遲鈍ニシテ遠洋ノ漁業ニ適セス

一 明太魚《メイタイ》漁　明太魚ハ咸鏡道ノ特産ニシテ北ハ豆滿江口ヨリ南ハ咸興附近ニ到ル一帶ノ沿岸ニ産シ産卵期ニ至レハ魚群列ヲナシテ沿岸ノ淺瀬ニ來游シ其ノ群ノ長サ數里ニ亘リ幅二三里ニ及フコト少ナカラス産卵ヲ終レハ沿岸各所ニ散逸シ水上ニ浮游ス漁期ハ毎年十月ニ始マリ翌年三月ニ至ル朝鮮人ハ手繰網、擧網、刺網、延繩ノ方法ニテ漁獲ス漁期ニ至レハ漁舟ノ游弋スルモノ八百艘ニ及ヒ一艘ノ漁獲高百駄乃至二百駄ニ及ヒ其ノ總價格、七八十萬圓乃至百萬圓ニ及フ特ニ明太魚ハ朝鮮人ノ冠婚葬祭ニハ缺クヘカラサルモノナルカ故ニ其販路全國ニ亘レリ

二石首魚漁　明太魚ニ比スヘキ頗ル盛ナル魚漁ニシテ慶尙南道馬山浦ノ西北ヨリ平安道ニ至ル沿岸ニ行ハレ全羅道七山灘黃海道延平列島附近最多ク産出ス漁期ハ區域ニ依リテ差アリ七山灘附近ハ每年二月中旬ニ初マリ四月上旬ニ終リ、慶尙全羅道ノ沿岸ハ六月ヨリ九月ニ及フ主トシテ網船(マンソン)、中船、碇船、駐木等ノ方法ニヨリ漁ス若夫レ漁期ニ至レハ各道ノ漁舟玆ニ輻輳シ漁スル者魚ヲ買フ者帆影扼檣入リ亂レテ海上異彩ヲ放ツ其ノ收獲ハ天候ノ異同ニ因リ凶豊ノ差アリト雖例年四五十萬圓ニ及フ石首魚モ亦特ニ朝鮮人ノ最嗜好スルモノニシテ冠婚葬祭ニハ必須ノモノナレハ販路頗ル廣ク都鄙到ル處之カ販賣ヲ見サルハ無シ最近內地人ノ出漁スル者漸ク增加シ淸國人ノ出漁スル者モ亦少カラス

三鰆漁　慶尙道ニ於ケル朝鮮人漁業ノ第一位ニアル盛大ノモノニシテ每年十月ヨリ二月マテヲ漁期トス、十、十一月最盛ニシテ釜山灣以南ノ沿岸ヲ中心トス、魚張及延繩ヲ用ヒ每年三四百ノ漁舟集合シ頗ル盛況ヲ極ム收獲高二三十萬圓ニ及フ

四鰊漁　前述鰆ト漁期ヲ同クシ永興灣通川灣長箭灣迎日灣蔚山灣ヲ以テ主要漁場ト爲シ其ノ他咸鏡

道沿岸ニモ産出スル所アリ孰モ北海道沿岸ニ於ケルヨリモ體形稍〻小ニシテ群集モ此ノ如ク濃密ナラス生鮮又ハ鹽魚トシテ半島各地ニ需要セラル朝鮮人ハ生鮮ノ鰊ヲ珍重シ正月其ノ他嘉儀ニハ欽クヘカラサルモノト爲ス一年ノ漁獲高二三十萬圓ニシテ鱈ト伯仲ノ間ニアリ

五　鰮漁　春秋ノ二期アリ江原道沿岸ヨリ咸鏡道元山近海ニ及フ漁獲ハ凶豐ノ差アリト雖毎年四萬斤ノ漁獲アルヲ常トス

其ノ他鯛、鰤、鯖等ハ重要ノ漁業ニシテ全羅南道各島嶼ニ於ケル海藻類貝類モ産出額約三十萬圓ニ上ル此ノ如クシテ朝鮮人ノ漁業モ漁獲高三百萬圓ノ多キニ上リ而カモ近時内地人ノ漁業ノ巧妙ナルヲ目撃シ技具漸ク舊態ヲ改メ漁區販路共ニ擴張セラルヽニ至リシヲ以テ漸次發展ノ域ニ進ムヘキヤ必セリ

朝鮮人漁業概況一覽

漁業種別 朝鮮名稱	漁業種別 日本名稱	船數	人員	漁場	主タル漁魚	資本金額概算	漁獲高概算	販賣先
忽致網（アルチクムル）	手繰網	七〇〇	四,〇〇〇	咸鏡道 慶尚道	明太魚、鰈、雜魚、	三五〇,〇〇〇円	四二〇,〇〇〇円	朝鮮

網船（マンソン）、碇船（タッペイ）	底刺網	四五〇	一、八〇〇	全羅道全沿海	明太魚、石首魚、鰊	一三五、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	同
揮羅網（フイリクルム）	地曳網	四三〇	八、三六〇	同	鰛、鰤、鮭	一七二、〇〇〇	二五五、〇〇〇	内地及朝鮮
擧網（ツルマン）、魚張（チャン）	臺網	四三〇	三、二〇〇	咸鏡道慶尙道	鰊、鱈、明太魚、刀魚	四五〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	朝鮮
防簾箭（バレリヨムサル）	魞	二、〇三〇	六、五九〇	全沿海	鰊、刀魚、石首魚	六〇九、〇〇〇	六八二、五〇〇	同
中船（チュンソン）	鮟鱇網ノ類	二〇〇	七、〇〇〇	西海方面	石首魚、鰕、刀魚	三〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	同
弓船（ハルペイ）	叉手網	三五〇	三、一〇〇	西、南海方面	石首魚、鰕、白魚	一四〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	同
釣注乙釣	釣延繩	一、四三〇	九、四八〇	全沿海	明太魚、刀魚鱈、鮸	二八六、〇〇〇	二六二、五〇〇	同
捕介採藻		二、五五〇	一四、一五〇	同	貝、藻類	一五〇、〇〇〇	三三〇、五〇〇	内地及朝鮮
其他		四、三〇九	二一、三三〇	同	各種	三〇二、〇〇〇	一、二九八、三六〇	内地朝鮮清國
總計		一三、七四九	七六、九〇〇			二、八九四、〇〇〇	三、九二九、三六〇	

三　内地人ノ漁業

朝鮮ニ於ケル内地人ノ漁業權ハ明治四十一年日韓兩國漁業協定書ノ締結ニ由リテ從來兩國間ニ存在

セシ通漁規則ヲ全廢シ韓國漁業法ニ依リ韓國人ト等シク漁業權ヲ享有行使シ及處分スルコトヲ得ルニ至リシカ日韓併合ノ實ヲ見ルニ至リ從來ノ漁業法ニ不備ノ點アルト共ニ進テ朝鮮人ノ生業ヲ扶助發達セシメ又內地漁民ノ移住的經營ニ依リテ未開ヲ啓發セシムル必要アルヲ以テ四十四年六月更ニ漁業令ヲ制定セラレタリ同令ハ舊漁業法ニ代テ近ク其ノ實施ヲ見ルニ至ルヘシ

近時朝鮮海ノ漁業ノ有望ナルニ鑑ミ漁業者ノ數ハ逐年著シク增加ヲ示セリ左ニ內地人ノ朝鮮海ニ於ケル概況ヲ示スヘシ

一、最近十ケ年ニ於ケル出漁船數人員統計

年次	船數	人員	漁獲概算高	平均漁獲高	
				一船ニ付	一人ニ付
	隻	人	円	円	円
明治三十四年	一、四一一	六、一八七	一、六八五、三〇〇	一、一九四	二七二
同　三十五年	一、三九四	六、一二一	一、一四二、二〇〇	八一九	一八七
同　三十六年	一、五八九	七、一八七	一、四三九、九五〇	九〇六	二〇〇
同　三十七年	一、五八一	六、九七五	一、四九九、八〇〇	九四九	二一五
同　三十八年	二、四四九	一〇、八五三	一、八五四、四五〇	七五七	一七一

年次					
明治三十九年	二、七四八	一二、三四五	二、〇一四、一一〇	七三三	一六四
同　四十年	三、二三二	一四、一八二	三、七三九、二五〇	一、一五七	一四二
同　四十一年	三、八九九	一六、六四四	三、四一八、八五〇	八七七	二〇五
同　四十二年	三、七五五	一五、七四九	三、〇五三、九〇〇	八一三	一九四
同　四十三年	三、九六〇	一六、五六五	三、九〇五、八〇〇	九九五	二三八

二、最近十ヶ年ニ於ケル出漁人員地方別

年次	長崎	廣島	山口	香川	熊本	鹿兒島	愛媛	朝鮮在住	其他	計
	人	人	人	人	人	人	人		人	人
明治三十四年	四九七	八八四	六〇五	六〇五	六五二	五八二	六四二	?	一、六九五	六、一八七
同　三十五年	四〇七	一、五〇六	五五五	四三〇	六二三	六一二	六一七	?	一、三七一	六、一二一
同　三十六年	九五六	一、七七三	四五二	六五一	五六三	六二一	四九七	九五	一、五七九	七、一八七
同　三十七年	七二七	一、七七〇	六七八	六六四	二三三	三九六	四三〇	二〇九	一、八六八	六、九七五
同　三十八年	一、二〇五	二、二四〇	一、五七〇	八八〇	四四〇	三二九	五五六	一八一	三、四五二	一〇、八五三
同　三十九年	一、五五二	二、四七二	一、二七四	一、一七六	七九六	六五八	六五八	三三九	三、三二〇	一二、二四五
同　四十年	一、六六六	二、五六九	一、六一九	一、三五八	一、〇六七	八六〇	九二三	二五九	三、八六〇	一四、二八一
同　四十一年	一、六〇九	二、七四四	一、八一四	一、五八八	一、四八七	一、二七八	一、〇四二	四四五	四、六四三	一六、六四四

明治四十二年	一、八五八	二、三四八	一、八〇三	一、四九五	一、〇三六	一、二九一	六四八	四四七	四、八二三	一五、七四九
同　四十三年	二、五五八	一、九五二	一、八一四	一、四〇六	一、二四〇	一、一九八	一、〇八〇	八四	五、一六三	一六、四九五

三、漁業經營狀況（明治四十三年）

漁業種別	船數	人員	漁獲高概算	營業諸費概算	固定資金概算	漁場	主ナル漁獲物	主ナル販路
	隻	人	円	円	円			
巾着網其他ノ旋網	二一五	一、二五一	八一六、二〇〇	五五五、一〇〇	一七一、〇〇〇	慶尚道	鰮、鯖、鯛其他	内地朝鮮
鰮網	三〇七	一、六〇一	五九二、〇〇〇	四六七、一〇〇	二四五、六〇〇	江原、慶尚、全羅、忠清	鰮	同
大敷網其他ノ定置漁業	一四〇	六四三	一九二、四〇〇	一四〇、〇〇〇	九八、〇〇〇	咸鏡、慶尚、全羅	鰤、鰆、鰮、鰊鱈、鮭、其他	同
鮟鱇網	三四〇	一、一一三	一七〇、〇〇〇	一一一、三〇〇	一七〇、〇〇〇	全羅、忠清、京畿黄海、平安	石魚、鯛、鮸鰕其他	同
鰆流網	四五六	一、八八九	二七二、六〇〇	一八八、九〇〇	三三八、〇〇〇	慶尚其他全沿岸	鰆	内地
手繰網及打瀬網	三七五	一、三〇五	一九八、九〇〇	一三〇、五〇〇	一八七、五〇〇	慶尚	魣、鰈、魴鮄其他	内地支那

延繩	六〇〇	二、三三九	六二六、一〇〇	三三二、九〇〇	三〇〇、〇〇〇	全沿海	鯛、鱧、海鰻、鮟、鱇、其他	內地、支那、朝鮮
鯖釣	一一六	一、〇〇七	五八〇、〇〇〇	四〇、二八〇	五、八〇〇	朝鮮海峽	鯖	內地朝鮮
一本釣	三三七	一、二八〇	二〇三、二〇〇	一三八、三〇〇	一六八、五〇〇	全沿海	鯛、赤魚其他、	內地
潛水業	二九二	一、六六二	五八二、〇〇〇	四九八、六〇〇	二〇四、四〇〇	咸鏡、江原、慶尙、全羅、忠淸、黃海、	鮑、海鼠、蝦、貽貝石花菜	淸國
其他	四三四	一、二〇〇	一九五、四〇〇	一二〇、〇〇〇	二一七、〇〇〇	全沿海	各種	
運搬船	三四八	一、二七二	—	一二七、二〇〇	二四三、六〇〇			
計	三、九六〇	一六、五六五	三、九〇五、八〇〇	二、七四一、一八〇	二、三三九、四〇〇			

四、捕鯨業

明治三十七年以來內地人獨占ノ事業ニ屬シ年每ニ發展ヲ加ヘツヽアリ現時斯業ニ從事スルモノハ東洋捕鯨株式會社、日韓捕鯨合資會社ノ二社ニシテ前者ハ馬養島長箭灣及蔚山灣ノ三ヶ所ニ根據地ヲ置キ後者ハ蔚山灣及巨濟島ノ知世浦ヲ基地トシテ捕鯨ニ從事セリ今明治三十六年以來ニ於ケル捕鯨

統計ヲ左ニ擧クヘシ

年次	捕鯨船數 汽船	捕鯨船數 ボート	捕鯨頭數	捕鯨價格	一隻平均捕鯨頭數	一頭平均價格
			頭	円	頭	円
明治三十六年	三		一〇一	一四六、六八四	三四、〇〇	一、四五三
同 三十七年	三		三三六	四四四、五七五	一一二、〇〇	一、三二三
同 三十八年	六	三	三五八	五五〇、八〇六	五一、〇〇	一、五三八
同 三十九年	七	二	三九七	六四五、八五六	四四、一一	一、六二七
同 四十年	八	四	二四二	三五二、八七一	二〇、一六	一、四五八
同 四十一年	九	三	二四七	三四二、七九四	二〇、五八	一、三八七
同 四十二年	九		四一五	四七五、三九四	四八、三三	一、一四五
同 四十三年	一四		三三六	二六八、六六二	二四、〇〇	七九九

四 朝鮮海漁業ニ關シ諸府縣ノ保護奬勵

府縣別	府縣費支出額 四十二年度以前	府縣費支出額 四十三年度	保護奬勵方法ノ概要
長崎縣	三十七年度以來一、四四〇圓乃至三一、一二九圓宛	八、〇八〇 円	通漁奬勵及移住漁村經營ノ爲メ遠洋漁業團體補助

佐賀縣	三十四年度以來、一〇〇〇圓乃至六、一〇〇圓宛	六、七〇〇	移住漁村經營ノ爲メ水產組合費補助
熊本縣	二十九年度以來三〇五圓乃至七、三五三圓宛	三、二〇〇	通漁獎勵及移住漁村經營ノ爲メ水產組合費補助
鹿兒島縣	三十四年度以來一、一二五圓乃至四、五〇〇圓宛	八、八〇〇	通漁獎勵及漁業根據地經營
宮崎	三十八年度以來七二〇圓乃至一、二〇〇圓宛	—	通漁獎勵漁船漁具改良補助
大分縣	三十一年度以來四八〇圓乃至二、六〇〇圓宛	三、〇五〇	漁船改良及移住漁業獎勵
福岡縣	三十年度以來二、〇〇〇圓乃至二七、八〇〇圓宛	一三、八〇〇	通漁獎勵及移住漁村經營ノ爲漁業獎勵協會及水產組合補助
愛媛縣	二十九年度以來一、〇〇〇圓乃至六、八〇〇圓宛	六、八〇〇	移住漁村經營ノ爲メ遠洋漁業團ヘ補助
香川縣	二十八年度以來九二五圓乃至四、一六二圓宛	—	通漁獎勵及移住漁村經營ノ爲メ水產組合費補助
德島縣	三十二年度以來一、八〇〇圓乃至二、〇〇〇圓宛	二、五〇〇	通漁獎勵及漁業者補助
山口縣	三十二年度以來三〇〇圓乃至八、〇〇〇圓宛	一〇、〇〇〇	通漁及魚類運搬獎勵、土地購入及移住家屋建築費補助
廣島縣	四十二年度一、三〇〇圓	—	鰮網漁業者保護費
岡山縣	三十八年度以來九〇〇圓乃至四、八〇〇圓宛	—	移住漁業及特殊漁業獎勵

兵庫縣	四十年度以來六五〇圓乃至八〇〇圓宛	一、八〇〇	團體出漁、漁類運搬業獎勵及移住漁村經營ノ爲メ水產組合補助
島根縣	三十九年度以來一、〇〇〇圓乃至三、九二五圓宛	五、二〇〇	通漁獎勵及移住漁村經營ノ爲メ水產組合費補助
鳥取縣	三十六年度以來一、五〇〇圓乃至二、五〇〇圓宛	五、〇〇〇	通漁獎勵ノ爲メ水產組合ヘ補助
京都府	三十五年度以來一、五〇〇圓乃至四、〇〇〇圓宛	二、五〇〇	漁船改良補助
大阪府	二十八年度以來五五〇圓乃至一、三〇〇圓宛	八〇〇	長期出漁獎勵ノ爲メ通漁組合補助
和歌山縣	三十三年度以來七〇〇圓乃至七二〇圓宛	—	團體出漁獎勵及漁獲物處理運搬業補助
高知縣	三十九年度以來二〇〇圓乃至一、〇〇〇圓宛	一、五〇〇	移住漁村經營ノ爲メ土佐遠洋漁業株式會社補助
愛知縣	三十三年度以來二〇〇圓乃至一、〇〇〇圓宛	一、〇〇〇	通漁及移住漁業獎勵
千葉縣	三十九年度以來五、〇〇〇圓乃至七、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	移住漁村經營ノ爲メ朝鮮海出漁團補助
石川縣	四十二年度五、五〇〇圓	二、七一二	通漁者及移住漁業者補助
富山縣	四十二年度一、〇〇〇圓	二、〇〇〇	定置漁業經營ノ爲メ水產組合補助
福井縣	三十九年度以來七七四圓乃至一、四一五圓宛	二、五八〇	移住漁業補助

五　漁業者移住一覽

位置	沿革概要	主要水產業	明治四十二年 戶數	明治四十二年 人口	明治四十三年 戶數	明治四十三年 人口
慶尙南道釜山府 釜山	通漁以來任意移住	各種ノ水產業	二六三	六二三	二七九	六三五
同道同府 絕影島	明治三十六年頃ヨリ自然發展	各種ノ漁業、製造、運搬業	三一一	九二八	三〇九	九一〇
同道同府 瀛南洞	四十三年德島縣水產組合設定	延網、手繰網、鰮地曳網及煑干鰮製造			六	一八
同道同府 多太浦	三十九年福岡縣設定	壺網、地曳網及、延繩漁業、煮干鰮製造	一九	七五	二一	八三
同道同府 下端	日露戰役後自然發展	投網、鰻抓漁業、鑵詰製造業	三〇	六〇	四三	六八
同道同府 龍塘	四十一年山口縣設定	延繩、手繰網、壺網、	一六	五三	一七	五五
同道張機郡 大邊浦	四十一年以來福岡縣經營	延繩、手繰、地曳、壺網及煮干鰮製造	一一	三六	一四	五六
同道蔚山郡 細竹浦	三十六年頃ヨリ任意移住	延繩、潛水、手繰、壺網及水產物製造運搬	八	三〇	一一	五八

慶尚南道蔚山郡内海	日露役後自然發展	潜水、延縄、壷網、罐詰、煮干鰮製造、魚類販賣	二五	六〇	三〇	二六八
同道同郡長生浦	三十三年捕鯨船根據以來自然發展	壷網、地曳網、煮干鰮製造	三〇	一〇四	三〇	一〇六
同道同郡方魚津	自然發展四十二年福岡縣漁村設定	延縄、潜水、壷網、地曳、流網及罐詰、其他水産製造、運搬、	四四	一九七	八六	二八五
同道同府日山津	四十二年以來島根縣ニテ經營ス	延縄、地曳網、及鰮製造	五	三〇	五	三二
同道同郡田下浦	四十一年以來島根縣ニテ經營ス	同前	五	一五	三	四三
同道馬山府栗九味	四十年千葉縣漁村設定	延縄、地曳網、手繰網、及鰮製造	一三	五〇	二九	七八
同道同府馬山	開港以來自然發展	各種漁業及販賣業	一九	九七	二〇	一〇〇
同道同府釜島	任意移住	地曳網、鰮製造			八	三三
同道固城郡牛頭浦	三十年頃ヨリ任意移住	同前	二〇	八一	三五	一〇八
同道龍南郡統營	同前	地曳、手繰、延縄漁業、水産物製造、運搬、販賣	一三	六〇	一五	七〇

同道同郡南浦	三十八年岡山縣漁村設定	同前	一八	五四	二八	一五四
同道同郡欲知島	任意移住	地曳網、延繩、潛水器漁業罐詰及鰮製造	二八	一〇一	三六	一一九
同郡泗川郡三千浦	四十年頃ヨリ自然發展四十三年以來愛媛縣經營	延繩、手繰網、魚類運搬販賣業	三	六〇	一七	七五
同道同郡新樹島	四十二年大分縣漁村設定	延繩、手繰網			一〇	五四
同道南海郡彌助島	四十二年佐賀縣漁村經營	延　繩	一八	五四	一八	五四
同道巨濟郡漆川島	愛媛縣民任意移住	地曳網、手繰網、延繩及煮干鰮製造、活漁運搬	二八	八六	三二	九八
同道同郡長承浦	三十七年朝鮮海水產組合漁村創設	各種水產業	八二	二九八	一二〇	四〇〇
同道同郡知世浦	四十年香川縣漁村設定	延繩、手繰網、地曳網、及煮干鰮製造	一五	七五	二五	二〇五
同道同郡舊助羅	愛媛縣人其他任意移住	手繰網、大敷網、巾着網及鰮製造	八	二〇	一八	一三〇
慶尙北道延日郡浦項	四十一年以來山口佐賀兩縣ニテ經營	地曳網、壺網、手繰網、延繩製造、運搬、販賣	二〇	七二	二五	一二〇

全羅南道突山郡安島	四十一年以來愛媛縣ニテ經營ス	延繩	五	二〇	五	二〇
同道同郡羅老島竹丁浦	四十年以來岡山縣ニテ經營	延繩、流網	九	二七	一五	五五
同道同郡巨文島	日露役以來任意移住	延繩、大敷網	一三	五〇	一五	五四
同道濟州島古浦外全島	通漁以來任意移住	潛水、延繩、其他ノ漁業製造運搬	一八	一八二	二〇	一八七
同道木浦府木浦	開港以來任意移住	延繩	一七	八五	二	九七
全羅北道群山府群山	同前並ニ四十年以來福岡佐賀兩縣ニテ經營	延繩、四手網、鮟鱇網	一一	八四	一五	九四
忠淸南道錦川郡長巖里	四十二年以來長崎縣經營	延繩、鮟鱇網	七	二六	八	三〇
同道鰲川郡於靑島	三十年以來任意移住	延繩、地曳網、鰛製造	四八	一九〇	四九	一九五
京畿道仁川府仁川	開港以來任意移住四三年以來岡山福岡兩縣經營	延繩	三五	一六二	三三	一五五
黃海道甕津郡龍湖島	三十年以來任意移住	延繩、鰛製造	一〇	四七	二	五〇

平安南道鎮南浦府　鎮南浦	開港以來任意移住	延繩、鮟鱇網運搬販賣	三五	一三九	三七	二〇八
平安北道龍川郡　龍岩浦	日露戰役以來任意移住	延繩、鮟鱇網、手繰網及運搬販賣	五	二五	七	三二
江原道江陵郡　注文津	同　前	潜水、地曳網、罐詰其他製造	廿	二九	廿五	二九
同道蔚珍郡　竹邊	同　前	同　前	三	八	五	一〇
咸鏡南道元山府　元山	開港以來任意移住	潜水、延繩、角網及魚類運搬販賣	二一	二一〇	二三	一三
咸鏡北道淸津府　淸津	同　前	同　前	一三	六〇	一五	六八
同道慶興郡　雄基	日露役以來發展	同　前	一五	五〇	一五	五五
其他各道沿岸單獨移住者			五一	二八三	六三	二九三
計			一、三六九	四、八六九	一、六四九	六、二五一
增減比較					增　二八〇	增一、三八二

六　製鹽業

半島ノ沿岸到ル處トシテ製鹽業ノ行ハレサルハナシ其ノ製鹽ハ渾テ煮熬法ニ依リ海水ヲ直ニ煎熬シ若ハ海水ヲ鹽田ニ導キ撒砂ニ依リテ濃厚ナル鹼水ヲ採リ之ヲ煎熬シテ製鹽スルモノナリト雖其ノ方法頗ル粗雜幼稚ニシテ價格高ク產額モ亦多カラス

元來朝鮮ハ一般ニ降雨少ク空氣乾燥シ最モ製鹽ニ適當ス加フルニ沿岸一帶ノ地形ハ製鹽場ヲ作ルニ適當セル所尠カラス而シテ現今半島內ノ製鹽事業ハ次表ニ示ス如ク鹽田面積三千七百餘町步鹽ノ生產力二億八千萬斤ナリトス

鹽業調査成績表

自明治四十年
至同四十四年　調查

道名	製造者數	小作人數	從業者數	鹽田段別	鹽生產力	鹽井數	釜屋數	備考
				町步	斤			
京畿道	一、七二五	六六七	五、七五三	五三四、〇四一七	五三、五七四、二九四	三、五三一	八一九	
忠清南道	四五五	三九七	一、九二四	五一七、五三一四	三一、一九六、三〇六	七、四五四	四七四	
全羅北道	一〇一	四三	四三五	一八四、五九〇七	九、三〇一、五六四	二、七〇一	一〇一	

全羅南道	二、九四五	二、五一〇	一三、八二一	一七五、五一〇九	一〇四、一〇四、三四〇	三三、六七〇	一、〇六五
慶尙北道	三三	六七	六八一	七九、一一一	七、〇四一、六六九	一、八五〇	九〇
慶尙南道	九四五	二〇七	一〇、一七	四一五、一五三	二六、二二四、八二一	八、六四七	四五五
江原道	三八七	一四七	一、三五九	五四、一六三四	七、七八五、三三七	二、三三七	一七八
黃海道	二一八	一四	一、〇一三	六三、一三一〇	八、〇四一、四六〇	九四七	一〇三
平安南道	二五八	―	―	四二七、二四〇〇	一〇、三六五、二九九	二、二九三	二五八
平安北道	六七	二八	三三八	五〇、三〇〇三	九八四、七五三	二九六	六七
咸鏡北道	三五九	―	五三八	五三、五九〇〇	一、四〇九、二八二	九六一	二四六
咸鏡南道	三八三	三七	一、七〇一	五六五、八三三	二一、一三九、〇三一	六、〇三三	三五五
合計	八、〇四五	四、六九七	二八、五六九	三、七〇九、三三〇	二八〇、九六八、〇四六	六〇、七一九	四、二一〇

備考　鹽ノ生産力ハ前表ノ如ク二億八千二百萬斤ナルモ實際毎年生産ノ豫想量ハ約二億斤内外トス

朝鮮ニ於ケル鹽ノ總需用量ハ約三億斤ニシテ内二億斤ハ前表朝鮮ノ鹽田ヨリ生産供給セラレ一億斤ハ輸移入鹽ニ依リテ供給セラル然ルニ朝鮮鹽ハ勞力ト燃料ヲ費スコト多ク隨テ其生産費百斤當リ平均壹圓參拾錢ナルニ比シ淸國天日鹽ハ仁川ニ於テ高價ノ時ニ於テ百斤七八十錢甚シク低落ノ場合ハ

四拾錢內外ヲ以テ供給セラル此故ニ清國鹽ハ年々其輸入ヲ增シ漸次朝鮮鹽ヲ壓倒セムトスルノ勢ヲ示シ朝鮮ノ鹽業ハ輸移入鹽ノ增加ト同比例ヲ以テ減退スルノ情勢ニシテ就中平安道黃海道ノ如キハ廢棄鹽田ノ年々增加セルヲ見ル今最近輸移入鹽ノ狀況ヲ擧クレハ左ノ如シ

最近數年間鹽輸入移入高及價格

年次	區別	內地鹽	臺灣鹽	清國鹽	其他	計
明治四十一年	數量	四、六五三、八〇四斤	一五、二三二、五〇〇斤	五四、七〇五、八五三斤	四、三〇〇斤	七四、五九六、四五七斤
	價格	五〇、五九九、〇〇〇円	八二、三七四、〇〇〇円	二七四、九〇五、五五〇円	八三、四〇〇円	四〇七、九六一、九五〇円
同 四十二年	數量	三、五三八、〇八五斤	八、四九五、〇〇〇斤	四五、六一〇、五九三斤	二、七七五斤	五七、六四六、四五三斤
	價格	三九、一七〇、〇〇〇円	五一、六七九、〇〇〇円	二一三、九七三、〇〇〇円	二七、〇〇〇円	三〇四、八四九、〇〇〇円
同 四十三年	數量	五、二八九、四一八斤	四、六八〇、〇〇〇斤	八三、三二四、七八三斤	五四七斤	九三、二九四、七四八斤
	價格	五八、一六七、〇〇〇円	二四、七二〇、〇〇〇円	三二一、九二五、〇〇〇円	八、〇〇〇円	三九四、八二〇、〇〇〇円
同 四十四年（自一月至十月）	數量	五、五〇五、〇八二斤	五、五〇〇、〇〇〇斤	一〇六、三九一、六〇七斤	三八、五七七斤	一一七、四三五、二六六斤
	價格	五五、〇五一、六二〇円	三一、九四〇、〇〇〇円	三八六、二四三、九八〇円	五九二、五〇〇円	四七三、八二八、〇九〇円

輸入移入ノ狀況斯ノ如シ若シ此ノ趨勢ニ放任センカ朝鮮ノ鹽業ハ遂ニ全ク廢滅ニ歸スルニ至ルヘク其ノ結果正貨ノ流出ヲ促シ經濟上及財政上ニ影響スル處尠カラス茲ニ於テ舊韓國政府ハ明治四十年中地ヲ京畿道仁川府朱安面ニ卜シ面積壹町歩ノ天日製鹽試驗場ヲ設ケ試驗ノ結果朝鮮ニ於テ天日製鹽ハ確實ニ成立スヘク其ノ產額ハ豐饒ニシテ而モ其ノ品質ハ淸國鹽ニ比シ遙ニ優越シ臺灣鹽ニ匹敵シ一等鹽ノ如キハ煎熬鹽ニ比シ毫モ遜色ヲ見ス其ノ化學的成分ニ至リテハ前記各種鹽ニ比シ優越シ純食鹽分ハ九〇%ヲ越エ日本內地ノ一等鹽ニ相當スルモノヲ得ルノ好結果ヲ得タリ此ノ結果ニヨリ天日製鹽ヲ官營トスルコトヽシ先ツ第一期事業トシテ面積一千町歩ノ天日製鹽田ヲ築造スルコトニ決シ明治四十二年度ヨリ着手シ四十四年度以內ニ竣成ノ筈ナリ其ノ確定セル鹽田ノ總面積左ノ如シ

朱安（京畿道仁川府）	鹽田面積	九十七町五反一畝四歩
廣梁灣（平安南道鎭南浦府）	同	九百三十三町一反八畝十六步
合計		壹千三十町六反九畝二十步

前記鹽田ニ於テ工事進行中傍ラ鹽ノ製造ヲ爲シタル數量左ノ如シ

天日製鹽製造高表

年次	朱安 鹽田面積	朱安 製鹽高	廣梁灣 鹽田面積	廣梁灣 製鹽高	合計 鹽田面積	合計 製鹽高
	町 歩	斤	町 歩	斤	町 歩	斤
明治四十一年	一、〇〇〇〇	一三三、三一一	—	—	一、〇〇〇〇	一三三、三一一
同 四十二年	五、五八〇二	二〇二、〇四九	—	—	五、五八〇二	二〇二、〇四九
同 四十三年	三二、〇六〇九	七三七、五八〇	五七、一四一一	二五八、〇四三	八九、二〇二〇	九九五、六二三
同 四十四年	九七、五一〇四	一、五〇六、三六九	四七九、四一〇三	二、九八八、三六八	五七六、九二〇七	四、四九四、七三七

右生産額ハ鹽田築造工事中一部分ノ鹽田ニ於テ生産シタルモノナルカ故ニ其ノ産額尠キモ工事竣成ト同時ニ一方鹽田ノ老熟スルニ隨ヒ漸次其ノ産額ヲ增加シ優ニ巨額ノ生産ヲ視ルニ至ルヘシ

第九章　林業

一　森林

朝鮮ニ於ケル林野ノ總面積ハ約一千六百萬町歩ヲ算シ全土ノ七割三分ヲ占メ世界ニ稀ナル山國ナルニ拘ラス古來林政不備ニシテ禁令洽カラス人民ノ自由樵採ヲ默認シテ顧ミサリシヲ以テ到ル處濫伐暴採ヲ肆ニシ或ハ火田ヲ起シ或ハ急斜地ヲ開墾シテ毫モ殖栽ヲ意トスル者ナク爲ニ林野ノ大部分ハ荒廢ヲ極メ僅ニ北鮮ニ於ケル鴨綠、豆滿兩江ノ流域及陵園墓附屬ノ森林ニ於テ見ルニ足ルノ林相ヲ保ツニ過キス禿山荒野起伏シテ滿目荒涼ヲ極メ延テ産業ノ發達ヲ碍ケ國土ノ保安ヲ害シ其ノ災禍擧テ算フヘカラス之カ復舊改善ノ策ヲ講スルハ洵ニ焦眉ノ急務ニ屬セリ曩ニ舊韓國政府ハ森林法ヲ發布シ一般山野ノ保護、整理、增殖ヲ謀リ盛ニ植林ヲ奬勵シタリシカ半島ノ民情ニ適セサル點少カラサルヲ以テ明治四十四年六月朝鮮總督府ハ新ニ森林令ヲ布キ從來ノ森林法ヲ廢シテ國土ノ保安、危害ノ防止、水源ノ涵養、公衆ノ衞生、魚附又ハ風致ノ爲必要アリト認ムルモノハ之ヲ保安林ニ編入

シ伐採、開墾若ハ放牧ヲ爲スコトヲ得サラシメ以テ刻下ノ急務ニ應セシム

最近ノ調査ニ係ル朝鮮各道ニ於ケル林野ノ面積ヲ擧クレハ左ノ如シ

森林面積表

道名	成林地	稚樹發生地	無立木地	計	全面積ニ對スル林野ノ割合
	町	町	町	町	割
京畿道	一一七、二六三	二九七、三一九	二九九、五三〇	七一四、一一二	五、八
忠清北道	八六、〇二七	二五一、六九二	一九四、九三〇	五三二、六四九	七、〇
忠清南道	九一、九七七	一八五、四八二	一九一、二三三	四六八、六九二	五、五
全羅北道	二六七、〇五〇	二一三、三四二	四七、〇七四	五二七、四六六	六、三
全羅南道	八五、二六四	六七三、二四九	二二四、一一五	九八二、六二八	七、八
慶尚北道	一七四、四二八	七五八、九三六	三七五、九一〇	一、三〇九、二七四	六、九
慶尚南道	一二五、八二六	四六六、七二三	二九四、六四六	八八七、一九五	七、〇
黄海道	一一〇、四六九	七三六、九四七	一五七、四二三	一、〇〇四、八三九	六、三
平安南道	二三六、四九七	六〇五、九七五	一五六、八二〇	九九九、二九二	六、五
平安北道	八七八、八九二	八〇七、七七九	七〇八、六四五	二、三九五、三一六	八、〇
江原道	六七二、一四四	九五二、九八一	二八五、二一九	一、九一〇、三四四	七、六

咸鏡南道	一、四五八、八一八	五二一、三五三	五三七、六八〇	二、五一七、八五一	八、一
咸鏡北道	八一八、〇三〇	一四七、六九五	六三四、二三六	一、五九九、九六一	八、二
計	五、一二二、六八五	六、六一九、四七三	四、一〇七、四六一	一五、八四九、六一九	七、三

即チ全面積約一千六百萬町歩ノ内成林及疎生又ハ散生地ハ約三分ノ一ニ止マリ殘地ノ内約三分ノ二ハ天然生稚樹ノ發生地ニシテ殘三分ノ一ハ草生地又ハ禿裸地ニ屬セリ

半島ノ氣候ハ南北ニ於テ差等アリ隨テ北寒帶ヨリ南溫帶ニ到ル迄各種ノ樹木ヲ生シ其ノ分布亦地方ニヨリ同シカラス北部鴨綠江及豆滿江ノ兩流域上流地方其ノ他ノ高山ニ於テハタウヒ、カラマツ、エゾマツ、モミ、デウセンゴエフマツ、カバ、ナマナラシ等ヲ主トシテ鬱蒼タル樹林ヲ形成シ南部ニアリテハ到ル處アカマツヲ生シナラ、クヌギ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、ハンノキ、クルミ、ハルニレ、クリ等ヲ生シ最南部ニ至レハカシ、シヒ等ノ常綠樹及竹林ノ存生スルヲ見ル

又各道ニ於テ一團地五千町歩以上ニ亘ル國有林野ノ面積及其ノ材積ヲ擧クレハ左ノ如シ

道名	主要林野全面積（町）	上ノ内立木地面積（町）	見積材積（尺〆）
京畿道	九六、七四〇	二六、四〇〇	五、一三八、〇〇〇
忠清北道	一六一、五七七	七三、七八七	二、九〇〇、八一〇
忠清南道	三四、八五六	一一、八一九	一、七九七、五七五
全羅北道	一〇〇、三三七	八二、三二七	九、三三五、〇五〇
全羅南道	一一三、七七〇	三六、一八一	七、〇三三、七三六
慶尚北道	三〇三、九三七	一〇九、二五二	一四、五〇三、〇五五
慶尚南道	一〇三、三五三	四九、五六六	八、五八九、七八〇
黄海道	二四〇、九二三	八二、四二三	二九、七一四、四五〇
平安南道	四九四、八五八	二七九、三六五	一一七、八四五、三二〇
平安北道	一、二六六、六二二	七一一、二八一	一五九、八一〇、五〇〇
江原道	八七九、四九六	五〇八、五八九	一二五、七九九、二七〇
咸鏡南道	一、五八一、五三〇	一、一一二、八三三	三五五、〇八四、八二〇
咸鏡北道	一、二二二、〇一八	九四九、二七一	二一二、七八五、四〇〇
計	六、六〇〇、〇一七	四、〇三三、〇九四	一、〇五〇、三三七、六六六

朝鮮ノ山野ノ荒廢ハ其ノ極ニ達セルモ人烟稀ナル僻遠ノ地、大江ノ水源、絶海ノ孤島若ハ墳墓ノ附

近等ニハ尚多少見ルヘキノ森林ヲ存セリ其ノ主ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

現存著明森林

名稱	所在地	主要樹種	立木面積	全面積
			町	町
華山	京畿道水原	松	一、三〇〇	一、三〇〇
大鈒山	同 加平	クヌギ	一六、八四〇	二四、六八〇
天摩山	忠清北道永同	赤松、ナラ	一三、九〇九	一六、六七九
安眠島	忠清南道洪州	赤松	四、八六八	七、一五六
仙治峰	全羅北道高山	ナラ、雑木	一九、一七五	一九、一七五
雲長山	同 龍潭	同	一八、三三一	一八、三三一
德祐山	同 茂朱	雑木	一六、一六〇	一七、六〇七
智異山	全羅南道求禮	同	六、二〇六	九、二〇六
莞島	同	樫、其ノ他雑木	三、一三六	六、五一三
漢羅山	同 濟州島	雑木	二〇、九〇四	七二、六六〇
烏嶺	慶尚北道聞慶	同	三、二五六	四、二六七
普賢山	同 新寧	同	一〇、六五三	一八、四九二

芙蓉山	同禮安	赤松	一〇、二〇〇	一四、四九二
清涼山	同英陽			
智異山	慶尚南道山淸咸陽	赤松、モミ、雜木	二六、三七一	三五、〇五四
白雲山	同咸陽 同安義	同	一、八〇九	一、八〇九
三峰山	同居昌 同安義	同	一三、一八五	一三、五四七
五臺山	江原道平昌	赤松、雜木	一五、五六〇	一五、五六〇
白雲山	同原州	同	一五、〇六〇	一五、〇六〇
巫山	同鱗蹄淮陽	テフセンモミ、松、雜木	四六、六〇〇	五二、二八〇
鬱陵島	同鬱陵島	欅、五葉松、雜木	三、〇〇〇	三、〇〇〇
竹德山	咸鏡南道端川	唐松、唐檜、雜木	五二、八〇〇	五二、八〇〇
天南山	同甲山	同	三二、九二〇	三四、五二〇
柏洞山	同洪原北青	唐檜、唐松、雜木	四一、二八五	七五、七三七
豆滿江森林	咸鏡北道	落葉松、唐松、五葉松、雜木	一〇六、〇二四	營林廠ノ所管ニ係ルモノ
谷山森林一帶	黄海道谷山		七六、五四一	一一三、四四四

狼林山一帶	平安南道寧遠	唐檜、シナベ、雜木	七八、一六八	一〇四、八〇三
鴨綠江森林	平安北道	五葉松、落葉松、赤松、ナラ、カヘデ、雜木	一、九一九、〇九五	營林廠ノ所管ニ係ルモノ
熙川森林一帶	平安北道熙川	雜木	三七、四三五	一五〇、五一六

二　植林事業

朝鮮ノ林野ハ甚シク荒廢セリト雖到ル處造林ニ適シ又樹木ノ生育狀態モ殆ト內地ト相等シク少シク植栽ニ努ムルニ於テハ容易ニ良林ヲ形成シ得ヘシ

明治四十年以降國費ヲ以テ京城附近其ノ他ノ著名地ニ造林ヲ行フト同時ニ民間ニ種苗ノ無償下付ヲ爲シ又地方費及恩賜金經營ニ屬スル苗圃ニ於テモ苗木ノ下付ヲ行フト同時ニ一面ニ於テハ國有林野ノ內存置ヲ要セサル部分ハ民間ニ造林貸付ヲ爲シ事業成功ノ後無償下付シ得ルコトトシ大ニ造林ノ奬勵ヲ行ヒツツアリ而シテ是等ノ貸付シ得ヘキ林野ハ極メテ多ク各道ニ亘リ造林適地ヲ選定シ得ヘク從テ殖林ノ事業ハ前途頗ル有望ナリ

既往ニ於ケル民間殖林事業ハ未タ大ニ見ルヘキモノ無シト雖東洋拓殖會社、釜山民團等ヲ主トシ近時ニ至リテハ三井合名會社ニ於テモ大規模ノ造林計劃ヲ立テ漸次實行者増加ノ趨勢ヲ呈セリ
朝鮮ニ於ケル造林適樹ハ北ハ寒帶ヨリ南ハ暖帶ニ至ル迄其ノ數少ナカラスト雖比較的造林容易ニシテ生長速カナル經濟的樹種ノ主要ナルモノヲ擧クレハ概チ左ノ如シ

ニセアカシヤ　適地汎ク就中荒廢地ノ地方恢復ヲ目的トスル造林ニ適シ喬林、中林及矮林作業ノ何レニモ好適シ種苗至廉造林容易ニシテ土地及氣候ニ對スル適應力強ク生長力旺盛ナリ
植付後三四年目頃ヨリ薪炭材トナリ十年乃至二十年目頃ヨリ用材ヲ産シ鐵道枕木、鑛杭支柱、土工若ハ建築用材等ニ用ヒラル

アカマツ　殆ント造林ニ適セサル地ナク生長中等ニシテ適應力強シ
植付後十年目頃ヨリ小丸太ヲ産シ四五十年目ヨリ各種建築及土工用材、鑛杭支柱ヲ産シ其ノ枝條ハ薪材ニ適ス

白楊樹類　住宅附近、耕地內外、河川溪流ノ沿岸浸水地等ニ植ユレハ生長最旺盛ニシテ其ノ利益

多大ナリ

矮林作業ニ好適シ苗ハ挿條法ニ依リ一箇年マテ容易ニ養成スルコトヲ得植付後三四年目頃ヨリ薪炭材トナリ七八年目頃ヨリ用材ヲ産シ小丸太、朝鮮式建築材、器具材、經木ノ原料、燐寸軸木、製紙原料等ニ好適ス

クヌギ　概ネ山ノ中腹以下ノ滴潤地ニ適生シ又逐年生長力ヲ漸增ス矮林作業ニ依リ植付後約十年乃至十五年目頃ニ第一回ノ伐採ヲ行ヒ自後約五年乃至十五年毎ニ萠芽幹ヲ伐採スルニ適ス材ハ上等ノ薪炭トナリ葉ハ柞蠶飼料ニ好適スル有用ノ樹木ナリ

クリ　滴潤ニシテ排水良キ中復以下ノ山地又ハ家敷廻リ等ニ適生シ其ノ生長中等ナリ植付後四五年目ヨリ結實シ四五十年ニ至リ其ノ最モ多量ヲ産ス材ハ枕木、鑛坑用材、家具、船具、燃料及木炭トナリ樹皮ハタンニン原料及染料トナル今植林事業ニ關スル概況ヲ述フレハ左ノ如シ

(一)苗圃事業

(イ)國費苗圃ハ明治四十年水原、平壤、大邱ノ三箇所ニ、同四十二年京城、木浦、鏡城ノ三箇所

ニ同四十四年ニ於テハ更ニ清州、晋州、全州、海州、義州、咸興、公州ノ七個所ニ新設シ尚四十四年度内ニ一箇所ヲ設クルコトヽシ以テ各道ニ一箇所（京畿道ハ二箇所）ツヽヲ置ク豫定ニシテ養成樹種ハクヌギ、ニセアカシヤ、アカマツ、ヒラミツドヤマナラシ等ヲ主トセリ、苗圃ノ個所面積及事業ノ成績左ノ如シ

國費苗圃一覽表

苗圃名	所在地	面積	養成濟苗數				四十四年度播種及養苗數	
			四十年度	四十一年度	四十二年度	四十三年度	種播數量	養苗數量
		町歩	本	本	本	本	石	本
京城	京畿道京城府	一四、四八一〇	—	—	一九三、〇七三	一、九四三、八一三（京城・水原合計）	九四、六八	三、二五六、四三三
水原	同水原郡	一七、六二一三	三三、九〇〇	一五七、九〇〇	三、一〇四、三七三			
清州	忠清北道清州郡	五、九六〇九	—	—	—	六〇、七八七	五、〇一	一、〇〇〇、一九九
公州	忠清南道公州郡	二、〇三〇六	—	—	—	—	—	—

大邱	慶尚北道大邱府	八、四四三四	—	七八、四四五	五六三、一一三	一、一九六、二四〇	四三、一八	二、〇四三、七八〇
晋州	慶尚南道晋州郡	七、三五三五	—	—	—	—	七、〇〇	二〇五、五八〇
全州	全羅北道全州郡	五、一九三二	—	—	—	—	一〇、二四	五五、五〇〇
木浦	全羅南道木浦府	八、五四〇七	—	—	四四、三三〇	二八九、二一〇	二一、八九	二、三八〇、三二四
海州	黄海道海州郡	五、六二一五	—	—	—	—	九、二六	七七九、九二六
平壌	平安南道平壌府	七、九一二一	三、〇八三	一一七、三一〇	四五〇、七〇一	四三八、四〇〇	三〇、一五	七九九、八〇一
義州	平安北道義州府	二、六九〇六	—	—	—	—	四、九一	一八、六〇〇
咸興	咸鏡南道咸興郡	四、五五二〇	—	—	—	—	二、九三	一〇〇、六〇〇
鏡城	咸鏡北道鏡城郡	五、四四〇二	—	—	二六、六〇〇	四五、三二八	五、〇〇	六六三、九六四
計	（十三箇所）	九五、八四〇八	三五、九八三	三五三、五五五	三、三九一、一八七	三、五七三、六七八	一三三、二四	一一、三〇三、六九六

(ロ)地方費ノ經營ニ屬スル苗圃ハ明治四十四年度ニ於テ始テ開設シタルモノニシテ全羅北道及黃海道ヲ除クノ外各道ニ之カ設置ヲ見其ノ數七十六個所ニ上リ養成樹種ハクヌギ、クリ、ニセアカシヤ、アカマツ、ヒラミツドヤマナラシ及ドロノキ等ヲ主トセリ苗圃ノ個所面積及事業ノ成績左ノ如シ

地方費苗圃一覽表

道名	苗圃箇所數	面積	四十四年度播種及養苗數	
			播種數量	養苗數量
京畿道	三八	町 一、七八二四	石 九、〇八	本 七二、七〇四
忠清北道	一七	一六、九三一九	—	—
忠清南道	七	六、九八二六	一一、〇四	一一三、二〇七
全羅南道	一	〇、八八〇〇	—	—
慶尙北道	五	一〇、三七一七	三〇、四三	—
慶尙南道	一	一、二三二二	—	—
平安南道	二	〇、三〇二八	一、二二	四〇〇

道名	苗圃箇所數	面積	播種數量	養苗數量
平安北道	一	一、二四一七	〇、七二	九、四〇〇
江原道	一	一、五六〇八	ー	ー
咸鏡南道	一	一、八七二四	一、一〇	ー
咸鏡北道	二	二、二四一〇	ー	ー
計	七六	四五、四四一五	五三、五九	一九五、七一一

（ハ）恩賜金經營ニ屬スル苗圃ハ地方費苗圃ト同シク明治四十四年度ニ於テ始テ開設シタルモノニシテ管內六道ニ於テ設置シタル個所四十四個所ニ上リ養成樹種ハ略地方費苗圃ニ同シ苗圃ノ箇所面積及事業ノ成績左ノ如シ

・恩賜金苗圃一覽表

道名	苗圃箇所數	面積	四十四年度播種及養苗數	
			播種數量	養苗數量
全羅北道	九	町 一一、六四二三	石 二四、七九	本 一〇、一三五
黃海道	三	八、七九〇二	ー	ー

平安南道	一〇	二、四七〇四	一、一一五	四四、〇四〇
平安南道	一四	見込 一〇、七〇一二	一、三七	五、三九〇
江原道	三	見込 六、〇〇〇	—	—
咸鏡南道	五	二、五〇〇	—	—
計	四四	三二、一一一一	二七、三一	五九、五六五

(二)又民間ニ於ケル苗木培養者ノ數ハ三百餘人ニ上リ自家用植樹ノ爲又ハ販賣ノ目的ヲ以テアカマツ、クロマツ、テウセンゴエフマツ、カラマツ、クヌギ、ニセアカシヤ、クリ、白楊類等ヲ養成シツツアリ其道別培養者及事業ノ成績左ノ如シ

私營養苗一覽表

道名	培養者數			生産成苗概數			
	內地人	朝鮮人	計	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年
	人	人	人	本	本	本	本
京畿道	四	四五	四九	六六、七七五	二二六、二五一	六六三、九七八	三、〇六五、一一〇
忠清北道	—	一〇七	一〇七	三、二一五	一、七八〇	一八、四七五	七八、九六八
忠清南道	三	一七	二〇	五二、五〇〇	五二、四二〇	一一九、二〇〇	八五、三〇〇

全羅北道	一	—	一	—	一〇八、〇〇〇	—	—
全羅南道	七	九一	九八	五〇、四四六	六〇、一四八	一四一、〇〇六	一一七、五二八
慶尚北道	二	—	二	五、三〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
慶尚南道	九	一	一〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二、一一〇、〇〇〇	三、九八〇、〇〇〇	七、六九六、二〇〇
黄海道	—	九	九	一〇、二〇〇	九、〇〇〇	一〇、五〇〇	九、八二〇
平安南道	四	四	八	二五、〇〇〇	二、〇〇〇	八七、七五〇	六一七、二〇〇
江原道	—	一二	一二	一七〇	—	—	三、九五〇
計	三〇	二八六	三一六	三、二一三、六〇六	二、五七九、五九九	五、〇四〇、九〇九	一一、七二四、〇七六

(二)植栽事業

(イ)國營事業トシテハ造林ノ模範ヲ示シ風致ノ增加ヲ計リ且植栽ニ關スル試驗ヲ行フヲ目的トシ明治四十年京城白雲洞及平壤牡丹臺ノ二箇所ニ殖林ヲ開始シ爾後水原、大邱、開城地方ニモ造林ヲ行ヒタリ植栽樹種ハアカマツ、ニセアカシヤ、クヌギ等ヲ主トシ又クヌギノ播種ヲモ施行セリ明治四十年以降同四十四年(十一月マデ)ニ至ル五箇年間ノ事業左ノ如シ

國營植栽一覽表

植栽地方	面積	植栽種苗數		植栽施行年度	
		植栽苗數	播種數		
	町	本	石		
京畿道京城	八三五、九一一五	一、九六九、五三二	—	自四十年至四十四年	五箇年
同　水原	二八、五〇〇〇	六六、六〇〇	三、七五	四十二年	一箇年
京畿道開城	三〇、〇〇〇〇	九七、五八〇	五、〇〇	四十二年	一箇年
慶尙北道大邱	一五〇、〇〇〇〇	五三二、〇〇〇	六、〇〇	四十一年、四十二年	二箇年
平安南道平壤	一二八、二六二二	四四九、一一〇	五、〇〇	自四十年至四十二年	三箇年
計	一、一七二、六八〇七	三、一一四、八二二	一九、七五		

(ロ)地方費經營事業トシテハ日尙淺キヲ以テ特記スルニ足ラスト雖明治四十四年中江原道ニ於テ殖林ヲ開始シヤマナラシ、カシワ、ニセアカシヤ等ヲ植栽セリ

地方費植栽一覽表

植栽地方	面積	植栽種苗數		植栽施行年度	
		植栽苗數	播種數		
	町	本	石		
江原道 春川郡鳳儀山	五、一〇〇〇	一五、三〇〇	—	四十四年	一箇年

（ヘ）民間ニ於ケル殖林經營者中釜山居留民團ニ於テハ釜山ノ水源涵養及造林ヨリ生スル收益ニ依リ學校基本財産並民團基本財産ノ增殖ヲ圖リ三十七年以降アカマツ、クロマツ、クヌギ等ヲ植栽シツツアリ事業ノ成績左ノ如シ

年度	植付面積	植付苗數				經費
		アカマツ、クロマツ	クヌギ	其ノ他	計	
	町	本	本	本	本	円
明治三十七年度	五	—	二一、五〇〇	二一、七二〇	四三、二二〇	三、三九七
同　三十八年度	一九	二五、五〇〇	三五、五六〇	一一九、一〇〇	一八〇、一六〇	九六一
同　三十九年度	九	二二、〇〇〇	五九、〇四〇	三七、四三〇	一一八、四七〇	一、一六八
同　四十年度	一九	九三、五三〇	六六、七〇〇	一〇八、四四〇	二六八、六七〇	二、〇三八
同　四十一年度	五九	七一〇、〇〇〇	五九、六〇〇	一七、一三〇	七八六、七三〇	三、三三一
同　四十二年度	一一九	一、七三六、五〇〇	—	—	一、七三六、五〇〇	二、七九〇
同　四十三年度	一一七	七八四、二五〇	—	—	七八四、二五〇	豫算額三、四〇九
同　四十四年度	六七	三八九、七〇〇	—	—	三八九、七〇〇	豫算額三、一三三
計	四一四	三、七六一、四八〇	二四二、四〇〇	三〇三、八一〇	四、三〇七、六九〇	二〇、二二七

（ト）又東洋拓殖株式會社ニ於テハ明治四十二年以來苗木ノ養成ニ著手シ龍山、水原、蘇島及杏堂

里ニ苗圃ヲ設置シ黄海道内國有林ニ大規模ノ造林ヲ經營シツツアリ倘林業資金貸出ニ依ル實行ノ状況ハ左ノ如シ

東洋拓殖株式會社植栽一覽

貸出人別	貸出口數	貸出金額	貸出金ニ依リ施行スヘキ豫定數量	
			造林面積	植付苗數
内地人	二	一八、〇〇〇円	一〇〇町	一三〇、〇〇〇本
朝鮮人	七	五、七一〇	四〇	—
計	九	二三、七一〇	一四〇	一三〇、〇〇〇

（三）種苗下付　明治四十二年以降民間植樹奬勵ノ爲國費苗圃ニテ養成セル苗木及購入種苗ノ無償下付ヲ行ヒツツアリ明治四十二年以降四十四年十一月ニ至ル成績左ノ如シ

樹種	種子數量			苗木數		
	四十二年度	四十三年度	四十四年度	四十二年度	四十三年度	四十四年度
クヌギ	二三、〇〇〇石	三二九、〇四〇石	一九六、七三〇石	一四五、〇五〇本	六六一、〇八〇本	一、八三〇、一八二本

ニセアカシヤ	一、一二五	二、七四五	六、〇六〇	八八、五八五	一〇三、三八九	八八二、七五八
白楊樹類	—	—	—	八二、四五〇	三九、八二三	四一四、六二三
アカマツ	—	—	七〇〇	八二、〇〇〇	一〇一、〇一〇	五二九、九六八
クロマツ	—	—	—	—	七一、三三〇	一〇七、五一三
クリ	—	—	四五、七一〇	—	—	四〇三、八一八
其ノ他	—	—	一五〇	一〇四、〇九四	一〇六、九四二	二五八、九八〇
計	二四、一二五	三三一、七八五	二四九、三五〇	五〇二、一七九	一、〇八三、五七四	四、四二七、八四二

右ノ外明治四十四年四月ニ於テ地方費經營苗圃生產苗木ヲ下付シタルモノ三十一萬四千本同恩賜金經營苗圃生產苗木ヲ下付シタルモノ三十萬四千本餘アリ

(四)紀念植樹　紀念植樹ハ每年四月三日神武天皇祭日ヲ期シ擧行スルコトトシ四十四年第一回ヲ實行セシニ豫想外ノ好果ヲ得其ノ總植付本數四百六十五萬本ニ逹シ內約三百八十萬本ハ國費苗圃又ハ地方費苗圃ヨリ無償下付シ其ノ他ハ私人ノ購入若ハ自然苗ノ採取等ヲ以テ之ニ充テタリ而シテ其ノ植栽地ハ官公衙、學校等ノ構內、道路ノ兩側、墳地等人目ヲ惹キ易キ場所ヲ主トシ都邑、村

落、附近ノ國有又ハ公有地等ニ植付ケ一部ノ地方ニ偏スルコトナク郡鄙ノ別ヲ論セス普ク施行セラルルニ至レリ又植樹ノ實行者ハ官公衙學校ノ職員、生徒、守備隊、憲兵、面長、里長、洞長及金融組合員、農林業篤志者ハ勿論一般人民ニ至ル迄内地人タルト朝鮮人タルトノ別ナク植栽ニ從事シタリ植付本數ヲ道別ニ擧クレハ左ノ如シ

紀念植樹一覽表

道別	植付本數
京畿道	三一四、四八一本
忠清北道	三五一、六〇八
忠清南道	三〇四、八一四
全羅北道	二五二、四二九
全羅南道	二九〇、六一〇
慶尚北道	六〇八、三四〇本
慶尚南道	四二六、五七〇
黄海道	一三八、八〇〇
平安南道	四一七、六三二
平安北道	二九八、九〇〇
江原道	四六、七六〇本
咸鏡北道	一、〇二一、九六七
咸鏡北道	一七九、五三六
計	四、六五二、四四七

三　部分林

曩ニ舊韓國政府ハ部分林規則ヲ發布シ國有山林ヲ無料ニテ民間ニ提供シ之ニ植林セシメ伐採期ニ際シ利益ヲ分收スルノ法ヲ講シテ大ニ部分林ヲ奬勵シ官民協力以テ植林ノ企圖ニ勗メタリシカ明治四十四年六月森林令ノ發布ト共ニ部分林規則ヲ廢シ從來ノ設定ニ係ル部分林ニ關シテ依然同一ノ取扱ヲ爲スコトトセリ

部分林設定一覽（自明治四十一年三月開始 至同 四十四年八月廢止）

	許可件數			面積		
	內地人	朝鮮人	計	內地人	朝鮮人	計
部分林設定	二	一	三	五、八四一町	一、五八二町	七、四二三町

四　營林廠

營林廠ハ明治四十四年四月ノ設置ニ係リ曾テ統監府ノ所屬官署タリシカ韓國併合ト同時ニ總督府ノ所管ト爲リ本廠ヲ平安北道新義州ニ置キ出張所ヲ咸鏡北道會寧ニ設ケ鴨綠江及豆滿江兩流域一帶ノ國有森林ヲ管理シ兩流域ノ流下材ヲ以テ製材シ若ハ販賣シ廣ク需要ニ應セムコトヲ期セリ從來ハ主

トシテ官衙建築用材ノ供給ニ充テタリシカ四十三年度ヨリ民間ノ需要ニ應スルコトヲ得ルニ至レリ

鴨綠江材ハ咸鏡南道及平安北道ノ同江流域森林ヨリ伐採シ筏ニ依リテ新義州、安東縣ニ流下シカラマツ、ベニマツ(俗稱テウセンゴエフマツ)、スギマツ(シラベ、トウヒ、エゾマツ等ノ俗稱アリ)

鴨綠江流域森林面積及材積

一　國有林全面積及總蓄積量表(大締)

全面積	五葉松	落葉松	唐松、白檜樅等	赤松	雜木	計
町歩 一、九一九、〇九五	尺〆 二〇、八一八、七一八	尺〆 五三、五七八、四三〇	尺〆 一〇九、三四五、〇七五	反〆 五九、〇〇〇	尺〆 一五九、五八一、三三一	尺〆 三四二、三六二、七四四

二　利用見込箇所主要樹種面積材種表

樹種別	面積	材積	利用率	利用材積	平均林齢
五葉松	町歩 一八三、五〇五	尺〆 八、五九六、九九四	% 二二	尺〆 一、九一四、四七八	年 一〇〇
落葉松		四、四二一、四二二	三二	一、三九六、三三〇	
唐檜、白檜樅等		二九、〇五四、七四一	二二	六、三三四、四三八	

檜木	八二、八一〇	一、〇五一、九六〇	二	一一四、五九五	六〇
計	三六六、三一五	四三、一二五、一一七	—	九、七五九、八四一	—

備考　一、利用率ハ各地ニ依リ異ナルヲ以テ本表ニハ掲記シ難シ依テ利用材積ニ基キ算出セシモノナリ

二、檜木ハ雜木中ニ混生シアル以テ面積ハ其ノ區域ヲ示シタルモノナリ

豆滿江材ハ咸鏡北道ノ同江流域森林ヨリ會寧ニ流下スルモノニシテ伐木及運輸不便ノ爲一時事業ヲ休止シツツアリ

豆滿江流域森林面積及材積表

名稱	面積（町歩）	材積（尺〆）	利用率（%）	利用材積（尺〆）	平均林齡（年）	備考
西頭水流域	七三、二二六	三四、七八〇、七二〇	三〇	一〇、四三四、二一六	一〇〇	樹種ハ落葉松八分唐檜二分ナリ
延面水流域	三二、八〇八	一七、三三七、二四〇	四〇	六、九三〇、八九六	八〇	—
計	一〇六、〇三四	五二、一〇七、九六〇	—	一七、三六五、一一二	—	—

右兩流域ノ伐採期ハ主トシテ夏季及秋季ニ於テ之ヲ行ヒ冬季地上及河水凍結ニ乘シ集材及運材ニ着手シ融氷ノ期ニ際シ或ハ溪谷ヲ利用シテ管流シ或ハ牛挽或ハ橇挽ト爲シ以テ江岸ニ運ヒ結桴シテ雨季ノ到ルヲ待チ江水ノ漲溢ニ際シテ流下ス今四十三年度及四十四年度四月ヨリ八月ニ至ル迄ノ事業ノ概況ヲ擧クレハ左ノ如シ

（イ）伐木作業　直營伐木、請負伐木及個人伐木ノ三種ノ方法ニ依リテ行ヒ個人伐木ハ規定ノ價格ヲ以テ買收スルモノトス

直營及請負伐木材積ハ

年度	丸角材	電柱	特種丸太	雜丸太	計
	尺〆	本	本	本	
四十三年度	一三六、七九二	一二、七三五	三、三三二	五、〇〇〇	一三六、七九二尺〆 二一、〇六七本
四十四年度 自四月至九月	二一、三八八	四、九〇八	一四一	—	二一、三八八 五、〇四九

ニシテ個人伐木ノ原木料ハ左ノ如シ

年度	車輛	車柱	丸材	角材	銃床材	其ノ他	計
四十三年度	円 六、三六八	円 一四、二七九	円 一、九七一	円 一、〇五二	円 五五九	円 一九一	円 二四、四二〇
四十四年度自四月至九月	一三、〇八八	一五、六六六	一、三二一	四四一	四八七	三〇六	三一、三〇九

(ロ)運材　山地ニ於ケル運材ハ主トシテ軽便鐵道、木馬道又ハ牛曳運材ヲ行ヒ工場ヨリ貯木場迄ノ運材ハ流筏作業ニ依ル而シテ流筏ノ成積左ノ如シ

種別	四十三年度 發筏數	四十三年度 貯木所着筏數	四十四年度自四月至九月 發筏數	四十四年度自四月至九月 貯木所着筏數
丸及角材	尺〆 一五五、七六〇	尺〆 一五五、九三四	尺〆 一六八、七四一	尺〆 一六七、八二四
電柱	二八、一四五本	二五、一〇七本	六、〇九五本	五、七二四
雜丸太	四、一七六	一、一四〇	一、五〇三	一、七五〇
築港用丸太	—	—	三、九六九	五、一八一
床柱	—	—	八四	六〇本
計	一五五、七六〇尺〆 三二、三二一本	一五五、九三四尺〆 二九、二四七本	一六八、七四一尺〆 一一、六四四本	一七〇、四七九尺〆 六〇本

（ハ）製材　朝鮮内ニ於ケル鴨綠江材ノ需要ハ逐年增加シ殊ニ建築用材煙草箱及仕組板類ノ需要多ク主トシテ新義州製材工場ニ於テ行ヒ尚會寧製材工場ニ於テモ僅少ノ製材ヲ爲シタリ資材及製材高左ノ如シ

製材所別	四十三年度		四十四年度自四月至九月	
	資材	製材	資材	製材
	尺〆	尺〆	尺〆	尺〆
新義州	二〇〇、九七一	一一三、九七八	九三、一四七	四九、〇一一
會寧	二四、三四九	一七、二四四	六、四一一	二、八五五
計	二二五、三二〇	一三一、二二二	九九、五五八	五一、八六六

（ニ）木材賣却　主トシテ新義州、龍山等ニ於テ行ヒ北韓兵營ノ建築用材ヲ供給シ民間ニ對スル供給ハ僅少ナリシカ四十三年度ニ至リ賣却代金延納ノ途開レカタルヲ以テ廣ク民間ノ需要ヲ充タスコトヲ得ルニ至レリ最近數年間ニ於ケル數量價格ヲ擧クレハ左ノ如シ

木材賣却數及金額

流域別	鴨綠江									
材種	丸、角材		小丸太		車輛		車柱		製材	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
四十五年度豫算	尺〆 九五、〇〇〇	円 三八六、〇〇〇	—	—	係 二〇、〇〇〇	七八、〇〇〇	片 一〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	尺〆 八五、〇〇〇	六七七、五〇〇
四十四年度豫算	尺〆 九〇、〇〇〇	三九三、七〇〇	—	—	—	—	—	—	尺〆 一二〇、〇〇二	一、〇六〇、〇一七
四十三年度	尺〆 四〇、七一〇	一二九、七二九	本 三、〇四四	一、九九九	係 七七	七三	片 九二	二七	九三、七六七	六六四、一三八
四十二年度	尺〆 五六、三四六	円 一七五、九八〇	本 一九、三七五	一〇、六九七	係 六二五	五七八	—	—	尺〆 八八、二四六	七九四、五四一
四十一年度	尺〆 九二、五〇六	円 三四〇、五八九	円 五五八	八三七	—	—	—	—	尺〆 四、三〇八	三一、五五二
四十年度	尺〆 一九、八五七	円 七八、五八八	—	—	—	—	—	—	尺〆 一四二	一、〇〇九

豆滿江 丸、角材 數量	丸、角材 金額	小丸太 數量	小丸太 金額	製材 數量	製材 金額	計 金額
—	—	—	—	—	—	一、二一六、五〇〇
二〇、〇〇〇尺〆	六〇、〇〇〇	—	—	一二、八〇〇尺〆	八三、二〇〇	一、五九六、九一七
六、三五八尺〆	一七、六七七	二、三九八本	一、七九八	二六、八九一尺〆	三二九、八四一	一、一四五、二八二
—	—	二四本	二三	七七〇尺〆	九、六二一	九九一、四四〇
—	—	—	—	—	—	三七二、九七八
—	—	—	—	—	—	七九、五九七

五　朝鮮ノ木材

鴨綠豆滿兩江流域ノ產出材ハ一部ハ淸國等ニ輸出セラレ一部ハ朝鮮內地ノ需要ニ充テラル而シテ右兩江流域以外ノ森林ニ於テモ多少木材ノ產出ナキニ非サレトモ其ノ材質一般ニ粗惡ニシテ各種ノ需要ヲ充シ難ク加フルニ朝鮮內陸ノ發展ニ伴ヒ主トシテ內地人家屋用材ノ需要增加シタル爲內地及外

國產木材ノ供給ヲ仰クコト尠カラス

今最近三箇年ノ輸移出及輸移入價格ヲ示セハ左ノ如シ

輸出及移出價額

種類	輸移出先	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年
		円	円	円
木材及板	日本	二、五七八	四、二〇五	三、五五八
	清國	一四一、〇九八	一二六、〇三八	一四八、八八二
	露領亞細亞	二五	一三	—
	計	一四三、七〇一	一三〇、二五六	一五二、四四〇
薪材	清國	三〇、二六五	三五、〇〇四	三五、四一九
木炭	日本	—	二	四七
	清國	二四、七三二	一八、六七七	三一、七八四
	計	二四、七三二	一八、六七九	三一、八三一
	日本	二、五七八	四、二〇七	三、六〇五

種類	輸移入先	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年
合計	清國	円 一九六、〇九五	円 一七九、七一九	円 二一六、〇八五
	露領亞細亞	二五	一三	—
	計	一九八、六九八	一八三、九三九	二一九、六九〇

輸入及移入價額

種類	輸移入先	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年
木材及板	日本	円 一、一六八、三五一	円 七一六、一〇〇	円 九一五、八五三
	清國	四七〇、三五七	二四三、二〇三	七二、九〇〇
	合衆國	三二、六八〇	二一、二二四	七三、九〇四
	其ノ他	—	一、二二六	二、五五四
	計	一、六七一、三八八	九八一、七五三	一、〇六五、二一一
薪材	日本	四五、一七四	四〇、八四六	四八、〇五四
	清國	一、一五八	二五五	二九
	計	四六、三三二	四一、一〇一	四八、〇八三

木炭	日本	九七、八六〇	七二、九一三	七二、〇八〇
	清國	七七	八四	一三〇
	計	九七、九三七	七二、九九七	七二、二一〇
合計	日本	一、三一一、三八五	八二九、八五九	一、〇三五、九八七
	清國	四七一、五九二	二四三、五四二	七三、〇五九
	合衆國	三二、六八〇	二一、二二四	七三、九〇四
	其ノ他	—	一、二二六	二、五五四
	計	一、八一五、六五七	一、〇九五、八五一	一、一八五、五〇四

第十章 商業

一 外國貿易

朝鮮ノ貿易ハ年ニ多少ノ消長アリト雖駸駸トシテ增進シ明治四十三年度ノ如キ貿易總額約六千萬圓ノ多キニ達シ四十四年度ニ至リテハ一躍八千萬圓ニ上リ未曾有ノ膨脹ヲ示セリ蓋其ノ歸スル所ハ韓國併合ノ結果內地人ノ移住增加シ消費及生產力ヲ激增シ加フルニ輓近諸般ノ施設改善ニ伴ヒ需用供給ノ關係益繁多ト爲リシニ因ル之ヲ十數年以前ノ貿易額ニ比スレハ約十倍ニ上騰セリ

朝鮮外國貿易價額一覽表

年次	輸出入			金銀輸出入	
	輸出	輸入	合計	輸出	輸入
明治四十四年	一八、八五六、九五五	五四、〇八七、六八二	七二、九四四、六三七	一二、八五七、〇二三	四、七三九、二四五
同　四十三年	一九、九一三、八四三	三九、七八二、七五六	五九、六九六、五九九	九、一八三、六七六	一、八七六、一二〇
同　四十二年	一六、二四八、八八八	三六、六四八、七七〇	五二、八九七、六五八	六、九五九、三四九	九二〇、九八〇

同四十一年	一四、一一三、三一〇	四一、〇二五、五二三	五五、一三八、八三三	五、〇一六、六八六	三、二四七、八八一
同四十年	一六、九七三、五七四	四一、三八七、五四〇	五八、三六一、一一四	五、五四七、二四三	一、九九二、一八六
同三十九年	八、九〇二、三八七	三〇、二九一、四四五	三九、一九三、八三二	六、〇五七、五五二	一、三二九、六四二
同三十八年	七、九一六、五七一	三二、九七一、八五二	四〇、八八八、四二三	五、五一五、九六七	一、一五一、三二二
同三十七年	七、五三〇、七一五	二七、四〇二、五九一	三四、九三三、三〇六	五、〇七六、四二五	四一四、三五一
同三十六年	九、六六九、一三一	一八、四一〇、七一一	二八、〇七九、八四二	五、六一二、六一五	三八〇、七四三
同三十五年	八、四六八、五〇三	一三、六二九、八四二	二二、一六一、三四五	五、六一一、一六九	九六、五五〇

備考　便宜上内地移出入モ輸出入ノ中ニ包含セシメタリ尚以下ノ記述ニ於テモ然リ

「輸出」ハ明治四十年ニ於テ急ニ増加シ翌四十一年ハ稍々停滞ヲ示シタルモ四十二年ニ至リテ漸ク回復シ四十三年ニ入リテハ空前ノ盛況ヲ呈セリ蓋農事ノ改良發展ニ伴ヒ米穀其ノ他農産物ノ著シク増加シタルト航運ノ發達ニ伴ヒ沿岸貿易ノ增進シ加フルニ輸出品種年ヲ逐ヒテ増シ海外販路ノ著シク擴張セラレタルニ因ラスムハアラス日清戰爭以前ニ在リテハ輸出額二百萬圓ヲ上下シタルニ過キサリシカ日露戰爭前後ニ於テハ七八百萬圓ニ上リ四十年以來倍加シテ千六百萬圓ニ達セリ而シテ「輸入」ノ輸出ヲ超エ年ヲ逐ヒ著シク增加シタル所以ハ朝鮮内ノ發展ニ伴ヒ内地人ノ移住増加シ加フ

ルニ交通機關ノ發達ニ因リ海外貨物ノ需用範圍擴張シ輸入品ノ増大ヲ來セルト朝鮮人生活狀態ノ上進シ海外貨物ノ需要増加シタルニ起因ス日清戰爭以前ニ在リテハ輸入額五百萬圓ヲ超エサリシカ日露戰爭前後ニ於テハ三千萬圓ヲ上下スルニ至リ四十年ニハ四千百餘萬圓ニ昇騰シタリ

（一）輸出　輸出重要品比較一覽表　（圓）

品名	明治四十四年	同四十三年	同四十二年	同四十一年	同四十年	同三十九年
米	五、二八三、六七二	六、二七七、七五二	五、三三二、五五七	六、四八四、八三一	七、五五八、五〇五	一、六〇三、六四八
大麥	九九、四四九	三六一、二九三	七二、一二八	五八、七一三	七五、二二四	四、八〇三
小麥			六六九、四八九	一〇八、〇四一	三八一、四五五	一九六、六〇二
大豆	四、六三〇、〇七三	五、七二六、〇八二	三、五一三、七五三	三、三七〇、四二二	三、八八一、六一七	三、五一〇、一四六
小豆			一四六、八四九	四一、一九四	三五、二三一	八六、二五二
海參	—	—	七三、九三六	七六、六一一	九一、九二七	九五、九五一
鮮魚	一三三、七七七	一七三、九二九	一七一、二六六	一六九、九一六	二四五、八四五	二三、七五八
乾魚鹽魚	一四八、八〇一	一四三、五三三	八九、一一五	六八、五四八		
生綿、繰綿	二五二、三〇九	三〇四、八六四	二七三、〇九五	一〇三、五〇七	六三、四五二	九〇、二〇七

牛皮	一、〇六八、八五七	一、〇〇四、七三五	八一五、二九〇	五一八、九三四	六七六、五二七	六五八、八一八
鐵鑛及銅鑛	—	—	二八三、九八六	七七二、六五七	五八、三三六	三七、〇七四
黒鉛	一三二、二五七	一一四、二〇六	一五〇、五七五	九六、九三五	一九、三八九	—
肥料	五一〇、四八五	四〇九、五〇四	三六二、五三一	二六〇、五三二	三〇四、六三三	二四一、一五三
人蔘	七〇、〇二四	一七九、八〇四	八五四、七九八	一、七五九	一、二〇二、九六三	一三、四六二
生牛	七〇三、五八一	六三四、〇八一	四二六、二四九	七一七、〇五四	七七五、二二〇	五一一、六〇三

備考　本表中生牛ノ明治三十八、九兩年ハ家畜類ヲ含ム

（イ）米　表中示スカ如ク米ハ輸出品中第一位ヲ占メタリ明治三十九年以前ニ在リテハ米ノ輸出頗ル振ハリシカ明治四十年ニ至リ一躍七百五十五萬圓餘ニ上レリ之レ一ニ内地人カ農事ヲ奬勵シ田畑ノ開拓發展ニ努メタルニ因ルモノニシテ米産ノ中心タル慶尙道、全羅道ヲ始メトシテ忠淸南道、黃海道等產出多キ方面ニ本邦移住農業者最モ多シ全道米ノ產額八百萬石中輸出セラルルモノハ約五十萬石ニシテ其ノ大部分ハ内地ニ販路ヲ有セシカ輓近滿洲地方ヘ輸出セラルルモノ增加シ又浦鹽其ノ他海外諸國ニ輸出スルコト少カラス四十四年ニ於ケル各道ノ米作ハ頗ル豐饒ニシテ九百八

十萬石ヲ收穫シタリシカハ其ノ輸出モ增加シ輸出價額五百二十八萬圓ニ達セリ

（ロ）大麥、小麥　產地增加シ農產物中米、大豆ニ亞ク重要輸出品トナリ其ノ大部分ハ內地ニ移出セラルルモノニシテ四十二年ノ如キ小麥ノ輸出ハ六十六萬九千圓ニ達シ空前ノ盛況ヲ呈セリ之ヲ前年（四十一年）ノ十萬八千圓ニ比スレハ約六倍强ニ達セリ蓋內地ノ製粉業ノ發達ニ伴ヒ小麥ノ不足ヲ告ケ加フルニ小麥粉ノ產出地タル北米合衆國凶作ニシテ日本ヘノ輸送充分ナラス從テ日本ハ原料ヲ海外ニ仰カサルヘカラサルノ必要ニ驅ラレ其ノ一部ヲ充スヘク朝鮮小麥ノ移入ヲ見ルニ至レリ四十四年ニハ水害ノ爲收穫ニ多大ノ影響ヲ與ヘタリシモ四百餘萬石ノ生產アリシカハ相應ノ輸出ヲ見タリ

（ハ）大豆　輸出額三百五十餘萬圓ニ上リ大部分ハ內地ニ移入セラルル近時滿洲產大豆ノ海外輸出ノ盛ナルニ伴ヒ其ノ影響朝鮮ニ及ヒ朝鮮產大豆ノ品質滿洲產ニ比シ遙ニ優等ナルノ事實世界ニ紹介セラルルニ至リ四十二年ノ如キ非常ノ昇騰ヲ來セリ四十四年ニハ前年及前前年ニ比シ遙カニ增穫アリシカハ從テ輸出額モ增加セリ

(ニ)魚類　朝鮮沿岸ノ漁業發達ト各地交通連絡ノ便トヲ得ルニ至ラハ一層ノ盛況ヲ呈スヘク近時朝鮮內地ノ發展ニ伴ヒ魚類ノ需供ノ增加シタルハ海外輸出ノ擧ラサル所以ナリ

輸出額ハ鮮魚、乾魚及鹽魚ヲ合シテ每年二十五萬圓ニ上ル其ノ主要ナルモノヲ擧クレハ

鮮魚
- 內地移出　鯛、鱶、鰆、鯖、鰤、鰡、海鰻、鯔、鰶、鱵
- 清國輸出　魴鮄、石首魚、方頭魚(カナガシラ)

製造品
- 內地移出　海參(イリコ)、煮干鰮、干鰮肥料、鹽鯛、鯛田麩罐詰、鹽鯖、鹽鯖、鹽鯨
- 清國輸出　海參、鱶鰭、鮑罐詰乾蝦、淡菜、干蠣、干蟶(アゲマキ)、石首魚

就中海參ノ輸出ハ頗ル多ク每年七萬圓以上九萬圓ニ及ヘリ

(ホ)生棉　明治三十九年舊韓國政府ハ木浦附近ノ地ヲ選ミテ米國產種棉花ノ栽培ヲ爲シ之カ奬勵ヲ計リ其ノ成績ノ良好ナルヲ見テ漸次擴張スルニ至リシカ品質優良ニシテ價格亦上位ニ在リ四十二年ノ如キ棉花ノ主產地ナル北米合衆國非常ノ凶作ナリシカハ著シク歡迎セラレ輸出額生棉、繰綿合シテ二十七萬圓ニ及ヒ未曾有ノ盛況ヲ呈セリ從來朝鮮人ハ自ラ棉花ヲ耕作シ自ラ紡出シ自ラ製

織シテ之ヲ衣料ニ供スル習慣ヲ有シタルヲ以テ到ル處棉花ノ栽培ヲ見サルナカリシカ近來紡績糸ノ輸入セラルルヤ棉花ノ紡出漸ク其ノ跡ヲ絶タムトスルニ至リ次テ內地ヨリ白木綿、キヤラコノ移入セラルルヤ嗜好之ニ傾キ棉花ノ自ラ海外ニ輸出セサルヘカラサルニ至レリ是レ四十一年以來著シク輸出ノ増加シタル所以ナリ四十三年ハ棉花不作ノ爲稍々振ハサリシモ尙三十萬圓ノ輸出ヲ見、四十四年ハ棉花ノ生育開絮頗ル良好ニシテ四百十餘萬貫ノ收穫ヲ得前年ニ比シ約二倍ノ増收アリシカハ從テ輸出モ多カリキ

（ヘ）牛皮　牛皮ハ生牛ト相俟チテ輸出品中重要ナル地位ヲ占メ其ノ過半ハ內地ニ移出セラレ革、製靴、背嚢、馬具等ノ需要ヲ充シ他ハ清國ニ輸出セラレ支那靴ノ裏皮、臥煖爐ノ被覆等ニ供セラル四十一年ニハ稍停滯ノ狀ヲ呈シ輸出五十一萬圓餘ナリシカ四十二年ニハ八十二萬圓ニ上リ四十三年ニハ一躍一百萬圓ニ達シ四十四年ニハ一百六萬圓ニ至レリ

（ト）生牛　生牛ノ輸出モ內地向其ノ過半ヲ占メ他ハ淸國及露領ニ屬ス內地ニ輸送セラルルモノハ多クハ耕牛ト爲スモノニシテ內地ニ於ケル良牛肉ノ需要増大シタル爲耕牛ニ不足ヲ生シタルノ結果

比較的ニ廉價ニシテ而カモ耐忍力ニ富メル朝鮮牛ハ交通ノ便利ナル九州、四國、山陽道地方ニ分布セラレ爲ニ四十年、四十一年ニ於テハ各七十餘萬圓ノ輸出ヲ見ルニ至リシナリ然ルニ四十一年夏內地ニ牛疫ノ流行スルヤ病源ハ朝鮮及淸國ヨリ輸入セラレタルモノニアリトシ一時輸入禁止說ノ唱ヘラルルサヘアリシカハ四十二年ニハ著シク減少シ四十二萬圓トナリシカ四十三年ニハ六十三萬圓ニ上リ四十四年ニハ七十萬圓ニ達セリ[illegible]

(チ)鐵鑛　鐵鑛ハ戰寧、殷栗及安岳ヨリ產出シ鎭南浦ヨリ內地ニ移出セラルルモノニシテ四十一年來激增シ同年ニハ十六萬圓移出セラレタリ鐵鑛ハ枝光鐵工場ニ仕向ケラレ同所ニ於テ精製セラル尙近來所所ニ鐵山發見セラレ採掘ニ着手シツツアリ

(リ)黑鉛　黑鉛ノ輸出ヲ見ルニ至リシハ明治三十九年以來ノ事ニシテ同年及四十年ハ僅少ニ過キサリシカ四十一年ニハ釜山ヨリ輸出シタルモノノミ八萬二千餘擔ニ達シ輸出總額九萬六千餘圓ニ及ヒ四十二年ニハ元山ヨリノ輸出頗ル多ク輸出總額十五萬餘圓ニ達シ四十三年ニハ十一萬餘圓トナリシモ四十四年ニハ約十五萬圓ニ上リ近來工藝上ノ需要增加シタルヲ以テ將來一層ノ增額ヲ見ル

ヘキ運命ニ在リ

(ヌ)肥料　輸出肥料ハ九州、中國地方ニ入ルモノ多ク四十一年ニハ雨天ノ爲産出少ナク二十六萬餘圓ナリシカ四十二年ニハ漁獲ノ多カリシニ加フルニ天候好ク肥料ノ乾燥充分ナリシニ反シ北海道ノ鰊漁不況ナリシカハ市場ノ相場昇騰シ三十六萬二千餘圓ノ移出ヲ見タリ四十三年ハ四十一萬圓ニ上リ四十四年ハ五十萬圓ニ達シタリシカ四十四年ニ於ケル輸出増加ハ主トシテ義州ニ於ケル酒精ノ内地ニ移送セラレシニ因レリ

(ル)人蔘　開城附近ノ産ヲ最トシ清國ニ輸出スルモノナリ清國人ハ補血興奮劑トシテ珍重ス近年人蔘ノ虫害甚シク産出消長ヲ免レスト雖從來清國ニ輸出セラルルモノ年年百萬圓内外ニ達シ四十年ニハ百二十萬圓餘輸出シタリシニ反シ四十一年ノ如キ清國財界不振ト人蔘ノ虫害ニ基ク萎微トノ爲僅ニ千七百餘圓ヲ輸出セシニ過サリシカ四十二年ニハ一躍八十五萬四千圓ニ達シ四十三年ニハ又約十八萬圓ニ下リ四十四年ニハ亦振ハス僅ニ八萬圓ニ過キス其ノ他輸出品ノ主ナルモノハ石炭、木材、及紙等ニシテ孰モ年年増長ノ勢ヲ示セリ

（二）輸入　輸入重要品比較一覽表（圓）

品目	明治四十四年	同四十三年	同四十二年	同四十一年	同四十年	同卅九年
小麥粉	六五四、二七三	三三二、四六九	三二二、五〇六	三八四、八二一	三二一、四〇二	三一八、四七一
食鹽	五八一、四三二	三九四、五一六	三〇三、六四二	四一七、一三〇	三六三、一三九	三〇九、九二一
醬油及味噌	…	…	…	一七四、九六一	一九〇、七三四	二〇八、七八八
生果乾果及鹹果	三六八、九二一	三〇〇、九九一	三〇七、七六〇	三一三、〇三六	二三五、六八九	二四一、七六一
清酒	七九七、九五四	七三五、六〇七	七五九、二〇七	七〇〇、四七〇	七二六、八三六	七九九、五三三
麥酒及黑麥酒	三二三、一〇五	二八七、六三五	…	三七三、四三九	三一二、九六八	一九九、〇三七
精糖及砂糖	一、二〇七、九〇三	八六二、二二八	八三八、一二九	八五二、一一三	八〇一、六九七	六七六、三六三
生金巾			一、一三五、〇〇九	一、三六五、〇一三	一、八六九、五八一	一、〇〇七、八三三
シーチング	五、七三七、三一八	四、四八六、二八九	二、四二八、五九七	二、九七五、七六九	三、〇八八、二二九	一、八五六、三六一
晒金巾	一、八一六、九八四	一、六七六、〇九八	一、四九三、六九八	一、五七四、三六九	一、二八一、六三七	七六五、〇三五
白木綿及生木綿	二、一七三、三〇六	一、四四八、三〇〇	一、三一一、四一七	一、六二五、八六四	一、六二九、七二四	一、七四九、〇〇三
麻布	一、四〇二、七四〇	九〇六、〇八五	一、五二五、三九八	一、六四九、九〇五	九九五、七八九	八一七、三四八
絹布	九八三、四八三	一、〇八五、四七四	一、二四四、二七六	一、四七二、五四五	一、三七一、五八七	八〇八、〇三五
陶器及磁器	四八三、五七八	三三八、四九九	二五三、八六二	二七五、三二一	二九四、四三六	二三五、二二七

煙草	八九四、九四二	九三五、三六四	一、一六八、二七六	一、一七八、四六五	一、二四一、三〇九	一、一六一、二四五
木炭	・・	・・	七二、九九七	九七、九三七	七一、二四三	六三、二〇五
石油	一、四三六、一五三	一、二六一、七六〇	九三四、三〇三	一、四四一、五二六	一、〇六八、一七六	一、〇〇九、三五一
マッチ	四四六、九七五	三九九、一三〇	三三九、四七四	三九一、七二四	三四九、三四七	三二八、〇五七
石炭	一、三三四、九三〇	七九四、九三七	八八二、六四一	一、三七〇、五八〇	八〇三、五八七	六八八、八〇二
木材及板	一、九四八、八四六	一、六八〇、九二三	一、二八七、二六三	一、八九七、一七六	一、八二八、三五二	一、一五五、三九二
繰綿及打綿	四六九、一六四	三六八、二一〇	・・	三九二、七〇一	四〇五、一八一	三一三、二三三
綿織糸	二、一二三、八二七	一、八〇一、三九二	二、二八五、〇一四	二、〇二三、六二九	二、六七〇、八二九	一、五八三、五〇四
熟鐵	九一六、五九一	五三一、七三五	四八六、五三三	四五六、二三五	四四六、〇七八	・・
電鍍板鐵	・・	・・	・・	二四二、三三九	二五六、五〇〇	二七六、二五九
紙類	九九五、二九二	七〇三、四五五	六〇〇、八二〇	五七七、四〇六	四二五、四三六	三五三、六〇五
諸文具	二八八、四三九	三〇三、二一八	・・	二五九、六六一	一七一、二六八	一九八、八五八

備考　本表中石炭ノ明治三十九年ハ「コークス」ヲ含ム

(イ)小麥粉　北米合衆國ノ輸入ニ係リ近時朝鮮ニ於ケル內地人ノ移住增加ニ伴ヒ其ノ輸入著シク激增シ毎年三十餘萬圓ニ上レリ四十一年ノ如キ三十八萬四千餘圓ニ達セシカ四十二年ニハ三十二

萬圓ニ下レリ蓋供給國北米合衆國ノ小麥凶作ノ結果日本ノ需要ヲモ充ス能ハス却テ朝鮮ノ小麥カ內地ニ移入セラレシ有樣ナリシカハ減額ヲ見タル所以ナリ四十三年ハ三十三萬餘圓ニ過キサリシカ越テ四十四年ニハ一躍六十萬圓ニ昇騰セリ

(ロ)食鹽　從來淸國ノ輸入過半ヲ占メタリシカ內地人ノ移入ニ伴ヒ味噌、醬油、漬物等ニ要スル食鹽ノ需要激增シ內地及臺灣製鹽ノ輸入モ漸次增加セリ朝鮮製鹽ハ從來煮熟法ニ依ルモノニシテ生產費頗ル高價ナルヲ以テ廉價ナル外國食鹽ノ輸入セラルルニ至リ頓ニ朝鮮ノ製鹽業衰退シ三十九年ニ三十萬圓餘ノ輸入アリシヲ始メトシ四十年ニハ三十六萬圓、四十一年ニハ四十一萬七千圓ト逐次年ヲ逐ヒ增加ヲ示セリ然ルニ四十二年ニハ三十萬圓ニ減退シ前年ニ比スレハ十一萬圓ノ減額ヲ生シタルモノ一ハ前年度後半期ニ於ケル輸入過大ノ結果、持越アリシニ起因シ他ハ朝鮮ノ製鹽業漸ク面目ヲ改メ天日製鹽場及內地式採鹹法漸ク好果ヲ擧クルニ至リ四十二年度ニハ產額增加シタルニ由ルナリ四十三年度ニ至リテ更ニ四十萬圓四十四年ニ至リ五十萬圓ニ增加ヲ示シタルハ移住者ノ激增ニ原因セリ

（ハ）醬油及味噌　輸入先ハ內地ナリ明治四十年以後ニ在リテハ每年二十萬圓ヲ上下セル輸入アリシカ近年內地人ノ釜山、仁川、大邱、京城等ニ於テ輸入品ニ劣ヲサル精製品ヲ製出スルアリ而カモ逐次其ノ製造高ハ膨脹シ來リ輸入品ヲ壓倒セムトスルノ傾向ヲ示セリ四十一年ニハ其ノ輸入十七萬餘圓ニ減少シ四十二年ニハ稍增入アリシモ蓋前年ノ冬朝鮮最大釀造所タル仁川ノ日本醬油會社ノ罹災アリタル結果ナリ輓近內地人ノ駸駸トシテ移住ノ增加スルニ從ヒ朝鮮內ノ需要ノ增加ニ伴ヒ製造高モ漸次增加セリ四十四年ノ移入額ハ約十五萬圓ナリ

（ニ）生果、乾果及鹹果　輸入ハ數年以來漸次增加シ三十餘萬圓ニ及ヘリ多クハ柑橘類、林檎、梨、梅等ニシテ內地人ノ移住增加スルニ反シ半島內ニ之カ生產少キト朝鮮人ノ嗜好之ニ傾ケルトニ起因ス四十四年ニハ三十餘萬圓ニ及ヘリ

（ホ）清酒　輸入ハ每年七十餘萬圓ニ及フ需用者ハ內地人ナリ近時朝鮮內ニテ清酒ノ釀造セラルルアリ每年二萬石ヲ釀出シ輸入額ノ七八割ヲ占ムルニ至リシカハ四十年、四十一年ニハ遞次輸入減少ヲ示セリ四十二年ニ稍輸入增加ヲ見タルハ釀造家ノ增稅ヲ見越シテ多ク仕入ヲ爲シタルニ起因

ス四十三年ニ於テハ七十三萬五千圓ノ輸入アリ四十四年ニ於テハ七十九萬八千圓ノ輸入アリ漸次内地人移住ノ増加ト半島風土ノ釀造ニ最適セサルヨリ輸入増加ノ傾向ヲ示セリ

(ヘ)麥酒及黒麥酒　亦多クハ内地人向ニシテ輸入先キモ亦内地ナリ近年漸次需要増加シ四十一年ニハ三十七萬三千餘圓輸入アリシニ四十二年ニハ三十一萬二千圓ニ減シ約六萬圓ノ減少ヲ見ルニ至リシハ畢竟本品ノ最賣行ヨキ期節ニ京仁地方内地人周密ノ地ニ虎疫ノ猖獗シタルニ因ル四十三年ノ輸入ハ二十八萬七千餘圓ニシテ尙二萬五千圓弱ノ減入ヲ示セルハ前年度ト同一ノ理由ニ基キ平壤地方ニ虎疫ノ流行アリテ一般恐怖ヲ來セシニ因ル四十四年ニハ約三十二萬圓ノ輸入ヲ見タリ

(ト)砂糖及精糖　輸入先ハ内地ニシテ内地人ノ激増ニ伴ヒ需用モ増加セリ從來朝鮮人ハ糖料トシテ蜂蜜乾棗等ヲ用ヰタリシカ近來之ニ代フルニ砂糖ヲ以テスルモノ増加シタリシカハ輸入モ亦年ヲ逐ヒテ増加ヲ示シ四十一年ニハ八十五萬三千餘圓ニ上レリ然ルニ翌四十二年ニ八十三萬八千圓トナリ一萬四千圓ノ減輸入ヲ見ルニ至リシハ蓋大日本製糖會社ノ紛亂アリテ一時事業ヲ中止スルニ至リシニ因ル四十三年ニハ其ノ勢力ヲ復活シ其ノ輸入八十六萬圓ニ上リ四十四年ニハ一躍百十萬

圓ニ達セリ砂糖ニ關スル關稅ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス皆七分五厘ニシテ而カモ朝鮮內ニハ消費稅ノ課セラルルコトナキカ故ニ內地ニ比シ價格頗ル廉ナリ

(チ)生金巾　輸入品ノ大部分ハ英國ヨリス明治三十八年ニハ二百三十二萬七千餘圓ノ輸入ヲ見タリシカ漸次減少ノ傾向ヲ示シ爾來多少ノ消長ヲ經テ四十二年ニハ百十三萬五千圓ニ至リ五年以前ノ半額以下ニ降レリ蓋近時朝鮮人ノ漸ク外觀ヲ美ニスルノ氣風ヲ生シ外裝的ニハ晒金巾ヲ撰ミ耐久的ニハ「シーチング」ヲ需ムルニ至リシニ歸因ス漸次生金巾ノ需要力衰ヘ晒金巾、「シーチング」ニ勢力ヲ奪ハレツツアルハ爭フヘカラサル事實ナルカ如シ

「シーチング」金巾、木綿、麻布ハ朝鮮人ノ衣料トシテ必須ノモノナルカ故ニ輸入品中最上位ニ居ルモノナルカ近年我國產ノ「シーチング」ハ價格低廉ニシテ耐久的ナルヲ以テ朝鮮人ノ嗜好ニ適シ其ノ消長ハ英國產ノ生金巾晒金巾等ト關聯ス明治四十年ノ如キハ輸入額三百餘萬圓ニ上レリ蓋當年ハ豐作ノ爲購買力ヲ增進セシニ因ルト雖四十一年以來農產物ノ低廉ト市場ノ不況トニ因リ輸入減少シ四十二年ニハ二百四十二萬八千餘圓ニ至レリ然レトモ四十三年ニハ好況ヲ呈シ三百萬圓

ニ上レリ四十四年ニハ前年度以上ノ好況ヲ呈セリ

(リ)洒金巾　亦生金巾ト同シク其ノ大部分英國ノ輸入ニ係リ近年百五十萬圓ヲ上下スルノ景況ヲ呈セリ蓋本品ハ漂白ノ勞ヲ要セス生金巾、シーチングニ比シ外觀美ナルカ故ニ朝鮮人ノ嗜好ニ適セリ從テ四十三年ニハ百六十七萬圓四十四年ニハ百八十萬圓ノ輸入ヲ見タリ

(ヌ)白木綿及日本木綿　就中日本人向縞木綿及絣ハ年年些少ナカラモ增加セルニ反シ朝鮮人向ノ白木綿ハ年年減少セルヲ見ル明治三十八年中ニ於テ二百萬圓餘ノ輸入アリシモノカ遞次減少シ明治四十二年中ニ於テハ百三十一萬圓ニ至レリ內朝鮮人向白木綿ハ八十六萬圓ニシテ他ハ日本人向ナルカ之ヲ明治四十一年ニ比スレハ白木綿ハ三十二萬圓ヲ減シ僅ニ日本人向木綿ニ於テ八千圓弱ノ增入ヲ見タルニ過キサルナリ此ク減少スルニ至リシ原因ハ一ハ朝鮮人ノ購買力ノ減少ニ基キ他ハ英國產出ノ金巾類ノ好敵ヲ控ユルヲ以テナリ日本人向木綿類ノ增加セルハ內地人ノ移住增加ニ伴フ結果ナリ四十四年ニハ約二百萬圓ノ輸入アリタリ

(ル)麻布　朝鮮人ノ夏衣料トシテ普ク使用セラルルカ故ニ需要甚タ多ク嘗テ朝鮮內ニモ相應ニ產出

セラレシカ近年海外ノ輸入盛ニシテ遂ニ壓倒セラレ淸國產麻布ハ覇ヲ唱フニ至レリ明治四十一年中其ノ輸入百六十四萬九千九百五圓ニ激增シ四十二年中財界ノ不況ニモ拘ラス百五十二萬五千餘圓ノ輸入ヲ見タリシカ四十三年ニハ著シク減少シテ約九十萬圓ニ減退シタルカ如キ半島內麻布ノ產出面目ヲ改ムルニ至リシニ由ルヘク四十四年ニハ百三十萬圓ノ輸入ヲ見タリ

（チ）絹布　多クハ朝鮮人上流社會ノ衣服料トシテ需要セラルルモノニシテ輸入額ノ九割以上ハ淸國ノ產出ニ成ルモノニシテ他ハ日本及外國ノ輸入ニ係ル淸國ノ輸入ニ係ルモノハ頗ル廉價ニシテ朝鮮人ノ嗜好ニ適セルモノハ靑、赤、紫、白、桃、黃等ノ色合ニシテ浮模樣アル無地ノモノ多シ近來內地人ノ求メテ裏地帶等ニ使用スルモノ亦尠カラス近年輸入漸次ニ增加シ四十一年ニハ一般ノ好況ニ伴ヒ百四十二萬圓餘ニ昇リ四十二年ノ不況ニモ拘ラス猶百二十四圓ノ輸入ヲ仰ケリ元來朝鮮ニハ朝鮮人ノ需要ニ應スヘキ紡織ノ施設、工藝ノ企業備ハラサルカ故ニ漸次生活程度ノ上進ニ伴ヒ海外絹布類ノ輸入增加ノ機運ニ在リ四十四年ニハ約百萬圓弱ノ輸入ヲ仰ケリ

（ワ）陶磁器類　從來輸入品ノ多クハ內地人ノ需要ヲ充ス爲メナリシカ近來朝鮮人ノ生活狀態ノ次第

ニ內地風ニ化セラルルニ至リ陶磁器ノ需要頓ニ增加シ食器類、便器、啖壺等內地製ノモノヲ歡迎スルニ至レリ元來朝鮮內ニハ陶磁器ノ製作ハ或特定モノヲ除クノ外產出ナキヲ以テ內地及清國ニ及ビ之カ供給ヲ仰クノ外ナシ四十一年中ニハ二十七萬五千三百餘圓、四十二年ノ不況ニモ拘ラス二十萬三千八百餘圓、四十三年ニハ約三十餘萬圓、四十四年ニハ約四十萬圓ノ輸入ヲ見タリ

（カ）煙草　數年來輸入高百十六萬圓ヲ下リシコトナク明治四十年ノ如キハ百二十四萬一千餘圓ニ上リ四十二年ニ百十六萬圓八千二百餘圓ノ輸入ヲ見タリ而シテ紙卷煙草ハ總輸入額ノ九割弱ヲ占メ刻煙草ハ一割ヲ占メ其二三步ハ葉卷煙草及葉烟草ナリ而シテ其輸入先ハ日本、支那、土耳古、埃及、比律賓、英國、北米合衆國ナリ朝鮮內ニハ未タ內地人向ノ刻煙草ノ製出セラレサルヲ以テ內地人ノ移住ト共ニ輸入額ハ漸次增加ヲ示シタルカ明治四十三年中ニ於テ九十三萬圓ニ減少次テ四十四年ニ於テ八十九萬圓ニ減少シタルハ東亞煙草會社ノ製品漸次增加改良セラレ外煙ノ販路ヲ奪ヒタルニ歸因ス東亞煙草會社カ四十三年五月ヨリ四十四年十月ニ至ル一箇年半ノ間ニ於テ其ノ製出ニ係ルモノハ卷煙草七億九千九百八十六萬五千本此ノ價格百五十九萬四千八百七十五圓及刻煙

草五千五十八貫此ノ價格一萬八百二十四圓合計百六百九十九圓ナリ以テ其ノ貿易ニ及ホセル影響亦察スヘキナリ

（ヨ）石油　輸入ノ大部分ハ北米合衆國之ヲ占メ蘭領印度之ニ亞ク明治三十九年以來每年一百萬圓ヲ超過シ四十一年中ニハ一躍百四十四萬圓餘ニ達セリ然ルニ四十二年中ニ於テ九十三萬四千圓ニ減入シタルハ前年度輸入超過ノ結果持越ノ存セシト米油ト蘭領印度產油（旗印石油）トノ競爭ヲ生シ爲メニ市價ノ著シク下落シタルトニ因ル四十二年中ニハ百二十六萬二千圓、四十四年ニハ又約百八十萬圓ノ輸入ヲ見タリ尙朝鮮人間ニ石油ノ需要漸次增加シ加フルニ移住ト生產ノ事業益繁多ニ趨クヲ以テ將來輸入增加ノ兆ヲ示セリ

（タ）燐寸　大部分ハ內地ノ輸入ニ係リ他ハ淸國ヨリス年年增加ノ兆ヲ示セルモ四十二年中ニハ三十三萬圓ノ輸入アリ前年ヨリモ約五萬圓ノ減少ヲ見タルカ日鮮人ノ需要販路次第ニ擴張セラレツツアリ四十三年中ニハ三十九萬圓、四十四年ニハ四十萬圓ノ輸入ヲ見タリ

（レ）石炭　從來輸入石炭ハ內地產ノミナリシカ近時撫順炭ノ輸入セラルルアリ鐵道局ニテハ專ラ之

ヲ使用スルコトトナリシ結果四十二年中ニハ四萬餘噸價格二十七萬七千圓ノ撫順炭ノ輸入アリ内地炭ハ總輸入額ノ七割弱ヲ占ムルニ過キサリキ漸次半島ノ發展ニ伴ヒ工場、製造場、官衙ノ設備等増加スルニ至ラハ石炭ノ供給激増スルニ至ラム四十三年中ニハ約八十萬圓ニ過キサリシモ四十四年ニハ百三十萬圓ノ輸入ヲ見タリ

(ソ)木材及板　從來内地ヨリノ移入ニ係リ四十年中ニハ百八十二萬八千圓、四十一年中ニハ百八十九萬七千圓ノ輸入アリシニ四十二年中ニハ百二十八萬七千圓トナリ前年中ヨリ六十一萬圓ノ減少アリ蓋一ハ四十二年以來鴨綠江材ノ使用セラルルニ至リ度支部ハ工事上盛ニ之ヲ使用シタリシト一ハ財界不振ニ伴ヒ企業工事ノ少カリシニ因ル四十三年中ニ於テハ百六十八萬圓、四十四年ニハ二百萬圓ノ輸入ヲ示セリ

(ツ)繰綿及打綿　内地及南淸地方ヨリ輸入セラレ例年四十萬圓ヲ上下セリ蓋氣候冽寒ノ朝鮮ニハ必須ノモノナルカ故ニ需用ノ增加ハ當然ノ數ナリ

(ネ)綿織糸　大部分内地ノ移入ニ係リ四十年中ニハ未曾有ノ盛況ヲ呈シ輸入額二百六十七萬餘圓ニ

上リ四十一年中ニモ二百二萬圓ヲ超過シタリシカ四十二年中ニハ財界不振ノ結果一般農民ノ購買力減少シ加フルニ金巾其ノ他ノ綿布類低廉ニシテ地木綿モ下落シ爲ニ綿織糸ノ輸入振ハス百二十八萬五千圓餘ニ過キサリキ然ルニ四十三年中ニハ百八十萬圓餘ニ上リ超テ四十四年ニハ二百萬圓ニ達セリ

(ナ)熟鐵　大部分英國ノ輸入ニ係リ近時朝鮮内ニ鐵工業漸次發達シ建築工事上ノ需要増加シタルヲ以テ年年其ノ供給ヲ加ヘ四十年以來輸入増加ヲ示シ四十三年中ニハ五十三萬圓、四十四年ニハ九十萬圓ニ達セリ

(ラ)紙類　其ノ需要ハ朝鮮内地ノ發達ニ伴ヒ印刷物ノ増加シタルト日本人ノ移住激増トニ由リテ年年輸入ヲ増加セリ輸入紙ノ多クハ内地ノ生産ニ成ルモノニシテ就中印刷物及朝鮮人家屋張用ノ洋紙類多ク内地人用半紙、美濃紙、塵紙、巻紙等之ニ次ク四十二年中ニハ六十萬圓餘、四十三年中ニハ七十萬圓餘、四十四年ニハ百萬圓ヲ輸入セリ

以上ヲ除クノ外藥品類、外裝品、小間物類、文具類、乾物、罐詰類工藝化學用品類等ハ國内ノ發

其他諸國 輸出	四一、八九一	二四、四三一	六四、〇八七	七六、八五五	四、九九三	一、〇四〇	〇・〇三	〇・〇二	〇・〇二	〇・〇六	〇・〇〇	〇・〇〇
其他諸國 輸入	二、二五三、〇〇九	七〇六、六六九	一、四四五、七二一	一、〇八一、二三四	三九、四三〇	七、一〇九	〇・〇四	〇・一八	〇・三九	〇・二六	〇・〇七	〇・〇〇
總計 輸出	一八、八五六、九五五	一九、九一三、八四三	一六、二四八、八八八	一四、一一三、三一〇	一六、九七三、五七四	八、九〇二、三六七	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇
總計 輸入	五四、〇八七、六六三	三六、四八八、七七〇	三九、七八二、〇五六	四一、〇五五、五三三	四一、三二七、五四〇	三〇、二九一、四四五	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇

表中示スカ如ク朝鮮ニ於ケル貿易ハ輸出入共我國第一位ニ居リ清國之ニ次クト雖英米ノ輸入勢力ハ漸次増加ノ傾向ヲ有セリ

(四)朝鮮内貿易港ニ於ケル商況ハ左ノ如シ

貿易額港別累年比較一覽（圓）

港名	明治四十四年			同四十三年			同四十二年		
	輸出	輸入	計	輸出	輸入	計	輸出	輸入	計
仁川	三、九〇七、九一三	一六、五三五、九六六	二〇、四四三、八七九	四、〇五五、二〇四	一二、六六六、六二三	一六、七二一、八二七	三、三一六、四九八	一三、三五〇、五八四	一六、六六七、〇八二
釜山	五、八六四、七四五	一二、四五七、八〇一	一八、三二二、五四六	六、〇四九、八三四	九、八三六、六七八	一五、八八六、五一二	五、一五五、九八三	八、三〇七、九四四	一三、四六三、九二七
元山	九六七、三二九	三、五三四、二一九	四、五〇一、五四八	一、〇一九、三〇一	二、五〇三、〇九二	三、五二二、三九三	一、〇五四、六六九	二、六八六、六九一	三、七四一、三六〇
鎭南浦	二、八三〇、〇三八	二、二五七、二〇五	五、〇八七、二四三	二、五六五、九三七	一、九九四、一七四	四、五六〇、一一一	二、〇七五、九七九	三、二一五、三八三	五、二九一、三六二

京城	一八一、七六九	八、五一五、〇八五	八、六九六、八五四	二〇〇、七五四	六、三三八、二一五	六、五三八、九六九	四一、七六二	四、九〇二、六四〇	四、九四四、四〇二
群山	一、四五三、三七六	一、九〇九、五一四	三、三六二、八九〇	二、三一〇、一五六	一、一八六、四八九	三、三九六、六四五	二、〇四九、五三〇	九一三、四三六	二、九六二、九六六
木浦	一、一五一、九五八	一、四六〇、三九〇	二、六一二、三四八	一、三三四、六一五	九六三、八八二	二、二九八、四九七	一、二〇三、一八六	七二四、四四〇	一、九二七、六二六
馬山浦	二二一、八〇六	一、〇〇二、九三三	一、二二四、七二八	一五八、八三四	五六六、八六九	七二五、七〇三	一四二、六三六	三五五、八三五	四九八、四七一
清津	二四、九〇五	九八八、六七一	一、〇一三、五七六	三八、一二八	六〇〇、〇八六	六三八、二一四	一六、一一八	一、〇二三、八四五	一、〇三九、九六三
城津	六七七、七五〇	六九四、二三三	一、三七一、九七三	五四七、八三六	四四八、八五七	九九六、六九三	二六八、六四九	三三四、六九八	六〇三、三四七
新義州	一、一九三、七四九	一、三一五、三〇八	二、五〇九、〇五七	一、一二〇、六九六	六九八、九四九	一、八一九、六四五	九二三、八七八	八二三、二七四	一、七四七、一五二

表中示スカ如ク貿易價額ヨリ觀察スレハ常ニ仁川ハ第一ニ位ス之レ京龍ノ大都會ヲ控ユルヲ以テナリ釜山之ニ亞ク然レトモ近年京釜線ノ完成セラレ內地トノ聯絡關係頗ル便利トナリシ結果ハ仁川ノ勢力ハ漸次釜山ニ奪ハレツツアルノ傾向ヲ示シ仁川ハ昔日ノ面目ヲ損スルニ至レリ京城稅關出張所經由ノ貿易貨物ノ多クハ釜山港ヲ經過セルモノ多キヲ以テ船舶ノ輻輳、貨物ノ集散ノ點ヨリ觀察スレハ釜山ハ遙ニ仁川ヲ凌駕セリ元山之ニ次ク元山ハ東海岸ニ於ケル隨一ノ貿易港ナリ以上ノ三港ヲ稱シテ朝鮮三大貿易港ト謂フ又鎭南浦ハ之ニ次ク貿易港ニシテ近年發展ノ途ニ在リ其

ノ進捗驚クヘキモノアリ鎭南浦ニ於ケル貿易額ノ如キハ元山以上ノ地位ヲ占ム之レ西海岸樞要ノ良港タルト同時ニ平壤ヲ控ヘ貨物集散ノ要所ニ位スルヲ以テナリ其ノ他群山、新義州、淸津等ノ貿易ハ未タ繁榮ヲ極ムルニ至ラサルト雖孰モ發展ノ望アリ左ニ參考トシテ各地ニ於ケル物價ノ梗概ヲ擧クレハ

價格一覽表（其ノ一）　（圓）

品目		單位	京城	仁川	大邱	釜山	馬山	群山
玄米	上	一石	九・三九二	七・八六五	八・六二五	九・八九五	一〇・六九六	八・五五〇
	中	同	九・〇二五	七・五七〇	八・二四二	九・二五四	九・九八三	八・二二九
	下	同	八・五〇〇	七・一〇〇	七・八五五	八・六二五	九・四一六	七・八九〇
精米	上	同	一三・三三三	九・六二九	一二・八三三	一一・六九八	一二・二〇六	一〇・一九八
	中	同	一二・六八三	八・六三八	一一・九五八	一〇・八二〇	一一・四七五	九・七五四
	下	同	一一・五一七	七・八八四	一一・〇〇〇	九・八四六	一〇・七〇〇	九・二五〇
大麥	上	同	三・七〇〇	三・二八〇	二・七八〇	三・四〇四	三・四七〇	―
	下	同	三・四三〇	二・七〇〇	二・三七〇	三・二四六	三・〇五〇	―

品名	單位						
小麥（上）	同	七・三二〇	六・六一〇	六・九八八	八・〇四四	六・三二〇	六・八七五
小麥（下）	同	七・二〇〇	六・一七五	六・四六八	七・五四四	五・九四〇	六・七五〇
大豆（上）	同	七・〇七九	六・四八〇	六・五四〇	七・六八六	六・四四〇	六・五七〇
大豆（下）	同	六・五二二	五・五六〇	六・二三〇	六・八二二	五・八四〇	六・三八〇
小豆（上）	同	七・八一二	七・一五〇	九・二六〇	八・五二四	八・七二〇	七・三八〇
小豆（下）	同	七・四〇〇	六・三二〇	八・五〇〇	七・三九〇	八・三四〇	六・九〇〇
麥粉（上）	五十封入一俵	二・五二〇	二・二四〇	二・四九〇	二・三七〇	二・三六〇	二・五七〇
食鹽（粗製）	百斤	二・三六〇	〇・七三一	二・一六六	二・三〇〇	一・六〇〇	一・四二〇
砂糖（四温）	同	九・二九〇	九・一七〇	九・四八〇	九・二一〇	九・〇八〇	九・七二〇
味噌（内地製赤上等）	同	四・七九〇	五・五〇四	五・九二〇	五・六〇〇	七・二〇〇	六・八一六
醤油（内地製上）	一斗	四・二六〇	—	—	—	—	—
同（朝鮮製上）	同	—	三・四五〇	三・八〇五	三・三四〇	三・五〇〇	三・八一〇
鷄卵	百箇	一・四九〇	一・三五〇	一・三〇〇	一・三〇〇	一・四二〇	一・〇六〇
清酒（櫻正宗）	一挺	二一・二〇〇	一九・〇〇〇	二二・〇〇〇	二〇・五〇〇	二〇・四二〇	二〇・五〇〇
麥酒（札幌）	四打入一函	九・九〇〇	九・六六〇	九・六六〇	九・七二〇	九・六八〇	九・八八〇
同（エビス）	同	—	九・六六〇	九・七七五	九・七二〇	九・六八〇	九・八八〇
同（キリン）	同	一〇・五〇〇	—	—	—	—	—

物價一覽（其ノ二）（圓）

品目	單位						
燐寸（人猿印）	二百打入一函	四・二三八	四・二五〇	四・〇四六	三・七四八	三・九四〇	三・一八〇
石油（松票）	一箱	三・二〇〇	三・一九二	三・二〇八	二・九九八	三・五〇〇	三・三四〇
石炭（內地塊炭上）	一噸	一一・〇〇〇	八・九〇〇	一四・五三三	九・五〇〇	九・七五〇	九・一六〇
木炭	十貫	〇・八三〇	〇・七三〇	〇・七四四	〇・七一〇	〇・七四〇	〇・九三八
棉花	百斤	三一・五六六	三五・二〇〇	—	三〇・五〇〇	—	—
和金巾	五十段入一釜	三四一・二五〇	三〇三・〇〇〇	三七五・〇〇〇	三四〇・五〇〇	—	三五〇・五〇〇
洋金巾	同	三四二・〇〇〇	三〇五・〇〇〇	三一二・九〇〇	三九五・五〇〇	三〇六・〇〇〇	三四〇・四〇〇
紡績絲（鐘紡）	二十玉入一俵	六七・〇〇〇	六七・七〇〇	六三・八〇〇	六一・〇〇〇	六二・二五〇	六六・一二五
紡績絲（攝紡）	同	六七・〇〇〇	六七・五〇〇	六五・六六六	六二・九五〇	六一・〇〇〇	六五・九〇〇

品目	單位	木浦	平壤	鎮南浦	新義州	元山	城津	平均
玄米 上	一石	八・六五〇	七・九九一	八・五三三	九・五九一	—	—	八・九七九
玄米 中	同	八・二三三	—	八・〇六七	九・一三三	一〇・〇〇〇	—	八・七八四
玄米 下	同	七・五九二	—	七・五三三	八・五五八	—	—	八・一一八

品名	單位							
精米（上）	同	一一・九五〇	一一・九二五	一二・〇〇〇	一三・三三三	一三・六二五	一四・一四二	一二・二三九
精米（中）	同	一〇・四九二	一〇・七七五	一〇・九三八	一二・七一七	一二・六一一	一三・二二五	一一・三四一
精米（下）	同	八・九二五	九・七五〇	一〇・〇二五	一二・〇五〇	一一・二四二	一二・二四五	一〇・三七〇
大麥（上）	同	二・七〇〇	二・三六〇	二・三七〇	―	―	―	三・〇〇八
大麥（下）	同	一・七〇〇	―	―	―	―	―	二・七四九
小麥（上）	同	六・七八〇	六・四八〇	六・七六〇	―	八・六八七	―	七・〇八六
小麥（下）	同	五・七四〇	―	六・三〇〇	―	―	―	六・五一五
大豆（上）	同	五・九八〇	六・六六〇	七・一八〇	六・一六〇	八・七七五	七・六六二	六・九三四
大豆（下）	同	五・五二〇	―	六・四〇〇	五・二二〇	七・二七五	六・七六二	六・二三〇
小豆（上）	同	六・二八〇	六・八六〇	七・〇二〇	八・六〇〇	八・〇二五	―	七・七八五
小豆（下）	同	五・六八〇	―	六・三〇〇	―	―	―	七・一〇四
麥粉（上）	五十封入一俵	二・六七〇	二・六一〇	二・七〇〇	二・四九〇	二・五七八	二・六六〇	二・五二二
食鹽（粗製）	百斤	二・〇〇〇	二・八四八	二・一九〇	四・〇〇〇	一・三六四	一・七〇八	二・〇五七
砂糖（四温）	同	九・五二〇	九・四六〇	九・八〇〇	九・九八〇	九・六〇〇	九・九一〇	九・五一八
味噌（内地製赤上等）	同	六・四〇〇	五・七六〇	五・一五二	五・六〇〇	六・八一六	七・六八〇	六・一〇三
醤油（内地製上）	一斗	四・三八〇	―	―	四・七〇〇	―	―	四・四四七
同（朝鮮製上）	同	―	三・六八〇	三・四四〇	―	三・六〇〇	三・〇〇〇	三・五二四

品名	單位							
鶏卵	百箇	一・二〇〇	一・八二〇	一四〇〇	一・〇六〇	一・三八〇	一・一六〇	一・三二八
清酒(櫻正宗)	一挺	二一・九〇〇	二一・五四〇	二一・九〇〇	二〇・二〇〇	一九・〇〇〇	二一・五〇〇	二〇・八〇五
麥酒(札幌)	四打入一函	九五二〇	九・八〇〇	九・六三〇	九・八二五	九・六〇〇	九・九二〇	九・七三三
同(エビス)	同	九・五二〇	—	九・六三〇	九・八〇〇	一〇・二〇〇	九・八〇〇	九・七六七
同(キリン)	同	—	—	—	—	—	—	一〇・五〇〇
燐寸(人猿印)	二百打入一函	四・一八〇	四・二二〇	四・二四〇	四・二六六	六・三八〇	—	四・二四四
石油(松票)	一箱	三・二〇〇	三・五〇〇	三・三三〇	三・三二五	三・二〇八	三・三二五	三・二八五
石炭(内地塊炭上)	一噸	一〇・〇〇〇	—	一〇・二〇〇	一一・〇〇〇	一一・九〇〇	—	一〇・五九四
木炭	十貫	〇・九八〇	〇・六六〇	一・〇一〇	〇・八八〇	〇・七八〇	〇・八二〇	〇・八一九
棉花	百斤	—	—	—	—	—	—	三二・四二二
和金巾	五十段入一釜	三三四・三七五	—	三三三・二五〇	—	三三八・〇〇〇	三三八・〇〇〇	三三九・三一九
洋金巾	同	三六八・二〇〇	—	三三〇・〇〇〇	—	三六九・四〇〇	三七七・〇〇〇	三四四・六四〇
紡績絲(鐘紡)	二十玉入一俵	六六・二五〇	六六・二〇〇	六八・一二五	五〇・〇〇〇	六三・三三三	六二・五〇〇	六三・六九〇
紡績絲(攝紡)	同	六六・〇〇〇	—	六八・六〇〇	—	六五・〇〇〇	六四・二〇〇	六五・三八二

二 日鮮貿易

朝鮮ニ於ケル貿易中日本ハ第一位ヲ占メ輸出ニ於テハ貿易總額ノ七八割ヲ占メ輸入ニ於テハ貿易總

額ノ六七割ヲ占ム日本ニ亞クモノハ淸國ナリ淸國トノ貿易ハ輸出ニ於テハ日本ノ三分ノ一、輸入ニ於テハ六、七分ノ一ニ過キス其ノ他英、米兩國ハ稍々重要ノ地位ヲ占ム

最近十箇年日鮮貿易額表（圓）

年次	日本ヨリ移入	日本ヘ移出	移出入合計	貿易總額
明治四十四年	三四、〇五八、四三四	一三、三四〇、五五一	四七、三九八、九八五	七二、九四四、六三七
同四十三年	二八、一九二、五三三	一五、三七六、三二七	四三、五六八、八六〇	五九、六九六、五九九
同四十二年	二六、九九七、八四二	一四、一三九、〇六七	四一、一三六、九〇九	五二、八九七、六五八
同四十一年	三〇、二七三、一七一	一三、七一八、四一九	四三、九九一、五九〇	五五、一三八、八三三
同四十年	三二、七九二、四七六	一六、三七一、五一二	四九、一六三、九八八	五八、三六一、一一四
同卅九年	二五、二〇九、七九六	八、二〇五、九四二	三三、四一五、七三八	三九、一九三、八三二
同卅八年	二六、六一八、八七〇	六、一五〇、五四二	三二、七九〇、五〇五	四〇、八八八、四二三
同卅七年	二〇、三八九、七二八	六、四〇〇、七七七	二六、七九〇、五〇五	三四、九三三、三〇六
同卅六年	一一、七六一、四九四	八、九一二、一五一	二〇、六七三、六四五	二八、〇七九、八四二
同卅五年	一〇、五五四、一八三	七、九五七、九四六	一八、五一二、一二九	二二、一六一、三四五

而シテ其ノ輸出入貨物ノ主ナルモノハ既ニ外國貿易ノ題下ニ説明シタレハ玆ニハ贅言セサルモ内地ヘ移出スル物品ノ重要ナルモノハ米ヲ第一トシ大豆之ニ亞キ魚類、生牛、牛皮、鑛物等又之ニ次ク而シテ內地ヨリ移入スル物品ハ「シーチング」白木綿及日本木綿類ヲ始トシ食鹽、醬油、味噌、酒、煙草、陶磁器、石炭、マッチ、木材、綿織絲等ヲ重要ナルモノトス

三　朝鮮內ノ商業

朝鮮內ニシテ未タ內地人ノ居住セサル地方ニ在テハ常設ノ店舗ヲ設ケテ商賣ヲ營ムモノナク今尙物物交換ノ遺習ヲ存シ取引ハ所謂市場ニ於テ爲スヲ例トシ需給者互ニ日ヲ期シテ一定ノ場所ニ相會シテ有無相通スルコト熾ニ行ハルル所ナリトス而シテ市日以外ノ日ニ在テハ僅少ノ日用品スラ購入スルニ由ナシ此等ノ市ハ毎月五回若ハ六回ノ定期開催ヲ爲スヲ各地一般ノ慣例トシ出市者ハ三四里四方ヲ以テ區域トナスモ時ニ八九里ノ遠キヨリ到ルモノナキニ非ス所謂市場ハ朝鮮全土ヲ通シ其ノ數大小八百五十ヲ算スヘク毎市日ニ際シテハ其ノ來集者ハ地方ニヨリテ異同アリト雖少キハ百ヨリシ、多キハ數千ニ至リ一萬ニ及フモノ無キニ非ス市場ハ市街ニ於テセラルルモノアリ或ハ野外ニ於

テセラルルモノアリテ商人ハ常ニ開店セル小屋ニ商品ヲ陳列シ或ハ露店ヲ開キテ絹布、木綿、野菜、米穀、生牛、魚類、雞豚等或ハ區劃ヲ設ケ或ハ雜居シテ賣ス來集者ハ多少ニ拘ラス各自ノ生産ニ成ル物品ヲ攜帶シ之ヲ販賣シ自己ノ需要品ヲ求メテ歸ルヲ慣例トス而シテ市ノ組織及出品手續等ニ至リテハ各地其ノ慣習ヲ異ニスルモノアリ

要スルニ朝鮮内地ニハ到ル處市場ノ設アリテ朝鮮人唯一ノ商業ノ機關ヲ爲シ地方ノ繁閑ニ依テ差異アリト雖市日ニ於ケル市場ハ一般ニ雜踏混亂ヲ極ム

朝鮮人商業ノ機關トシテ重要ナルモノ四アリ曰ク客主曰ク居間曰ク監考曰ク典當之レナリ

（一）客主ノ本來ノ業務ハ委託ヲ受ケテ取引ヲ爲シ又ハ手形ノ引受、割引、貸金及貨幣ノ交換等ヲ爲シ併セテ華客ヲ宿泊セシムルモノニシテ其ノ商行爲トスル所恰モ内地ニ於ケル問屋業ニ類ス客主カ委託販賣ヲナス貨物ハ大概穀物、煙草、牛皮等ニシテ客主ハ絕ヘス市場ノ相場ヲ通報シ委託者ハ機ヲ見テ其ノ所有貨物ヲ客主ニ送リ指定價格ヲ表示シテ之カ販賣ヲ委託ス之ト同時ニ客主ハ委託者ニ對シ左記樣式ノ預證書ヲ交付ス

任置票

一、粳米　　三百斗

何號庫入積

月　日　　客主某

某　前

而シテ客主カ委託者ヨリノ指定價格ヲ以テ販賣シタルトキハ所定ノ口錢其ノ他諸經費ヲ控除シ殘額ヲ委託者ニ返附ス

(二)居間ハ賣買當事者ノ中間ニ介在シ諸般ノ周旋ヲ爲シ一定ノ口錢ヲ受クルコトヲ本業トスル者ニシテ恰モ內地ノ仲立人ニ相似タリ居間ハ常ニ客主ノ店舖ニ出入シ其ノ依賴ヲ受ケ賣買者ヲ探索紹介シ賣買成立ノ曉ニ於テ報酬トシテ口錢ヲ得ルモノナリ普通居間ニ二種アリテ一ハ一定ノ出入客主ヲ有シ其ノ使用人トナリテ周旋ノ勞ニ當ルモノヲ謂ヒ一ハ一定ノ客主ヲ有セス苟モ事件アレハ何レノ

客主ニ對シテモ周旋ノ勞ヲ取リ敢テ之ヲ辭スルナキモノヲ謂フ而シテ其ノ行動稍客主業ト相似タルモノアリト雖兩者ノ間ニハ自ラ劃然タル區別ノ存スルアリテ客主ハ委託者ノ爲ニ賣買ヲ媒介スルト同時ニ表面自ラ取引ノ當業者トナリ權義ノ主體タルニ反シ居間ハ單ニ賣買業ヲ紹介スルニ止マリ取引其者ニ關シ何等關與スル處ナシ

(三)監考ハ地方ニヨリ其ノ取扱フ商品一定セサレトモ市場取引ノ米穀ハ必ス監考之ヲ升量シ其ノ手數料トシテ一斛ニ充タサル端數ノ米穀ヲ收納スルノ慣習アリ

(四)朝鮮ニ於ケル典當業者(質屋業)ハ多クハ金貸業者カ兼業トシテ之ヲ營ムモノニシテ純然タル典當業ハ皆無ト稱シテ過言ニアラス而シテ金貸業者ノ幾部分カ典當業ヲ兼ヌルモノニシテ金貸業者ハ當然典當業者タルモノニ非サルカ故ニ金貸業者ノ數ノ多キニ比シ典當業者ハ其ノ數少ナシ而シテ典當業者ノ取扱フ典物ハ金銀細工、元冠笠家具什器等多ク貸金ノ比例ハ借主ノ信用ニ由リ異ナルト雖評價ノ三割乃至五割ヲ以テ普通トス而シテ期限ハ一定セサルカ如キモ普通ノ典物ニ在リテハ三箇月ヲ以テ一期トシ金銀ノ如キ價格移動ノ少ナキモノニ在リテハ稍長キカ如ク細民ニ融通スル場合ニ在

リテハ時期ノ頗ル短キモノアリ然レトモ孰モ利息支拂ニヨリ延期シ得ルハ內地ト異ナルナク又若流質トナリタル場合ニハ典當權者當然ニ賣却處分シ得ルモノトス

其ノ他商業機關トシテ市場取引、契等ニ關シ慣行ナキニ非サルモ行政ノ刷新ト共ニ次第ニ其ノ面目ヲ改ムルニ至レリ左ニ朝鮮人ノ所謂商廛ト稱スルモノノ主要ナルモノヲ擧ケム(朝鮮人ハ店ノ字ヲ用ヒスシテ廛ヲ用ウ)

米　　廛　米ヲ販賣シ上米廛下米廛ノ別アリ

雜穀廛　米穀、豆類、黍等ヲ賣ル

隅物廛　果物ヲ賣ル

苧布廛　苧布ヲ賣ル

立　　廛　絹布類ヲ賣ル

白木廛　木綿類ヲ賣ル

荒貨房　雜貨廛ナリ

床　　廛　宕布、綱布、染粉、帶、紐、色糸、帽子等ヲ賣ル

槍　　廛　諸種ノ指物ヲ賣ル

瓮器廛　素燒物ヲ賣ル

砂器廛　陶器類ヲ賣ル

冊　　廛　書舖ヲ謂フ

銀　　房　細工屋ナリ（房ハ製造兼業者ニ用ウ）

玉　　房　玉細工屋ナリ

飯饌假家　諸種ノ日用食料品類ヲ賣ル

具物廛　飾物屋ナリ

木器廛　下駄、木鉢、尺等ヲ賣ル

商　　廛　骨董廛ニシテ雜貨モ兼賣ス

喪頭都家　喪具ヲ賃貸スルモノニシテ喪器ノミ賣ルモノヲ都家ト謂フ

其ノ他商廛ノ名稱種種アレトモ此等ハ大概其ノ名稱ニ依リテ判別シ得ヘキモノナルカ故ニ之ヲ省略ス

朝鮮人商業會議所

主要ナル都市ニ在リテハ內地人間ニ於ケルト同シク朝鮮人商人間ニ於テモ商業會議所ヲ設立セルモノアリ其ノ業務ハ商工業ニ關スル諸般ノ調査報告關係人ノ請求ニ依リ商工業ニ關スル紛議ノ仲裁ヲ爲ス等一ニ內地商業會議所ノ業務ト大差ナシ左ニ各地ニ於ケル朝鮮人設立ノ商業會議所概況ヲ示スヘシ

朝鮮人商業會議所一覽　（明治四十四年九月末日調）

名稱	設立年月	官廳認可ノ有無	四十三年度經費豫算額	課金負擔者總數	課金賦課ノ標準
京城商業會議所	明治三十八年七月	農商工部ノ認可	七、三三〇円	一、五〇四人	商業ノ狀態ニ依リ特等甲乙及一等ヨリ二等ニ分ツ最高百二十圓最低三圓

仁川商業會議所	同三十八年	仁川監理署ノ承認	一、四四九	三三四	商業ノ狀態ニ依リ一等ヨリ六等ニ分チ最高十二圓最低一圓
開城商業會議所	同四十年六月	農商工部ノ認可	一、二一二	二六〇	等級ヲ設ケス
大邱郡商務所	同四十年十一月	同	二五八	二一九	營業所得ヲ標準トス
東萊商業會議所	同四十一年八月	府尹ノ認可	一、五〇〇	二一九	商業ノ狀態ニ依リ等級ヲ分ツ
馬山港商業會議所	同四十二年二月	同	三二四	一三五	同
平壤商業會議所	同三十七年九月	觀察使ノ認可	四〇八	一七〇	等級ヲ設ケス
三和商業會議所	同四十一年十一月	府尹ノ認可	二、五四一	一三〇	問屋ハ口錢、仲買ハ手數料ノ各百分ノ五其ノ他ハ賣上高ニ依ル
元山港商議所	同三十七年三月	三十九年四月農商工部ノ認可ヲ受ケタリト云フモ不明ナリ	五七六	不明	各問屋ノ口錢ノ百分ノ二トス

四　內地人商業

朝鮮內內地人ノ足蹟殆ト到ラサル所ナク樞要ノ地ハ市ヲ爲シ邑ヲ作リ駸駸トシテ日進月歩ノ趨勢ヲ

示ス

（イ）主要商業地

京畿道　京城、龍山、水原、開城、永登浦、仁川、江華島

忠淸北道　淸州、堤川、忠州

忠淸南道　江景、公州、鳥致院、洪州、禮山、牙山、平澤、成歡、瑞山、天安、大田

慶尙北道　大邱、金泉、慶州、安東、浦項、尙州

慶尙南道　釜山、東萊、金海、密陽、蔚山、馬山、統營、晋州

全羅北道　群山、全州、茁浦、南原、金堤

全羅南道　羅州、榮山浦、南平、咸平、光州、木浦

黃海道　載寧、黃州、兼二浦、沙里院、新幕、谷山、海州、新溪

平安南道　平壤、安州、鎭南浦、成川

平安北道　定州、新義州、宣川、義州、寧邊、龍岩浦、鐵山、北鎭、江界、楚山

江原道　春川、江陵、蔚珍、鐵原、原州
咸鏡南道　咸興、元山、北青
咸鏡北道　清津、鏡城、羅南、會寧、富寧、城津、吉州、明川

（ロ）內地人設立種類別會社表　（明治四十四年一月調）

地方別	農業	商業	工業	運輸業	其他	計
京城	八	九	四	四	四	二九
仁川	一	五	二	一	五	一四
群山	—	二	—	—	二	四
木浦	二	—	二	二	—	六
釜山	一〇	一八	四	七	八	四七
馬山	—	四	—	—	—	四
平壤	—	二	一	—	—	三
鎭南浦	—	二	一	—	二	五
元山	—	—	二	二	三	七

大邱	一	—	二	—	三	六
新義州	—	二	—	一	—	三
清津	—	—	—	—	一	一
計	二二	四四	一八	一七	二八	一二九

（八）組織別會社表（會社令ニ依リ屆出ヲ爲シタル會社）

明治四十四年六月末日

會社組織		朝鮮ニ本店ヲ有スル會社			內地ニ本店ヲ有シ朝鮮ニ支店ヲ設クル會社					
					朝鮮ニ於テ業務ヲ營ムコトヲ主タル目的トスルモノ			同上ヲ主タル目的トセサルモノ		
		會社數	資本金	拂込資本金	會社數	資本金	拂込資本金	會社數	資本金	拂込資本金
			円	円		円	円		円	円
內地人設立	合名	二	三三、〇〇〇	二九、六五〇	—	—	—	二	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
	合資	一三	一、六五一、七〇〇	一、三九七、八四七	一	二一〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	四	三三六、〇〇〇	三三六、〇〇〇
	株式	四一	六、〇九五、五三五	二、三三一、一九二	五	三、〇〇〇、〇〇〇	一、九三〇、三一三	七	四一、九五〇、〇〇〇	三九、八八一、二五〇
計		八五	八、〇六九、二三五	四、〇一八、六八九	六	三、二一〇、〇〇〇	二、一四〇、三一三	一三	四三、七八六、〇〇〇	四一、七一七、二五〇
日鮮人	合名	一	一〇、〇〇〇	五、九五〇	—	—	—	—	—	—
	合資	二	一四八、九〇〇	八六、九二〇	—	—	—	—	—	—

合同	株式	五	一一、三三〇、〇〇〇	二、八三三、〇〇〇	—	—	—	—	—
	計	一七	一二、四七八、九〇〇	二、九二五、八七〇	—	—	—	—	—
總計	合名	一五	四九六、二〇〇	三三四、八〇〇	—	—	—	二	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
	合資	四六	一、九七〇、六〇〇	一、六三六、七六七	一	二一〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	四	三三六、〇〇〇	三三六、〇〇〇
	株式	五二	一八、三五三、五二五	五、四六二、一九二	五	三、〇〇〇、〇〇〇	一、九三〇、三一三	七	四一、九五〇、〇〇〇	三九、八八一、三五〇
	計	一一三	二〇、八二〇、三二五	七、四三三、七五九	六	三、二一〇、〇〇〇	二、一四〇、三一三	一三	四三、七八六、〇〇〇	四一、七一七、三五〇

備考 一 本表ハ銀行業電氣事業軌道及輕便鐵道會社ハ之ヲ含マス
二 本表以外ニ外國人ノ設立ニ係ルモノ十會社朝鮮人ノ設立ニ係ルモノ十會社アリ

（二）内地人商業會議所一覽　（明治四十四年六月末日）

名稱	議員數	特別議員數	選擧權ノミヲ有スルモノ	選擧權及被選擧權ヲ併有スルモノ	經費豫算額 四十四年度	同決算額 四十三年度	創立年月日
京城日本人商業會議所	三〇	九	四〇七	二六三	一三、八九〇	一三、一一二	明治二十年二月廿三日
仁川日本人商業會議所	二四	七	四三二	四三二	六、七四九	六、六六三	同 十九年四月一日
釜山商業會議所	二〇	四	五八	一九一	八、五九九	八、二九九	同 十三年二月一日
元山商業會議所	二〇	—	三二四	一九〇	六、九一七	七、五九〇	同 十四年一月十四日

鎭南浦日本人商業會議所	一八	一	一五七	一〇〇	二、七六五	二、七六三	同 四十年七月一日
木浦日本人商業會議所	三	—	二八	一三九	六、四八〇	九、二四一	同三十三年一月廿四日
群山商業會議所	三	二	九二	九〇	四、一七一	一、四四三	同 四十年九月十四日
大邱日本人商業會議所	三	二	三一	一七一	二、七四三	二、七三六	同 四十年一月廿七日
馬山商業會議所	二〇	—	—	—	—	—	同 四十一年三月卅日
清津日本人商業會議所	三	二	一〇二	一四六	三、三三〇	三、五七〇	同四十二年十月十六日

商業會議所ノ設立ハ各地ニ於ケル商業發達ノ沿革ヲ表示スルモノニシテ釜山商業會議所ハ明治十二年二月ノ創設ニ係リ朝鮮中最初ノモノナリ元山商業會議所ハ明治十四年ノ創設ニ係リ仁川之ニ次キ京城ハ之ニ亞ク其ノ他ハ皆晩ク近年ノ設立ニ係レリ蓋釜山、元山ニ於ケル我國ノ交通貿易ハ甚タ古ク既ニ往時ヨリ隆盛ヲ極メタリ

五　稅關

朝鮮ニ於ケル稅關ハ明治九年日本人ニ對スル徵稅ノ爲釜山港ニ設置シタルヲ以テ嚆矢トシ次テ十三年元山ニ開關シ十六年ニ至リ徵稅ハ日本人ノミナラス諸外國人ニモ課スルノ目的ニ依リ仁川ニ稅關

ヲ設置シ三十年ニ至リ鎭南浦及木浦ニ開關セラレ群山、馬山、城津ハ三十二年、新義州ハ三十九年清津ハ四十一年ニ至リ稅關ノ設置ヲ見タリ而シテ此等各稅關ヲ管理スルタメ京城ニ總稅務司廳ヲ設置シタリシカ明治四十年ニ至リ日韓新協約ニ基キ之ヲ廢止シ更ニ關稅局ヲ設ケ度支部ノ指揮監督ノ下ニ置キ關稅總長アリテ關稅事務ヲ處理スルコトトナレリ而シテ仁川、釜山、元山、鎭南浦ノ四港ニ稅關ヲ設置シ其ノ他ノ沿岸諸要港ニ支署、出張所及監視署等ヲ置キ海關稅ノ徵收及監視事務ヲ分掌セシムルコトトナレリ尙海外貿易ノ便宜ヲ計リ明治三十九年京城ニ官設保稅市場ヲ設置シ次テ京城、仁川、釜山、大邱、平壤及鎭南浦ニ官設保稅倉庫ヲ設置シタリシカ前者ハ幾モナク廢止セラレタルモ後者ハ尙存續セラレ併合ノ結果十二箇所ノ稅關ハ總督ノ管理ニ移レリ

港別收稅額一覽　自明治四十四年一月至同　十二月

港別	輸移出稅	輸移入稅	噸稅	諸收入	計
	円	円	円	円	円
仁川	一四五、九九七	七八四、七二一	三〇、三七八	五、四〇九	九六六、五〇五
釜山	一七四、七六三	五二三、九八九	二五、二四九	二九、一三四	七五三、一三五

元山	二六、五二四	一八七、一九六	三、〇四一	七、三七五	二二四、一三六
鎮南浦	一一〇、一一九	八二、四二〇	六、九〇三	四、七八〇	二〇四、二二二
京城	五、九六八	四五五、五九〇	—	四、三六九	四六五、九二七
群山	五〇、九二六	八六、二三九	一、〇七六	四、三四七	一四二、五八八
木浦	四七、〇一二	七〇、二九三	一、七一六	四、九五四	一二三、九七五
大邱	—	四七、一〇二	—	三〇六	四七、四〇八
馬山浦	二、三七五	四五、一五〇	三、一五六	二、四七五	五三、一五六
清津	二四五	五六、〇一九	二一八	二、九五五	五九、四三七
城津	二五、九六八	三四、九六九	一、六五四	二、一一八	六四、七〇九
新義州	四九、二八四	六四、五九五	三、〇〇二	一、八〇三	一一八、六八四
平壌	八、三三八	一一四、六六五	—	二九四	一二三、二九七
合計	六四七、五一九	二、五五二、九四八	七六、三九三	七〇、三一九	三、三四七、一七九
明治四十三年	八六三、三四二	二、四三一、二二五	七七、八八〇	六九、七九五	三、四四二、二四一
同四十二年	七〇〇、六三三	二、三一〇、三五五	七九、五五九	六六、〇八二	三、一五六、六二九
同四十一年	六六六、八一五	二、五一一、〇二二	九一、九五一	八三、四七一	三、三五三、二五九
同四十年	七五八、七五四	二、三一九、二六〇	八七、二一六	—	三、一六五、二三〇

關稅率概表

第一　輸入ノ部（移入ヲ含ム）

類別	品種	稅率 最高（分厘）	稅率 最低（分厘）	稅率 普通（分厘）
第一類	穀類及種子	五・〇	五・〇	五・〇
第二類	飲食物	八・〇	五・〇	七・五
第三類	砂糖及糖果類	一〇・〇	七・五	七・五
第四類	酒類	二〇・〇	七・五	七・五
第五類	皮毛骨角牙甲殼類	二〇・〇	五・〇	—
第六類	藥材製藥及化學藥	一〇・〇	五・〇	五・〇
第七類	油蠟類	八・〇	五・〇	七・五
第八類	染料及塗料類	八・〇	七・五	七・五
第九類	絲縷繩索及同材料	八・〇	五・〇	五・〇
第十類	布帛及布帛製品	一〇・〇	七・五	七・五
第十一類	衣類及附屬品	八・〇	五・〇	七・五
第十二類	紙及文具類	一〇・〇	五・〇	七・五

備考

關稅稅率ハ韓國ト各國トノ通商條約ノ稅率ニ基クモノトス

稅率ヲ最高最低ニ分チタルハ類別中ノ物品ニ對スル稅率ノ高低ニヨル普通トセルハ類別中最モ多數ノ物品ニ適用セラルルモノヲ擧ク

「普通」稅率ヲ鈌クモノハ物品ニ從ヒ各稅率ヲ異ニスルニヨル

輸入稅ハ生產又ハ製造地ニ於ケル原價ニ運賃保險料及手數料等ヲ算定ス

類別	品種	税率 最高	税率 最低	税率 普通	備考
第十三類	金屬及金屬製品	二〇・〇	五・〇	七・五〜五・〇	
第十四類	陶磁器玻璨及玻璨製品	一〇・〇	五・〇	七・五	船舶ハ帆船毎噸 二〇錢
第十五類	兵器時計器械類	一〇・〇	七・五	七・五	蒸汽船毎噸 五〇錢
第十六類	雜品	二〇・〇	五・〇	—	
第十七類	免税品	—	—	—	農具書籍類金銀地金貨幣新聞紙旅具等
第十八類	禁制品	—	—	—	偽幣兵器軍器僞造貨阿片烟猥褻書畫等

第二 輸出ノ部（移出ヲ含ム）

類別	品種	税率 最高	税率 最低	税率 普通	備考
第一類	金銀地金砂金貨幣草木各種見本旅具	：	：	：	輸出税ハ輸出港ニ於ケル市價ニヨリ算定ス
第二類	第一類ニ掲載セサル内國品若ハ内國製品別項ニ掲載セサル一切ノ輸出品	分厘 五・〇	分厘 五・〇	分厘 五・〇	
	紅蔘	一五・〇	：	：	

六 度量衡

朝鮮ノ度量衡ニハ從來一定ノ標準ナク甲短乙長村邑ニ依リテ異ルノ有樣ニアリテ亂雜ヲ極メタリシカハ舊韓國政府ハ明治三十五年度量衡規則ヲ發布シ三十八年之ヲ改正シタルモ尙充分ニ實施ノ運ニ至ラス尋テ四十二年ニ至リ更ニ度量衡法ヲ發布シ(一)名稱命位ハ皆內地度量衡法規定ニ據リ(二)其ノ製造輸入及販賣ハ政府ノ專業トシ(三)內地官廳ノ檢定シタル度量衡器ニ限リ政府ノ特許ヲ受ケタル者ハ之レカ輸入販賣スルコトヲ得(四)政府專賣度量衡器ハ相當ノ資產信用アル者ニ委託販賣セシメ(五)漸次施行區域ヲ擴張指定スルコトトナセリ

爾來朝鮮人モ其統一正確ナル度量衡ニ據ルノ便ナルヲ感シ漸次之ニ準據スヘキノ兆ヲ呈シタレハ新制ノ全土ニ普及スルノ日遠キニアラサルヘシ

度量衡法施行地域及委託販賣者人員調　(明治四十四年九月末日現在)

道別	施行地域	未施行地域	委託販賣者		
			內地人	朝鮮人	計
京畿道	全道二府三六郡	—	一九	八	二七
忠淸北道	全道一八郡	—	四	六	一〇

忠清南道	全道三七郡	—	一五	三	一八
全羅北道	全道一府二七郡	—	一一	四	一五
全羅南道	全道一府二八郡	—	一五	三	一八
慶尙北道	全道一府四〇郡	—	一一	一六	二七
慶尙南道	全道二府二七郡	—	一二	九	二一
黃海道	全道一九郡	—	一五	一	一六
平安南道	全道二府一七郡	—	一三	三	一六
平安北道	全道一府二〇郡	—	一九	三	二二
江原道	四郡	二一郡	三	一	四
咸鏡南道	一府一郡	一二郡	二	一	三
咸鏡北道	一府三郡	七郡	二	四	六
計	一二府二七七府	四〇郡	一四一	六二	二〇三

第十一章　工業

一　朝鮮人ノ工業

現今朝鮮ノ工業ト稱スヘキモノハ殆ト有ラサレトモ既往數百年前高麗朝時代ニ在リテハ稍發達ヲ遂ケタルモノアリシカ如ク之ヲ當時ノ建築ニ見高麗燒ニ徵スルモ一班ヲ想見スルヲ得ルナリ目下朝鮮人間ニ營マルルモノヲ擧クレハ僅ニ織物、陶磁器、製紙、醸造、金屬品業等ノ工藝ノ副業トシテ存スルニ過キス美術品製作ニ從事スルモノ無キニアラサルモ極メテ幼稚ニシテ粗造タルヲ免レス工場、製作所等數フルニ足ルモノナシ由來朝鮮人ハ手藝、技術ニ巧妙ニシテ加フルニ忍耐、勞働力ニ富ムヲ以テ朝鮮ノ工業ハ將來有望ナリ

一機業　機業ハ朝鮮ニ於ケル最重要ナル工業ナルヲ以テ其ノ改良發達ヲ圖ル爲朝鮮總督府ハ主要ナル產地ニ機業敎師ヲ派シ實地指導ノ任ニ當ラシメツツアリ左ニ織物主要產地ヲ揭クヘシ

織物主要產地一覽

木綿織物	
道名	郡名
忠清北道	清州、忠州
忠清南道	青陽
全羅南道	求禮、唐津、麗水、光州
慶尙南道	晉州、梁山、巨濟
慶尙北道	善山、星州、大邱、醴泉、開寧義城、義興、順興、安東、尙州
黃海道	白川、松禾
平安南道	平壤、龍岡、三和
平安北道	寧邊

麻織物	
道名	郡名
忠清南道	鴻山、庇仁、韓山、青陽、扶餘、藍浦、林川
全羅北道	長水
全羅南道	求禮
慶尙北道	義城、大邱、長鬐、永川、善山、安東
慶尙南道	陜川、三嘉、梁山、安義
江原道	江陵、三陟、襄陽、淮陽
咸鏡南道	北青、甲山、高原、洪原

絹織物	
道名	郡名
京畿道	朔寧
忠清南道	公州
慶尙北道	安東、醴泉
江原道	金化、江陵
平安北道	寧邊
平安南道	順川、德川

（イ）綿布　綿布ハ慶尙南北道全羅南道ヲ以テ主要產地ト爲スモ朝鮮全土到ル處之ヲ產セサルナク

一箇年ノ産額ハ數百萬圓ニ上ルヘシ多クハ農家婦女子ノ副業的產物ニシテ棉花ヲ手紡シ居織機ニテ製織スル平織白木綿ノ粗ナルモノナリ近來紡績綿糸ヲ用ヰ「バタン」織機ヲ以テ製織スルモノ漸次增加セルモ工場ヲ設ケテ機業ニ從事スルモノハ未タ二三ニ過キス

(ロ)絹布 江原、平安南北及慶尙南北道ニ產出シ多クハ明紬ト稱スル平絹ノ類ニシテ平安道成川泰川、寧邊、熙川、德川ノ紬及江原道鐵原ノ紬最名アリ之等ハ皆織上ノ後炭汁ヲ以テ精練シ染色シ衣料ニ供ス一箇年ノ產額概算額四十萬圓ナリ

(ハ)痲布 忠淸南道慶尙北道咸鏡南北道江原道最產出多ク重要ナル物產ノ一ナリ何レモ白無地ノモノニシテ之ヲ製織スルニハ豫メ痲ヲ淸水ニ浸シ日光ニ晒シテ自然漂白ヲナシ纎維ヲ割キテ細糸トナシ居織機ニ依リテ製織シ夏ノ衣料喪服、帆、袋及雜用ニ用フ各道產出額百數十萬圓ニ上ル

二窯業

窯業ハ高麗朝時代ニ著シキ發達ヲ爲シタルモ今ヤ全ク見ルヘキモノナク唯各地ニ於テ極メテ粗造ナル日用品ノ製造セラルルヲ見ルノミ然レトモ各地到ル處優秀ナル陶磁器ノ原料ニ富ムヲ以テ製

造方法ニ一大改良ヲ加フルアラハ面目ヲ一新スルコト難キニアラス

三製紙業

製紙ハ朝鮮工業中有望ナルモノノ一ナリ慶尙北道慶州、慶尙南道晋州、三嘉、陝川、全羅北道全州ニハ製紙業ニ從事スルモノ多ク産額亦多シ各所ニ於ケル製紙原料ハ總テ楮ヲ以テス朝鮮人製紙ノ方法ハ頗ル簡易ニシテ張板ヲ用ヰス晴天ヲ選ヒ河岸ニ於テ漉酒沙製シ河原又ハ温突ニテ乾燥ス一箇年ノ産出額約五十萬圓ニシテ高麗紙ト稱シ窓紙用トシテ淸國ニ輸出セラルルモノ每年十萬圓餘アリ

四金屬品

朝鮮人ハ古來眞鍮製ノ器具ヲ多ク使用スル慣習アリ食器、金盥、火鉢、便器等ノ眞鍮製品各處ニ産出ス鐵器類ハ鍋釜及農具ヲ主要ナルモノトシ就中釜ハ堅牢ヲ以テ名アリ其ノ他婦人ノ裝飾品タル指輪、笄、簪等ノ銀又ハ眞鍮製品各所ニ製作セラルルモ加工彫刻見ルヘキモノ少シ

五雜工品

(イ)華筵　京畿道江華島、全羅道寶城ノ特產物トシテ知ラル又慶尙北道金泉ハ蓆ヲ以テ名アリ無地織ナルモノアリ福壽等ノ文字ヲ織出セルモノアリ近來內地人大邱ニ製筵合資會社ヲ設立シ朝鮮產莞草ヲ用ヰ高麗筵及疊表ヲ製造セリ

(ロ)木竹細工　簾、扇子、煙管竹等ノ竹細工品ハ巧妙ニシテ全羅南道潭陽及羅州ノ簾ハ其ノ名高シ木工品ハ櫃、簞笥、漆器等僅ニ存スレトモ見ルニ足ルモノナシ

六　釀造業

朝鮮人ノ飲用スル酒類ハ藥酒、濁酒、白酒、燒酎、過夏酒、梨薑酒、甘紅露、松筍酒、合酒等種類多シト雖藥酒、白酒、濁酒、燒酎及過夏酒ハ其ノ主要ナルモノニシテ需要者多ク從テ釀造高多シ

(イ)藥酒　小麥麴、糯米、粳米等ヲ混合シ釀造シタルモノニシテ他酒ニ比シ品質稍〻良好ナリ黃海道以南殊ニ京城附近ニ於テ汎ク飲用セラレ酒中ノ珍トシテ宴會祭日等ニ於テ必須ノモノトセラル其ノ優良ノモノハ果實酒ニ類スル味ヲ有ス酒精分十乃至二〇%ヲ有シ帶黃赤色ヲ呈ス耐久性ナク貯藏シ難キヲ以テ多クハ冬期自家用トシテ釀造セラル

(ロ)濁酒　小麥粉及粗麴ヲ蒸シ又ハ煮タル糯米、粳米及水ヲ加ヘテ釀造シタルモノヲ採漉シテ濾過セル白濁液ニシテ一般下層社會ノ嗜飮物タルノミナラス又飯食ノ代用物ナルカ故ニ需要頗ル多シ腐敗シ易キヲ以テ多ク自家用トシテ四季ヲ通シ臨機釀造ス

(ハ)燒酎　小麥、粗麴、粳米糯米及黍等ヲ以テ釀造シタルモノニシテ朝鮮地方ニ於テ殊ニ飮用セラル精度比較的低ク三十度內外ヲ普通トシ北方ニ到ルニ從ヒ其ノ度ヲ增シ五十度ニ到ルモノアリ京城以南ニ在リテハ夏季ノミ之ヲ飮用スルカ故ニ製造高僅少ナレトモ北鮮地方ニ於テハ四時常ニ飮用スルカ故ニ釀造高從テ多大ナリ

(ニ)白酒　藥酒ト濁酒トノ混成物ニシテ水ヲ以テ稀薄トナシタルモノナリ寧濁酒ニ近シ

(ホ)過夏酒　小麥麴、麥芽、糯、燒酎ヲ加味シ釀造シタルモノニシテ恰モ我カ味淋ニ似タリ其ノ酒精分ハ十乃至十八%ニシテ他酒ニ比シ飮用量多カラス

其ノ他紅酒、甘紅露、梨薑酒等ノ諸酒ハ孰モ燒酒ヲ基トシ之ニ糖蜜類ヲ加味シタル混成酒ニ過キス

酒類ノ價格ハ地方ト時期トニ一樣ナラスト雖大要左ノ如シ

酒別	量	價格
藥酒	一〇	二円・〇〇錢
燒酒	一〇	七・五〇
濁酒	一〇	一・〇〇
過夏酒	一〇	京城製 四・五〇 金泉製 二・〇〇

朝鮮人ノ造酒類ハ未タ統計ノ徵スヘキモノナク明確ニ之ヲ知ルノ由ナキモ各酒ヲ通シ約百七八十萬石ニ上ルヘシ

二　內地人ノ工業

內地人經營ノ工業モ未タ草創ノ域ヲ脫セス見ルニ足ルヘキモノナシト雖其ノ重ナルモノヲ擧クレハ精米、鐵工、煙草、煉瓦製造、電氣事業、製材事業、釀造業等ナリトス左ニ內地人經營ノ工場ヲ示スヘシ

內地人經營工場一覽表

明治四十三年十二月末日調

道別	營業別	工場數	資本金	技術者	職工 內地人	職工 朝鮮人	職工 外國人	職工 計	生產品價額
京畿道	精米	八	円 二〇七、〇〇〇	四	九三	二四九	—	三四二	円 一、五五〇、〇〇〇
	印刷業	三	六〇〇、〇〇〇	二	六六	一八八	—	二五四	一三〇、〇〇〇
	鐵工場	四	三〇、〇〇〇	一	一七	一四	—	三一	三〇、〇〇〇
	煉瓦及瓦	三	一二、六〇〇	四	六五	六二	二	一二九	五九、〇〇〇
	煙草	二	一、〇三〇、〇〇〇	一〇	八五	二、七七九	—	二、八六四	三三〇、〇〇〇
	其ノ他	四	三三〇、一〇〇	四	四〇	一五	—	五五	九一、〇〇〇
全羅北道	精米	一	一五、〇〇〇	—	一	二〇	—	二一	八五、〇〇〇
	玄米	二	二一、〇〇〇	—	二	五五	—	五七	四二五、〇〇〇
全羅南道	精米	四	六四、〇〇〇	四	七	三七	—	四四	三六五、〇〇〇
	鐵工場	四	二四、〇〇〇	九	八	一三	—	二一	二四、九〇〇
	其ノ他	三	二八一、〇〇〇	四	二四	一四九	—	一七三	四三八、〇〇〇

慶尙北道	精米	二	一八、〇〇〇	—	七	一七	—	二四	七〇、〇〇〇
	煉瓦及瓦	三	三、八〇〇	—	一三	八	—	二一	九、三〇〇
	其ノ他	五	八三、〇〇〇	—	二二	三〇〇	—	三二二	四六、六一〇
慶尙南道	精米	一三	五一〇、五〇〇	一三	二〇	一〇四	—	一二四	三、三五九、三七〇
	清酒	八	四二五、〇〇〇	八	四九	三	—	五二	一六六、四〇〇
	醬油	一一	一一八、二二六	一三	二七	一二	—	三九	六五、八〇〇
	鐵工場	三	一四、〇〇〇	二	四三	一六	—	五九	二八、〇〇〇
	煉瓦	二	二七、〇〇〇	—	六三	一一七	—	一八〇	五〇、〇〇〇
	鑵詰製造	三	二三、〇〇〇	—	一一	—	二	一三	三一、五〇〇
	煙草	三	一一一、五〇〇	三	七〇	二七〇	—	三四〇	三四五、八六六
	其ノ他	一一	二二八、二〇〇	八	五八	二八	—	八六	二〇九、六四〇
平安南道	精米	二	六〇、〇〇〇	二	九六	三一八	—	四一四	三五〇、〇〇〇
	瓦及石灰	三	五、五〇〇	—	二三	八〇	—	一〇三	六、五〇〇
	其ノ他	二	三五、〇〇〇	—	二六	九五	一〇	一三一	七、九〇〇

平安北道	砂金	一	三〇、〇〇〇	二	一一	一〇〇	｜	一一二	三五、〇〇〇
	其ノ他	一	五〇、〇〇〇	二	一三	一五	八〇	一〇八	｜

(イ)精米業　朝鮮人ハ米穀ノ收穫法粗笨ニシテ土砂ノ混シタルヲ籾其ノ儘搗キ粃ヲ去リ半白米ト爲シ土砂ヲ洗ヒ去リテ飯ト爲ス從ヒテ精米中土砂ノ殘存セルコト少カラス內地人ハ精米後人手ヲ假リテ悉ク土砂ヲ去ルヲ常トス故ニ朝鮮人向精米ハ土砂ヲ除カサルヲ以テ一石ニ付一圓五十錢乃至二圓安價ナリ內地人ノ集團地ニ在リテハ石油發動又ハ蒸汽發動ノ精米機ヲ用ヒ精米業ヲ營ムモノ多シ

(ロ)鐵工業　半島各地ニ行ハルト雖多クハ鍛冶業ノ傍ラ小道具ノ製造諸機械ノ修繕ヲ營ムニ過キスシテ機械ヲ應用シ稍大規模ノ工場ヲ經營セルモノハ其ノ數少シ然レトモ近時諸所ヨリ鐵鑛ノ採掘セラルルアリ加フルニ朝鮮人ノ勞銀低廉ナルヲ以テ鐵工業ノ前途ハ有望ナリト謂フヘシ

(ハ)煙草製造業　由來朝鮮人ハ煙草ヲ最嗜スル國民ニシテ男子ニシテ喫セサルモノ殆ト稀ナリ十四五歲ノ童兒(チヨンガー)ヨリ喫煙ヲ始メ以テ死期ニ及フ暇アレハ則チシガー或ハ煙管ヲ口ニシテ離ササ

ルノ有様ナレハ其ノ喫量亦從テ大ナリ此ノ如ク朝鮮ニハ多大ノ需要販路ヲ有スルカ故ニ京城、釜山、仁川、大邱等ニ於テハ內地人ノ煙草製造業ニ從事セル者多ク孰モ繁榮ノ城ニ在リ從來官煙及英米煙草會社販路ヲ爭ヒタリシカ近時官煙ハ京城ニ製造所ヲ設ケ鋭意擴張ヲ計リシ以來漸ク勢力ヲ倍加シ外煙ヲ凌クノ狀ヲ呈セリ（第十章商業中貿易欄參照）然レトモ朝鮮國內需要ノ額ハ次第ニ增加シ原料ノ作製モ日ニ繁盛ナラムトス

（ニ）煉瓦製造　麻浦、永登浦等ニ於テ官營セラルルモノノ外到ル處原料ニ富ムヲ以テ內地人及清國人ノ經營セルモノ多シ唯燃料ニ乏シキヲ以テ陶器業ト同シク其ノ發展ヲ阻害セラルルナキ能ハスト雖建築業ノ進步ト共ニ有望ナル事業ナリ

（ホ）釀造業　內地人ノ移住ト共ニ清酒ノ需要激增シタルヲ以テ近時內地人ノ各地ニ於テ清酒釀造ニ從事スル者頗ル多ク既ニ大規模ノ設計ニ出ツルモノスラ無キニ非ラス殊ニ半島內ハ原料低廉ナルニ加フルニ職工ノ勞銀安價ニシテ且腐敗ノ虞ナキヲ以テ收益少カラス加フルニ販路廣ク賣捌容易ナルヲ以テ研究改良ヲ加ヘハ酒造ノ前途好望ナリ（四十二年ヨリ居留地內ノ內地人ニハ

免許税トシテ一石ニ付キ金二十錢ヲ課税セリ）

左ニ各道ニ於ケル內地人釀酒業ノ概況ヲ表示スヘシ

內地人酒類釀造（明治四十四年三月十五日現在）

道名	製造者人員	製造石數 清酒	燒酒	濁酒	味淋	白酒	混成酒	清酒一石ノ卸賣價格
	人	石	石	石	石	石	石	円
京畿道	二八	五、四九五	六三八	三〇八	二七〇	—	—	高 四〇.〇〇〇 低 二〇.〇〇〇
忠清北道	六	一五	—	一七	—	—	—	—
忠清南道	七	三二五	七	—	—	—	—	同 三二.五〇〇 同 二〇.〇〇〇
全羅北道	一二	一、三六一	二一	—	—	—	—	同 三五.〇〇〇 同 一九.〇〇〇
全羅南道	一一	一、二三九	三二	六	二	—	—	同 四〇.〇〇〇 同 二三.〇〇〇
慶尙北道	二〇	九六一	二一	三九	八	—	—	同 三五.〇〇〇 同 一八.〇〇〇
慶尙南道	五一	一〇、〇四一	二八一	一八八	一二三	二	二	同 四七.〇〇〇 同 一五.〇〇〇
黃海道	—	—	—	—	—	—	—	—
平安南道	八	二五七	三〇〇	一八〇	—	—	—	同 三五.〇〇〇 同 一七.〇〇〇
平安北道	四	三一五	—	一〇	—	—	—	同 三〇.〇〇〇 同 二八.〇〇〇
江原道	一	—	—	一	—	—	—	—

咸鏡南道	六	四五四	三四	ー	一三	ー	ー	三〇、〇〇〇 二〇、〇〇〇
咸鏡北道	一一	六二	六	五三	ー	ー	一七	圓〇、〇〇〇 三〇、〇〇〇
合計	一六五	二〇、五二五	一、三四〇	八〇二	四一六	二	一九	ー

（ヘ）味噌醤油製造業　近時漸ク隆盛ヲ致シ漸次内地輸入品ヲ防遏スルノ兆ヲ示セリ殊ニ味噌ノ醸造ハ頗ル盛ニシテ朝鮮内ノ供給ニ對シテハ最早輸入ヲ仰クノ必要ナク醤油モ近來京城、仁川、釜山等ニ於テ内地品ニ劣ラサル精良ノモノ醸出セラルルニ至リシカハ從來内地人ノ輸入ニ係リシ醤油ハ痛撃ヲ加ヘラレタルノ觀アリ朝鮮内製釀ノ原料豐富ニシテ而カモ低廉ナルヲ以テ該業ノ前途有望ナリ

（ト）電氣事業　從來米國人コールブランノ經營ニ屬セシ韓美電氣會社ハ京龍間ノ電車、電燈事業ヲ營ミツツアリシカ龍山ニ日韓瓦斯會社（資本金七十萬圓）設立セラレ京龍間ノ瓦斯事業ヲ經營スルニ至リ四十二年八月韓美電氣會社ノ電氣事業ヲ買收シ電氣及瓦斯事業ハ該會社獨占ニ移レリ近時釜山、仁川、鎭南浦等ヲ初メ各所ニ電氣事業ヲ開始スルモノ漸ク増加シ既ニ當該官廳

ノ許可ヲ得タルモノ十會社ニ及フ

電氣事業許可件數　明治四十四年十一月末日調

	會社又ハ出願者氏名	組織	本店所在地	支店所在地	事業ノ目的	供給區域	資本金	拂込資本金
開業	韓國瓦斯電氣株式會社	株式	東京	釜山	電燈、電力、電鐵	釜山	三百萬圓	七十五萬圓
	日韓瓦斯電氣株式會社	同	同	京城 馬山	同 電燈、電力	京城 馬山	六百萬圓	三百萬圓
	仁川電氣株會社式	同	仁川	―	同	仁川	十五萬圓	十五萬圓
	鎭南浦電氣株式會社	同	鎭南浦	―	同	鎭南浦	十五萬圓	十一萬二千五百圓
未開業	大田電氣株式會社	同	大田	―	同	大田	八萬圓	
	群山電氣株式會社	同	群山	―	同	群山	三萬八千八百八十二圓五十錢	
	木浦電燈株式會社	同	木浦	―	同	木浦	二十萬圓	

開業						
大邱電氣株式會社	同	大邱	｜	同	大邱	十萬圓
平壤電氣株式會社	同	平壤	｜	同	平壤	三十萬圓
元山水力電氣株式會社	同	元山	｜	同	元山	十五萬圓
朝鮮電氣株式會社	同	清津	大坂	電燈、電力、電鐵	清津羅南	五十萬圓

(チ)其ノ他製材業、造船業トハ漸ク緒ニ就クニ至レリ鴨綠江材カ大渠港ニ使用セラルルニ至ラハ斯業ノ前途亦有望ナリ

三 官營工業

官營事業トシテハ從來度支部ノ所屬タリシ煉瓦製造所及印刷局アルノミ煉瓦製造所ハ煉瓦、瓦及土管ノ製造ヲ主トシ官公建築事業ノ需要ニ應スル目的ニ出テタルモノニシテ明治四十年四月創メテ煉瓦工場ヲ漢江沿岸麻浦ニ設置シ煉瓦ノ製造ヲ開始シ次テ同年七月瓦及土管工場ヲ京仁線永登浦ニ創設セリ政府ハ兩工場ニ資金二十六萬五千圓ヲ投シ之カ經營ヲ計リタリキ蓋朝鮮ノ氣候風土ハ煉瓦造家屋ノ最適セルヲ示セルモ從來民間ニ於テ製煉セラルルモノハ粗劣ニシテ殆ト實用ニ堪ヘス會々官

公ノ建設事業ノ激増シ需用日ニ多キヲ加フルニ際シ模範事業トシテ政府自ラ其任ニ當リシモノナリ

永登浦土管工場事業概況

年度別	機關 数	機關 馬力	職員	職工 人員	職工 延人員	給料總額 職員	給料總額 職工	職工一日平均一人ノ給料	就業日數	平均毎日就業時間	燃料消費額 數量	燃料消費額 金額	事業收入
明治四十三年度	二	二八	六	内地人 三四 朝鮮人 四	一、三五三	一、三八一、八五〇円	一、九八七、二九〇円	内地人 一、五〇五円 朝鮮人 三九〇	一七六	十五時十分	石炭 三三四屯 其他 五、七六〇	二、〇九六円	一
同四十四年度	二	二八	九	内地人 二九 朝鮮人 五	六、五二一	二、五九九、〇一〇	七、五一八、三七〇	内地人 一、一七七 朝鮮人 三七八	二三三	十五時十七分	石炭 一、〇七二 其他 二五、六三三	九、七四五	五九、〇〇〇円

備考 四十三年度ハ十月以降四十四年度ハ十一月末日ノ現在ヲ掲ク

永登浦煉瓦工場事業概況

年度別	機關 數	機關 馬力	職員	職工 人員	職工 延人員	給料總額 職員	給料總額 職工	職工一日平均一人ノ給料	就業日數	平均一日就業時間	燃料消費額 數量	燃料消費額 金額	事業收入
明治四十三年度（自四十三年四月至四十四年三月）	二	一三五	八	内地人 二六 朝鮮人 四〇	三九、八九六	八、五二八、八八〇円	二三、三九二、三八〇円	内地人 一、二〇〇 朝鮮人 三五〇	原土組 三〇〇 生地組 一八〇 素地組 三三五 窯組 三三五	一〇時	石炭 一、二四四屯 松薪 二一立坪	九、四二三 二九円	一
同四十四年度（自四十四年四月至同十一月）	二	一三五	八	内地人 二六 朝鮮人 三六	三四、六八八	三、四九二、〇〇〇円	一九、二九五、〇六〇円	内地人 一、二〇〇 朝鮮人 三六〇	原土組 一九〇 生地組 一七〇 素地組 三三〇 窯組 三三〇	一〇時	石炭 一、五一〇 松薪 五一立坪	一〇、三七〇 七〇	八〇、〇〇〇円

備考　職員及職工員數ハ四十三年度ハ四十四年三月末日四十四年度ハ四十四年十一月末日ノ
　　現在ヲ揭ク
永登浦土管工場ニ於テ四十三年度中ニ製造シタル土管數ハ三萬八千餘個瓦數ハ四十三萬八千餘個ニシテ四十四年度中同十一月迄製出シタルモノハ土管數四萬一千餘個、瓦數四十一萬三千餘個ニ上ル又麻浦煉瓦工場ニ於テ四十三年度中ニ製造シタル煉瓦ノ數ハ六百九十九萬一千餘個ニシテ四十四年度中同十一月迄ニ製出シタル數ハ六百四十四萬五千餘個ニ達セリ

印刷局ハ龍山ニアリ印刷、製紙及鐵工ノ事業ヲ經營シツツアリ四十年以來印刷局ハ擴張ヲ計リ工場ノ改築機械ノ增置、技術者ノ傭聘等ニ努メ精巧ナル印刷物ヲモ出版シ得ルニ至レリ製紙ノ業モ漸ヲ追ヒ發展ヲ計リツツアレトモ未タ奏功ノ域ニ達セス

印刷局事業概況　四十四年十一月末日調

年度	機關		石炭消費高	役員	職工及雜役		給料總額		職工及雜役一日平均一人ノ給料	平均一日就業時間	生產品價額
	機關數	馬力			人員	延人員	役員	職工			
自明治四十四年一月至同年十一月	二基	一一五	一、八九七噸	八〇七人	五九一	一九七、三九四	五三、〇八五円	八三、一三七円	四二一厘	一〇、〇三時分	二八二、六〇七円

同　四十三年	三	一三五	二、二六八	七三	四九九	一四一、〇〇〇	五七、五八三	六五、一八三		四六二	一〇、四三	一三七、二八三
同　四十二年	五	四八〇	一、三五二	八〇	三三	一七、八九五	四九、二七〇	五一、二八九		四三五	一四、〇〇	一四一、〇二九

備考

一、機關數四十二年ハ現在數ヲ揭ケ四十三年及本年ハ現在使用數ヲ揭ク但シ使用セサルモノ三基現在セリ

一、平均一日就業時間ハ四十二年ハ平均一日ノ操業時間ヲ示シ四十三年、四十四年ハ一日平均一人ノ就業時間ヲ示セリ

四　工業傳習所

工業傳習所ハ京城東署梨花洞駱駝山麓ニ在リ最ニ舊韓國政府ハ工業教育機關ヲ設置シ國民ノ技術ヲ上進セシメ以テ產業ノ啓發ヲ圖ラムト欲シ伊藤統監ノ贊同ヲ得工學博士平賀義美ヲ聘シテ工業顧問ト爲シ工業上諸般ノ施設ヲ爲セルト同時ニ工業傳習所ヲ設立シ農商工部ノ管下ニ置ケリ、コレ明治三十九年八月ノコトニシテ工業傳習所ノ起原ハ實ニ爰ニ在リトス次テ翌四十年三月事業ヲ開始セリ

爾來數年ノ星霜ヲ經、韓國ノ併合ニ際シ工業傳習所ハ朝鮮總督府ノ管下ニ移レリ
四十年開校ノ當時ニ在リテハ收容豫定生六十四名ニ對シ應募者ハ實ニ一千一百十一名ノ多キニ上リ爾來年年應募者增加シ頗ル盛況ヲ呈セリ

工業傳習所概況　明治四十四年十二月現在

年次	教員數			生徒數	入學應募者	卒業生	經費豫算額
	內地人	朝鮮人	計				
明治四十四年	一五	二	一七	六八	七五五	一四五	六三、六三〇
同　四十三年	一七	六	二三	一一三	二、一六四	六八	七五、〇二五
同　四十二年	二二	四	二六	一七八	一、二八〇	四七	五四、八五〇

工業傳習所ノ傳習課目ハ染織、陶器、金工、木工、及應用化學ノ五科ニシテ本科專攻科及實科ニ分ツ修業年限ハ本科二年專攻科一年實科一年以內トシ孰モ專ラ技術ノ實地傳習ヲ爲シ併セテ之ニ必要ナル學科ヲ敎授スルモノナリ傳習生ノ製作作業ノ主ナルモノハ（一）染織科ニ於テ各種染色及機織（二）陶器科ニ於テ食器裝飾用陶器（三）金工科ニ於テ各種板金鑄工鍛工（四）木工科ニ於テ造家

家具車輛及織機器（五）應用化學科ニ於テ石鹼膠鞣皮及紙類ノ製造ニシテ各科ノ卒業生ハ各要所ニ在リテ實務ニ從事シ成績佳良ナリ

五　工業所有權ノ保護

從來朝鮮ニハ工業所有權保護ノ制度存セサリシヲ以テ帝國政府ハ明治四十一年八月米國ト條約ヲ締結シ米國ハ其ノ本國ニ於テ朝鮮人ニ對シテモ工業所有權ノ保護ヲ與フルト同時ニ發明、意匠、商標ノ保護ニ關シテハ朝鮮ニ於ケル治外法權ヲ撤退シ日本國ハ內地ニ行ハルルト同様ノ法令ヲ朝鮮ニ施行シ以テ米國人ノ發明、意匠、商標ヲ朝鮮內ニ於テ保護スヘキコトヲ約セリ仍テ帝國政府ハ同年八月十六日ヲ以テ韓國特許令、同意匠令同商標令ヲ施行シ四十二年十一月一日ヨリ韓國實用新案令ヲ施行シ統監府特許局ニ於テ之ヲ管理シ此等ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシメタリシカ韓國併合ノ事アルト同時ニ韓國特許令外四令ヲ廢止シ統監府特許局ヲ廢止シ新ニ特許法、意匠法、商標法、實用新案法ヲ朝鮮ニ施行シ工業所有權保護ニ關スル事務一切ハ農商務省特許局ニ屬スルコトト爲レリ而シテ從前ノ三令ニヨリテ既得セラレタル權利ハ特許法外二法ニヨリテ設定セラレタルモノト同一ニ

看做サレ其ノ權利ノ効力ハ我領土全部ニ完全ノモノタルト同時ニ本國ニ於テ既得セラレタル權利ハ當然ニ朝鮮ニ於テモ其ノ効力ヲ保有スルモノト爲セリ統監府特許局設置以來其ノ廢止ニ至ル迄ニ(自明治四十一年八月至同四十三年八月)ニ取扱ヒタル事件數ハ特許四百六十八、意匠百二十三、商標千百十四、實用新案五十九、合計一千七百六十四件ナリ

六　工事獎勵ノ施設一班

朝鮮總督府若ハ地方官廳ハ篤志者ノ企圖ニ係ル工業傳習事業又ハ有益ナル工業ヲ創始セムトスル者ニシテ資本ノ之ニ伴ハス收入ノ之ヲ償フ能ハサルモノニ對シテハ特ニ金品ノ補助ヲ與ヘ其ノ成功ヲ資ケ以テ工業ノ發達ヲ勗メツツアリ

又曩ニ韓國併合ノ際下賜セラレタル恩賜金ノ利子ノ一部ヲ以テ工業獎勵ノ資ニ充テ從來一般ニ副業トシテ行ハルル機業製紙業等ノ改良ヲ計リ又將來有望ナル副業タルヘキ繩叺製造ノ技術ヲ傳習セシムル爲三箇月乃至六箇月ノ短期習業ノ簡易傳習所ヲ各地ニ起シ或ハ實地指導ヲ爲ス爲巡回教師ヲ各所ニ派置スル等各種ノ方法ヲ講シテ手工業ノ改良發達ヲ圖リツツアリ

第十二章　土地調査

一　沿革　土地調査ノ事業ハ韓國政府ノ時代ニ於テ屢企畫セラレタルコトアリシモ其ノ目的單ニ増税ニ在リテ土地ノ疆界及所有權ノ歸屬等ハ寧ロ之ヲ度外ニ措キシヲ以テ人民ノ反抗ヲ招キ常ニ失敗ニ終ハレリ偶成功シタル地方ニ在リテモ其ノ維持方法ヲ講セサリシヲ以テ今日ニ於テハ何等其ノ効果ヲ存スルモノアルヲ見ス仍テ明治三十八年（光武八年）財政顧問設置ノ時代ニ於テ既ニ本事業急施ノ必要ヲ認メ之カ準備トシテ度支部司税局ニ量地課ヲ置キ亞テ臨時財産整理局等ニ於テ所要技術員ノ養成其ノ他ニ關シ畫策スル所アリシカ秩序的ニ事業ヲ開始スルニ至リシハ四十三年三月土地調査局官制發布以來ノ事ニシテ日韓併合後ハ朝鮮總督府ノ主管ニ屬シ政務總監之カ總裁ト爲リ著著其ノ事業ヲ進捗シツツアリ

二　目的　土地調査ノ目的ハ土地所有權ヲ確認シ權利ノ紛爭ヲ未然ニ防止セムコトヲ期シ土地ノ所有主、地目、疆界及面積ヲ調査測量シテ地積ヲ明カニシ且ツ財政ノ基礎ヲ確實ニシ負擔ノ公正ヲ期

セムカ爲土地ノ品位、等級ヲ調査スルニ在リ元來朝鮮ノ土地ハ舊法典タル大典會通及最近施行ノ土地家屋證明規則、土地家屋典當規則、國有未墾地利用法、土地家屋所有權證明規則等ニ依リ個人ノ所有權ヲ認メタルモノト謂フヘキモ證明規則ニ依ルノ外ハ其ノ所有權ヲ證明スヘキ方法ナク然カモ其ノ證明方法タル當該官廳ニ土地臺帳ノ設備アルニアラスシテ單ニ證明ノ出願ニ對シ調査スルニ過キス其ノ往々ニシテ正鵠ヲ失スルモノアルモ亦固ヨリ其ノ所ナリ若シ夫レ未タ證明ヲ經サル土地ノ所有者ニ在リテハ之カ賣買等ニ際シ作成スル私文記若ハ占有ノ事實ニ依リテ所有權ヲ主張スルノ外他ニ的確ナル證明方法アルコトナシ是ノ故ニ屢權利ノ紛爭ヲ生シ解決ノ爲實地ニ踏査スルモ其ノ判定猶甚タ容易ナラス縱令裁判ノ判決アルモ其ノ執行亦頗ル困難ナルヲ免レス從來ノ制度已ニ斯ノ如シ之レ速ニ土地調査ヲ行ヒ以テ地籍ヲ明カニスルト共ニ財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシメントスル所以ニシテ彼ノ單ニ增税ヲ目的トシタル從前ノ量田ト全然其ノ趣ヲ異ニスルヤ勿論ナリ

三 効果 一國ノ政治經濟ノ發達カ土地所有權ノ確認ニ基クコト多大ナルハ歐米諸國及其ノ殖民地ノ

歷史上顯著ノ事實ナリトス之ヲ朝鮮ノ實況ニ鑑ミレハ土地臺帳ノ備ハルモノナク土地所有權ノ確認亦殆ト之アルナシ加之其ノ面積ハ斗落ト云ヒ日耕ト稱シ之カ廣狹ヲ算定スルノ準規漠トシテ捉フヘカラス然レトモ土地調査完成ノ曉ニハ其ノ効果ノ及フ所單ニ產業及財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルニ止ラス今其ノ効果ノ重ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

イ　地積ヲ明カニシ土地ノ所有權其ノ他土地ニ關スル諸般ノ權利ヲ確認スルカ故ニ土地ノ經濟的價値ヲ增進シ其ノ價格ヲ騰貴セシム

ロ　土地ノ權利ニ關スル證明ノ制度ヲ的確ニ實行スルコトヲ得テ賣買、讓與及抵當權等ノ設定ヲ容易ナラシメ土地ノ經濟的利用ヲ增大セシム

ハ　世運ノ進步人文ノ發展ニ伴ヒ必然生スヘキ土地ノ紛爭ヲ未然ニ防止スルコトヲ得

ニ　地劵ヲ發給シテ土地ニ關スル金融ノ運轉ヲ圓滑ナラシメ地方ノ金利ヲ低下セシム

ホ　地稅ノ基礎ヲ確實ニシ負擔ノ公正ヲ得セシムルカ故ニ歲入ノ增進ヲ期シ得ヘク財政ノ運用ヲシテ圓滿ナラシム

ヘ　產業ノ開發其ノ他行政ノ施設改善ハ地積ノ整理ヲ待テ確實ナル效果ヲ擧クルコトヲ得ヘシ

四計畫　朝鮮ノ土地調査ニ關シテハ外國ノ事例ヲ參照シタルモノアリト雖主トシテ範ヲ執リタルハ日本内地ニ於ケル地租改正、沖繩ニ於ケル土地整理及臺灣ニ於ケル土地調査ニシテ就中臺灣ニ擧フ所最多シ

イ　調査ノ範圍及成功期限　調査ノ範圍ハ耕地、宅地ヲ主トシ山林原野(其ノ多クハ國有ニ屬ス)ハ單ニ調査地間ニ介在スルモノノミニ止メ其ノ他ハ事業費等ノ關係上姑ク之ヲ除外セリ、調査地ノ總面積ハ二百七十五萬五千町歩此ノ筆數一千三百七十七萬五千筆ニシテ四十三年三月開局ノ時ヨリ滿七箇年ヲ以テ調査ヲ完了スル豫定ナリ

ロ　從事員ノ養成　調査及測量ノ從事員ハ其ノ指導監督ノ任ニ當ルモノヲ除クノ外專ラ朝鮮人ヲ養成シテ之ニ充ツ卽チ一面ニ於テハ技術員ノ養成ヲ各地ノ農業學校等ニ委託スル外局員養成所ヲ京城ニ設ケ(當初ハ舊官立漢城高等學校及同外國語學校ニ臨時事務員若ハ技術員養成所ヲ附設シ委託養成ノ方法ヲ採リタリ)土地調査局直接經營ノ下ニ事務員及技術員ヲ養成シ他面ニ於

テハ同局ニ於テ局員ニ對シ講習又ハ實習ノ途ヲ開キ以テ事業ノ必需ニ應スヘキ此等從事員ノ養成ヲ爲シ居レリ

ハ　諮問機關　土地所有權及疆界ノ調査ハ之ヲ地方土地調査委員會ニ諮問シテ調査ノ適否ヲ審理セシメ土地調査局總裁之ヲ査定ス(地方土地調査委員會ハ各道長官主宰ノ下ニ之ヲ開設ス)而シテ其査定ニ對シ異議アル者ニハ高等土地調査委員會ニ再審且最終ノ裁決ヲ求ムルコヲ得セシム

ニ　土地臺帳及地圖　土地調査ノ終了ニ隨ヒ土地臺帳及地圖ヲ調製ス土地臺帳及地圖ノ調製ヲ終リタルトキハ之ヲ臺帳保管廳ヘ移付シ土地所有權移轉登錄ノ方法ヲ開始シ一般民衆ヲシテ成ルヘク速ニ土地調査ノ效果ヲ享受セシメントス

五　實地調査竝ニ細部測量ノ着手及完成豫定年度道別一覽　左表ノ如シ

區別／道名	着手年度	完成年度
京畿道	明治四十三年度	明治四十六年度
忠・淸北道	同四十四年度	同四十五年度

忠清南道	明治四十四年度	明治四十六年度
全羅北道	同四十五年度	同四十六年度
全羅南道	同四十六年度	同四十七年度
慶尚北道	同四十三年度	同四十五年度
慶尚南道	同四十四年度	同四十六年度
黄海道	同四十六年度	同四十七年度
平安南道	同四十六年度	同四十八年度
平安北道	同四十六年度	同四十八年度
江原道	同四十六年度	同四十七年度
咸鏡南道	同四十七年度	同四十八年度
咸鏡北道	同四十七年度	同四十八年度

第十三章 宗教

現今朝鮮ニ於ケル宗教ハ之ヲ佛教及基督教ノ二宗トナス往時ニ於ケル朝鮮文藝ノ多クハ支那ヨリ傳來シタルモノニシテ朝鮮人ハ古來支那學術思想ヲ崇拜シ宗教モ亦支那ニ於ケルカ如ク上流社會ニ於テハ儒教行ハレ下流社會ニ於テハ佛教信仰セラレタルカ如シ朝鮮ニ於ケル佛教傳來ノ淵源ヲ尋ヌルニ今ヲ去ルコト遠ク一千五百年前ニ在リ高麗朝ニ至リ歸依スルモノ多ク深山幽谷到ル處迦藍堂宇ノ建造セラルアリシカ李朝ニ至リ太祖頗ル浮屠ヲ忌ミ之ヲ抑壓シタリシカ次テ文宗王、成宗王モ亦之ニ迫害ヲ加ヘ城内ニ寺院ノ設立ヲ禁シ僧侶ノ城内ニ入ルヲ禁セシカハ高麗朝ニ隆盛ヲ極メシ佛教モ頓ニ衰ヘ僧侶ハ深山ニ隱レ宗教又梵唄ヲ唱フルモノナク高塔迦藍空シク廢頽ニ歸シテ復振ハサルニ至レリ

明治四十四年九月朝鮮總督ハ訓令ヲ以テ寺刹令ヲ發布シ寺刹布教ノ取締、迦藍ノ保護所管財産ノ管理方法等ニ關スル法規ヲ一定シ僧侶ヲシテ護法資治ノ本務ヲ盡スヘキコトヲ期セリ

左ニ最近ノ調査ニ係ル各道寺刹祠院ノ概況ヲ擧クヘシ

寺刹祠院及僧侶一覽

道別	寺院			僧尼		
	寺刹	祠院	計	僧	尼	計
京畿道	一三七	一二	一四九	八六〇	一三九	九九九
忠清北道	三七	二	三九	一一六	二七	一四三
忠清南道	六五	三	六八	二一八	一一七	三三五
全羅北道	九七	一	九八	一七七	二五	二〇二
全羅南道	五六	二	五八	五二九	一六	五四五
慶尚北道	一五六	九	一五六	八九四	三三	九二七
慶尚南道	一〇六	五	一一一	一、三一七	八〇	一、三九七
黄海道	五八	三	六一	八一	二二	一〇三
平安南道	四二	一	四三	三六	六	四二
平安北道	八四	二	八六	一四八	一三	一六一
江原道	五七	三	六〇	五二〇	一九	五三九
咸鏡南道	四六	一	四七	二二三	三四	二五七

咸鏡北道	二五	—	二五	九一	三八	一二九
總計	九六六	四四	一、〇一〇	五、二一〇	五六九	五、七七九

鮮テ基督教傳播ノ由來ヲ尋ヌルニ起源ハ三百年前ニ羅馬教宣教師ノ布教ニ始マリ次テ漢書ノ聖書類支那ヨリ傳播セラルルアリテ信仰者ヲ生シ西曆千七百八十年頃漸ク其ノ盛トナルヤ時ノ政府ハ信仰禁止ノ令ヲ發シ之ヲ實行シタリシカ布植セラレシ信教心ハ牢トシテ拔クヘカラス降テ近世ニ至レリ

李朝ノ末葉ニ於テモ大院君基督教徒ノ國内ヲ騷擾セルヿ屢ミナルヲ見禁令ヲ發シ之カ信仰ヲ禁止シタリシカ大院君ノ勢力衰フルヤ宣教師再ヒ朝鮮ニ入リ教徒ハ駸駸トシテ增加シ西曆千八百九十七年ニハ教徒二萬九千五百七十九人ヲ數フルニ至レリ爾來宣教師ハ土地ニ親ミ風習ニ從ヒ土語ヲ操リ難苦厭フナク布教ニ從事シタリシカハ明治四十三年十二月ノ統計ニヨレハ信徒ノ數實ニ十九萬八千九百七十四人ノ多キニ上リ内三萬八千三百八十五人ハ舊教ニ屬シ十六萬二百八十九人ハ新教ニ屬セリ

基督教布教狀況

明治四十三年十二月調

道別	教會堂	講議所	其他ノ集會所	宣教師 英國人	宣教師 米國人	宣教師 佛國人	宣教師 其他ノ外國人	宣教師 計	朝鮮人牧師及助手	信徒 內地人	信徒 朝鮮人	信徒 外國人	信徒 計
京畿	一一九	九	三〇三	三	四〇	一四	八	八四	六八〇	三八	四六、九三五	四四	四七、二〇七
忠北	四三	七	一九	一	三	一	—	五	八九	五	三、八三八	—	三、八四三
忠南	二六	六	六三	二	四	五	—	一一	一〇七	—	七、五八三	—	七、五八三
全北	七一	三五	三八	一	二一	五	—	二七	一〇一	—	一〇、七三〇	—	一〇、七三〇
全南	四八	一〇	三九	—	一一	四	—	一五	八二	二	九、二七一	—	九、二七一
慶北	五	—	一九一	一	一一	二	—	一四	三二一	—	一七、六三三	—	一七、六三三
慶南	一五	三〇	一一六	二	二	二	二	八	一二六	—	一四、四九〇	—	一四、四九〇
黃海	一〇七	二六	四三	—	七	三	—	一〇	二七六	—	二一、一七七	—	二一、一七七
平南	一一八	五一	一八	—	二七	三	—	三〇	二〇一	—	一六、六六九	—	一六、六六九
平北	八八	一七	三七	—	一三	—	—	一三	一七五	一	三五、六六八	一六	三五、六八五
江原	四八	—	五五	—	三	三	—	六	一〇四	—	八、五三一	—	八、五三一
咸南	四一	二	三〇	三	一四	四	—	四〇	一〇三	一	七、五三〇	七	七、五三八
咸北	二	—	一五	二	—	—	—	二一	二八	—	四、八四八	—	四、八四八
總計	七三〇	二三三	九六六	六三	一五六	四六	一〇	二七四	三、二七二	二三七	一九四、八八三	六七	一九五、一八七

而シテ近來朝鮮人間ノ基督教ノ盛ナル京城ニ入ル者ハ忽チ巍然タル大會堂ノ所所ニ嶄然官衙ヲ凌クモノアルニ驚カム若夫レ安息日ニ會堂ヲ窺フトキハ善男善女ノ袂ヲ連子テ美美シク禮拜ニ列スルヲ見ム京城市中毎日曜日二千人ノ集會者ヲ見ル教會少カラス

人アリ問テ曰ク「朝鮮ニ於ケル基督教ノ盛ナル所以如何」ト朝鮮ノ思想單純ナルハ其ノ理由ノ一ナリ、宣教師ノ傳道ニ從事セムトスルヤ先ツ土語ヲ修得シ風俗ヲ了解シ而シテ后任ニ當ル故ニ意志ノ疏通シ易キハ其ノ二ナリ、宗派專屬ノ學校、病院、救貧院青年會等ノ機關ノ設備アルハ其ノ三ナリ

宗派別基督教一覽

教派	外國宣教師	朝鮮人牧師及助手	教會堂	集會所	朝鮮人信徒
米國北長老派	六〇	九一四	三〇五	三七四	七九、五〇九
米國南長老派	四六	二七二	一一六	一三六	二四、〇六九
英國聖公會	一一	一〇〇	二五	二九	三、九七四
露國聖公會	一	八	三	一	一八八
佛國天主公教	四六	一九七	一〇一	八八	三八、〇〇五

米國北監理派	二三	二三四	四九	八六	一五、二七八
米國南監理派	三七	三七七	九二	一五九	二〇、五五五
安息日教會	六	八	五	—	一五三
ペ子デクションオーデン	六	—	—	—	—
救世軍	一〇	五一	九	二八	二、九六三
英國福音教會	二	四	二	—	二五三
濠洲長老教會	二	一四	一	二七	三、二二二
加奈陀長老教會	二三	七七	一六	三一	六、二六八
浸禮教會	二	一一	六	六	三七三
大韓基督教會	—	五	—	一	七三
總計	二七四	二、二七二	七三〇	九六六	一九四、八八三

然リ而シテ內地人ノ發展ニ件ヒ基督教、佛教、神道ノ布教モ漸次地歩ヲ占ムルアリテ內地人ノ密集スル要地一トシテ寺院堂宇ヲ見サルナキニ至レリ

內地人設立教務所說教所及布教師信徒

年次		教務所	說教所	布教師	信徒 內地人	信徒 朝鮮人	信徒 外國人	信徒 計
四十三年	神道	二二	六	四	七、八二三	三、〇八六	二	一〇、九一一
	佛教	四〇	七三	三六	三四、二五七	二七、三九二	—	六一、六四九
	基督教	九	八	七	九三六	四〇四	—	一、三四〇
	合計	七一	八七	四七	四三、〇一六	三〇、八八二	二	七三、九〇〇
四十二年	神道	九	一三	三九	三、八二五	一、一七一	三	四、九九九
	佛教	三一	五五	一一八	三四、三六五	一六、五二〇	—	五〇、八八五
	基督教	四	一〇	一〇	四九六	—	—	四九六
	合計	四四	七八	一六二	三八、六八六	一七、六九一	三	五六、三八〇
四十一年	神道	七	三	一八	二、三二七	三〇六	一	二、六三四
	佛教	三七	四六	一〇二	二九、九三九	一三、二〇八	—	四三、一四七
	基督教	二	一二	一二	七三九	—	—	七三九
	合計	四六	六一	一三二	三三、〇〇五	一三、五一四	一	四六、五二〇
四十年	神道	二	四	六	一、八七六	四四〇	—	二、三一六
	佛教	二一	四二	六七	二七、九五五	八、〇〇八	五	三五、九六八
	基督教	—	六	六	二一四	五〇	—	二六四
	合計	二三	五二	七九	三〇、〇四五	八、四九八	五	三八、五四八

朝鮮ニ於ケル内地人經營ノ布教ノ設備ハ概シテ其ノ規摸大ナラスト雖漸次發展ノ趨向ヲ示セリ左ニ最近ノ調査ニ係ル布教設備ノ概要ヲ掲クヘシ

内地人經營ニ係ル布教設備概況　（明治四十四年一月末日調）

種別	宗派	道別	名稱	位置	設立年月	信徒數 内地人	信徒數 朝鮮人	信徒數 計	摘要
神道	金光教	京畿	金光教	仁川山手町	明治四十一年十二月	—	—	一三六	
		慶南	金光教釜山教會所	釜山富平町	同三十六年五月	—	—	六〇〇	
	天理教	全南	天理教	木浦		三三	一五五	一八八	
		慶北	天理教巡回布教所	大邱大和町	同四十一年一月	一五	—	一五	
		慶南	天理教布教所	馬山	同四十三年十一月	一三七	一九七	三三四	
			貞韓宣教所	釜山富平町	同四十一年十二月	一三〇	—	一三〇	
			釜山宣教所	釜山寶永町	同三十七年十二月	一〇〇	六〇	一六〇	

宗派		道	名稱	所在地	年月			
道教	教	南	天理教會	密陽郡三浪津	同四十三年十二月	六	—	六
			天理教分派所	密陽郡府內面	同四十三年五月	八	—	八
		平南	天理教會	平壤旭町	同年七月	七〇	—	七〇
	御嶽教	慶南	宮地嶽教會分祠	釜山富平町	同四十一年二月	四一〇	—	四一〇
	神理教	京畿	神理教	水原郡北部面新豐洞	同四十三年九月	—	三	三
	丸山教	慶南	丸山教會	釜山辨天町	同二十四年五月	一〇〇	—	一〇〇
佛	眞	京畿	本願寺出張所	水原郡南昌洞	明治四十一年七月	—	—	—
			本願寺別院	仁川寺町	同十八年	三五〇	—	三五〇
			本願寺布教所	開城郡閼門橋	同三十八年十二月	二〇〇	—	二〇〇
		忠北	大谷派布教所	淸	同四十二年十二月	一五〇	—	一五〇

教						
宗大谷						
忠南	大谷派布教所	懷德郡大田	同年五月	五〇〇	一五〇	六五〇
忠南	本願寺布教所	鳥致院	同四十二年七月	一〇〇	—	一〇〇
全北	本願寺	全州南門內	同四十一年五月	一五〇	—	一五〇
全北	同上	群山朝山町	同三十三年三月	四五〇	—	四五〇
全南	本願寺木浦別院	木浦	同三十一年三月	三〇〇	—	三〇〇
全南	本願寺光州別院	光州邑內	同四十二年十一月	五〇	—	五〇
全南	本願寺南平分教所	南平邑內	同四十二年十一月	一〇〇	—	一〇〇
全南	同榮山浦布教所	榮山浦	同四十三年二月	一七〇	—	一七〇
慶北	浦項布教所	延日郡浦項	同四十三年八月	三〇〇	—	三〇〇
慶	本願寺別院	釜山西町	同十年十一月	六〇〇	—	六〇〇
慶	同布教所	密陽邑內	同四十一年十一月	三三	—	三三

佛 派 眞

南	同晉州布教所	晉州城内	同三十九年七月	七〇	一	七〇
	同布教出張所	密陽郡三浪津	同四十二年三月	六八	一	六八
咸南	同元山別院	元山西町	同十三年八月	一五〇	一	一五〇
	同咸興布教所	咸興朝日町	同四十二年六月	三〇三	一	三〇三
咸北	清津布教所	清津	同四十一年七月	二五〇	一	二五〇
黃海	沙里院布教所	鳳山郡沙里院	同四十三年十月	二四〇	一	二四〇
平南	鎭南浦布教所	鎭南浦	同三十三年四月	二五〇	一	二五〇
平北	新義州布教所	新義州常盤町	同三十九年九月	八〇	一	八〇
京	仁川出張所	仁川寺町	同四十一年四月	二〇〇	一	二〇〇
	永登浦出張所	始興郡永登浦	同四十年五月	五八	一	五八
	大聖教會分教所	驪州郡川西洞	同四十二年十一月	一	一三	一三

教

宗　本

畿	大聖教會分教會	利川郡邑內	同四十二年十二月	一	二五三	二五三
	大聖教會分教會	竹山郡白岩里	同四十三年十一月	一	三五	三五
	同上	楊州郡獨川里見聖庵	同上	一	四	四
	同上	同郡月禮面月谷里	同	一	四	四
	同上	高陽郡舊把撥里	同四十一年六月	一	一九三	一九三
	同上	同郡紙停里	同四十一年九月	一	一三〇	一三〇
	大聖教會	果川郡外飛山	同　年七月	一	三六	三六
全南	羅州出張所	羅州郡邑內	同四十三年九月	四〇	一	四〇
	光州出張所	光州北門內	同四十三年二月	六〇	一	六〇
慶	大邱別院	大邱	同三十七年五月	四五〇	一	四五〇
	金泉布教所	金山郡金泉	同四十二年二月	四〇〇	一	四〇〇

佛						
派	南	釜山布敎所	釜山西町	明治三十年七月	五五〇	—	五五〇
		馬山布敎所	馬山濱町	同三十七年五月	六〇〇	—	六〇〇
		統營出張所	統營	同四十一年十一月	二五六	—	二五六
		長和浦出張所	巨濟郡長和浦	同四十二年四月	二〇	—	二〇
	黄海	兼二浦出張所	黄州郡兼二浦	同四十三年三月	七五	—	七五
	平南	平壤布敎所	平壤南門通	同四十年二月	一二六〇	一三〇	一三八〇
		安州布敎所	安州	同四十三年三月	三五	—	三五
	平北	定州出張所	定州	同四十二年八月	一〇〇	—	一〇〇
浄	京	水原寺	水原校洞	同三十八年十二月	一〇六	—	一〇六
		仁川寺	仁川寺町	同三十四年六月	三〇〇	一〇〇	四〇〇

宗	道	名稱	所在地	創立年月			
土	京畿	淨土宗敎會所	開城禮賓里	同三十七年四月	八〇	一〇〇	一八〇
		開敎院說敎所	廣州郡細村面炭洞	同四十三年二月	—	八二	八二
		淨土宗說敎所	水原郡點岩洞	同　年八月	—	四〇	四〇
		同　上	水原郡安寧面店洞	同　年十月	—	四〇	四〇
	忠南	公州寺	公州	同四十一年十二月	三〇〇	—	三〇〇
		江景寺	恩津郡江景	同三十八年五月	一五〇	—	一五〇
		淨土宗敎會所	懷德郡大田	同四十年十月	一五〇	一〇〇	二五〇
	全北	群山寺	群山	同三十八年十二月	一五〇	一三〇	二八〇
		全州寺	全州	同四十二年五月	一〇六	—	一〇六
	全南	大邱布敎所	大邱	同三十八年一月	二三〇	—	二三〇
	慶	智恩寺	山	同三十五年九月	四〇〇	—	四〇〇

佛

宗

道	名稱	所在地	年月	(no heading)	(no heading)	(no heading)
南	馬山布教所	馬山	明治三十五年七月	二八〇	ー	二八〇
	蔚山教會所	蔚山	同四十三年二月	五〇〇	二〇	五二〇
咸南	智恩院教會所	元山	同四十一年八月	一五〇	ー	一五〇
咸北	羅南教會所	鏡城郡羅南	同四十一年九月	三〇〇	ー	三〇〇
黃海	新幕教會所	瑞興郡新幕	同　年一月	三〇〇	二〇〇	五〇〇
	海州教會所	海州	同三十一年十一月	三七〇	六〇〇	九七〇
	黃州出張所	黃州郡邑內	同四十三年六月	九〇	ー	九〇
平南	華頭寺	平壤	同三十九年四月	一一八〇	一二〇	一三〇〇
	中和布教所	中和	同四十三年十二月	二一	二〇	四一
	三和寺	鎭南浦	同四十年二月	二〇〇	三〇	二三〇
	安州教會所	安州	同四十三年十一月	三三	ー	三三

敎						
眞言宗						
平北	新義州布敎所	新義州	明治四十一年三月	六〇	—	六〇
京畿	高野山布敎所	水原郡南昌洞	同四十二年五月	九〇	—	九〇
	同遍照寺	仁川宮町	同三十年四月	一〇〇	—	一〇〇
	同敎會所	開城郡大和町	同四十三年四月	九三	—	九三
全南	智山派敎會所	木浦	同三十四年十一月	六〇〇	—	六〇〇
慶北	高野山布敎所	大邱	同四十一年四月	三〇	—	三〇
慶南	高野山金剛寺	釜山大廳町	同三十一年五月	三〇〇	—	三〇〇
	馬山布敎所	馬山	同四十一年四月	一六二	—	一六二
咸南	高野山	元山	同三十九年二月	八〇〇	—	八〇〇
	西海寺	北青郡東里	同四十二年六月	八〇〇	—	八〇〇
平	泰國寺	平壤	同四十年七月	三〇〇	—	三〇〇

佛							
(宗)	南	高野山布教所	鎭南浦	明治四十三年六月	三〇〇	—	三〇〇
曹洞宗	京畿	仁川布教所	仁川	同四十二年八月	一五〇	—	一五〇
	忠南	太田寺	大田	同四十一年十一月	一五〇	—	一五〇
	全北	群山布教所	群山	同四十二年十一月	三〇	—	三〇
	慶南	總泉寺	釜山谷町	同三十五年九月	二八〇	—	二八〇
	平南	平壤布教所	平壤牡丹臺	同三十八年十一月	五〇	三〇	八〇
	平北	龍岩浦布教所	龍岩浦	同四十年七月	二〇	—	二〇
日	京畿	妙覺寺	仁川	同四十年七月	一〇〇	—	一〇〇
	全北	安國寺	群山	同三十八年三月	三〇	—	三〇
	慶北	光國寺	大邱	同四十二年十月	一三〇	—	一三〇

教	蓮宗	慶南	妙覺寺	釜山	同十七年八月	三七〇	三七〇
			同上	馬山	同四十二年三月	三三〇	三三〇
		咸南	項妙寺	元山	同二十四年五月	四〇〇	四〇〇
			日蓮宗	咸興	同三十九年七月	二〇	二〇
		平南	照國寺	平壤	同四十年九月	二四〇	二四〇
			最勝寺	鎭南浦	同三十七年十月	一〇〇	一〇〇
基	メソヂスト派	京城	日本メソヂスト教	仁川仲町	同三十八年七月	三五	三五
		咸南	同上	元山	同四十三年七月	三五	三五
		黃海	同上	黃州郡禮洞	同年九月	八	八
		平南	同上	平壤三里	同三十九年九月	三三	三三
			同上	鎭南浦	同年六月	一六	一六

督教								
プレスビテリアン派	京畿	日本基督教會	水原長安洞	明治三十三年九月	二〇	三五〇	三七〇	
	全北	同上	群山	同四十一年八月	三三	—	三三	
	慶北	日本基督教會講義所	大邱	同四十三年八月	三〇	—	三〇	
	慶南	同上	釜山辨天町	同三十七年四月	三五	—	三五	
		同上	馬山	同三十九年十一月	九	—	九	
	平南	同上	平壤一里	同四十一年八月	三五	一五	五〇	
		同上	甑山郡邑內	同四十三年十一月	—	一九	一九	
	平北	同上	新義州	同年十二月	一三	—	一三	
聖公會派	慶南	聖公會講義所	釜山大廳町	同三十九年一月	二四	—	二四	

備考　京城內ニ在ルモノ目下調査中ニ付掲載セス

第十四章　教　育

一　內地人ノ教育

朝鮮ノ發展ニ伴ヒ內地人ノ移住スル者日ニ增加シ敎育機關ノ設置ハ焦眉ノ急ト爲リシカ既ニ京城、仁川、釜山、元山、平壤等ノ都會ニ在リテハ敎育機關ノ設ケラルルアリト雖比較的內地人ノ少ナキ地方ニ在リテハ一小學校ノ設置スラ容易ナラス玆ニ於テカ明治四十二年二月統監府ハ小學校規則ヲ發布シ之カ設置改善ヲ計リ內地諸學校トノ聯絡ヲ保持スルカ爲敎授科目ヲ統一シ小學校ノ設置、廢止ハ總テ理事官ノ認可ヲ要シ敎員ハ原則トシテ小學校敎員免許狀ヲ有スルコトヲ要シ且其ノ任命權ハ理事官ニ屬スルコトトセリ本規則發布ノ結果亦文部省ハ省令ヲ以テ在韓小學兒童及卒業者入學轉學ニ關シ其在外指定學校タルト否トニ拘ラス全然內地ニ於ケル小學校ト同一ノ取扱ヲ爲スヘキコトヲ認メタリ

明治四十二年十二月學校組合令發布セラル蓋內地人ノ集團地ニシテ其ノ發展ノ程度未タ居留民團ヲ

設置スルニ至ラサル地ニ在リテハ居留民ハ日本人會ヲ組織シ教育衞生等ノ公共的事業ヲ經營セルモ是レ唯事實上ノ團體ニ過キスシテ團體員ニ對シ經費ノ負擔ヲ强制シ得ル權能ナク從テ其ノ基礎薄弱ニシテ事業ノ發達ヲ期シ難カリシヲ以テ本令ニ依リ設立セラレタル組合ヲ法人トシ之ニ經費ノ負擔ヲ强制スルノ權能ヲ附與シ以テ團體ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ併セテ其ノ經營事業ノ發達ヲ企圖セリ

明治四十三年六月統監府令ヲ以テ在外指定學校規程發布セラル本令ニ依リ指定セラレタル學校職員ハ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ待遇セラルヘキ特典ヲ有スルト共ニ他方ニ於テハ此ノ特典ヲ享受セムカ爲指定セラルヘキ學校ハ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具ヘ特ニ統監ノ指定ヲ經タルモノナルコトヲ要シ同校職員ニ對スル懲戒權ハ所轄理事官ニ屬セシメシカ併合ノ結果官制改正ニ伴ヒ其ノ職權ハ道長官ノ管掌ニ移レリ現今本規程ニヨリテ指定セラレタルモノ小學校二十、高等女學校二、商業學校一アリ

從來在外指定學校ノ指定ハ單ニ其ノ職員ノ待遇ニ關スルノミナラス其ノ生徒兒童及卒業者ノ入學、轉學ノ資格ニ關係シ一一之ヲ告示スル形式ヲ執リシカ小學校規則ノ發布ニ依リ在韓小學兒童及卒業

者ハ總テ內地ニ於ケル小學校兒童及卒業者ト同一ニ取扱ハルルコトト爲リタル爲現今ニ至リテハ在外指定學校ノ指定ハ單ニ其ノ職員ノ待遇ニノミ關スルコト、爲リタルモ當時既ニ告示セラレタル釜山商業學校、釜山高等女學校ハ今尙其ノ指定ノ結果ニ依リ其ノ生徒及卒業者ノ入學、轉學ニ關シ內地ニ於ケル同種學校ト同一ノ取扱ヲ受クルコトヲ得ルナリ

元統監府ハ又他方ニ於テ補助金ヲ下附シテ學校ノ新設及其ノ完備ヲ促カシタルカ最近五箇年間ニ於テ下付セラレタル教育費補助金ハ總計十六萬圓ニ達シ其ノ累年ノ一覽表ヲ示セハ左ノ如シ

內地人小學校教育費補助金累年一覽表

年度	學校數	金額	一校平均
明治四十年度	四五	二〇、〇〇〇円	四四四円
同四十一年度	六二	三〇、〇〇〇	四八三
同四十二年度	八六	四〇、〇〇〇	四六五
同四十三年度	一一二	五五、〇〇〇	四九一

同	四十四年度	一五七	七八、八〇〇	五一二

備考 一 外ニ四十四年度ハ商業學校二校及高等女學校三校ニ對シ一萬三千圓ノ補助金アルニ依リ本年度教育費補助金ハ合計九萬一千八百圓ナリ
二 本表ノ外四十四年度中ニハ尚十七校增設ノ豫定
三 本表中一校平均額ハ經常補助金及一時補助金ヲ合計通算シテ校數ニ等分シタルモノナリ

目下內地人ノ設立ニ係ル校園數百四十四、生徒一萬七千餘人ニ及ヒ逐年激增ノ傾向ヲ示セリ

內地人學校施設累年一覽表

學校	年度	校數	兒童及生徒數			職員數
			男	女	計	
小學校	明治四十年度	五四	三、九九六	二、四三一	七、四二七	二二六
	明治四十一年度	七九	五、三二一	四、六一二	九、九三三	二八八
	明治四十二年度	一〇二	六、七一二	五、九一八	一二、六三〇	三六三

	明治四十三年度	一二八	八、三三三	七、一四一	一五、四六四	四五三
	明治四十四年度	一五七	九、九七八	八、七六一	一八、七三九	× 五二〇 六
中學校	明治四十年度	—	—	—	—	—
	明治四十一年度	—	—	—	—	—
	明治四十二年度	一	一五四	—	一五四	八
	明治四十三年度	一	二〇五	—	二〇五	二一
	明治四十四年度	一	三七二	—	三七二	二三
高等女學校	明治四十年度	四	—	一七七	一七七	三二
	明治四十一年度	四	—	二九五	二九五	三九
	明治四十二年度	三	—	三九七	三九七	三七
	明治四十三年度	三	—	五一五	五一五	四一
	明治四十四年度	三	—	六四六	六四六	四〇
商業學校	明治四十年度	一	一〇〇	—	一〇〇	一〇
	明治四十一年度	一	八四	—	八四	一〇
	明治四十二年度	二	一四三	—	一四三	二〇

	明治四十三年度	二	一七〇	—	一七〇	二〇
	明治四十四年度	二	三三三	—	三三三	二一
專門學校	明治四十年度	一	三八	—	三八	一〇
	明治四十一年度	一	二八	—	二八	一七
	明治四十二年度	一	三〇	—	三〇	二〇
	明治四十三年度	一	一八	—	一八	一六
	明治四十四年度	一	四三	—	四三	一七
各種學校	明治四十年度	—	—	—	—	—
	明治四十一年度	—	—	—	—	—
	明治四十二年度	—	—	—	—	—
	明治四十三年度	五	一八九	三四	二二三	二四
	明治四十四年度	五	二六八	七二	三四〇	二八
幼稚園	明治四十年度	六	二七七	二三三	五一〇	一三
	明治四十一年度	六	二七〇	二六三	五三三	一四
	明治四十二年度	七	二七一	二四四	五一五	二一

	明治四十三年度	九	三〇五	三〇一	六〇六	二三
	明治四十四年度	八	二七三	三一五	五八八	二一
總計	明治四十年度	六六	四、四一一	三、八四一	八、二五三	二九一
	明治四十一年度	九一	五、七〇三	五、一七〇	一〇、八七三	三六八
	明治四十二年度	一一五	七、一五六	六、五五九	一三、八六九	四六九
	明治四十三年度	一四九	九、二一〇	七、九九一	一七、二〇一	五九七
	明治四十四年度	一七七	一一、二五七	九、七九四	二一、〇五一	六六九

備考　四十四年度ハ九月末日現在他ハ年度末ニ依ル

朝鮮總督府中學校ハ內地人普通教育ノ普及ヲ計ラムカ爲設ケラレタル朝鮮唯一ノ中學校ニシテ京城西署慶熙宮構內ニ在リ明治四十三年勅令第九十九號ニ依リ同年四月一日ヨリ開設セラレ統監府中學校ト稱セシカ同年三月三十一日廢校ニ係ル元京城居留民團立京城中學校第一學年、第二學年、第三學年生徒ヲ引續キ各相當ノ學年ニ之ヲ編入シ同年六月一日文部省告示ヲ以テ本校第一部(普通科)生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關シ中學校令ニ依リ設置シタル府縣立中學校生徒及卒業者ト同

等ト認メラレ同年九月官制改革ニ從ヒ朝鮮總督府中學校ト改稱セリ校舍其ノ他諸般ノ設備內地中學校ニ讓ラズ目下在學生三百四十三名、學校長ヲ奏任トシ奏任教諭四名以下教員十一名及其ノ他五名アリ左ニ最近ノ概況ヲ表示スヘシ

朝鮮總督府中學校　×印ハ兼務者以下同シ（明治四十四年九月現在）

種別	生徒數						學級數	職員數				設立年月
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	計		學校長	教員	事務員	計	
朝鮮總督府中學校	一四七	九四	六三	三九	―	三四三	八	一	二〇	八	二九	四三、四
附設臨時小學校教員養成所	二九	―	―	―	―	二九	一					

從來朝鮮ニハ小學教員ノ養成所ヲ有セス加フルニ朝鮮ニ於ケル教育者ハ又特種ノ素養ヲ要スルモノアルニ因リ四十四年三月勅令ヲ以テ臨時教員養成所ヲ設置セラレ朝鮮總督府中學校內ニ設クルコトト爲リ同養成所ニハ中學校長ノ推薦ニ係ル中學卒業者ヲ入學セシメ一箇年間ノ教習ヲ終ヘタル者ヲ小學教員トシテ採用スルモノニシテ養成所ハ一學級ノ組織トシ現今二十九人ノ教習生ヲ收容セリ

高等女學校　（明治四十四年九月現在）

學校名	所在地	管理者	生徒數 本科	生徒數 專修科	生徒數 計	學級數	職員數 學校長	職員數 教員	職員數 其他	職員數 計	設立年月	指定年月
京城高等女學校	京城南山町	京城居留民團	三四〇	補習科 一五	四五五	五	一	一六	一	一八	四一、四	四一、九
釜山高等女學校	釜山	釜山居留民團	一七八	技藝科 四九	二二七	七	一	一三	一	一五	三九、四	四〇、一
仁川實科高等女學校	仁川	仁川居留民團	六一	—	六一	四	一	八	一	一〇	四一、四	
計			五七九	六四	六四三	一六	三	三七	三	四三		

專門學校　（明治四十四年九月現在）

學校名	所在地	管理者	學級數	生徒數	職員數 學校長	職員數 教員	職員數 其他	職員數 計	設立年月
東洋協會專門學校京城分校	京城大和町	東洋協會	一	四三	—	一七	—	一七	四〇、一〇

商業學校　（明治四十四年九月現在）

學校名	所在地	管理者	生徒數 本科	生徒數 專修科	生徒數 計	學級數	職員數 學校長	職員數 教員	職員數 其他	職員數 計	設立年月	指定年月
釜山商業學校（甲種）	釜山	釜山居留民團	一三三	豫科 四八	一八二	四	一	一二	—	一三	三九、四	四〇、一

仁川商業學校(乙種)	仁川	仁川居留民團	一二九	一六	一四五	六	一	七	一	九	四一、四
元山商業補習學校	元山	元山居留民團	二七	—	二七	三	一	七	—	八	四一、二
計			二八九	六四	三五三	一三	三	二六	一	三〇	

各種學校(明治四十四年九月現在)

學校名	所在地	管理者	生徒數	學級數	職員數 學校長	教員	其他	計	設立年月
財團法人善隣商業學校夜學專修科	京城明治町	大倉喜八郎	一四九	三	一	六	一	八	四一、四
私立京城女子技藝學校	同旭町	湖崎喜三郎	七三	六	一	六	—	七	四三、四
東洋協會專門學校韓語講習會	同大和町	東洋協會	二三	二	—	二	—	二	四三、四
私立京城夜學校	同旭町	湖崎喜三部	八一	四	一	三	—	四	四三、四
計			三二四	一五	三	一七	一	二一	

幼稚園(明治四十四年現在)

園名	所在地	管理者	幼兒數 男	女	計	組數	職員數 園長	保姆及助手	計	設立年月
汎子記念京城幼稚園	京城南山町	京城居留民團	六二	六四	一二五	三	一	四	五	三三、五

學校名	所在地	管理者	兒童數 男	兒童數 女	兒童數 計	學級數	教員數 男	教員數 女	教員數 計	開校年月
仁川記念幼稚園	仁川	仁川居留民團	四一	四九	九〇	二	一	三	四	三三、五
私立京城幼稚園	京城旭町	湖崎喜三郎	一五	一七	三二	一	一	一	二	四三、四
私立釜山幼稚園	釜山	大谷派本願寺別院	五四	七〇	一二四	三	|	三	三	三〇、一二
群山尋常高等小學校附屬群山幼稚園	群山	群山居留民團	一一	七	一八	二	一	二	三	四二、
大邱幼稚園	大邱	大邱居留民團	二一	二〇	四一	二	一	二	三	|
鎭南浦幼稚園	鎭南浦	鎭南浦居留民團	二四	二八	五二	一	|	一	一	三七、四
私立元山幼稚園	元山	大谷派本願寺別院	四六	六〇	一〇六	二	一	三	四	四〇、六
計			二七三	三一五	五八八	一六	六	一九	二五	|

小學校一覽表（明治四十四年九月現在）

道名	學校名	所在地	管理者	兒童數 男	兒童數 女	兒童數 計	學級數	教員數 男	教員數 女	教員數 計	開校年月	指定年月
京	日出尋常高等小學校	京城日出町	京城居留民團	五七六	四九六	一、〇七二	一九	一七	五	二二	三三、八	三九、八
	南大門尋常高等小學校	同　太平町	同	八九三	七六二	一、六五五	三一	二六	七	三三	四一、四	四一、四
	櫻井尋常小學校	同　櫻井町	同	三九六	三五四	七五〇	一三	一一	四	一五	四三、四	四三、四
	龍山尋常高等小學校	龍山	同	五九四	五三五	一、一二九	二〇	一七	六	二三	三六、二	四一、三
	開城尋常高等小學校	開城	開城居留民團	七八	六〇	一三八	四	三	一	四	三五、九	四二、七

道	學校名	所在地	設立者									
畿道	烏山尋常小學校	烏山	烏山日本人會	一四	一一	二五	一	一	|	一	三九、九	|
	驪州尋常小學校	驪州	驪洲日本人會	七	二	九	一	一	|	一	四二、六	|
	汶山尋常小學校	汶山	汶山學校組合	九	六	一五	一	一	|	一	四三、四	|
	水原尋常高等小學校	水原	水原學校組合	六五	七一	一三六	三	二	一	三	三九、九	四三、六
	永登浦尋常小學校	永登浦	永登浦學校組合	四三	三三	七六	二	一	一	二	三八、一〇	|
	安城尋常小學校	安城	安城日本人會	一二	八	二〇	一	一	|	一	四三、四	|
	仁川尋常小學校	仁川	仁川居留民團	五四〇	五五二	一、〇九二	一八	×二 一五	四	×二 一九	一八、一〇	三九、八
	仁川高等小學校	仁川	仁川居留民團	五三	四一	九四	二	×三 三	×一	×四 三	四四、四	四四、四
	江華尋常高等小學校	江華島	江華邑學校組合	七	七	一四	二	一	一	二	四三、二	|
	平澤尋常高等小學校	平澤	平澤居留民會	一三	二一	三四	二	一	一	二	四一、七	|
	計 一五			三、三〇三	二、九五六	六、二五九	一二〇	×五 一〇一	×一 三一	×六 三二		
忠清	清州尋常高等小學校	清州	清州學校組合	五〇	四三	九三	二	一	一	二	四三、七	|
	永同尋常高等小學校	永同	永同學校組合	二四	二三	四七	二	二	|	二	四〇、六	|
	秋風嶺尋常高等小學校	秋風嶺	秋風嶺學校組合	一三	一〇	二三	二	一	一	二	四三、一	|
	芙江尋常小學校	芙江	芙江日本人會	一〇	一二	二二	一	一	一	二	四一、六	|
	忠州尋常小學校	忠州	忠州學校組合	四	六	一〇	一	一	|	一	四四、四	|

北道	黃澗尋常小學校	黃澗	黃澗學校組合	八	四	一三	一	一	一	二	四四、五	|
	沃川尋常小學校	沃川	沃川學校組合	九	二	二〇	一	一	|	一	四四、七	|
	計　七			一七	一〇七	三二四	一〇	八	四	一三		
忠清南	公州尋常高等小學校	公州	公州日本人會	六三	七三	一三四	二	二	|	二	四〇、四	|
	大田尋常高等小學校	大田	大田居留民	一五八	一三五	二八三	五	三	二	五	三九、四	四三、七
	鳥致院尋常小學校	鳥致院	鳥致院居留民	二七	三五	五二	二	一	一	二	三九、九	|
	天安尋常小學校	天安	天安日本人會	八	二	二〇	一	一	一	二	四二、四	|
	成歡尋常小學校	成歡	成歡日本人會	七	七	一四	一	一	|	一	四三、一	|
	禮山尋常小學校	禮山	禮山學校組合	八	四	一二	一	一	|	一	四一、五	|
	洪州尋常小學校	洪州	洪州日本人會	二一	三	三三	一	一	|	一	四二、二一	|
	瑞山尋常小學校	瑞山	瑞山學校組合	九	七	一六	一	一	|	一	四三、四	|
	於青島尋常小學校	於青島	於青島學校組合	九	七	一六	一	一	一	二	四二、三	|
	論山尋常小學校	論山	論山日本人會	七	九	一六	一	一	|	一	四一、七	|
	江景尋常高等小學校	江景	江景日本人會	六一	六三	一三四	三	二	一	三	三八、四	|
	窺岩里尋常小學校	窺岩里	窺岩里學校組合	二一	七	一八	一	一	|	一	三九、四	|
	馬九坪尋常小學校	馬九坪	馬九坪居留民	八	一〇	一八	一	一	|	一	四一、六	|

道	校名	所在地	組合名									
道	鴻山尋常小學校	鴻山	鴻山學校組合	五	七	一二	一	一	|	一	四二、一〇	|
	稷山尋常小學校	稷山	稷山學校組合	七	三	一〇	一	一	|	一	四四、五	|
	新灘津尋常小學校	新灘津	新灘津學校組合	一二	九	二一	一	一	|	一	四四、六	|
	全義尋常小學校	全義	全義學校組合	四	五	九	一	一	|	一	四四、九	|
	牙山尋常小學校	牙山	牙山學校組合	五	五	一〇	一	一	|	一	四四、九	|
	計 一八			四一九	三九九	八一八	二六	三三	六	一八		
慶尚	大邱尋常高等小學校	大邱	大邱居留民團	三八九	三四六	七三五	一四	三	五	一七	三八、一〇	四一、一
	金泉尋常高等小學校	金泉	金泉學校組合	六七	六三	一三〇	二	一	一	二	四〇、三	|
	尚州尋常小學校	尚州	尚州學校組合	一四	一三	二七	一	一	|	一	四〇、七	|
	慶州尋常小學校	慶州	慶州學校組合	二四	九	三三	三	一	一	二	四二、七	|
	安東尋常小學校	安東	安東學校組合	八	一三	二一	一	一	一	二	四二、五	|
	慶山尋常小學校	慶山	慶山學校組合	二〇	一三	三三	一	一	|	一	四一、六	|
	清道尋常小學校	清道	清道學校組合	一三	一八	三一	二	二	一	三	四二、四	|
	永川尋常小學校	永川	永川學校組合	九	六	一五	二	一	一	三	四二、五	|
	浦項尋常小學校	延日郡浦項	迎日學校組合	三二	二〇	五二	一	一	|	一	四二、四	|
	善山尋常小學校	善山	善山學校組合	七	九	一六	一	一	|	一	四三、一〇	|

道	學校名	所在地	設立者								
北道	倭館尋常小學校	倭館	倭館學校組合	七	三	一九	一	一	一	二四三、五	|
	慈仁尋常小學校	慈仁	慈仁學校組合	四	二	六	一	一	|	一四三、五	|
	盈德尋常小學校	盈德	盈德學校組合	四	八	三	一	一	|	一四四、五	|
	義城尋常小學校	義城	義城學校組合	四	六	一〇	一	一	一	二四四、六	|
	星州尋常小學校	星州	星州學校組合	四	三	七	一	一	|	一四四、六	|
	東村尋常小學校	東村	東村學校組合	九	二	二	一	一	|	一四四、九	|
	計　一六			六一五	五三四	一、一五八	三三	二八	三	四〇	|
慶	晋州尋常高等小學校	晋州	晋州學校組合	六三	六五	一二八	四	三	一	四四〇、一	|
	馬山尋常高等小學校	馬山	馬山居留民團	四五一	三九九	八五〇	一四	一三	二	一五三五、一	三九、一〇
	統營尋常高等小學校	統營	統營學校組合	九一	六一	一五二	四	二	一	三三六、七	四三、七
	入佐尋常高等小學校	入佐	入佐學校組合	三七	三四		三	二	|	二三九、九	|
	昌原尋常小學校	昌原	昌原學校組合	一〇	三	三	一	一	一	二四一、四	|
	三千浦尋常小學校	三千浦	三千浦學校組合	一二	三	三三	一	一	一	二四一、一〇	|
	知世浦尋常小學校	知世浦	香川縣	八	四	三	一	一	|	一四一、一〇	|
	固城尋常小學校	固城	固城學校組合	一四	二五	三九	一	一	一	二四一、八	|
	松眞尋常小學校	松眞	松眞學校組合	一八	一六	三四	一	一	|	一四三、四	|

尙南	河東尋常小學校	河東	河東學校組合	四	七	一一	一	一	一	二四三、五
	壯佐尋常小學校	壯佐	壯佐在留民	一二	一一	二三	一	一	一	二四三、八
	峰谷村尋常小學校	峰谷村	峰谷村在留民	二八	一七	四五	一	一	|	一四三、六
	釜山尋常高等小學校	釜山	釜山居留民團	四九二	四八八	九八〇	一九	一九	四	三三九、四
	釜山尋常小學校	釜山	同	六八二	四三八	一、一二〇	二一	一七	四	二一〇、
	草梁尋常小學校	草梁	同	二二一	一八九	四一〇	八	七	二	九三九、四
	牧島尋常小學校	牧島	同	一三二	一〇八	二四〇	五	五	一	六四三、四
	龜浦尋常高等小學校	龜浦	龜浦學校組合	一五	一九	三四	二	二	一	三四〇、五
	密陽尋常高等小學校	密陽	密陽學校組合	五八	四七	一〇五	三	二	一	三三八、三二
	密陽尋常小學校	密陽	同	一九	二四	四三	一	一	一	二四四、四
	三浪津尋常高等小學校	三浪津	三浪津學校組合	四五	四九	九四	三	二	一	三三九、五
	東萊尋常小學校	東萊	東萊學校組合	二四	二六	五〇	二	|	一	一四〇、五
	蔚山尋常高等小學校	蔚山	蔚山學校組合	一二	二二	三四	二	二	一	三四〇、九
	洛東尋常小學校	洛東	洛東學校組合	二九	二四	五三	一	二	一	三四〇、五
	金海尋常小學校	金海	金海學校組合	九	七	一六	一	一	一	二四〇、四
	鬱陵島尋常小學校	鬱陵島	鬱陵島學校組合	五〇	二七	七七	二	二	一	三三八、七
	下端尋常小學校	下端	下端學校組合	一七	九	二六	一	一	一	二四一、六

河東尋常小學校	|
壯佐尋常小學校	|
峰谷村尋常小學校	|
釜山尋常高等小學校	四〇、一
釜山尋常小學校	四〇、一
草梁尋常小學校	四〇、一
牧島尋常小學校	四三、四
龜浦尋常高等小學校	|
密陽尋常高等小學校	|
密陽尋常小學校	|
三浪津尋常高等小學校	|
東萊尋常小學校	|
蔚山尋常高等小學校	|
洛東尋常小學校	|
金海尋常小學校	|
鬱陵島尋常小學校	|
下端尋常小學校	|

道	蔚山灣尋常小學校	蔚山灣	蔚山灣學校組合	九	一二	二一	一	一	一	二	四一、三	|
	多大浦尋常小學校	多大浦	多大浦學校組合	八	二	一〇	一	一	一	二	四三、四	|
	德頭尋常小學校	德頭	德頭學校組合	一七	四	二一	一	一	一	二	四三、四	|
	進永尋常小學校	進永	進永學校組合	一三	一二	二五	一	一	一	二	四三、一	|
	勿禁尋常小學校	勿禁	勿禁學校組合	一一	一〇	二一	一	一	|	一	四三、五	|
	方魚津尋常小學校	方魚津	方魚津學校組合	一七	二五	四二	一	一	|	一	四三、五	|
	大邊尋常小學校	大邊	大邊學校組合	一七	八	二五	一	一	|	一	四三、五	|
	舊助羅尋常小學校	舊助羅	舊助羅學校組合	四	七	一一	一	一	|	一	四三、一一	|
	泗川尋常小學校	泗川	泗川學校組合	一一	九	二〇	一	一	|	一	四三、九	|
	岡山村尋常小學校	岡山村	岡山村學校組合	一三	一一	二四	一	一	一	二	四四、二	|
	巨濟尋常小學校	巨濟	巨濟學校組合	四	三	七	一	二	|	二	四四、四	|
	計　三七			二、六八五	二、二三四	四、九一九	一一五	一〇三	三五	一三八		|
全	全州尋常高等小學校	全州	全州日本人會	一〇五	八七	一九二	五	四	一	五	四〇、六	|
	大場村尋常小學校	大場村	大場村學校組合	一六	二二	三八	一	一	|	一	四三、一〇	|
	南原尋常小學校	南原	南原學校組合	五	五	一〇	一	一	|	一	四三、一	|
	錦山尋常小學校	錦山	錦山學校組合	七	二	九	一	一	|	一	四三、六	|

道	學校名	位置	設立者								
全羅北道	古阜尋常小學校	古阜	古阜學校組合	六	四	一〇	一	一	|	一四三、七	|
	群山尋常高等小學校	群山	群山居留民團	三〇三	二七〇	五七三	一二	九	二	一二三二、五	三九、一〇
	金堤尋常小學校	金堤	金堤學校組合	九	七	一六	一	一	|	一四四、三	|
	井邑尋常小學校	井邑	井邑學校組合	三	一一	一三	一	一	|	一四四、五	|
	藍浦尋常小學校	藍浦	藍浦學校組合	四	二	六	一	一	|	一四四、六	|
	五山里尋常小學校	五山里	五山里學校組合	五	九	一四	一	一	|	一四四、九	|
	計 一〇			四七二	四一九	八九一	二四	二二	三	二四	
全羅南道	光州尋常高等小學校	光州	光州日本人會	七四	六六	一四〇	四	二	二	四四〇、六	|
	木浦尋常高等小學校	木浦	木浦居留民團	二六三	二三九	四九二	九	八	三	一二三一、一二	四〇、二
	榮山浦尋常高等小學校	榮山浦	榮山浦日本人會	四〇	三八	七六	二	一	|	一三九、七	|
	濟州尋常小學校	濟州	濟州學校組合	一四	二一	三五	二	一	一	二四〇、四	|
	羅州尋常小學校	羅州	羅州學校組合	一四	二九	四三	二	一	一	二四一、五	|
	靈巖尋常小學校	靈巖	靈巖日本人會	一五	一二	二七	二	一	一	二四三、五	|
	長興尋常小學校	長興	長興學校組合	一〇	八	一八	一	一	|	一四三、五	|
	筏橋尋常小學校	筏橋浦	筏橋浦學校組合	八	一四	三三	一	一	一	二四四、三	|
	南平尋常小學校	南平	南平學校組合	一八	一五	三三	二	一	一	二四四、三	|

道	學校名	位置	設立者									
道	順天尋常小學校	順天	順天學校組合	六	八	一四	一	一	—	一	四四、八	—
	海南尋常小學校	海南	海南學校組合	七	五	一二	一	一	—	一	四三、三	—
	靈光尋常小學校	靈光	靈光學校組合	九	四	一三	一	一	—	一	四四、五	—
	麗水尋常小學校	麗水	麗水學校組合	一〇	七	一七	一	一	—	一	四四、七	—
	計　一三			四八八	四五六	九四四	二九	二二	一〇	三二		
黃海道	海州尋常高等小學校	海州	海州學校組合	四〇	五六	九六	二	二	一	三	三九、四	—
	兼二浦尋常小學校	兼二浦	兼二浦學校組合	三三	三〇	六三	二	一	一	二	三九、五	—
	黃州尋常高等小學校	黃州	黃州學校組合	二八	四三		二	一	一	二	四〇、六	—
	新幕尋常小學校	新幕	新幕日本人會	三三	三五	六七	二	一	一	二	四一、四	—
	沙里院尋常小學校	沙里院	沙里院學校組合	二八	二〇	四八	一	二	一	三	四一、九	—
	安岳尋常小學校	安岳	安岳日本人會	五	一	六	一	一	—	一	四二、七	—
	黑橋尋常小學校	黑橋	黑橋學校組合	九	三	一二	一	一	—	一	四三、三	—
	金川尋常小學校	金川	金川學校組合	一四	九	二三	二	一	—	一	四四、九	—
	計　八			一八九	一九七	三八六	一三	一〇	五	一五		
平	平壤尋常高等小學校	平壤	平壤居留民團	四〇一	三三二	七三三	一四	一三	四	一六	三五、五	五三九、一〇
	安州尋常小學校	安州	安州學校組合	九	七	一六	一	一	—	一	四〇、四	—

安南道	新安州尋常小學校	新安州	新安州學校組合	九	一五	二四	二	一	一	二	四一、四	―
	廣梁灣尋常小學校	廣梁灣	廣梁灣學校組合	二一	一八	三九	二	一	一	二	四三、四	―
	鎭南浦尋常高等小學校	鎭南浦	鎭南浦居留民團	二五五	二三五	四九〇	一〇	一〇	三	一三	三一、五	四〇、二
	計 五			六九五	六〇七	一三〇二	二九	二五	九	三四		
平安北道	新義州尋常高等小學校	新義州	新義州居留民團	一三三	八八	二二一	五	四	一	五	三九、七	四二、四
	定州尋常高等小學校	定州	定州學校組合	二〇	一九	三九	二	二	一	三	四〇、一	四三、九
	義州尋常小學校	義州	義州學校組合	二〇	一六	三六	二	二	一	三	四〇、四	―
	龍岩浦尋常高等小學校	龍岩浦	龍岩浦學校組合	一九	一三	三二	三	一	一	二	三九、四	―
	車輦館尋常小學校	車輦館	車輦館學校組合	一四	一六	三〇	二	一	一	二	四〇、六	―
	宣川尋常小學校	宣川	宣川學校組合	九	九	一八	一	一	―	一	四〇、四	―
	寧邊尋常小學校	寧邊	寧邊學校組合	八	七	一五	一	一	―	一	四一、二	―
	中江鎭尋常小學校	中江鎭	中江鎭學校組合	一〇	六	一六	一	一	―	一	四二、一〇	―
	北鎭尋常小學校	北鎭	北鎭學校組合	七	九	一六	一	一	―	一	四三、七	―
	郭山尋常小學校	郭山	郭山學校組合	六	七	一三	一	一	―	一	四四、四	―
	嶺美尋常小學校	嶺美	嶺美學校組合	三	三	六	一	一	―	一	四四、七	―
	計 一一			二三九	一九二	四三一	二〇	一六	五	二二		

道	學校	所在地	設立者									
江原道	春川尋常小學校	春川	春川學校組合	二五	一五	四〇	一	一	一	二	四三、九	—
	江陵尋常小學校	江陵	江陵學校組合	一	一〇	一一	一	一	一	二	四三、一一	—
	金化尋常小學校	金化	金化學校組合	五	四	九	一	一	—	一	四四、四	—
	鐵原尋常小學校	鐵原	鐵原學校組合	一一	三	一四	一	一	—	一	四四、七	—
	長箭尋常小學校	長箭	長箭學校組合	七	四	一一	一	一	—	一	四四、八	—
	蔚珍尋常小學校	蔚珍	蔚珍學校組合	五	五	一〇	一	一	—	一	四四、九	—
	計六			五四	四一	九五	六	六	二	八		
咸鏡南道	咸興尋常高等小學校	咸興	咸興日本人會	六六	七三	一三九	四	四	一	五	三九、一	—
	北青尋常小學校	北青	北青學校組合	九	一二	二二	一	一	—	一	四一、一二	—
	西湖津尋常小學校	西湖津	西湖津日本人組合	六	五	一一	一	一	—	一	四三、八	—
	虎島尋常小學校	虎島	虎島在留民	一二	九	二一	一	二	一	三	四三、四	—
	惠山鎮尋常小學校	惠山鎮	惠山鎮學校組合	五	一〇	一五	一	一	—	一	四三、八	—
	元山尋常高等小學校	元山	元山居留民團	三一三	三〇二	六一五	一三	一四	二	一六	二一、	三九、一〇
	計六			四一一	四一一	八二三	二一	二三	四	二七		
咸（鏡北道）	清津尋常高等小學校	清津	清津學校組合	八三	七八	一六一	四	三	一	四	四〇、七	四三、七
	城津尋常高等小學校	城津	城津日本人會	三〇	一四	四四	二	一	一	二	三九、一一	—

鏡北道	羅南尋常高等小學校	羅南	羅南學校組合	一〇九	八三	一九二	四	三	一	四	四一、三	—
	鏡城尋常高等小學校	鏡城	鏡城日本人會	二八	二三	五一	三	二	一	三	四〇、四	—
	會寧尋常小學校	會寧	會寧日本人會	二三	二七	三九	一	—	二	二	四一、三	—
	計 五			二六二	二三五	四八七	一四	九	六	一五		

備考　本表ノ外未開校ニ屬スル學校四校アリ

二　朝鮮人教育

終ニ朝鮮人ノ教育ニ就キ一言セムニ從來朝鮮人ノ教育機關ハ唯全國各地ニ散在セル書堂若ハ書房ノミニシテ書堂若ハ書房ハ恰モ内地ニ於ケル昔時ノ寺小屋ト同シク全國ヲ通シテ數千ニ及ヒ村夫子ハ附近ノ子弟ヲ集メテ之ニ童蒙先習、千字文、論語、孟子等ノ句讀ヲ教ヘ、書法、暗誦ヲ授クルノミニシテ他ニ何等新智識ヲ與フルコトナカリキ然レトモ時勢ノ進歩ハ舊態ニ安ンスルヲ許サス明治二十八年舊韓國政府ハ日本人參與官ヲ顧問トシテ傭聘シ我學制ニ倣ヒテ小學校令ヲ頒布シタリシカ三十九年更ニ學制ヲ改革シ專ラ實用ニ適セシメムコトヲ計リ小學校ヲ普通學校ト改稱シ新ニ普通學校

令ヲ布キ普通學校、高等學校、外國語學校、高等女學校及實業學校等ノ諸學校ヲ設置セリ四十三年韓國併合ニ際シ諸般官制ノ改革アリタリト雖獨リ教育ノ制度ハ事根本ノ問題ニ屬スルヲ以テ暫ク舊制ヲ存續シ先ツ時勢ノ變遷ニ伴フ當然ノ改廢ヲ加ヘ新政ニ悖ル所ナカラシメタリ爾來併合後ニ於ケル民心ノ趨向並民習ノ實際ニ鑑ミ周到ナル調査ト研究トヲ遂ケ以テ新政ヲ樹テ四十年八月朝鮮教育令發布セラレ次テ同十月各學校官制及規則ヲ發布シ同十一月之ヲ實施シタリ

朝鮮教育令ハ朝鮮人教育ニ關スル主義綱領ヲ明ニシ且教育ノ種類ヲ一定シ朝鮮人ノ教育ハ教育ニ關スル勅語ノ御趣旨ニ基キ忠良ナル國民ヲ育成スルヲ本義トシ時勢民習ニ適スル教育ヲ施スコトヲ努メ以テ德性ノ涵養ト國語ノ普及ニ力ヲ致シ日常生活ニ必須ナル智識技能ヲ授ケ學校ノ系統及程度ヲ簡約ニシテ時務ニ遠カラシメサルコトニ力メタル點ハ新令ノ主眼トスル所ニシテ各學校ヲ通シ此ノ一貫ノ趣旨ヲ遵守セムコトヲ期セリ

新教育令ハ普通、實業及專門ノ三教育ニ關スルモノニシテ普通教育ノ機關トシテ普通學校高等普通學校及女子高等普通學校ヲ置キ實業教育ノ機關トシテ農業學校、商業學校、工業學校及簡易實業學

校專門敎育ニ專門學校ヲ設クルコトト爲セリ而シテ普通學校教員養成ノ機關ニ至テハ敎育上及經濟上ノ利便ニ鑑ミ官立ノ高等普通學校ニ師範科及速成科ヲ設クルコトトセリ

新制實地ノ結果設置セラレタルモノハ官立ニ於テ京城及平壤ノ兩高等普通學校、京城女子高等普通學校及京城專修學校ノ四校ニシテ舊來ノ高等學校、高等女學校及法學校ハ夫夫右四校ニ變更セラレ舊來ノ師範學校ハ京城高等普通學校附設臨時敎育養成所ニ變更シ外國語學校ハ之ヲ廢止シテ其ノ生徒ハ京城高等普通學校ニ併セ公立ハ普通學校及實業學校ノ二種トシ現在普通學校二百三十四校實業學校三十三校ヲ有シ内十七校ハ普通學校ニ附設セル簡易實業學校ナリトス右公立學校ハ地方ノ經營ニ屬シ國庫ヨリハ年年補助金ヲ支給スルコトトセリ

普通學校ハ前年度末ニ於テハ公立一百校ニ過キサリシカ併合ニ際シ下賜セラレタル臨時恩賜金利子五分ノ一半ハ教育特ニ普通學校ノ經費ニ充當スヘキコトトシ其ノ經營ハ主トシテ四十四年度ニ於テ實行ヲ見ルニ至リ右恩賜金利子ヲ基礎トシ國庫及地方費ノ補助、鄕校財產收入等ヲ合シテ一百三十四校ヲ新設シ四十五年度ニ於テハ更ニ之ヲ增設シテ一郡一校ヲ有セシムルノ豫定ナリ

私立學校ハ全道ニ亘リ現在約一千八百校ヲ數ヘ内約七百校ハ外國宣教師ノ管理ニ係リ學科中ニ宗教ノ一課ヲ課スルモノナリ私立學校ハ一時濫設ノ狀況ヲ呈シ監督ノ必要アルニ因リ舊韓國政府ハ明治四十一年私立學校令ヲ發布シテ之カ指導監督ニ力メタリシモ四十四年十月新教育令ノ實施ニ際シ總督府ハ新ニ私立學校規則ヲ發布シテ之ニ代ラシメタリ私立學校ハ近來著シク減少シ舊私立學校令實施以來廢校ヲ屆出テタルモノ五百七十校ニ及ヒ而モ其多クハ併合後ニ屬ス蓋其ノ歸因スル所維持困難ナルト私立學校ノ整理改善ニ勗メタルニ因ル

官公立學校累年一覽表　△ハ外國人

學校名	年度別	學校數	生徒數			學級數	教員數		
			男	女	計		内地人	朝鮮人	計
（成均館）	明治四十年度	一	三〇	—	三〇	一	—	四	四
	明治四十一年度	一	三〇	—	三〇	一	—	四	四
	明治四十二年度	一	三〇	—	三〇	一	—	七	七
	明治四十三年度	一	二六	—	二六	一	—	七	七
	明治四十四年度	一	二四	—	二四	一	二	九	一一

學校	年度							
京城專修學校（法學校）	明治四十年度	一	未詳	—	—	—	—	—
	明治四十一年度	一	一三五	—	一三五	未詳	六	五
	明治四十二年度	一	一三八	—	一三八	四	一〇	一一
	明治四十三年度	一	一一六	—	一一六	四	一一	一二
	明治四十四年度	一	七〇	—	七〇	三	四	五
（師範學校）	明治四十年度	一	一〇八	—	一〇八	三	五	五
	明治四十一年度	一	一七二	—	一七二	四	五	一〇
	明治四十二年度	一	二〇六	—	二〇六	六	九	七
	明治四十三年度	一	二三九	—	二三九	八	九	六
	明治四十四年度	一	二七五	—	二七五	八	一三	七
高等學校	明治四十年度	一	一三六	—	一三六	五	五	九
	明治四十一年度	一	一七二	—	一七二	五	五	一〇
	明治四十二年度	二	二四八	—	二四八	八	一三	一四
	明治四十三年度	二	二二七	—	二二七	九	一六	一一
	明治四十四年度	二	三〇二	—	三〇二	九	一五	一二
	明治四十年度	七	五八二	—	五八二	未詳	一〇	△三三五
	明治四十一年度	三	六九四	—	六九四	二一	一一	△三四三

(外國語學校) 明治四十二年度	一	四二〇	—	四二〇	二一	八	△二四七	△三四五
明治四十三年度	一	二九五	—	二九五	一九	七	△二四三	△三四〇
明治四十四年度	一	二二九	—	二二九	一〇	七	△一三四	△二三一
高等女學校 明治四十年度	—	—	—	—	—	—	—	—
明治四十一年度	一	—	八八	八八	未詳	三	四	七
明治四十二年度	一	—	一四三	一四三	四	四	五	九
明治四十三年度	一	—	一七五	一七五	五	七	五	一二
明治四十四年度	一	—	二五六	二五六	七	一〇	八	一八
實業學校 明治四十年度	—	—	—	—	—	—	—	—
明治四十一年度	—	—	—	—	—	—	—	—
明治四十二年度	二	一三九	—	一三九	四	七	五	一二
明治四十三年度	一九	一、〇六一	—	一、〇六一	二五	六四	三三	九七
明治四十四年度	三四	一、九〇六	—	一、八六一	五九	一〇七	六一	一六八
明治四十年度	五〇	四・六一五	—	四、六一五	一二九	五二	一七二	二二四
明治四十一年年	五〇	八、〇八五	一三〇	八、二一五	二一二	六三	二三三	二九六

普通學校	明治四十二年度	九〇	一二、〇四九	五四六	一二、五九五	三三二	一〇〇	三六二	四六二
	明治四十三年度	一〇一	一三、八〇九	一、一四六	一四、九五五	四〇五	一二三	四二一	五四四
	明治四十四年度	二二七	二五、三〇八	二、〇七九	二七、三八七	六四三	二六二	七二八	九九〇
總計	明治四十年度	六一	五、四七一	—	五、四七一	一三八	七二	△二二三五	△二九三七
	明治四十一年度	五八	九、二八八	二一八	九、五〇七	二四三	九三	△二九四九	△三九四二
	明治四十二年度	九九	一三、二三〇	六八九	一三、九一九	三八〇	一五一	△四三四八	△五八四九
	明治四十三年度	一二七	一五、七七三	一、三二一	一七、〇九四	四七六	二三七	△五一四八	△七五四五
	明治四十四年度	二六八	一八、〇六九	二、三三五	三〇、四〇四	七四〇	四二〇	△八四三四	△一、二六三四

備考　敎員數ニハ兼務者ヲ含ム

明治四十三年度以前ノ普通學校ニハ舊甲種公立及補助指定ヲ計上シ舊乙種公立ハ之ヲ計上セス

明治四十四年十一月朝鮮敎育令實施ノ結果表中法學校ハ專修學校ニ高等學校ハ高等普通學校ニ高等女學校ハ女子高等普通學校ニ變更セラレ成均館及外國語學校ハ廢止シ師範學校ハ京城高等普通學校附設臨時敎員養成所ニ變更シタリ

四十四年度ハ九月末現在他ハ年度末ニ依ル

高等程度ノ諸學校（明治四十四年九月現在）

學校名	所在地	生徒數 男	生徒數 女	生徒數 計	學級數	職員數 學校長	職員數 教員	職員數 其他	職員數 計	開校年月
成均館	京城館洞	二四	—	二四	一	一	一〇	—	一一	
法學校	京城西部	七〇	—	七〇	三	一	七	一	九	二八、四
官立漢城師範學校	京城紅峴	二七五	—	二七五	八	一	一六	三	二〇	二八、一〇
官立平壤高等學校	平壤	一〇〇	—	一〇〇	三	一	六	二	九	四〇、三
官立漢城外國語學校	京城校洞	二二九	—	二二九	一〇	一	二〇	二	二三	二八、
官立漢城高等學校	京城齊洞	二〇二	—	二〇二	六	一	一六	一	一八	三三、一〇
官立漢城高等女學校	京城齊洞	—	二五六	二五六	七	一	一七	—	一八	四一、四
私立咸興高等學校	咸南咸興	八〇	—	八〇	三	一	九	四	一〇	四二、三
私立淑明高等女學校	京城壽進洞	—	二一七	二一七	七	一	一三	—	一四	三九、四
計		九八〇	四七三	一、四五三	四八	九	一一四	九	一三三	

備考　職員中ニハ兼務者ヲ包含ス

（明治四十四年九月現在）

種別	校名	所在地	學科	生徒數	學級數	教員數 內地人	教員數 朝鮮人	教員數 計	創立年月
官立	仁川實業學校	京畿、仁川	商業	一八一	四	四	三	七	四二、六
公	清州農林學校	忠北、清州	農林業	四五	一	六	二	八	四四、七
	公州農林學校	忠南、公州	農林業測量	五九	二	五	一	六	四三、七
	全州農林學校	全北、全州	同	八二	二	九	二	一一	四三、三
	群山農業學校	全北、群山	農林業	三四	二	四	一	五	四三、三
	光州農林學校	全南、光州	農林業及測量	八八	三	五	三	八	四三、四
	濟州農林學校	全南、濟州	農林業	五三	三	三	一	四	四三、六
	大邱農林學校	慶北、大邱	農林業及測量	一三二	三	三	二	五	四三、三
	釜山實業學校	慶南、釜山	商業	一二五	三	六	一	七	四二、四
	晋州實業學校	慶南、晋州	農林業及測量	六七	二	三	一	四	四三、四
	海州農林學校	黃海、海州	同上	三八	一	七	一	八	四三、一二
	春川實業學校	江原、春川	農林業	四一	一	二	二	四	四三、三
	平壤農學校	平南、平壤	農林業及測量	一一二	三	九	四	一三	四三、三

立	義州實業學校	平北、義州	農林業	七九	二	一	一	二	四四、五
	寧邊實業學校	平北、寧邊	農業、養蠶	六〇	一	一	四	五	四四、五
	咸興農業學校	咸南、咸興	農林業及測量	八五	二	五	一	六	四三、四
	北青實業學校	咸南、北青	農林業	八八	二	五	一	六	四三、八
私立	善隣商業學校	京畿、京城	商業	一二二	二	七	二	九	四二、一一
公立實業補習學校	渼洞實業補習學校	京畿、京城	農商業	三三	一	二	一	三	四三、三
	水下洞實業補習學校	同	商業	五二	一	二	二	四	四三、三
	於義洞實業補習學校	同	農商業	五二	一	三	一	四	四三、三
	明倫實業補習學校	同、水原	農業	二二	一	—	二	二	四四、六
	公州實業補習學校	忠南、公州	同	五四	二	三	三	六	四四、六
	洪州實業補習學校	同、洪州	同	四三	二	二	二	四	四四、六
	尙州實業補習學校	慶北、尙州	同	二二	一	一	五	六	四三、一二
	江陵實業補習學校	江原、江陵	同	二三	一	一	一	二	四四、五
	原州實業補習學校	同、原州	同	三二	三	一	一	二	四四、五
	平壤實業補習學校	平南、平壤	同	（未開校）					四四、八
	鎭南浦實業補習學校	同、鎭南浦	商業	三〇	一	五	三	八	四四、五

(普通學校附設)								
安州實業補習學校	平南、安州	農業	四五	一	二	一	三	四四、六
成川實業補習學校	同、成川	同	二三	一	二	二	四	四四、五
元山實業補習學校	咸南、元山	同	(未	開	校)			四四、九
高原實業補習學校	同、高原	同	六	一	一	一	二	四四、六
會寧實業補習學校	咸北、會寧	同	六三	三	二	二	四	四四、七
鏡城實業補習學校	同、鏡城	同	三七	二	二	三	五	四四、六
計								
官立實業學校	一	—	一八一	四	四	三	七	—
公立實業學校	一六	—	一、二三三	三三	七四	二八	一〇二	—
私立實業學校	一	—	一二二	二	七	二	九	—
公立實業補習學校	一七	—	四九二	二二	二九	三〇	五九	—
計	三五	—	二、〇二八	三四	一一四	六三	一七七	—

備考　教員中ニハ囑託講師及兼務者ヲ包含ス
實業補習學校ハ十一月ヨリ簡易實業學校ニ變更シタリ
本表ノ外私立實業學校二校アルモ之ヲ計上セス

普通學校一覽表

道別	校數	兒童數 男	兒童數 女	兒童數 計	教員數 内地人	教員數 朝鮮人	教員數 計
京畿道	二八	四、二〇二	四九八	四、七〇〇	四〇	一一二	一五二
忠清北道	一〇	九四九	一〇	九五九	一〇	二九	三九
忠清南道	一七	一、六三五	二九	一、六六四	一七	三九	五六
全羅北道	一五	一、四五四	八〇	一、五三四	一八	四七	六五
全羅南道	二九	三、一九一	一三六	三、三二七	三〇	八六	一一六
慶尚北道	二三	二、〇五〇	二〇四	二、二五四	二二	六九	九一
慶尚南道	一八	二、四三三	三三〇	二、七六三	二二	六九	九一
黄海道	一二	一、一五八	一一一	一、二六九	一三	三〇	四三
平安南道	二九	一、八九五	一一八	二、〇一三	二一	五五	七六
平安北道	二〇	一、九九五	一〇四	二、〇九九	二三	六六	八九
江原道	一四	一、二九四	六一	一、三五五	一四	三八	五二
咸鏡南道	一二	一、五六一	七八二	二、三四三	一四	四五	五九
咸鏡北道	九	一、一二四	九七	一、二二一	一二	三四	四六
計	二三五	二四、九四一	二、五六〇	二七、五〇一	二五六	七一九	九七五

備考　本表ノ外私立普通學校五十四校アリ二千四百二十八人ノ兒童ヲ收容ス本表ノ外未開校ニ

屬スル學校七校アリ

校名	所在	兒童數			學級數	教員數			創立年月
		男	女	計		內地人	朝鮮人	計	
間島普通學校	清領間島	一三六	二〇	一五六	四	一	五	六	四一、七
官立漢城師範學校附屬普通學校	京城紅峴	二三二	—	二三二	六	五	四	九	三九、九

三　留學生

從來官費留學生ハ試驗ノ上其ノ合格者ヲ派遣シタリシモ四十四年六月舊留學生規程ヲ改正シ新ニ朝鮮總督府留學生規程ヲ發布シ官費留學生ハ特ニ必要ナル學術技藝ヲ履修セシムル爲朝鮮總督ノ指定スル官立若ハ公立ノ學校、傳習所又ハ講習所ノ卒業者ニシテ校長若ハ所長ノ推薦ニ係リ優秀者ヲ拔キ總督之ヲ命スルコトト爲セリ而シテ四十四年中該新規程ニ依リ留學ヲ命セラレタルモノ十七名アリ私費留學生ハ其ノ數四百ヲ超エ東京ヲ主トシ其ノ他ノ都府ニ在リテ學藝ヲ修得シツツアリ新規程

ニ依レハ私費ヲ以テ留學セムトスハモノハ地方長官ヲ經由シ總督ニ屆出ヅルコトトナレリ而シテ一般留學生ニ對シテハ特ニ留學生監督ヲ東京ニ置キ留學生ヲシテ專念學事ニ勉勵セシムルコトヲ期セリ

官費留學生履修學科別數

年次	法科	工業	商業	農業	教育	醫學	計
從來在學者	二	五	三	七	四	四	二五
四十四年派遣者	—	三	三	七	一	三	一七
計	二	八	六	一四	五	七	四二

第十五章　衛　生

一　一般衛生

明治二十八年舊韓國政府ハ内部ニ衛生局ヲ設置シ公衆衛生ニ關スル事務竝醫藥病院ニ關スル事務ヲ掌理セシメタリ朝鮮ニ於テ衛生ノ曙光ヲ認メタルハ實ニ此ノ時ニ在リ是ヨリ以前ニ在テハ上ニ衛生ノ發達ヲ指導スヘキ機關ナク下ニ衛生ノ何物タルヲ解スルノ民ナカリシカ故ニ一般ヲ通シ衣食住ノ不衛生ナルハ勿論屎尿ノ所在放射ニ依リテ邸地道路等ハ常ニ汚瀆セラレ下水ハ之ヲ排除スヘキ適當施設ヲ加ヘサルカ爲ニ或ハ隨所ニ停溜シ或ハ地中ニ滲入シ飮料水ノ選擇亦一般ニ何等注意ヲ拂フコトナカリシ結果ハ終ニ諸種傳染病流行ノ因ヲ爲シテ比年多數ノ生靈ヲ戕害スルモ一ニ之ヲ天爲ニ歸シ官民共ニ何等制遏防止ノ方法ヲ講スルコトナク甚シキハ種痘ノ如キスラ疑ヲ挾ミテ接種ヲ肯セサルハ一般ノ情態ナリキ彼ノ阿片ノ授受及所持ヲ濫ニスル如キハ固ヨリ國法ノ嚴禁スル處ナリシト雖偶綱紀ノ弛廢ハ之ヲ勵行スルノ力ナク阿片吸用又ハ「モルヒネ」注射ヲ爲スノ陋習靡然トシテ一般ヲ

侵蝕スルノ狀況ヲ呈シタリキ舊韓國政府カ其ノ行政組織ノ上ニ衞生ノ一局ヲ設ケ國務ノ一端トシテ衞生ノ發展ヲ企テタル以來着々歩武ヲ進メ今日ニ於テハ大ニ舊觀ヲ改メタルモノアリ爾來舊韓國ノ衞生取締ノ機關ハ幾多ノ變遷ヲ經テ明治四十三年九月ニ至リ朝鮮總督府警察官署官制施行セラレ各道ニ於ケル警務部及京城ニ於ケル警務總監部ハ内部衞生局ノ掌理事務中警察ニ屬スル衞生事項及警視廳所屬ノ衞生事務並各理事廳ノ衞生事務ハ擧テ悉ク之ヲ管掌スルコトヽナリタリ次テ同年十月新ニ施行セラレタル朝鮮總督府官制ニヨリ衞生行政中（一）公衆衞生ニ關スル事項（二）醫師藥劑師産婆及看護婦ノ業務ニ關スル事項（三）病院及衞生會ニ關スル事項（四）痘苗ニ關スル事項（五）病源檢索及分析檢査其ノ他衞生試驗ニ關スル事項ハ内務部ニ於テ管掌スルコトトナリ警務總監部ニ於テハ（一）上水及下水ノ取締ニ關スル事項（二）飲食物飲食器具及藥品取締ニ關スル事項（三）汚物掃除ニ關スル事項（四）墓地及埋火葬ニ關スル事項（五）醫師藥劑師産婆看護婦ノ業務取締ニ關スル事項（六）藥種商製藥者入齒鍼灸營業ニ關スル事項（七）阿片煙ノ吸用莫兒比涅注射禁遏ニ關スル事項（八）行旅病人及死亡人ニ關スル事項（九）精神病者ニ關スル事項（十）屠畜ニ關スル

事項（十一）檢黴ニ關スル事項（十二）其ノ他公衆衞生ノ取締ニ關スル事項（十三）傳染病及地方病ニ關スル事項（十四）種痘ニ關スル事項（十五）獸畜衞生ニ關スル事項ヲ掌ルニ至リ其ノ外醫務ニ關スル行政ハ一ニ憲兵司令部ニ囑託シテ處辨セシムルコト爲リ超テ四十四年八月內務部ニ屬スル衞生行政ノ事項ハ一切擧テ之ヲ警務總監部ニ委シ內務ニテハ單ニ總督府醫院及慈惠醫院ニ關スル事項ノミヲ管掌スルコトト爲レリ

今ヤ此等衞生行政ノ緊肅ニ依リ朝鮮ニ於ケル一般衞生ハ一新紀元ヲ劃セリ若夫レ之ヲ既往數年以前ノ實際ニ比セムカ其ノ狀態蓋隔世ノ感アラム

二　醫療機關

（イ）醫師

曩ニ舊韓國政府ハ朝鮮人タル醫師ニ關シテハ醫師規則ヲ發布シタリシト雖モ民間ニ適由セラレタルノ實跡ナク隨テ朝鮮人タル醫師ハ全ク自由開業ノ狀態ニシテ唯元韓國官立學校及大韓醫院附屬醫學科等ヲ卒業シタル者又ハ私設醫學校ニ於テ修業シ如上ノ學科ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學

力アリト認メタル者ニ就テハ其ノ開業ヲ認許シタリト雖此ノ認許ハ單ニ其ノ學術ノ保證ニ過キスシテ從テ殆ト取締ナク弊害ヲ生スルノ虞ナキニ非サルヲ以テ醫師及開業中ノ無免許醫師ニ關スル取締法ハ目下審査中ニ屬セリ

朝鮮人醫師ニシテ明治四十四年三月迄ニ開業ノ認許ヲ得タルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

朝鮮人開業醫出身別

年別	出身學校別				計
	官立醫學校	大韓醫院醫育部	同教育部醫學科	世富蘭醫學校	
明治四十一年	—	—	—	七	七
同 四十二年	一	五	七	一	一四
同 四十三年	二四	—	六	—	三〇
同四十四年三月	—	—	—	—	
總計	二五	五	一三	八	五一

內地人タル醫師ノ取締ニ就テハ併合以前ニ在テハ日本官憲ニ、併合以後ニ在テハ當該官廳ニ屆出ヲ爲サシメ之カ取締ヲ爲セリ而シテ內地人ニシテ朝鮮ニ於テ醫師タルヲ得ヘキ者ハ即チ內地ニ於テ醫

師タルノ資格ヲ有スル者タリ、唯邊境又ハ孤島等ニ在テハ資格アル醫師ノ開業ヲ望ミ得ヘカラサル事情アルニ依リ相當經歷アル者ニ對シ地域及年數ヲ限リテ開業ヲ許セリ左ニ各道ニ於ケル開業醫師ノ員數ヲ示スヘシ

各道開業醫一覽

道別	內地人	朝鮮人	外國人	計
京畿道	九五	一七九	六	二八〇
忠清北道	一一	八	二	二一
忠清南道	二	一三七	一	一四〇
全羅北道	二二	二九四	一	三一七
全羅南道	二五	二四四	一	二七〇
慶尚北道	三六	一三二	二	一七〇
慶尚南道	七七	七四	一	一五二
黃海道	九	四一	｜	五〇
平安南道	三四	八七	三	一二四
平安北道	二〇	一五〇	二	一七二

江原道	六	一〇八	一	一一五
咸鏡南道	一六	二〇八	六	二三〇
咸鏡北道	一七	一四四	一	一六二
總計	三七〇	一、八〇六	二七	二、二〇三

朝鮮人タル醫師ノ內地人タル醫師ニ比シ頗ル多數ナルハ素ヨリ其ノ處ナリト雖モ多クハ家傳ニ係ル漢法醫ニシテ而カモ技術極メテ拙劣到底人命ヲ託スルニ足ラサルナリ

（ロ）病院

病院トシテハ官公立ノモノ及基督教徒ノ設立ニ係ルモノヲ除ク外病院トシテ面目ヲ有スルモノ甚タ少ナシ各道ニ於ケル病院ノ數ヲ擧クレハ左ノ如シ

官公私立病院一覽

道別	官立	公立	私立	計
京畿道	二	四	四〇	四六
忠清北道	一	｜	｜	一

忠清南道	一	|	一	二
全羅北道	一	二	六	九
全羅南道	一	一	四	六
慶尚北道	一	一	三	五
慶尚南道	一	三	五	八
黃海道	一	|	|	一
平安南道	一	一	一五	一七
平安北道	一	一	八	一〇
江原道	一	|	一	二
咸鏡南道	一	一	三	五
咸鏡北道	一	|	七	八
總計	一四	一四	九三	一五

此ノ如ク朝鮮各道ニ於ケル醫療機關ハ頗ル不備ニシテ今尚文明醫術ノ恩惠極テ稀薄タルヲ免レス隨テ朝鮮ニ於ケル疾病ノ種類及多寡ヲ調査スルニ一般ニ衞生ヲ重セサルノ結果、皮膚病、花柳病消化器病、眼病等極メテ多キモ其ノ多數ハ賴ルヘキ醫師ナキ爲徒ニ自然ノ經過ニ委シ僅ニ加持祈禱ニ慰

スルノミ偶〻醫師ノ治療ヲ仰クモ固ヨリ不合理ノ治術ニシテ其ノ疾病ニ利スルノ理ナク爲ニ空シク治療シ得ヘキ疾病ニ斃レ又ハ荏苒經過シテ固疾慢性ニ陷リ永ク煩苦ニ訴フルハ一般患者ノ常況ナリトス殊ニ諸種傳染病ハ比年流行シテ之カ爲ニ死亡スル者亦頗ル多シ全土ニ醫療機關ヲ普及セシムルハ實ニ刻下ノ急務ナリ爰ニ見ル所アリテ各道ニ慈惠醫院ヲ起シ普ク患者救濟ノ途ヲ講セムコトヲ期セリ各地ニ於ケル慈惠醫院ハ頗ル盛況ヲ示シ診療開始以來患者續續來リテ診療ヲ請ヒ設立地方人民ハ大ニ歡喜シツツアリ、左ニ各道ニ於ケル慈惠醫院ノ概况ヲ舉クヘシ

各道慈惠醫院患者治療數　四十四年　自一月 至八月

		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	計	四十三年度
京畿 水原	内地人	一、五〇一	一、五四二	九八一	一、一九〇	一、三六一	一、四一三	二、〇一七	二、〇四一	一二、〇四五	六、二四九
	朝鮮人	七、三二一	八、二八四	八、一三〇	七、四六四	七、二三〇	八、三三〇	九、八八四	八、七七九	六五、四一二	一九、一五八
	計	八、八二二	九、八二六	九、一一一	八、六五四	八、五九一	九、七四三	一一、九〇一	一〇、八二〇	七七、四五七	二五、四〇三

道	区分										
忠清北道（清州）	内地人	七六九	九〇三	一、〇三四	一、一四一	一、五一七	一、二五八	一、〇七八	九〇〇	八、六〇〇	七、六九〇
	朝鮮人	四、五三三	八、九六七	九、二七〇	八、二七八	九、九五三	六、八七九	四、九一五	六、四六六	五九、二六一	三二、一八六
	計	五、三〇二	九、八七〇	一〇、三〇四	九、四一九	一一、四七〇	八、一三七	五、九九三	七、三六六	六七、八六一	三九、八七六
忠清南道（公州）	内地人	二、一三九	一、一七六	二、五六二	二、一一三	二、〇七八	二、一八六	二、五三〇	二、三六〇	一七、一五四	八、二四六
	朝鮮人	一四、〇九〇	一二、一〇七	一九、四六八	九、四〇九	八、五三七	六、七一四	五、七七〇	七、一三三	八二、三二八	二〇、九七三
	計	一六、二二九	一三、二八三	二二、〇三〇	一一、五二二	一〇、六一五	八、九〇〇	八、三〇〇	九、四九三	九九、三八二	二九、二一九
全羅北道（全州）	内地人	一、五二四	一、七〇九	二、〇九四	一、四二八	一、三七四	二、一八六	二、〇一六	一、九八三	一四、三一四	一三、二六九
	朝鮮人	七、九八二	七、九七六	九、九九〇	九、五六七	一〇、一五六	一〇、一五一	九、二四〇	一〇、〇五二	七五、一一四	六四、九三六
	計	九、五〇六	九、六八五	一二、〇八四	一〇、九九五	一一、五三〇	一二、三三七	一一、二五六	一二、〇三五	八九、四二八	七八、二〇五
全羅南道（光州）	内地人	一、五一六	一、五六四	二、三五〇	二、一八七	二、四二五	二、六九二	三、三〇二	二、九三四	一八、九七〇	五、三三一
	朝鮮人	四、一八五	四、八一三	六、一〇二	六、六九四	七、五二八	四、九一三	五、四四八	五、六三三	四五、三一六	一〇、一〇七
	計	五、七〇一	六、三七七	八、四五二	八、八八一	九、九五三	七、六〇五	八、七五〇	八、五六七	六四、二八六	一五、四三八
慶尚北道（大邱）	内地人	一、七四九	二、七〇六	三、一四六	三、六三五	四、五六五	六、〇一〇	五、二二七	六、三九八	三三、四三六	六、九〇四
	朝鮮人	三、七六二	六、〇〇九	七、一五九	七、五三五	一〇、五五一	一〇、四八九	八、一七五	九、〇九六	六二、七七六	一八、一八一
	計	五、五一一	八、七一五	一〇、三〇五	一一、一七〇	一五、一一六	一六、四九九	一三、四〇二	一五、四九四	九六、二一二	二五、〇八五
慶尚南道（晋州）	内地人	七九〇	八三六	九三七	一、一一三	二、三八六	一、七三六	一、四〇四	一、五九五	一〇、八〇七	二、三四一
	朝鮮人	二、八八六	四、一一三	九、一四八	七、三六七	一二、九六八	一七、九九五	一二、二三七	一二、七二九	七九、四四三	九、〇四二
	計	三、六七六	四、九四九	一〇、〇八五	八、四八〇	一五、三五四	一九、七三一	一三、六四一	一四、三二四	九〇、二五〇	一一、三八三
黄海道（海州）	内地人	一、四二三	一、五五〇	二、〇一二	一、一一三	二、一三一	一、九〇二	一、九四五	二、一一二	一四、一九七	四四八
	朝鮮人	七、五二九	七、七九四	六、六四三	五、六五七	五、六二四	四、六五七	三、八〇四	四、三六二	四六、二二〇	二、七五二
	計	八、九五二	九、四九四	八、六五五	六、七七九	七、七五五	六、五五九	五、七四九	六、四七四	六〇、四一七	三、二〇〇

道	區分										
平安南道（平壤）	內地人	八一三	九二八	七四八	六八〇	一、二七五	二、六八三	三、九六五	六、三三〇	一七、四三三	三、八〇六
	朝鮮人	五、八九八	一二、〇七九	一〇、二九二	八、三二七	六、六二五	五、一〇三	六、一八九	七、五八七	六二、一〇〇	一四、八二三
	計	六、七一一	一三、〇〇七	一一、〇四〇	九、〇〇七	七、九〇〇	七、七八六	一〇、一五四	一三、九一七	七九、五三三	一八、六二九
平安北道（義州）	內地人	九五〇	一、一八四	六三五	一、〇四七	一、〇一一	一、〇六五	一、九五四	二、五二〇	一〇、三六六	二、八六五
	朝鮮人	七、九七七	一〇、六七四	一〇、八八五	七、二三二	三、三一二	二、七九二	三、三九二	五、五三〇	五一、六九四	二二、一一〇
	計	八、九二七	一一、八五八	一一、五二〇	八、二七九	四、三二三	三、八五七	五、三四六	八、〇五〇	六二、〇六〇	二四、九六五
江原道（春川）	內地人	九五七	八五六	九三三	九二〇	一、一二三	九四八	一、〇七二	一、三三六	八、一四四	二、六三一
	朝鮮人	一、四一九	二、〇八六	二、七一二	二、五九一	三、四五七	一、二五五	二、九六九	三、四八五	一九、九七四	二、七四五
	計	二、三七六	二、九四二	三、六四五	三、五一一	四、五七九	二、二〇三	四、〇四一	四、八二一	二八、一一八	五、三七五
咸鏡南道（咸興）	內地人	九二〇	八八〇	一、一九三	一、四七三	一、四三五	八九二	一、一五一	一、二四〇	九、一八四	五、五三三
	朝鮮人	三、五三六	三、九一〇	六、三二六	六、六九九	七、〇七二	九、五二四	八、八〇五	一一、一五八	五七、〇三〇	五五、八六〇
	計	四、四四六	四、七九〇	七、五一九	八、一七二	八、五〇七	一〇、四一六	九、九五六	一二、三九八	六六、二一四	六一、三八三
咸鏡北道（鏡城）	內地人	一、〇三一	一、三〇〇	一、七〇九	一、三六二	四二五	六五一	七五三	九一七	八、一一四	二、三三七
	朝鮮人	五、一六四	七、七二八	九、五七〇	七、七五〇	九、七三四	三、六九五	四、五四九	四、五一六	五二、七〇六	九、六八二
	計	六、一九五	九、〇二八	一一、[illegible]	九、一一二	一〇、一五九	四、三四六	五、三〇二	五、四三三	六〇、八五四	一二、〇一九
合計	內地人	一六、〇八二	一七、一三四	二〇、三三四	一九、四三一	三三、一〇五	二五、六二一	二八、四一四	三三、六六六	一八二、七八七	六七、七三九
	朝鮮人	七六、二七二	九五、六九〇	一一五、六九五	九四、五七〇	一〇二、六四七	九二、四九七	八五、三七七	九六、五二六	七五九、二七四	二八二、五九九
	計	九二、三五四	一一二、八二四	一三六、〇二九	一一四、〇〇一	一三五、七五二	一一八、一一八	一一三、七九一	一二九、一九三	九四二、〇六一	三五〇、三三八

尚京城ニハ總督府醫院ノ設備アリ從來大韓醫院ト稱セシカ併合ニ伴ヒ四十三年九月朝鮮總督府醫院

ト改稱セリ該院ハ從來ノ內部所屬廣濟院、學部所管醫學校及宮內府所管赤十字病院ヲ合併シ完全ナル組織ト爲シタルモノナルカ朝鮮ニ於テ最完備セル醫療機關ナリ

朝鮮總督府醫院ニ於ケル四十四年中ノ治療患者ハ別表ノ通二十六萬一千七百八十二人ニシテ之ヲ前年四十三年ノ十三萬三千三百五十七人ニ比スレハ約倍數ノ增加ナリ蓋其ノ歸スル所ハ一ハ內地人移增ノ結果ニ依ルヘキモ其ノ多數ハ朝鮮人ノ醫術ノ信賴スヘキヲ知リ從來他人ニ近接スルコトヲ厭ヒシ朝鮮婦人スラモ續續來テ診療ヲ請フモノ激增セルニ因ル

最近三箇年及四十四年朝鮮總督府醫院患者數表

科別	明治四十一年			同四十二年			同四十三年			同四十四年		
	入院	外來	計	入院	外來	計	入院	外來	計	入院	外來	計
內科	七、三〇一	一〇、六四八	一七、九四九	一一、五三三	一八、五四九	三〇、〇七一	一五、三五八	一九、九〇二	三五、二六〇	一二、三九三	三六、九二八	四九、三二一
外科	六、一七九	八、六三六	一四、八一五	九、四八六	一七、七六一	二七、二四七	一〇、二六八	二一、五九〇	三一、八五八	五、五二一	一二、二〇八	一七、七二九
眼科	一、〇六九	一〇、〇八一	一一、一五〇	二、六〇三	一七、四九五	二〇、〇九八	一、七二八	二〇、六六三	二二、三九一	六三一	八、七八四	九、四一五
耳鼻咽喉科	九七一	一四、〇四二	一五、〇一三	八九四	一八、五三九	一九、五三三	六三二	二〇、三五七	二〇、九八九	二五七	九、〇五六	九、三一三
產科婦人科	一、四一〇	二、八九二	四、三〇二	四、九一九	五、〇九四	一〇、〇一三	五、七四〇	六、一四六	一一、八八六	七、四六五	一五、六三四	二三、〇九九
小兒科	—	—	—	—	—	—	一、二八九	九、一四六	一〇、四三五	三、六七九	一六、三〇三	一九、九八二

皮膚泌尿科	—	—	—	—	—	—	七五	四六三	五三八	二,九六八	一三,三〇七	一五,二七五
齒科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四,一二七	四,一二七
施療部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一八,三四八	九五,一七三	一一三,五二一
合計	一六,九三〇	四九,二九九	六三,三三九	二九,四二四	七七,四三八	一〇八,八六二	三五,〇九〇	九八,二六七	一三三,三五七	五一,二六二	二一〇,五二〇	二六一,七八二

明治四十四年朝鮮總督府醫院外來入院患者月別表

區分		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
內地人	外來	二,九七〇	四,六〇〇	三,八〇九	八,二三三	八,九六二	八,六六九	一一,〇〇〇	九,九〇四	一〇,二〇七	九,九三三	八,三九三	七,六六三	一〇四,五九九
	入院	一,四八〇	二,一五三	二,四四七	二,五九六	三,一〇四	二,六六二	三,一〇五	三,七七六	三,四四七	三,四二〇	二,九一三	二,八八九	三四,一六三
朝鮮人	外來	三,七七〇	四,八〇七	四,六六八	七,四三六	四,四三八	三,三三一	一一,三九〇	一四,四九八	一三,八〇〇	一〇,一五六	八,一一三	七,八六三	一二四,一一八
	入院	一,〇三三	一,〇一二	一,二四八	一,二九〇	一,四四六	一,七六二	一,九九九	一,七六三	一,七六四	一,七七七	一,八〇四	二,〇四八	一八,九九二
總計		九,二五一	一二,六九九	一二,三三三	一九,五五五	一八,〇三九	一六,三五四	二七,三三四	三〇,〇三三	二九,二九八	二五,二六六	二一,二〇一	二〇,四四二	二八一,七六三

傳染病院（順化院）ハ京城府ノ負擔ト國費ノ補助ノ下ニ成レル漢城衞生會ノ經營ニ係ルモノニシテ未タ開院ニ至ラサレトモ規摸宏壯設備完全ニシテ朝鮮ニ於ケル唯一ノ傳染病院ナリ其ノ他各地ニ稍完備シタル隔離病舍アリト雖其ノ數甚タ少シ

（ハ）產婆

產婆ハ從來朝鮮人ニ於テ就業スル者ナシ而シテ内地人タル產婆ハ漸次其ノ數ヲ加ヘツツアレトモ今尚全土ニ於テ僅ニ二百人ニ滿タス故ニ產婆ノ開業ナキ地ニ住居スル内地人ノ不便謂フ斗リナク爲ニ往往難產ニ困シミ正規ノ娩產ヲ遂クル能ハサルモノアルヲ以テ出產期ニ際シテ多ク他所ニ移リ又ハ内地ニ歸還スルヲ例トシ殖民政策上影響スル所尠カラス

又朝鮮人ハ古來產時ニ他人ノ介補ヲ用ヰサルノ習慣アリ近時產婆ノ技能ヲ經驗スルニ迨テ大ニ信頼ノ念ヲ生セリ而シテ從來朝鮮ニ於ケル產婆ハ内地ニ於ケル有資格者ニシテ當該官廳ニ屆出タル者ニ限リ開業ヲ許セリ

（ニ）鍼灸術、按摩業

鍼灸術、按摩業及入齒齒拔業ノ如キハ從來朝鮮人ニシテ營業スル者ナク内地人ノミ官廳ノ許可ヲ受ケテ就業セリ尤モ入齒齒拔業ハ土地ノ狀況ニ依リ齒科醫學ニ關シ多少ノ素養アルヲ程度トシ特ニ許可シツツアリシモ醫師ノ普及ニ伴ヒ漸次其ノ數ヲ減シツツアリ

（ホ）種痘認許員

由來朝鮮ニ於テハ種痘ヲ普及セムトスルモ之ニ從事スヘキ醫師ニ乏シク其ノ缺如ヲ補ハムカ爲明治三十二年各道ニ種痘認許員ヲ設置シタルヲ嚆矢トス素ヨリ醫學ノ素養ナキ者ヲ短期養成シテ事ニ當ラシムルカ故ニ技術拙劣ニシテ却テ種痘忌避ノ念ヲ助成セシムルヲ免レスト雖當今尚醫師ノ乏シキ地方ニ在リテハ之ヲ廢スルノ時機ニ達セス

種痘認許員ハ朝鮮人ヲ限リ認許シ唯朝鮮婦人ハ男子ニ近接スルヲ忌ムノ風習アルヲ以テ內地婦人ニシテ種痘認許員タラムトスルモノハ特ニ之ヲ免許セリ而シテ明治四十四年三月ノ現在數ハ左ノ如シ

種痘認許員調　明治四十四年三月末日現在

地方別	內地人			朝鮮人			合計
	男	女	計	男	女	計	
京城府	—	四	四	—	—	—	四
京畿道	—	二	二	一二〇	七	一二七	一二九
忠清北道	—	—	—	三七	—	三七	三七

忠淸南道	｜	一	一	七八	一	七九	八〇
全羅北道	｜	二	二	三五	｜	三五	三七
全羅南道	｜	二	二	四〇	｜	四〇	四二
慶尙北道	｜	｜	｜	一一二	｜	一一二	一一二
慶尙南道	｜	六	六	三八	｜	三八	四四
黃海道	｜	｜	｜	四一	｜	四一	四一
平安南道	｜	二	二	五四	｜	五四	五六
平安北道	｜	一	一	四五	｜	四五	四六
江原道	｜	一	一	六九	｜	六九	七〇
咸鏡南道	｜	二	二	二七	｜	二七	二九
咸鏡北道	｜	二	二	三〇	｜	三〇	三二
間島	｜	｜	｜	一	｜	一	一
總計	｜	二五	二五	七二七	八	七三五	七六〇

三　藥品取締

（イ）藥品　藥品ニ關シテハ從來何等ノ取締方法ナク單ニ阿片ノ輸入製造販賣ニ關シテ取締ヲ爲セルノミ尙朝鮮內陸ニ於ケル醫療機關普ネカラサル爲一般ニ賣藥ノ需用旺盛ニシテ動モスレハ不

正品ヲ發賣スルナキヲ保セサルヲ以テ之カ取締ヲ統一セムコトヲ期シツツアリ

(ロ)藥劑師　從來內地ニ於テ其ノ資格ヲ享有セル者ノミヲ認メ其ノ屆出ニヨリ開業ヲ許セリ現在全道ニ在ルモノ合セテ五十六名ナリ朝鮮人ニシテ藥劑師ノ資格ヲ有スル者ナシ

四　飮食物取締

飮食物ニ關スル取締ハ從來極メテ不完全ニシテ衛生上ノ危害ヲ防制スルニ足ラス殊ニ併合後ニ於テハ社會ノ時運急轉直下シ飮食物其ノ他物品ノ製出及移輸入等日日ニ增加シ之ト同時ニ不良物品亦續續市場ニ現ハルルニ至リ曩ニ市場鬻ク所ノ淸酒中ニ「フォルムアルデヒード」又ハ多量ノ「サルチル」酸ヲ含有シ飮食用器具其ノ他飮食物中ニ不良有害ノモノヲ發見シタルニ因リ一層之カ取締ヲ爲スノ必要アリ各關係ノ取締法規發布セラル

五　屠場

屠場ノ取締ニ關シテハ曩ニ舊韓國政府ノ發布ニ係ル屠獸規則ト各理事廳ノ發布ニ係ル規定ト二者相俟テ其ノ效力現時ニ迨ヘリ現今朝鮮ニ於ケル屠場ノ實況ヲ見ルニ京城ニ於テハ二箇ノ官營屠場アリ

其ノ設備稍々模範的ナリト雖他ノ各道ニ於テハ小規模ノモノ多ク又屠畜檢査ノ如キモ各地區區ニシテ統一セス

屠場數　（明治四十四年三月末日現在）

道名	一等地	二等地	三等地	其ノ他	計
京畿道	四（内二官立）	二	二一一	一	二一六
忠清北道	—	四	五五	一八	七七
忠清南道	六	一六	三三	—	五五
全羅北道	四	八	二六	三七	七五
全羅南道	一	六	五〇	一	五八
慶尚北道	二	一六	一五〇	—	一六八
慶尚南道	—	四	五二	二	五八
黄海道	一	二三	七二	—	九五
平安南道	二	七	六九	一	七九
平安北道	—	四	七六	—	八〇
江原道	—	一九	四二	—	六一

咸鏡南道	二	四	二〇	—	二六
咸鏡北道	五	七	二	—	一四
計	二五	一一九	八五八	六〇	一、〇六二

本表中一等地ト稱スルハ屠場規則施行細則標準第五條ノ構造制限ニ從フヲ要スル地、二等地ト稱スルハ構造制限中幾部ヲ省略シ得ヘキ地、三等地ト稱スルハ全然之ニ依ルヲ要セサル地トス

官設屠場ニ於ケル最近三箇年間ノ屠畜數ハ左表ノ如シ

官立屠場屠獸數表

年次	東大門				西大門				合計			
	牛	馬	豚	羊	牛	馬	豚	羊	牛	馬	豚	羊
明治四十三年	一〇、四九〇	二	二	—	一〇、七八六	—	一、二〇九	—	二一、二七六	二	一、二一一	—
同四十二年	七、二八一	七	一二	二	一一、七三一	—	—	—	一九、〇一二	七	一二	二
同四十一年	六、二二八	四	一三	—	一一、八五九	—	—	—	一八、〇八七	四	一三	—

六　傳染病

（イ）虎列拉

四十二年ノ如キ京城ニ於テ一名ノ虎列拉患者發生セシカ忽チ猛烈ニ傳播シ初發八月廿九日ヨリ最終十月二十一日ニ至ルマテ日本人百五十四名、朝鮮人千二十一名合計千百七十五名ノ多キニ達セシヲ以テ明治四十三年ニハ大ニ警誡シ警務總監部ハ八月一日以降數回ニ訓令ヲ發シ日日檢病的戶口調査ヲ行ハシメ一面淸潔法ノ持續ヲ圖リ且飮食物ノ店頭檢査ヲ厲行シ變敗ノ傾キアル飮食物ヲ廢棄セシメ更ニ醫師ニ對シ日日施療スル患者ノ病名ヲ屆出テシムル等防疫上ノ最上ノ措置ヲ盡シ地方一二箇所ニ虎列拉患者ノ發生セシモ直ニ撲滅スルヲ得タリ然ルニ九月廿四日平壤府ニ發生セシ虎列拉病ハ其ノ勢猛烈ニシテ忽チ數十名ノ患者ヲ發生シ蔓延ノ徵アリシカハ當局者ハ平壤ニ一萬圓ノ豫防費ヲ投シテ極力防疫セシメタルモ不幸ニシテ大同江沿岸ノ各地ニ傳播シ頗ル猖獗ヲ極メタリシカ銳意撲滅ニ盡瘁シ檢疫隔離ハ固ヨリ下水ノ浚渫、便所ノ改造、防蠅ノ設備ニ至ル迄厲行シタリシカハ總計患者四百八十六名ニシテ終熄シタリ

四十四年ニハ前年ニ鑑ミ大ニ警戒ヲ加ヘタリシカハ一名ノ患者ヲモ發生セルコトナカリキ

虎列拉病患者表　明治四十三年度

地名	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
京城府	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	一
京畿道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
忠清北道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
忠清南道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全羅北道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全羅南道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
慶尚南道	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一
慶尚北道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
黄海道	—	—	—	—	—	五	一八五	一〇	—	—	—	—	二〇〇
平安北道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平安南道	—	—	—	—	—	六九	二〇七	八	—	—	—	—	二八四
江原道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咸鏡南道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咸鏡北道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

計	―	―	―	―	―	七四	三九三	一九	―	―	―	―	四八六

（ロ）ペスト豫防

明治四十三年十月以降清國滿州地方ニ於テペスト流行ノ報傳ハルヤ警務總監部ハ各道ニ通牒シ流行地方ヘ交通スル船舶及旅客ニ對スル注意ヲ爲サシメタリ四十四年一月長春公主嶺間ニ於テ南滿鐵道列車中ニ清國人二名ノペスト患者發生セルノ飛報アルヤ直ニ各道ニ警告シテ豫防措置ヲ勵行セシメ鴨綠江及黃海ノ沿岸ニシテ支那戎克船ノ寄港地タル一帶ノ區域竝必要ト認ムル地方ニハ成ルヘク各戸ニ捕鼠器ヲ備ヘ付ケシメ鼠族ノ驅除ヲ勵行シ更ニ經費一萬二千圓ヲ計上シテ新義州驛及平壤線ニ汽車檢疫ヲ開始シ特ニ有毒地經由ノ旅客ニ對シテハ到着後十日間ハ其ノ健康狀態ヲ注視スル等滿州地方ペスト益々猖獗ヲ極ムルヤ益々豫防ノ方法ヲ盡シ防疫ニ努メ流石ニ猛烈ヲ極メタル激疫モ遂ニ國境ヲ侵スコトナカリキ左ニペスト豫防ノ爲施設セル各道ノ概況ヲ示スヘシ

ペスト防疫設備一覽表　明治四十四年三月末日調

道名	監視所	監視員	檢菌所	鼠買上場所	收容所	醫員配置 警察醫	醫員配置 軍醫	醫員配置 囑託	船舶配置 汽船	船舶配置 石油發動機	船舶配置 小廻船	避病舍	防疫支部	殺鼠船	汽車防疫
京畿道	二三	六五	仁川	京城 仁川 開城 永登浦	|	一	|	二	|	一	二	一	仁川	仁川	|
忠清北道	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
忠清南道	二五	五〇	|	|	|	|	|	|	|	一	二	|	|	|	|
全羅北道	一六	二四	群山（準備中）	群山	|	|	|	|	|	一	|	|	群山	|	|
全羅南道	二五	五〇	木浦（準備中）	木浦	|	|	|	|	|	|	|	|	木浦	|	|
慶尚北道	|	|	|	大邱	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|
慶尚南道	四	一五	|	釜山	一	二	|	|	|	一	三	一	釜山	釜山	|
黄海道	五九	五九	|	|	|	一	|	|	|	一	三	|	|	|	|
平安南道	二三	三五	平壤（鼯鼠ノミ） 鎭南浦（準備中）	平壤 鎭南浦 廣梁灣	|	|	|	|	|	|	一	一	鎭南浦	鎭南浦	|
平安北道	一五四	六二六	新義州 龍岩浦	新義州 義州 龍岩浦	一	三	四	|	一	一	一六	一	新義州	龍岩浦	新義州

道別															
江原道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咸鏡南道	八	二四	—	元山	—	二	—	一	—	—	三	三	元山	—	—
咸鏡北道	四四	七五	會寧	會寧 淸津 訓戎 茂山 慶興	一	一	三	—	—	—	一	一	淸津 城津 會寧	—	—

驅鼠成績表

明治四十四年三月三十一日調

署別		買收 生鼠	買收 鼷鼠	非買收 生鼠	非買收 鼷鼠	計 生鼠	計 鼷鼠	合計
京	南部警察署	八、七二六	一四	二三	三	八、七四九	一七	八、七六六
	北部警察署	九、九六五	二三	一	—	九、九六六	二三	九、九八九
	龍山警察署	六、五六三	一	—	—	六、五六三	一	六、五六四
	東大門分署	一五、一三二	—	—	—	一五、一三二	—	一五、一三二
	西大門分署	一四、一四六	二	一四	—	一四、一六〇	二	一四、一六二
	水門洞分署	一二、九〇三	三	—	—	一二、九〇三	三	一二、九〇六
	銅峴分署	五、九四六	一	二二	—	五、九六八	一	五、九六九

城							
昌徳宮警察署	一四〇	—	—	—	一四〇	—	一四〇
徳壽宮分署	一二一	二	—	—	一二一	二	一二三
龍山憲兵分隊	一、六一六	八	—	—	一、六一六	八	一、六二四
計	七五、二五八	五四	六〇	三	七五、三一八	五七	七五、三七五
京畿道	二二、三四六	一九	一六、七六三	—	三九、一〇九	一九	三九、一二八
全羅北道	三、二三八	二	一九四	一	三、四三二	三	三、四三五
全羅南道	二、六一六	八	—	—	二、六一六	八	二、六二四
慶尚北道	一、九九四	—	—	—	一、九九四	—	一、九九四
慶尚南道	一〇、三七一	三一	—	—	一〇、三七一	三一	一〇、四〇二
黄海道	八七五	—	—	—	八七五	—	八七五
平安南道	二〇、八七六	四	—	—	二〇、八七六	四	二〇、八八〇
平安北道	一、四五九	一三	四、五九六	二	六、〇五五	一五	六、〇七〇
咸鏡南道	一二、六〇五	—	—	—	一二、六〇五	—	一二、六〇五
咸鏡北道	三三、三五九	—	—	—	三三、三五九	—	三三、三五九
計	一〇九、七三九	七七	二一、五五三	三	一三一、二九二	八〇	一三一、三七二
總計	一八四、九九七	一三一	二一、六一三	六	二〇六、六一〇	一三七	二〇六、七四七

(ハ)痘瘡

痘瘡ハ朝鮮ニ於ケル地方病ノ如ク看做サレ四季ヲ通シ各地ニ發生シ歳次流行狀態ヲ呈スルコト屢屢ナルヲ以テ種痘ノ普及ニ就テハ極力之ヲ怠ラス一般ニ勵行シツツアリ然ルニ衞生思想ニ乏シキ朝鮮人間ニ於テハ痘瘡ハ神ノ祟ニシテ天運ノ然ラシムル所人爲ヲ以テ避クヘカラス假令種痘ヲ爲スモ免ルヲ得ルモノニ非ストノ迷說ヲ唱ヘ忌避スルモノ少カラス故ニ種痘ノ施行ニ際シテハ其ノ迷悟ヲ訓誡シ一般衞生思想ノ注入ヲ兼ネ種痘ハ痘瘡豫防ノ最善ナル唯一ノ良法タルヲ諭示シタルノ結果近時其ノ誤信ヲ了解シ接種スルモノ漸次多キヲ加フルニ至レリ左ニ四十三年秋期及四十四年春季ノ種痘成績ヲ表示スヘシ

今之ヲ四十二年中ニ種痘ヲ受ケタル總數六十八萬餘人ニ比較スレハ其ノ增加ハ實ニ二百萬五千餘人ニシテ約四倍ニ達セリ

明治四十三年　秋期種痘表

道		(1)		(2)		(3)		(4)		(5)		(6)
	内	鮮	内	鮮	内	鮮	内	鮮	内	鮮	内	鮮
京畿道	七八	一九、九四〇	四九	一八、〇二二	一二七	三七、九六二	一三	四、七一二	一五	三、七七二	二八	八、四八四
忠清北道	二九	一〇、一六一	一六	八、二一四	四五	一八、三七五	一〇	一、七七五	七	一、六二六	一七	三、四〇一
忠清南道	五五	八、二二七	五二	六、二六六	一〇七	一四、四九三	七九	二、〇九二	九六	一、八〇八	一七五	三、九〇〇
全羅北道	四五	一六、九六三	三九	一四、五四一	八四	三一、五〇四	三五	三、二五三	二一	二、九一四	五六	六、二六七
全羅南道	八九	二三、〇三〇	八四	一五、一九五	一七三	三八、二二五	五〇	七、〇一〇	一九	五、二三八	六九	一二、二四八
慶尚北道	三九	一九、〇八九	三四	一五、三〇四	七三	三四、三九三	一二	四、六二八	一四	三、五四四	二六	八、一七二
慶尚南道	二六〇	二〇、三四四	一八〇	一六、一四一	四四〇	三六、四八五	二四九	六、五〇八	一七四	五、五一五	四二三	一二、〇二三
黄海道	三〇	七、五五三	二八	八、六一二	五八	一六、一六五	二五	九、三九五	一八	六、一〇九	四三	一五、五〇四
平安南道	一五七	四、二四五	一一六	二、九五七	二七三	七、二〇二	一二〇	一、八一七	一七八	一、四一六	二九八	三、二三三

道府別	内鮮人別						
平安北道	内	四六	四七	九三	四〇	二五	六五
	鮮	八、〇四二	五、六九五	一三、七三七	四、六九八	三、七三三	八、四三一
江原道	内	六	三	九	三	—	三
	鮮	七、一七六	六、六一五	一三、七九一	一、二九四	八七七	二、一七一
咸鏡南道	内	三六	三一	六七	二〇	二一	四一
	鮮	一四、四八〇	一〇、三一七	二四、七九七	九、六五五	六、八七〇	一六、五二五
咸鏡北道	内	五二	五一	一〇三	二二	三二	五四
	鮮	八、五七七	六、二四四	一四、八二一	三、〇八七	二、八六五	五、九五二
合計	内	一、〇三八	八三二	一、八七〇	六九二	六三六	一、三二八
	鮮	一七一、〇四四	一三六、三二九	三〇七、三七三	六〇、六五一	四六、六六一	一〇七、三一二
	計	一七二、〇八二	一三七、一六一	三〇九、二四三	六一、三四三	四七、二九七	一〇八、六四〇

明治四十四年春期種痘表

道府別	内鮮人別	初種			再種			三種以上			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
京城府	内	二九九	二三八	五三七	四五九	四二四	八八三	二、五四五	二、五三二	五、〇七七	三、三〇三	三、八〇四	七、一〇七
	鮮	三、六四〇	二、六九七	六、三三七	六、八八五	三、九九七	一〇、八八二	八、五六九	三、四〇〇	一一、九六九	一九、〇九四	九、九九四	二九、〇八八

合計	八、五七七	六、九〇二	一五、四七九	四七、四〇七	三六、一七八	八三、六六四	二三、九一七	一五、二三三、六〇四〇	一、三三三	八〇六	二、一六九	八〇、一六四	五九、一一三	一五九、三五六

（ニ）赤痢病

赤痢病ハ年年各地ニ發生シツツ有ルヲ以テ患者發見ニ付テハ常ニ周密ナル檢病的戸口調査ヲ勵行シツツアリシカ明治四十三年六月釜山ニ於テ猛烈ナル赤痢病患者續發シ八月上旬ニ至ル迄患者數九十四名ニ達シ内二十四名死亡セリ而カモ患者ハ悉ク内地人ニシテ前途憂慮スヘキモノアルヲ以テ當局者ハ百方防疫ノ措置ヲ施シ患者總計三百四十七名ニ達シ漸ク終熄セリ四十四年ニ於テハ總計七百九十四名ニ達シタリ然レトモ赤痢病患者ノ數ハ之ヲ例年ノ内地統計ニ比スレハ甚タ少ナシ人口一萬ニ對スル比例内地ノ約三ニ對シ朝鮮ニ於テハ僅ニ〇、四三ナリ

（ホ）腸窒扶斯

腸窒扶斯モ年年各地ニ發生ヲ見ルモ比較的小數ニシテ人口一萬ニ對スル比例ハ内地ノ三、五七ニ對シ朝鮮ハ僅カニ〇、四一ヲ示セリ

要スルニ朝鮮各地ニ發散セル各種傳染病ハ近時衛生狀態ノ改善發達ニ伴ヒ漸次減少シツツアリ

傳染病患者一覽（明治四十四年自一月至八月）

病名	内地人		朝鮮人		計	
	患者	死亡	患者	死亡	患者	死亡
虎列拉	—	—	—	—	—	—
赤痢	五二三	九二	二七一	六二	七九四	一五四
腸窒扶斯	三六九	七六	四〇七	七八	七七六	一五四
痘瘡	一〇〇	二九	三、一三五	三九六	三、二三五	四二五
發疹窒扶斯	五	—	九	三	一四	三
猩紅熱	二	—	六	—	八	—
實布垤里亞	三六	七	七	五	四三	一二
ペスト	—	—	—	—	—	—
計	一、〇三五	二〇四	三、八三五	五四四	四、八七〇	七四八

七　水道

現今水道ノ設備アルハ京城、仁川、釜山、平壤、木浦ノ五箇所ニシテ尚鎭南浦及羅南ニハ布設計畫中ナリ其ノ他ノ各地ハ何レモ井水、河水、泉水等ヲ使用セリ而シテ市街地若ハ聚落地ニ於ケル井水

ハ一般ニ不良ニシテ飲用ニ適セサルモノ多シ蓋朝鮮人ハ習俗トシテ住家ニ便所ヲ設ケス隨所ニ放射シ下水ノ如キ自然ノ流下ニ委シテ施設ヲ加ヘサルノ有樣ナレハ積年ノ穢陋深ク地層ニ浸潤シ爲ニ水質ヲシテ汚惡ナラシメタルニ歸因ス從テ消化器系傳染病比年各地ニ流行シ彼ノ「ヂストマ」ノ如キ諸處ニ傳播シ病毒極メテ濃厚ヲ呈セリ故ニ水質ノ改良ハ當面ノ急務ナルヲ以テ各地ニ簡易ノ水道布設、鑿井ノ開掘ヲ見ルニ至レリ各地既設水道ノ現況ヲ擧クレハ左表ノ如シ

水道事業概況

名稱	管理者	鐵管延長	工費總額	豫定給水料		給水栓數		消火栓數	設計方法	給水開始年月
				人口	一人一日料	專用	共用			
京城水道	京畿道	三八、一四五間	一円	三〇、〇〇〇人	四立方尺	一、四七〇	四四八	三二	喞筒式	明治四十一年八月
仁川水道	同	三三、八〇四	二、四一九、八三九	七〇、〇〇〇	四	一八四	七二	一七五	同	同四十三年十二月
平壤水道	平安南道	二〇、三一〇	一、三〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	四	四六七	四五	一八二	同	同四十三年七月
釜山水道	釜山居留民團	二〇、六六四	一、一七〇、〇〇〇	五五、〇〇〇	三	五九四	一三〇	一一三	貯水池式	同四十三年九月
木浦水道	木浦居留民團	六、一〇〇	一五〇、〇〇〇	五、〇〇〇	三	一六六		三一	同	同四十三年四月

第十六章　裁判及監獄

舊韓國政府ハ明治二十八年始メテ裁判所構成法ヲ制定シ次テ各種ノ裁判所ヲ設置シ明治三十九年法部ニ日本人參與官ヲ置キ各裁判所ニ日本人法務補佐官若ハ法務補佐官補ヲ配置シテ裁判事務ヲ指導セシメ明治四十年七月日韓條約ニ依リ司法制度改善ニ關スル根本ノ基礎確立シ從來ノ制度ヲ一新シ更ニ裁判所構成法及之ニ關スル各般ノ法令ヲ公布シ明治四十一年一月ヨリ之ヲ實施シタリ當時ノ裁判所ノ構成ハ範ヲ帝國ニ取リ三審制トシ其ノ機關ノ運用ハ多年ノ經驗アル多數ノ帝國司法官吏ヲ以テ之ニ充テ著著改善ノ實ヲ擧ケ明治四十二年十一月司法及監獄事務ノ委託實施ト爲リ統監府裁判所ヲ開設シ舊韓國裁判所及內人地ノ司法機關タル理事廳竝法務院ノ裁判事務一切ヲ繼承シ次テ韓國併合ニ因リ四十三年十月朝鮮總督府裁判所ヲ設置シ統監府裁判所ノ事務一切ヲ承繼シ以テ現時ニ至レリ

一　裁判制度

朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督ニ直屬シ朝鮮ニ於ケル民刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌リ司法事務ノ取扱ニ關シテハ通常裁判所ノ例ニ依リ三審判度ニ法リ高等法院、控訴院、地方裁判所及區裁判所ノ四種ヲ置キ區裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所ノ事件及朝鮮人ニ對シテハ舊韓國法規ニ依ル一年以下ノ懲役、禁獄、罰金、笞刑、拘留ノ罪、刑法大全、第五百九十二條、第五百九十五條、第五百九十六條、第六百三條、第六百十六條、第六百十七條其ノ他之ニ類スル罪ニ付テ裁判シ地方裁判所ハ同法ニ定メタル地方裁判所ノ事件、控訴院ハ地方裁判所ノ裁判ニ對スル控訴及抗告高等法院ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ノ判決ニ對スル上告及控訴院ノ裁判ニ對スル抗告ニ付裁判ヲ行ヒ且裁判所構成法ニ定メタル大審院ノ特別權限ニ屬スル職務ヲ執行ス區裁判所ハ判事單獨地方裁判所及控訴院ハ三人ノ判事、高等法院ハ五人ノ判事ヲ以テ組織シタル部ニ於テ合議裁判シ地方裁判所ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲區裁判所ニ地方裁判所支部ヲ設置シ且各裁判所ニ檢事局ヲ併置シ檢察事務ヲ掌ラシム現在ニ於ケル裁判所所在地其ノ數及職員ヲ擧レハ左ノ如シ

朝鮮總督府裁判所所在地

高等法院	控訴院	地方裁判所	所轄區裁判所
京城	京城	京城	京城　開城　驪州　水原　*仁川　*春川　鐵原　原州
		公州	公州　大田　江景　鴻山　洪州　瑞山　天安　*清州　永同　忠州
		咸興	咸興　北青　*元山　永興　江陵　蔚珍　*清津　鏡城　城津　會寧　慶興
	平壤	平壤	平壤　安州　德川　*鎭南浦　載寧　松禾　*新義州　義州　定州　寧邊　江界　楚山
		海州	海州　瑞興　黃州
	大邱	大邱	大邱　金泉　尙州　安東　義城　慶州　盈德
		釜山	釜山　蔚山　*馬山　密陽　龍南　*晋州　居昌
		光州	光州　順天　*木浦　長興　濟州　*全州　錦山　南原　*群山　古阜

本表中*印ヲ附シタルハ地方裁判所支部ヲ示ス

裁判所配置一覧　明治四十四年十一月末現在

廳名	廳數	内鮮人別	職員						
			判事	検事	書記長	通譯官	書記	通譯生	計
高等法院	一	内地人	七	二	一	一	五	—	一六
		朝鮮人	一	—	—	—	一	一	三
控訴院	三	内地人	一九	一〇	三	三	一九	三	五七
		朝鮮人	四	一	—	—	五	三	一三
地方裁判所	八	内地人	四九	二七	—	—	六二	一六	一五四
		朝鮮人	九	二	—	—	一二	一三	三六
地方裁判所支部	一二	内地人	—	—	—	—	—	—	—
區裁判所	六八	内地人	一一三	一八	—	—	一二五	二六	二八二
		朝鮮人	四八	一	—	—	五六	七八	一八三
總計		内地人	一八八	五七	四	四	二一一	四五	五〇九
		朝鮮人	六二	四	—	—	七四	九五	二三五
		計	二五〇	六一	四	四	二八五	一四〇	七四四

備考　地方裁判所支部ノ職員ハ區裁判所職員ヲ以テ充ツ
前表中朝鮮人ニシテ判事又ハ檢事タル者ハ民事ニ在リテハ原告被告トモ朝鮮人タル場合、刑事ニ在リテハ被告人朝鮮人タル場合ニ限リ其ノ職務ヲ行フ

二　適用法規

現今朝鮮總督府裁判所ノ適用セル法規ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外朝鮮人ニ對シテハ舊韓國法規ヲ適用シ朝鮮人ト朝鮮人ニ非サル者トノ民事事件ニ關シテハ手續上多少ノ變更ヲ加ヘテ日本法規ヲ適用シ又朝鮮人ニ對スル裁判ノ執行ハ舊韓國法規ニ依レリ

三　監　獄

監獄ハ從來警察ノ一部トシテ舊韓國內部ノ管轄ニ屬シ其ノ事務ハ警察官ノ兼掌スル所ナリシカ明治四十年十二月監獄官制ヲ公布シ法部ノ所管ニ屬セシメ典獄以下ノ職員ヲ置キ明治四十一年一月京城監獄ノ事務ヲ開始シ以テ七箇ノ監獄及數箇ノ分監ヲ開設シ明治四十二年十一月統監府監獄ヲ開設シ舊韓國監獄及帝國居留民ヲ收容シタル理事廳監獄ノ事務一切ヲ承繼シ明治四十三年十月朝鮮總督府

監獄ヲ開設シ統監府監獄ノ事務一切ヲ承繼シ以テ現時ニ至レリ目下朝鮮ニ於ケル監獄ノ數ハ分監ノ數十三在監囚人數約九千三百人ナリ左ニ監獄概況ヲ表示スヘシ

在監人員數　明治四十四年十月末日現在

監獄名		受刑者				刑事被告人				合計			
		內地人	朝鮮人	外國人	計	內地人	朝鮮人	外國人	計	內地人	朝鮮人	外國人	計
京城	男	二九二	二、五二四	二三	二、八三九	二一	一〇一	―	一二二	三一三	二、六二五	二三	二、九六一
	女	一一	六九	一	八一	三	九	―	一二	一四	七八	一	九三
公州	男	三	六一七	五	六二五	二	三九	―	四一	五	六五六	五	六六六
	女	―	四一	―	四一	―	四	―	四	―	四五	―	四五
咸興	男	三八	四七八	二五	五四一	七	四〇	一	四八	四五	五一八	二六	五八九
	女	四	六〇	―	六四	―	七	―	九	四	六七	―	一〇
平壤	男	五四	九八七	四五	一、〇八九	六	八四	六	九六	六〇	一、〇七一	五一	一、一八二
	女	一	四六	一	四八	―	八	―	八	一	五四	一	五六
海州	男	一	三七七	六	三八四	一	二二	―	二三	二	三九九	六	四〇七
	女	―	一九	―	一九	―	二	―	二	―	二一	―	二一

大邱 男	大邱 女	釜山 男	釜山 女	光州 男	光州 女	計 男	計 女	總計
六四	一	一五〇	三	三五	五	六三七	二五	六六二
一、〇一二	五一	五三九	二三	九九八	六九	七、五三一	三七八	七、九〇九
丨	丨	丨	丨	三	丨	一三七	二	一三九
一、〇七五	五二	六八九	二六	一、〇五六	七四	八、二九五	四〇五	八、七〇〇
五	一	一八	一	五	丨	六五	五	七〇
一三	五	五八	五	六一	二	四七八	四二	五二〇
丨	丨	丨	丨	三	丨	九	丨	九
七八	六	七六	六	六八	二	五五二	四七	五九九
六九	二	一六八	四	四〇	五	七〇二	三〇	七三二
一、〇八四	五六	五九七	二八	一、〇五九	七一	八、〇〇九	四二〇	八、四二九
丨	丨	丨	丨	二五	丨	一三六	二	一三八
一、二三三	五八	七六五	三三	一、二三四	七六	八、八四七	四五二	九、二九九

在監囚人ハ明治四十一年監獄開始以來逐月增加シ四十三年八月ニハ大赦ニ因リ千四百十七人ノ出獄者アリシニモ拘ラス四十四年十月末日ノ各監獄現在ノ囚人ノ數ハ四十三年十月末ノ在監囚人數ニ比シ二千七百四十餘人ノ增加ヲ示セリ

監獄配置一覽　　明治四十四年十一月末現在

監獄	分監數	內鮮人別	典獄	看守長	通譯生	監獄醫	教誨師	教師	藥劑師	看守	女監取締	計
京城	三	內地人	一	一二	―	三	二	一	二	一四〇	四	一六五
		朝鮮人	―	一	一	―	―	―	―	八五	―	八七
公州	一	內地人	一	四	―	一	一	―	―	三六	一	四四
		朝鮮人	―	―	一	―	―	―	―	二六	―	二七
咸興	三	內地人	一	六	―	一	一	―	―	四四	二	五五
		朝鮮人	―	一	一	―	―	―	―	二九	―	三一
平壤	二	內地人	一	七	―	二	一	一	一	六一	二	七六
		朝鮮人	―	―	一	―	―	―	―	四二	―	四三
海州	―	內地人	一	三	―	一	一	―	―	二六	一	三三
		朝鮮人	―	―	一	―	―	―	―	一八	―	一九
大邱	―	內地人	一	四	―	二	一	一	一	四六	二	五八
		朝鮮人	―	一	―	―	―	―	―	三〇	―	三一
釜山	二	內地人	一	六	―	一	一	―	一	四六	二	五八
		朝鮮人	―	一	一	―	―	―	―	二六	―	二八

光州	三	内地人	二	七	—	一	一	—	—	五九	二	七一
		朝鮮人	—	—	一	—	—	—	—	三九	—	四〇
總計	二三	内地人	八	四九	—	一三	九	三	五	四五八	一六	五六〇
		朝鮮人	—	四	七	—	—	—	—	二九五	—	三〇六
		計	八	五三	七	一三	九	三	五	七五三	一六	八六六

第十七章　警察

明治二十七年始テ警務廳ヲ置キ警視廳ヨリ警視ヲ聘シテ顧問ト爲シ各種ノ法令ヲ發布シ服制ヲ一定シテ威嚴ヲ保タシムル等一ニ日本ノ制度ニ模倣セリ當時我國ハ朝鮮內ニ領事裁判權ヲ有セシヲ以テ日本居留民ニ對シテハ帝國自ラ保護ノ任ニ當リ要所ニ警察官ヲ配置シタリシカ後久シカラスシテ舊韓國政府ハ警務顧問ヲ解傭セシヲ以テ警察制度ニ一頓挫ヲ來セリ然ルニ日露ノ開戰以後帝國ハ必要ニ應シ京城及其ノ附近ニ憲兵警察ヲ設クルヤ大ニ韓國官憲ノ反省ヲ促カシ明治三十八年更ニ我國ヨリ警務顧問ヲ傭聘シ數多ノ警務官ヲ聘用シテ之ヲ國內ニ配置シタリ又一方ニ於テ日本警察ハ統監府ニ警務總長アリ各理事廳必要ノ個所ニハ警視ヲ配置シタリシヲ以テ朝鮮內ニハ依然兩國警察ノ存立ヲ認メタリ然ルニ明治四十年七月ノ新條約ニヨリ統監ハ帝國官吏ノ施行スル諸般ノ政務ヲ總攬スルノミナラス韓國政府ノ聘用ニ係ルモノヲモ監督スルニ至リシヲ以テ韓國警務顧問ハ當然統監ノ指揮

ノ下ニ屬スルノ結果從來各個獨立シタル憲兵警察、顧問警察、日本警察ハ茲ニ一ノ監督權ノ下ニ統一セラレタリ而シテ之ヲ移シテ內務大臣管理ノ下ニ置キ內部警務局ニ於テ其ノ事務ヲ處理セシメ各道ニ警務部長ヲ置キ京城ニ警視廳及皇宮警察署ヲ設ケ警視總監ヲシテ之ヲ管理セシメ多數ノ內地人巡査ヲ擧ケテ舊韓國政府ニ任用シ且在留內地人ニ對シテハ內地人タル舊韓國警察官其ノ警察事務ヲ執行スルコトトナリ日本警察ト韓國警察トノ兩者ハ全ク統一シタリシカ明治四十三年六月更ニ之ヲ統監府所屬ニ移シ憲兵司令官ヲ以テ警務總長ニ充テ警務總監部ヲ中央ニ於ケル上級警察官廳トシ併セテ京城府ニ於ケル警察事務ヲ一轄シ各道ニ於ケル憲兵隊長ヲ以テ警務部長ニ充テ警務部ハ道內ノ警察ヲ指揮監督シ警察署ヲ置カサル地ニ於ケル警察事務ハ憲兵分隊及憲兵分遣所ニ於テ之ヲ取扱フコトトナリ憲兵警察全ク統一シ警察機關ハ完備スルニ至レリ韓國併合ノ結果警務總監部ハ朝鮮總督府警務總監部ト改稱シ從來ノ職務ヲ繼承セリ警務總監部ノ概況ヲ示セハ左ノ如シ

（イ）警務部及警察署名稱、位置及管轄區域表

名稱（警務部 警察署）	位置	管轄區域
昌德宮警察署	京畿道京城府蓮闕	昌德宮ノ地域
昌德宮警察署德壽宮分署	同道同府貞洞	德壽宮ノ地域
南部警察署	同道同府本町一丁目	南部一圓（銅峴分署管内ヲ除ク）西部ノ内靑坡ヨリ漢江坊ニ至ル線ヲ區劃シタル東北一圓
南部警察署銅峴分署	同道同府黃金町	南部ノ内銅峴ヨリ樂善坊々界及本町八丁目ヲ經テ明哲坊々界ヲ區劃シタル東北一圓仁昌面ノ一部
北部警察署	同道同府塔洞	中部一圓
北部警察署東大門分署	同道同府三橋洞	東部一圓、崇信面一圓仁昌面ノ一部

北部警察署西大門分署	同道同府京橋洞	西部一圓（南部警察署管內及龍山警察署管內ヲ除ク）龍山面ノ一部
北部警察署水門洞分署	同道同府碧洞	北部一圓及恩平面ノ一部
龍山警察署	同道同府龍山川端町	龍山面ノ內青坡ヨリ漢江鐵橋ニ至ル以北一圓、西江面一圓、延禧面一圓及豆毛面ノ一部
京畿道警務部	京畿道京城府禮賓洞	京畿道一圓（京城府ヲ除ク）
水原警察署	京畿道水原郡水原	水原郡ノ內、振威郡ノ內南陽郡一圓
永登浦警察署	同道始興郡永登浦	始興郡一圓、安山郡一圓、陽川郡一圓
安城警察署	同道安城郡安城	安城郡一圓、陽城郡一圓

	仁川警察署	同道仁川府仲町一丁目	仁川府一圓
	金浦警察署	同道金浦郡金浦	金浦郡一圓、富平郡一圓、通津郡一圓
	江華警察署	同道江華郡江華	江華郡一圓、喬桐郡一圓
	交河警察署	同道交河郡交河	交河郡一圓、坡州郡ノ内
	開城警察署	同道開城郡城架里	開城郡ノ内
忠清北道警務部		忠清北道清州郡清州	忠清北道一圓
	清州警察署	同道清州郡清州	清州郡ノ内、清安郡ノ内、文義郡一圓

名稱	位置	管轄區域
陰城警察署	同道陰城郡陰城	陰城郡ノ内
堤川警察署	同道堤川郡堤川	堤川郡ノ内、丹陽郡ノ内、永春郡一圓
報恩警察署	同道報恩郡報恩	報恩郡ノ内、沃川郡ノ内
永同警察署	同道永同郡永同	永同郡ノ内、黃澗郡ノ内
槐山警察署	同道槐山郡槐山	槐山郡一圓
忠清南道警務部	忠清南道公州郡公州	忠清南道一圓
公州警察署	同道公州郡公州	公州郡ノ内

大田警察署	同道懐徳郡大田	懐徳郡一圓
牙山警察署	同道牙山郡牙山	牙山郡一圓、新昌郡一圓、溫陽郡一圓
鴻山警察署	同道鴻山郡鴻山	鴻山郡ノ一部、舒川郡一圓、庇仁郡一圓
保寧警察署	同道保寧郡保寧	保寧郡ノ内、鰲川郡ノ内
洪州警察署	同道洪州郡洪州	洪州郡ノ内、大興郡一圓、結城郡一圓
唐津警察署	同道唐津郡唐津	唐津郡一圓
瑞山警察署	同道瑞山郡瑞山	瑞山郡一圓、海美郡一圓、泰安郡一圓

名稱	位置	管轄區域
江景警察署	同道恩津郡江景	恩津郡一圓、石城郡一圓、魯城郡ノ内林川郡一圓、韓山郡一圓、繁川郡ノ内
全羅北道警務部	全羅北道全州府西面	全羅北道一圓
全州警察署	同道全州郡府西面	全州郡一圓
群山警察署	同道群山府北面	群山府一圓、咸悅郡一圓、臨陂郡一圓、萬頃郡一圓
鎭安警察署	同道鎭安郡上道面	鎭安郡一圓、長水郡一圓
任實警察署	同道任實郡一道面	任實郡一圓
井邑警察署	全羅北道井邑郡内面	井邑郡一圓

警察署	位置	管轄区域
高敞警察署	同高敞郡高敞面	高敞郡一圓、茂長郡一圓、興德郡一圓
茁浦警察署	同扶安郡乾先面	扶安郡ノ内
全羅南道警務部	全羅南道光州郡光州	全羅南道一圓
光州警察署	全羅南道光州郡光州	光州郡ノ内、昌平郡ノ内
谷城警察署	同谷城郡谷城	谷城郡一圓
麗水警察署	同麗水郡麗水	麗水郡一圓、突山郡一圓
康津警察署	同康津郡康津	康津郡一圓、靈巖郡ノ内

警務部	警察署	位置	管轄區域
	海南警察署	同海南郡海南	海南郡一圓、莞島郡一圓、珍島郡一圓、靈巖郡ノ內
	木浦警察署	同木浦府木浦	木浦府ノ內智島郡一圓
	靈光警察署	同靈光郡靈光	靈光郡ノ內、咸平郡ノ內
	濟州警察署	同濟州郡濟州	濟州郡一圓、大靜郡一圓、旌義郡一圓
慶尙南道警務部		慶尙南道晋州郡晋州	慶尙南道一圓
	晋州警察署	同晋州郡晋州	晋州郡ノ內、宜寧郡ノ內
	河東警察署	同河東郡河東	河東郡ノ內、南海郡一圓

三千浦警察署	慶尙南道泗川郡三千浦	泗川郡ノ內、固城郡ノ內
統營警察署	同龍南郡統營	龍南郡一圓、巨濟郡ノ內
馬山警察署	同馬山府馬山	馬山府ノ內、咸安郡一圓
馬山警察署縣洞分署	同馬山府縣洞	馬山府ノ內
昌寧警察署	同昌寧郡昌寧	昌寧郡一圓、靈山郡一圓、宜寧郡ノ內
陜川警察署	同陜川郡陜川	陜川郡ノ內、草溪郡一圓
三浪津警察署	同密陽郡三浪津	密陽郡ノ內、金海郡ノ內

釜山警察署	同道釜山府	釜山府ノ內、機張郡一圓、鬱島郡一圓
蔚山警察署	同道蔚山郡	蔚山郡ノ內、梁山郡ノ內
慶尙北道警務部	慶尙北道大邱府	慶尙北道一圓
大邱警察署	同道大邱府	大邱府一圓、淸道郡一圓、慈仁郡一圓、慶山郡一圓、玄風郡一圓
星州警察署	同道星州郡	星州郡一圓、高靈郡一圓
善山警察署	同道善山郡	善山郡一圓、開寧郡一圓
慶州警察署	同道慶州郡	慶州郡一圓、長鬐郡一圓

警察署	位置	管轄區域
永川警察署	同道永川郡永川	永川郡一圓、河陽郡一圓
義城警察署	慶尚北道義城郡義城	義城郡一圓、比安郡一圓
安東警察署	同道安東郡安東	安東郡一圓、禮安郡一圓
青松警察署	同道青松郡青松	青松郡一圓、眞寶郡一圓
盈德警察署	同道盈德郡盈德	盈德郡一圓
榮川警察署	同道榮川郡榮川	榮川郡一圓
黃海道警務部	黃海道海州郡州內面	黃海道一圓

警察署	道	郡	面	管轄区域
海州警察署	同道	同郡	州内面	海州郡ノ内
瑞興警察署	同道	瑞興郡	中部面	瑞興郡ノ内、鳳山郡ノ内
黄州警察署	同道	黄州郡	齋安面	黄州郡一圓
南川警察署	同道	平山郡	寶上面	平山郡ノ内、金川郡ノ内
夢金浦警察署	黄海道	長淵郡	海安面	長淵郡ノ内
新溪警察署	同道	新溪郡	中面	新溪郡ノ内、兎山郡ノ内、遂安郡ノ内
長連警察署	同道	殷栗郡	長連面	殷栗郡一圓、松禾郡ノ内

平安南道警務部		平安南道平壤府平壤	平安南道一圓
	平壤警察署	同道同府平壤	平壤府一圓
	中和警察署	同道中和郡中和	中和郡一圓、祥原郡一圓
	順安警察署	同道順安郡順安	順安郡一圓
	鎭南浦警察署	同道鎭南浦府鎭南浦	鎭南浦府ノ內、龍岡郡ノ內
	廣梁灣警察署	同道同府廣梁灣	鎭南浦府ノ內、龍岡郡ノ內
平安北道警務部		平安北道義州府義州	平安北道一圓

新義州警察署	同道同府新義州	義州府ノ内
龍岩浦警察署	同道龍川郡龍岩浦	龍川郡一圓
宣川警察署	同道宣川郡宣川	宣川郡一圓、鐵山郡一圓、郭山郡一圓
博川警察署	平安北道博川郡博川	博川郡一圓、嘉山郡一圓
寧邊警察署	同道寧邊郡寧邊	寧邊郡一圓、泰川郡一圓
北鎮警察署	同道雲山郡北鎮	雲山郡一圓
朔州警察署	同道朔州郡朔州	朔州郡一圓、昌城郡ノ内

江原道警務部		江原道春川郡春川	江原道一圓
	春川警察署	同道同郡春川	春川郡ノ內、洪川郡ノ內
	平康警察署	同道平康郡平康	平康郡ノ內、金化郡ノ內
	金城警察署	同道金城郡金城	金城郡ノ內
	通川警察署	同道通川郡通川	通川郡ノ內
	江陵警察署	同道江陵郡江陵	江陵郡ノ內
	臨院津警察署	同道三陟郡臨院津	三陟郡ノ內、蔚珍郡ノ內

	平昌警察署	同道平昌郡平昌	平昌郡ノ内、寧越郡ノ内
咸鏡南道警務部		咸鏡南道咸興郡咸興	咸鏡南道一圓
	咸興警察署	同道同郡咸興	咸興郡ノ内
	西湖津警察署	咸鏡南道咸興郡西湖津	咸興郡ノ内、洪原郡ノ内
	洪原警察署	同道洪原郡洪原	洪原郡一圓
	新浦警察署	同道北青郡新浦	北青郡ノ内
	元山警察署	同道元山府元山	元山府一圓

	永興警察署	同道永興郡永興	永興郡ノ内
咸鏡北道警務部		咸鏡北道鏡城郡鏡城	咸鏡北道一圓
	鏡城警察署	同道同郡鏡城	鏡城郡ノ内
	明川警察署	同道明川郡明川	明川郡ノ内、鏡城郡ノ内
	清津警察署	同道清津府清津	清津府ノ内、會寧郡ノ内
	雄基警察署	同道慶興郡雄基	慶興郡ノ内、鍾城郡ノ内
	城津警察署	同道城津郡城津	城津郡一圓、明川郡ノ内、吉州郡ノ内

（ロ）警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊憲兵分遣所名稱、位置管轄區域表

名稱 分隊	名稱 分遣所	位置	管轄區域
京城第一		京畿道京城府大和町	京畿道 京城府ノ内 豆毛面ノ一部 楊州郡ノ内 古楊州面、九旨面、乾川面、眞宮面、下道面、蘆原面、忘憂里面、瓦孔面、草阜面、別非面、金村面、渼陰面、上道面、 加平郡
	楊根	京畿道楊平郡楊根	京畿道 楊平郡
京城第二		京畿道京城府光化門通	京畿道 京城府ノ内 恩平面ノ一部 高陽郡 坡州郡ノ内 廣灘面 白石面
龍山		京畿道京城府龍山	京畿道 京城府ノ内 漢芝面及龍山面ノ一部 果川郡

水原		京畿道水原郡 水原	京畿道	龍仁郡	陽智郡
				水原郡ノ内	晴湖面、楚坪面、魚灘面
				振威郡ノ内	一北面、二北面、一西面、二西面
	廣州	京畿道廣州郡 廣州	京畿道	廣州郡	
驪州		京畿道驪州郡 驪州	京畿道	驪州郡	利川郡 陰竹郡
	竹山	京畿道竹山郡 竹山	京畿道	竹山郡	
楊州		京畿道楊州郡 楊州	京畿道	楊州郡ノ内	芚夜面、內洞面、石積面、縣內面、古州內面、於等山面、柴北面、長興面、廣石面、默陰面、邑內面、檜巖面、海等村面、白石面、伊淡面、嶺斤面、泉川面
				抱川郡ノ内	青松面
				積城郡ノ内	南面

	抱川	京畿道抱川郡	京畿道	永平郡 抱川郡ノ内 楊州郡ノ内	（青松面ヲ除ク） 接洞面、榛伐面
	麻田	京畿道麻田郡	京畿道	漣川郡 積城郡ノ内	麻田郡 東面、西面
開城		京畿道開城郡	京畿道	開城郡ノ内 豊徳郡 長湍郡ノ内	（東部面、南部面、西部面、北部面ヲ除ク） 津縣内面、松南面、津北面、津東面、上道面、下道面、中西面、大南面、小南面、江北面、長西面、長北面、長縣内面、古南面、東道面、松西面、
	朔寧	京畿道朔寧郡	京畿道	朔寧郡 長湍郡ノ内	江西面、江南面、大位面、西道面
清州		忠清北道清州郡	忠清北道	懐仁郡 報恩郡ノ内	内北面、山外面、酒城面
	米院	忠清北道清州郡米院	忠清北道	清州郡ノ内	山内一面、山内二上面、青川面

鎭川		忠清北道鎭川郡鎭川	忠清北道	鎭川郡 清州郡ノ内（北江外一上面、北江外一下面、北江外二面、西江外二上面、西江外二下面、） 陰城郡ノ内（孟洞面、所呑面、大鳥面、沙多山面、枝内面、豆衣面、川岐面） 清安郡ノ内 西面
沃川		忠清北道沃川郡沃川	忠清北道	青山郡 沃川郡ノ内（伊内面、郡東面、郡内面、郡西一所面、郡北一所面、郡北二所面、郡西二所面、郡南面、伊南二所面、伊南一所面、） 永同郡ノ内（陽内面、南二面、陽南一所面、陽南二所面、龍化面、南一面、）
	秋風嶺	忠清北道黄澗郡秋風嶺	忠清北道	黄澗郡ノ内（梅下面、上村面、梧谷面、黄金所面、）
忠州		忠清北道忠州郡忠州	忠清北道	延豊郡 忠州郡ノ内（徳山面、沈味面ヲ除ク） 堤川郡ノ内 近左面、西面

	清風	忠清北道 清風郡 清風	忠清北道	忠州郡ノ内 丹陽郡ノ内 清風郡	徳山面、沈味面、西面、造山面、所也面
公州		忠清南道 公州郡 公州	忠清南道	公州郡ノ内	新上面、新下面、寺谷面、陽也里面、縣内面、反浦面、鳴灘面
	連山	忠清南道 連山郡 連山	忠清南道	連山郡 魯城郡ノ内	鎭岑郡 (上道面、下道面、月午面、禾谷面、豆寺面、長久洞面、素沙面、邑内面、)
天安		忠清南道 天安郡 天安	忠清南道	天安郡 平澤郡 全義郡ノ内	稷山郡・木川郡 北面ノ一部
	鳥致院	忠清南道 燕岐郡 鳥致院	忠清南道	燕岐郡 全義郡ノ内	(郡内面、南面、大西面、小西面、東面、徳坪面及北面ノ一部
禮山		忠清南道 禮山郡 禮山	忠清南道	禮山郡	沔川郡 徳山郡
扶餘		忠清南道 扶餘郡 扶餘	忠清南道	扶餘郡	定山郡 靑陽郡

	藍浦	忠清南道 藍浦郡 藍浦	忠清南道	藍浦郡、鴻山郡ノ內、保寧郡ノ內、洪州郡ノ內	外山面、青蘿面、五三田面、上田面、興口香面
益山		全羅北道 益山郡 大場村	全羅北道	益山郡	高山郡
	黃山	全羅北道 礪山郡 黃山	全羅北道	礪山郡	龍安郡
古阜		全羅北道 古阜郡 古阜	全羅北道	古阜郡、扶安郡ノ內	東道面、西道面、上東面、下東面、一道面、二道面、南上面、所山面、鹽所面
	泰仁	全羅北道 泰仁郡 泰仁	全羅北道	泰仁郡	金溝郡
	金堤	全羅北道 金堤郡 金堤	全羅北道	金堤郡	

南原		全羅北道南原郡南原	全羅北道	南原郡　雲峰郡　淳昌郡
錦山		全羅北道錦山郡錦山	全羅北道	錦山郡　珍山郡　龍潭郡
	茂朱	全羅北道茂朱郡茂朱	全羅北道	茂朱郡
長城		全羅南道長城郡長城	全羅南道	長城郡ノ内（甲郷面、外東面ヲ除ク） 羅州郡ノ内　官洞面、平里面、道林面、三加面 靈光郡ノ内　縣内面、森南面、森北面、外東面、内東面、外西面 咸平郡ノ内　烏山面、縣艎面、大化面、赤良面、章本面、月岳面、葛洞面、大也面、 光州郡ノ内　召古龍面、巨峙面、泉谷面、三所旨面、黑石面、馬地面、所旨面、牛山面、馬谷面、瓦谷面、古内廂面、
	潭陽	全羅南道潭陽郡潭陽	全羅南道	潭陽郡 光州郡ノ内　大峙面、上葛田面、下葛田面 長城郡ノ内　甲郷面、外東面 昌平郡ノ内　長南面、長北面、東西面

榮山浦		全羅南道 羅州郡 榮山浦	全羅南道	南平郡 羅州郡ノ内（東部面、西部面、新村面、侍郎面、金安面、伏岩面、伊老面、知良面、細花面、田旺面、上谷面、郁谷面、枝竹面、豆洞面、曲江面、公水面、吾山面、馬山面、潘南面） 靈巖郡ノ内（終南面、北二始面、北二終面、命山面、非音面）
	咸平	全羅南道 咸平郡 咸平	全羅南道	咸平郡ノ内（食知面、平陵面、郡東面、郡西面、永豐面） 羅州郡ノ内（用文面、水多面、竹浦面、居平面、茅界面） 木浦府ノ内（佐村面、金洞面、進禮面、外邑面、二西面、玄化面、石津面、巖多面、新老面、三郷面、一老面、二老面、朴谷面、一西面）
長興		全羅南道 長興郡 長興	全羅南道	長興郡 寶城郡ノ内（古上面、古下面、南上面、南下面ヲ除ク）

順天		全羅南道 順天郡 順天	全羅南道	光陽郡 順天郡ノ内	求禮郡 （蘇安面、長平面、別良面、上沙面、下沙面、道里面、海村面、龍頭面、双岩面、月燈面、西面、黃田面、
	筏橋浦	全羅南道 寶城郡 筏橋浦	全羅南道	興陽郡 順天郡ノ内 寶城郡ノ内	（內西面、草上面、草下面、東上面、東下面、外西面、邑內面 古上面、古下面、南上面、南下面、
同福		全羅南道 同福郡 同福	全羅南道	同福郡 順天郡ノ内 昌平郡ノ内	綾州郡 住巖面、松光面 （玉山面、水面、立面、只面、火面）
大邱		慶尙北道 大邱府 大邱	慶尙北道	新寧郡	義興郡　軍威郡
	倭館	慶尙北道 漆谷郡 倭館	慶尙北道	漆谷郡	仁同郡
清河	-	慶尙北道 清河郡 清河	慶尙北道	清河郡	興海郡

	浦項	慶尙北道 延日郡 浦項	慶尙北道	延日郡
英陽		慶尙北道 英陽郡 英陽	慶尙北道	英陽郡 寧海郡
順興		慶尙北道 順興郡 順興	慶尙北道	豐基郡 順興郡
	春陽	慶尙北道 奉化郡 春陽	慶尙北道	奉化郡
咸昌		慶尙北道 咸昌郡 咸昌	慶尙北道	咸昌郡 聞慶郡 龍宮郡
	醴泉	慶尙北道 醴泉郡 醴泉	慶尙北道	醴泉郡
金泉		慶尙北道 金山郡 金泉	慶尙北道	金山郡 知禮郡

	尚州	慶尚北道 尚州郡 尚州	慶尚北道	尚州郡
晋州		慶尚南道 晋州郡 晋州	慶尚南道	昆陽郡 丹城郡 晋州郡ノ内　夫火谷面、柹洞面、加次禮面、枝買面、省乙山面、 泗川郡ノ内　上州面、東面、上西面、下西面、北面、近南面、中南面、下南面、郡内面 固城郡ノ内　上里面、永縣面、五邑谷面、 山清郡ノ内　矢川面、三壯面、柏谷面、沙月面、巴只面、金萬面 河東郡ノ内　東面
居昌		慶尚南道 居昌郡 居昌	慶尚南道	居昌郡 安義郡 三嘉郡 陝川郡ノ内　山於面、崇山面、居乙山面、心妙面、鳳山面
	咸陽	慶尚南道 咸陽郡 咸陽	慶尚南道	咸陽郡 山清郡ノ内　草谷面、生林面、釜谷面、郡内面、月洞面、知谷面、水谷面、今谷面、車峴面、梧谷面、毛好面、古邑面、西上面、下西面、黄山面

釜山		馬山	
	密陽		金海
慶尚南道 釜山府 釜山	慶尚南道 密陽郡 密陽	慶尚南道 馬山府 馬山	慶尚南道 金海郡 金海
慶尚南道	慶尚南道	慶尚南道	慶尚南道
彥陽郡 蔚山郡ノ内 釜山府ノ内 梁山郡ノ内	密陽郡ノ内	馬山府ノ内 巨濟郡ノ内 龍南郡ノ内 固城郡ノ内	馬山府ノ内 金海郡ノ内
斗西面、斗東面 北面、西上面、東上面、東下面、 首面、南面、 熊上面、上西面、邑内面、上北面、 中北面、下北面、下西面、東面	府内面、府北面、上南面、 穿火山外面、上西初洞面、上西二洞面、 下西面、穿火山内面、丹城面、 上東面、	鎭東面、鎭北面、艮田面、鎭西面 長木面、河清面、延草面、外浦面 光二面 東邑面、西邑面、光一面、葡萄面、 東馬面、西馬面、九萬面、華陽面、 會賢面、可洞面、大莵面、上西面、 上南面、下一面、永耳谷面、介川面、	熊邑面、熊東面、天加面、 德道面、活川面、下東面、左部面、 駕洛面、右部面、七山面、酒村面、 酒西面、柳下面、水南面、台也面、 菉山面、粟里面、鳴旨面、大上面、大下面

海州		黄海道海州郡海州	黄海道	海州郡ノ内：席洞面、茄佐面、月谷面、大徳面、彌革面、高山面、検丹面、翠枝面、白雲面、古莊面、三谷面、馭車面、青山面、 瓮津郡ノ内：富民面、龍淵面、鳳峴面、鳿州面
	馬山	黄海道瓮津郡馬山	黄海道	海州郡ノ内：淶達面、代陳面 瓮津郡ノ内：馬山面、北面、交井面、茄川面、西面、東面、龍泉面、峨嵋面、新興面、南面
延安		黄海道延安郡延安	黄海道	延安郡 白川郡 平山郡ノ内：龍山面、積巌面、馬山面、細下面
新幕		黄海道瑞興郡新幕	黄海道	平山郡ノ内：文區面、西上面、上月面、新邑面、麟山面、細上面、舟岩面、金岩面、古之面、郡内面、西下面、 瑞興郡ノ内：禾回面、東部面、梅陽面
	金川	黄海道金川郡金川	黄海道	金川郡ノ内（好賢面、左面、冬火面ヲ除ク） 兎山郡ノ内（美原面ヲ除ク）

谷山		黄海道谷山郡	黄海道	谷山郡 新溪郡ノ内	村面、芝面
遂安		黄海道遂安郡	黄海道	遂安郡ノ内 瑞興郡ノ内	（大坪面ヲ除ク） 九井面、玄圃面、栗里面、道上面、道下面、所沙面、細坪面、
載寧		黄海道載寧郡	黄海道	載寧郡 信川郡ノ内 鳳山郡ノ内 安岳郡ノ内	魚蘆面 龍山面、岐山面 龍淵面、大元面
	沙里院	黄海道鳳山郡沙里院	黄海道	鳳山郡ノ内	沙院面、靈泉面、嵋山面、西湖面、萬泉面、舍人面、土城面、文井面、洞仙面、楚邱面、錢山面、黑川面、赤城面、鐘岩面、臥峴面、
	安岳	黄海道安岳郡安岳	黄海道	安岳郡ノ内	（龍淵面、大元面ヲ除ク）
	信川	黄海道信川郡信川	黄海道	信川郡ノ内	（魚蘆面ヲ除ク）

松禾		黄海道松禾郡松禾	黄海道	松禾郡ノ内（泉洞面、眞等面、仁風面ヲ除ク） 長淵郡ノ内（雪山面、蓴澤面、仙亭面、樂興面、樂山面、苔湖面、速外面、速內面、牧甘面、南昌面、候仙面）
平壤		平安南道平壤府平壤	平安南道	江西郡
	甑山	平安南道甑山郡甑山	平安南道	甑山郡　永柔郡
成川		平安南道成川郡成川	平安南道	成川郡　江東郡
	順川	平安南道順川郡順川	平安南道	順川郡
別倉		平安南道陽德郡別倉	平安南道	陽德郡

	孟山	平安南道 孟山郡 孟山	平安南道	孟山郡	
寧遠		平安南道 寧遠郡 寧遠	平安南道	寧遠郡	
	德川	平安南道 德川郡 德川	平安南道	德川郡	
安州		平安南道 安州郡 安州	平安南道	价川郡	安州郡 肅川郡
義州		平安北道 義州府 義州	平安北道	義州府ノ內	州內面、館里面、廣坪面、加山面 水鎭面、所串面、古寧朔面、 松長面、玉尙面、古郡面、
				昌城郡ノ內	府內面、田倉面 南倉面、 昌州面、
	碧潼	平安北道 碧潼郡 碧潼	平安北道	碧潼郡	

定州		平安北道定州郡定州	平安北道　定州郡　龜城郡
熙川		平安北道熙川郡熙川	平安北道　熙川郡
楚山		平安北道楚山郡楚山	平安北道　楚山郡　渭原郡
江界		平安北道江界郡江界	平安北道　江界郡ノ內　郡內面、曲河坊、立館面、化京面、于北面、公西面、從南面、龍林面、于上面、公北面、從西面、前川面、于下面
	高山鎭	平安北道江界郡高山鎭	平安北道　江界郡ノ內　高山坊、外貴坊、漁雷坊、時上面、文玉面、時下面、吏西面
厚昌		平安北道厚昌郡厚昌	平安北道　厚昌郡

中江鎮		平安北道 慈城郡 中江鎮	平安北道	慈城郡ノ内	閭延面、長土面
	慈城	平安北道 慈城郡 慈城	平安北道	慈城郡ノ内	郡内面、慈上面、慈下面、三興面、三豊面、梨坪面、館洞面、西海面、
春川		江原道 春川郡 春川	江原道	春川郡ノ内 洪川郡ノ内	北山外面、史外面、史内面、今勿山面、甘勿岳面
	麟蹄	江原道 麟蹄郡 麟蹄	江原道	麟蹄郡ノ内 洪川郡ノ内	郡内面、東面、南面、斗村面、化村面、乃村面、瑞石面
	楊口	江原道 楊口郡 楊口	江原道	楊口郡	
原州		江原道 原州郡 原州	江原道	原州郡 平昌郡ノ内	大和面、珍富面、蓬坪面
	横城	江原道 横城郡 横城	江原道	横城郡	

寧越		江原道寧越郡寧越	江原道	旌善郡、寧越郡ノ内（川上面、北面ヲ除ク）
蔚珍		江原道蔚珍郡蔚珍	江原道	平海郡、蔚珍郡ノ内（遠北面ヲ除ク）
三陟		江原道三陟郡三陟	江原道	三陟郡ノ内（近德面、芦谷面、遠德面ヲ除ク）江陵郡ノ内望祥面
襄陽		江原道襄陽郡襄陽	江原道	襄陽郡、麟蹄郡ノ内（北面、瑞和面、麒麟面、內面一里面、內面三里面）
高城		江原道高城郡高城	江原道	高城郡、杆城郡、通川郡ノ内臨道面
淮陽		江原道淮陽郡淮陽	江原道	淮陽郡、金城郡ノ内梧山面、通口面、通川郡ノ内鶴一面、鶴二面、鶴三面、踏錢面
金化		江原道金化郡金化	江原道	金化郡ノ内郡內面、初東面、二東面、南面、西面、金城郡ノ内西面

	華川	江原道華川郡華川	江原道	華川郡	
鐵原		江原道鐵原郡鐵原	江原道	鐵原郡 平康郡ノ内	安峽郡 高揷面、楡津面、西面
	伊川	江原道伊川郡伊川	江原道	伊川郡	
咸興		咸鏡南道咸興郡咸興	咸鏡南道	咸興郡ノ内	下朝陽面、岐谷面、西元平面、上東古川面、上岐川面、高山面、下東古川面、永川面、德山面、下岐川面、加平面、東元平面、西古川面
	定平	咸鏡南道定平郡定平	咸鏡南道	定平郡	
高原		咸鏡南道高原郡高原	咸鏡南道	高原郡 永興郡ノ内 文川郡ノ内	 鎭坪面、古寧面、横川面、憶只面、雲谷面、耀德面 都社面、龜山面及明孝面ノ一部

	文川	咸鏡南道文川郡文川	咸鏡南道	文川郡ノ內	雲林面、草閑面、郡內面及明孝面ノ一部
元山		咸鏡南道元山府元山	咸鏡南道	安邊郡ノ內	瑞谷面、永豐面
	安邊	咸鏡南道安邊郡安邊	咸鏡南道	安邊郡ノ內	（瑞谷面、永豐面ヲ除ク）
北青		咸鏡南道北青郡北青	咸鏡南道	北青郡ノ內	老德面、仁厚面、巨家面、楊川面、德城面、安山面、泥谷面、星岱面、上車書面、下車書面、平浦面、佳會面、
	利原	咸鏡南道利原郡利原	咸鏡南道	利原郡	
端川		咸鏡南道端川郡端川	咸鏡南道	端川郡	
甲山		咸鏡南道甲山郡甲山	咸鏡南道	甲山郡ノ內	（普惠面及雲興面ノ一部ヲ除ク）

惠山鎮		咸鏡南道 甲山郡 惠山鎮	咸鏡南道	甲山郡ノ內 三水郡ノ內	普惠面及雲興面ノ一部 上東面、仁遮外面、下東面、別海面及好財面ノ一部
	三水	咸鏡南道 三水郡 三水	咸鏡南道	三水郡ノ內	邑面、館洞面、新農面、館西面、興南面、陽山面、館南面、魚面、南淮面、南別面、西別面、自作面、羅暖堡及好財面ノ一部
長津		咸鏡南道 長津郡 長津	咸鏡南道	長津郡	
羅南		咸鏡北道 鏡城郡 羅南	咸鏡北道	鏡城郡ノ內	朱乙溫面及梧村面、龍城面、朱北面ノ各一部
	七班洞	咸鏡北道 鏡城郡 七班洞	咸鏡北道	鏡城郡ノ內	朱南面漁郎面及朱北面ノ一部
吉州		咸鏡北道 吉州郡 吉州	咸鏡北道	吉州郡ノ內 明川郡ノ內	吉城面、英北面、長白面、賜社面及雄坪面德山面ノ各一部 阿澗面、上雩南面、上雩北面

富寧		咸鏡北道 清津府 富寧	咸鏡北道	清津府ノ内 茂山郡ノ内 會寧郡ノ内 鐘城郡ノ内	下茂山面、石幕社、上面社、西村面 東下面ノ一部 （豐山面、甕山面、龍成面及大德面ノ一部） 華山面、方山面
慶興		咸鏡北道 慶興郡 慶興	咸鏡北道	慶興郡ノ内 慶源郡ノ内	（邑面、下面、上面、新面及古面ノ一部） 新阿面
	土里	咸鏡北道 慶興郡 土里	咸鏡北道	慶興郡ノ内	西面及古面ノ一部
	德明驛	咸鏡北道 慶興郡 德明驛	咸鏡北道	慶源郡ノ内 鐘城郡ノ内	新阿面、德明面、有信面 溪上面、溪下面
訓戎鎭		咸鏡北道 穩城郡 訓戎鎭	咸鏡北道	穩城郡ノ内 慶源郡ノ内	訓戎面、周源面、美錢面、浦項面 （新阿面、古阿面、德明面、有信面ヲ除ク）
	穩城	咸鏡北道 穩城郡 穩城	咸鏡北道	穩城郡ノ内	（穩城邑面、永洞面、汁浦面、於厚面、柔遠面、瓦洞面）

鐘城	咸鏡北道鐘城郡鐘城	咸鏡北道	鐘城郡ノ内 鐘城邑面、雲谷面、溪北面 穩城郡ノ内 永達面、忠洞面
會寧	咸鏡北道會寧郡會寧	咸鏡北道	會寧郡ノ内 (豐山面、靈山面、龍城面、觀海面及大德面ノ一部ヲ除ク) 鍾城郡ノ内 古邑面、東豐面、西豐面、香山面、南溪面 茂山郡ノ内 豐山面、茂溪面、及龍面、北面ノ各一部ヲ除ク
茂山	咸鏡北道茂山郡茂山	咸鏡北道	茂山郡ノ内 豐山面、茂溪面、及龍面、北面東下面ノ各一部

一　警備機關ノ配置

明治四十年以來所謂暴徒ト稱スル團隊的賊徒各所ニ蜂起シ良民ノ生命財産ニ對シ危害ヲ加フルコト夥シカリシヲ以テ警備機關ハ主トシテ是等匪徒ノ掃蕩ニ重キヲ置キ配置シタリシカ其ノ後着着掃蕩ノ實ヲ擧ケ現今ニ於テハ殆ト其ノ跡影ヲ止メサルニ至レリ然レトモ半島内地ノ開展上、警備機關ハ

一層周到ナラシムルノ必要アルニ鑑ミ從來ノ警備機關ヲ分散配置シ普遍ナラシメ以テ警備ヲ嚴肅ナラシメタリ

二　海上警備

從來木浦、麗水ノ兩地ニハ各五隻ノ警備船ヲ配置シ專ラ沿岸及島嶼ノ警備ニ任セシメ來リシモ沿岸交通ノ頻繁トナルニ從ヒ十隻ノ警備船ニテハ其ノ警備ヲ全ウスル能ハサルカ故ニ四十四一月以來陸軍運輸部ヨリ汽船五隻ヲ借入レ之ヲ釜山仁川其ノ他要所ニ配置シ一般海上ノ警備竝密貿易ノ取締及遭難船ノ救護ニ努メシメツツアリ

警備船一覽

警備母船	第二扇海丸（汽船）	三三二噸
同	第二浦賀丸（同）	一七〇噸
同	第一新高丸（同）	一六五噸
同	臺東丸（同）	二三噸

同　第一神戸丸（汽　船）　一七噸

警備船

石油發動機　（各五噸）　十隻

揮發油發動機船　（各三噸）　五隻

三　警察官ノ養成

內地人巡査教養ノ爲京城北部順化坊帶洞元韓國赤十字病院跡ニ警官練習所ヲ設置シ新ニ採用セル巡査ヲ約三箇月（警察官ノ前歷アルモノハ一箇月）間ノ教習ヲ爲シ朝鮮各道ノ缺員ヲ補充セムコトニ勉ム又朝鮮人タル巡査補ノ養成ハ各道ニ於テ之ヲ爲シ何レモ初級警察官トシテ必要ナル學科ヲ教授ス

尚將來ハ京城ニ於ケル練習所ニ特ニ練習科ヲ設置シ現職ノ警部巡査中ヨリ選拔シタル者ニ特種ノ教育ヲ施ス計畫アリ

去ル四十三年一月ヨリ四十四年九月迄ニ巡査トシテ新ニ採用シタルモノ內地人千三十七名、巡査補トシテ朝鮮人ヲ採用シタルモノ七百五十二名ニ及フ

四　富籤類似其ノ他取締

懸賞又ハ富籤類似其ノ他ノ射倖ノ方法ヲ用井ムコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集セムトスルモノ漸ク増加シ動モスレハ弊害ノ之ニ伴フモノアルヲ以テ明治四十四年四月朝鮮總督府ハ府令ヲ發シ是等ノ所爲ヲ爲サムトスル者ニ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ノ地方ニ在リテハ警務部長ノ許可ヲ受クヘキコトト爲シ唯事項ノ學術技藝ニ關スルモノニ就キ懸賞ノ方法ヲ用井ムトスルモノニ在リテハ此ノ限ニアラストセリ

五　引火質物貯藏所取締

石油、揮發油、酒精、燐寸、煙火ノ貯藏所ヲ建設スルモノ漸次增加シ之ヨリシテ危險ノ發生スルコト往往アルヲ以テ四十四年六月朝鮮總督府ハ府令ヲ以テ引火質物貯藏所取締規則ヲ發布シ是等物件ノ貯藏所ハ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ノ地方ニ在リテハ警務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ建設スヘカラサルコトト爲セリ

六　信用告知業取締

他人ノ商取引、資産其ノ他信用ニ關スル事項ヲ依賴者ニ告知スルノ業ヲ爲スモノ少カラス之カ取締ヲ加フルノ必要ヲ認メ四十四年七月朝鮮總督府ハ府令ヲ發シ信用告知業取締規則ヲ定メ其ノ業務ヲ爲サムトスルモノハ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ノ地ニ在リテハ警務部長ノ許可ヲ受クコトト爲セリ

七　狩獵取締

從來朝鮮ニ於テハ狩獵取締ニ關スル法規ナク保護スヘキ鳥獸タルト又捕獲方法手段ノ如何ヲ問ハス其ノ自由ニ委セラレタルヲ以テ鳥獸ノ保護及危害豫防上規則制定ノ必要ヲ認メ四十四年四月朝鮮總督府ハ府令ヲ以テ狩獵規則ヲ發布シ同年五月一日ヨリ實施セリ次テ同年九月警務總監部令ヲ以テ狩獵ノ免狀及特別狩獵ニ關スル細則ヲ發布シ實施上遺策ナキヲ期セリ

八　寄附金品募集取締

從來朝鮮人ニ對シテハ舊韓國ノ寄附金品募集取締規則ニ據リ朝鮮總督之ヲ許可シ內地人及外國人ニ對シテハ明治三十九年四月發布ノ統監府令保安規則ニ據リ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ノ地方ニ

在リテハ警務部長ニ於テ認可シ居タリシカ該規則ハ取締官廳ト許可官廳トヲ異ニシ不便尠カラサルヲ以テ四十四年十一月朝鮮總督ハ府令ヲ以テ寄附金品募集取締規則ヲ發布シ內外人タルト朝鮮人タルトヲ問ハス之ヲ取締ルコトト爲セリ

内地人外國人寄附金募集願認可調（自明治四十三年十月一日至明治四十四年九月末日）

道別	募集ノ目的 學校維持	神社、佛閣、敎會建設	其ノ他	小計	募集金額
京城府	—	三 △一	一	四 △一	四、三〇〇、〇〇〇円 △五、〇〇〇、〇〇〇
京畿道	一	二	三	六	七、一四〇、五〇〇
忠清北道	—	—	—	—	—
忠清南道	—	—	—	—	—
全羅北道	—	—	—	—	—
全羅南道	—	—	二	二	二、一三五、〇〇〇
慶尚南道	—	—	—	—	—
慶尚北道	—	一	—	一	二、九四〇、〇〇〇

黄海道	|	|	|	|	|
平安南道	|	|	|	|	|
平安北道	|	|	一	一	二〇〇、〇〇〇
江原道	|	|	|	|	|
咸鏡南道	一	|	一	二	六、六五〇、〇〇〇
咸鏡北道	|	|	|	|	|
計	二	△一六	八	一一 △一六	二三、三六五、五〇〇 △五、〇〇〇、〇〇〇

備考 一 京畿道ハ京城府ヲ除ク

二 △印ハ外國人ノ分

三 募集ノ目的中「其ノ他ノ欄」ハ忠魂紀念碑及修武館ノ建設、難破船遭難遺族救助等ナリ

朝鮮人寄附金品募集願許否調 (自明治四十三年十月一日 至明治四十四年九月末日)

道別		募集ノ目的 學校維持	募集ノ目的 佛堂建設	募集ノ目的 小計	募集額 金	募集額 品
京城府	許	三	—	三	円 三、五一五、三〇〇	—
	否	—	—	—	—	—
京畿道	許	一六	一	一七	六、一二八、六三〇	籾八十二石、麥七石
	否	二	—	二	—	籾百十四石六斗、塩一石 米一石
忠清北道	許	五	—	五	二、二一〇、三六五	—
	否	一	—	一	七五〇、〇〇〇	—
忠清南道	許	八	—	八	三、一三七、九〇〇	籾二十七石十斗、麥二十八石十斗 塩二百石
	否	—	—	—	—	—
全羅北道	許	六	—	六	四、五〇〇、〇〇〇	—
	否	一	—	一	六一二、九六〇	—
全羅南道	許	五	—	五	三、三八四、五四〇	—
	否	—	—	—	—	—
慶尚南道	許	—	—	—	—	—
	否	—	—	—	—	—
慶尚北道	許	三	—	三	二、三二五、八五〇	—

	慶尚北道	黄海道		平安南道		平安北道		江原道		咸鏡南道		咸鏡北道		計	
	否	許	否	許	否	許	否	許	否	許	否	許	否	許	否
	|	二	一	|	一	一	|	|	|	四	|	二	|	五五	六
	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	二	|
	|	三	一	|	一	一	|	|	|	四	|	二	|	五七	六
	|	三、四五九、五九七	八二九、〇四〇	|	二四九、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	|	|	|	二、九五五、〇〇〇	|	一、〇七三、九〇〇	|	円 三二、九九一、〇八二	二、四四一、〇〇〇
	|	|	|	|	|	|	|	|	|	明太魚十万尾	|	|	|	籾百九石十斗、麦三十五石十斗 塩二百石、明太魚十万尾	籾百十四石六斗、塩一石、米一石

備考　京畿道ハ京城府ヲ除ク

九　消防

從來京城其ノ他內地人ノ居住スル重ナル市街地ニ在リテハ消防ニ關スル經費ハ民團若ハ民會ニ於テ之ヲ負擔シ警察之カ監督ヲ爲シタリシカ今日ニ在リテハ從來消防ノ設備ヲ缺キタル地方ニ於テモ之カ組織ヲ見ルニ至レリ四十四年十一月ノ調査ニ據レハ朝鮮全土ニ於ケル消防組ノ組織數ハ左ノ如シ

一　內地人ノミヲ以テ組織スルモノ　三十四組

一　內鮮人ノ合同組織ノモノ　二十二組

一　朝鮮人組織ノモノ　二十五組

計　八十一組

朝鮮消防組設置地名　（明治四十四年十一月末日現在）

道名	組數	設置地名
京畿道	一九	京城府京城、龍山、麻浦、東幕、漢江、西氷庫、仁川府仁川、始興郡永登浦、開城郡開城、驪州郡驪州、陰竹郡長湖院、楊平郡楊根、利川郡利川、交河郡交河、條里面奉日川里

道	數	地名
忠清北道	一	清州郡清州
忠清南道	四	懷德郡太田、洪州郡洪州、恩津郡江景、稷山郡成歡
全羅南道	四	光州郡光州、木浦府木浦、麗水郡麗水、順天郡順天
全羅北道	一	群山府群山
慶尙北道	二	大邱府大邱、尙州郡尙州
慶尙南道	一〇	釜山府釜山、牧ノ島、草梁、釜山鎭、馬山府馬山各國居留地、舊馬山、晋州郡晋州、密陽郡三浪津、蔚山郡蔚山、龍南郡統營
黃海道	六	黃州郡黃州、兼二浦、蒜山郡蒜山、金川郡金川、安岳郡安岳、遂安郡遂安
平安南道	五	平壤府平壤、鎭南浦府鎭南浦、成川郡成川
平安北道	一	義州府新義州
江原道	一七	春川郡春川、江陵郡江陵、洪川郡洪川、金城郡金城、通川郡通川、楊口郡楊口、華川郡華川、鐵原郡芝浦里、伊川郡伊川、淮陽郡淮陽
咸鏡南道	七	元山府元山、咸興郡咸興、甲山郡惠山嶺、高原郡高原、鎭興場
咸鏡北道	三	清津府清津、城津郡城津、鏡城郡羅南

備考　右中內地人組織三十四組、鮮人組織二十五組、內鮮人混合組織二十二組

十　犯罪

犯罪ノ狀況ヲ對比スルニ四十三年上半期ニ於テハ內亂罪四十六件、暴動罪二百八十六件、强盜罪千

六百五十三件、窃盜罪四千七百三件其ノ他ノ犯罪五千四百一〇件總計一萬二千九十八件ナリシモ四十四年上半期ニ於テハ內亂及暴動ノ如キハ絕滅シ强盜犯ノ如キモ千百三十四件ニシテ之ヲ前半期ニ比較スルトキハ五百十九件ノ減少ヲ見ルニ至レリ然ルニ犯罪總數ニ於テ四十四年上半期ハ前年ノ上半期ニ比シ著シク增加セル所以ハ犯罪ノ增加ニアラスシテ從前ニ於テハ警察力ノ微弱ナルト又人民ノ後難ヲ恐レテ被害ノ申告ヲ爲サザリシニ起因セシモノニシテ漸次警察力ノ充實ニ伴ヒ人民ハ官憲ノ保護ヲ信賴シ其ノ意嚮犯罪必訴ノ觀念ヲ懷クニ至リシ結果ナルカ如シ

既往ノ犯罪種別ニ徵スレハ窃盜最多ク之ニ次クモノハ强盜、詐欺取財等ナリトス而シテ窃盜ハ京城府內最多ク慶尙南道、慶尙北道、京畿道等之ニ次キ强盜ハ黃海道、京畿道、全羅北道、平安南道、忠淸北道等之ニ亞ク又詐欺、橫領恐喝取財等ハ京城府內最多クシテ全羅南道、慶尙南道等之ニ亞ケリト然ルニ一般犯罪トシテハ京城府內最多クシテ慶尙南道、全羅北道、咸鏡北道、京畿道等之ニ次キ江原道、忠淸北道、平安北道地方ハ槪シテ少ナキモノノ如シ

二　犯罪即決例實施後ノ狀況

犯罪即決例實施以來一般ノ之ニ對スル感想ハ甚タ良好ニシテ治罪ノ方法ノ簡便ナルト又處斷敏速ニシテ直ニ處罰ノ結果ヲ明カニシ且微罪ヲ一一裁判所ヘ送致スル等ノ煩ナキハ刻下最時宜ニ適セル制度ナルカ如シ

四十四年一月ヨリ六月ニ至ル犯罪即決總件數ハ四千七百九件ニシテ内有罪四千五百十三件無罪百九十六件ナリ之ヲ罪種ニ別ツトキハ賭博、傷害罪、警察犯處罰令違反等最多ク其ノ他ハ諸規則違反或ハ刑罰法令違反ナリ

一月ヨリ六月ニ至ル半箇年間ニ於ケル正式裁判請求件數ハ廿三件ナルヲ以テ有罪四千五百十三件ニ對スル比例ハ有罪百九十六件強ニ對スル一件ニ過ス又正式裁判ノ結果無罪トナリシハ僅ニ八件ナリ

二　民事爭訟調停ノ概況

事件ハ主トシテ貸金請求小作米給付方ノ要求等ニシテ原被兩造ノ感情ハ極メテ良好ニシテ多クハ期限内ニ履行シ居レリ而シテ之カ手續方法甚タ簡易ニシテ費用ト日時トヲ要セサルヲ以テ一般ニ此ノ方法ヲ歡迎シツツアリ

第十八章　通信

明治三十八年四月一日日韓兩國政府ノ間ニ韓國通信機關委託ニ關スル取極書ノ調印アリシ以來朝鮮ノ通信業ハ一大刷新ヲ加ヘラレタリ

之ヨリ以前ニ在リテモ朝鮮國內ニハ電信電話等ノ通信機關ハ多少ノ設備ナキニ非サリシモ頗ル不完全ノモノニシテ電信ノ如キ電線迂廻複雜甚タシク中繼接續ノ敏活ヲ缺キ電話ノ如キモ僅ニ京城、仁川、平壤等ノ都會ニ設備アリシノミニシテ加入者至テ少ク郵便ノ如キ唯普通郵便及書留小包ノ一定區域內ニ於テ取扱ハルルニ止マリ而モ其ノ確實敏速ハ保證スヘカラサル有樣ナリシヲ以テ通信機關ハ殆ト形態ヲ存スルニ過キサリシナリ然ルニ明治九年十一月以來日本政府ハ釜山ニ郵便局ヲ設置シタルヲ始トシ爾來內地人ノ移住ノ增加ニ伴ヒ元山、仁川、京城等ノ各地ニ郵便局ヲ增置シ明治三十八年ニ至リテハ郵便局、同出張所、同受取所等ヲ通シ三十六個所ニ達シ尙內地人出漁者ノ便ニ資スル爲釜山ニ在ル朝鮮海水產組合ノ巡邏船ニモ郵便受取所ヲ設ケ普通郵便ノ外爲替、貯金、小包等

ノ事務取扱ヲ開始セリ此ノ如クニシテ舊韓國ノ通信事務ハ依然トシテ舊態ヲ存續セルニモ拘ラス日本政府ノ施設ハ駸駸トシテ歳月ト共ニ更新シ遂ニ明治三十八年四月ニ至リ舊韓國政府ハ通信事務ノ全部ヲ擧ケテ日本政府ニ委託スルコトトナルヤ玆ニ始テ兩國ノ通信機關ヲ合同シテ共同ノ一組織ト爲シ以テ其ノ統一ヲ保チ得ルニ至レリ次テ明治三十九年七月舊韓國政府支金庫ノ存在セサル地方ニ於ケル國庫金ヲモ取扱フコトトナレリ斯クテ合同後ニ於ケル通信事務ハ日本ノ法規ニ依リ取扱ハレ其ノ取扱事務ノ範圍モ內地郵便局所ニ於テ取扱フ總テノ事務ヲ取扱ヒ此等ノ通信機關ハ當時遞信省ノ管理ニ屬セシカ明治三十九年一月以來統監管理ノ下ニ統監府通信管理局ニ於テ管掌シ韓國併合ノ事アルヤ通信事務ハ擧テ朝鮮總督府通信局ニ移レリ爾來其ノ發達著シク內地人又ハ外國人ノ居住地若ハ府郡廳所在地ニハ郵便局又ハ郵便所ヲ置キ單ニ朝鮮人ノミナル部落ニ設置アル郵遞所モ漸次郵便所ニ改設シ今ヤ半島到ル處通信ノ便ヲ有セサルハ無キニ至レリ

左ニ通信機關發達ノ一覽表ヲ示スヘシ

一　郵便局所數　（各年度末日調）

年度	郵便局	郵便電信取扱所	郵便所	郵遞所	受渡所	郵便電信受取所	鐵道電話取扱所	計	郵便切手賣捌所
明治四十三年度	一九一（外室三）	—	一四二	一〇九	二	—	五九	五〇三（外室三）	八五五
同　四十二年度	五三	一九五	八四	一五三	二	—	—	四八六	五一八
同　四十一年度	五三	一九六	八一	一五二	二	—	—	四八四	四八三
同　四十年度	五一	一九二	六六	一六八	*七三	—	—	四八七	三七六
同　三十九年度	五〇	一四三	—	二〇四	—	七一	四〇	五〇八	二四八

本表中明治四十二年度ハ同四十三年一月一日現在ヲ掲ク但シ郵便切手賣捌所ハ同四十二年十一月末日現在トス＊印ヲ附シタルハ繼立所及交換所ヲ示ス

郵便局所ニ於テハ左ノ事務ヲ取扱フモノトス

郵便局　郵便、爲替、貯金、電信、電話、歳入歳出金受拂、年金恩給交付

郵便所　郵便、爲替、貯金、電信、電話、歳入歳出金受拂、年金恩給交付

電信取扱所　電信

郵遞所　郵便

二　郵便局所所在地一覽表

（明治四十四年九月末日現在）

道名	區分	局所名	取扱
京畿	郵便局	京城	郵、電、交、話、歳不扱
		西大門	郵、電、話、歳不扱
		光化門	郵、電、話、歳不扱
		仁川	郵、電、交、話、歳不扱
		開城	郵、電、交、話
		利川	郵、電、話
		抱川	郵、電、話
		驪州	郵、電、話
		江華	郵、電、話
		京城局分室	郵、無集配、電、無配
		南大門	郵、電、話、歳不扱
		龍山	郵、電、交、話、歳不扱
		永登浦	郵、電、交、話
		水原	郵、電、交、話
		金浦	郵、電、話
		楊州	郵、電、話
		漣州	郵、電、話
		南陽	郵、電、話
	郵便所	京城本町六丁目	郵、無集配、電、無配、歳不扱
		京城東大門通	郵、無集配、電、無配、話、歳不扱
		京城明治町	郵、無配、歳不扱
		京城永樂町	郵、無集配、電、無配、話、歳不扱
		京城鐘路	郵、無集配、歳不扱
		京城青葉町	郵、無集配、歳不扱
		龍山元町	郵、無集配、電、無配、話、歳不扱
		仁川花町	郵、無集配、電、無配、話、歳不扱
		仁川京町	郵、無集配、話、歳不扱
		京城本町九丁目	郵、無集配、電、無配、歳不扱
		京城本町四丁目	郵、無集配、歳不扱
		京城南大門内	郵、無集配、電、無配、話、歳不扱
		京城元寺町	郵、無集配、電、無配、話、歳不扱
		京城太平町	郵、無集配、歳不扱
		京城黄橋通	郵、無集配、歳不扱
		龍山漢江通	郵、無集配、電、無配、話、歳不扱
		仁川花房町	郵、無集配、歳不扱
		水原停車場前	郵、電、話
	電信取扱所	南大門、龍山、水原、仁川、開城、汶山、土城、素砂、長湍、平澤、一山、杻峴、烏山	
	郵遞所	朔寧、豐德、陽川、喬桐	
	受渡所		

道	忠清北道	
長湍（郵、電、話）　廣州（郵、電、話）　楊平（郵、電、話）　安城（郵、電、話）　振威（郵、電、話）　汶山（郵、電、話）	忠州（郵、電、話）　沃川（郵、電、話）　堤川（郵、電、話）　鎭川（郵、電、話）　清州（郵、電、話、歲不扱）　報恩（郵、電、話）　永同（郵、電）　槐山	江景（郵、電、交、話）　公州（郵、電、交、話、歲不扱）
平澤　烏山　麻浦（郵、電、話）　鷺梁津　交河　積城　安山　果川　陰草　永平　通津　龍仁　素砂　土城　纛島　軍浦場　加平　高陽　富平　竹山　陽智　麻田　陽城	秋風嶺　黃澗　陰城（郵、電、話）　延豐　芙江　文義　清安　懷仁	於青島　鳥致院（郵、電、話）
	秋風嶺　永同　芙江　伊院	成歡　大田
	永春　清風　青山　丹陽	稷山　燕岐
	深川　伊院	

忠清南道

洪州（郵、電、話）
天安（郵、電、話）
禮山（郵、電、話）
鴻山（郵、電、話）
全義（郵、電、話）
藍浦（郵、電、話）
大田（郵、電、交、話）
定山（郵、電、話）
連山（郵、電、話）
沔川（郵、電、話）
瑞山（郵、電、話）
牙山（郵、電、話）
成歡（郵、電、話）
溫泉里（郵、電、話）
窺岩里（郵、電、話）
魯城
泰安
木川
唐津
大興
海美
稷山金鑛（郵、電、話）
屯浦
論山（郵、電、話）
舒川
鎭岑
德山
庇仁
林川
新昌
鳥致院
天安
石城
扶餘
青陽
結城
鰲川
保寧
韓山

全羅北道

群山（郵、電、交、話、歲不扱）
南原（郵、電、話）
錦山（郵、電、話）
古阜（郵、電、話）
鎭安（郵、電、話）
金堤（郵、電、話）
全州（郵、電、交、話、歲不扱）
泰仁（郵、電、話）
淳昌（郵、電、話）
高敞（郵、電、話）
龍潭（郵、電、話）
咸悅
萬頃
大非洞（郵、無集配、電、無配、話、歲不扱）
扶安（郵、電、話）
茂朱（郵、電、話）
茂長
礪山
雲峰
興德
大場村（郵、電、話）
茁浦（郵、電、話）
井邑（郵、電、話）
任實（郵、電、話）
金溝
益山
臨陂
珍山
龍山
萬頃
高山

	全羅南道	慶尙
	木浦（郵、電、交、話、歳不扱） 濟州（郵、電） 海南（郵、電、話） 長興（郵、電、話） 靈光（郵、電、話） 潭陽（郵、電、話） 長城（郵、電、話） 谷城（郵、電、話） 莞島	大邱（郵、電、交、話、歳不扱） 尙州（郵、電） 軍威（郵、電、話）
	光州（郵、電、交、話、歳不扱） 綾州（郵、電、話） 順天（郵、電、話） 靈巖（郵、電、話） 咸平（郵、電、話） 麗水（郵、電、話） 興陽（郵、電、話） 珍島	慶州（郵、電、話） 安東（郵、電、話） 義城（郵、電、話）
長水	木浦巡邏船内（歳不扱） 巨文島（郵、電） 南平（郵、電、話） 法聖浦（郵、電、話） 光陽（郵、電、話） 康津 突山 昌平	大邱本町（郵、無集配、電、無配、話、歳不扱） 洛東（郵、電） 若木
	榮山浦（郵、電、話） 羅州（郵、電、話） 羅老島 筏橋（郵、電、話） 寶城（郵、電） 求禮 同福	倭館 慶山（郵、電、話） 咸昌
		金泉 倭館 淸道 大邱 慶山
	智島 大靜 旌義	新寧 高靈 比安 仁同 龍宮 豐基

慶尚	北道
釜山(郵、電、交、話、歲不扱)　馬山(郵、電、交、話、歲不扱)　蔚山(郵、電、話)　河東(郵、電、話)　居昌(郵、電、話)　三嘉(郵、電、話)　固城(郵、電、話)　南海	金泉(郵、電、話)　榮川(郵、電、話)　青松(郵、電、話)　淸道
釜山局分室(運送集配ノ事務ニ限ル)　晋州(郵、電、交、話、歲不扱)　密陽(郵、電)　金海(郵、電)　咸陽(郵、電、話)　陜川(郵、電、話)　巨濟　鬱山(郵、電、話)	盈德(郵、電、話)　浦項(郵、電、話)　永川(郵、電、話)　聞慶
釜山巡邏船內(歲不扱)　釜山鎭(郵、電、話、歲不扱)　絶影島(郵、電、交、話、歲不扱)　馬山元町(郵、電、話、歲不扱)　統營(郵、電)　松眞(郵、電)　三浪津　昌原(郵、電、話)	長鬐(郵、電、話)　奉化　玄風　寧海　淸河　開寧
釜山寶水町(郵、無集配、電、無集配、歲不扱)　草梁(郵、電、話、歲不扱)　馬山巡邏船內(歲不扱)　晋州城外(郵、無集配、歲不扱)　欝陵島(郵、電)　龜浦　入佐村(郵、電)　東萊(話、電、交、話)	義興　河陽　知禮　漆谷　星州　英陽
釜山　草梁　龜浦　三浪津　密陽　馬山　進永　勿禁	
草溪、山淸、安義	順興　禮安　眞寶　興海

南道	黄
	海州（郵、電、交、話、歳不扱） 延安（郵、電、話） 載寧（郵、電、話） 黄州（郵、電、話） 瓮津（郵、電、話） 沙里院（郵、電、話）
長生浦（郵、電、話） 鎮海（郵、電） 進永 三千浦（郵、電、話） 勿禁 下端 馬川 方魚津（郵、電、話） 泗川（郵、電、話） 縣洞（郵、電、交、話） 機張 昆陽（郵、電、話） 咸安 宜寧 彦陽 丹城 昌寧 釜山西町（郵、無集配、電、無配、話、歳不扱） 釜山辨天町（郵、無集配、電、無配、話、歳不扱） 梁山	兼二浦 龍湖島 新幕（郵、電、話） 金川 黒橋 遂安
	金郊 新幕 興水 沙里院 黄州 兼二浦
	兎山

海道

新溪（郵、電、話）
瑞興（郵、電、話）
松禾（郵、電、話）
平山

安岳（郵、電、話）
谷山（郵、電、話）
殷栗（郵、電、話）

長連
信川

長淵
白川

南川
汗浦
鷄井
黑橋

平安南道

平壤（郵、電、交、話、爲替不扱）
鎭南浦（郵、電、交、話、爲替不扱）
成川（郵、電、話）
德川（郵、電、話）
順川（郵、電、話）
順安（郵、電、話）

平壤大和町（郵、電、話、無集配、爲替不扱）
安州（郵、電、話）
陽德（郵、電、話）
价川（郵、電、話）
中和（郵、電、話）
江西

平壤停車場前（郵、話、無集配、爲替不扱）
新安州（郵、電、話）
廣梁（郵、電、交、話）
寧遠
江東
寺洞
孟山

平壤南門通（郵、無集配、爲替不扱）
肅川
甑山
祥原
鎭南浦巡邏船內（爲替不扱）
永柔
龍岡

平壤
順安
肅川
新安川
中和
漁波
鎭南浦

平

新義州（郵、電、交、話、爲替不扱）
龍岩浦（郵、電、話）

義州（郵、電、話、爲替不扱）
定州（郵、電、話）

白馬
嶺美

溫井（郵、電、話）
車輦館

嶺美
定州
宣川
車輦館

渭原

安北道	江原
寧邊（郵、電、話）　楚山（郵、電）　宣川（郵、電）　慈城（郵、電、話）　熙川（郵、電、話）　厚昌（郵、電、話）　龜城（郵、電、話）　江界（郵、電、話）　昌城（郵、電、話）　碧潼（郵、電）　雲山金鑛（郵、電、話）　中江鎭（郵、電）　博川（郵、電）	春川（郵、電、話）（歐文不扱）　金化（郵、電、話）　蔚珍（郵、電、話）　襄陽（郵、電、話）　杆城（郵、電、話）　江陵（郵、電、話）　平昌（郵、電、話）　淮陽（郵、電、話）　鐵原（郵、電、話）　原州（郵、電、話）
高山鎭　郭山　泰川　嘉山　北下洞（郵、電、話）　朔州（郵、電、話）　雲山　鐵山	金城（郵、電、話）　高城（郵、電、話）　麟蹄　橫城　歙谷　長箭（郵、電、話）　平康　華川　寧越
白馬　新義州　批峴　郭山　南市	
	安峽　旌善　平海

道

洪川（郵、電、話）
三陟（郵、電、話）
伊川
楊口（郵、電、話）
通川（郵、電、話）

咸鏡南道

元山（郵、電、交、話 歳不扱）
北青（郵、電、話）
永興（郵、電、話）
長津（郵、電）
松田（郵、電）
咸興（郵、電、交、話 歳不扱）
惠山鎭（郵、電）
端川（郵、電）
甲山（郵、電、話）
虎島

元山新町（郵、無集配、電、無集配、話 歳不扱）
西湖津（郵、電、交、話）
銅店（郵、電、話）
洪原（郵、電、話）
安邊
定平
元山里（郵、電、話 歳不扱）
新浦（郵、電）
新乫坡鎭
利原（郵、電、話）
高原

文川
三水

咸

清津（郵、電、交、話 歳不扱）
鏡城（郵、電、交、話 歳不扱）
城津（郵、電、交、話 歳不扱）
明川（郵、電）

鏡北道	間島	局所數總計五〇五外分室三
富寧（郵、電、話）、鍾城（郵、電）、吉州（郵、電、話）、會寧（郵、電、話）、穩城（郵、電）、北蒼坪（郵、電）、雄基（郵、電）、茂山（郵、電、話）、慶興（郵、電）、羅南（郵、電、交、話、錢不扱）、慶源（郵、電）	間島（郵、電）、間島局分室（郵、無集配）	一八九 外分室三
		二一一
		六〇
		四三
		二

備考　一（郵）ハ郵便事務

一(電)ハ電信事務
一(交)ハ電話交換事務
一(話)ハ電話通話事務
一(無集配)ハ郵便物ノ集配事務ヲ取扱ハサルモノ
一(無配)ハ電報ノ配達事務ヲ取扱ハサルモノ
一(歳不扱)ハ歳入金歳出金歳入歳出外現金ノ振替繰替受拂ニ關スル事務ヲ取扱ハサレモノ
一電信取扱所ハ電信事務(和文電報)ノミヲ取扱フ
一郵遞所ハ普通通常郵便、書留通常郵便事務ノミヲ取扱フ
一受渡所ハ通常郵便小包郵便ノ受付交附事務ノミヲ取扱フ
一其他ノ無記號ハ郵便事務ノミヲ取扱フ

三　郵便線路（各年度末調）

年度	通常道路		鐵道		水路	
	單里程	平均一日延里程	單哩程	平均一日延哩程	單浬程	平均一日延浬程
	里	里	哩	哩	浬	浬
明治四十三年度	二、六八九	三、九〇四	六八一	三、三六六	一二、五三六	二、八八〇
明治四十二年度	二、四二三	三、二五〇	六四六	二、八九三	一二、七八八	三、一七九
明治四十一年度	二、三六五	二、六四一	六四七	二、七七〇	一〇、五五四	二、六九六
明治四十年度	二、三八八	二、六三九	六四八	二、六二七	八、一五四	二、四三九
明治三十九年度	二、四九四	二、三六六	六四八	二、五五八	八、四五三	一、七五七

四　郵便電信及電話線路（同上）

年度	電信線路		電話線路	
	亙長	延長	亙長	延長
	里	里	里	里
明治四十三年度	一、三八九	三、一七二	一二四	四、一四八
明治四十二年度	一、三六三	三、〇五四	一〇三	二、九八一

明治四十一年度	一、三一六	二、八八〇	八二	二、二五三
明治四十年度	一、三〇七	二、七六四	六五	一、六六六
明治三十九年度	一、二四八	二、六三六	五三	一、二五三

五　郵便物取扱數（同上）

年度	通常郵便物		小包郵便物	
	引受	配達	引受	配達
明治四十三年度	四七、〇八三、五七〇	五三、一八一、四七一	六六一、六二五	九二八、〇九七
同　四十二年度	四〇、七二二、八一二	四三、二七七、八二〇	四八九、一七三	七五〇、九六七
同　四十一年度	三五、六五九、七五八	三七、六一四、九七九	三六二、七六二	六〇一、七六五
同　四十年度	三一、六四一、六九〇	三三、〇二七、七八九	二二八、〇三五	四三八、五一六
同　三十九年度	三一、一七三、七二〇	三二、四五一、九六二	一五七、〇五六	三五五、一七四

六　外國郵便物取扱數（同上）

年度	通常郵便物 引受	通常郵便物 配達	小包郵便物 外國小包郵便物 引受	小包郵便物 外國小包郵便物 配達	小包郵便物 日清小包郵便物 引受	小包郵便物 日清小包郵便物 配達
明治四十三年度	一二二、八七八	二三九、八五二	一、四〇一	一〇、四六五	—	—
同　四十二年度	一三〇、六五〇	一七七、七七五	五一五	一〇、〇九〇	七九、五五八	三三四、一三二
同　四十一年度	二五八、二〇九	四四七、五八四	一、三〇三	四、二二一	七三、五四七	三〇八、〇二〇
同　四十年度	二三九、二二八	四〇二、八九七	七七六	三、一〇八	六一、三七五	二六三、七八一
同　三十九年度	二〇七、七三八	三一三、九四四	五七七	二、一六九	五二、九二三	二三八、〇一四

七　朝鮮人通常郵便物取扱數（同上）

年度	引受 內國	引受 外國	引受 計	配達 內國	配達 外國	配達 計
明治四十三年度	？	？	七、六二五、一七三	？	？	一〇、三七六、七〇五
同　四十二年度	七、五七四、七三六	二八、〇五六	七、六〇二、七九二	七、五四二、五〇六	二四、六三六	七、五六七、一四二
同　四十一年度	六、五一〇、六七六	三五、四二四	六、五四六、一〇〇	五、五六六、九四六	三〇、四〇八	五、五九七、三五四
同　四十年度	四、〇六七、三五四	二九、三一六	四、〇九六、六七〇	四、三二一、一七七	二七、二六四	四、三四八、四四一

朝鮮ニ於ケル郵便爲替ノ業務ハ金融機關ノ設備洽カラサルト内地人移住者ノ劇增トニ因リ逐年著シク發展シ來リシモ今ヤ朝鮮ニ於ケル諸般ノ設備稍整理シ商取引品ノ如キハ各其ノ地方ニ於テ辦スルヲ得從ヒテ當初ノ如ク郵便爲替ノ便ヲ藉ルヲ要セサルモノヲ生スルニ至リシ結果本年度ニ於ケル取扱高ハ既往ノ如ク著シキ增加ヲ見ルニ至ラサルモ尙一割以上ノ增加ヲ示セリ

八 郵便爲替最近五箇年比較

年度	內國爲替				外國爲替				合計			
	振出		拂渡		振出		拂渡		振出		拂渡	
	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額
		円		円		円		円		円		円
明治四十三年度	一、〇〇八、九六六	一六、三三三、八八六	六〇〇、九五四	一三、四五二、〇四九	三、〇七七	四八、三三三	一、五五〇	七七、四八〇	一、〇一二、〇四三	一六、三六九、一九九	六〇二、五〇四	一三、五二八、八九九
同　四十二年度	九四三、一〇五	一四、四九八、七九九	五〇六、二一四	八、九九九、六六九	一、五四〇	四〇、四九九	一、一一三	四四、五九九	九四四、六九九	一四、五九九、一九九	五〇七、四四五	一一、九四四、二六九
同　四十一年度	八一六、〇〇七	一三、六〇七、九九〇	四四四、九四三	六、一一〇、三七一	一、二八〇	三五、三三二	八〇七	五五、〇四〇	八一七、八〇七	一三、六四三、三三二	四四五、八四〇	六、一六五、四一一
同　四十年度	六三三、一六六	一四、三六三、〇二〇	三五三、一九六	九、五五四、九九九	六四〇	二〇、四九七	七八〇	五三、一六〇	六三三、九六六	一四、四〇四、三一七	三五三、九七六	九、六六八、一〇九
同　三十九年度	四八〇、三六六	一〇、四五五、八八九	一八三、九二六	六、一二〇、五五四	四六	三、四四四	七三	四一、七七九	四八一、一三三	一〇、四六八、二四四	一八四、〇六八	六、三三三、三三三

九 郵便貯金最近五箇年比較

年度	預入			拂戻			平均一度ノ金額	
	度數	金額	新規人員	度數	金額	全額拂戻人員	預入	拂戻
		円			円		円	円
明治四十三年度	八三七、二三三	五、一三〇、六六二	七一、〇七六	一九八、五六七	四、一〇四、二八五	三八、七三四	六・一三	二〇・六七
同　四十二年度	六二四、六九四	三、七〇八、八五二	五七、七五八	一四八、四〇七	二、九五三、三三六	三一、七〇一	六・〇三	一九・八九
同　四十一年度	三九三、四五三	二、七一五、〇六七	四七、五七五	一四四、六三一	二、〇七七、九一五	二六、八二六	六・九〇	一八・一三
同　四十年度	二八九、二五二	一、九一六、九四七	三二、二七四	九一、九五三	一、六五七、七五六	二一、二七〇	六・六三	一八・〇三
同　三十九年度	二三六、七六四	一、二五六、六三七	二九、七三〇	六六、九八四	九四四、二一七	一六、一〇〇	五・五四	一四・一〇

朝鮮ニ於ケル郵便貯金ハ主トシテ内地人ノ預入ニ係リ朝鮮人貯金ノ増加ハ未タ朝鮮郵便貯金全體ノ發展ニ著シキ影響ヲ及ホスニ至ラサル狀態ニシテ朝鮮人ニ對スル貯金奬勵ハ朝鮮啓發上當面ノ急務ナルニ依リ本府通信局ハ努メテ之カ奬勵ノ策ヲ講シ朝鮮文郵便貯金通帳ヲ發行シ又朝鮮文郵便貯金案内書ヲ刷成シテ之ヲ配布シ各地郵便局ヲシテ勸誘ノ任ニ當ラシメツツアリ從ヒテ其ノ取扱高ハ前表ニ示スカ如ク漸次増加ヲ示セリ左ニ朝鮮人貯金額ノ一班ヲ示スヘシ

十　朝鮮人郵便貯金比較

年度	朝鮮人貯金			內地人貯金		
	人員	金額	一人平均額	人員	金額	一人平均高
明治四十三年度	三四、九一三	一九〇、〇四五円	五・四四円	一〇四、〇七三	三、〇一六、四二〇円	二八・九八円
同 四十二年度	一九、四三五	一一七、二二七	六・〇三	八七、二〇八	二、二一四、四三四	二五・三九
同 四十一年度	一〇、九九九	七五、八一四	六・八九	六九、五八八	一、五九九、八四四	二二・九九
同 四十年度	四、二八四	三〇、七一二	七・一七	五五、五五四	一、一二八、八四六	二〇・三二

近時振替貯金ヲ利用スル者日ニ倍倍多ク前年度ニ比シ著シク增加セリ蓋朝鮮、內地間一般商取引ノ發展シタルト朝鮮內ニモ該貯金口座ヲ開設スルノ必要ヲ認メ明治四十二年十二月統監府令ヲ以テ郵便振替貯金規則ヲ制定シ翌四十三年一月一日ヨリ口座受拂事務ヲ開始シタリシヲ以テ一般取引上多大ノ便利ヲ得ルニ至レリ左ニ四十三年度ニ於ケル取扱ノ一班ヲ示スヘシ

十一 郵便振替貯金

年度	拂込高			振替受高		拂出高			振替拂高		年度末現在	
	口数	金額	新規人員	口数	金額	口数	金額	新規人員	口数	金額	人員	金額
明治四十三年度	五五、一三九	二、九六六、三三七円	一五三	一、三四四	四四四、五三三円	七、六九九	一、八五三、一四九円	二	三、一七一	一、四三〇、七四三円	四六一	一、八六、七四〇円

十二　電報取扱數

年度	種別	發信 朝鮮內	發信 外國	發信 計	着信 朝鮮內	着信 外國	着信 計	中繼
明治四十三年度	和文	一、八五四、八〇七	—	一、八五四、八〇七	一、七九九、六〇六	—	一、七九九、六〇六	二、七七四、六二一
	歐文	二五、八六五	三、五八三	二九、四四八	二六、五八六	七、九二四	三四、五一〇	三〇、六五六
	諺文	一、一七五、三九三	—	一、一七五、三九三	一七四、八〇四	—	一七四、八〇四	二五三、四〇〇
	計	三、〇五六、〇六五	三、五八三	三、〇五九、六四八	二、〇〇〇、九九六	七、九二四	二、〇〇八、九二〇	三、〇五八、六六七
同四十二年度	和文	一、〇九六、六〇三	三七七、七九八	一、四七四、四〇一	一、一〇六、一七七	三三五、二一八	一、四四一、三九五	二、三一九、五六七
	歐文	五、四一五	二三、六七九	二九、〇九四	五、五一五	二八、〇六四	三三、五七九	二二、三三三
	諺文	一三三、九三八	—	一三三、九三八	一三三、七一五	—	一三三、七一五	一六三、四九八
	計	一、二三五、九五六	四〇一、四七七	一、六三七、四三三	一、二四五、四〇七	三六三、二八二	一、五八七、六八九	二、五〇五、三八八
同四十一年度	和文	八八一、四五九	三五〇、一八九	一、二三一、六四八	八九三、九二四	三〇一、〇九七	一、一九五、〇二一	二、〇四八、七一六
	歐文	四、一二四	二一、六〇八	二五、七三二	四、二一九	二四、八九八	二九、一一七	一七、四八二
	諺文	一〇四、七六七	—	一〇四、七六七	一〇四、四六四	—	一〇四、四六四	一二三、八一四
	計	九九〇、三五〇	三七一、七九七	一、三六二、一四七	一、〇〇二、六〇七	三二五、九九五	一、三二八、六〇二	二、一八九、〇一二

年度	種別							
同四十年度	和文	七五五、九三五	三三六、五六四	一、〇九二、四九九	七五九、〇三八	二八九、八〇九	一、〇四八、八四七	一、八三一、四〇九
	歐文	四、六九一	一四、二三六	一八、九二七	四、六二七	一六、三三三	二〇、九六〇	二一、七五八
	諺文	七九、七八三	—	七九、七八三	七九、五七一	—	七九、五七一	六九、二六九
	計	八四〇、四〇九	三五〇、八〇〇	一、一九一、二〇九	八四三、二三六	三〇六、一四二	一、一四九、三七八	一、九二二、四三六
同三十九年度	和文	六四七、五五二	三〇三、七二二	九五一、二七四	六四七、一〇八	二五七、三〇〇	九〇四、四〇八	一、八二八、一六七
	歐文	四、九二三	八、八四五	一三、七六八	五、〇〇三	九、六九〇	一四、六九三	二四、〇〇八
	諺文	七五、三五一	—	七五、三五一	七五、八五七	—	七五、八五七	六四、五三二
	計	七二七、八二六	三一二、五六七	一、〇四〇、三九三	七二七、九六八	二六六、九九〇	九九四、九五八	一、九一六、七〇六

十三　電話加入者數

年度	加入者	前年度比較増數	架設申込者
明治四十四年九月末日	六、九四〇	四九三	二二七
同　四十三年度	六、四四八	九四四	三〇七
同　四十二年度	五、五〇四	一、四七三	三五九

同四十一年度	内長距離	四、〇三一、二五七	七三五	一、一七九
同四十年度	内長距離	三、二九六、一八七	九三四	一、〇三七

十四　雜件

明治四十四年三月現在

自働電話數		三〇	
郵便函	柱函	四五九	九三四
	掛函	四七五	
私書函	設備數	三六六	四八七
	貸與數	一二一	

第十九章 交通

一 道路

朝鮮ノ道路ハ從來京城ヲ基點トシテ各道ニ到ルノ施設ヲ爲シ居レリ岐チテ之ヲ九街道トス(一)義州街道、(二)慶興街道、(三)平安街道、(四)釜山街道、(五)仁川街道、(六)鎭南街道、(七)羅州街道(八)保寧街道、(九)江寧街道即チ是ナリ然レトモ所謂街道ナルモノモ頗ル不完全ニシテ幅員狹ク加フルニ凸凹起伏甚タシク運輸ヲ爲スニ人肩馬背ニ倚ル外ナキ狀態ニ在リシカ近年京釜及京義線全通スルアリ其ノ枝線ノ延長セラルルアリ又湖南及京元線ノ一部開通セラルルアリテ從來不充分ナリシ交通ハ漸ク便ヲ得ルニ至リシカ半島內陸ノ開發ハ啻ニ一部鐵路ノ開通ニ依リテ辨スヘキニ非サレハ明治三十九年以來舊韓國政府ハ努メテ諸道ノ改修ヲ行ヒ要路ニハ地方費ヲ支出シ國庫ヨリモ亦之ヲ補助シ以テ其ノ費ニ充テ勉メテ改修ヲ計リツツアリシカ總督府ハ四十三年韓國併合以後新ニ五百有餘里ノ道路改修ヲ企畫シ四十四年度以降五箇年ヲ以テ竣成スヘキ豫定ナリ斯ノ如ク交通機關ノ整備

ヲ計リツツアルヲ以テ近キ將來ニ於テ交通上一段ノ便宜ヲ得ルニ至ルヤ必セリ改正道路ハ地方ニ依リ同シカラスト雖幅員二間半乃至四間トシ尚六間ニ到ルモノアリ近時京城、龍山間ノ道路ヲ十五間幅トシタルカ如キ京城市街ノ凸凹甚ク幅員狹隘ナル部分ヲ漸次改修シタル如キ大邱、仁川新市街ヲ擴張シタルカ如キアリ又京城ニハ輓近市區改正ノ聲漸ク高ク既ニ局部ノ改修的線路修築ノ實施中ニ屬スルモノアリ今ヤ都鄙ヲ通シテ道路ノ改修ニ努メツツアレハ朝鮮各地ノ交通ハ内陸ノ發展ニ伴ヒ漸次普及スヘシ

改正道路一覽表（四十三年度前迄ノ起工ニ係ルモノ）

區間	道路等級	道幅（間分）	總距離（里町）	功程
鎭南浦平壤間	一	三、九	一三、〇四	全部竣成
木浦光州間	一	三、三	二二、〇五	同
大邱慶州間	二	三、三	一七、二八	同
群山全州間	一	三、九	一一、三〇	同

区間				
水原利川間	二	二、八	一二、二八	竣工
公州小井里間	一	二、八	八、二九	同
晋州新馬山間	二	二、八—六、〇	一八、〇二	同
新安州寧邊間	二	二、八	七、三五	同
海南河東間	二	二、二	四一、二八	同
清津鏡城間	一	二、八	五、一五	同
麻田洞新義州間	二	二、八	〇、一三	同
黄州同停車場間		二、八	〇、二八	同
海州龍塘浦間		二、八	一、二一	同
大邱新市街線		六、〇	〇、二四	同
仁川新市街線		三、〇	〇、〇五	同
慶州浦項間	二	二、二	七、二三	同
天安溫陽間	二	三、〇	三、二八	同
清州鳥致院間	二	二、五	四、二二	同
鎮南浦廣梁灣間	二	三、〇	三、二〇	同
永興柳島間	二	二、五	五、一一	土工ハ竣功シ橋梁工事中
咸興西湖津間	二	三、〇	三、二五	同

區間	道路等級	道幅	總距離	功程
沙里院載寧間	二	三、〇	四、二九	竣功
海南河東支線筏橋海倉間		二、二	〇、三二	同
大邱漆谷間	一	四、〇	一、〇四	同
清津豆滿江岸線ノ內茂山嶺附近	一	二、八	一、三八	同
全州光州線ノ內全州附近	一	四、〇	二、一八	工事中
摩天嶺、磨雲嶺南葛嶺、咸關嶺	一	二、五	四、〇〇	同
京城市街線		四、〇—一九、〇	一、〇〇	同
計			二〇八、〇六	

自四十四年度至四十八年度五ヶ年繼續改修道路

區間	道路等級	道幅（間分）	總距離（里町）	功程
雄基慶興間	一	四、〇	九、〇〇	

會寧穩城間	一	四、〇	一八、〇〇〇	
會寧行營間	二	三、〇	六、一八〇	
輪城茂山間	二	三、〇	二三、〇〇〇	
清津會寧間	一	四、〇	二三、一八〇	四十四年度所屬ノ分一部著手他ハ施工準備中
古站水南間	一	四、〇	九、〇〇〇	
城津惠山鎭間	二	三、〇	四〇、〇〇〇	四十四度所屬ノ分測量及踏査中
北青城津間	一	四、〇	三五、〇〇〇	
平壤元山間	一	四、〇	五五、〇〇〇	四十四年度所屬ノ分一部實測中
海州載寧間	二	三、〇	一五、一八〇	四十四年度所屬ノ分一部施工準備他ハ實測中
利川江陵間	三	三、〇	四八、一八〇	同
京城利川間	一	四、〇	一二、一八〇	
利川長湖院間	一	四、〇	七、一八〇	四十四年度所屬ノ分一部施工準備他ハ實測中
清州陰城間	二	三、〇	一二、〇〇〇	四十四年度所屬ノ分一部施工準備中
忠州陰城間	二	三、〇	六、一八〇	
尙州忠州間	一	四、〇	二二、一八〇	
晋州尙州間	二	三、〇	四四、〇〇〇	四十四年度所屬ノ分一部著手又ハ施行準備中
河東院田間	二	三、〇	七、〇〇〇	

順天全州間	二	三、〇	三二、〇〇〇	四十四年度所屬ノ分一部測量設計中
公州論山間	一	四、〇	一〇、〇〇〇	
寧邊雲山間	二	三、〇	六、〇〇〇	
雲山昌城間	二	三、〇	一九、〇〇〇	
安州滿浦鎭間	二	三、〇	八〇、一八	四十四年度所屬ノ分踏査中
京城元山間舊道一部改修			三〇、〇〇〇	四十四年度所屬ノ分踏査準備中
大邱尙州間舊道一部改修			一〇、〇〇〇	
忠州長湖院間舊道一部改修			五、〇〇〇	
計			五八七、一八	

備考　功程欄ニ其ノ成績ノ記載ナキ路線ハ四十五年度以降ノ所屬トス

二　鐵道

明治三十四年始メテ京釜鐵道起工サレ同三十九年京義線竣成シ此ノ二大線ハ合シテ一幹線ト成リ半島ヲ縱貫シ南端釜山ヨリ起リ北端新義州ニ到リ鴨綠江ヲ亘リ淸國安東縣ニ達ス全延長五百八十五哩

アリ而シテ支線中永登浦ヨリ岐レテ仁川ニ到ルモノヲ京仁線ト爲シ三浪津ヨリ馬山ニ達スルモノヲ馬山線ト爲シ黄州ヨリ兼二浦ニ入ルモノヲ兼二浦線ト爲シ平壤ヨリ鎭南浦ニ達スルモノヲ平安線ト爲ス孰モ要港ニ出テテ世界的交通ノ便ニ資セリ

目下建設中ノモノ一ヲ湖南線ト爲シ他ヲ京元線ト爲ス湖南線ハ京釜線大田ヨリ起リ江景、羅州ヲ經テ木浦ニ達スル幹線ト之ヨリ分岐シテ群山ニ到ルノ支線ヨリ成リ延長百七十四哩五分ニシテ明治四十三年度ヨリ起工シ十一箇年間ニ完成ノ豫定ニシテ總費額千二百八十二萬四千三百五十四圓外ニ車輛費二百十七萬五千六百四十六圓ヲ計上シタリシカ朝鮮ノ狀況ハ其ノ速成ノ必要アルニ鑑ミ十一年計畫ヲ短縮シテ五年計畫ト爲シ(第二十七議會ニ於テ)既ニ大田、江景間ノ三十七哩七分ハ工事竣成シ四十四年十一月以來營業ヲ開始セリ京元線ハ龍山ヨリ起リ漣川、鐵原、平康ヲ經テ元山ニ達スルモノニシテ延長百三十六哩三分ナリ明治四十三年度ヨリ起工シ十一箇年ニ完成ノ豫定ニシテ總費額千四百三十三萬六千九十八圓外ニ車輛費二百四萬四千五百圓ヲ計上シタリシカ速成ノ必要上五箇年竣功ノ計畫ト爲シ既ニ龍山、議政府間十九哩四分ハ工事竣功シ營業ヲ開始セリ

今ヤ歐亞連絡ノ第一關門タル鴨綠江ノ架橋工事竣工シ所謂歐洲極東間ノ最捷線路ノ開通スルニ至リシカ日本ヨリ歐洲ニ赴クモノ歐洲ヨリ極東ニ出ツルモノ至大ノ利便ヲ享有スルニ至レリ京城南大門發ノ列車ハ僅ニ十時間ニシテ新義州ヲ經、鴨綠江ヲ渡リ安東縣ニ達スヘク尙十六時間ニシ長春ニ到ルヘシ朝鮮鐵道及滿洲鐵道ハ鮮滿ノ連絡ヲ圖リ且歐亞ノ脈絡ヲ通スル爲ニ南大門ヨリハ每週火木土又長春ヨリハ月水金ニ列車ヲ運轉セシメツツアリ此ノ線路ニ依レハ東京ヨリ長春ニ到ル僅ニ三晝夜ニシテ達スヘシ

朝鮮鐵道ハ幾多ノ變遷ヲ經テ今日ニ至リ今ヤ朝鮮總督府ノ所管ニ係リ本線支線ヲ通シ孰モ四呎半ノ廣軌ヲ敷設シ車輛ハ「ボギー」式ヲ用ヒ殊ニ客車ハ廣濶ニシテ壯麗ナリ貨車モ亦長大ニシテ一輛克ク二十六噸ヲ搭載シ得ヘク殊ニ鮮滿直通列車ハ歐米ニ讓ラサル優良ナル車輛ヲ以テ編成セリ

附　記

鴨綠江ノ架橋ハ總延長三千九十八呎ニシテ朝鮮側ヨリ二百呎八連三百呎六連ノ鋼桁ヲ架シ淸國側ニ達スルモノニシテ明治四十二年八月始メテ工ヲ起シ四十四年五月橋臺橋脚ヲ竣成シ十月迄ニ橋

桁工事ノ建設ヲ終ヘ該橋梁ハ朝鮮側ヨリ第九連ノ梁ヲ開閉式ト爲シ船舶ノ航行ニ便ナラシメ又橋梁ノ兩側ニ幅八呎宛ノ歩行道ヲ設ケ通行ノ用ニ供セシム尚各桁ノ最下端ハ平時滿潮水面上二十五呎干潮水面上三十呎ナルヲ以テ普通ノ船舶ハ優ニ橋梁ノ下ヲ通過スルヲ得ヘシ橋脚ハ何レモ潜水基礎工事ヲ施シ河中ニ潜水函ヲ沈下シ遂ニ川底ニ達セシメタルモノニシテ豫期以上ノ好成績ヲ收メツヽアリ（口繪參照）

左ニ朝鮮鐵道ノ最近ノ狀況ヲ示サム

朝鮮鐵道哩程表

線名	區間	哩數
京釜線	京城—釜山	二七四、九哩
支線（京仁線）	永登浦—仁川	一八、四
支線（馬山線）	三浪津—馬山	二四、八
京義線	龍山—安東縣	三一〇、二

支線	區間		哩程
兼二浦線	黄州—兼二浦		八、九
平南線	平壌—鎮南浦		三四、三
平壌炭鑛線	平壌—寺洞		六、七
京元線	京城—元山		一三六、三
	龍山—議政府	(開通)	一九、四
湖南線	大田—木浦		一七四、五
	大田—江景	(開通)	三七、七

外ニ

新義州荷扱所線(新義州驛ヨリ分岐ス)	一、一
碧瀾渡貨物線(土城驛ヨリ分岐ス)	三、六

最近五箇年間營業成績表(四十四年度ハ半期) 其ノ一

年度	線路名	旅客乘車人員	小手荷物輸送斤量	貨物輸送噸數	運輸收入 客車	運輸收入 貨車	運輸收入 計
		人	斤	噸	円	円	円
	京釜線	二、二五二、六五五	六、二五六、三二四	三四九、〇四二	一、四六五、六五四	八六四、二七九	二、三二九、九三三

明治四十年度	京義線	四八八、八五〇	一、一五九、七〇六	六七、六七六	六五四、〇〇二	二七八、七四九	九三二、七五一
	全線合計	三、六二五、七七二	六、五九四、三九五	三九一、一七五	三、一一九、六五八	一、一四三、〇二八	三、二六二、六八六
明治四十一年度	京義線	一、七三三、三二二	七、五四四、三二九	四三八、七一一	一、六四一、九一三	一、〇六三、六六二	二、七〇五、五七五
	京義線	五八七、〇[illegible]九	一、六一八、六三五	三七八、二三五	六九四、六一九	五五六、六六〇	一、二五一、二七九
	全線合計	二、一七二、七四一	七、八八四、四七八	七二七、六九三	三、三三六、五三二	一、六二〇、三二二	三、九五六、八五四
明治四十二年度	京釜線	一、五二二、六九五	七、五八一、九〇九	四九七、三六六	一、四二九、六九七	一、一二七、三八八	二、五五七、〇八五
	京義線	五四三、七三一	一、八八一、二六九	二九三、六三一	六七三、四三四	五八六、七八五	一、二六〇、二一九
	全線合計	一、九三〇、四四二	八、〇四四、八七六	七一二、一三七	二、一〇三、一三一	一、七一四、一七三	三、八一七、三〇四
明治四十三年度	京釜線	一、五四二、八六一	八、四六六、三〇四	四八九、九二九	一、五四七、四七七	一、三一九、五五六	二、八六七、〇三三
	京義線	六二三、〇五二	二、四六七、〇八九	五一七、六二九	八〇五、〇四六	八九〇、八二五	一、六九五、八七一
	全線合計	二、〇二四、四九〇	九、〇五七、五九一	八八八、七二三	二、三五二、五二三	二、二一〇、三八一	四、五六二、九〇四
明治四十四年度上半期	京釜線	八四五、三二八	四、三五五、五八五	二三〇、一〇六	八五八、四五九	五八八、九七一	一、四四七、四三〇
	京義線	三四二、一四九	一、一五〇、六一〇	二九三、〇七二	四四五、三八三	五二二、三六二	九六七、七四五
	湖南線	三、四五六	六、二九八	四、六四五	二、二〇一	一、二四七	三、四四八
	全線合計	一、一一三、八六八	四、六三一、三五二	四六六、六四七	一、三〇六、〇四三	一、一一二、五八〇	二、四一八、六二三

最近五箇年間營業成績表（四十四年度ハ半期）　其ノ二

年度	線路名	一日平均 旅客人員（人）	一日平均 小手荷物斤量（斤）	一日平均 貨物噸数（噸）	一日平均 運輸収入（円）	一哩平均 旅客人員（人）	一哩平均 貨物噸数（噸）	一哩平均 運輸収入（円）	一日一哩平均 旅客人員（人）	一日一哩平均 貨物噸数（噸）	一日一哩平均 運輸収入（円）
明治四十年度	京釜線	六、一五五	一七、〇九四	九五四	六、三六六	二四三、八三六	五九、一八七	七、三二三	六六六	一六一	一九・九八一
	京義線	一、三四四	三、一九〇	一八六	二、五六五	六五、九三三	一八、四五六	二、九〇八	一八〇	五〇	七・九四四
	全線合計	七、一九八	一八、〇七七	一、〇七二	八、九三一	一五四、五七一	三八、七五三	五、一〇三	四三二	一〇五	一三・九四二
明治四十一年度	京釜線	四、七四九	二〇、六六九	一、二〇二	七、四一三	一九五、四二六	九七、三三〇	八、四七三	五三五	二六六	二三・二一五
	京義線	一、六〇八	四、四三五	一、〇三一	三、四二八	八二、九五六	六八、六六〇	三、八八四	二三七	一八八	一〇・六四〇
	全線合計	五、九五三	二一、六〇一	二、〇三一	一〇、八四一	一三八、九三四	八二、九三〇	六、一六八	三八〇	二三七	一六・八九九
明治四十二年度	京釜線	四、一七一	二〇、七六七	一、三六二	七、〇〇四	一七三、三六八	一〇七、〇六〇	八、〇三一	四七二	二九三	二三・〇〇四
	京義線	一、四九〇	五、一五四	八〇四	三、四五三	八一、四四五	七二、四六五	三、九一一	二三三	一九九	一〇・七一六
	全線合計	五、二八九	二三、〇四一	一、九五一	一〇、四五七	一二六、六三七	八九、六六一	五、九五九	三四七	二四六	一六・三三六
明治四十三年度	京釜線	四、二三六	二三、一八九	一、三四二	七、八五三	一九一、八五四	一三三、五三六	九、〇一三	五三六	三六六	二四・六八九
	京義線	一、八〇一	七、一一三	一、四九六	四、九〇三	九二、三八九	一一三、五七六	五、〇一九	二五三	三〇八	一三・七五一
	全線合計	五、七〇三	二五、五一四	二、五〇三	一二、八五三	一四〇、六二〇	一三三、七三九	六、九五六	三八五	三三六	一九・〇五五
明治四十四年度	京釜線	四、六一九	二三、八〇一	一、二五七	七、九〇九	一〇六、六七五	五九、五七八	四、五五〇	五八三	三三六	二四・八六五
	京義線	一、八九九	六、三八五	一、六二六	五、三七〇	四七、八五五	六三、五三七	二、七〇六	二六二	三四七	一四・七八八

上半期										
湖南線	四三	七六	五六	四三	六、五三二	八、八五〇	三一三	三六	四八	一・七一〇
全線合計	六、二五四	二六、〇〇四	二、六三〇	一三、五八〇	七四、四四〇	六〇、八二七	三、五三三	四〇七	三三三	一九・二四六

備考　各線ノ旅客人員、小手荷物斤量、貨物噸數等ノ其ノ全線合計ニ符合セサルハ二線以上ヲ通シテ輸送シタルモ全線合計ニ在リテハ重複ニ亘レル數ヲ控除シタルニ因ル

即チ朝鮮鐵道ハ運輸總收入明治四十二年度ニ於テハ三百八十一萬七千三百四圓、四十三年度ニ於テハ四百五十六萬二千九百四圓、四十四年度上半期ノミニ於テ二百四十一萬八千六百二十三圓ニ達シ逐次收入增加ノ趨勢ヲ呈セリ

三　關釜聯絡概況

從來關釜聯絡航路ニ使用セラルル船舶ハ壹岐丸、對馬丸、櫻丸、梅ケ香丸ノ四艘ニシテ前二隻ハ孰モ千五百噸內外ヲ有シ殊ニ櫻丸ハ三千二百四噸梅ケ香丸ハ三千二百七十噸ニシテ日日雙方ヨリ定期ニ出航シ一ハ釜山發京城經由ノ急行列車ニ接續セシメ一ハ下關門司ニ於テ新橋、長崎及鹿兒島行ノ列車ニ聯繋直通セシメ以テ內地各所ト朝鮮間交通ノ連鎖ヲ爲セリ海上百二十二浬、片道十時間ニシ

テ渡航シ得ヘシ

關釜聯絡概況

年度	航路別	航海度數	旅客 一等	旅客 二等	旅客 三等	旅客 合計	貨物數量 貨物（噸）	貨物數量 手荷物（噸）	貨物數量 小荷物（斤）	郵便物（箇）
四十二年度	內地行	五三九	一、八四四	七、六四四	四七、二五八	五六、七四六	二八、二〇六	四六四、七八〇	一三三、六二五	三四、〇七三
	朝鮮行	五三九	一、八七二	八、三八二	五三、四六八	六三、七二二	三六、四二七	六七四、九六八	八四二、七三一	九三、〇六九
	計	一、〇七八	三、七一六	一六、〇二六	一〇〇、七二六	一二〇、四六八	六四、六三三	一、一三九、七四八	九六六、三五六	一二七、一四二
四十三年度	內地行	五四〇	二、〇三九	九、七〇二	五五、七八五	六七、五二六	四六、〇一六	二九四	一三七、一四一	三八、九三七
	朝鮮行	五四〇	二、〇七八	一〇、四七〇	六八、一八〇	八〇、七二八	三二、六三七	四〇二	一、一五二、二九五	一〇四、〇一一
	計	一、〇八〇	四、一一七	二〇、一七二	一二三、九六五	一四八、二五四	七八、六五三	六九六	一、二八八、四三六	一四二、九四八
四十四年度（自四十四年四月至同年十月）	內地行	三二四	一、四三三	六、四四九	三八、六二五	四六、五〇七	一四、〇三三	一七六	一〇六、六四二	二五、二七五
	朝鮮行	三二五	一、六九一	七、七一九	四八、二一三	五七、六二三	二九、四五六	二八〇	八八七、四八九	六九、六五九
	計	六四九	三、一二四	一四、一六八	八六、八三七	一〇四、一二九	四三、四八八	四五六	九九四、一三一	九四、九三四

四 海運

第一 船舶

朝鮮半島ハ三方遶ラス海洋ヲ以テス而カモ從來朝鮮人ハ漸ク小舟、帆船ニ倚リテ遠島近嶼ニ航海シタルモノニシテ從テ近時朝鮮ニ於ケル航海權ハ自ラ內地人ノ獨占ニ移リテ各港ヨリ出テテ世界的交通ヲ爲セルモノ皆內地人ノ經營ニ係レリ

船舶ニ關シテハ從來何等ノ取締ナク放任セラレタリシカ明治四十三年四月帝國政府ハ舊韓國政府ト謀リ一樣ノ取締法規ヲ制定シ爾來之カ取締ヲ勵行シタリシカハ大ニ舊來ノ面目ヲ一新シ沿岸航路ノ發達ト倶ニ船舶ノ數亦著シク增加ヲ來シタリ今最近朝鮮ニ現在スル船舶及朝鮮沿岸ニ寄港スル船舶數ヲ示セハ左ノ如シ

朝鮮現在船舶　（明治四十四年十月現在）

種別		汽船		帆船		合計	
		船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數
朝鮮ニ船籍港ヲ有スルモノ	登簿船	四七隻	八、四四〇噸	一〇九隻	三、二三九噸	一五六隻	一一、六七九噸
	不登簿船	二〇	一八八	八六四	七、二六〇	八八四	七、四四八

内地ニ船籍港ヲ有シ朝鮮沿岸ニ所在スルモノ	登簿船	三四	一、八二六	不詳	不詳	三四	一、八二六
	不登簿船	一六	一八六	不詳	不詳	一六	一八六
同上假船鑑札ヲ受有スルモノ		一	九	一六〇	二、一一七	一六一	二、一二六
内地ヲ起點トシテ朝鮮ニ寄港スルモノ		四二	六六、一九七	不詳	不詳	四二	六六、一九七
計		一六〇	七六、八四六	一、一三三	一二、六一六	一、二九三	八九、四六二

第二　海員

輓近船舶ノ數著シク增加シタル結果海員ノ數モ亦劇增シ受檢船舶ノ海員ハ概數一千二百人ヲ算シ其ノ内船舶職員トシテ職ヲ執ル者二百七十四人ニ達セリ而モ現今海員ニ關スル取締法ヲ缺ケルヲ以テ之カ調査中ニ屬ス

船舶職員

種別	日鮮人ノ別	免狀ノ有無	船長	一等運轉士	二等運轉士	機關長	一等機關士	計
朝鮮ニ船籍港ヲ有	日人	有	五三人	七人	二人	五二人	四人	一一八人
		無	二四	—	—	七	—	三一

區分								
スル船舶	鮮人	有	—	—	—	—	—	—
		無	一〇	三	三	六	三	二五
內地ニ船籍港ヲ有スル船舶	日人	有	四三	三	—	四二	—	八八
		無	五	—	—	六	—	一一
	鮮人	有	—	—	—	—	—	—
		無	一	—	—	—	—	一
計		有	九六	一〇	二	九四	四	二〇六
		無	四〇	三	三	一九	三	六八

朝鮮ニ於テハ未タ船舶職員試驗ノ制度ナカリシカ四十四年十月遞信省ハ便法ヲ執リ釜山港ニ於テ臨時海員試驗ヲ執行シ受驗者十七名中十名ノ合格者ヲ得タリ

第三　定期航路

朝鮮沿岸ノ現在航路ハ(一)朝鮮沿岸ニ限ルモノ(二)內地ヲ起點トシテ朝鮮ニ到ルモノ(三)內地ヲ起點トシテ朝鮮沿岸ヲ經由シ外國ニ到ルモノ(四)朝鮮ヲ起點トシテ內地又ハ外國ニ到ルモノノ四種アリ而シテ目下定期船ノ配在セルハ(一)(二)(三)種航路ニシテ(四)種航路ニ至リテハ未タ定期航海ヲ

開始スルノ時運ニ達セズ

定期航路中遞信省命令ニ依ルモノハ(二)種及(三)種ニ屬シ朝鮮總督府命令ニ依ルモノハ(一)種ニ屬ス別ニ陸軍省命令ニ依ル(二)種、長崎縣命令ニ依ル(三)種、及鐵道院ノ經營ニ依ル(二)種等ノ各航路アリ又補助命令ニ依ラス自營ヲ以テ定期航海ヲ爲スモノハ(一)種航路ノ小區域間ニ多ク他ハ極メテ小數ナリ

今此等航海ニ配在セル船舶ノ大勢ヲ示セハ

(一)ニ屬スルモノ	四〇艘	三、七二九噸
(二)ニ屬スルモノ、	一七艘	二四、〇五五噸
(三)ニ屬スルモノ	八艘	一三、四二六噸

ニシテ更ニ政府ノ補助命令ニ依ルモノト自營ノモノトヲ區別スレハ左ノ如シ

命令航路使用船(官營船ヲ含ム)	二七艘	三三、一一九噸
自營航路使用船	三八艘	八、〇九一噸

前記各航路ノ主ナル經營者ハ大阪商船會社、日本郵船會社、釜山汽船會社、吉田船舶部、木浦航運會社、秋田商會、尼崎汽船部、川崎船舶部、原田商行、鐵道院等ナリトス

定期航路一覽

種別	線路	寄港地	航海度數	經營者
總督府命令航路	元山雄基線	西湖津、前津、新浦、新昌、遮湖、端川、城津、明川、漁大津、獨津、清津、梨津	月三回	元山 吉田秀次郎
同	釜山雄基線	蔚山、迎日灣、丑山浦、竹邊、三陟、江陵、襄陽、杆城、長箭、元山、西湖津、前津、新浦、新昌、遮湖、城津、明川、漁大津、獨津、清津、梨津	(年)二〇	同
自營航路	同	同前	(年)二〇	同
同	元山五里浦線	北九味浦	一五	同
遞信省命令航路	神戸浦鹽斯德線	釜山、元山、清津	(年)一三	日本郵船株式會社

自營航路	大阪浦鹽斯德線	釜山、元山、城津、淸津	(年)一八	合資會社 原田商行
陸軍省特種命令	大阪淸津線	釜山、元山、西湖津、新浦、城津、淸津	三	大阪商船株式會社
同	同	釜山、元山、西湖津、城津、淸津	一	神戶 川崎船舶部
遞信省寄港命令	下關雄基線	釜山、元山、西湖津、新浦、城津、淸津、鏡城、雄基	(年)三四	大阪 原田十次郎
總督府命令航路	釜山迎日灣線	長生浦、方魚津	四	釜山汽船株式會社
自營航路	釜山蔚山線	大邊、方魚津	三〇	同
同	同	同	三〇	釜山 商船組回漕部
同	博多釜山線	對馬經由	六	對馬運輸株式會社
同	釜山馬山線		三〇	釜山 澤山回漕部

同	馬山縣洞線		(日)六	同
同	同	飛鳳里	(日)四	馬山 吉田回漕部
同	釜山統營線	加德、熊川、馬山	三〇	釜山汽船株式會社
總督府命令航路	釜山左水營線	馬山、統營、三千浦	六	同
自營航路	同	前記ノ外縣洞、辰橋、露梁津	二四	同
同	同	加德、熊川、縣洞、新舊馬山、統營、三千浦、露梁津	三〇	釜山 商船組回漕部
同	釜山長興線	馬山、統營、三千浦、麗水、順天筏橋、羅老島、興陽、	五	釜山汽船株式會社
總督府命令航路	釜山木浦線	長承浦、欲知島、麗水、羅老島、巨文島、濟州島、朝天、同山地、楸子島、所安島	四	同
同	木浦長興線	右水營、莞島	四	木浦 福田有造

同	木浦濟州島線	右水營、楸子島、濟州島山地、同朝天	六	同
自營航路	木浦榮山浦線	夢灘、沙浦、中村浦	三〇	木浦航運合名會社
同	木浦靈岩線		三〇	木浦　平岡寅次郎
同	木浦海南線		三〇	同　桝見回漕部
總督府命令航路	木浦茁浦線	智島、法聖浦	七	同　福田有造
自營航路	群山江景線		三〇	江景　松永定次郎
同	同		三〇	群山　大澤某
同	江景公州線	窺巖里、旺津、定山	一五	江景　松永定次郎
同	仁川舊島線	三吉里、海倉	六	仁川　合資會社秋田商會

同	仁川冬串浦線	漢津、富里浦、大湖芝	一〇	同
同	仁川海州線	月串、喬桐	一五	同
遞信省命令航路	神戸朝鮮北清線	釜山、仁川	(年)一三	日本郵船株式會社
同	横濱北清線	仁川、	(同)一六	同
遞信省寄港命令	大阪仁川線	釜山、木浦、群山、仁川	(同)五二	大阪商船株式會社
自營航路	鎭南浦載寧線	外岩浦、石海、舟踰、壽易浦、海昌	一五	鎭南浦馬場嘉藏外五名
同	新義州安東縣線		約卅分毎ニ發船ス	鴨綠江渡江株式會社
長崎縣寄港命令航路	長崎大連線	釜山、木浦、群山、仁川、鎭南浦	四	大阪商船株式會社
自營航路	唐津大連線	(往航)釜山、木浦、群山、仁川 (復航)直行	二	合資會社辰馬本家回漕部

遞信省寄港命令	大阪安東縣線	仁川、鎮南浦	(年)一八 內四回ハ鎮南浦止リトス	大阪商船株式會社
官營	下關釜山線		四五	鐵道院
自營航路	大阪仁川線	釜山、木浦、群山	八	尼崎汽船部

備考　原田商行經營大阪、浦鹽斯德線、辰馬本家回漕部經營唐津大連線及尼崎汽船部ノ經營大阪仁川線ハ準定期航海トス

第四　朝鮮總督府命令航路

舊韓國政府ノ債務トシテ繼承シタル航路補助ハ前年度ニ繼續シテ東沿岸、南沿岸及全羅沿岸ノ各航路ニ對シ之ヲ支給セリ將來沿岸及嶋嶼ノ發展ニ伴ヒ航路ノ整理、船舶ノ改良ヲ行ハシムルノ必要アルニヨリ努メテ其ノ改善ヲ圖リツツアリ

今最近一ケ年間ニ於ケル業務成績ヲ擧クレハ左ノ如シ

命令航路業務成績（自明治四十三年十一月至同四十四年十月）

受命者	使川船數	總噸數	航海度數	航海浬數	搭載貨物	乘客員數
	艘	噸	回	浬	箇	人
吉田秀次郎	六一	二三、一七八	六一	四九、〇三四	一六三、三七六	一一、七九八
釜山汽船株式會社	三一六	四八、二七一	三一六	九一、一九〇	一三八、二六九	二〇、〇八五
福田有造	二二六	一六、九四七	二二六	四二、三八八	六〇、七〇五	八、八二〇
計	六〇三	八八、三九六	六〇三	一八二、六一二	三六二、三五〇	四〇、七〇三

備考　噸數及浬數ハ延數ナリ

第五　水路嚮導

政府ノ施設ニ係ル鴨綠江水路嚮導ハ一般ノ利便ニ資セルコト尠ナカラス之ニ依リテ同流域ニ出入スル船舶安全ニ航行シツツアリ私設ノモノハ群山港ニ一私人ノ經營ニ係ルモノ一アルノミ今最近一箇年間（結氷期ヲ除ク）ニ於ケル鴨綠江水路嚮導成績ヲ擧クレハ左ノ如シ

鴨綠江水路嚮導成績（自明治四十三年十一月至同四十四年十月）

	日本		清國		英國		佛國		諸國		計	
	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數
入船	一〇〇艘	五八、三六四噸	三艘	一〇、一〇八噸	一〇艘	一七、五二六噸	二艘	二、二四〇噸	一六艘	二二、二二四噸	一四〇艘	一一〇、四七三噸
出船	八三	四九、六二七	一〇	七、七〇八	二	一八、九二五	三	三、三六〇	一九	二六、三九一	一二七	一〇六、〇一二
合計	一八三	一〇七、九九一	一三	一七、八一六	一二	三六、四五一	五	五、六〇〇	三五	四八、六一五	二六七	二一六、四八五

六　沿岸及接續主要航路浬程表

釜山大阪間

釜山			
一二三	下關		
三六三	二四〇	神戸	
三七五	二五二	一二	大阪

釜山福岡間

釜山				
三二	佐須奈（對馬）			
○六九 七八	四五	嚴原（對馬）		
一〇七	七四	二九	勝本（壹岐）	
○一二四 一四七	一一四	六九	四〇	福岡

釜山長崎間

釜山			
六九	嚴原（對馬）		
一〇九	四〇	郷ノ浦（壹岐）	
○一六三 一九一	一二三	八二	長崎

備考　表中○印ヲ附スルモノハ直行浬數トス

釜山元山間

	蔚山(長生浦)	迎日灣(浦項)	竹邊	三陟	江陵(注文津)	襄陽(釜津)	杆城([illegible]津)	長箭	元山
釜山	三五	八九	一五一	一七八	二一一	二三二	二五〇	二七八	三二八 〇二八八
蔚山(長生浦)		五四	一一六	一四三	一七六	一九七	二一五	二四三	二九三
迎日灣(浦項)			六二	八九	一二二	一四三	一六一	一八九	二三九
竹邊				二七	六〇	八一	九九	一二七	一八八
三陟					三三	五四	七二	一〇〇	一五〇
江陵(注文津)						二一	三九	六七	一一七
襄陽(釜津)							一八	四六	九六
杆城([illegible]津)								二八	七八
長箭									五〇

元山浦鹽間

	元山	西湖津	前津	新浦	新昌	遮湖	端川	城津	明川	漁大津	獨津	淸津	梨津	雄基
西湖津	四三													
前津	六八	二五												
新浦	八〇	三七	一二											
新昌	九六	五三	二八	一六										
遮湖	一〇七	六四	三九	二七	一一									
端川	一二八	八五	六〇	四八	三二	二一								
城津	〇一二六 一四九	一〇六	八一	六九	五三	四二	二一							
明川	一六八	一二五	一〇〇	八八	七二	六一	四〇	一九						
漁大津	二一四	一七一	一四六	一三四	一一八	一〇七	八六	六五	四六					
獨津	二三一	一八八	一六三	一五一	一三五	一二四	一〇三	八二	六三	一七				
淸津	二四〇	一九七	一七二	一六〇	一四四	一三三	一一二	〇八五 九一	七二	二六	九			
梨津	二六五	二二二	一九七	一八五	一六九	一五八	一三七	一一六	九七	五一	三四	二五		
雄基	二八九	二四六	二二一	二〇九	一九三	一八二	一六一	一四〇	一二一	七五	五八	〇四六 四九	二四	
浦鹽	〇三二〇 三八三	三四〇	三一五	三〇三	二八七	二七六	二五五	二三四	二一五	一六九	一五二	〇一二八 一四三	一一八	九四

釜山木浦間（內廻）

	行巖灣（縣洞）	馬山	統營	三千浦	左水營（麗水）	興陽	羅老島	長興	莞島	右水營	木浦
釜山	二八	三五	六三	九〇	一一七	一四三	一五六	一八六	二一五	二五五	二七六 〇二一二
行巖灣（縣洞）		七	三五	六二	八九	一一五	一二八	一五八	一八七	二二七	二四八
馬山			二八	五五	八二	一〇八	一二一	一五一	一八〇	二二〇	二四一
統營				二七	五四	八〇	九三	一二三	一五二	一九二	二一三
三千浦					二七	五三	六六	九六	一二五	一六五	一八六
左水營（麗水）						二六	三九	六九	九八	一三八	一五九 〇一二四
興陽							一三	四三	七二	一一二	一三三
羅老島								三〇	五九	九九	一二〇
長興									二九	六九	九〇
莞島										四〇	六一
右水營											二一

釜山木浦間（外廻）

	釜山	長承浦（巨濟島）	欲知島	左水營（麗水）	安島	巨文島	牛島	朝天（濟州島）	山地（濟州島）	所安島	右水營
長承浦（巨濟島）	二三										
欲知島	五七	三四									
左水營（麗水）	八六	六三	二九								
安島	一〇三	八〇	四六	一七							
巨文島	〇一二〇 一四一	一一八	八四	五五	三八						
牛島	一八一	一五八	一二四	九五	七八	四〇					
朝天（濟州島）	一九九	一七六	一四二	一一三	九六	五八	一八				
山地（濟州島）	二〇五	一八二	一四八	一一九	一〇二	六四	二四	六			
所安島	二四五	二二二	一八八	一五九	一四二	一〇四	六四	四六	四〇		
右水營	二七九	二五六	二二二	一九三	一七六	一三八	九八	八〇	七四	三四	
木浦	〇二二三 三〇〇	二七七	二四三	二一四	一九七	一五九	一一九	一〇一	九五	五五	二一

仁川大連間

	仁川	海州	康翎	瓮津	潮浦	九味浦	德洞	夢金浦	鎮南浦	龍岩浦	新義州
仁川											
海州	八〇										
康翎	一二〇	四〇									
瓮津	一三二	五二	一二								
潮浦	一五八	七八	三八	二六							
九味浦	一六七	八七	四七	三五	九						
德洞	一七六	九六	五六	四四	一八	九					
夢金浦	一九八	一一八	七八	六六	四〇	三一	二二				
鎮南浦	二五一 〇二一五	一七一	一三一	一一九	九三	八四	七五	五三			
龍岩浦	三七二	二九二	二五二	二四〇	二一四	二〇五	一九六	一七四	一二一		
新義州	三八四 〇二六六	三〇四	二六四	二五二	二二六	二一七	二〇八	一八六	一三三	一二	
大連	五五八 〇二九〇	四七八	四三八	四二六	四〇〇	三九一	三八二	三六〇	三〇七 〇一八三	一六二	一七四

仁川木浦間

	仁川	靈興嶋	カロリン灣	安興	安眠島	鰲川	庇仁	群山	茁浦	法聖浦	智島
仁川											
靈興嶋	一三										
カロリン灣	四一	二八									
安興	七〇	五七	二九								
安眠島	八六	七三	四五	一六							
鰲川	一一一	九八	七〇	四一	二五						
庇仁	一三〇	一一七	八九	六〇	四四	一九					
群山	一一九 〇一五〇	一三七	一〇九	八〇	六四	三九	二〇				
茁浦	二〇一	一八八	一六〇	一三一	一一五	九〇	七一	五一			
法聖浦	二二七	二一四	一八六	一五七	一四一	一一六	九七	七七	二六		
智島	二五四	二四一	二一三	一八四	一六八	一四三	一二四	一〇四	五三	二七	
木浦	一五八 〇二五八	二七二	二四四	二一五	一九九	一七四	一五五	一〇三 〇一三五	八四	五八	三一

釜山欝陵島間

	釜山	蔚山	方魚津	迎日灣
釜山				
蔚山	三五			
方魚津	四一	六		
迎日灣	八九	五四	四八	
欝陵島	〇 一七〇 一九七	一六二	一五六	一〇八

木浦濟州島間

	木浦	右水營	楸子島	山地(濟州島)
木浦				
右水營	二一			
楸子島	六一	四〇		
山地(濟州島)	九一	七〇	三〇	
朝天(濟州島)	九七	七六	三六	六

庇仁於青島間

	庇仁	鰲川
庇仁		
鰲川	一九	
於青島	〇 三八	三〇

仁川海州間

	仁川	江華島	喬桐島
仁川			
江華島	二〇		
喬桐島	三二	一二	
海州	八二	六二	五〇

潮浦小青島間

	潮浦	瓮津
潮浦		
瓮津	二六	
小青島	〇 三二	二二

五　航路標識

朝鮮内陸ノ發展ニ伴ヒ沿岸貿易頻繁トナリ船舶ノ往復漸ク多キヲ加フルヲ以テ其ノ航路ノ安全ヲ圖ル爲ニ沿岸樞要ノ地ニ航路標識設置ノ必要ヲ認メ明治三十九年以來ノ繼續事業トシテ漸次之カ建設ニ著手シ四十二年度ニ於テ第一期計畫ヲ完成シ四十三年度ヨリ第二期計畫ニ移レリ

航路標識種別海岸別（明治四十四年三月末日現在）

名稱	西海岸	南海岸	東海岸	計
燈臺	二三	九	九	四〇
燈竿	—	一	一	二
導燈	—	一	—	一
挂燈浮標	六	—	—	六
挂燈立標	五	二	一	八
浮標	四七	五	二	五四

立標	九	三	—	一一
導標	九	—	—	九
陸標	一三	—	—	一三
澪標	五	—	—	五
量水標	八	—	—	八
霧笛	五	四	五	一四
霧砲	二	—	—	二
計	一三〇	二五	一八	一七三

六　江運

所謂五大江ト稱セラルル漢江、洛東江、大同江、豆滿江、鴨綠江ハ孰モ舟楫ノ便ヲ有セサル無ク其ノ他錦江、臨津江亦交通ニ便セサル無シ然レトモ朝鮮人ハ從來造船ノ術ニ拙劣ニシテ構造粗笨加フルニ鐵釘ヲ用ヒサルヲ以テ頗ル脆弱ヲ免レス殊ニ操縱遲鈍ニシテ水運ヲ利スルノ技ニ長セサリシカハ江河ノ便モ空シク天成ニ放棄シテ有爲的ニ利用セラレタルコト尠ナク漸ク小舟筏ニ依リテ運輸ニ資セラレタルニ過キサリキ左ニ主要ナル江河ノ概況ヲ述フヘシ

一　漢江(ハンガンク)　黃海ニ注ク一大河ニシテ源ヲ江原咸鏡兩道ノ境ナル鐵嶺ニ發スル北江及江原、忠北ノ境上小白山脈ニ發スル南江ハ河口ヲ去ル三十里ナル高安附近ニ於テ相合シ一大江流ヲ成シ遂ニ河口ニ到リテ亦臨津江、禮江ト相合ス水流概ネ緩漫ニシテ水深ク且清シ流域各地ニ形勝ノ地多ク又都邑少カラス河口ヨリ龍山ニ到ル十七里ノ間克ク小蒸汽船航行スヘシ龍山ヨリ上流南江ノ北倉ニ至ル三十八里ノ間五六十石ノ河舟ヲ通スヘク北倉ヨリ上流永春ニ到ル十七里ノ間及南北兩行ノ合流ヨリ北行上流春川ニ到ル間ハ尙小舟ヲ遡航セシムヘシ沿岸ノ都邑狼川、春川、高安(以上北江)永春、丹陽、北倉、白岩、驪州(以上南江)、纛島、龍山、麻浦、楊花津等ハ貨物ノ運搬頻繁ナリ殊ニ龍山ハ京城ニ近ク四方約一里ノ地ニ在リ古來雞林八道貢米ノ集積地トシテ知ラレ漢江上流ノ木材ノ舟筏ニヨリテ陸揚セラルルモノ毎年十數萬圓ニ及ヘリ冬時結氷期ニ際シテハ江流杜絕シテ舟筏ヲ遣ルニ由ナク氷河途ヲナシ人馬ノ往來スルヲ見ル

二　臨津江(イシンガンク)　河口ニ於テ漢江ト合シテ黃海ニ注ク江流大ナラサルカ故ニ水運ノ利少ナキモ潮汐ヲ利用セハ克ク十四五里ヲ遡航シ得ヘシ沿岸都邑ノ重ナルモノヲ汶山浦(河口ヨリ八里ノ上流ニ在リ)

高浪津、砂浪里、迦寧、伊川等トス就中汶山浦ハ京畿道北部ニ於ケル著明ノ貨物集散地ニシテ高浪津ハ大豆ノ産出ヲ以テ名アリ

三　錦江(クムガング)　亦黄海ニ注ク大河ニシテ源ヲ全羅、慶尚ノ境ナル廬嶺ニ發シ流域七十里ニ及フ河口群山浦附近ハ幅員十二町餘ヲ有シ數百噸ノ汽船ヲ碇泊セシムヘク群山ヨリ上流江景ニ到ル十里間ニ小蒸汽船ヲ航行セシムヘク江景ヨリ芙江ニ到ル約十八里間ハ克ク小舟ヲ通セシムヘシ沿岸都邑ニ富ミ貨物ヲ呑吐スル所多シ就中重ナルモノヲ芙江、公州、窺岩、江景、群山等トナス殊ニ江域ノ兩岸ハ沃野相連リ米、大豆、麥、綿花等農産物ニ富ムヲ以テ繫舟地ハ孰レモ繁榮セリ

四　洛東江(ナクトンガング)　半島南岸朝鮮海峽ニ注ク朝鮮唯一ノ大江ニシテ源ヲ大田山脉ニ發シ右直嶺、蔚時嶺等ヨリ發スル諸水ヲ集メ安東洋ニ出テ大邱ノ西ヲ走リ三浪津ヲ經テ河口數脈ニ岐レ釜山ニ近ク多太浦ノ西ニ注ク流域百十里江口ヨリ洛東津ニ到ル六十里ノ江流ハ舟楫ノ便アリテ數十石ノ帆船ヲ通スヘク尙順潮ニ際シテハ上流安東ニ到ル迄小舟ヲ遡航セシムヘシ本江ハ所謂大邱ノ平原ヲ貫流シ灌漑ノ便アルニ加ヘテ江岸各所ニ貨物ノ集散ニ適セル都邑多キヲ以テ釜山ヨリスル物貨ノ呑吐頻繁ナリ

都邑ノ重ナルモノヲ安東、尙州、倭館、星州、密陽、洛東、三浪浦、龜浦、金海等トス

五　大同江（ダイドンガン）　西海岸黃海ニ注ク大江ニシテ源ヲ平安、咸鏡ノ境ナル狼林山脉ニ發シ所謂妙香山脉ノ南麓ヲ西南ニ流レ陽德孟山ノ二支流ヲ合セ平壤、兼二浦等ヲ經テ鐵島ニ到リ更ニ載寧江ト合シテ一大流域ヲ成シ幅員著シク闊大ト爲リ約四町ニ及ヒ是ヨリ西流シテ鎭南浦ニ沿ヒ漁隱洞ニ到リテ河幅一里餘ノ大角江ト爲ル本江ト大同江ノ會合地鐵島附近ニ在リテハ水深約二十尋ニシテ優ニ數千噸ノ汽船ヲ碇泊セシムヘク鐵島ノ上流平壤ヲ下ルコト約二里半萬景台附近ニ到ル間ハ水深四尋乃至六尋ニ及ヒ亦數百噸ノ汽船ヲ航行セシムヘシ萬景台、平壤間ニハ三個所ノ淺瀨アルヲ以テ高潮ノ時ト雖吃水五尺ノ船舶ハ航行シ難ク荷客ハ之ヲ小艇ニ移シテ平壤ニ送ルヘシ而シテ其ノ河口鎭南浦附近ハ幅員水深共ニ增加シ渺茫トシテ海洋ヲ望ムカ如ク數千噸ノ大舶巨船ハ鎭南浦ノ波止場ヲ去ルコト僅ニ三十米突ノ所ニ碇泊シ得ヘシ

大同江下流ニ於ケル潮流干滿ノ差ハ二十八呎ニシテ平壤ニ到リテハ約十尺ニ減スト雖潮流ノ速力ハ常ニ四節半ノ勢ヲ以テ干滿ニ應シ上下スルヲ以テ帆船ノ如キモ其ノ風位ニ拘ハラス潮流ヲ利用シテ

満潮ニ上リ干潮ニ下ル故ニ舟楫ノ便甚タ可ナリ殊ニ本江ハ半島有數ノ農産地タル平壤及載寧ノ大沃野ニ連ナリ沿岸ニハ平壤、鐵島、鎭南浦、漁隱洞、ノ如キ商業地アルヲ以テ運輸交通ニ資スル所大ナリ又上流一帶ノ地ヨリ伐材ノ筏ニ依リテ平壤ニ下ルモノ尠カラス然レトモ本江上流ハ冬期約三箇月(十二月、一月、二月)ノ間結氷シ鐵島ヨリ下流ナル三角江ハ幸ニ結氷セサレトモ流氷ノ爲舟楫杜絶スルニ至ル

六 鴨綠江(アアノクガンヅ) 朝鮮五大江中最大江ニシテ江域ハ清鮮ノ國境ヲ劃スルモノナリ源ヲ白頭山ノ西麓ニ發シ咸鏡南道ノ惠山鎭ニ於テ南方ヨリ來ル虛川江ヲ合セ白頭山脉ノ諸谿谷ヨリ發スル數多ノ小流ヲ集メテ西北流シ楚山ニ到リテ滿州ヨリ南下スル運河ト合シ更ニ義州ノ上流ニ於テ滿州ノ靉河ヲ容レ河流ハ九里島、於赤島、黔完島、中江臺等ノ沙洲ニ依リテ三分シ下リテ沙河鎭ニ至リ三江再ヒ合シテ一江ト成リ更ニ威化島ヲ築堆シテ濶大ナル三角江ヲ爲シ黄海ニ入ル江ノ流域百四十里ニ及フト雖河床急配ニシテ岩礁多ク激流奔湍ノ個所尠ナカラサルヲ以テ航運河トシテノ價値ハ大ナラス河口龍岸浦ニ於テハ大船巨船自由ニ碇泊スルコトヲ得レトモ河口ヲ遡ルコト十五浬ナル安東縣ニ到リテハ

漸クニシテ淺吃水ノ小蒸汽船ヲ通スルニ足ルノミ唯「ジヤンク」ハ辛フシテ江口ヲ去ル百餘浬ノ帽兒山附近ニ航行シ得ヘシ故ニ沿岸一帶ノ地ニハ貨物ノ集散地少カラスト雖商港トシテ數フルニ足ルモノ唯安東縣及龍岩浦アルノミ然レトモ江ノ上流ニハ有名ナル鴨綠江ノ大森林アリテ巨樹大木鬱生シ其ノ富源無盡藏ト稱セラレ近年其ノ伐材ノ筏ニヨリ流下セラルルモノ年年數百萬ニ及フ清國人カ鴨綠江流域ノ富源ニ着目シタルハ僅ニ三十餘年以前ノコトニシテ其ノ富源開發ト共ニ新ニ勃興シタルモノ安東縣、大東溝等トス其ノ沿岸ニハ「ジヤンク」幅輳シ材筏連坦ス

七　豆滿江（ヅマンガング）　東岸日本海ニ注ク大河ナリ源ヲ白頭山ノ東南麓ニ發シ白頭、江南、妙香ノ諸山脈ヨリ發スル諸流ヲ合セ茂山郡ニ到リテ稍大流ト成リ會寧、鐘城ノ諸郡ヲ經穩城ノ北ニ到リ滿州ヨリ南下セル布爾哈圖河ト合シ更ニ慶源ニ於テ琿春河ト會シ水量益増大シ其ノ間右曲左折シ谿谷ノ間ヲ縫下ス慶源ノ下流ハ露領ト境界ヲ爲シ造山灣ト露領ポーシエット灣トノ間ナル西水羅ノ東方ニ到リ日本海ニ注ク流域全長九十里ニ亘リ河口ヨリ慶興ニ到ルノ間ハ百噸内外ノ汽船ヲ遡航セシムヘシ然レトモ流水一帶ニ急奔ニシテ降雨ニ際シテハ河水氾濫シ濁流沿岸ヲ蓋ヒ舟楫危險尠カラス加フルニ河

ロニハ土砂ノ堆積シテ洲ヲ爲ス所多キヲ以テ航行ノ便宜シカラス、

第十九章　交通

第二版
最近朝鮮事情要覽　終

明治四十五年三月二十日印刷
明治四十五年三月廿五日發行

朝鮮總督府編纂

東京市京橋區日吉町十番地
發行兼印刷者　渡邊爲藏

東京市京橋區日吉町十番地
印刷所　民友社印刷部